

**2019年度
キャリアデザイン学部
講義概要（シラバス）**



法政大学

科目一覧

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

基幹科目_必修【C7040】キャリアデザイン学入門 [佐藤 厚、寺崎 里水、安田 節之] 春学期授業/Spring	1
基幹科目_必修【C7001】キャリア研究調査法入門【2017 年度以降入学者用】(A～E クラス) [仲 修平] 秋学期授業/Fall	2
基幹科目_必修【C7002】キャリア研究調査法入門【2017 年度以降入学者用】(F～P クラス) [菅野 摂子] 秋学期授業/Fall	3
基幹科目_選択必修(調査法)【C7003】キャリア研究調査法(質的調査) [池田 心豪] 春学期授業/Spring	4
基幹科目_選択必修(調査法)【C7004】キャリア研究調査法(質的調査) [濱中 義隆] 春学期授業/Spring	5
基幹科目_選択必修(調査法)【C7005】キャリア研究調査法(質的調査) [佐藤 恵] 春学期授業/Spring	6
基幹科目_選択必修(調査法)【C7006】キャリア研究調査法(質的調査) [田中 研之輔] 春学期授業/Spring	7
基幹科目_選択必修(調査法)【C7007】キャリア研究調査法(質的調査) [西村 純] 春学期授業/Spring	8
基幹科目_選択必修(調査法)【C7008】キャリア研究調査法(質的調査) [前浦 穂高] 春学期授業/Spring	9
基幹科目_選択必修(調査法)【C7009】キャリア研究調査法(質的調査) [河村 裕樹] 春学期授業/Spring	10
基幹科目_選択必修(調査法)【C7010】キャリア研究調査法(質的調査) [井上 公人] 春学期授業/Spring	11
基幹科目_選択必修(調査法)【C7011】キャリア研究調査法(質的調査) [山崎 正枝] 春学期授業/Spring	12
基幹科目_選択必修(調査法)【C7012】キャリア研究調査法(量的調査) [安田 節之] 春学期授業/Spring	13
基幹科目_選択必修(調査法)【C7013】キャリア研究調査法(量的調査) [濱中 義隆] 春学期授業/Spring	14
基幹科目_選択必修(調査法)【C7014】キャリア研究調査法(量的調査) [井上 公人] 春学期授業/Spring	15
基幹科目_選択必修(調査法)【C7015】キャリア研究調査法(量的調査) [熊谷 智博] 春学期授業/Spring	16
基幹科目_選択必修(調査法)【C7016】キャリア研究調査法(量的調査) [伊藤 慎悟] 春学期授業/Spring	17
基幹科目_選択必修(調査法)【C7017】キャリア研究調査法(量的調査) [齋藤 嘉孝] 春学期授業/Spring	18
基幹科目_選択必修(調査法)【C7018】キャリア研究調査法(量的調査) [長瀬 毅] 春学期授業/Spring	19
基幹科目_選択必修(調査法)【C7019】キャリア研究調査法(量的調査) [坂爪 洋美] 春学期授業/Spring	20
基幹科目_選択必修(調査法)【C7020】キャリア研究調査法(量的調査) [坂田 哲人] 春学期授業/Spring	21
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7050】発達・教育キャリア入門 A [遠藤 野ゆり] 春学期授業/Spring	22
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7051】発達・教育キャリア入門 B [田澤 実] 秋学期授業/Fall	23
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7052】発達・教育キャリア入門 C (生涯学習入門 I) [笹川 孝一] 春学期授業/Spring	24
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7053】発達・教育キャリア入門 C (生涯学習入門 I) [朝岡 幸彦] 春学期授業/Spring	25
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7054】発達・教育キャリア入門 C (生涯学習入門 I) [文 孝淑] 春学期授業/Spring	26
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7055】発達・教育キャリア入門 D (生涯学習入門 II) [笹川 孝一] 秋学期授業/Fall	27
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7056】発達・教育キャリア入門 D (生涯学習入門 II) [朝岡 幸彦] 秋学期授業/Fall	28
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7057】発達・教育キャリア入門 D (生涯学習入門 II) [文 孝淑] 秋学期授業/Fall	29
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7058】ビジネスキャリア入門 A [妹尾 渉] 秋学期授業/Fall	30
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7059】ビジネスキャリア入門 B [湯川 志保] 春学期授業/Spring	31
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7060】ビジネスキャリア入門 C [中野 貴之] 春学期授業/Spring	32
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7061】ビジネスキャリア入門 D [酒井 理] 秋学期授業/Fall	32
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7062】ライフキャリア入門 A [田中 研之輔] 春学期授業/Spring	33
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7063】ライフキャリア入門 B [齋藤 嘉孝] 秋学期授業/Fall	34
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7064】ライフキャリア入門 C [荒川 裕子] 春学期授業/Spring	35
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7065】ライフキャリア入門 D [金山 喜昭] 秋学期授業/Fall	36
基幹科目_選択【C7080】労働法 [砂押 以久子] 秋学期授業/Fall	36
基幹科目_選択【C7081】ファシリテーション論 [鈴木 まり子] 春学期授業/Spring	37
基幹科目_選択【C7082】若者の自立支援 [大山 宏] 秋学期授業/Fall	38
基幹科目_選択【C7083】職業選択論 I [上西 充子] 春学期授業/Spring	39
基幹科目_選択【C7084】ライフコース論 [武石 恵美子] 秋学期授業/Fall	40
基幹科目_選択【C7085】生活設計論 I (社会保障) [平野 貴大] 春学期授業/Spring	41
基幹科目_選択【C7086】生活設計論 II (生活設計) [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	42
基幹科目_選択【C7087】キャリアモデル・ケーススタディ [趙 宏偉] 秋学期授業/Fall	43

基幹科目_選択	【C7088】	キャリアモデル・ケーススタディ [なかむら アサミ]	春学期授業/Spring	44	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7100】	キャリアサポート事前指導 [廣川 進]	春学期授業/Spring	45	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7102】	キャリアサポート事前指導 [児美川 孝一郎]	春学期授業/Spring	46	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7103】	キャリアサポート事前指導 [熊谷 智博]	春学期授業/Spring	47	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7104】	キャリアサポート事前指導 [田澤 実]	春学期授業/Spring	48	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7106】	キャリアサポート実習 [児美川 孝一郎]	秋学期授業/Fall	49	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7107】	キャリアサポート実習 [田澤 実]	秋学期授業/Fall	50	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7108】	キャリアサポート実習 [熊谷 智博]	秋学期授業/Fall	51	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7109】	キャリアサポート実習 [廣川 進]	秋学期授業/Fall	52	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7114】	キャリア体験事前指導 (A・B コース) [中野 貴之]	春学期授業/Spring	53	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7115】	キャリア体験事前指導 (A・B コース) [酒井 理]	春学期授業/Spring	54	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7116】	キャリア体験事前指導 (A・B コース) [田中 研之輔]	春学期授業/Spring	55	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7117】	キャリア体験事前指導 (A・B コース) [松浦 民恵]	春学期授業/Spring	56	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7118】	キャリア体験事前指導 (C コース) [山岡 義卓]	春学期授業/Spring	57	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7119】	キャリア体験学習 (A・B コース) [中野 貴之]	秋学期授業/Fall	58	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7120】	キャリア体験学習 (A・B コース) [酒井 理]	秋学期授業/Fall	59	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7121】	キャリア体験学習 (A・B コース) [田中 研之輔]	秋学期授業/Fall	60	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7122】	キャリア体験学習 (A・B コース) [松浦 民恵]	秋学期授業/Fall	61	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7123】	キャリア体験学習 (C コース) [山岡 義卓]	秋学期授業/Fall	62	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7124】	キャリア体験事前指導 (国際) [御園生 純]	春学期授業/Spring	63	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7125】	キャリア体験学習 (国際) [御園生 純]	秋学期授業/Fall	64	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7126】	キャリア体験事前指導 (国際) [笹川 孝一、趙 宏偉、郭 艶娜]	春学期授業/Spring	65	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7127】	キャリア体験学習 (国際) [笹川 孝一、趙 宏偉、郭 艶娜]	秋学期授業/Fall	66	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7128】	メディアリテラシー実習Ⅰ [坂本 旬]	春学期授業/Spring	67	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7129】	メディアリテラシー実習Ⅱ [坂本 旬]	秋学期授業/Fall	68	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7130】	地域学習支援Ⅰ [寺崎 里水]	春学期授業/Spring	69	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7131】	地域学習支援Ⅱ [寺崎 里水、田澤 実、金山 喜昭、児美川 孝一郎、坂本 旬、笹川 孝一、熊谷 智博、荒川 裕子]	秋学期授業/Fall	70	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7134】	多文化教育Ⅰ [村田 晶子]	春学期授業/Spring	71	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7135】	多文化教育Ⅱ [村田 晶子]	秋学期授業/Fall	72	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7351】	職業能力ベーシックスキルⅠ 【2013 年度以前入学者用】 [島村 泰子]	春学期授業/Spring	73	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7352】	職業能力ベーシックスキルⅡ 【2013 年度以前入学者用】 [島村 泰子]	秋学期授業/Fall	74	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7189】	教育マネジメントⅠ 【2013 年度以前入学者用】 [梅澤 希恵]	春学期授業/Spring	75	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7190】	教育マネジメントⅡ 【2013 年度以前入学者用】 [福嶋 真治]	秋学期授業/Fall	76	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7270】	アントレプレナーシップ論Ⅰ 【2013 年度以前入学者用】 [松本 真尚、田口 香織、市川 大樹]	春学期授業/Spring	77	
展開科目_選択必修 (体験型)	【C7271】	アントレプレナーシップ論Ⅱ 【2013 年度以前入学者用】 [松本 真尚、田口 香織、市川 大樹]	秋学期授業/Fall	78	
展開科目_選択必修 (領域別)	発達・教育	【C7150】	キャリア研究調査実習 A (子ども・家庭生活研究) [岩崎 香織]	春学期授業/Spring	79
展開科目_選択必修 (領域別)	発達・教育	【C7151】	キャリア研究調査実習 B (恋愛の質的研究) [大森 美佐]	秋学期授業/Fall	80
展開科目_選択必修 (領域別)	発達・教育	【C7152】	外書講読 A (発達・教育) [福田 紀子]	春学期授業/Spring	81
展開科目_選択必修 (領域別)	発達・教育	【C7153】	外書講読 B (発達・教育) [長岡 智寿子]	春学期授業/Spring	83
展開科目_選択必修 (領域別)	発達・教育	【C7154】	生涯発達心理学Ⅰ [松浦 千春]	春学期授業/Spring	84
展開科目_選択必修 (領域別)	発達・教育	【C7155】	生涯発達心理学Ⅱ [廣川 進]	秋学期授業/Fall	85
展開科目_選択必修 (領域別)	発達・教育	【C7156】	臨床教育相談論Ⅰ [飯野 雄大]	春学期授業/Spring	86
展開科目_選択必修 (領域別)	発達・教育	【C7157】	臨床教育相談論Ⅱ [飯野 雄大]	秋学期授業/Fall	87
展開科目_選択必修 (領域別)	発達・教育	【C7158】	キャリアカウンセリングⅠ [廣川 進]	春学期授業/Spring	88
展開科目_選択必修 (領域別)	発達・教育	【C7159】	キャリアカウンセリングⅡ [高橋 浩]	秋学期授業/Fall	89
展開科目_選択必修 (領域別)	発達・教育	【C7160】	キャリアカウンセリングⅢ (ケーススタディ) [宮脇 優子]	秋学期授業/Fall	90
展開科目_選択必修 (領域別)	発達・教育	【C7161】	教育相談 [田澤 実]	春学期授業/Spring	91
展開科目_選択必修 (領域別)	発達・教育	【C7162】	教育相談 [輕部 雄輝]	春学期授業/Spring	91

展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7163】教育相談[今井 文男] 秋学期授業/Fall	92
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7164】教育相談[山上 真貴子] 秋学期授業/Fall	93
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7165】教育相談[輕部 雄輝] 秋学期授業/Fall	94
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7166】教育相談[今井 文男] 春学期授業/Spring	95
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7167】教育心理学[田澤 実] 秋学期授業/Fall	96
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7168】教育心理学[輕部 雄輝] 秋学期授業/Fall	97
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7169】教育心理学[児玉 茉奈美] 春学期授業/Spring	98
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7170】教育心理学[山上 真貴子] 春学期授業/Spring	99
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7171】教育心理学[遠藤 裕子] 春学期授業/Spring	100
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7172】教育心理学[児玉 茉奈美] 秋学期授業/Fall	101
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7173】学校論Ⅰ(キャリア形成)[松尾 知明] 春学期授業/Spring	102
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7174】学校論Ⅱ(キャリア形成)[遠藤 野ゆり] 秋学期授業/Fall	102
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7175】学校論Ⅲ(キャリア教育)[児美川 孝一郎] 春学期授業/Spring	103
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7176】学校論Ⅳ(キャリア教育)[寺崎 里水] 秋学期授業/Fall	104
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7177】生涯学習論Ⅰ(現代社会と社会教育Ⅰ)[笹川 孝一] 春学期授業/Spring	105
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7178】生涯学習論Ⅰ(現代社会と社会教育Ⅰ)[文 孝淑] 春学期授業/Spring	106
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7179】生涯学習論Ⅱ(現代社会と社会教育Ⅱ)[笹川 孝一] 秋学期授業/Fall	107
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7180】生涯学習論Ⅱ(現代社会と社会教育Ⅱ)[文 孝淑] 秋学期授業/Fall	108
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7181】図書館情報学概論Ⅰ[村上 郷子] 春学期授業/Spring	109
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7182】図書館情報学概論Ⅰ[原田 隆史] 春学期授業/Spring	110
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7183】図書館情報学概論Ⅱ[丹 一信] 秋学期授業/Fall	111
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7184】図書館情報学概論Ⅱ[原田 隆史] 秋学期授業/Fall	112
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7185】図書館情報学概論Ⅱ[菅原 真悟] 秋学期授業/Fall	113
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7186】図書館情報学概論Ⅱ[丹 一信] 春学期授業/Spring	114
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7187】メディア教育論Ⅰ[村上 郷子] 春学期授業/Spring	115
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7188】メディア教育論Ⅱ[村上 郷子] 秋学期授業/Fall	116
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7189】教育マネジメントⅠ【2014年度以降入学者用】[梅澤 希恵] 春学期授業/Spring	117
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7190】教育マネジメントⅡ【2014年度以降入学者用】[福畠 真治] 秋学期授業/Fall	118
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7191】教育政策[村上 純一] 秋学期授業/Fall	119
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7192】現代教育思想[岩本 俊一] 秋学期授業/Fall	120
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7193】生涯学習論Ⅲ(成人教育論Ⅰ)[森本 扶] 春学期授業/Spring	121
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7194】生涯学習論Ⅳ(成人教育論Ⅱ)[朝岡 幸彦] 秋学期授業/Fall	122
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7195】学習の社会史A[山口 真里] 秋学期授業/Fall	123
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7196】学習の社会史B[寺崎 里水] 春学期授業/Spring	124
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7197】教育社会学Ⅰ[筒井 美紀] 春学期授業/Spring	125
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7198】教育社会学Ⅱ[筒井 美紀] 秋学期授業/Fall	126
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育	【C7199】教育経済学[両角 亜希子] 春学期授業/Spring	127
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7250】キャリア研究調査実習C(データで語るキャリア)[久保田 貴文] 秋学期授業/Fall	128
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7251】キャリア研究調査実習D(仕事とビジネスの質的研究)[山口 壘] 秋学期授業/Fall	129
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7252】外書講読A(ビジネス)[中野 貴之] 秋学期授業/Fall	130
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7253】外書講読B(ビジネス)[杉原 弘恭] 春学期授業/Spring	131
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7254】職業選択論Ⅱ[上西 充子] 秋学期授業/Fall	132
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7255】人材育成論Ⅰ[佐藤 厚] 春学期授業/Spring	133
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7256】人材育成論Ⅱ[池田 心豪] 秋学期授業/Fall	134
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7257】産業・組織心理学Ⅰ[坂爪 洋美] 春学期授業/Spring	135
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7258】産業・組織心理学Ⅱ[坂爪 洋美] 秋学期授業/Fall	136
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7259】キャリア開発論[武石 恵美子] 春学期授業/Spring	137
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7260】リーダーシップ論[佐野 達] 秋学期授業/Fall	138
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7261】経営統計論A(心理データ)[坂田 哲人] 春学期授業/Spring	139
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7262】企業会計論[松本 徹] 春学期授業/Spring	140

展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7263】経営統計論B(企業データ)[中野 貴之]	秋学期授業/Fall	141
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7264】経営組織論I[梅木 眞]	春学期授業/Spring	142
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7265】経営組織論II[梅木 眞]	秋学期授業/Fall	142
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7266】戦略経営論I[木村 琢磨]	春学期授業/Spring	143
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7267】戦略経営論II[小山 浩一]	秋学期授業/Fall	144
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7268】経営分析論I[中野 貴之]	春学期授業/Spring	145
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7269】経営分析論II[中野 貴之]	秋学期授業/Fall	145
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7270】アントレプレナーシップ論I【2014年度以降入学者用】[松本 真尚、田口 香織、市川 大樹]	春学期授業/Spring	146
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7271】アントレプレナーシップ論II【2014年度以降入学者用】[松本 真尚、田口 香織、市川 大樹]	秋学期授業/Fall	147
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7272】職業キャリア論[松浦 民恵]	春学期授業/Spring	148
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7273】労働経済学[佐藤 一磨]	春学期授業/Spring	149
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7274】シティズンシップ論[濱口 博史]	春学期授業/Spring	150
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7275】生産システム論[小林 哲也]	秋学期授業/Fall	151
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7276】国際経営論[森 直子]	春学期授業/Spring	152
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7277】日本経済論[中村 宗悦]	秋学期授業/Fall	153
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7278】産業論[青木 成樹]	春学期授業/Spring	154
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7279】広告ビジネス論[小林 健一]	オータムセッション/Autumn Session	155
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7280】マーケティング論[菊池 一夫]	春学期授業/Spring	156
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7281】流通・マーケティング戦略論[首藤 禎史]	秋学期授業/Fall	157
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7282】流通・サービスビジネス論[中嶋 嘉孝]	秋学期授業/Fall	158
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス	【C7283】就業機会発見実務[田辺 康広]	春学期授業/Spring	159
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7300】キャリア研究調査実習E(幸福論)[小塩 靖崇]	春学期授業/Spring	160
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7301】キャリア研究調査実習F(まちづくり論)[大西 未希]	春学期授業/Spring	161
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7302】外書講読A(ライフ)[門脇 仁]	春学期授業/Spring	162
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7303】外書講読B(ライフ)[門脇 仁]	秋学期授業/Fall	163
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7304】コミュニティ社会論I[佐藤 恵]	春学期授業/Spring	164
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7305】コミュニティ社会論II[佐藤 恵]	秋学期授業/Fall	165
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7306】家族論[齋藤 嘉孝]	春学期授業/Spring	166
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7307】若者文化論[山崎 鎮親]	秋学期授業/Fall	167
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7308】世代間交流論[安田 節之]	秋学期授業/Fall	168
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7309】身体表現論[楠原 竜也]	春学期授業/Spring	169
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7310】地域文化論[緑川 岳志]	秋学期授業/Fall	170
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7311】アイデンティティ論[熊谷 智博]	春学期授業/Spring	171
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7312】余暇集団論[丁野 朗]	春学期授業/Spring	172
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7313】NPO論[山口 佳子]	秋学期授業/Fall	173
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7314】公共サービス論[前浦 穂高]	秋学期授業/Fall	174
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7315】アート・マネジメント論[荒川 裕子]	春学期授業/Spring	175
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7316】文化経営論[荒川 裕子]	秋学期授業/Fall	176
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7317】メディア文化論[堤 信子]	秋学期授業/Fall	177
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7318】文化マーケティング論[酒井 博基]	春学期授業/Spring	178
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7319】ブランド創造論[首藤 禎史]	春学期授業/Spring	179
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7320】産業文化論[砂川 秀樹]	秋学期授業/Fall	180
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7321】ミュージアム概論[金山 喜昭]	春学期授業/Spring	181
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7322】ミュージアム経営論[杉長 敬治]	秋学期授業/Fall	182
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7323】ミュージアム経営論[金山 喜昭]	春学期授業/Spring	183
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7324】多文化社会論I[小田 昌教]	春学期授業/Spring	184
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7325】多文化社会論II[山田 貴夫]	春学期授業/Spring	186
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7326】多文化社会論III[加藤 丈太郎]	春学期授業/Spring	187
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7327】アジア社会論I[趙 宏偉]	春学期授業/Spring	188
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7328】アジア社会論II[趙 宏偉]	秋学期授業/Fall	189
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7329】国際関係論I[趙 宏偉]	春学期授業/Spring	190
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7330】国際関係論II[趙 宏偉]	秋学期授業/Fall	191
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7331】国際地域研究I[福井 令恵]	春学期授業/Spring	192
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ	【C7332】国際地域研究II[福井 令恵]	秋学期授業/Fall	193

展開科目_総合【C7350】	就業機会とキャリア [酒井 理] 秋学期授業/Fall	194
展開科目_総合【C7351】	職業能力ベーシックスキルⅠ【2014年度以降入学者用】[島村 泰子] 春学期授業/Spring	195
展開科目_総合【C7352】	職業能力ベーシックスキルⅡ【2014年度以降入学者用】[島村 泰子] 秋学期授業/Fall	196
演習科目【C7400】	演習 (発達・教育) 2年生 [遠藤 野ゆり] 秋学期授業/Fall	197
演習科目【C7401】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (春) [遠藤 野ゆり] 春学期授業/Spring	198
演習科目【C7402】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (秋) [遠藤 野ゆり] 秋学期授業/Fall	198
演習科目【C7403】	演習 (発達・教育) 2年生 [松尾 知明] 秋学期授業/Fall	199
演習科目【C7414】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (春) [松尾 知明] 春学期授業/Spring	199
演習科目【C7415】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (秋) [松尾 知明] 秋学期授業/Fall	200
演習科目【C7405】	演習 (発達・教育) 2年生 [児美川 孝一郎] 秋学期授業/Fall	200
演習科目【C7406】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (春) [児美川 孝一郎] 春学期授業/Spring	201
演習科目【C7407】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (秋) [児美川 孝一郎] 秋学期授業/Fall	202
演習科目【C7408】	演習 (発達・教育) 2年生 [坂本 旬] 秋学期授業/Fall	203
演習科目【C7409】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (春) [坂本 旬] 春学期授業/Spring	204
演習科目【C7410】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (秋) [坂本 旬] 秋学期授業/Fall	205
演習科目【C7411】	演習 (発達・教育) 2年生 [笹川 孝一] 秋学期授業/Fall	206
演習科目【C7412】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (春) [笹川 孝一] 春学期授業/Spring	207
演習科目【C7413】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (秋) [笹川 孝一] 秋学期授業/Fall	208
演習科目【C7416】	演習 (発達・教育) 2年生 [高野 良一] 秋学期授業/Fall	209
演習科目【C7417】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (春) [高野 良一] 春学期授業/Spring	210
演習科目【C7418】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (秋) [高野 良一] 秋学期授業/Fall	211
演習科目【C7419】	演習 (発達・教育) 2年生 [田澤 実] 秋学期授業/Fall	212
演習科目【C7420】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (春) [田澤 実] 春学期授業/Spring	213
演習科目【C7421】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (秋) [田澤 実] 秋学期授業/Fall	214
演習科目【C7422】	演習 (発達・教育) 2年生 [筒井 美紀] 秋学期授業/Fall	214
演習科目【C7423】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (春) [筒井 美紀] 春学期授業/Spring	215
演習科目【C7424】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (秋) [筒井 美紀] 秋学期授業/Fall	216
演習科目【C7425】	演習 (発達・教育) 2年生 [寺崎 里水] 秋学期授業/Fall	216
演習科目【C7426】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (春) [寺崎 里水] 春学期授業/Spring	217
演習科目【C7427】	演習 (発達・教育) 3・4年生 (秋) [寺崎 里水] 秋学期授業/Fall	218
演習科目【C7428】	演習 (発達・教育) 2年生 [廣川 進] 秋学期授業/Fall	218
演習科目【C7429】	演習 (発達・教育) 3年生 (春) [廣川 進] 春学期授業/Spring	219
演習科目【C7430】	演習 (発達・教育) 3年生 (秋) [廣川 進] 秋学期授業/Fall	220
演習科目【C7431】	演習 (発達・教育) 4年生 (春) [廣川 進] 春学期授業/Spring	220
演習科目【C7432】	演習 (発達・教育) 4年生 (秋) [廣川 進] 秋学期授業/Fall	221
演習科目【C7433】	演習 (発達・教育) 4年生 (春) [蟹江 教子] 春学期授業/Spring	221
演習科目【C7434】	演習 (発達・教育) 4年生 (秋) [蟹江 教子] 秋学期授業/Fall	222
演習科目【C7452】	演習 (ビジネス) 2年生 [上西 充子] 秋学期授業/Fall	222
演習科目【C7475】	演習 (ビジネス) 3・4年生 (春) [上西 充子] 春学期授業/Spring	223
演習科目【C7476】	演習 (ビジネス) 3・4年生 (秋) [上西 充子] 秋学期授業/Fall	224
演習科目【C7453】	演習 (ビジネス) 2年生 [西村 純] 秋学期授業/Fall	224
演習科目【C7454】	演習 (ビジネス) 3・4年生 (春) [梅崎 修] 春学期授業/Spring	225
演習科目【C7455】	演習 (ビジネス) 3・4年生 (秋) [梅崎 修] 秋学期授業/Fall	226
演習科目【C7456】	演習 (ビジネス) 2年生 [木村 琢磨] 秋学期授業/Fall	227
演習科目【C7457】	演習 (ビジネス) 3・4年生 (春) [木村 琢磨] 春学期授業/Spring	228
演習科目【C7458】	演習 (ビジネス) 3・4年生 (秋) [木村 琢磨] 秋学期授業/Fall	229
演習科目【C7484】	演習 (ビジネス) 4年生 (春) [杉浦 治] 春学期授業/Spring	230
演習科目【C7485】	演習 (ビジネス) 4年生 (秋) [杉浦 治] 秋学期授業/Fall	231
演習科目【C7462】	演習 (ビジネス) 2年生 [酒井 理] 秋学期授業/Fall	232
演習科目【C7463】	演習 (ビジネス) 3・4年生 (春) [酒井 理] 春学期授業/Spring	233
演習科目【C7464】	演習 (ビジネス) 3・4年生 (秋) [酒井 理] 秋学期授業/Fall	234
演習科目【C7465】	演習 (ビジネス) 2年生 [坂爪 洋美] 秋学期授業/Fall	235
演習科目【C7466】	演習 (ビジネス) 3・4年生 (春) [坂爪 洋美] 春学期授業/Spring	236
演習科目【C7467】	演習 (ビジネス) 3・4年生 (秋) [坂爪 洋美] 秋学期授業/Fall	237
演習科目【C7468】	演習 (ビジネス) 2年生 [武石 恵美子] 秋学期授業/Fall	238
演習科目【C7469】	演習 (ビジネス) 3・4年生 (春) [武石 恵美子] 春学期授業/Spring	239
演習科目【C7470】	演習 (ビジネス) 3・4年生 (秋) [武石 恵美子] 秋学期授業/Fall	239

演習科目	[C7471]	演習（ビジネス）2年生〔中野 貴之〕秋学期授業/Fall	240
演習科目	[C7472]	演習（ビジネス）3・4年生（春）〔中野 貴之〕春学期授業/Spring	240
演習科目	[C7473]	演習（ビジネス）3・4年生（秋）〔中野 貴之〕秋学期授業/Fall	241
演習科目	[C7474]	演習（ビジネス）2年生〔佐藤 厚〕秋学期授業/Fall	241
演習科目	[C7450]	演習（ビジネス）3・4年生（春）〔佐藤 厚〕春学期授業/Spring	242
演習科目	[C7451]	演習（ビジネス）3・4年生（秋）〔佐藤 厚〕秋学期授業/Fall	243
演習科目	[C7477]	演習（ビジネス）2年生〔松浦 民恵〕秋学期授業/Fall	244
演習科目	[C7478]	演習（ビジネス）3・4年生（春）〔松浦 民恵〕春学期授業/Spring	245
演習科目	[C7479]	演習（ビジネス）3・4年生（秋）〔松浦 民恵〕秋学期授業/Fall	246
演習科目	[C7480]	演習（ビジネス）4年生（春）〔梅木 眞〕春学期授業/Spring	247
演習科目	[C7481]	演習（ビジネス）4年生（秋）〔梅木 眞〕秋学期授業/Fall	248
演習科目	[C7482]	演習（ビジネス）4年生（春）〔菊池 一夫〕春学期授業/Spring	248
演習科目	[C7483]	演習（ビジネス）4年生（秋）〔菊池 一夫〕秋学期授業/Fall	249
演習科目	[C7500]	演習（ライフ）2年生〔荒川 裕子〕秋学期授業/Fall	250
演習科目	[C7501]	演習（ライフ）3・4年生（春）〔荒川 裕子〕春学期授業/Spring	251
演習科目	[C7502]	演習（ライフ）3・4年生（秋）〔荒川 裕子〕秋学期授業/Fall	252
演習科目	[C7503]	演習（ライフ）2年生〔福井 令恵〕秋学期授業/Fall	253
演習科目	[C7504]	演習（ライフ）3・4年生（春）〔福井 令恵〕春学期授業/Spring	254
演習科目	[C7505]	演習（ライフ）3・4年生（秋）〔福井 令恵〕秋学期授業/Fall	254
演習科目	[C7506]	演習（ライフ）2年生〔金山 喜昭〕秋学期授業/Fall	255
演習科目	[C7507]	演習（ライフ）3・4年生（春）〔金山 喜昭〕春学期授業/Spring	256
演習科目	[C7508]	演習（ライフ）3・4年生（秋）〔金山 喜昭〕秋学期授業/Fall	257
演習科目	[C7509]	演習（ライフ）2年生〔齋藤 嘉孝〕秋学期授業/Fall	258
演習科目	[C7510]	演習（ライフ）3・4年生（春）〔齋藤 嘉孝〕春学期授業/Spring	258
演習科目	[C7511]	演習（ライフ）3・4年生（秋）〔齋藤 嘉孝〕秋学期授業/Fall	259
演習科目	[C7512]	演習（ライフ）2年生〔佐藤 恵〕秋学期授業/Fall	259
演習科目	[C7513]	演習（ライフ）3・4年生（春）〔佐藤 恵〕春学期授業/Spring	260
演習科目	[C7514]	演習（ライフ）3・4年生（秋）〔佐藤 恵〕秋学期授業/Fall	261
演習科目	[C7515]	演習（ライフ）2年生〔田中 研之輔〕秋学期授業/Fall	262
演習科目	[C7516]	演習（ライフ）3・4年生（春）〔田中 研之輔〕春学期授業/Spring	263
演習科目	[C7517]	演習（ライフ）3・4年生（秋）〔田中 研之輔〕秋学期授業/Fall	264
演習科目	[C7518]	演習（ライフ）2年生〔趙 宏偉〕秋学期授業/Fall	265
演習科目	[C7519]	演習（ライフ）3・4年生（春）〔趙 宏偉〕春学期授業/Spring	266
演習科目	[C7520]	演習（ライフ）3・4年生（秋）〔趙 宏偉〕秋学期授業/Fall	267
演習科目	[C7521]	演習（ライフ）2年生〔安田 節之〕秋学期授業/Fall	268
演習科目	[C7522]	演習（ライフ）3・4年生（春）〔安田 節之〕春学期授業/Spring	268
演習科目	[C7523]	演習（ライフ）3・4年生（秋）〔安田 節之〕秋学期授業/Fall	269
演習科目	[C7524]	演習（ライフ）2年生〔熊谷 智博〕秋学期授業/Fall	269
演習科目	[C7525]	演習（ライフ）3年生（春）〔熊谷 智博〕春学期授業/Spring	270
演習科目	[C7526]	演習（ライフ）3年生（秋）〔熊谷 智博〕秋学期授業/Fall	271
演習科目	[C7527]	演習（ライフ）4年生（春）〔平野 貴大〕春学期授業/Spring	272
演習科目	[C7528]	演習（ライフ）4年生（秋）〔平野 貴大〕秋学期授業/Fall	273
演習科目	[C7529]	演習（ライフ）4年生（春）〔酒井 博基〕春学期授業/Spring	273
演習科目	[C7530]	演習（ライフ）4年生（秋）〔酒井 博基〕秋学期授業/Fall	274
演習科目	[C7531]	演習（ライフ）4年生（春）〔山口 佳子〕春学期授業/Spring	275
演習科目	[C7532]	演習（ライフ）4年生（秋）〔山口 佳子〕秋学期授業/Fall	276
演習科目	[C7600]	卒業論文（発達・教育）〔遠藤 野ゆり〕年間授業/Yearly	276
演習科目	[C7601]	卒業論文（発達・教育）〔蟹江 教子〕年間授業/Yearly	277
演習科目	[C7602]	卒業論文（発達・教育）〔児美川 孝一郎〕年間授業/Yearly	278
演習科目	[C7603]	卒業論文（発達・教育）〔坂本 旬〕年間授業/Yearly	279
演習科目	[C7604]	卒業論文（発達・教育）〔笹川 孝一〕年間授業/Yearly	280
演習科目	[C7605]	卒業論文（発達・教育）〔高野 良一〕年間授業/Yearly	281
演習科目	[C7606]	卒業論文（発達・教育）〔田澤 実〕年間授業/Yearly	282
演習科目	[C7607]	卒業論文（発達・教育）〔筒井 美紀〕年間授業/Yearly	283
演習科目	[C7608]	卒業論文（発達・教育）〔寺崎 里水〕年間授業/Yearly	283
演習科目	[C7609]	卒業論文（発達・教育）〔廣川 進〕年間授業/Yearly	284
演習科目	[C7610]	卒業論文（発達・教育）〔松尾 知明〕年間授業/Yearly	285

演習科目	[C7620]	卒業論文（ビジネス）[上西 充子]	年間授業/Yearly	285
演習科目	[C7621]	卒業論文（ビジネス）[梅木 眞]	年間授業/Yearly	286
演習科目	[C7622]	卒業論文（ビジネス）[梅崎 修]	年間授業/Yearly	287
演習科目	[C7623]	卒業論文（ビジネス）[菊池 一夫]	年間授業/Yearly	288
演習科目	[C7624]	卒業論文（ビジネス）[木村 琢磨]	年間授業/Yearly	289
演習科目	[C7625]	卒業論文（ビジネス）[杉浦 治]	年間授業/Yearly	290
演習科目	[C7626]	卒業論文（ビジネス）[酒井 理]	年間授業/Yearly	291
演習科目	[C7627]	卒業論文（ビジネス）[坂爪 洋美]	年間授業/Yearly	292
演習科目	[C7628]	卒業論文（ビジネス）[佐藤 厚]	年間授業/Yearly	293
演習科目	[C7629]	卒業論文（ビジネス）[武石 恵美子]	年間授業/Yearly	294
演習科目	[C7630]	卒業論文（ビジネス）[中野 貴之]	年間授業/Yearly	295
演習科目	[C7631]	卒業論文（ビジネス）[松浦 民恵]	年間授業/Yearly	296
演習科目	[C7640]	卒業論文（ライフ）[荒川 裕子]	年間授業/Yearly	297
演習科目	[C7641]	卒業論文（ライフ）[金山 喜昭]	年間授業/Yearly	298
演習科目	[C7642]	卒業論文（ライフ）[齋藤 嘉孝]	年間授業/Yearly	298
演習科目	[C7643]	卒業論文（ライフ）[酒井 博基]	年間授業/Yearly	299
演習科目	[C7644]	卒業論文（ライフ）[佐藤 恵]	年間授業/Yearly	300
演習科目	[C7645]	卒業論文（ライフ）[田中 研之輔]	年間授業/Yearly	300
演習科目	[C7646]	卒業論文（ライフ）[趙 宏偉]	年間授業/Yearly	301
演習科目	[C7647]	卒業論文（ライフ）[平野 貴大]	年間授業/Yearly	302
演習科目	[C7648]	卒業論文（ライフ）[安田 節之]	年間授業/Yearly	302
演習科目	[C7649]	卒業論文（ライフ）[山口 佳子]	年間授業/Yearly	303
演習科目	[C7650]	卒業論文（ライフ）[福井 令恵]	年間授業/Yearly	304
演習科目	[C7660]	キャリアデザイン学総合演習 [坂本 旬]	秋学期授業/Fall	304
関連科目	[C7700]	国際コミュニケーション語学（英語Ⅰ）[Robert Durham]	春学期授業/Spring	305
関連科目	[C7701]	国際コミュニケーション語学（英語Ⅱ）[Robert Durham]	秋学期授業/Fall	306
関連科目	[C7702]	国際コミュニケーション語学（英語Ⅲ）[Kregg Johnston]	春学期授業/Spring	307
関連科目	[C7703]	国際コミュニケーション語学（英語Ⅳ）[Kregg Johnston]	秋学期授業/Fall	308
関連科目	[C7704]	国際コミュニケーション語学（英語Ⅴ）[Kregg Johnston]	春学期授業/Spring	309
関連科目	[C7710]	就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合- [上西 充子、武石 恵美子]	秋学期授業/Fall	310
関連科目	[C7711]	就業応用力養成Ⅰ [鈴木 美伸]	春学期授業/Spring	311
関連科目	[C7712]	就業応用力養成Ⅱ [鈴木 美伸]	秋学期授業/Fall	313
関連科目	[A4417]	財務会計論Ⅰ・Ⅱ [川島 健司]	春学期・秋学期/Spring・Fall	314
関連科目	[A4419]	監査論Ⅰ・Ⅱ [坂上 学]	春学期・秋学期/Spring・Fall	316
関連科目	[A4421]	税務会計論Ⅰ・Ⅱ [大下 勇二]	春学期・秋学期/Spring・Fall	317
関連科目	[A4423]	管理会計論Ⅰ・Ⅱ [北田 皓嗣]	春学期・秋学期/Spring・Fall	318
関連科目	[A4425]	原価計算論Ⅰ [平井 裕久]	春学期授業/Spring	319
関連科目	[A4426]	原価計算論Ⅱ [福田 淳児]	秋学期授業/Fall	320
関連科目	[A4469]	経営分析Ⅰ・Ⅱ [高橋 美穂子]	春学期・秋学期/Spring・Fall	321
関連科目	[C7750]	異文化適応論 [浅川 希洋志]	秋学期授業/Fall	323
関連科目	[C7751]	市民社会と政治 [谷本 有美子]	春学期授業/Spring	324
関連科目	[C7752]	労働環境法 [水野 圭子]	春学期授業/Spring	325
関連科目	[C7800]	教職入門 [児玉 洋介]	秋学期授業/Fall	326
関連科目	[C7801]	教職入門 [天野 一哉]	春学期授業/Spring	327
関連科目	[C7802]	教職入門 [高野 良一]	秋学期授業/Fall	328
関連科目	[C7803]	教職入門 [寺崎 里水]	春学期授業/Spring	329
関連科目	[C7804]	教育原理 [筒井 美紀]	秋学期授業/Fall	330
関連科目	[C7805]	教育原理 [天野 一哉]	秋学期授業/Fall	331
関連科目	[C7806]	教育原理 [遠藤 野ゆり]	春学期授業/Spring	332
関連科目	[C7807]	教育原理 [飯窪 真也]	秋学期授業/Fall	333
関連科目	[C7808]	教育原理 [澤里 翼]	春学期授業/Spring	334
関連科目	[C7809]	教育の制度・経営 [植竹 丘]	秋学期授業/Fall	335
関連科目	[C7810]	教育の制度・経営 [高野 良一]	春学期授業/Spring	336
関連科目	[C7811]	教育の制度・経営 [植竹 丘]	春学期授業/Spring	337
関連科目	[C7812]	教育の制度・経営 [仲田 康一]	秋学期授業/Fall	338
関連科目	[C7813]	教育の制度・経営 [高野 良一]	秋学期授業/Fall	339
関連科目	[C7814]	教育課程論 [松尾 知明]	春学期授業/Spring	340

関連科目	【C7815】	教育課程論 [黄 郁倫]	秋学期授業/Fall	340
関連科目	【C7816】	教育課程論 [飯窪 真也]	春学期授業/Spring	341
関連科目	【C7817】	教育課程論 [飯窪 真也]	秋学期授業/Fall	341
関連科目	【C7818】	教育課程論 [川津 貴司]	春学期授業/Spring	342
関連科目	【C7819】	教育方法論 [岩本 俊一]	春学期授業/Spring	342
関連科目	【C7820】	教育方法論 [松尾 知明]	春学期授業/Spring	343
関連科目	【C7821】	教育方法論 [黄 郁倫]	春学期授業/Spring	343
関連科目	【C7822】	教育方法論 [黄 郁倫]	秋学期授業/Fall	344
関連科目	【C7823】	教育方法論 [川津 貴司]	秋学期授業/Fall	344
関連科目	【C7900】	図書館演習 [坂本 旬]	年間授業/Yearly	345
関連科目	【C7901】	図書館演習 [村上 郷子]	年間授業/Yearly	346
関連科目	【C7902】	図書館演習 [丹 一信]	年間授業/Yearly	347
関連科目	【C7903】	図書館演習 [田村 貴紀]	年間授業/Yearly	348
関連科目	【C7905】	図書館サービス概論 [丹 一信]	春学期授業/Spring	349
関連科目	【C7908】	情報サービス演習 [田中 順子]	年間授業/Yearly	350
関連科目	【C7909】	情報サービス演習 [奥泉 和久]	年間授業/Yearly	351
関連科目	【C7910】	情報サービス演習 [菅原 真悟]	年間授業/Yearly	352
関連科目	【C7911】	図書館情報資源概論 [小黑 浩司]	春学期授業/Spring	353
関連科目	【C7912】	図書館情報資源概論 [村上 郷子]	春学期授業/Spring	353
関連科目	【C7913】	図書館情報資源概論 [村上 郷子]	春学期授業/Spring	354
関連科目	【C7914】	図書館情報資源特論 [小黑 浩司]	秋学期授業/Fall	355
関連科目	【C7915】	図書館情報資源特論 [村上 郷子]	秋学期授業/Fall	356
関連科目	【C7916】	図書館情報資源特論 [村上 郷子]	秋学期授業/Fall	357
関連科目	【C7924】	読書と豊かな人間性 [高橋 恵美子]	秋学期授業/Fall	358
関連科目	【C7925】	情報メディアの活用 [坂本 旬]	秋学期授業/Fall	359
関連科目	【C7926】	情報メディアの活用 [村上 郷子]	秋学期授業/Fall	359
関連科目	【C7928】	ミュージアム資料論 [田中 裕二]	秋学期授業/Fall	360
関連科目	【C7929】	ミュージアム教育論 [荒川 裕子]	春学期授業/Spring	361
関連科目	【C7930】	ミュージアム教育論 [山下 治子]	秋学期授業/Fall	362
関連科目	【C7943】	社会教育演習 [笹川 孝一]	年間授業/Yearly	363
関連科目	【C7949】	現代生活・文化と社会教育Ⅱ [佐々木 美貴]	秋学期授業/Fall	365
関連科目	【C4127】	社会・地歴科教育法 【2016 年度以前入学者用】	[石出 法太] 年間授業/Yearly	366
関連科目	【C4129】	社会・地歴科教育法 【2016 年度以前入学者用】	[本山 明] 年間授業/Yearly	367
関連科目	【C4131】	社会・地歴科教育法 【2016 年度以前入学者用】	[石出 法太] 年間授業/Yearly	368
関連科目	【C4133】	社会・公民科教育法 【2016 年度以前入学者用】	[八木橋 正之] 年間授業/Yearly	369
関連科目	【C4135】	社会・公民科教育法 【2016 年度以前入学者用】	[松尾 知明] 年間授業/Yearly	370
関連科目	【C4137】	社会・公民科教育法 【2016 年度以前入学者用】	[石出 法太] 年間授業/Yearly	371
関連科目	【C4139】	商業科教育法 【2016 年度以前入学者用】	[木村 良成] 年間授業/Yearly	372
関連科目	【C4035】	道德教育指導論 【2016 年度以前入学者用】	[井藤 元] 春学期授業/Spring	373
関連科目	【C4036】	道德教育指導論 【2016 年度以前入学者用】	[廣瀬 仁郎] 春学期授業/Spring	374
関連科目	【C4037】	道德教育指導論 【2016 年度以前入学者用】	[渡邊 優子] 秋学期授業/Fall	376
関連科目	【C4038】	道德教育指導論 【2016 年度以前入学者用】	[廣瀬 仁郎] 秋学期授業/Fall	377
関連科目	【C4039】	特別活動論 【2016 年度以前入学者用】	[中村 岳夫] 春学期授業/Spring	379
関連科目	【C4040】	特別活動論 【2016 年度以前入学者用】	[中村 岳夫] 春学期授業/Spring	380
関連科目	【C4041】	特別活動論 【2016 年度以前入学者用】	[児玉 洋介] 春学期授業/Spring	381
関連科目	【C4042】	特別活動論 【2016 年度以前入学者用】	[中村 岳夫] 秋学期授業/Fall	382
関連科目	【C4043】	特別活動論 【2016 年度以前入学者用】	[森本 扶] 秋学期授業/Fall	383
関連科目	【C4044】	生徒・進路指導論 【2016 年度以前入学者用】	[岩本 俊一] 春学期授業/Spring	384
関連科目	【C4045】	生徒・進路指導論 【2016 年度以前入学者用】	[渡部 忠治] 春学期授業/Spring	385
関連科目	【C4046】	生徒・進路指導論 【2016 年度以前入学者用】	[児玉 洋介] 秋学期授業/Fall	386
関連科目	【C4047】	生徒・進路指導論 【2016 年度以前入学者用】	[児美川 孝一郎] 秋学期授業/Fall	387
関連科目	【C4048】	生徒・進路指導論 【2016 年度以前入学者用】	[綿貫 公平] 秋学期授業/Fall	388
関連科目	【C4743】	図書館制度・経営論 【2016 年度以前入学者用】	[森 智彦] 秋学期授業/Fall	389
関連科目	【C4744】	児童サービス論 【2016 年度以前入学者用】	[田中 順子] 秋学期授業/Fall	390
関連科目	【C4745】	情報サービス論 【2016 年度以前入学者用】	[田中 順子] 春学期授業/Spring	391
関連科目	【C4746】	情報資源組織論 【2016 年度以前入学者用】	[丹 一信] 春学期授業/Spring	391
関連科目	【C4747】	情報資源組織演習 【2016 年度以前入学者用】	[丹 一信] 年間授業/Yearly	392

関連科目	【C4748】	情報資源組織演習【2016年度以前入学者用】	〔村上 郷子〕年間授業/Yearly		393
関連科目	【C4749】	情報資源組織演習【2016年度以前入学者用】	〔鈴木 祐滋〕年間授業/Yearly		394
関連科目	【C4750】	情報資源組織演習【2016年度以前入学者用】	〔菅原 真悟〕年間授業/Yearly		395
関連科目	【C4752】	学校経営と学校図書館【2016年度以前入学者用】	〔高橋 恵美子〕春学期授業/Spring		396
関連科目	【C4753】	学習指導と学校図書館【2016年度以前入学者用】	〔高橋 恵美子〕秋学期授業/Fall		397
関連科目	【C4751】	学校図書館メディアの構成【2016年度以前入学者用】	〔高橋 恵美子〕春学期授業/Spring		398
関連科目	【C4759】	ミュージアム資料保存論【2016年度以前入学者用】	〔今野 農〕春学期授業/Spring		399
関連科目	【C4760】	ミュージアム資料保存論【2016年度以前入学者用】	〔清水 久夫〕秋学期授業/Fall		400
関連科目	【C4761】	ミュージアム展示論【2016年度以前入学者用】	〔渡邊 尚樹〕秋学期授業/Fall		401
関連科目	【C4762】	ミュージアム展示論【2016年度以前入学者用】	〔渡邊 尚樹〕春学期授業/Spring		402
関連科目	【C4763】	ミュージアム情報・メディア論【2016年度以前入学者用】	〔柏女 弘道〕春学期授業/Spring	...	403
関連科目	【C4764】	ミュージアム情報・メディア論【2016年度以前入学者用】	〔石川 貴敏〕秋学期授業/Fall		404
関連科目	【C4765】	博物館実習Ⅰ【2016年度以前入学者用】	〔藤田 直人〕年間授業/Yearly		405
関連科目	【C4766】	博物館実習Ⅰ【2016年度以前入学者用】	〔金山 喜昭〕年間授業/Yearly		406
関連科目	【C4767】	博物館実習Ⅱ【2016年度以前入学者用】	〔小西 雅徳〕年間授業/Yearly		407
関連科目	【C4768】	博物館実習Ⅱ【2016年度以前入学者用】	〔杉山 享司〕年間授業/Yearly		408
関連科目	【C4754】	社会教育計画【2016年度以前入学者用】	〔御園生 純〕年間授業/Yearly		409
関連科目	【C4755】	社会教育計画【2016年度以前入学者用】	〔御園生 純〕年間授業/Yearly		410
関連科目	【C4756】	社会教育活動Ⅰ【2016年度以前入学者用】	〔桔川 純子〕春学期授業/Spring		411
関連科目	【C4757】	社会教育活動Ⅱ【2016年度以前入学者用】	〔佛木 完〕秋学期授業/Fall		412
関連科目	【C4758】	職業指導（仕事の場と学び）【2016年度以前入学者用】	〔高橋 浩〕年間授業/Yearly		413

BSP100MA

キャリアデザイン学入門

基幹科目

佐藤 厚、寺崎 里水、安田 節之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザインとは何かを本学部の三領域（発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリア）の視点から提示し、キャリアデザイン学の基礎概念を講義します。併せて、これらによりキャリアデザイン学の確立を目指す一員として学生の自覚を高め、キャリアデザインを考える能力を養成します。

【到達目標】

キャリアデザイン学部の専門科目やゼミナールでの学習のための準備としてキャリアデザイン学の基礎的な概念を理解すること、また激励する現代社会を生きるためのキャリアデザイン学を学び、研究することの意義を見付けることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学部の三領域（発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリア）の教員3名によるオムニバス授業です。毎回授業では、それぞれの分野の基礎概念を学んだ後に、それぞれの分野における具体的テーマを学生たちと議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	キャリアデザイン学とは何かを学び、講義内容の構成を理解する。(佐藤厚・安田・寺崎)
第 2 回	自立と自律	ビジネスキャリアの選択行動を学ぶ。合理的期待形成、限定合理性、リスクと不確実性（uncertainty）、デザインとドリフト、トランジションなどの基礎概念を理解する。(佐藤厚)
第 3 回	経営戦略とリーダーシップ	企業組織の経営戦略を学び、組織内における活性化する優れたリーダーの役割とそのようなリーダーの育成を考察する。(佐藤厚)
第 4 回	経済構造と職業構成	工業化、ポスト工業化という経済成長に伴う経済構造の変化を学び、その変化の中で求められる雇用される能力の変化を考察する。(佐藤厚)
第 5 回	雇用政策と企業内キャリア支援	仕事を生み出す雇用政策と、企業が従業員に対して行う企業内キャリア支援を学ぶ。(佐藤厚)
第 6 回	個人のウェルビーイング	ライフキャリアを学ぶ意義を知り、個人のアイデンティティや主観的幸福感の視点からウェルビーイングについて学ぶ。(安田)
第 7 回	社会関係と人間行動	人と環境の適合について、自らを取り巻く社会的文脈とのかかわりや参加のあり方から考える。エンパワメントの視点を学ぶ。(安田)
第 8 回	社会と文化	マクロな視点から社会やコミュニティと個人のかかわりを知る。多様性や多文化共生の意義を学ぶ。(安田)
第 9 回	ライフキャリア支援	支援とは何を意味するか、非専門家によるライフキャリア支援とは何かを学ぶ。(安田)
第 10 回	学ぶ主体	「勉強する」と「学ぶ」とは何が違うのか、「わかる」とはなにか、nature と nurture、所得に影響を与えるのはどちらか、といったことについて考える。(寺崎)
第 11 回	家庭・学校・環境と発達・教育	発達に課題のある子ども、教育達成と社会的地位達成、学歴主義、格差と不平等などについて学び、学校や教育の問題を扱う学問領域の多様さを考える。(寺崎)
第 12 回	学習機会の時間的・空間的広がり	キャリア教育、就労支援、コミュニティ、地域移動などについて学び、働くこと、生活することと学ぶこととの関連について考察する。(寺崎)
第 13 回	価値的・主体的性を育てる	社会への「適応」と望ましい社会を「創造」することについて学ぶ。(寺崎)

第 14 回 キャリアデザイン学の展望
これまでの授業を振り返りつつ、ビジネスキャリア・ライフキャリア・発達教育キャリアの関連する領域を議論する。(佐藤厚・安田・寺崎)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

定期的に授業の振り返りのための課題を出しますので、課題文書、講義内容、参加した議論を振り返り、課題レポートを作成します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

金山善昭, 児美川孝一郎, 武石恵美子編著 2013『キャリアデザイン学への招待』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（出席と課題の提出等）50 %, 期末試験 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

三分野の繋がりを意識して事例紹介をしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等で授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

In this class, we will present something about career design from the viewpoints of the three areas of our faculty - development and education career, business career, life career - and give lectures on basic concepts of career design studies.

Through these activities, we will raise students' awareness as a member who aims to establish career design studies and foster their abilities to think career design.

BSP100MA
キャリア研究調査法入門【2017
年度以降入学者用】(A～E クラ 基幹科目
ス)

仲 修平

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通じて、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。本講義では、2 年生春学期の「キャリア研究調査法（質的調査、量的調査）」や、2 年生秋学期開始のゼミでの学習・卒業論文研究に向けた土台作りをします。

【到達目標】

本講義は、高校までに学習した基礎的数学や国語や社会の知識・技能を発展させて、社会調査の基本的な考え方と技能とをマスターします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、具体的事例や練習問題やグループワークを通じて、自分が「社会調査
ができる」ようになるよう、段階的に知識や視点を獲得していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	どうして「調査法」を学ぶの？——料理を食べる人から作る人へ	データを読み取る力／調査力が、今後の大学での学び、就職活動・社会人生活でも重要であることを理解する。
第 2 回	中高の数学は大学でも大事！	中高で習った数学を応用する。概念を問う習慣を身につける。数える。平らに均す。均した散らばりを測る。
第 3 回	表からグラフを描いてみよう①——データの読み取り基礎	グラフの描出と記述のコツを修得する。仮説設定の重要性を理解する。度数分布表、棒・帯・円グラフを作る。標準偏差を体感する。
第 4 回	表からグラフを描いてみよう②——データの読み取り基礎	「発達・教育」「ビジネス」「ライフ」に関連するデータを用いて、上記の練習を繰り返す。グラフを言葉で記述する。
第 5 回	政府統計を加工する——カット＆ペーストではなく、自分の視点で	官庁統計のエクセル表を、自分の視点を定めて、グラフなどに加工する。グラフを用いて職業・産業の変化を記述・説明する。
第 6 回	仮説と変数ってなんだ？——アンケートを作る前に	仮説の構成：変数と因果関係、概念仮説と作業仮説、を理解する。30 程度のデータセットを用いて、クロス表を手計算で作成する。
第 7 回	その質問文、答えやすい？——アンケートの作成と分析	調査票の構成を理解する。質問文・選択肢の作り方を修得し、自分で作る。作った質問文をグループで再検討する。
第 8 回	量的調査のまとめ 質的調査の概要	対象者サンプリング、調査票の配布・回収法、各種手法など、量的調査のまとめをする。質的調査の概要を確認する。
第 9 回	インタビュー調査の準備／番書／文字おこし	依頼状・アポ取り、下調べ、質問項目案といった準備と、録音、ノート、文字起こし、インフォーマント・チェック、お礼状作成などの過程を学ぶ。
第 10 回	インタビューをやってみよう！	構造化・非構造化・半構造化等、ライフヒストリーのインタビュー練習を 3～4 人で行なう。得られたデータを整理する。
第 11 回	インタビュー調査を用いて論文を書く——何をどう書けばいいの？	反訳データを KJ 法などで検討する。400 字の文章にまとめ、単なるエッセイや感想文に終わらない書き方の基礎を学ぶ。
第 12 回	観察法：その 1——目に見え聞こえることを書き取ってみる	映像を見て、観察したことを書き取る。全体を見る、細部を見る、見たものから考えるという実践を通して観察法の基礎を学ぶ。
第 13 回	観察法：その 2——立ち位置が変わると発見も変わる	観察法：参与・非参与の方法について学ぶ。映像を自らの立ち位置＝役割をかえることによって対象の見え方が変化することを理解する。
第 14 回	質的調査のまとめ 総括	成果の公表の仕方、調査倫理も含め、質的調査のまとめをする。2 年生春学期「調査法」クラス選択のイメージを抱きつつ、総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題や予習課題が出されることがあります。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示

【参考書】
必要に応じて授業中に指示

【成績評価の方法と基準】
中間試験（30 %）、期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容と個人・ペア・グループによる活動を連動する取り組みを導入した。

【Outline and objectives】

Social survey is a process and method to understand social phenomena by collecting data from real society and analyzing the obtained data. In this lecture, we will make a foundation for research on graduation thesis and learning in seminars after the second semester, such as “Career research survey method (qualitative and quantitative survey)” courses.

BSP100MA キャリア研究調査法入門【2017 年度以降入学者用】(F～P クラ 基幹科目 ス)

菅野 摂子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通じて、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。本講義では、2 年生春学期の「キャリア研究調査法（質的調査、量的調査）」や、2 年生秋学期開始のゼミでの学習・卒業論文研究に向けた土台作りをします。

【到達目標】

本講義は、高校までに学習した基礎的数学や国語や社会の知識・技能を発展させて、社会調査の基本的な考え方と技能とをマスターします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、具体的事例や練習問題やグループワークを通じて、自分が「社会調査ができる」ようになるよう、段階的に知識や視点を獲得していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	どうして「調査法」を学ぶの？——料理を食べる人から作る人へ	データを読み取る力／調査力が、今後の大学での学び、就職活動・社会人生活でも重要であることを理解する。
第 2 回	中高の数学は大学でも大事！	中高で習った数学を応用する。概念を問う習慣を身につける。数える。平らに均す。均した散らばりを測る。
第 3 回	表からグラフを描いてみよう①——データの読み取り基礎	グラフの描出と記述のコツを修得する。仮説設定の重要性を理解する。度数分布表、棒・帯・円グラフを作る。標準偏差を体感する。
第 4 回	表からグラフを描いてみよう②——データの読み取り基礎	「発達・教育」「ビジネス」「ライフ」に関連するデータを用いて、上記の練習を繰り返す。グラフを言葉で記述する。
第 5 回	政府統計を加工する——カット＆ペーストではなく、自分の視点で	官庁統計のエクセル表を、自分の視点を定めて、グラフなどに加工する。グラフを用いて職業・産業の変化を記述・説明する。
第 6 回	仮説と変数ってなんだ？——アンケートを作る前に	仮説の構成：変数と因果関係、概念仮説と作業仮説、を理解する。30 程度のデータセットを用いて、クロス表を手計算で作成する。
第 7 回	その質問文、答えやすい？——アンケートの作成と分析	調査票の構成を理解する。質問文・選択肢の作り方を修得し、自分で作る。作った質問文をグループで再検討する。
第 8 回	量的調査のまとめ 質的調査の概要	対象者サンプリング、調査票の配布・回収法、各種手法など、量的調査のまとめをする。質的調査の概要を確認する。
第 9 回	インタビュー調査の準備／番／文字おこし	依頼状・アポ取り、下調べ、質問項目案といった準備と、録音、ノート、文字起こし、インフォーマント・チェック、お礼状作成などの過程を学ぶ。
第 10 回	インタビューをやってみよう！	構造化・非構造化・半構造化等、ライフヒストリーのインタビュー練習を 3～4 人で行なう。得られたデータを整理する。
第 11 回	インタビュー調査を用いて論文を書く——何をどう書けばいいの？	反訳データを KJ 法などで検討する。400 字の文章にまとめ、単なるエッセイや感想文に終わらない書き方の基礎を学ぶ。
第 12 回	観察法：その 1——目に見え聞こえることを書き取ってみる	映像を見て、観察したことを書き取る。全体を見る、細部を見る、見たものから考えるという実践を通して観察法の基礎を学ぶ。
第 13 回	観察法：その 2——立ち位置が変わると発見も変わる	観察法：参与・非参与の方法について学ぶ。映像を自らの立ち位置＝役割をかえることによって対象の見え方が変化することを理解する。
第 14 回	質的調査のまとめ 総括	成果の公表の仕方、調査倫理も含め、質的調査のまとめをする。2 年生春学期「調査法」クラス選択のイメージを抱きつつ、総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や予習課題が出されることがあります。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示

【参考書】

必要に応じて授業中に指示

【成績評価の方法と基準】

中間試験（30 %）、期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

Social survey is a process and method to understand social phenomena by collecting data from real society and analyzing the obtained data. In this lecture, we will make a foundation for research on graduation thesis and learning in seminars after the second semester, such as “Career research survey method (qualitative and quantitative survey)” courses.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

池田 心豪

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（１）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（２）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（３）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（１）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（２）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（３）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（１）	観察法の解説。
10	観察法（２）	観察法の調査事例。
11	観察法（３）	観察法を用いたミニ実習発表会。

12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（１）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（２）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（５０％）、平常点（５０％）。

【学生の意見等からの気づき】

参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。毎回 3~4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等にご注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】

2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA		12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目	13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。
BSP200MA		14	発表会 (2)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目	【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】 各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。		
BSP200MA		【テキスト (教科書)】 特に指定しません。		
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目	【参考書】 授業中に随時、紹介します。		
BSP200MA		【成績評価の方法と基準】 提出課題 (50%)、平常点 (50%)。		
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目	【学生の意見等からの気づき】 参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。毎回 3~4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。		
BSP200MA		【キャリアデザイン学部より】 本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。		
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目	【2011 年度以前入学者向け】 2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。		
BSP200MA		【Outline and objectives】 This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.		
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目			
濱中 義隆				
単位数：2 単位 開講セメスター：春学期授業/Spring				
曜日・時限：金 2/Fri.2 配当年次：年				

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査/質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。

12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（50％）、平常点（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。毎回 3~4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等にご注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】

2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目

田中 研之輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。

12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（50%）、平常点（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。毎回 3~4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等にご注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】

2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

西村 純

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。

12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（50％）、平常点（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。毎回 3~4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等にご注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】

2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目

前浦 穂高

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。
調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。
各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。

12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（50%）、平常点（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。毎回 3~4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等にご注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】

2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

河村 裕樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。

12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（50％）、平常点（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。毎回 3~4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等にご注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】

2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (質的調査)	基幹科目

井上 公人

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。

12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（50%）、平常点（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。毎回 3~4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等にご注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】

2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

山崎 正枝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってもらいます。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。

12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（50％）、平常点（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

参加型の授業という側面をより強調していきたいと思います。毎回 3~4 人でのグループディスカッションの時間を設けます。課題論文を理解し、少人数でディスカッションし、プレゼンテーションする機会も作ります。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等にご注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2011 年度以前入学者向け】

2011 年度以前の入学者は事前抽選の参加は不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅱ」として開講されるのは「春学期金・2」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach. The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目**濱中 義隆**

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
3	データと変数	変数とは。 質的変数と量的変数とは。 尺度水準について。
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値 (平均値、中央値、最頻値)。
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲。 分散・標準偏差。
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

13 統計的検定の考え方 帰無仮説と対立仮説

有意水準

14 量的調査の論文例 上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。

【テキスト（教科書）】

神林博史／三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011 年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」： 50%

「レポートや課題の提出」： 50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題（例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集）については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007～2011 年度入学者は参加不要です。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007～2011 年度入学者向け】

2007～2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA	
キャリア研究調査法 (量的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (量的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (量的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (量的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (量的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (量的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (量的調査)	基幹科目
BSP200MA	
キャリア研究調査法 (量的調査)	基幹科目

井上 公人

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
3	データと変数	変数とは。 質的変数と量的変数とは。 尺度水準について。
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値 (平均値、中央値、最頻値)。
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲。 分散・標準偏差。
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。

【テキスト（教科書）】

神林博史／三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011 年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」： 50%

「レポートや課題の提出」： 50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題（例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集）については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007～2011 年度入学者は参加不要です。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007～2011 年度入学者向け】

2007～2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目**熊谷 智博**

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
3	データと変数	変数とは。 質的変数と量的変数とは。 尺度水準について。
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値 (平均値、中央値、最頻値)。
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲。 分散・標準偏差。
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

13 統計的検定の考え方 帰無仮説と対立仮説

有意水準

14 量的調査の論文例 上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。

【テキスト（教科書）】

神林博史／三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011 年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」： 50%

「レポートや課題の提出」： 50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題（例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集）については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007～2011 年度入学者は参加不要です。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007～2011 年度入学者向け】

2007～2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA		13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
キャリア研究調査法 (量的調査)	基幹科目	14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。
BSP200MA		【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】 新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。		
キャリア研究調査法 (量的調査)	基幹科目	【テキスト (教科書)】 神林博史／三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011 年 技術評論社		
BSP200MA		【参考書】 必要に応じて授業内で指示します。		
キャリア研究調査法 (量的調査)	基幹科目	【成績評価の方法と基準】 「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」： 50% 「レポートや課題の提出」： 50%		
BSP200MA		【学生の意見等からの気づき】 授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。		
キャリア研究調査法 (量的調査)	基幹科目	【キャリアデザイン学部より】 本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007～2011 年度入学者は参加不要です。 本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。		
BSP200MA		【2007～2011 年度入学者向け】 2007～2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。		
キャリア研究調査法 (量的調査)	基幹科目	【Outline and objectives】 The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.		
伊藤 慎悟				
単位数：2 単位 開講セメスター：春学期授業/Spring 曜日・時限：火 5/Tue.5 配当年次：年				

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
3	データと変数	変数とは。 質的変数と量的変数とは。 尺度水準について。
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値 (平均値、中央値、最頻値)。
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲。 分散・標準偏差。
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係・原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
3	データと変数	変数とは。 質的変数と量的変数とは。 尺度水準について。
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値 (平均値、中央値、最頻値)。
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲。 分散・標準偏差。
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

13 統計的検定の考え方 帰無仮説と対立仮説

有意水準

14 量的調査の論文例 上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。

【テキスト（教科書）】

神林博史／三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011 年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」： 50%

「レポートや課題の提出」： 50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題（例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集）については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007～2011 年度入学者は参加不要です。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007～2011 年度入学者向け】

2007～2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
3	データと変数	変数とは。 質的変数と量的変数とは。 尺度水準について。
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値 (平均値、中央値、最頻値)。
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲。 分散・標準偏差。
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

13 統計的検定の考え方 帰無仮説と対立仮説

有意水準

14 量的調査の論文例 上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。

【テキスト（教科書）】

神林博史／三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011 年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」： 50%

「レポートや課題の提出」： 50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題（例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集）については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007～2011 年度入学者は参加不要です。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007～2011 年度入学者向け】

2007～2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

BSP200MA

キャリア研究調査法(量的調査)

基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法(量的調査)

基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法(量的調査)

基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法(量的調査)

基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法(量的調査)

基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法(量的調査)

基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法(量的調査)

基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法(量的調査)

基幹科目

BSP200MA

キャリア研究調査法(量的調査)

基幹科目

坂田 哲人

単位数:2 単位 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring

曜日・時限: 水 2/Wed.2 | 配当年次: 年

13

統計的検定の考え方

帰無仮説と対立仮説
有意水準

14

量的調査の論文例

上記までに習ってきた知識を復習する
とともに、実際に量的調査が使われて
いる例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計
など）に関心を持ってください。

【テキスト（教科書）】

神林博史／三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐで
きる』 2011 年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」： 50%
「レポートや課題の提出」： 50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。ま
た毎回の講義テーマに沿った演習課題（例：エクセルや SPSS を用いたデー
タ分析、アンケート項目の作成とデータ収集）については各担当教員の裁量に
任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促す
こととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意す
ること。※ 2007～2011 年度入学者は参加不要です。
本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであるこ
とが必要です。

【2007～2011 年度入学者向け】

2007～2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出
席のこと。なお「社会調査論Ⅰ」として開講されるのは「春学期金・1」の濱
中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about
quantitative research method and develop skills to conduct quantitative
studies concerning career development.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

1	テーマ	内容
2	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
3	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い。
4	データと変数	変数とは。 質的変数と量的変数とは。 尺度水準について。
5	変数の特徴を分析する (1) : 変数の分布と中心	度数分布表とは。 度数分布表の視覚化 (グラフの作成)。 代表値 (平均値、中央値、最頻値)。
6	変数の特徴を分析する (2) : 変数のばらつき	範囲。 分散・標準偏差。
7	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
8	変数の関係を分析する (2)	散布図
9	変数の関係を分析する (3)	相関
10	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
11	変数の関係について深く 考える	因果関係・原因と結果について
12	母集団と標本	標本の抽出
13	部分から全体を知る : 推 測統計学	母数と標本統計量 推定

BSP100MA

発達・教育キャリア入門A 基幹科目

遠藤 野ゆり

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達・教育に関する基礎的な知識の習得と、それらの問題をどのような観点で切り取るかという視点の獲得とを目指します。私たちは多くの場合「自分の考え方は当然のことだ」「みんなそう考えている」「あたりまえだ」と思いこんでいます。つまり、自分の「あたりまえ」の枠組みの中でしかものごとを捉えられません。けれどそのままでは、自分の考えを押しつける浅い教育論しか展開できなくなります。自分の枠組みがどのようなものなのかを知り乗り越えていく方法を考えます。

【到達目標】

発達・教育に関する 10 のトピックをめぐる基礎的な知識を身につける。
自分がいかに普段「あたりまえの枠組み」の中で考えているかを理解し、そのルーツを探る。
自分の「あたりまえの枠組み」を超えるための視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では 10 の教育問題（トピック）を取り上げます。各自教科書の第 1 節にある基礎的な知識を予習したうえで授業に臨んでください。毎時間、基礎知識の習得率を図る小テストを実施します。授業では、あたりまえの枠組みを乗り越える視点を提示し、予習してきた知識の捉え直しを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（枠組みとしてのあたりまえ） テキスト序章	授業の内容、進め方の説明 「あたりまえ」を疑うとはどういうことか。「みんな」という言葉で表わされることの内実を考える。
2	家族の形 テキスト第 1 章	正しいデータに照らして家族の問題を捉える。
3	児童虐待 テキスト第 2 章	虐待された経験は子どもにどのような影響を与えるのかを学ぶ。
4	児童虐待 テキスト第 2 章	虐待する親の思いを学ぶ。「虐待する親はひどい」という枠組みを超えて、虐待の発生過程を学ぶ。
5	発達障害 テキスト第 3 章	人によって見えている世界は全く違う、ということを知る。
6	生きられる時空間 テキスト第 4 章	自覚しにくい時空間の感覚が私たちの様々な経験を支えていることを考える。
7	いじめ テキスト第 5 章	悪いこととわかっていてもなぜいじめは生じるのか、雰囲気による他者理解の観点から考える。
8	自閉症スペクトラム障害 テキスト第 6 章	「相手の気持ちを考える」ことの難しさ、もろさを考える。
9	カウンセリング テキスト第 7 章	相手の話を聞き内なる声を聞くという営みの奥深さを知る。
10	不登校 テキスト第 8 章	語ることで自分自身のあり方を作り上げていくという成長を考える。
11	非行 テキスト第 9 章	悪いことをして反省するって本当に可能な？ 反省の奥深さについて学ぶ。
12	キャリア教育 テキスト第 10 章	自分の人生を選択していくことの基盤になっている自尊感情を学ぶ。
13	「あたりまえ」を支えるもの テキスト終章	多様な観点から「あたりまえ」を疑ったとしても私たちの世界が確かさを失わないということについて学ぶ。
14	全体のまとめ	授業全体をとおしてどのような固定概念がくつがえされどのような新たな観点が獲得されたのかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストはすべて 1 章が 3 節構成になっています。各章の第 1 節にはその単元を学ぶ上での基礎知識がすべて書かれています。授業の時間上、基礎知識は予習課題とし、毎週テストを実施します。予習して臨むこと。

【テキスト（教科書）】

遠藤野ゆり・大塚類（2014）『あたりまえを疑え！ 臨床教育学入門』新曜社

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

受講者数が多く私語が出て聞きづらい、また教員がそれを気にしすぎるという指摘をいただきました。もっと授業に集中してもらえるように工夫をします。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で授業支援システムにログインしてもらいクリックアンケートなどを実施することがあります。できるだけ、スマートフォンや PC などの機器を持参してください（事前に連絡します）

【Outline and objectives】

We aim to acquire fundamental knowledge on the issue of developmental and educational field and to acquire a viewpoint on how to cut out those problems. In many cases, we think that "my way of thinking is natural", "everyone thinks so", "it is natural". In other words, we can catch things only within our "obvious" framework. However, as it is, only the shallow educational theory which imposes his thought can be developed. I will think about ways to know and overcome what your framework is like.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門B 基幹科目

田澤 実

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個人の学びや発達に視点を置く事柄について基礎的な内容を学ぶ。個人の生き方や社会の在り方について考察する。

【到達目標】

- ・発達および教育に関連するキャリアデザインにかかわる各トピックについての基礎的な知識を身につける。
- ・キャリアデザインに関わる社会現象についてデータに基づいて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、リアクションペーパー提出。
（各回のテーマは動詞で示してある。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の枠組や評価方法等を説明する。
第 2 回	大学へ進学する	日本の高校卒業者の進路の内訳や学生生活で重視する事柄の時系列的な変化を概観し、現代社会における青年期の諸問題との関連を説明する。
第 3 回	企業に就職する	日本の大学卒業者の進路の内訳や時系列的な変化を概観する。民間企業への就職を例に取り上げ、大学での学びが与える影響について説明する。
第 4 回	選択肢を拓ける／絞る	「複数の選択肢があればそこから何を選ぶのか」は個人が生き方を選ぶことと関連する。心理学の観点からキャリア発達、意思決定モデルについて説明する。
第 5 回	地域を移動する	日本では、高校卒業後および大学卒業後に都道府県間移動をする若者が多いことが知られている。このような地理的な移動を題材に、個人の生き方と社会の在り方の関連を考える。
第 6 回	家族を形成する	近年では、個人が仕事役割と家族役割のバランスをどのように取るのかが注目されることがある。このことについて成人期の発達課題との関連を説明する。
第 7 回	地域で支える	学校という空間の外側には家庭や地域社会がある。地域の支えを得ながら社会へ移行する若者の事例を紹介し、包括的な若者支援について説明する。
第 8 回	コミュニケーションする	個人の生き方を考える際に、他者とのコミュニケーションは不可欠である。情報の発信と受信、メリットとデメリットの比較から、その多義性を説明する。
第 9 回	自信を持つ	個人の行動の原動力を考える。自己効力、学習性無力感、自尊心について説明する。
第 10 回	将来を見通す	個人の生き方や社会の在り方を考える際に、将来を見通すことは不可欠である。個人および組織の見通しに関連した概念について説明する。
第 11 回	体験から学ぶ	経験学習について説明する。自らの経験から学びを得るプロセスだけでなく、社会人講話などから学びを得るプロセスについて考える。
第 12 回	知識を紡ぐ	ワークショップによる学びに注目する。共に参加したメンバー間で知識はいかにして紡がれていくのか、ワークショップに関連した学習理論を説明する。
第 13 回	ICT を活用する	各種学校で用いられている ICT を活用した学びの例を紹介する。最後に、自らの大学の学びを題材にし、活用できる技術について考える。

第 14 回 2つ以上のものをつなげ 上記までに扱ったトピックのまとめをして、これらの関連性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前課題を設ける回がある。

【テキスト（教科書）】

なし。レジュメを配布する。

【参考書】

e-Stat（日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイト）
<https://www.e-stat.go.jp>

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % 期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の感想および論述試験での回答傾向を総合的に判断して、扱うテーマについて一部変更を加えた。

【Outline and objectives】

This course introduces lifelong learning, developmental stage theories and decision-making to students taking this course.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門I）

基幹科目

笹川 孝一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習の本質と歴史～生涯学習の時代とキャリアデザインの時代との関係性に焦点をあてて～

☆なお、発達・教育キャリア入門C・D（生涯学習入門はI・II）は、内容が一続きのもののなので、連続して履修することが望ましい。

【到達目標】

- 1) 人間の生涯学習とキャリア・キャリアデザインとの関係について、ヒト以外の動物と比較しながら、「仕事」「遊び」「表現」「共同体」「学習と教育」「生涯学習」「社会教育」に焦点を当てて考える。
- 2) 近代化、現代化と「生涯学習の時代」「キャリアデザインの時代」の意味と矛盾について考える。
- 3) 日本の歴史に即しながら「生涯学習」「キャリア」「キャリアデザイン」の用語と概念の変遷を追ひ、そこでの課題と方向性、自分自身で定義することの大切さを考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 授業の概要：
授業の到達目標及びテーマを参照のこと。
- 2) 授業の方法：
①できるだけ映像や新聞記事などを活用し、できるだけわかりやすく授業を進める。
②学生の数によって、グループワーク等も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方と授業のルールを説明し、協議の上、確認する。	授業の狙いと概要、進め方、授業のルール、評価方法等について説明し、合意形成を図る。
2	自然史過程としてのヒトの歴史と人の一生～生涯学習・社会教育およびキャリアデザインの①	動物の一生が自然史過程であるのと同様に、人間の一生も自然史の一過程であり、個人にも種にも、太陽系と地球にも誕生と死があることを理解する。
3	人の生涯と「仕事」「遊び」「意味づけ」～同上②	人間が「仕事」という時間的経過の中でのみ成就する意識的活動を始め、それによって生まれた自由な活動時間における「遊び」を行うことで、人生に「意味付け」を行うようになったこと、及び、「仕事」「遊び」の構成要素を理解する。
4	ヒトの表現と次世代育成～同上③	仕事と遊びをするために、人は様々な表現手段を発達させ、それらを知り、発展させ、次世代に伝えてきたことを理解する。
5	自立・自律のための共同体経営と伝統型生涯学習社会～同上④	互いに依存しあいながら自立・自律して生きるために、人々は組織や社会を作り出して生きてきたこと、および伝統型生涯学習社会の構造を理解する。
6	近代化と生涯学習・キャリアデザイン～生涯学習の歴史的意義①	産業革命、市民革命を基礎に生まれた近代的個人とその矛盾がキャリアデザインを切り開いてきたことを理解する。
7	近代社会における生涯学習・キャリアデザインと社会参加～同上②	近代的個人は自律・自立のみを一方向的に推進したのではなく、それを可能にする新しい社会も生み出してきたことを理解する。
8	近代社会における契約社会と非契約社会～同上③	キャリアデザインにとって、非契約関係と、それを基礎とする契約関係との両方が大事なことを理解する。
9	グローバリゼーションと生涯学習～同上④	いわゆる「グローバリゼーション」のもとで広がる国際的ネットワークと格差や商業主義との闘い、 struggle の中で、個人のキャリアも家族、事業所、地域、国家、地球のキャリアも連携しあいながら鍛えられていることを、理解する。

- 10 女性の時代におけるキャリア形成と生涯学習～現代における人の生き方・働き方と生涯学習①
人が自らの生き方に自覚的になる上で欠かせないキャリア形成と生涯学習の歴史について、「キャリア組」という男性エリートの世界から「キャリアウーマン」という職業をもつ女性へと「キャリア」「キャリアデザイン」が展開する中で、多面的なキャリアが追求されてきたことを理解する。
- 11 生涯学習・キャリア形成と男性たちのワークライフ学習バランス～同上②
1990年代を通じて雇用不安にさらされてきた男性たちも「ワークライフバランス」を求め始めてきたことを理解する。
- 12 21世紀における生涯学習・キャリアデザインの国際的展開～同上③
21世紀に至って、日本の中での努力、国際的な影響、地球環境の危機などによって、バランスのとれた人と組織と地球のキャリア形成がさまざまな人々によって担われ始め、「生涯学習」や「コンピテンシー」「グローバルな知識や技術、ネットワーク」が展開し始めたことを理解する。
- 13 「生涯学習」「生涯教育」「キャリア」「キャリアデザイン」は自分で定義する～同上④
「キャリア」と「キャリアデザイン」は論争的なので、一人ひとりが自分の定義をもつことが大事であることを理解する。そのうえで、担当教員自身の定義を紹介する。
- 14 まとめと補足
学生の質問をもとに補足説明と討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習復習

授業で紹介する参考文献を読むこと

【テキスト（教科書）】

笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局
授業に使うPPファイルを「資格課程のwebサイト」で配布する。
新聞記事等は、授業中にコピーを配る。

【参考書】

ラングラン『生涯教育入門』全日本社会教育連合会
笹川孝一編『生涯学習社会とキャリアデザイン』法政大学出版会

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への出席
 - ・授業への積極的参加
 - ・随時出されるレポートの提出とその内容
 - ・定期試験の結果
- 以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・内容をできるだけわかりやすく講義する
 - ・映像や新聞記事の活用
 - ・学生からの質問、感想への積極的な対応
 - ・テキストの内容の要約とコメントの課題は力がつくという評価が多いので、積極的に実施する
 - ・私語への厳しい対応
- 以上について、心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

ワード
パワーポイント
ビデオ、DVD

【その他の重要事項】

- ・学問共同体としての授業の充実を心がけたい。
- ・学生側の積極的参加を呼びかけたい。
- ・なお、発達・教育キャリア入門はC・D（生涯学習入門I・II）続けて履修することが望ましい。内容も一連のものとなっている。

【Outline and objectives】

Essentials and History of Lifelong Learning

BSP100MA

発達・教育キャリア入門C (生涯学習入門I)

基幹科目

朝岡 幸彦

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習は義務教育学校が成立するよりもはるかに前から、生活の場で仕事を通じて行われてきた営みである。発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門I）では、主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	生涯学習社会に生きることの意味	「知識基盤社会」と呼ばれる現代において、社会教育・生涯学習は何を期待されているのか、私たちが「生きる」ための学習の意味について考える。
第2回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令について理解するとともに、国際文書や条約の動向や特徴を学ぶ。
第3回	社会教育・生涯学習の理念と思想	社会教育から生涯学習へと展開してきた理念・思想を理解するとともに、それを支える国際的な文書や民衆の基盤について学ぶ。
第4回	社会教育・生涯学習の国際的動向	国際会議・国際ネットワークの活動に関わる基本的な文書を通して、ヨーロッパ・北米とアジアに注目して国際的動向を理解する。
第5回	社会教育・生涯学習の政策と制度	社会教育・生涯学習政策の動向を理解するとともに、社会教育法改正の意味や地方分権・規制緩和・行政改革・自治体合併などについて考える。
第6回	社会教育・生涯学習の計画づくり	住民参加による社会教育・生涯学習の計画づくりの取り組みを中心に、自治体計画づくりや教育振興基本計画づくりにおける住民参加の可能性と課題について考える。
第7回	施設と職員(1) 公民館	公民館の原点、法規、国の答申、理念、公民館計画、組織・運営、職員に関する基本的な事項を理解し、その現代的課題について考える。
第8回	施設と職員(2) 図書館・博物館	公共図書館の基本理念と図書館政策・提言、図書館経営のアウトソーシングや学校図書館・NPO 図書館、読書ボランティア活動とともに、博物館の理念と制度、その多様な形について考える。
第9回	施設と職員(3) コミュニティセンター	生涯学習センターや生涯学習・コミュニティ施設のネットワーク化の現状を理解するとともに、施設の運営や職員をめぐる状況について学ぶ。
第10回	施設と職員(4) スポーツ・文化施設	スポーツ施設に関わる法と政策を踏まえてスポーツ施設の現状と多様化について理解するとともに、文化施設の現状と課題を指定管理者制度との関連を中心に学ぶ。
第11回	職業能力開発・職業訓練	職業能力開発・職業訓練関連の国際規定及び法令について理解するとともに、その現状と課題を規制緩和と政策との関連で考える。

第12回	施設の管理運営と住民参加	社会教育・生涯学習施設の管理運営と住民参加の可能性について、指定管理者制度、自治体における施設再編、事業評価などの視点から考える。
第13回	学びの場と方法	生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育の関連について、子育てネットワーク運動、学校支援・学社連携の事例から考える。
第14回	グローバリゼーションと市民教育	グローバリゼーションのもとで新たな役割を期待されている社会教育・生涯学習のあり方を市民教育の視点から考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。

【テキスト（教科書）】

鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社 2018年

【参考書】

社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第9版』エイデル研究所 2017年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（ワークシートを含む）80 %
平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の資料を Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。授業中に学生自身が接続する必要はありません。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline and objectives】

Lifelong learning has been carried on through our work in life, which has existed long before school education has started. In this class, participants will learn the essence and significance of lifelong learning and social education. Also, we will learn the institutional development of lifelong learning and will deepen understanding of basics in home education, school education and social education.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門C（生涯学習入門I） 基幹科目

文 孝淑

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講する学生が、ダイバーシティ社会における「発達・教育キャリア」とは何かを、これまでの社会教育・生涯学習の歴史や実践活動から考察する。そのうえ、「異文化・異民族間＜共同交流学习＞」の視点で「異なる」者同士によって行われている学習・実践の場で生じる様々な問題を克服するため、コミュニティ（「世間」）における人間関係からおとなの「発達」や「教育キャリア」を見つげ出す。

【到達目標】

- ・ 学生が授業の中で、人々のライフステージをマネジメントするための「教育キャリア」をどのように考え、アップさせていく方法を探しだす。
- ・ 専門職員として、実践現場での事業の企画や実施に当たり、「基本的人権」「学習権」意識を持ち続けることの重要性を確認する。

そのうえ、高齢者、障害者、及び外国籍住民などが異文化間の「共同交流学习」を通じ、コンフリクトを乗り越え、一人ひとりが地域で自立して生きる「力」を身につけていける新たな学習・実践活動を示す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

生涯学習の基礎知識（歴史や法制度・政策の変遷、理論など）並びに、実践活動を時系列に整理し、共有する。それによって、地域で行われている生涯学習活動の現状を知り、「発達」や「教育キャリア」を妨げている課題の解決するために、各テーマに沿った講義の後、グループに分かれ、講義で行われたテーマから一つ選んで、議論し合い、まとめ、全体的に質疑討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	受講生の把握のためのアンケート取りと授業のモチベーション	生涯学習に関する基礎的な設問と考え方、地域活動の経験、関心事などを把握する。
第 2 回	ダイバーシティ社会における「発達・教育キャリア」（生涯学習）について	1 回目のアンケートの回答、学習内容と実践活動の振り返り、そのあり方を考える。
第 3 回	制度変遷の歴史的考察	生涯学習の制度・施設のふり取り及び、実践現場で生じる問題の克服について考える。
第 4 回	動向、現状について	生涯学習論の動向と現状について、資料や事例を取り上げ、批判的考察を行う。
第 5 回	地域づくりに関わる専門職員	専門職員として関わる学習・実践活動の事例を取り上げ、現場での役割を考える。
第 6 回	外国との比較	他国の社会教育の諸相との比較を行い、日本の生涯学習の独自性、課題などを考える。
第 7 回	現状把握と課題設定	各々が社会教育職員の視点から今の社会教育施設で行っている実践活動に関わるテーマを考え、決める。
第 8 回	グループ分け	メンバーが各自のテーマを出し合い、話し合っていくテーマを決める。
第 9 回	グループワークへの助言	各グループごとに決めたテーマについて話し合いを重ねていく。テーマに関わる内容について講義をも行う。
第 10 回	グループワーク① グループ分けとテーマ決定	グループワーク。各グループで決めたテーマについて話し合い。
第 11 回	グループワーク② 下調べ資料の共有	話し合い。新たに出た課題を次回のために各自が分担して持ち帰る。
第 12 回	グループワーク③ まとめの準備作業	前回の課題を踏まえて、まとめ作業にむけて話し合う。
第 13 回	グループワーク④ 発表のためのまとめ作業	各グループで話し合ってきた内容をまとめ、発表し、質疑討論する。
第 14 回	プレゼンテーションとふり取り	各グループで話し合ってきた内容をまとめ、発表し、質疑討論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生が地元の生涯学習活動を把握し、一つの実践活動の現場に出かけ、行われている取り組みや現状を確認し、報告を行う。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストは用いず、毎回テーマに沿ったレジュメと、講義内容に関わる記事や各地の取り組みの活動記録、記事、映像などを用いる。

【参考書】

講義内容にかかわる参考図書・資料などは毎回の授業で紹介する。
そのほかに、文部科学省・内閣府・厚労省などの『白書』（毎年度）及び、『月刊社会教育』国土社（毎月）、『東京 23 区社会教育』や『公民館年報』を参考にする。その他に、『異文化間教育』異文化間教育学会編、香川正弘外 2 人編『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房、2008。社会教育全国推進協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所。大槻宏樹 編著『21 世紀の生涯学習関係職員の展望－養成・任採用・研修の総合的研究－』多賀出版、2002.2。小林文人・佐藤一子編著『世界の社会教育施設と公民館』エイデル研究所、など。

【成績評価の方法と基準】

小テストと、グループワーク、質疑や意見交換、発表などをもって総合的に採点する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の振り返りシートでの学生の意見・感想について私からコメントを入れ、次の授業で受講者全員にフィードバックすることに、学生たちも望むので、今年度も続けたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

講義内容の進み具合やグループワークについては、受講生の学年や人数などを考慮したうえで、変更する場合がある。

【Outline and objectives】

At this point in time, when lifelong education is under management, in-depth consideration of the history of lifelong education will be followed by the consideration of ways to develop the < education career > .

BSP100MA

発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）

基幹科目

笹川 孝一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン時代のリテラシーと生涯学習・生涯学習社会について考える「学習」は良いものとして「生涯学習の時代」が語られることも多いが、「学習」に必須なコトバ、文字、多様な表現は、実体とは異なるものなので、それを無批判に扱うと、かえって認識を誤ることも多い。
そこでこの授業では、学習のパラドックスが生まれる原因である、言葉、文字、表現の矛盾に立ち入りながら、幸せに繋がる学習の仕方について、文字・記号、能力・個性論に踏み込んで解説する。そして、幸せに繋がる学習の技法について検討する。
さらに、社会教育、生涯教育、キャリアデザインの異同を踏まえ、国際化を視野に入れた生涯学習社会を展望する。

【到達目標】

- 1) 「リテラシー」と「学力」「能力」を育む **struggle** としての「生涯学習」と「生涯教育」について、「社会教育」と「社会的教育」について学ぶ。
 - 2) 「生涯学習」における「学校」「公民館」「博物館」「図書館」「企業研修」等の施設の役割や「ワークショップ」などのプログラム、教材作成や他の施設との連携等について学ぶ。
 - 3) 「生涯学習」にかかわる地方自治体や国、企業や NPO などの社会的な仕組みや権利、国際協力、国連やユネスコ、EU や東アジア共同体の役割を学ぶ。
 - 4) 生涯学習に関わる法政大学の伝統を理解し、法政大学出身の生涯学習指導者としての誇りを身につける。
- また、次の点についても、重視して、授業を進める。
①理論と実際、②学習内容・方法・形態、③支援と評価、④「家庭教育」「学校教育」「社会教育」の連携、⑤生涯学習振興施策の立案と推進、⑥「社会教育行政」と一般行政の役割と連携、⑦地方自治体の機能や役割と生涯学習関連法規、⑧学習施設や職員、⑨多様な指導者の役割と連携について、⑩日本人的特徴の形成と普遍性について、国際的ネットワークを視野に入れて考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①できるだけ映像や新聞記事などを活用し、できるだけわかりやすく授業を進める。
- ②学生の数によって、グループワーク等も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生涯学習の理論と実際の歴史的な展開と到達点	伝統的な生涯学習、「家庭教育」「学校教育」「社会教育」の分離、統合装置としての現代型生涯学習について、理論的展開と実践的展開の相互関連を視野に入れながら理解する。
2	人格危機の諸相と自己イメージのずれ	人は自分自身の「自己イメージ」によって、自分をコントロールしていること、「自己イメージ」と現実とのずれが、成長や心理的抑うつ状態、「不登校」「出社拒否」などの原因となっていることを理解する。
3	自己イメージの修正と生涯学習の機能～同上②	自己イメージと実際の自分とのズレの修正作業は、自分と世界についての認識を生徒にわたって再生産していく「生涯学習」の過程であること、またその中核概念としての「自己教育」「相互教育」について理解する。
4	学習のパラドックスと「学習」「学問」「学力」「能力」	「学習」は常に善とは限らず、「学習」によって人は元気にもなり、病気にもなること、「問」＝チェック抜き「学習」は運転台のない電車のような危うさをもつこと、リテラシーと「学習のパラドックス」について理解する。
5	「格物致知窮理」サイクルと「PDCA サイクル」	学問の基礎が生活・実践にあること、文字記号習得は詰め込みが基礎であること、「格物致知窮理」サイクルと「PDCA サイクル」のメリット・デメリットを理解する。

6 「創造性」「コアコンピテンシ」「個人・地域リテラシー」を育む学習内容と方法～同上③

7 学習プログラム編成と学習成果・学習過程の評価および相談

8 生涯学習における、家庭・地域・学校・企業の連携

9 「教育の原理」と「生涯学習」「生涯教育」「社会教育」「成人教育」の日本の特性

10 現代型生涯学習社会をめざす生涯学習振興政策・施策の立案と推進

11 生涯学習に関わる法体系と地方自治体での制度と運用

12 社会教育・生涯学習行政と生涯学習の施設の経営と連携

13 生涯学習の指導者の役割・連携・研修

14 国際社会・アジア太平洋地域での生涯学習ネットワーク

一般知と経験知、一般的文字記号と経験に基づく文字記号、一般的イメージと個人化・地域化されたイメージとの突き合わせによる「学問」「知識」の創造・発展と「コアコンピテンシ」「教養」形成とその機能を、とくに創造性に焦点を当てて理解する。そして、「リテラシー」の習得・活用の世界について、①「健康」をキーワードとする学習内容、②「自分史」や課題発見・解決学習、時間＝歴史学習、空間＝地理学習、時代のキーワード学習などの学習方法の各側面から考察する。
①「学習欲求」「学習必要」「学習要求」と「学習必要自覚化」を重視した、個性的・特色のある学習プログラム編成の実際と、②学習成果・学習過程についての自己評価・相互評価と学習相談の実際等を理解する。
家庭、地域、学校、企業社会の連携による、「コアコンピテンシ」「教養」「ローカルな知とアートの世界」を軸とした、「家庭文化」「地域文化」「学校文化」「企業文化」の世界。その継承・発展とそのための、人の内面・外面にわたる実践過程＝ **struggle** の実際を理解する。
「学習の共有と方向付け」としての「教育の原理」と、「成人の学習・自己教育」を中核とする統合の原理としての「生涯学習」「生涯教育」「社会教育」について、日本における意義・発展・特質を理解する。その際、ヨーロッパ、アメリカ、東アジアを視野に入れる。
現代型の生涯学習社会を目指す、新たな生涯学習振興政策の政策・施策の意義と、地方自治体等の現場で施策、プログラムを立案・実施・推進することの具体的な状況について、広義の「キャリア教育」も視野に入れて理解する。
国際人権規約や日本国憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法、博物館法等の現代的教育法体系について、ユネスコ学習権宣言などの国際的な動向を視野に入れて理解するとともに、地方自治体の行財政制度について理解する。
生涯教育は、社会のあらゆるところで行われており、文部科学省や教育委員会がそれらのジャンクションとなることを期待されていること、それらの基本構造が共通していることをラムサール条約や生物多様性条約の CEPA に即して理解する。
社会教育主事、図書館司書、博物館学芸員など文科省・教育委員会管轄の職員と他の省庁が管轄する施設等の職員の役割と連携、地域において民間の立場から生涯教育をリードしている指導者たちの役割や研修等について、理解する。
歴史的な「中華帝国世界」と「欧米列強」との衝突の中で生まれた《大日本帝国》《大東亜共栄圏》の解体後の今日、国際的な企業間競争とナショナリズム、日本とアメリカとの非対称的な関係を踏まえ、今後の太平洋・アジア地域における生涯学習を軸とする連携のための国際戦略と人材育成の方向性を、実際の事例にそくして検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・復習を行うこと
日頃より、関連事項について、新聞記事等に注目する習慣をつけること。

【テキスト（教科書）】

笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局
新聞記事等は、授業中にコピーを配る。

【参考書】

ラングラン『生涯教育入門』全日本社会教育連合会

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への出席・参加（15 %）
 - ・授業への積極的な貢献度（15 %）
 - ・随時出されるレポートの内容（15 %）
 - ・定期試験の結果（55 %）
- 以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・内容をできるだけわかりやすく講義する
- ・グループワークの活用

- ・映像や新聞記事の活用
 - ・テキスト内容の要約とコメントの課題は、力がつくという評価が多いので積極的に活用する
 - ・私語への厳しい対応
- 以上について、心がけたい。

【その他の重要事項】

- ・学問共同体としての授業の充実を心がけたい。
- ・学生側の積極的参加を呼びかけたい。

【Outline and objectives】

Literacy and Competency in the Time of Career Design

BSP100MA

発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）

朝岡 幸彦

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）では、主に日本における社会教育・生涯学習の歴史的展開を踏まえて、具体的に実施されてきた学習の内容と方法・形態について人間のライフサイクルや社会階層に応じた学習課題の展開・方法・形態について理解を深め、社会教育・生涯学習論の深まりについて考察する。

【到達目標】

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人が「学ぶ」ことの意味	ヒトから人へと進化・発達する歴史と営みを、「学ぶ」という行為の意味から考察する。
第 2 回	戦後日本社会教育の出発①	戦後民主主義の形成期における社会教育民主化政策の展開を学ぶ。
第 3 回	戦後日本社会教育の出発②	公民館の提唱と初期公民館活動の展開、教育基本法・社会教育法の制定から戦後社会教育理念の形成の特徴を学ぶ。
第 4 回	学習運動と社会教育政策の転換①	社会教育政策の転換による高度経済成長の準備過程を、青年学級振興法の制定と社会教育法「大改正」の流れを中心に学ぶ。
第 5 回	学習運動と社会教育政策の転換②	自主的な学習運動の展開過程を中心に、沖縄県の動向や「公民館法」制定運動、民間社会教育ネットワークの形成などについて学ぶ。
第 6 回	高度経済成長下の住民運動と社会教育実践①	高度経済成長政策のもとの地域社会の変容と青年・女性による教育文化運動の発展について学ぶ。
第 7 回	高度経済成長下の住民運動と社会教育実践②	地域課題と向き合う住民の学習運動を、信濃生産大学、地域開発学習、公害学習、自治公民館運動、同和教育講座などの事例を通して学ぶ。
第 8 回	「権利としての社会教育」の広がり①	低成長時代の社会教育政策と自治体の動向を踏まえて、「権利としての社会教育」論の広がりについて学ぶ。
第 9 回	「権利としての社会教育」の広がり②	主体性を重視する社会教育実践の広がり、学習機会の保障、主体性を育む実践、社会問題に接近する学習、地域サークルの育成などの視点から学ぶ。
第 10 回	産業構造転換と新たな実践の展開①	急激な社会変動と教育政策の動向を踏まえて、新たな市民運動の広がり地域教育運動について学ぶ。
第 11 回	産業構造転換と新たな実践の展開②	1980 年代の社会教育実践の展開を、生活と環境をめぐる問題への取り組み、地域づくりと文化創造の実践、公的条件整備などの視点から学ぶ。
第 12 回	生涯学習政策と社会教育運動	21 世紀戦略と生涯学習政策の動向を踏まえて、1990 年代の新たな社会教育運動について学ぶ。
第 13 回	構造改革と教育基本法改正	生涯学習政策と社会教育行政の再編を踏まえて、多様な社会教育実践の広がりについて学ぶ。
第 14 回	社会教育・生涯学習の未来	日本の社会教育・生涯学習の歴史と現状から、生涯学習社会における社会教育・生涯学習の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの購読。

授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。

【テキスト（教科書）】

鈴木敏正・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習論』学文社 2018 年

【参考書】

千野陽一監修、社会教育推進全国協議会編『現代日本の社会教育 増補版』エイデル研究所 2015 年

【成績評価の方法と基準】

テキストを中心に課題レポート（ワークシートを含む）80 %
平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業で紹介した資料は Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。授業中に学生自身が接続する必要はありません。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

テキストと授業の教材を読むこと。

【Outline and objectives】

Based on the historical development of Japanese social education and lifelong learning, this class will focus specifically on the transition of learning methodology and form.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門D（生涯学習入門Ⅱ）

文 孝淑

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、自治体や団体などで専門職員として、事業の企画、実施及び住民活動などをマネジメントする能力と、実践活動同士のつながり（ネットワークづくり）を再構築する方法を考えていくことに主眼を置く。

【到達目標】

①「発達・教育キャリア」の視点から大人の学習と実践活動のあり方、活動メンバー同士や「館」の職員との人間関係を考察する。

② 地域住民が「同質な生活者」から多様な価値観・文化・ライフスタイルを所有者へと変わりつつあること、高齢者や障害者、留学生を含む外国籍住民などに対する自治体の様々な施策やボランティア活動の現状を知ったうえ、彼らの「自立力」人生設計の「選択力」のアップ、地域での「出番」づくりを考えていく。

③ 外国籍住民向けの学習内容やボランティア活動のマンネリ化傾向を解消するための「異なる」視点からの学習内容プログラム作りを考えていく。

④ 「館」や「あるべき」姿（在り方）に縛られるのではなく、時代に相応する地域課題解決に取り組む社会教育専門職員のマネジメント能力と住民活動を考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に春学期と同じく、テーマごと講義内容で進めていく。特に、地域の生涯学習の現場で働く専門職員の立場にたって、テーマ別の講義を基にして、小グループで議論し合い、まとめて行く時間を設けていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義初エンゲージ	講義の進め方、夏休み中に参加した活動を話し合い、情報を共有し合う。
第 2 回	発達・教育キャリアと外国籍住民の学習①	住民活動、ネットワークづくりの重要性、ボランティア活動について取り上げる。
第 3 回	ダイバーシティ社会と地域国際化②	地域の国際化がもたらす地域社会の変容、ボランティア活動の意義・課題について考察。
第 4 回	異文化・異民族間交流共同学習③	異なる文化・能力・世代間が行う学習、実践活動のシステム、現状の考察。
第 5 回	議論し合う④	地域の国際化と外国人住民にかかわるトピックを取り上げ、グループごとに話し合う。
第 6 回	意見のまとめ	第 5 回で議論したものをまとめて提出する。
第 7 回	発達・教育キャリアと高齢社会①	孤居や介護など高齢社会が抱えている現状を把握し、世代間を越えた実践活動を考える。
第 8 回	高齢者学習について②	社会教育における高齢者学習の取り組みとあり方について。
第 9 回	議論し合う③	少子・高齢化にかかわるトピックを取り上げ、グループごとに話し合う。
第 10 回	意見のまとめ④	第 9 回で話し合った内容をまとめ、提出する。
第 11 回	発達・教育キャリアと障害者①	能力の違いによって疎外されがちな障害者の現状と社会教育の役割などを考察する。
第 12 回	障害者と実践（喫茶実践）活動②	障害者の社会的自立を促す取り組みでいる喫茶実践を検討し、現状に合った活動の方向性を見つける。
第 13 回	議論し合う③	障害者と実践活動にかかわるトピックを取り上げ、グループごとに話し合う。
第 14 回	ふり返りとダイバーシティ社会実現のための提案	話し合ってきた内容をまとめ、それぞれの提案をまとめ、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生たちが社会教育施設、NPO 団体などの活動「現場」を自分の目で確かめ、現状を知ることが大切だと思うため、必ず一ヶ所の実践現場に出かける。そのほかに、外国で教育を受けた経験のある学生には、現地の様子について発表してもらい、情報を共有し合えるようにする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストはなく、毎回のレジュメ、資料・映像（各地で行われている取り組み、講義内容に関連のあるもの）などを使用する。

【参考書】

毎回の講義の中で参考図書・資料などを紹介していくが、主な参考図書は以下である。

『月刊社会教育』編集部 編 『月刊社会教育』国土社、毎月発行、文部科学省 編 『平成28年度 教育白書』文部科学省／厚生労働省及び内閣府の白書を参照。 社会教育推進全国協議会 編 『新社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所。小林文人・佐藤一子 編著 『世界の社会教育施設と公民館－草の根の参加と学び』エイデル研究所。大槻宏樹 編著 『21世紀の生涯学習関係職員の展望－養成・任採用。研修の総合的研究』多賀出版、2002年2月など。

【成績評価の方法と基準】

授業後の振り返りへの積極的な意見、授業態度などの平常点と、活動現場見学・積極的な参加度、期末のレポートなどをもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義に対する受講生の振り返りに対しコメントを出して、次の授業で取り上げ、受講者が共有できていることが好評なので、今年度にも続けて行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

地域社会における住民の学習活動・実践活動にかかわることをお勧めする。受講者の学年などから、シラバスに計画した講義内容や扱うテーマの順序が変わる可能性もある。

【Outline and objectives】

Based on the individuals' lifestyle, independent or personalised learning activities will be planned and practiced. The communication network between the participants of the learning activities will be formed which will enhance the outcome of the learning activities. Furthermore, this communication network formed will help to find the no-hows to contribute to the local welfare.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門A

基幹科目

妹尾 渉

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「一国の経済活動」について、マクロ経済学の理論に基づいて理解する。まず最初に、一国の経済活動を測るための指標（GDP、物価、失業率）について学ぶ。次に、それらが、消費・投資活動、財・サービス市場、労働市場、金融（資金）市場、貿易、政府の介入、などを通じて決定される仕組みについて学ぶ。最後に、最近の世界経済、日本経済が直面している課題について考える。

【到達目標】

①一国の経済活動について、マクロ経済学の理論に基づいて理解できること。②①で学んだ理論を通して、日本経済の現状についての解説ができること。③①②の作業を通して、社会科学の思考法（仮説の立案 → データ・実例による仮説検証 → 仮説の再考）を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指定するテキストに沿って授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学とは
2	科学としてのマクロ経済学	経済学者はどのように考えるか
3	マクロ経済学のデータ（1）	国内総生産の測定
4	マクロ経済学のデータ（2）	物価、失業の測定
5	長期の経済（1）：国民所得	財・サービスの総生産 国民所得の分配
6	長期の経済（2）：国民所得	財・サービス市場の均衡 金融市場の均衡
7	貨幣システム	貨幣とはなにか
8	インフレーション	原因と影響と社会的コスト
9	開放経済（1）	資本と財の国際的な流れ 小国開放経済の貯蓄と投資 為替レート
10	開放経済（2）	景気循環に関する事実
11	短期の経済（1）：	マクロ経済学における時間的視野
12	短期の経済（2）：	総需要 総供給
13	総需要Ⅰ	IS-LM モデルの構築
14	総需要Ⅱ	IS-LM モデルの応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習と復習

【テキスト（教科書）】

マンキュー（2017）『マクロ経済学Ⅰ入門編（第4版）』東洋経済新報社

【参考書】

講義を通して適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

期末テストで評価

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・ペーパーの導入

【Outline and objectives】

Understand "economic activities of one country" based on the theory of macroeconomics. First of all, we learn about indices (GDP, price, unemployment rate) to measure the economic activity of a country. Next, we learn about the mechanisms that are determined through consumption and investment activities, goods and services markets, labor markets, financial markets, trade, government intervention, Finally, we think about the recent world economy.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門B

基幹科目

湯川 志保

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ミクロ経済学の基礎について学んでもらいます。講義で扱う主な内容は、市場メカニズムの基礎、個人や企業の行動に関する理論になります。

【到達目標】

履修学生が、ミクロ経済学の基本概念と考え方を習得し、応用科目を学ぶために必要な基礎力をつける。

履修学生が、経済学的な考え方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義を行います。この講義では、簡単な数学と図やグラフを用いて説明を行います。スライドは、講義で配布します。受講者の理解度を確認する小テストやレポートを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義概要について説明します。
第 2 回	経済学の 10 大原理	経済学を学ぶ上で重要な 10 の原理について概観します。
第 3 回	経済学者らしく考える	経済学の考え方について概観します。
第 4 回	相互依存と交易（貿易）からの利益 (1)	絶対優位について説明します。
第 5 回	相互依存と交易（貿易）からの利益 (2)	比較優位の原理について説明します。
第 6 回	市場における需要と供給の作用 (1)	消費者の行動原理について説明を行います。また、財の需要量と価格の関係を表す需要曲線を導出します。
第 7 回	市場における需要と供給の作用 (2)	生産者の行動原理について説明を行います。また、財の供給量と価格の関係を表す供給曲線を導出します。
第 8 回	市場における需要と供給の作用 (3)	需要曲線と供給曲線を用いて、市場の均衡がどのように成立するかについて解説します。
第 9 回	消費者、生産者、市場の効率性 (1)	消費者余剰と生産者余剰について解説します。
第 10 回	消費者、生産者、市場の効率性 (2)	余剰の概念を用いて、市場の効率性について解説します。
第 11 回	市場の失敗 (1)	市場の失敗とはなにか、またその原因（外部性）について説明します。
第 12 回	市場の失敗 (2)	市場の失敗とはなにか、またその原因（公共財）について説明します。
第 13 回	まとめ (1)	まとめ
第 14 回	まとめ (2)	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドと講義ノートを見直し、要点をノート等にまとめる。
教科書の該当箇所を復習する。

【テキスト（教科書）】

N. グレゴリー マンキュー 〔著〕足立ほか 〔訳〕『マンキュー経済学Ⅰミクロ編 東洋経済新報社（第 3 版）』東洋経済新報社

【参考書】

N. グレゴリー マンキュー 〔著〕足立ほか 〔訳〕『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社
ジョセフ・E・スティグリッツ／カール・E・ウォルシュ 〔著〕戴下ほか 〔訳〕『スティグリッツ ミクロ経済学（第 4 版）』東洋経済新報社
柳川隆・町野和夫・吉野一郎『ミクロ経済学・入門 ビジネスと政策を読み解く』有斐閣アルマ
吉本 佳生 〔著〕『出社が楽しい経済学』日本放送出版協会

【成績評価の方法と基準】

原則、定期試験で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の最初の時間を使って、前回の復習を行うことで学生の講義内容への理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学を初めて学ぶ人にもわかりやすい説明を心がけますので、積極的に講義に参加してください。わからないことがあれば、遠慮なく質問して下さい。

受講者の状況をみて、授業内容を変更する場合もあります。

【Outline and objectives】

In this class, you will study introductory micro economics. Also, main topics of this class are market mechanism, theory of the household behavior and theory of the firm behavior.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門C

基幹科目

中野 貴之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ビジネスキャリア入門として、とくに経営学の基礎を学んでいきます。ビジネスが行われる場は、「株式会社」といわれる組織です。この講義では、株式会社の仕組みについて歴史を踏まえながら平易に講義します。

【到達目標】

株式会社をはじめ企業に関する基礎知識、経営学のうちの経営組織論、また現代の労働環境についての基礎を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	経営学とは何か	経営学の体系を学びます。
3	企業分析の基礎 (1)	企業の業績管理の技術である、「簿記」の基礎を学びます。
4	企業分析の基礎 (2)	上場企業の財務諸表（A 社）を用いて企業分析を行います。
5	企業分析の基礎 (3)	上場企業の財務諸表（B 社）を用いて企業分析を行います。
6	企業分析の基礎 (4)	上場企業の財務諸表（C 社）の企業分析を行い、レポートを提出します。
7	マイクロ組織論 (1)	マイクロ組織論の目的と体系を学びます。
8	マイクロ組織論 (2)	「個人行動」の理論を学びます。
9	マイクロ組織論 (3)	前回に続いて「個人行動」の理論、さらに「集団行動」の理論を学びます。
10	マイクロ組織論 (4)	前回に続いて、「集団行動」の理論を学びます。
11	マクロ組織論 (1)	マクロ組織論の目的と体系を学びます。
12	マクロ組織論 (2)	組織構造の基本要素について学びます。
13	マクロ組織論 (3)	組織形態（事業部制組織、機能別組織、マトリクス組織）について学びます。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事を読むなど、企業をめぐる動向に関心をもってください。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験と平常点（リアクション・ペーパー等）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

良いレポートをより積極的に紹介して、受講者のレポート作成に役立つ情報を提供します。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will learn the basics of business science, especially as an introduction to business career. The place where business is done is an organization called "corporation". In this lecture, we will give a lecture on the structure of the company with ease as it takes history.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門D

基幹科目

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業が継続的に生存して活動が続いていくためには、市場で様々な競争にさらされ、生き残っていくあるいは成長していく必要があります。企業がどのように考え、どのように行動するかを理解することは、私たちが社会に出て、さらに企業のなかで働いていくうえで大変重要なことです。本講義では、ビジネス社会での働き方、生き方を考えるために必要となる、企業の戦略が活動を理解するための初歩的な知識を学びます。

【到達目標】

本講義は、経営学（特に経営戦略）を理解する上で必要となる基礎的知識を獲得することを目的とします。経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析する視点を持ってもらうことを目指します。受講者が①経営戦略に関する基本的な用語を説明できること②経営戦略に関する一般的な知識を習得し、企業の行動を理解し説明できること③企業行動、業界構造など実際の現象や出来事を理論と結びつけながら理解できることの3点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めますが、受講者自身が何らかのワークを行うことがあります。受講者には経営学（とくに経営戦略）の知識がないことを前提として、14回の講義で大まかな経営戦略論の輪郭がわかるように進めます。講義の連続性はあまり重視せず、毎回、あるいは2回程度でのテーマ完結型で話を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経営戦略とは何か	経営戦略とはどのようなことをいうのかを説明します。
2	ドメインの定義	企業が事業活動をおこなうにあたって、何を事業として展開していくべきかを考えます。
3	経営環境分析	経営環境の分析手法について学びます。
4	経営資源とは何か	人、モノ、金、情報といった企業が経営していくうえで必要となる資源の説明を行います。
5	環境分析と経営資源	強み弱み、機会と脅威を考慮した戦略分析手法である SWOT 分析について説明します。
6	経営資源の展開	どのような状況のときにどのような経営資源が重要となるかなどを考えます。
7	経営資源の展開（応用）	プロダクトポートフォリオについて説明します。
8	企業業績の決定要因（1）	企業の努力だけで利益が決まるのか？それだけではないのか？という問題を考えます。
9	企業業績の決定要因（2）	5フォースによる産業の競争構造について説明します。
10	製品ライフサイクル	ライフサイクルの視点で戦略を考えてみます。
11	製品ライフサイクル（2）	ステージ毎の戦略の違いを説明します。
12	企業の成長戦略	企業を成長させるための方法について検討します。
13	市場地位別にみた戦略の違い（1）	市場における立場によって有効な戦略は違うのかどうかを考えます。競争におけるシェアの重要性とリーダーの戦略について説明します。
14	市場地位別にみた戦略の違い（2）	チャレンジャー、ニッチャーの戦略について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。企業がどのような活動をしているのか、企業が競争をするとはどういうことなのか？新しい製品はどのような意図をもって発売されているのか？など、身近なところから、物事を深く考える練習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特に指示はしません。ただし下記で指示した参考書に沿った内容で授業を進めます。

【参考書】

沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版 (有斐閣アルマ)』2008、有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①経営戦略に関する一般的知識、基本的用語を説明できるか、②企業の行動を十分理解し説明することができるか、③経営における経営戦略の役割を理解し、現実の企業を巡る現象を経営戦略理論に関連付けて説明することができるかを試験によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムへの講義資料のアップロードを事前に行います。学生の理解度を勘案しながら講義スピードを調整します。質問に関してはコメントシートを使用して、授業支援システム上で回答するとともに、毎回授業の最初 30 分間を使って口頭で解説します。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに授業支援システムを使用します。

授業はプロジェクトを使用します。

【Outline and objectives】

Companies face various competition in the market. And in the competition companies are required to survive and grow. Therefore, understanding how companies think and how to behave is very important for us to go into society and work in companies.

In this lecture, you will learn the elementary knowledge to understand the company's strategy or activity, which is necessary to think about how to work in the business society and how to live.

BSP100MA

ライフキャリア入門A

基幹科目

田中 研之輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生 100 年時代におけるライフキャリア論について、特に、コミュニティとキャリアの視点から理解を深める。毎週、現代社会におけるコミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げ理論的蓄積と適宜検証作業を行う。＊理論的蓄積としてはプロティアンキャリア論の基礎枠組みを把握する。

【到達目標】

- ①ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する理論的理解と具体的事例の洞察的分析を行う能力を養うことができる。
- ②自身のライフキャリアプランを、社会動向の変化の中で考えることができる。
- ③少人数でのグループワーク時に、理論的見解を自分の言葉で述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する基礎理論を把握し、現代社会におけるコミュニティの多様性・多層性を分析する視点を養う。毎週、コミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げて理論的蓄積と適宜検証作業を行う。
＊コミュニティとキャリアに関する外部講師を招聘し、特別講演会を開催することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義のガイダンス：ライフキャリア論の射程	ライフキャリア論の学問的特性を学ぶ
2	人生 100 年時代のライフキャリア：プロティアン・キャリアの基礎	人生 100 年時代のライフキャリアについて、プロティアン・キャリア論の基礎に分析視座を学ぶ
3	人生 100 年時代のライフキャリア：大学の学び	人生 100 年時代のライフキャリアについて、特に大学での学びについて考える
4	人生 100 年時代のライフキャリア：大学の＜外＞の学び	人生 100 年時代のライフキャリアについて、特に大学の＜外＞の学びについて考える
5	人生 100 年時代のライフキャリア：大学から社会へ	人生 100 年時代のライフキャリアについて、大学から社会への移行について理解を深める
6	人生 100 年時代のライフキャリア：コミュニティの多様性	人生 100 年時代のコミュニティの多様性を確認する
7	人生 100 年時代のライフキャリア：デジタル・コミュニティの現在	人生 100 年時代のライフキャリアについて、デジタル・コミュニティの理解を深め、社会問題を分析する
8	人生 100 年時代のライフキャリア：野宿生活とコミュニティ	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、野宿者コミュニティを学ぶ
9	人生 100 年時代のライフキャリア：福祉・介護コミュニティ	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、福祉・介護コミュニティについて考える
10	人生 100 年時代のライフキャリア：災害とコミュニティ ボランティアの可能性	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、災害とコミュニティ・ボランティアについて学ぶ
11	人生 100 年時代のライフキャリア：若年層のストリート・コミュニティ	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、若者のストリートコミュニティについて学ぶ
12	人生 100 年時代のライフキャリア理論：プロティアンキャリアの射程	人生 100 年時代のライフキャリア理論のなかで、各事例を読みとく、プロティアン・キャリアの視点を習得する
13	人生 100 年時代のライフキャリア戦略：キャリア資本論	人生 100 年時代のライフキャリア戦略についてキャリア資本論を学ぶ
14	人生 100 年時代のライフキャリア：コミュニティとキャリア	人生 100 年時代のライフキャリアの視点からコミュニティとキャリアの現代的洞察を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義のポイントを確認しておく

【テキスト（教科書）】

田中研之輔『先生は教えてくれない大学のトリセツ』（2017 ちくまプリマー新書）

【参考書】

田中研之輔『先生は教えてくれない就活のトリセツ』（2018 ちくまプリマー新書）

【成績評価の方法と基準】

- ① 授業時の感想メモと出席状況。
- ② 期末レポート、もしくは、期末試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

双方型教育にむけて、積極的にソーシャルメディアを授業支援に活用していく。

【その他の重要事項】

例年、大人数での受講となりますが、受講者の意見や見識をいかしていけるように可能な限りアクティブラーニング形式をとっていきます。本講義での問いかけに、「正解」はありません。自分の考えを伝える機会として積極的に参加してください。

【Outline and objectives】

Life Career (community) is a course designed to assist students with the lifelong process of career development. Students will participate in a variety of experiences as a group and individually. This coursework is designed to help students identify and examine their interests, personality, values, self-esteem, critical thinking skills and to use this increased self-awareness to make decisions about majors and careers. This course will emphasize that making an occupational career choice and life planning is a never-ending process subject to and affected by one's personal maturity and environmental changes.

BSP100MA

ライフキャリア入門B

基幹科目

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活におけるキャリアについて。とりわけ家族生活と関係した夫婦や親子の関係性に関するキャリアを扱う。夫婦になる前の男女の関係性や経験も視野に入れる。それらが、時代背景や社会文化背景のなかからいかに個人のキャリアの形成と関係しているかを学ぶ。

【到達目標】

履修前までに意識したことのなかった側面を含めて、家族生活に関わるキャリアを考えることができるようになることを目標とする。職業や業績達成だけでなく部分において、家族やパートナーとの関係においても、自己の将来について考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に、10 代後半から 20～30 代ぐらいの年齢段階を、授業で扱う対象とする。履修者にとっての現在のステージや近未来的なライフキャリアに注目することで、より現実的・実践的・当事者的な内容になると考えられる。各回においては、PPT を用いた講義や事例紹介と、それに対しての履修者の発言やリアクションペーパーによって進められる。また、必要に応じて映像資料等も利用する。くわえて、私自身の実施した学生調査の結果なども含め、具体的なデータも示し、そうすることで同時期に生活する人たちが実際にどう考え、行動しているか（してきたか）をより実感してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	交際と結婚①	交際の現状、時代の変遷
3	交際と結婚②	交際と結婚の違いに関する意識、国際比較、男女差等
4	結婚生活①	意識や現状に関する統計・事例
5	結婚生活②	かつてと現在、近代家族
6	結婚生活③	夫婦の生活、働くということ、国際比較等
7	実家との関係①	量的・質的側面、同居・隣居・近居・遠居
8	実家との関係②	嫁姑、自立、親離れ／子離れ、昨今の親役割
9	妊娠・出産①	妊娠生活、その現状
10	妊娠・出産②	里帰り出産、立ち会い出産
11	妊娠・出産③	男性の役割
12	浮気	現状、意識、別居、影響等
13	婚前の男女関係	でき婚、その影響等
14	まとめ	キャリアと家族生活について考えること

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、指定された課題を遂行すること（例：読書課題によるレポート、等）。

【テキスト（教科書）】

『親になれない親たち』（齋藤嘉孝、2009 年、新曜社）

【参考書】

必要に応じて適宜解説する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度と小レポート（50 %）、期末試験（50 %）などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

【Outline and objectives】

This course deals with people's careers in everyday life, especially, family life and marital relationship and parent-children relationship. Relationship between men and women before marriage is also discussed. Students think of how these relationships are related with individuals' careers in historical contexts and social and cultural backgrounds.

BSP100MA

ライフキャリア入門C

基幹科目

荒川 裕子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学におけるライフキャリア領域の位置づけや意義について理解することを目指します。この「ライフキャリア入門C（コミュニティ入門I）」では、特に文化や地域コミュニティという観点からキャリアデザインにアプローチします。文化的存在である個々の人間や、彼らを取りまく地域において、どのような生き方＝キャリアが築かれていくのかを考えていきます。また、今後ライフキャリア領域において専門性を深めていくうえで必要な視点や知識を修得します。

【到達目標】

現代社会において個人がキャリアをデザインしてゆくにあたって、社会／世界をどのようにとらえ、そこでの生き方をどのように探究・構築していくべきなのか。この授業では、自己を取り巻き、自己のアイデンティティや価値観の形成に大きく関わる「文化」や「地域コミュニティ」に焦点を当てることによって、生きること＝ライフの意味を改めて問い直すとともに、より実践的に地域づくりや文化振興に活かすことができる知識やスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「文化」や「コミュニティ」という言葉の定義や概念を理解したうえで、これらが個人の人間形成やキャリア形成にどう関わるのかを考察します。さらにまた、文化やコミュニティという視点を媒介にして、社会や地域と実際にどうコミットしていくことができるのかを、スライドや資料を用いて具体的な事例を多数織り込みながら検証していきます。基本は講義形式ですが、グループ・ディスカッション、課題の作成・発表など、学生の側からの積極的な参加を促す機会をできるだけ多く設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
2	文化とは何か①概念の形成	文化という概念の発生や展開について概観する。
3	文化とは何か②現代の文化概念	現代における文化概念の広がりについてさらに深く検討する。
4	文化とキャリア形成①	日本における文化の現状を事例をもとに理解する。
5	文化とキャリア形成②	地域文化への市民参加について考える。
6	文化とキャリア形成③	文化と産業／企業との関連について事例をもとに検討する。
7	コミュニティとは何か①	コミュニティという概念の成立の背景について考察する。
8	コミュニティとは何か②	現代社会におけるコミュニティについて検討する。
9	コミュニティとキャリア形成①	コミュニティで生きることについて考える。
10	コミュニティとキャリア形成②	コミュニティで働くことについて考える。
11	コミュニティとキャリア形成③	コミュニティの活性化について検討する。
12	ライフキャリアをめぐるグループ学習①「文化」をテーマとして	文化をテーマに学生によるグループ・プレゼンテーションとディスカッションを行う。
13	ライフキャリアをめぐるグループ学習②「コミュニティ」をテーマとして	コミュニティをテーマに学生によるグループ・プレゼンテーションとディスカッションを行う。
14	まとめと振り返り	半期の授業を通じて文化やコミュニティという観点から社会をまなぐ視座が身についたか検証する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分自身の問題としてライフキャリアを現実的・具体的に考えていくために、授業時間外にもさまざまな活動に参加したり、情報を収集することが求められます。また、あらかじめ配布した参考文献を事前に読み、授業時にグループ・ディスカッションを実施したり、文献に基づいてエッセイを書くといった課題が出されます。

【テキスト（教科書）】

特に定めませんが、適宜プリントや関連文献を配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中のディスカッション等への参加度など）：20%

学期途中の課題の成果：30%

期末試験（論述式）：50%

【学生の意見等からの気づき】

「文化」や「コミュニティ」という、やや抽象的な概念をキーワードにした授業ですが、できるだけ現代社会や日々の生活との関連のなかで理解していくことができるよう工夫します。大規模授業ですが、受け身の受講姿勢になっってしまうように、学生参加のディスカッションやプレゼンテーションの機会をできるだけ確保する予定です。

【Outline and objectives】

Students will understand the position and meaning of the field of life studies in our faculty of Lifelong Learning and Career Studies. In this class, I will approach this field especially from the perspective of culture and local community. We will discuss how we should form our way of life, e. g. our career as individuals and as cultural beings. In addition, students will acquire the knowledge necessary for deepening their expertise in this field.

BSP100MA

ライフキャリア入門D

基幹科目

金山 喜昭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、マスコミなどでも「地域の衰退化」「都市の空洞化」などが話題になる。地域や都市を活性化するためには、そこで生活や仕事をする人たちが、生きがいを持ち、その土地の一員としての役割を果たすことが大切である。人の生き方（ライフキャリア）は、地域と密接に関係している。そのことを理解し考えるために、地域において個人が市民としてキャリア形成をはかることをテーマにする。

【到達目標】

具体的には、「まちづくり」や「市民のキャリアデザイン」の考え方や、各々の実情を理解するとともに、そのあり方について具体的にみる。将来、文化、教育、福祉、ビジネス方面から「まちづくり」に関心のある人たちに、基礎的知識や能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「まちづくり」に関する基礎的な知識を習得することをはじめ、各地の「まちづくり」の実例をみることや、さらに文化をもちいた取り組みについても紹介する。授業は、講義・ワークショップ・現地見学などからなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する
2	民主主義と市民のキャリアデザイン	地域コミュニティや市民のキャリアデザインの考え方を説明する
3	キャリアデザインとまちづくり	市民によるまちづくり活動の考え方と事例をみる
4	地方都市の歴史・生活・文化活動	地方都市の歴史や文化、市民活動などについて紹介する
5	少子高齢化と地方の衰退	急速な少子高齢現象が進む地方の現状と取り組みをみる
6	地方自治とまちづくりⅠ	地方自治（行政）の視点からみた住民自治のあり方を話題にする
7	地方自治とまちづくりⅡ	地方自治（行政）の視点からみた住民自治のあり方を話題にする
8	地方自治とまちづくりⅢ	地方自治（行政）の視点からみた住民自治のあり方を話題にする
9	都市の経営	現代都市の骨格となる制度やコンパクトシティについてみる
10	市町村合併とまちづくり	なぜ市町村合併が行われたのか、その理由とその後の各地の状況を紹介する
11	観光とまちづくり	市民による観光のまちづくりを紹介する
12	現地見学①	文化資源を活用した「まちづくり」を見学する
13	現地見学②	文化資源を活用した「まちづくり」を見学する
14	試験（まとめ含む）	試験（まとめ含む）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各地のまちづくりの事例や文化施設を見学する。

【テキスト（教科書）】

金山 喜昭『公立博物館を NPO に任せたら-市民、自治体、地域の連携-』（同成社、2012 年）

【参考書】

適宜授業内にて資料を配布。

【成績評価の方法と基準】

レポートと試験を実施する。

【学生の意見等からの気づき】

テーマにもとづき系統的に授業を展開する。

【Outline and objectives】

In recent years, “declination of society” and “donut phenomenon” have been coming up in the media. In order to revitalize locals and cities, it is important for the people living and working there to have something to live for and play a role as each member of the areas. The theme of this course is to make a career development as a citizen in the living area in order to understand and consider that way of living (life career) is closely related to each living area.

CAR100MA

労働法

基幹科目

砂押 以久子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、雇用をめぐるさまざまな問題を法制度の観点から考察し、社会で働く上で必要な知識を習得することを目的とします。

【到達目標】

現在、雇用をめぐる問題が山積しています。中でも、長時間労働に関しては、長時間働くことで健康を害するばかりでなく、人としてのプライベートライフをもちにくくさせたり、家庭等の事情で長時間労働を行うことができない一定の労働者をキャリアシステムから排除してしまうなど、さまざまな問題が引き起こしています。近年、過労によるうつ病自殺の事件が大きく報道されるに至り、長時間労働が社会的問題として広く認識されるようになりました。このような状況下において「働き方改革」が推し進められています。

また、非正規雇用の問題も近時意識されている問題です。非正規従業員のデメリットは、単に賃金が安いというだけにとどまらず、仕事を通してスキルアップするという重要な機会を逸することでもあります。スキルアップはキャリアアップの前提となるので、この状況が経済的格差をより一層助長しているといえます。このような非正規従業員の問題は看過しえない問題といえます。現在、非正規雇用の問題に関しては、さまざまな法規制がなされています。

この授業では、労働法が労働者保護の観点からどのような制度を用意しているのかについて学びつつ、上記のような雇用をめぐる問題がいかに解決が図られるべきか検討し、今後のわが国の雇用のあり方を考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態としては、講義形式を用います。テーマによっては、授業内における発言及びリアクションペーパーの提出を求めます。授業の具体的内容については、授業計画に示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	労働法の概要（1）	雇用に関する大まかなルールを示します。働く上でどの問題について考えます。
2	労働法の概要（2）	働く上でどの問題について、労働法がどのような制度を用意しているかについて、制度の概要を示します。
3	戦前の雇用における弊害と労働者保護の必要性	戦前の雇用における弊害はいかなるものであったか、戦後労働者はどのように保護されるようになったか、現在においても同様の問題は本当に生じていないのか検討します。
4	労働契約の成立	採用内定取消などの問題を取り上げ、採用内定等の法的性質を学びます。
5	賃金	賃金保障がどのように図られているか学びます。
6	労働時間法制（1）	労働時間規制がどのように図られているか学びます。労働規制に関して具体的な問題を検討します。
7	労働時間法制（2）	時間外労働をめぐる問題を検討します。
8	労働時間法制（3）	時間外労働をめぐる問題を検討します。
9	ワーキングライフとプライベートライフ（1）	仕事と生活の調和を図るための制度がどのようなものなのかについて学びます。
10	ワーキングライフとプライベートライフ（2）	仕事と生活の調和を図るための制度がどのようなものなのかについて学びます。
11	雇用の終了	雇用の終了をめぐる問題を検討します。
12	非正規雇用（1）	期間の定めのある雇用をめぐる問題を検討します。
13	非正規雇用（2）	派遣労働などの具体的な制度について学びます。
14	わが国の雇用政策	これからの雇用のあり方について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを現実の問題として受け止め、雇用社会はいかにあるべきか常に考えることを心掛けてください。

【テキスト（教科書）】

浅倉むつ子・島田陽一・盛誠吾『労働法〔第5版〕』有斐閣アルマ『2019年度版労働関係法規集』労働政策研究・研究機構

【参考書】

菅野和夫『労働法〔第11版〕』弘文堂
別冊ジュリスト『労働判例百選〔第9版〕』有斐閣
『労働法の争点』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を実施します。
平常点（授業内発言・リアクション・ペーパーなど30％）と試験の点数（70％）によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

教科書、法規集を用いるとともに、内容をより理解しやすいようにプリント等の資料を配布するなどして、授業を進めていきます。あまりテーマが多岐にわたるすぎないよう、中心的テーマに絞って授業を展開したいと考えています。取り上げるテーマに関しては、具体的に生じている雇用をめぐる問題を指摘したうえで、法的に何が問題となっているか、どのように解決が図られるべきかについて検討します。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じ DVD・ビデオ教材を用います。

【その他の重要事項】

授業の進行状況により取り上げるテーマの順序が多少前後したり、その時々
の雇用情勢により取り上げるテーマが変更になる場合があることを予め了承
いただきたいと思います。

【Outline and objectives】

The objectives of this class is to focus on getting the fundamental and
useful legal knowledges - especially labor law related matters - in real
business world.

BSP100MA

ファシリテーション論

基幹科目

鈴木 まり子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 6/Tue.6 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、会議、ワークショップなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができるスキルを理解したうえで、実践できるようになります。また、演習を通して、対話や議論のスキルを身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習とミニレポートで構成します。授業ですから、解説や質問に対しての解答の時間もあります。演習では、授業で学んだファシリテーションの手法を実践して学びを深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ワークショップとファシリテーション	オリエンテーション（授業の進め方） 【講義】参加型の場が求められる背景。 ワークショップとファシリテーションとは。【演習】チェックイン
2	参加型の場をつくる3つの必須条件①事前準備のポイント「場づくり」	【講義】場づくり・場づくりの基本や空間のデザインについて。 【演習】場づくり体験
3	参加型の場をつくる3つの必須条件②事前準備のポイント「プログラム」	【講義】プログラムデザインとプロセスについて。【演習】広げる手法・収束する手法
4	参加型の場をつくる3つの必須条件③事前準備のポイント「ファシリテーター」	【講義】ファシリテーターについて。 【事例紹介】ファシリテーターの実践事例の紹介
5	ファシリテーターに求められる技術①オリエンテーション	【講義】オリエンテーションの OARR とは。【演習】アウトカムを考えるワーク
6	ファシリテーターに求められる技術②アイスブレイク	【講義】アイスブレイクとは。【演習】アイスブレイクの体験
7	ファシリテーターに求められる技術③傾聴と問いかけとグループサイズ	【講義】ファシリテーションにおける傾聴と問いかけとグループサイズとは。【演習】質問会議
8	ファシリテーターに求められる技術④グラフィックとタイムキープ	【講義】グラフィックとタイムキープとは【演習】ファシリテーショングラフィック
9	プログラムデザイン①プログラムデザインの手法を学ぶ	【講義】プログラムデザインとは【演習】プログラムデザインを考えるワーク①
10	プログラムデザイン②ワークショップを企画する	【演習】プログラムデザインを考えるワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	プログラムデザイン③ワークショップのプログラムをデザインする	【演習】プログラムデザインを考えるワーク③ 時間配分や役割を話し合って決める
12	ワークショップの実践	【演習】プログラムデザインをもとに実際にワークショップを実施
13	ファシリテーターとしてのキャリアデザイン	【キャリアの講義】ファシリテーションを仕事に活かしている事例をゲストから学ぶ
14	対話の手法	【講義】対話と議論の違いとは【演習】ワールドカフェ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してきてください（楽しい、有意義、つまらないなど）

【テキスト（教科書）】

必要な資料を事前に配布します。授業では、テキストを予習していることを前提に進めます。

【参考書】

「ファシリテーション～実践から学ぶスキルとこころ」 共著鈴木まり子他 岩波書店「ワークショップ」中野民夫 新しい学びと創造の場 岩波書店（岩波新書）「ファシリテーション革命」中野民夫 岩波アクティブ新書「チームビルディング」堀公俊他 日本経済新聞出版社「ワークショップ入門」ロバート・チェンバース 明石書店「ワールドカフェ」カフェ的会話が未来を創る 必：アニータ ブラウン / デイビッド アイザックス ヒューマンバリュー「対話する力」中野民夫・堀公俊 日本経済新聞社出版社

【成績評価の方法と基準】

演習への参加度とレポートによって総合的に評価します。前者は、態度だけではなく、振り返りシートに意見・感想を記入してもらい、これも評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

就職活動やファシリテーターという職業に関して、もう少し具体的にイメージしたいという意見があったので、キャリアデザインという視点で、具体的な活動分野などを紹介していきます。

【その他の重要事項】

◎演習を中心にした授業です。履修希望者が多い場合は、第1回授業に出席した人を優先する可能性がありますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください。

◎鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline and objectives】

Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation.as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative.in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.

BSP100MA

若者の自立支援

基幹科目

大山 宏

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子ども・若者の貧困への注目や、若者の就労支援の社会的課題としての位置づけ等、近年は若者支援に対する社会的関心が高まっている。その背景には現代日本の社会構造により引き起こされる若者の困難状況があり、そうした状況下にある若者がどのように社会と関わっていくことを想定するかが問われている。しかし一方で、自立した若者のあるべき姿については、個人の努力で達成すべきものとみなされがちでもあるが、若者支援の実践では若者に対しては経済的な観点のみにとどまらない、包括的な支援が求められているといえる。この講座では、若者が陥っている困難状況について具体的な事例等を用いながら知り、若者が社会とどのように関わっていくべきかを考えることを通し、若者に対してどのような支援が必要なのか検討する。

【到達目標】

1. 若者の社会的な困難状況の実態と、その社会構造的背景について理解する。
2. 若者支援のあり方に対する、同時代を生きる若者としての自らの視点を獲得する。
3. 若者支援の具体的なプログラムを試作することを通して、若者支援の実践について知り、その現状と課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、グループワークによって学習をすすめる。
毎回授業後にリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の内容や進め方について
第 2 回	若者支援の目的	若者支援の目的と各種政策・実践のキーワード
第 3 回	若者の生きづらさ	若者の生きづらさの諸相
第 4 回	生きづらさの構造	日本型青年期・関係性の貧困・居場所
第 5 回	生きづらさの根幹	グループワーク 生きづらさについての具体的検討
第 6 回	支援の双方向性	支援現場のあり方
第 7 回	若者との対話	支援時の具体的な諸相
第 8 回	支援対象の設定	支援枠組みの設定について
第 9 回	若者による支援	若者と社会の関係性
第 10 回	若者と社会	グループワーク 若者支援の社会的意義
第 11 回	若者支援の実践	事例を用いた具体的検討
第 12 回	若者支援事業の広がり	対応すべき課題の多様さについて
第 13 回	支援プログラム構想	グループワーク 具体的な支援手法の検討
第 14 回	総括 若者の自立支援とは	自立の要件 若者支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の経験に照らし合わせながら、若者に必要な支援について考える。
参考書としてあげた文献を読んでおく。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『〈学校から仕事へ〉変容と若者たち』乾彰夫・青木書店
『二極化する若者と自立支援』宮本みち子・小杉礼子編著・明石書店
『若者の居場所と参加』田中治彦・萩原建次郎編著・東洋館出版社
『子ども・若者の参画』子どもの参画情報センター編・萌文社
『若者と社会変容』アンディ・ファーロン/フレッド・カートメル・大月書店
『子ども NPO 白書 2015』日本子ども NPO センター編・エイデル研究所など。

【成績評価の方法と基準】

平常点（グループワークでの発言・発表を含む）：40％
レポート：60％

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を元にした検討や、グループワーク等の時間を重視し、イメージしやすいよう伝えていく。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline and objectives】

The difficult situation of young people is at the core of a social issue "young people's independence".

In this lecture, you can study about the difficult situation of young people from specific case, and can consider the method of youth support.

CAR100MA

職業選択論 I

基幹科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では働くこと・職に就くことを、アルバイト、就職活動、初期キャリアにわたって考えます。

なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか。企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのか。アルバイトの劣悪な処遇や、正社員の長時間労働が、なぜ起きてしまうのか、どう対処できるのか。そういった問題を考えていくことを通して、若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から理解し検討できるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

個人のキャリアの上でも大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意義と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを授業内外で書きます。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックし、多面的なものの見方を促すと共に理解を深めます。中間と期末、2回のレポート課題を出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス／各自の問題意識の論述	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介／各自の問題意識の論述
2	職業選択、就職と初期キャリア	就職と初期キャリアをめぐる各自の問題意識の共有
3	インターンシップを考える	インターンシップの目的・現状・課題
4	キャリア教育再考	キャリア教育における「やりたいこと」「夢」「目標」の位置づけと課題
5	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力の関係
6	アルバイトから働き方考える	アルバイト就労の現状、アルバイトと労働法
7	職場の問題への向き合い方	アルバイト職場の改善に向けて／労働組合とは
8	大卒労働市場の現状	卒業生の進路状況／新規採用と中途採用の違い／早期離職
9	ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	ジョブ型とメンバーシップ型、それぞれの特徴と課題
10	メンバーシップ型雇用とキャリア、生活	長時間労働、育児休業、転勤
11	若者「使い捨て」企業と「まともな働き方」	問題のある働き方とその改善に向けて
12	就職活動と労働条件	就職プロセスと就職支援会社の役割、労働条件への着目の必要性
13	就職活動における客観情報の活用	「就職四季報」の活用、職場実態情報の活用
14	内定・就職をめぐるトラブル	内定・就職をめぐるトラブルと関係法令、対処法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに掲載する各回のレジュメに事前に目を通してから授業に参加する。

授業の話題に関連した新聞記事などを日ごろから読み、最近の動向を知り、検討する。

課題レポート執筆に向けて、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行う。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時にレジュメを準備します。レジュメは事前に授業支援システムに掲載します。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ

・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/

・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就職
トラブル Q & A』旬報社
・東洋経済新報社編『就職四季報 総合版』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で6回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 20 点）、期末レポート（配点 40 点）により評価します。なお、ミニ・レポートの提出が0～2回の学生や、ミニ・レポートまたは課題レポートの代筆・盗用が判明した学生には、単位を付与しません。詳しくは初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直すきっかけとなった、といった感想がみられます。今後もタイムリーな話題をとりあげていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメは授業支援システムに事前に掲載します。各自、プリントアウトの上、持参してください。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行いますので、必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide a basic understanding of the School-to-Work transition. Main topics are characteristics of Japanese School-to-Work transition, career decision, labor problems and labor laws.

CAR100MA

ライフコース論

基幹科目

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアをデザインしようとする上で、個々人が人生の各段階でどのような課題を担っているのか、それに対して社会にはどのようなリソースがあるのかについて、基礎的な知識を獲得する。特に、従来「ライフサイクル＝人生の周期」という言葉で人生がとらえられてきたが、人生は一人ひとりユニークなものであり、あるパターンが繰り返されるわけではないことから、「ライフコース」が注目されるようになってきた背景を踏まえ、「ライフコース」の意味や概念についての基礎を理解するようにする。その上で、出生から高齢期にいたるまでの重要なライフイベントに着目し、その時代的な変化、国際比較等によるライフコースの多様性についての思考力を深めるとともに、ライフコースに関わる様々なデータの見方や解釈の仕方についても学ぶことで、実証的なアプローチの方法についても理解し活用できるようにする。

【到達目標】

この授業は、個人と社会の相互作用の中で生じるキャリアのパターンの多様性を理解し、個人の生き方や社会システムを検討することを目的とする。学生は、ライフコースの時代的な変化とその背景、国際比較を通じた社会構造とライフコースの関係性について理解を深め、少子化、雇用不安、格差問題といった現代社会の問題が、どのような社会的状況から生じているのか、その解決のために今何が求められているのか、といった課題設定を行い、それに「ライフコース」の視点からアプローチができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進める。
適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認する。
この授業で使用する資料等は、法政大学の web サイト上にある「授業支援システム」において受講登録者に授業の前に提供する。授業に出席する際には、この資料をプリントアウトしていただくことが必須要件となる。また、欠席した場合などは、ここで必ず資料を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション ライフコースとは何か？	授業のオリエンテーション、ライフコースの概念
2	なぜ今ライフコース・アプローチなのか？	ライフサイクルとライフコースの違い、ライフコースの考え方の背景
3	ライフコース論の基礎的な概念	ライフコース論をとらえる視点、ライフコースへのアプローチの方法
4	児童期から青年期へ	児童期の変化、国際比較、ポスト青年期の登場
5	青年期から成人期へ	学校から職業への移行期の変化
6	成人期	家族の形成（結婚）、結婚をめぐる変化、国際比較
7	出産をめぐる変化、少子化の背景	出産行動の変化とその背景、課題
8	ジェンダーとライフコース	ジェンダー概念、ジェンダーによるライフコースの特徴
9	雇用システムと働き方	雇用システムの特徴、働き方との関わり、働き方の課題
10	女性の就業	女性の就業選択とその背景、課題
11	男性の働き方	男性の働き方の現状、課題
12	就業形態とライフコース	正規・非正規といった就業形態の違いによるライフコースの特徴
13	高齢期	就業から引退へ、高齢期の就業、引退後の生活構造
14	まとめ	授業の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使う資料は授業支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ずプリントアウトして、全体を読んでから授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。授業で適宜資料を配布予定。

【参考書】

安藤由美（2003）『現代社会におけるライフコース』日本放送出版協会
嶋崎尚子（2008）『ライフコースの社会学』学文社
岩上真珠（2013）『ライフコースとジェンダーで読む家族』有斐閣
武石恵美子（2016）『キャリア開発論』中央経済社
その他、授業の中でテーマに沿った参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果を重視します。さらに出席（ミニレポートの内容を含む）点を加味して評価します。場合によっては中間レポートを課すことがあります。

期末試験 80 %、平常点 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

様々なデータを紹介して、データの見方、解釈の仕方も学ぶようにする。

【Outline and objectives】

This course is intended that students acquire the knowledge about the theme that an individual faces at each life stage, the understanding about the resource included the social system. Conventionally, the life has been caught by the word "life cycle", but the life is unique individually, and the same pattern is not repeated. Students will be able to understand the background where "life course" came to attract attention of and understand the basics about the concept of "life course". In addition, they will learn about the way of a viewpoint and the interpretation of various data about life course.

CAR100MA

生活設計論 I（社会保障） 基幹科目

平野 貴大

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ライフキャリアに影響を及ぼす他者や地域との関わりについて知り、超高齢社会の到来を迎える中で、自分らしい生活を設計するために必要な知識の獲得や情報の収集と活用方法、支援のあり方を学ぶ。

【到達目標】

- ・現代社会を生きるうえでの生活設計について、多角的な視点から捉えることができる。
- ・ライフキャリア上のリスクに対応する社会保障制度などについて理解できる。
- ・地域コミュニティには多様なライフキャリアが存在することを知り、特に高齢者のよりよく幸せな生活の実現のために必要な支援について理解できるようになる。
- ・ライフキャリア支援のために必要な情報収集と活用する方法が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、社会構造や就業構造の変化が続く現代社会において、個人の価値観、生活観やライフスタイルが多様化していくことが予想される中で、どのような生活を設計することができるのか。また、生活の中に存在するリスクなどのどのように対応することができるのか、社会保障を中心とした支援の内容などについて学びながら、よりよく生きるためには何が必要であるかを考える。

そこで、1つ目に多様化の背景となる社会構造や就業構造の変化に触れ、ライフスタイルの多様化の背景について学び、個々の価値観や生活観にあったライフスタイルの多様性を踏まえた、生活設計のあり方を考える。

2つ目に、生活の中に存在するさまざまなリスクについて、身体・精神・社会の3つの側面から取り上げ、対処方法、予防の方法とリスク発生時の社会保障を含む社会的または経済的な支援の実践について学ぶ。

3つ目に、現在迎えている超高齢化社会の中で、今の高齢者にどのようなライフキャリアを設計することができるのか、自身が将来に向けてどのようなライフキャリアを設計することができるのか、地域コミュニティのあり方なども含めて検討する。

授業は講義形式と演習形式を組み合わせで行う。

毎回、前半に講義形式での情報提供と問題提起などを行う。その内容を踏まえて、受講者でのグループディスカッションとプレゼンテーションを行うことにより、受講生間での価値観の多様性を実際に認識しながら学習を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等に関する説明を行う。
第 2 回	社会構造の変化とライフスタイル	情報化、高齢化など様々な側面に変化している社会の現状とライフスタイルの関係について考える。
第 3 回	個々の価値観とライフスタイルの多様化	社会の中における個人に着目し、ライフスタイル、アイデンティティの多様化、多様性、自分らしさについて考える。
第 4 回	ライフスタイルと生活設計	ライフスタイルの多様化は生活設計の多様化にもつながる。生活の設計に与える影響について考える。
第 5 回	生活の中のリスク- 1 身体・精神的リスク	社会生活を送る中で、身体的、精神的な健康を維持できなくなる危険性を理解し、維持できなくなった場合の対処、または予防法について考える。
第 6 回	生活の中のリスク- 2 社会・経済的リスク	身体的、精神的な健康が保たれていても、社会、または経済的なトラブルにより生活に影響が出る場合について考える。
第 7 回	社会保障とさまざまな生活の支援- 1 公的な支援	生活の中で何らかの問題を抱えた場合に、公的機関による支援にどのようなものがあるのか理解し、活用することができるのかを考える。
第 8 回	社会保障とさまざまな生活の支援- 2 地域活動と互助活動	生活上のリスクを抱えた場合に、公的な支援だけでは不十分になることがあることを学び、不足している部分に対して何ができるのかを考える。
第 9 回	ライフキャリアの設計	ここまでの授業内容を振り返りながら、各自の「自分らしい」ライフキャリアについて考える。

発行日：2019/5/1

第 10 回	地域社会における生活とライフキャリア	各自が考えるライフキャリアの実践は地域社会の中で行うことを踏まえ、地域社会での生活を考える。
第 11 回	地域での生活デザイン	どのようなライフキャリアを実践する中でも地域での生活は切り離せない。地域での生活とライフキャリアの整合性の取り方について考える。
第 12 回	高齢者のライフキャリア	誰もが高齢になっていく中で、現在、地域に生活する高齢者のライフキャリアについて、高齢者の特性、地域特性などを踏まえて考える。
第 13 回	現代社会の生活課題	社会構造の変化の中で、地域で生活するために、何を考えライフキャリアを考える必要があるのかを考える。
第 14 回	ライフキャリアの質の向上	ライフキャリアをより良いものにするために必要なものが何か、またよいライフキャリアとは何かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この講義に限定した事前学習等について必要ありませんが、社会一般のさまざまな事象、地域コミュニティ、高齢者のライフキャリアに関するニュースや話題などについて関心を持ち、自身との関係性などを含めて考えるようにしてみてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、配布プリント、関連資料、演習用ワークシートを使用する。

【参考書】

授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、期末レポート（40%）、授業への積極的な貢献度（30%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度実施状況等を含め、意見などを取り入れながらテーマについて、時機に合わせたものへの変更なども行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

履修者数によって、グループワーク等の形式が講義形式かの決定をします。予めご了承ください。

【Outline and objectives】

Knowing the relationships with other people and communities affecting life career, as we enter the super aged society, we need to acquire knowledge necessary for designing our own life, how to collect and utilize information, how to support it learn.

CAR100MA

生活設計論Ⅱ（生活設計）

基幹科目

林 奈生子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「仕事」と「お金」なしに人生を歩むことはできません。自身に確たる仕事観があれば、長い職業人生において有用なキャリアを積み上げることが出来ます。また、基本的なお金の知識があれば精神的にも物質的にも豊かな生活を送ることが出来ます。しかし、現状では多くの学生が「仕事」と「お金」について学ぶことなく社会人になっていきます。本授業では、「仕事」と「お金」の基本知識を学び、自身の生活を設計することを通し、自身にふさわしい「生き方・働き方・人生の目標」について考えます。

【到達目標】

本授業では、「仕事」と「お金」の基本知識を学びます。「仕事」では、組織、チームワーク、コミュニケーション、求められる能力などを通して、働くことの意義について考え、自らの仕事観を持つことを目標にします。「お金」では、家計、予算、金利計算などを学び、リスクを考えながら金融商品を選ぶ知識を習得するとともに、お金と生活の関係性を理解します。これらを通して生活設計の具体的な方法を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義、グループワークや意見発表、ミニレポートの作成、最終課題の提出などにより、立体的・実践的に進めます。＊授業計画の回は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	まず、授業内容・進め方・授業中のルール、到達目標と成績評価基準、最終課題などについて説明する。次に、「仕事・お金・生活」の関係性を知り、生活設計の考え方と必要性を学ぶ。
2	ライフプランとファイナンシャルプランの関係	自身のライフプランを考え、生涯について、どのようにお金が必要になるのかについて学ぶ。
3	家計分析	自身の家計について分析し、自身のお金の使い方の特徴を知る。
4	お金の基本知識と予算の立て方	お金に関わる基本知識と予算の立て方について学ぶ。
5	元本保証の金融商品	代表的な元本保証の金融商品について学ぶ。
6	リスクとリターン	リスク商品の基礎知識と活用方法を知る。
7	消費行動分析	私たちが買い物をする動機は何か。消費行動を分析する。
8	特別講義	法政大学 OB による講義 テーマ『大学を卒業すること～やりたい仕事にたどり着く～』
9	組織とマネジメント	企業活動を理解するために「組織」と「マネジメント」について学ぶ。
10	求められる人材	民間企業、公的機関、起業を想定し、それぞれどのような人材が求められるのかについて考える。
11	組織とチームワークの特性	事例を通し、チームワークの特性を学ぶ。
12	求められるコミュニケーション能力	社会人として求められるコミュニケーション能力について学ぶ。
13	自身のライフデザイン	前回までの授業を振り返り自身のライフプラン表を作成する。再度、最終課題について説明する。
14	まとめ～最終課題の提出	本授業全体の総括を行う。第13回で作成したライフプラン表をもとに、自身の将来設計と目標、行動計画についてのレポートを作成しライフプラン表とともに提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットなどで発信される情報を、自身の生活に関連づけて考える習慣を身につけてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

必要な場合は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

配点は、グループワーク・ミニレポート60%、最終課題40%とします。
*グループワーク・ミニレポートは受講生の習得状況により適宜実施します。
*最終課題は次の2点を第14回の際にあわせて提出することです。
①ライフプラン表『自身のライフプラン』（第13回で作成）
②レポート『自身の将来設計と目標、行動計画』（第14回で作成）
*従って、第13回で作成する『自身のライフプラン』を必ず第14回に持参してください。詳細は授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは、「自分の考え方とは違う考え方を聞くことで視野が広がった」「最初は不安だったが自分の意見を言うことができた」などの感想が寄せられた。引き続きグループワークや意見発表の場を設け、受講生の積極性・気づき・潜在能力の顕在化を促したいと考えています。

【その他の重要事項】

＜講師について＞

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティング、ファイナンシャルプランナーの経験をもつ教員が、わかりやすく実践的に講義を行います。

【Outline and objectives】

We cannot live without work and money. With firm values on your work, you can develop your valuable career in your long professional life. Furthermore, the basic knowledge of money helps you live both an abundant and fulfilling life. In this course, through learning the basic knowledge of work and money, we will consider "the way of life, the way you work, and the goal of life" suitable for yourself.

CAR100MA

キャリアモデル・ケーススタディ 基幹科目

趙 宏偉

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアをデザインするにあたって、模範となるべき人の生き方、働き方の事例を学び、そこからモデルを作ることは有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々を教壇にお呼びして、働きと暮らしの経験（キャリアヒストリー）を聞く。具体的な人生経験から、キャリアの多様性と国際性を学び、キャリアデザインの実践知を習得する。

【到達目標】

キャリアデザインの意味、キャリアデザインの目指すものについて、また聴く力、インタビュー力、ディスカッション力といったコミュニケーション力を、各々のモデルケーススタディを通して的確な把握し、そしてその実践力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各々のモデル講師の語りとその事前勉強及び事後ディスカッションを組み合わせ、また方法論の勉強とモデルケーススタディを組み合わせ実践的な授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業説明	参考授業・講師の紹介。教科書と文献の紹介。
2	方法論の勉強 1	ケーススタディーとは？ ケースの発見、ケースを見る視点、ケースを考察すること。
3	方法論の勉強 2	下調べの方法を学ぶ。モデル講師の講義の前に調べておくこと、調べの手段。
4	方法論の勉強 3	インタビューの作法を学ぶ。質問の準備、質問の方法。
5	外部講師の講話 1	キャリアモデルを学ぶ。海外の外国企業で学び、働き、暮らしというキャリア。
6	外部講師の講話 2	キャリアモデルを学ぶ。海外の日系企業で仕事と暮らしというキャリア。
7	ディスカッション 1	講話を振り返って、皆で議論。次回以降の質問をグループで考える。
8	外部講師の講話 3	キャリアモデルを学ぶ。日本メディアの国際ジャーナリストというキャリア。
9	外部講師の講話 4	キャリアモデルを学ぶ。日本のメディア系の文化事業というキャリア。
10	ディスカッション 2	講話を振り返って、皆で議論。次回以降の質問をグループで考える。
11	外部講師の講話 5	キャリアモデルを学ぶ。日本にある日本企業での日本人と外国人というキャリア。
12	外部講師の講話 6	キャリアモデルを学ぶ。日本での国際社会向け会社の起業と経営又は外資系企業の仕事と暮らしというキャリア。
13	ディスカッション 3	講話を振り返って、皆で議論。期末レポートのまとめ方を講義。
14	ディスカッション 4 & 期末レポートの提出	キャリアケースのまとめ。数々のキャリアヒストリーからキャリアのノウハウを引き出す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キャリアモデルについて資料収集しておくこと。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示。

【参考書】

参考文献として、佐藤郁哉『フィールドワーク―書を持って街に出よう』（新曜社）、永江朗『インタビュー術！』講談社現代新書など多数。適宜教室で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価：1. 期末のレポートで行う。60点。2. 平常点、学習状況、積極的な授業ディスカッション参加などの参加度、貢献度を求める、40点。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な発言を求める。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
学生へのメッセージ

自分のキャリアをデザインするためには、まず模範となるべき人の経験（キャリアヒストリー）から学ぶ必要があります。個々の具体的経験からキャリアのモデルを引き出すのは、学生の質問です。積極的参加を期待します。
この科目はキャリアモデルについての知識を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】

Career model・Case study

It is an effective way to make models from the way of life, how to work. In the lecture, we invite people from various professions to the teaching and listen to the career history of work and living. From concrete life experiences, learn the diversity and international nature of careers, and master the practical knowledge of career design.

CAR100MA

キャリアモデル・ケーススタディ 基幹科目
イ

なかむら アサミ

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分のキャリアをデザインするにあたって、模範となるべき人の生き方、働き方の事例を学び、そこから自分のモデルを作ることは有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々に教壇にお呼びして、仕事経験（キャリアヒストリー）を聞く。具体的な仕事の経験から、学生がどのようなキャリアを選び、そのためにどのような努力を行うべきかを学ぶ。

【到達目標】

ビジネス、地域活動などで活躍する社会人と対話することで、社会人経験を間接的に理解する。また、そのような社会人の経験を引き出す話の聴き方やインタビュー術について理解を深める、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に、この授業を受ける上で必要なヒアリング術とインタビュー術を講義する。インタビュー術を使ってゲスト講師のキャリア経験を聞き出す。この授業は、春学期に二つの授業が開講されるが、ゲスト講師は異なる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第 2 回	聴く力とは？	キャリアの語りを聴き出すには聴く力と共感する力が必要である。その必要性を理論的に説明し、体験する。
第 3 回	下調べの方法	キャリアに関する下調べ文献を説明する。自伝、伝記、オーラルヒストリーなどの文献資料を紹介する。
第 4 回	インタビュー術	インタビュー時における身体的スキルを説明する。インタビュー映像も見る。
第 5 回	ゲスト講師①	NPO 分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 6 回	ゲスト講師②	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 7 回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。特に組織論の観点から検討を行う。
第 8 回	ゲスト講師③	プロフェッショナル職種のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 9 回	ゲスト講師④	官庁分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 10 回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。民間企業以外のキャリアを議論する。またこれまでのキャリアトークの解釈を前提に、キャリアモデルレポートを作成する方法を講義する。
第 11 回	ゲスト講師⑤	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 12 回	ゲスト講師⑥	起業家のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 13 回	ゲスト講師⑤⑥の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。これまでの多様なゲスト講師も振り返りながら、キャリアの多様性を議論する。
第 14 回	キャリア研究への展望	これまでのまとめと、キャリアインタビューを使った研究を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ → インタビュー → 解釈という一連の流れのなかで学習する。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメを配布する。

【参考書】

永江朗『インタビュー術！』（講談社現代新書）
阿川佐和子『聞く力 心をひらく 35 のヒント』（文藝春秋）
マルコ社『プロカウンセラーの聞く技術・話す技術』（サンクチュアリ出版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度と最終講義日に提出するレポートで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。PC の持ち込みは可能

【その他の重要事項】

担当教員は民間企業に勤務しており、人事歴 10 年に加え、広報・ブランディング 7 年、現在も同企業で教育機関や企業への研修や組織コンサルタントに従事している。これに関連して、学生に様々なキャリアの可能性を示唆する授業を行う。

【Outline and objectives】

To designing our career, we learn examples of how to live and work for model people.

Making an image of your career is an effective way to career design.

In this lecture, we invite people who actually work in various workplaces to the teacher and listen to work experience (career history).

From specific work experience, students learn what kind of career to choose and what kind of effort can be done for that.

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。

- ・他者のキャリア形成支援に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ。
- ・ワークショップ形式のキャリア教育プログラムの考案や実演の仕方について学ぶ。

【到達目標】

- ・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
- ・初対面の対象者とかかわる実習において、リレーション（信頼関係）づくりができる。
- ・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
- ・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
- ・話し合いをまとめるために適切な手法を選択できる
- ・アイスブレイク、ワーク、振り返りという一連のプログラムの構成の仕方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション (1)	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション (2)	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
4	コミュニケーション (3)	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル (1)	ファシリテーション（アイスブレイク、ブレインストーミング）を扱う。
6	グループワークのスキル (2)	KJ法を活用した話し合いをする。
7	グループワークのスキル (3)	傾聴、アサーション、ファシリテーションなどを総合的に活用した話し合いをする。
8	キャリア教育プログラムの作成 (1)	マインドマップを活用したアイディア出しをする。
9	キャリア教育プログラムの作成 (2)	企画案づくり、プレゼンテーションの準備をする。
10	キャリア教育プログラムの作成 (3)	中間発表をして、最後まで仕上げる。
11	キャリア教育プログラムの発表 (1)	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
12	キャリア教育プログラムの発表 (2)	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。
13	キャリア教育プログラムの実施	作成したプログラムを学部 1 年生に実施する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

プリントおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

ガイダンスに出席してください。掲示等に注意してください。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Acquire the communication skills necessary for career support,
- ・ Create and demonstrate a workshop style career education program for first-year students.

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

児美川 孝一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。

- ・他者のキャリア形成支援に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ。
- ・ワークショップ形式のキャリア教育プログラムの考案や実演の仕方について学ぶ。

【到達目標】

- ・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
- ・初対面の対象者とかわる実習において、リレーション（信頼関係）づくりができる。
- ・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
- ・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
- ・話し合いをまとめるために適切な手法を選択できる
- ・アイスブレイク、ワーク、振り返りという一連のプログラムの構成の仕方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション (1)	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション (2)	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
4	コミュニケーション (3)	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル (1)	ファシリテーション（アイスブレイク、ブレインストーミング）を扱う。
6	グループワークのスキル (2)	K J 法を活用した話し合いをする。
7	グループワークのスキル (3)	傾聴、アサーション、ファシリテーションなどを総合的に活用した話し合いをする。
8	キャリア教育プログラムの作成 (1)	マインドマップを活用したアイディア出しをする。
9	キャリア教育プログラムの作成 (2)	企画案づくり、プレゼンテーションの準備をする。
10	キャリア教育プログラムの作成 (3)	中間発表をして、最後まで仕上げる。
11	キャリア教育プログラムの発表 (1)	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
12	キャリア教育プログラムの発表 (2)	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。
13	キャリア教育プログラムの実施	作成したプログラムを学部 1 年生に実施する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

プリントおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

ガイダンスに出席してください。掲示等に注意してください。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Acquire the communication skills necessary for career support,
- ・ Create and demonstrate a workshop style career education program for first-year students.

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。

- ・他者のキャリア形成支援に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ。
- ・ワークショップ形式のキャリア教育プログラムの考案や実演の仕方について学ぶ。

【到達目標】

- ・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
- ・初対面の対象者とかわる実習において、リレーション（信頼関係）づくりができる。
- ・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
- ・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
- ・話し合いをまとめるために適切な手法を選択できる
- ・アイスブレイク、ワーク、振り返りという一連のプログラムの構成の仕方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション (1)	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション (2)	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
4	コミュニケーション (3)	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル (1)	ファシリテーション（アイスブレイク、ブレインストーミング）を扱う。
6	グループワークのスキル (2)	KJ法を活用した話し合いをする。
7	グループワークのスキル (3)	傾聴、アサーション、ファシリテーションなどを総合的に活用した話し合いをする。
8	キャリア教育プログラムの作成 (1)	マインドマップを活用したアイデア出しをする。
9	キャリア教育プログラムの作成 (2)	企画案づくり、プレゼンテーションの準備をする。
10	キャリア教育プログラムの作成 (3)	中間発表をして、最後まで仕上げる。
11	キャリア教育プログラムの発表 (1)	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
12	キャリア教育プログラムの発表 (2)	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。
13	キャリア教育プログラムの実施	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

プリントおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

ガイダンスに出席してください。掲示等に注意してください。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Acquire the communication skills necessary for career support,
- ・ Create and demonstrate a workshop style career education program for first-year students.

BSP200MA

キャリアサポート事前指導

展開科目

BSP200MA

キャリアサポート事前指導

展開科目

BSP200MA

キャリアサポート事前指導

展開科目

BSP200MA

キャリアサポート事前指導

展開科目

田澤 実

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。

- ・他者のキャリア形成支援に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ。
- ・ワークショップ形式のキャリア教育プログラムの考案や実演の仕方について学ぶ。

【到達目標】

- ・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
- ・初対面の対象者とかわる実習において、リレーション（信頼関係）づくりができる。
- ・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
- ・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
- ・話し合いをまとめるために適切な手法を選択できる
- ・アイスブレイク、ワーク、振り返りという一連のプログラムの構成の仕方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション (1)	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション (2)	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
4	コミュニケーション (3)	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル (1)	ファシリテーション（アイスブレイク、ブレインストーミング）を扱う。
6	グループワークのスキル (2)	K J 法を活用した話し合いをする。
7	グループワークのスキル (3)	傾聴、アサーション、ファシリテーションなどを総合的に活用した話し合いをする。
8	キャリア教育プログラムの作成 (1)	マインドマップを活用したアイディア出しをする。
9	キャリア教育プログラムの作成 (2)	企画案づくり、プレゼンテーションの準備をする。
10	キャリア教育プログラムの作成 (3)	中間発表をして、最後まで仕上げる。
11	キャリア教育プログラムの発表 (1)	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
12	キャリア教育プログラムの発表 (2)	完成したプログラムの発表と講評をする（後半の班）。
13	キャリア教育プログラムの実施	作成したプログラムを学部 1 年生に実施する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

プリントおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

ガイダンスに出席してください。掲示等に注意してください。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Acquire the communication skills necessary for career support,
- ・ Create and demonstrate a workshop style career education program for first-year students.

BSP200MA

キャリアサポート実習 展開科目

BSP200MA

キャリアサポート実習 展開科目

BSP200MA

キャリアサポート実習 展開科目

BSP200MA

キャリアサポート実習 展開科目

児美川 孝一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校生に対してワークショップ形式のキャリア教育プログラムを実施する。司会およびファシリテーターとして高校生とかわる。他者のキャリアのデザインに関与するために必要なスキルを学び、実習先の高校の多様性との関連を考える。

【到達目標】

- ・実習時に高校生とかわるためのファシリテーションができる。
- ・高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。
- ・高校には様々な文化があり、様々な考え方をしている高校生がいることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1 回目の実習先の高校の下調べをする。
2	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習	1 回目の校外実習
5	実習報告	1 回目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成 (1)	2 回目の実習先の高校の下調べをする。 実習先の高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成 (2)	実習で関わった高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表 (1)	完成したプログラムを発表と講評をする (前半の班)。
9	キャリア教育プログラムの発表 (2)	完成したプログラムを発表と講評をする (後半の班)。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習	2 回目の校外実習
13	実習報告	2 回目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

キャリアサポート事前指導で配布したテキストを用いる。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

実習の進み具合により、一部授業計画が変更になることがあります。また、この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になります。学期初めの掲示にも注意してください。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:
・ Acquire the communication skills necessary for career support,
・ Create and demonstrate a workshop style career education program for high school students.

BSP200MA	
キャリアサポート実習	展開科目
BSP200MA	
キャリアサポート実習	展開科目
BSP200MA	
キャリアサポート実習	展開科目
BSP200MA	
キャリアサポート実習	展開科目

田澤 実

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校生に対してワークショップ形式のキャリア教育プログラムを実施する。司会およびファシリテーターとして高校生とかかわる。他者のキャリアのデザインに関与するために必要なスキルを学び、実習先の高校の多様性との関連を考える。

【到達目標】

- ・実習時に高校生とかかわるためのファシリテーションができる。
- ・高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。
- ・高校には様々な文化があり、様々な考え方をしている高校生がいることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1 回目の実習先の高校の下調べをする。
2	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習	1 回目の校外実習
5	実習報告	1 回目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成 (1)	2 回目の実習先の高校の下調べをする。 実習先の高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成 (2)	実習で関わった高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表 (1)	完成したプログラムを発表と講評をする (前半の班)。
9	キャリア教育プログラムの発表 (2)	完成したプログラムを発表と講評をする (後半の班)。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習	2 回目の校外実習
13	実習報告	2 回目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

キャリアサポート事前指導で配布したテキストを用いる。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

実習の進み具合により、一部授業計画が変更になることがあります。また、この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になります。学期初めの掲示にも注意してください。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Acquire the communication skills necessary for career support,
- ・ Create and demonstrate a workshop style career education program for high school students.

BSP200MA

キャリアサポート実習

展開科目

BSP200MA

キャリアサポート実習

展開科目

BSP200MA

キャリアサポート実習

展開科目

BSP200MA

キャリアサポート実習

展開科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校生に対してワークショップ形式のキャリア教育プログラムを実施する。司会およびファシリテーターとして高校生とかかわる。他者のキャリアのデザインに関与するために必要なスキルを学び、実習先の高校の多様性との関連を考える。

【到達目標】

- ・実習時に高校生とかかわるためのファシリテーションができる。
- ・高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。
- ・高校には様々な文化があり、様々な考え方をしている高校生がいることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1 回目の実習先の高校の下調べをする。
2	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習	1 回目の校外実習
5	実習報告	1 回目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成 (1)	2 回目の実習先の高校の下調べをする。 実習先の高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成 (2)	実習で関わった高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表 (1)	完成したプログラムを発表と講評をする (前半の班)。
9	キャリア教育プログラムの発表 (2)	完成したプログラムを発表と講評をする (後半の班)。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習	2 回目の校外実習
13	実習報告	2 回目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

キャリアサポート事前指導で配布したテキストを用いる。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

実習の進み具合により、一部授業計画が変更になることがあります。また、この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になります。学期初めの掲示にも注意してください。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:
・ Acquire the communication skills necessary for career support,
・ Create and demonstrate a workshop style career education program for high school students.

BSP200MA	
キャリアサポート実習	展開科目
BSP200MA	
キャリアサポート実習	展開科目
BSP200MA	
キャリアサポート実習	展開科目
BSP200MA	
キャリアサポート実習	展開科目

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校生に対してワークショップ形式のキャリア教育プログラムを実施する。司会およびファシリテーターとして高校生とかかわる。他者のキャリアのデザインに関与するために必要なスキルを学び、実習先の高校の多様性との関連を考える。

【到達目標】

- ・実習時に高校生とかかわるためのファシリテーションができる。
- ・高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。
- ・高校には様々な文化があり、様々な考え方をしている高校生がいることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1 回目の実習先の高校の下調べをする。
2	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習	1 回目の校外実習
5	実習報告	1 回目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成 (1)	2 回目の実習先の高校の下調べをする。 実習先の高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成 (2)	実習で関わった高校生の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表 (1)	完成したプログラムを発表と講評をする (前半の班)。
9	キャリア教育プログラムの発表 (2)	完成したプログラムを発表と講評をする (後半の班)。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習	2 回目の校外実習
13	実習報告	2 回目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

キャリアサポート事前指導で配布したテキストを用いる。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート課題等 50 %にて成績評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

実習の進み具合により、一部授業計画が変更になることがあります。また、この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になります。学期初めの掲示にも注意してください。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Acquire the communication skills necessary for career support,
- ・ Create and demonstrate a workshop style career education program for high school students.

BSP200MA

キャリア体験事前指導（A・B 展開科目コース）

中野 貴之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、キャリア体験（インターンシップ）に先立って、働くことに対する意識と理解を高めることを目的とします。グループワークを重ねることにより、自己理解、他者理解、社会経済事象に対する分析力や表現力を養い、社会人基礎力を身につけていきます。

【到達目標】

次の項目を達成することが目標です。

＜実習準備期間＞

(1) 他者との協働により成果を獲得するチームプレーの経験を積むとともに、他者の中で自分の考えを、口頭、文章により適切に表現できる能力を身に付ける。

(2) 実習先の概要を理解し、働く場に対して自分なりの考えをもつ。

(3) 学部の授業で得た理論・知見と、働くという実践とをつないで考える習慣を身に付ける。

＜実習中＞

(1) 自分の関心の強い業界・仕事に対する理解を深める。

(2) 実習先（企業、NPO、および、公共機関等）に対する理解を深める。

(3) 自分の適性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

＜授業形態＞

1. 本講義は、夏休みに行う体験実習の事前準備を行うためのものである。秋学期の「キャリア体験学習（A・B コース）（キャリア体験事前指導）」単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修は終了する。

2.A、B コースの二種類がある。このうち、A コースは大学が実習先を準備するものであり、B コースは教員の指導のもと期間内に実習先を自分で開拓する。

3. 希望者の数が多い場合には選抜を行う。A コースに関しては、実習先が面接試験を必須としているところも多いので、希望どおりに行かないケースも少なくない。

4. 実習先、実習期間は多様である。6、7 月に実習先にコンタクトし、原則実習は夏休みに行う、例外もある。

5. 実習先の決定及び実習後の報告は個別の面談により行う。

＜授業の進め方＞

グループディスカッションを行っていく。5～6 名のグループに分かれてテーマについてディスカッションを行い、それをまとめて発表するというプロセスを繰り返し行うとともに、適宜、グループの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス: 授業の概要、評価方法等について説明
第 2 回	グループワーク I（ディスカッション）	「どのような場で働きたいか、どのような仕事をしたいか」をテーマに討議
第 3 回	グループワーク I（プレゼンテーション）	①「どのような場で働きたいか、どのような仕事をしたいか」をテーマについて発表する。 ②希望先聴取と実習先調整
第 4 回	グループワーク II（ディスカッション）	「あなたは何のために働くのか？」をテーマに討議
第 5 回	グループワーク II（プレゼンテーション）	①「あなたは何のために働くのか？」をテーマにグループ発表 ②希望先聴取と実習先調整
第 6 回	企業研究・業界研究の進め方	①業界、企業の見方をレクチャー ②基礎的な知識 ③企業業績、業界の特徴
第 7 回	グループワーク III（ディスカッション）	「5 年後、10 年後に、社会はどのように変化していくか、そこでどのように働くか？」についてディスカッション
第 8 回	グループワーク III（プレゼンテーション）	「5 年後、10 年後に、社会はどのように変化していくか、そこでどのように働くか？」について発表
第 9 回	ゲスト講師との対話①	ゲスト講師との対話①
第 10 回	ゲスト講師との対話②	ゲスト講師との対話②
第 11 回	グループワーク IV（ディスカッション）	「組織の中で働くには何が求められるのか？」についてディスカッション
第 12 回	グループワーク IV（プレゼンテーション）	「組織の中で働くには何が求められるのか？」についてプレゼンテーション

- 第 13 回 インターンシップに向け ①企業研究、業界研究の発表
たグループワーク①前半 ②簡単なエッセイ執筆
- 第 14 回 インターンシップに向け ①企業研究、業界研究の発表
たグループワーク②後半 ②簡単なエッセイ執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各自、実習先の情報収集や実習先へのコンタクトをとる。
- ・プレゼンテーションの準備には、授業外の時間を割く必要がある。

【テキスト（教科書）】

『キャリア体験学習の手引き』

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、エッセイおよび実習に係わる書類作成能力などにより総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

熱心に取り組むことができたとの意見が多かったので、本年度も同様のスタンスで進める。

【その他の重要事項】

- ・積極的、主体的に取り組むことが要求される。

【キャリアデザイン学部より】

ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要がある。掲示で詳細を確認すること。

【Outline and objectives】

This lecture aims to increase the motivation for working. You will develop some analytical skills and expressive power, understand social and economic phenomena, and acquire core skills for business persons.

BSP200MA

キャリア体験事前指導（A・B 展開科目
コース）

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア体験事前指導は、企業、行政など組織におけるキャリア体験（インターンシップ）の学習効果をより高めるための講義です。他者との議論によって意識や考え方を深めることを目的としています。具体的には、他の学生の考え方を知る、協働作業に慣れるといったことを狙いにグループワークをおこないます。職業、働くことを深く考えることにより働くことに対する意識を高めます。また、普段あまり考えたことがない「働く」ということについて、様々な意見のなかで、今の自分の考えをまとめます。

【到達目標】

（実習準備期間）以下3つの項目を目標とします。

1. キャリアをデザインするという意味を学習しキャリア体験学習の意義を自覚すること。
 2. 実習先の概要を理解し、働く場である組織について自分なりの考え方を持つこと。
 3. 学生モードから社会人モードへの切り替えを図ること。
- （実習中）以下3つのことを目標とします。
1. 自ら動くことの重要性を実感し実践すること。
 2. 実習先の人たちとの人間関係を構築すること。
 3. 新しい事象に対する感性を磨き、現場の状況の把握力を高め、同時に現場での問題発見能力とそれを解決する能力の重要性を実感すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

（授業の形態）

1. この授業は原則夏休みに行う体験実習の事前準備を行うためのものです。実習が要件で秋学期の「キャリア体験学習（A・B コース）（キャリア体験事前指導）」単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を終了とします。
- 2.A、B コースの二種類があります。このうち、A コースは大学が実習先を準備するものです。一方、B コースは教員の指導のもと期間内に実習先を自分で開拓します。エージェントを通してインターンシップ先を探す海外インターンシップもあります。
3. 希望者の数が多い場合には選抜します。A コースに関しては、実習先が面接試験を必須としているところも多いので、希望が必ずしも叶うわけではありません。
4. 実習先は多様です。実習期間についても開始・終了時期が異なります。通常 6、7 月に実習先にコンタクトし、原則実習は夏休みに行いますが、例外も多々ありますのであらかじめ了解しておいてください。
5. 実習先の決定及び実習後の報告は個別の面談でおこないます。

（授業の進め方）

グループディスカッションを繰り返し行います。テーマはシラバスで示した通りです。5-6 名のグループに分かれてテーマについてディスカッションを行い、それをまとめて発表するというプロセスを繰り返しおこなっていきます。グループは頻繁に組み替えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、実習先の概要	目的、キャリアデザインと体験学習、受講の心構え、社会人モード、実習先の概要、評価の仕方など、
第 2 回	グループワーク I（ディスカッション）	「インターンシップに取り組む問題意識（どこで働きたいか、どういう仕事をしたいか、なぜそう考えるのか）」をテーマにグループ討議
第 3 回	グループワーク I（プレゼンテーション）	①「インターンシップに取り組む問題意識（どこで働きたいか、どういう仕事をしたいか、なぜそう考えるのか）」をテーマに発表 ②希望先聴取と実習先調整
第 4 回	グループワーク II（ディスカッション）	「あなたは何のために働くのか？」をテーマにディスカッション
第 5 回	グループワーク II（ディスカッション）	「あなたは何のために働くのか？」をテーマにディスカッション
第 6 回	グループワーク II（プレゼンテーション）	①「何のために働くのか？」をテーマにグループ発表 ②希望先聴取と実習先調整

第 7 回	グループワークⅢ（ディスカッション）	「あなたが生きる 10 年後の社会がどのようなになっているのか？ どのようなキャリアデザインをしようとするのか？」をテーマにディスカッション
第 8 回	グループワークⅢ（ディスカッション）	「あなたが生きる 10 年後の社会がどのようなになっているのか？ どのようなキャリアデザインをしようとするのか？」をテーマにディスカッション
第 9 回	グループワークⅢ（プレゼンテーション）	「あなたが生きる 10 年後の社会がどのようなになっているのか？ どのようなキャリアデザインをしようとするのか？」をテーマに発表
第 10 回	グループワークⅣ（ディスカッション）	「組織とは何のためにあるのか？ 組織で働くとき働く人に求められるものは何か？」についてグループワーク
第 11 回	グループワークⅣ（ディスカッション）	「組織とは何のためにあるのか？ 組織で働くとき働く人に求められるものは何か？」についてグループワーク
第 12 回	グループワークⅣ（プレゼンテーション）	「組織とは何のためにあるのか？ 組織で働くとき働く人に求められるものは何か？」についてグループ発表
第 13 回	インターンシップに向けたグループワーク①	①企業研究、業界研究
第 14 回	インターンシップに向けたグループワーク②	①企業研究、業界研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の情報収集や実習先へのコンタクトをおこなってもらいます。先方に出向いて面接を受ける場合もあります。「組織とは何か」あるいは「実習先の業界」について調査研究を行ってもらいます。

【テキスト（教科書）】

『キャリア体験学習の手引き』

【参考書】

『ワークシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『ライフシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『何のために働くのか』北尾吉孝、致知出版社。
『仕事の報酬とは何か』田坂広志、PHP 文庫。
『働くということ』ロナルドドーア、中公新書。
『働く意味とキャリア形成』谷内篤博、勁草書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点、エッセイ（A4 用紙 1 枚程度）、実習に係わる書類作成能力などにより評価します。

【学生の意見等からの気づき】

事前指導、体験、後期の授業の一貫性を持たせる流れを意識して授業を構成しています。
一人ひとりの顔が見える対応ができるように、1 クラスを 1 名の教員が担当するようにしました。年間を通して丁寧に学生をケアしていくことに重点をおいています。

【その他の重要事項】

この授業は自主性・主体性を実社会で試し磨くためのものです。すべて自ら行動しないと始まらないような設計になっています。自分で電話をして受入先担当者とのコンタクトをします。受入先では自分から行動しないと仕事は始まりません。現場ではさまざまな問題が発生する。それを直に肌で感じて反応する感性やそれらに適切に対処する力を身につけてほしいと思います。気がつき、気をくばり、気がきく人材、実習ではセンスを磨いて欲しいと思います。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】

This is a lecture to enhance the learning effect of employment experience. The purpose is to deepen your awareness and thinking about work by discussing with others. Group work is done with the aim of knowing the way of thinking and values of others and getting used to collaborative work.

Through this lesson, you will increase your awareness of working by deeply thinking about your occupation and working. By knowing various opinions, you will be able to put together your ideas.

BSP200MA

キャリア体験事前指導（A・B 展開科目コース）

田中 研之輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、働き方をインタラクティブなグループワークと、学外でのインターンシップ経験（短期、中期、長期）を通じて実践的に学んでいくことを目的としています。就職活動の内定を狙いとしたものではなく、卒業後社会人として生きていく為の基礎力を身につけていきます。

【到達目標】

- ① 毎回のグループワークとプレゼンテーションにより、考える力、伝える力、まとめる力を養います。
- ② 企業分析、市場分析、自己分析、などの多角的な分析手法を身につけ、社会洞察力和適応力を磨いていきます。
- ③ インターンシップを通じて、働き方の基礎を学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義はインターン実習が要件で秋学期の「キャリア体験学習」単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を終了する。
○ A、B コースの二種類がある。A コースは大学が実習先を準備するもの、B コースは教員の指導のもと自ら期間内に希望する実習先を開拓するものである。A コースは、希望者の数が多い場合には選抜する。実習先が面接試験を必須としているところも多い。従って希望が必ずしも叶うわけではない。体験することに価値がある。
○実習先は多様である。実習期間も、開始・終了時期も異なる。通常 6、7 月に実習先にコンタクトし、原則実習は夏休みに行う。
授業の密度を高め効率化を図り授業成果を高めるために共同授業の形式も多用する。クラス分けは実習先により決定する。実習先の決定及び実習後の報告は個別に時間をとり面談を実施する。
（授業の概要）

- 実習先は教員との面談により決定するが、実習先へのコンタクトや事務手続きは学生が主体となって行う。書類作成・授受事務などは単位取得の要件である。
- 実習先を事前に調べ社会人マナーについても基礎的な知識を身につける。
- 体験学習を履修した先輩からの話を聞く機会を設ける。
- また君たちが働くことになる日本社会について考える場も提供したいと考えている。

（手続き）

- 2018 年度に学生向け履修ガイダンス後速やかに事前申込書・志望理由書・自己 PR など（予定）の書類の提出が必要である。煩瑣となるが、就活の予定だと考えてほしい。
- なお、キャリア体験学習（C コース）及びキャリア体験学習（国際）との並行履修はできない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大学から社会への移行の基礎理解	大学から社会への移行の基礎理解を深める
2	自己分析とインターンシップ先選定	自己理解ワークを実施するとともに、インターンシップ先を選定する。
3	前半メンバーの面談と実習先の仮決定、インターンシップ先と関連業界の調査、グループワーク	①前半メンバーの希望先聴取と実習先仮決定 ②逐次、実習予定先と関連業界調査の開始 ③既述のグループワーク
4	後半メンバーの面談と実習先の仮決定、実習先と関連業界の調査、グループワーク	①後半メンバーの希望先聴取と実習先仮決定 ②逐次、実習予定先と関連業界調査の開始 ③既述のグループワーク
5	グループワーク発表会①	自己理解での気づきを発表し、議論する。
6	グループワーク発表会②	業界研究での気づきを発表し、議論する。
7	異業種の業界分析①	異業種の業界研究を行う。
8	インターンシップ先外部講師招聘	体験学習を履修した先輩からの話を聞いて質疑応答
9	事前調査のグループ内発表・教員との前半メンバーの個別打合わせ	①各自の事前調査のグループ内発表と情報の共有 ②実習先に関しての教員との前半メンバーの打合せ

10	事前調査のグループ内発表・教員との後半メンバーの個別打合せⅡ	①各自の事前調査のグループ内発表と情報の共有 ②実習先に関しての教員との後半メンバーの打合せ
11	社会人基礎力を培う①	「社会で働くということ」(外部講師の予定)
12	社会人基礎力を培う②	心構え、マナー、電話のかけ方など
13	金融・銀行・証券関連の業界分析のグループワーク	金融・銀行・証券関連の業界分析のグループワークを行う
14	IT・通信関連の業界分析のグループワーク	IT・通信関連の業界分析のグループワークを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の情報収集や実習先へのコンタクト。実習先に関連して民間企業、NPO、公共団体などについて情報の収集と整理。

【テキスト（教科書）】

田中研之輔 「先生は教えてくれない就活のトリセツ」(2017 ちくまプリマー新書)

【参考書】

必要資料は適宜、講義内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、報告書（エッセイ《予定》）、実習に係わる書類作成能力などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は働き方に特化したきわめて実践的な学びの場です。インターンに採用されない経験、インターン先での失敗、上手く行かずに悩む学生もいます。失敗は成長のエンジンです。他の受講者と失敗経験も共有しながら、そこでの打開策も練り上げていきますので、働き方を学びたい学生はぜひ、受講してください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】

This course of internship is a culminating learning experience for students studying in the fields of worksites. This experience allows students the opportunity to practice the application of theory and apply the knowledge acquired through academic preparation, while learning the skills of an entry level practitioner. Experience at an internship site offering career development not only draws on major and minor course offerings, but allows the integration of course work from all fields of study during the development of professional skills.

BSP200MA

キャリア体験事前指導（A・B 展開科目コース）

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、企業や団体におけるキャリア体験（インターンシップ）に向けた皆さんの自主的な取り組みを支援することを通じて、キャリア体験の学習効果を高めることです。授業の内容は、インターンシップの意義や目的の理解、インターンシップ先の開拓・選定に向けた情報の共有、インターンシップに向けた事前準備から構成されます。

【到達目標】

（インターンシップ準備期間）

- ①インターンシップの意義や目的の理解
- ②インターンシップ先の開拓、選定に向けた実践的な情報の共有
- ③インターンシップのための事前準備（インターンシップ中）

- ①インターンシップ先で好感を持って受け入れられること
- ②働くことを通じて、何らかの気付きを得ること（働く人の仕事に対する思い、働く上での自分の得手不得手や好き嫌い等）
- ③経験を振り返り、教訓にすること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の指導のもとで、インターンシップ先を原則として自分自身で開拓する「Bコース」(国内)のみを募集します。インターンシップは5日以上、原則として夏休み期間中に体験して頂きます。開拓に向けた支援（ヒントとなる情報の提供や選考に向けたアドバイス等）は惜しみませんので、この機会に是非、自分自身で未知の世界に踏み込み、新しい出会いや経験を獲得する醍醐味を味わってみてください。なお、応募人数等によっては選考する場合がありますので、予めご了承ください。グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイング等を織り交ぜた実践的な参加型授業です。主体的、積極的な参加が必須条件だとお考え下さい。

受講の状況、ゲストのスケジュールに応じて、授業計画の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と概要、インターンシップとは
第2回	インターンシップ先の開拓・選定に向けて	①インターンシップ先の開拓に向けて必要な情報の共有 ②インターンシップサイトに関する情報交換
第3回	企業や仕事に関する基礎知識～企業・業界・ビジネスと仕事	①企業の成り立ち、業界の概要、ビジネスと仕事に関する解説 ②グループワークの目的の共有、グループ分け
第4回	先輩の事例紹介	インターンシップを開拓・経験した先輩の事例紹介と意見交換
第5回	グループワーク～作業	インターンシップの目的、開拓の手段についての意見交換、自身の方針の決定、プレゼン資料作成
第6回	グループワーク～発表	①グループワークでの気付きや考察についての発表と意見交換 ②進捗管理に関する説明
第7回	キャリア創りはもう始まっている（仮題）	ゲストスピーカー（社会人）の講話と意見交換
第8回	企業や仕事に関する基礎知識～能力開発や労働条件	企業における能力開発機会や賃金・労働時間等の労働条件に関する解説
第9回	インターンシップサイトの紹介	①インターンシップサイトの紹介と質疑 ②進捗管理表の提出と進捗確認
第10回	模擬面接・グループディスカッション	インターンシップ先開拓に向けた模擬面接・模擬グループディスカッション
第11回	模擬面接・グループディスカッションの振り返りと開拓の進捗報告	前半グループ、個別に報告
第12回	エッセイ執筆	①エッセイ執筆要領の説明、執筆 ②個別相談
第13回	エッセイ発表	インターンシップ開拓の振り返りと、インターンシップに向けた決意表明

- 第 14 回 インターンシップに向け
①社会人としての礼儀作法、電話の掛け方・とり方等のビジネスマナー
②インターンシップに向けた留意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターンシップの候補となる企業・団体等の情報収集や、企業・団体等へのコンタクト・やりとりが必要になります。インターンシップは、基本的には申込みだけではなく選考を伴いますので、企業・団体等に出向いて面接等を受けることになります。加えて、授業におけるグループワークやディスカッション・発表のための準備が必要になります。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業の資料はコピー配布か投影により、必要に応じて授業支援システムにアップします。

【参考書】

授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（グループワークやディスカッション・発表、提出物の提出等を含む）、エッセイの執筆内容、インターンシップ先の企業・団体（候補を含む）の開拓の進め方などにより評価します。発表については、発表者や発表内容だけでなく、発表準備への関与の程度・内容も評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加型のスタイルは好評でしたので、今年度も続けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン・パソコン等の情報機器。
資料は授業支援システムにアップします。また、発表等に必要の準備については、事前の指示に従って行ってください。

【その他の重要事項】

この授業は、キャリア体験（インターンシップ）の事前指導として位置づけられ、夏休み中のキャリア体験（インターンシップ）を受講条件として行う秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得とセットで、選択必修科目である体験型科目の履修を完了したことになります。この授業では、インターンシップ先を自分自身で開拓するBコース（国内）の指導を行います。必要な情報やアドバイスの提供は教員が行い、困った時にも教員が相談に乗りますが、インターンシップ先の開拓や選定、最初のコンタクトからインターンシップ終了後のフォローまで、企業・団体とのやりとりは全てご自身で行って頂きます。インターンシップ終了後には、完了確認の書類をインターンシップ先から回収・提出いただきます。相手の企業・団体等の事情によって、想定通りに物事が進まないケース、原則通りにいかないケースもあり得ますので、予めご了承ください。企業・団体とのやりとりは、自分だけの問題ではなく、法政大学の学生としての信用・評価に影響することに留意してください。教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜（原則として書類審査、必要な場合は面接）に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】

This course will support students'active preparation for their career experience (internship) and aid them to obtain better learning outcomes from the internship.

< Course Objectives >

- 1.Learn the significance and purpose of internships
- 2.Gain practical knowledge about choosing companies to apply for internship
- 3.Preparing for the internship

BSP200MA

キャリア体験事前指導（C コース） 展開科目

山岡 義卓

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金 4/Fri.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、本科目および秋学期に開講される「キャリア体験学習（C コース）」の両方を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、プロジェクト実施のための事前学習と共同プロジェクトの一部を実施する。

【到達目標】

本授業の目標は次のとおり。

- ①協力企業等の事業活動やプロジェクトのテーマ等について情報収集する。
 - ②グループワークの進め方を身につける。
 - ③プロジェクトの目標を設定し、実施計画を作成する。
 - ④プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せる。
- なお、「キャリア体験学習（C コース）」も含めて以下の 4 点が得られることを到達目標とする。
- ①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
 - ②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
 - ③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
 - ④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目および「キャリア体験学習（C コース）」を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。本科目では主にプロジェクトの事前学習に重点本科目を置き、プロジェクトの進め方や連携企業等に関する情報収集、目標設定や実施計画の作成等、プロジェクトを進めるために必要な知識や技術を習得する。そのうえで、プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せるところまで実施する。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、授業ガイダンス	授業計画の説明と受講にあたっての心構え、準備等について説明する。
第 2 回	プロジェクトの進め方	企業等とプロジェクトを進める際の基本的な方法を説明する。
第 3 回	演習①（課題抽出、整理）	実際の課題に取り組む際の事前学習として模擬演習を行う。
第 4 回	演習②（課題解決提案、発表）	前回の続きとして、課題解決提案の作成と発表を行う。
第 5 回	事例紹介	実際の企業におけるプロジェクトの進め方を事例に基づき紹介する。
第 6 回	ビジネスマナーについて	企業とプロジェクトを進めるにあたっての基本ビジネスマナー等を講義する。
第 7 回	協力企業等概要およびテーマ説明	企業等の事業概要やテーマについて説明する。
第 8 回	協力企業等との顔合わせ・テーマ設定	協力企業等と面談し、テーマ設定や実施計画の作成を行う。
第 9 回	協力企業および業界に関する事前調査	担当企業の事業概要や市場、商品等について調査を行う。
第 10 回	実施計画の作成	テーマに合わせてプロジェクトの実施計画を作成する。
第 11 回	テーマに関する調査①	テーマに関して、担当企業における現状（商品ラインナップや技術、販路等）を調査する。
第 12 回	テーマに関する調査②	テーマに関して、市場規模や競合の有無、ポジショニング等を調査する。
第 13 回	調査結果等の整理	調査結果を整理し、プロジェクト実施のための戦略を立案する。
第 14 回	中間発表会	春学期の活動内容と今後の展望等を発表し意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外にも情報収集や営業活動等を行う場合がある。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

14 回目の授業において中間発表を行う。成績は、授業内の課題およびプロジェクトへの取り組み姿勢（50 点）、中間発表（50 点）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートでは「頭を使う」「マネジメントの難しさを感じる」「考える力がつく」等のコメントが見られた。本授業は実践的な授業なので、常に自ら考えて行動することが求められることに留意すること。

【学生が準備すべき機器他】

課題等は授業支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。

【その他の重要事項】

「キャリア体験学習（C コース）」を履修する場合は、この科目を履修する必要があります。
企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。
協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】

In this course, preliminary learning to implement the project and part of the project will be executed.

BSP200MA

キャリア体験学習（A・B コース） 展開科目

中野 貴之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、インターンの経験を振り返り、共有するとともに、さらに働くことに対する意識や理解を深めていくことも目的とします。また、広くキャリアをデザインする力を養います。

【到達目標】

「理論と経験」といわれるように、大学の授業で学んだことは実際の経験を積むことにより一層深まっていきます。実際に働いて得た経験値を軸に、働く場、さらには広く社会に対する理解を深め、人間形成の基礎を築くことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①グループで実践経験を振り返る。
- ②職場体験を振り返り、新たな実践課題に取り組む。
- ③エッセイの執筆：インターンシップを通して何を学んだのか、どのような経験をしたのか、自分の成長、自分の課題をテーマに執筆する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実習の報告とオリエンテーション	①夏休みの実習の振り返り ②秋学期授業の進め方の説明
第 2 回	グループワークⅠ（インターンシップ振り返り）	①グループでのキャリア体験の共有（各自から報告、他人の体験をノート） ②（10 分間面談）教員に実習先での経験を整理して話す
第 3 回	秋学期の課題説明とグループワーク	①新たなグループ分け ②プロジェクトの進め方について説明 ③グループで打ち合わせ
第 4 回	社会人との対話①	これからの社会、生き方、働き方についてゲストと議論①
第 5 回	社会人との対話②	これからの社会、生き方、働き方についてゲストと議論②
第 6 回	業界、企業分析の基礎	業界、企業分析について春学期よりも詳しく説明
第 7 回	グループワークⅡ①	特定の業界にフォーカスして、過去、現在を分析し、将来についてディスカッション①
第 8 回	グループワークⅡ②	特定の業界にフォーカスして、過去、現在を分析し、将来についてディスカッション②
第 9 回	グループワークⅡ③	特定の業界にフォーカスして、過去、現在を分析し、将来についてディスカッション③
第 10 回	グループワークⅡ④	発表資料の作成、最終調整
第 11 回	グループワーク発表①	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション（チーム 1、2）
第 12 回	グループワーク発表②	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション（チーム 3、4）
第 13 回	グループワーク発表③	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション（チーム 5、6）
第 14 回	1 年間の自分のインターンシップ経験の振り返り	事前指導からインターンシップ、秋学期授業までのすべてのプロセスについて振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表準備のため授業時間外に時間をとられることがある。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

実習実績、実習関連書類、平常点および報告書により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

熱心に取り組んだとの意見が多かったため、本年度も同様のスタンスで進める。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（A+～C）した場合のみ履修可能

【Outline and objectives】

This lecture also aims to reflect on the experience of the intern, to share it, and to deepen the awareness and understanding about further work. You will develop the ability to design careers.

BSP200MA

キャリア体験学習(A・Bコース) 展開科目

酒井 理

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「学び」と「働く場での実践」をPDCAのサイクルを実践することで、自分だけの学びの方法の構築、自分だけの学びの体系を獲得することを目的とします。

授業の中では、就業体験を振り返ることで、自分自身を深く分析し、自らの仕事に対する考え方を身につけます。未来志向の考えを学び、キャリアをデザインする力を身につけます。

【到達目標】

インターン経験 Do を振り返り、その経験を整理しながら改めて、Check:仕事とは何なのか、働くとはどういうことかについて、自分なりに整理することを目的にして、授業を進めます。Check および Act を一通り経験することで、実践を通じた学びの方法をラフではありますが獲得してもらいたいと思います。また PDCA サイクルのうちに「学び」を取り入れていくことも重要です。経験を軸にした「学び」を行っていくことで、自分という人間を豊かにしていく方法論を身につけていくことが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

①グループで実践経験の振り返りを行います（エッセイを書くための準備を行います）

②職場体験の振り返りを生かして、新たな実践課題に取り組みます

③エッセイの執筆：インターンシップを通して何を学んだのか、どのような経験をしたのか、自分の成長、自分の課題をテーマに執筆する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	実習の報告とオリエンテーション	①夏休みの実習の振り返り（ショートスピーチ） ②秋学期授業の進め方の説明
第2回	グループワークⅠ（インターンシップ振り返り）	グループでのキャリア体験の共有（各自から報告、他人の体験をノート）
第3回	グループワークⅠ（インターンシップ振り返り）	グループでのキャリア体験の共有（各自から報告、他人の体験をノート）
第4回	秋学期の課題説明とグループワーク	①新たなグループ分け ②プロジェクトの進め方について説明 ③グループで打ち合わせ
第5回	社会人とのトーク①	10年後の社会、生き方、働き方を考えるヒントをくれるゲスト①（20代の社会人）
第6回	社会人とのトーク②	10年後の社会、生き方、働き方を考えるヒントをくれるゲスト②（30代の社会人）
第7回	グループワークⅡ①	10年後の自分達が関わる社会における働き方、生き方を自分たちの考えで描き、そこで自分たちはどう働き、どう生きていくのか、どのように生きていくのかを考える。 あるいは、特定の業界にフォーカスして、その業界が10年後どのようになっているかを考えて、そこでの働き方がどのようになるのかを考える、というテーマでディスカッション
第8回	グループワークⅡ②	資料収集、調査を実施してテーマ研究を進める。
第9回	グループワークⅡ③	文献データ、調査データを分析してテーマ研究を進める。
第10回	グループワークⅡ④	発表資料の作成、最終調整を行う。
第11回	グループワーク発表①	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。（チーム1、2）
第12回	グループワーク発表②	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。（チーム3、4）
第13回	グループワーク発表③	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。（チーム5、6）
第14回	1年間の自分のインターンシップ経験の振り返り	事前指導からインターンシップ、秋学期授業までのすべてのプロセスについて振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①授業時間外にインタビューや作品制作に時間をとられる可能性が高い。②この機会にキャリアデザインとは何かをじっくり考える時間をもってもらいたい。③働く場として関心ある業態・業界、企業・NPO・公共団体についての情報を種々のメディアによりフォローすることを薦める。④実習先とのコンタクトが継続される場合がある。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

『ワークシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『ライフシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。
『何のために働くのか』北尾吉孝、致知出版社。
『仕事の報酬とは何か』田坂広志、PHP 文庫。
『働くということ』ロナルドドーア、中公新書。
『働く意味とキャリア形成』谷内篤博、勁草書房

【成績評価の方法と基準】

実習実績、実習関連書類の整備、平常点、報告書（エッセイ《予定》）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

インターンシップ経験をしっかりと振り返ることのできる授業構成にしました。

【その他の重要事項】

この授業は自主性・主体性を実社会で試し磨くためのものです。すべて自ら行動しないと始まらないような設計になっています。自分で電話をして受入先担当者とのコンタクトをします。受入先では自分から行動しないと仕事は始まりません。現場ではさまざまな問題が発生する。それを直に肌で感じて反応する感性やそれらに適切に対処する力を身につけてほしいと思います。気がつき、気をくばり、気がきく人材、実習ではセンスを磨いて欲しいと思います。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（A+～C）した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】

This lesson is aimed at building your own way of learning and acquiring your own learning system by practicing the PDCA cycle by "learning" and "practicing in the workplace".

In class, by reviewing the employment experience, you deeply analyze yourselves and learn how to think about your future work.

And you will learn the future-oriented ideas and acquire the ability to design careers.

BSP200MA

キャリア体験学習（A・Bコース） 展開科目

田中 研之輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では働き方を実践的に学びながら、そこでの失敗経験を共有し、打開策を見つけ出していきます。本講義は大学内/外の相互補完的な学びに特徴があり、卒業後の生き方をデザインしていく力と方向性を学んでいきます。

【到達目標】

- ①働く場・働き方・働く人の多様性を認識する。
- ②実習を言語化する。
- ③働くとは何かを改めて考え、キャリアデザインする意識を明確化する。
- ④伝えるためのインタビューの仕方を学ぶ。
- ⑤キャリアデザインのドライバー（駆動力）を探索する。
- ⑥インターンシップの総括を行い、社会人としての基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 実習体験をグループワークにより共有し働く現場の多様性を認識し②体験を教員に対する報告（面接形式）・グループワークでの発言・スピーチ（個人発表）・エッセイ執筆（編集により文集の作成）により言語化し③働くことを講義やグループワークで改めて考察する。グループワークのテーマとしては「エッセイで何を伝えたいか」、「キャリアドライバーを探す」などを予定。④インタビューの仕方をプロから学んだ上で⑤実際にインタビューを行いチームで映像作品などを制作し⑥発表する。グループワークが中心のプログラムである。外部講師の講義も予定するが、あくまでも君たちでつくりあげる授業にしたい。リーダーシップやフォロワーシップを学び、また聴き方、アサーションやファシリテーションなどのスキルを試す良い機会を提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実習の進捗と振り返り	秋学期授業概要の説明と実習の振り返り。実習日誌などの書類作成・提出、グループワークの準備
2	○教員との個別面談（面接形式）Ⅰ ○グループワーク（実習先での体験共有）Ⅰ	○3分間スピーチ（教員に実習先の話をもとめる） ○グループワーク「エッセイで何を伝えたいか」を予定
3	○教員との個別面談（面接形式）Ⅱ ○グループワーク（実習先での体験共有）Ⅱ	同上 但し、エッセイのテーマを決める。
4	○教員との個別面談 Ⅲ ○グループワーク制作に向けて Ⅰ	同上 ○グループワーク「キャリアドライバーを探す」を予定
5	実習発表会	エッセイを踏まえて実習報告（スピーチ）を行う。
6	グループワーク制作に向けて Ⅱ	○グループワーク「キャリアドライバーを探す」を予定
7	講義「働くとは？」	現場で指導されている外部講師をお迎えする（予定）
8	キャリアモデルに学ぶ	現場でインタビューを行い映像を制作されているプロをお迎えする（予定）。
9	新規事業の体験①	新規事業の開発手順・注意点を学ぶ。
10	新規事業開発の体験②	新規事業開発のモデルをつくる
11	新規事業開発の体験③	新規事業開発案を相互に検討し、練り上げる
12	新規事業発表会①	企業関係者を招聘し、新規事業の発表会を実施する
13	新規事業発表会②	企業関係者を招聘し、新規事業の発表会を実施し、フィードバックから再検討していく
14	インターンシップ報告会	インターンシップでの学びを報告し、総括していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①授業時間外にインタビューやインターンシップに時間をとられる可能性が高い。②この機会にキャリアデザインとは何かをじっくり考える時間をもってもらいたい。③働く場として関心ある業態・業界、企業・NPO・公共団体についての情報を種々のメディアによりフォローすることを薦める。④実習先とのコンタクトが継続される場合がある。

【テキスト（教科書）】

田中研之輔 「先生は教えてくれない就活のトリセツ」（ちくまプリマー新書）

【参考書】

授業内で適宜、伝える

【成績評価の方法と基準】

実習実績、実習関連書類の整備、平常点、報告書により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前期での実践的な学び、夏期休業期間中のインターンシップ経験を通じて、毎年、後期の本講座では飛躍的な成長をみせてくれます。少人数でインタラクティブに学べることの強みを最大限にいかしていきましょう。

【その他の重要事項】

○大変な時代になっている。まずは自分のことを考える。それから他人のことを考えよ。自分のことは自分で決める。生きる覚悟と社会で役に立つという高い志を持たないといけない。

○先が見えにくい時代だといわれている。

経済のグローバル化に加え、格差の拡大、地球環境の悪化など問題は数多い。けれど、いつの時代も変わらないことがある。

それは、社会は人で成り立っているという事実だ。

キャリアデザイン学部では、人のエキスパートを育てている。

自分自身を磨き、人の活かし方を学び、人とともにある未来を考える。

人の専門家の視点から、さまざまなフィールドを見渡している。

ダイヤはダイヤでしか磨けないように、人は人でしか磨けない。

だから授業は座学にとどまらない。

フィールドワークや体験学習、インターンシップなど、学ぶ分野も幅広い。

物事を多角的に観る眼を鍛えるためだ。

人について深く学ぶことで、自分自身を客観視する力を身につける。

自分と向き合いながら「やれること」と「やれないこと」を見極める。

キャリアデザイン学部での学びは、生涯学習の第一歩であり、その積み重ねが、社会で通用する力となる（キャリアデザイン学部のパンフレットを引用）。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（A+～C）した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】

This course of internship is a culminating learning experience for students studying in the fields of worksites. This experience allows students the opportunity to practice the application of theory and apply the knowledge acquired through academic preparation, while learning the skills of an entry level practitioner. Experience at an internship site offering career development not only draws on major and minor course offerings, but allows the integration of course work from all fields of study during the development of professional skills.

BSP200MA

キャリア体験学習（A・Bコース） 展開科目

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、夏休み中のキャリア体験（インターンシップ）をさまざまな視点から振り返り、教訓として整理してこれからのキャリアにつなげることです。キャリア体験について複数のテーマ（どのような開拓・選定が満足度の高いインターンシップにつながるか、キャリア体験の失敗から何を学ぶか、キャリア体験での気付きからこれからのキャリアについて考える等）を設定し、それぞれのテーマをグループで分担して分析を行い、クラス全体で共有します。また、業界研究を通じて業界に関する理解を深め、これからのキャリアを考える上での参考とします。

【到達目標】

以下を到達目標とします。

①キャリア体験を通じた気付きの分析

②キャリア体験から得られた教訓の整理

③キャリア体験を踏まえてこれからのキャリアについて考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、春学期の「キャリア体験事前指導（A・Bコース）」（国内）の修得と、夏休み中のキャリア体験（インターンシップ）が受講条件となります。秋学期の前半はキャリア体験に関する複数のテーマを設定し、グループワークを通じてコンテンツを作成し、発表して頂きます。キャリア体験の内容は、クラス全体で共有し、分析結果や得られた示唆は今後本授業を受講する後輩等にも公開します。他のグループが追加的なインタビューやアンケート調査を実施する場合に協力してください。

後半には、業界研究の一環として、ゲストの招聘（業界は仮のものです）を予定しています。ゲストのスケジュールや受講の状況に応じて、授業計画の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。

教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①授業の進め方の説明（キャリア体験のコンテンツについてのディスカッション、グループの担当テーマと役割分担の決定） ②インターンシップについて特段の報告事項（トラブル、気になる点等）がある場合の個別面談
第 2 回	グループワーク～フレームワークの決定と協力依頼	①コンテンツのフレームワークの決定と進め方や他グループへの協力依頼事項の整理 ②フレームワークの発表と他グループへの協力依頼
第 3 回	キャリア体験の報告（事務職等）	クラス全体に対する個人の報告と質疑～事務職を中心に
第 4 回	キャリア体験の報告（営業職等）	クラス全体に対する個人の報告と質疑～営業職を中心に
第 5 回	キャリア体験の報告（その他職種）とグループワーク～調査の設計・実施等	①クラス全体に対する個人の報告と質疑～その他職種を中心に ②グループワークの続き
第 6 回	グループワーク～コンテンツの検討・作成	調査結果の分析とコンテンツの作成
第 7 回	グループワーク～発表	各グループのコンテンツ発表と意見交換
第 8 回	業界研究のイントロダクション	①業界研究の目的、方法、スケジュール等に関する解説 ②エッセイ執筆要領の提示
第 9 回	業界研究～映像製作	企業の実務家の講話と質疑～映像製作の現状と、自分自身のキャリア
第 10 回	業界研究～サービス業	企業の実務家の講話と質疑～サービス業の現状と、自分自身のキャリア
第 11 回	業界研究～流通業界	企業の実務家の講話と質疑～流通業界の現状と、自分自身のキャリア
第 12 回	業界研究の総括と、マツチングの現状と課題	①業界研究の振り返り ②業界研究トライアルの課題提示 ③エッセイ第一稿提出

発行日：2019/5/1

- 第 13 回 課題発表～広告・マスコミ・情報サービス業等 ①業界研究トライアルの発表～広告・マスコミ・情報サービス業等
②エッセイ第一稿に対するフィードバック
- 第 14 回 課題発表～その他業界 ①業界研究トライアルの発表～その他業界
②エッセイ最終稿の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワーク（キャリア体験の振り返り、分析や教訓の整理）や業界研究トライアル等の発表準備、エッセイ執筆が必要になります。
インターンシップ終了後も、インターンシップ先とのやりとりが継続する場合もあります。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業の資料は授業支援システムにアップします。それ以外に参考資料がある場合は、適宜授業で配布します。

【参考書】

授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

キャリア体験の実績（体験の内容、提出書類の整備・提出状況を含む）、平常点（グループワーク、ディスカッション、発表、提出物の提出状況等を含む）、エッセイなどにより評価します。
発表については、発表者や発表内容だけでなく、発表準備への関与の程度・内容も評価します。

【学生の意見等からの気づき】

キャリア体験の振り返りが好評でしたので、今年度も継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器。
資料は授業支援システムにアップします。また、発表等に必要の準備については、事前の指示に従って行ってください。

【その他の重要事項】

春学期のキャリア体験事前指導を修得し、キャリア体験（インターンシップ）を完了したことが本授業の受講条件となります（やむを得ない事情により完了の時期が若干ずれ込む場合は個別にご相談ください）。
授業におけるグループワークや発表には、主体的、積極的に参加してください。
キャリア体験中にトラブルや先方への迷惑行為等があった場合は、極力早く個別に報告してください。相談のうえ、必要な対応を行って頂きます。
インターンシップ関連の書類一式（先方の確認印が必要なものを含む）の提出をもってインターンシップの実施を確認しますので、必ず提出してください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「キャリア体験事前指導」を修得（A+～C）した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】

This course is designed to help students develop their careers. Students will be able to review their summer internship experience, organize the results of their analysis, and learn from them. First, students will decide upon a theme. Students will analyze each theme for each group and share their analyses. Additionally, students will study industry and business in order to think about their future careers in depth.

BSP200MA

キャリア体験学習（Cコース） 展開科目

山岡 義卓

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 4/Fri.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、春学期開講の「キャリア体験事前指導（Cコース）」と本科目の両方を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、春学期にスタートしたプロジェクトを継続して実施し、最終的な成果に結び付け、プロジェクト全体の成果発表を行うところまで実施する。

【到達目標】

本科目の目標は次のとおり。

- ①春学期にスタートしたプロジェクトを目標に向けて継続する。
- ②期間内に成果に結び付けられるようにプロジェクトを終結させる。
- ③これまでの活動を取りまとめ発表する。
- ④プロジェクトを振り返り、学習内容を確認する。

なお、「キャリア体験事前指導（Cコース）」も含めて以下の 4 点が得られることを到達目標とする。

- ①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
- ②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
- ③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
- ④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「キャリア体験事前指導（Cコース）」および本科目を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。

本科目では主にプロジェクトの実施と、成果のとりまとめと発表、振り返りを実施する。春学期に作成した実施計画書に基づきメンバー全員が協力しプロジェクトの成果が得られるように活動する。プロジェクト終了後、成果を取りまとめ発表し、活動の振り返りを行う。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の活動振り返り	春学期の活動内容を振り返り、進捗に応じて実施計画を見直す。
第 2 回	企画案の作成	テーマに沿って企画案を作成する。
第 3 回	追加調査	企画案の実現性を高めるために必要な情報を収集するために追加調査等を行う。
第 4 回	企画案のブラッシュアップ	追加調査の情報等を参照し企画案をブラッシュアップし、協力企業等に提案できるレベルの企画書として完成させる。
第 5 回	企画の提案と意見交換	企画を協力企業等に提案し、実施可能性について意見交換する。
第 6 回	企画実施の準備	販売促進やイベント実施等、企画実施のための準備作業を行う。
第 7 回	企画の実施	販売促進やイベント実施等の企画を実施する。
第 8 回	実施結果の評価	実施結果をアンケート調査や販売実績等により評価する。
第 9 回	実施結果の振り返りと改善策の検討	実施結果と評価を踏まえて自分たちの実施した結果を振り返り、改善策を検討する。
第 10 回	プレゼンテーション講座	成果報告会に向けてプレゼンテーションのつくり方について説明する。
第 11 回	プレゼンテーション資料作成	成果報告会に向けてプレゼンテーション資料の作成等準備作業を行う。
第 12 回	成果報告会予行演習	成果報告会に向けて予行演習を行う。
第 13 回	成果報告会	活動内容について成果報告会を行う。
第 14 回	プロジェクトの振り返り	春学期からの活動を含めてこれまでの振り返りと意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外にも情報収集や営業活動等を行う場合がある。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

グループごとに成果報告書の作成および成果報告会におけるプレゼンテーションを行う。成績は、プロジェクトへの取り組み姿勢（50 点）、成果報告書および成果発表（50 点）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートでは「頭を使う」「マネジメントの難しさを感じる」「考える力がつく」等のコメントが見られた。本授業は実践的な授業なので、常に自ら考えて行動することが求められるということに留意すること。

【学生が準備すべき機器他】

課題等は授業支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。

【その他の重要事項】

この科目を履修するには、「キャリア体験事前指導（Cコース）」を履修していることが条件になります。

企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。

協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「キャリア体験事前指導」を修得（A+～C）した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】

In this course, we will conduct the project and present the results.

BSP200MA

キャリア体験事前指導（国際） 展開科目

御園生 純

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア体験事前指導（国際）は、キャリア体験事前指導科目の 1 授業であり、海外で日本人を含む各国の人々のキャリアデザインを学び、その現場を実体験することによって、各国のキャリアデザインの歴史と現状、キャリアデザインの国際性・国際化を理解することを授業の到達目標とする。

【到達目標】

- ・異文化理解・国際理解とは何か、について、自分なりの回答を見つけること。
- ・自分と異なるものを理解することについて文化・文化を中核に考察体験する。
- ・日本・ベトナム両国の間の様々な問題や市民レベルでの交流のあり方について理解を深める。
- ・IT 機器の取り扱いやモバイルコンピューティングを駆使した海外での研究活動を体験する。
- ・本研修ではベトナム・ホーチミン市の「ホーチミン市工科大学」(Ho Chi Minh City University of Technology) の日本語学科の学生との共同テーマを設定し、双方で意識調査・聞き取り調査などを行うことで、これからの両国の市民レベルでの国際交流のあり方を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①ベトナムと日本を取り巻く国際環境や国際交流の「光と影」に焦点を当て、それらを両国双方からの視点で分析するため、ベトナムの学生との合同調査を研修の主眼とする。
 - ②応募書類の選考と面接により選抜を行う。
 - ③プログラム経費、往復旅費、滞在費の約半額は、学部が補助する。
 - ④大学が規定する海外渡航保険に入ることを義務とし、大学が規定する自己責任を明記した書類を署名・捺印したうえ提出する。
 - ④学部による補助金の給付は、在籍中 1 回限りとする。
- 受講対象者について
- ① 2 年、3 年、4 年生を対象とする。
 - ②指定された体験学習期間フルに参加でき、異文化へ理解への積極性を持った学生であり、相応の社会性があることが前提となる。とりわけフィールドワークなどでは個人的な活動となるため、集団行動よりも個人での活動が主となることを前提に自律的な資質が求められる。
 - ③ IT 機器の活用やコミュニケーションスキルの向上に対して積極的な意思のある学生であること

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	各自自己紹介と本授業履修の動機について履修者同士のディスカッション
2	授業の説明	研修の狙いと目的について ①エクスポージャー理論を踏まえたフィールドワーク ②現地でのヒアリング
3	ベトナムの概要	ベトナムという国のイメージ・・・メディアをつうじて
4	ベトナム理解 (1)	①ベトナムの歴史とベトナム戦争 ②ベトナムと日本の関係
5	ベトナム理解 (2)～ことばと文化・ベトナム語を知る、理解する。	①ベトナムの固有文化 ②ベトナム語の特徴について
6	ベトナム理解 (3)～現代ベトナムを形作る歴史的経緯と社会・経済体制	メディアに描かれるベトナム～ベトナム戦争/ベトナムの食
7	現地協力校とのディスカッション	共同研究を行う現地の学生との顔合わせと討議
8	ベトナム語会話	現地での生活に必要なベトナム語とは
9	共同研究テーマ設定 (1)	研究テーマについての決定と現地での訪問/ヒアリング先の選定
10	共同研究テーマ設定 (2)	研究テーマについての決定と現地での訪問/ヒアリング先の選定
11	ベトナム戦争理解	ベトナム戦争とは？ 映像資料を通じての理解
12	日越双方での意識調査の実施 (1)	意識調査の設問の作成と実施
13	日越双方での意識調査の実施 (2)	意識調査の集計
14	春学期授業総括	意識調査の調査フィールドワークテーマの最終確認/ヒアリング対象の確定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示した個人毎の調査や情報収集については必ず授業前におえること。ベトナム語学習については毎回の授業で実施した内容を次回までに復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

他は授業中に指示します。

【参考書】

授業時に指示。

【成績評価の方法と基準】

遅刻と欠席は 1 回でもあつてはならない授業である。
著しく欠席の目立つ場合は海外研修への参加を許可しない。その場合は当然ながら本授業は未履修となる。

【学生の意見等からの気づき】

自主性と主体性を重視します。

【その他の重要事項】

【重要】履修にあたっての留意事項

- ・団体行動ではなく、個人を主体とした研修活動に耐えること。
- ・最終目的は現地での研修後秋学期に着手する報告書の策定にある。
- ・IT 機器・モバイルコンピューティング・ネットワーク技術に対する習得意欲があること
- ・最新のプレゼンテーション技術の習得に対する意欲があること。
- ・欠席しないこと
- ・この研修はベトナムの学生グループとの共同研究活動に主眼が置かれるため、ベトナム滞在中に自律的で主体的な行動と生活を営むことができること

【Outline and objectives】

The aims of this lecture is understand the history and current situation of career design in Vietnam, internationalization / internationalization of career design

BSP200MA

キャリア体験学習（国際） 展開科目

御園生 純

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア体験学習（国際）は、キャリア体験科目の 1 授業であり、海外で日本人を含む各国の人々のキャリアデザインを学び、その現場を実体験することによって、各国のキャリアデザインの歴史と現状、キャリアデザインの国際性・国際化を理解することを授業の到達目標とする。

【到達目標】

- ・前期～現地での調査活動を踏まえ、現地での交流対象校であるホーチミン工科大学（HUTECH）のベトナムの学生との共同研究テーマについての報告書を作成する。
- ・年度末の報告会に向けての準備。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①ベトナムと日本を取り巻く国際環境や国際交流の「光と影」に焦点を当て、それらを両国双方からの視点で分析するため、ベトナムの学生との合同調査を研修の主眼とする。
- ②応募書類の選考と面接により選抜を行う。
- ③プログラム経費、往復旅費、滞在費の約半額は、学部が補助する。
- ④大学が規定する海外渡航保険に入ることを義務とし、大学が規定する自己責任を明記した書類を署名・捺印したうえ提出する。
- ④学部による補助金の給付は、在籍中 1 回限りとする。

受講対象者について

- ① 2 年、3 年、4 年生を対象とする。
- ②指定された体験学習期間フルに参加でき、異文化へ理解への積極性を持った学生であり、相応の社会性があることが前提となる。とりわけフィールドワークなどでは個人的な活動となるため、集団行動よりも個人での活動が主となることを前提に自律的な資質が求められる。
- ③ IT 機器の活用やコミュニケーションスキルの向上に対して積極的な意思のある学生であること

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	後期授業の概要と各自の作業分担について
2	ベトナム現地研修の総括（1）	現地で収集した情報の整理と分類について
3	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（1）	日本とベトナムの間における様々な社会問題の整理
4	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（2）	各グループが現地での調査やヒアリングを通じて収集した情報を整理する。
5	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（3）	ベトナム・日本双方で実施したアンケート調査結果についての比較検証を行う
6	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（4）	アンケート調査の分析に基づく日越両国におけるキャリアデザインのイメージの差異について検証する
7	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（5）	各自報告書の章立てと全体構成の骨子を検討する
8	レポート作成（1）	各ワークグループ毎に考えた全体構成案について発表～意見交換をする
9	レポート作成（2）	各グループ毎のレポート概要のプレゼンテーション
10	レポート作成（3）	各グループの執筆原稿をまとめ、最終報告書を完成させる
11	学内発表の準備（1）	発表の骨子と構成の検討
12	学内発表の準備（2）	期末の最終発表会で利用するプレゼンテーション技法について検討～決定する
13	学内発表の準備（3）	発表の練習とプレゼンテーションソフトの修正
14	学内発表の準備（4）	聴衆に何を訴えるのか、またベトナムと日本・両国の交流の「光と影」についてのように紹介するのか、の検討と精査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特にありません。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

参加・取り組みの姿勢、体験学習の日誌、最終レポート、プレゼンテーション、共同研究を進める上での積極性などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自主性を求める

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC プレゼンテーションソフト、デジタルカメラ、情報端末

【その他の重要事項】

この科目は外国でキャリア体験学習を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【履修条件】

本科目は「キャリア体験事前指導（国際）」を習得（A+～C）した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】

The aims of this lecture is understand the history and current situation of career design in Vietnam country, internationalization / internationalization of career design

BSP200MA

キャリア体験事前指導（国際） 展開科目

笹川 孝一、趙 宏偉、郭 艶娜

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「キャリア体験学習（国際・台湾）」の参加者のための事前指導である。

キャリアデザイン学部では、国際的な視野の下でキャリアデザインについて学ぶこと、および、現場でキャリアデザインについて学ぶことを大切にしてきた。

「キャリア体験学習（国際・台湾）」はこのことを、日本と関係が深い台湾を舞台にし、台湾の大学生や法政大学の台湾人卒業生との交流、企業における研修を大事に行うものである。

この授業では、現地研修を行う上で必要な知識、言葉等について学び、プログラム参加の動機や希望を交流し、その意欲を高め、有意義で安全な研修の準備を行う。

【到達目標】

- ①「キャリア体験学習（国際・台湾）」プログラムの詳細を理解する。
- ②研修に必要な知識を身につけ、現地台湾の歴史や文化、今後の課題について理解する。
- ③また、台湾の若者の希望、法政大学の台湾人卒業生の台湾での活躍、台湾における日本や日本人、日本企業等の貢献などについて理解を深める。
- ④受講生の希望や研修企業を踏まえた、具体的な研修プログラムの修正作業を行い、一人一人の目標を設定する。
- ⑤現地で必要な最低限の中国語を学ぶ。
- ⑥研修のしおり作成など、有意義で安全な研修のための準備を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①教員が研修プログラムのアウトラインを説明する。
- ②学生の希望を出し合って、有意義で安全な研修プログラムを仕上げる。
- ③そのために、必要な知識、中国語の習得、しおり作りなどを行う。
- ④一人一人の主体性を重んじるとともに、組織的な行動と協力を学び、現地研修のイメージをクリアにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介 プログラムの概要説明
第 2 回	台湾事情① 現地で必要な中国語学習①	台湾の歴史と文化 ～アジア・太平洋の広がりの中で～ グループワークと発表 中国語を学ぶ
第 3 回	台湾事情② 現地で必要な中国語学習②	台湾の経済と企業 グループワークと発表 中国語を学ぶ
第 4 回	台湾事情③ 現地で必要な中国語学習③	台湾の若者たち グループワークと発表 中国語を学ぶ
第 5 回	台湾と日本① 現地で必要な中国語学習④	台湾と日本とのかかわり ～第二次大戦まで グループワークと発表 中国語を学ぶ
第 6 回	台湾と日本② 現地で必要な中国語学習⑤	台湾と日本とのかかわり ～第二次大戦後から現在 グループワークと発表 中国語を学ぶ
第 7 回	台湾と日本③ 現地で必要な中国語学習⑥	台湾に貢献した日本人たち グループワークと発表 中国語を学ぶ
第 8 回	台湾と日本④ 現地で必要な中国語学習⑦	台湾の日系企業、日本の台湾企業 グループワークと発表 研修企業を決める 中国語を学ぶ
第 9 回	台湾と法政大学 現地で必要な中国語学習⑧	法政大学と台湾のつながり グループワークと発表 中国語を学ぶ
第 10 回	研修プログラムの修正 現地で必要な中国語学習⑨	各人の研修目的を語る 一人一人の発表 中国語を学ぶ
第 11 回	研修プログラムの確定① 現地で必要な中国語学習⑩	研修のしおり作成① グループワークと発表 中国語を学ぶ

発行日：2019/5/1

第 12 回	研修プログラムの確定② 現地で必要な中国語学習⑪	研修のしおり作成② しおりを完成させる 中国語を学ぶ
第 13 回	まとめ 現地で必要な中国語学習⑫	前期のまとめを行う しおりを見ながらグループワークを行い、発表する 中国語を学ぶ
第 14 回	直前チェック	有意義で安全な研修を実現するための直前チェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読む
必要な資料収集
研修のしおりを作る
荷物、パスポートなどの等の事前準備

【テキスト（教科書）】

野島 剛 『台湾とは何か』（ちくま新書）

【参考書】

赤松 美和子、若松 大祐『台湾を知るための 60 章』明石書店

【成績評価の方法と基準】

授業の出席と積極的参加
テキストの熟読
必要な情報の積極的収集
研修プログラム修正作業、しおりづくりへの貢献
自主性を生かしたチームさくづくりへの貢献
これらによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生がこのプログラムの成果をまとめて報告書を作成しているのので、報告書に記載された学生からの声を取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、Office

【その他の重要事項】

対象者は、2～4 年生。
費用の半額を学部が助成する。
この授業の受講希望者は、3 月末のガイダンスに参加し、学部窓口に参加希望を申請するものとする。
参加者は、面接を経て決める。
授業は、笹川孝一、趙宏偉、郭艶娜の 3 名が等分して行う。
授業に際しては、夏の研修に参加するという前提で、研修に関する自分自身とチームの課題をしっかりとイメージできるようにしてください。

【Outline and objectives】

Taiwan Study for the Summer Session

BSP200MA

キャリア体験学習（国際） 展開科目

笹川 孝一、趙 宏偉、郭 艶娜

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①現地研修を踏まえて、一人一人が、個人として、またチームとして、台湾で学んだことを整理する。
- ②台湾の学生との協力の可能性を検討する。
- ③「キャリア体験学習（国際・台湾）」プログラムについての、学生自身による評価を行い、翌年のプログラムへの改善案を提案する。
- ④以上をまとめた報告書を作成する。
- ⑤そして、年度末の学内発表を準備する。

【到達目標】

- ①事前指導と現地研修を踏まえて、一人一人が体験を整理する。
- ②参加者全体として学んだことを整理する。
- ③台湾の学生との協力の可能性について、可能性を整理する。
- ④「キャリア体験学習（国際・台湾）」プログラムについての、学生自身による評価を行い、翌年のプログラムへの改善案を提案する。
- ⑤以上を内容とする、報告書を作成する。
- ⑥年度末の報告会に向けての準備を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

現地研修を踏まえて、学生の体験を生かした振り返りを行い、報告書作りに向かって、学生と協議しながら勤める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現地研修の振り返りと授業の進め方についての協議	秋学期の授業計画を教員が提示し、協議のうえで決定する。
第 2 回	現地研修の振り返りとポスター作り①	一人一人が振り返り、台湾体験を語り、ポスター制作準備を行う
第 3 回	現地研修の振り返りとポスター作り②	ポスター制作を行う
第 4 回	現地研修の振り返りとポスター作り③	ポスターを修正、完成させる。
第 5 回	報告書の計画①	グループワークによって、報告書のイメージ、構成、レイアウト等を作る。
第 6 回	報告書の計画②	報告書の骨格を決め、工程表を作成し、仕事の分担を決める。
第 7 回	報告書作り①	報告書の原稿を執筆する。
第 8 回	報告書作り②	報告書の原稿を執筆する（続き）
第 9 回	報告書作り③	報告書の研修作業を行う。
第 10 回	報告書作り④	印刷と製本を行う。
第 11 回	報告書の合評会①	完成した報告書を味わい、研修を振り返る。
第 12 回	学内発表会の準備①	パワーポイント作成
第 13 回	学内発表会の準備②	リハーサルと修正
第 14 回	プログラム全体の振り返りを行う。	春学期、夏季研修、秋学期の全体を通してのまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地で入手した資料の整理と読み込み。
必要な参考文献の読み込み。
現地へのお礼の手紙を書く。
報告書の原稿執筆、編集作業。
学内発表会への参加

【テキスト（教科書）】

野島 剛『台湾とは何か』ちくま新書

【参考書】

赤松 美和子、若松 大祐『台湾を知るための 60 章』明石書店

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と積極的参加
発表と報告書作りへの貢献
学内発表会準備への参加と貢献

【学生の意見等からの気づき】

学生がこのプログラムの成果をまとめて報告書を作成しているのので、報告書に記載された学生からの声を取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、office

【その他の重要事項】

・春学期に引き続き、授業は、笹川孝一、趙宏偉、郭艶娜の3名が等分に担当する。

・夏の研修体験を振り返って、新しい発見、喜び、楽しさ、驚き、困難などを、一人一人の中で、またチームとして整理してください。

・そして、そこで得られた知識や技、知恵を自分自身の中で、法政大学キャリアデザイン学部の学生チームとして定着、蓄積し、他の人たちに伝えてください。

【Outline and objectives】

Taiwan Study after the Summer Session

BSP200MA

メディアリテラシー実習Ⅰ 展開科目

坂本 旬

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア・リテラシーのコア・コンセプトと映像言語の基本を学ぶ

【到達目標】

メディア・リテラシーの概念を理解し、映像言語の基礎知識および基本的な映像制作能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

メディア・リテラシーの基礎概念（コア・コンセプト）を学びながら映像制作の基本的な技法を習得する。前半はテレビ番組や映画などの映像を用いて、映像言語とメディア・リテラシーの基本的知識を習得する。後半は公共広告制作を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要および HOPS の使い方
2	メディア・リテラシーの基本	メディア・リテラシーの基礎概念の解説
3	写真を考える	プロのカメラマンの撮影した写真を用いて、メディアのメッセージについて学ぶ。 課題①一枚の写真撮影
4	課題①発表会～自己紹介を兼ねて	課題の発表と写真を用いた自己紹介
5	映像のジャンル～映像分析の方法	映像のジャンルと分析の方法を学ぶ
6	映画史と映像技法 (1)	映画史の中の映像言語を学ぶ（映画初期）
7	映画史と映像技法 (2)	映画史の中の映像言語を学ぶ（映像言語の確立）
8	映画史と映像技法 (3)	映画史の中の映像言語を学ぶ（現代映画の潮流）
9	現代の映像言語（ニュース）	ニュースの中のメッセージを考える
10	現代の映像言語（ドキュメンタリー）	ドキュメンタリーの本質を考える
11	現代の映像言語（コマーシャル）	コマーシャルの表現技法を考える
12	課題②公共広告・学部広告	公共広告の作り方を学ぶ
13	映像撮影と編集の方法	短い映像作品を作る方法を学ぶ
14	課題②発表会	課題の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

HOPS による情報共有

授業期間中提示された課題の制作

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『メディア情報教育学』坂本旬、法政出版局、2014 年

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30 %、提出物 50 %、平常点 20 %

授業評価基準（ループリック）

・基本

積極的に授業に参加し、発言する

静止画・動画による映像作品を制作する

締め切りに間に合うように作品を提出する

振り返りレポートを書いて提出する

・発展

メディア・リテラシーの 5 つのキークエスチョンを理解している

映像の表現技法を説明することができる

絵コンテを作ることができる

映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる

・応用

映像の企画・取材・制作が一人で行える

他者に適切なアドバイスや支援ができる

授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】

映像制作における著作権の重要性をしっかりと教える

【学生が準備すべき機器他】

CALS（キャリア・アクティブ・ラーニングスタジオ）と備え付けのパソコンを使用する。また、映像制作実習用にスマートフォンとスマートフォン用のマイクを使用する。必要に応じて教材作成スタジオ（富士見坂校舎）も使用する。また、授業では、情報共有や課題提出のために、HOPS および OATube を使用する。

【その他の重要事項】

本授業は本学情報メディア教育研究センターの支援を受けて、HOPS と OATube を使用し、学習歴及び作成した作品を掲載する予定です。

【他の授業との関連】

「メディアリテラシー実習Ⅰ」は映像制作の基本を学び、「メディアリテラシー実習Ⅱ」はドキュメンタリー映像制作を行う。ⅠとⅡは連続して履修すること。また、「坂本ゼミ（演習）」履修希望者は必ず本授業を 2・3 年次に履修すること。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】

To study the core concepts of media literacy

To explore how the media construct their messages

To learn how to make a Public Service Announcement

BSP200MA

メディアリテラシー実習Ⅱ 展開科目

坂本 旬

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア・リテラシーの基礎知識を用いたドキュメンタリーの制作

【到達目標】

メディア・リテラシーの概念を理解し、取材による実践的なドキュメンタリー映像の制作および評価能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、「メディアリテラシー実習Ⅰ」の学習を土台に、短いドキュメンタリー映像製作を行い、基本的な映像製作の方法を学ぶ。なお、本授業は春学期に「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修し、メディア・リテラシーの基本概念を学習した学生のみが履修できる。「メディアリテラシー実習Ⅱ」のみの受講は認めないので、注意すること。また、授業時間以外での学習活動も多いので、その点も理解しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の学び方や施設、スケジュールの解説。
2	ドキュメンタリーの基礎	ドキュメンタリー映像の基礎理論を学ぶ
3	ドキュメンタリーの歴史	ドキュメンタリー映像の歴史を学ぶ
4	テーマの設定と企画、絵コンテ	受講生ひとりずつがテーマについて考え、企画書の作成や絵コンテの描き方を学ぶ。
5	カメラ・マイクの使い方	施設の使い方とカメラとマイクの基本的な使い方を学ぶ。
6	ビデオ撮影実践法	ビデオ撮影の実際のノウハウを実践的に学ぶ。
7	構成・絵コンテの作成	実際に企画書や絵コンテを制作し、映像の構成を組み立てる。
8	企画の発表	受講生ひとりずつによる企画の発表。
9	編集の仕方 (1) キャプチャーの仕方	パソコンに撮影した動画を取り込む方法を学ぶ。
10	編集の仕方 (2) 編集の基本	動画編集の基本を学ぶ。
11	編集の仕方 (3) 音響とテロップ	動画に音声・音楽やテロップを入れる方法を学ぶ。
12	編集の仕方 (4) 仕上げ	編集の仕上げの方法を学ぶ。
13	編集作業の点検	それぞれの編集作業の点検を行う。
14	発表会	制作映像の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロケハンや取材、撮影、編集はすべて各人が課外時間に行う。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『メディア情報教育学』坂本旬、法政出版局、2014 年

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30 %、提出物 50 %、平常点 20 %

授業評価基準（ルーブリック）

・基本

積極的に授業に参加し、発言する

静止画・動画による映像作品を制作する

締め切りに間に合うように作品を提出する

振り返りレポートを書いて提出する

・発展

メディア・リテラシーの 5 つのキークエスションを理解している

映像の表現技法を説明することができる

絵コンテを作ることができる

映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる

・応用

映像の企画・取材・制作が一人で行える

他者に適切なアドバイスや支援ができる

授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】

映像編集の方法をより実践的に教えたい。

【学生が準備すべき機器他】

CALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）備え付けのパソコンおよび情報ルームのビデオカメラ、スマートフォンを使用する。スマートフォンを使う場合は必ずスマートフォン用の外付けのマイクを自分で用意しておくこと。映像編集ソフトは iMovie または Final Cut Pro を標準とする。また、必要に応じて、インタビュー収録用に教材作成スタジオ（富士見坂校舎）を使用する。

【その他の重要事項】

「メディアリテラシー実習Ⅰ」で身につけたスキルをもとに、ひとり一つの作品の制作を行う。共同制作は認めないので注意。実践的な学習のため、無断欠席は禁止する。授業時間外の学習活動が多いため、アルバイトやサークル活動が忙しい学生は注意すること。また、春学期の「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修していない学生は原則として履修できない。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、抽選に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【履修条件】

本科目は「メディアリテラシー実習Ⅰ」を習得（A+～C）した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】

To explore how the core concepts of media literacy are adapted to the documentary

To study how to make and evaluate the documentary

BSP200MA

地域学習支援Ⅰ

展開科目

寺崎 里水

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は体験型選択必修科目として「地域学習支援Ⅱ（生涯学習コーディネーター論）」とあわせて履修する。「地域学習支援Ⅰ（日本文化と人の生き方Ⅰ）」ではグローバル化、少子・高齢社会化のもとで、住民が自主的な問題解決能力を高め、地域づくりに参加するうえで求められる学習支援のあり方、コーディネーターの役割、ネットワークの形成について学び、実習の準備をおこなうことをねらいとする。

【到達目標】

地域において学習支援が求められる事情、具体的な支援の方法、支援者に求められる専門性について理解する。また、実習にむけて実習先の現状、活動内容など具体的な事情を理解し、個々人の課題意識を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域社会において学習支援の専門性が求められる活動分野は、コミュニティビジネス、NPO・ボランティア団体の発展とともに広がりをみせている。地域課題の解決にむけた地域づくり学習、若者自立支援、外国人との多文化共生教育、文化施設が核となったまちづくり、コミュニティ・メディアの活用などについて学び、コーディネーターの役割や専門性について認識を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	体験型選択必修科目としての「地域学習支援Ⅰ（日本文化と人の生き方Ⅰ）」の内容と履修方法、評価についての説明
2	地域学習支援が求められる背景①コミュニティと学習	公共機関、NPO などに加え、地場産業、国際機関などにおいてもコミュニティづくりと学習の必要性が高まっていることを理解する。
3	地域学習支援が求められる背景②支援	日本の政策などを踏まえながら、地域における学習を支援するニーズが高まっていることを理解する。
4	地域学習支援とはどのような仕事か	地域学習を支援するコーディネーターの役割、専門性について理解する。
5	実習指導教員との懇談	実習先の選定・プログラムについて実習指導教員と面談し、実習課題を導出する。
6	生涯学習コーディネーターの役割・地域文化の振興と文化施設	コミュニティの活性化にむけたネットワークづくりとコーディネーターの役割、地域の振興における文化施設の役割について考える。
7	共生のまちづくりと多文化教育、若者の自立支援、コミュニティ・メディアの活用	多文化理解、多文化教育の実態と課題を考える。また、学校から仕事への移行の支援や自立支援の活動の実態と課題を考える。さらに、自治体や自治会の広報、コミュニティメディアの多様な方法と活用について考える。
8	グループの形成と課題の設定	学習してきたことについてレポートを提出し、自らの問題意識を深める。
9	質問する・観察する・記録する・まとめる技術	大学での学びと体験とを結びつける方法について学ぶ。質問したり観察したりしたことを利用可能な資源・データとして記録し、まとめる技術を学ぶ。
10	グループ別事例研究①	実習先に関連する社会的背景、政策、組織の概要など、基礎的な知識について調べる。
11	グループ別事例研究②	実習先に関連する基礎的な知識をもとに、自分たちの実習課題を明確にする。
12	グループ発表①	研究した成果を発表し、質疑応答を行う。発表内容は個別にレポートにまとめる。（地域おこし、コミュニティメディア）
13	グループ発表②	研究した成果を発表し、質疑応答を行う。発表内容は個別にレポートにまとめる。（若者自立支援、異文化交流、地域文化）
14	まとめと振り返り	全体の振り返りとまとめを行い、地域学習支援Ⅱへの意識を高める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域生涯学習支援のテーマに基づいてデータを収集し、グループでの発表準備をおこなう。分野を選択し、文献やデータを収集し、レポートにまとめる。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない

【参考書】

佐藤一子、2015、「序章 地域学習の思想と方法」佐藤一子編『地域学習の創造』東京大学出版会、pp.1-23

増田寛也・人口減少問題研究会、2013、「2040 年、地方消滅。「極点社会」が到来する」中央公論、2013 年 12 月号、pp.18-31

山浦晴男、2015、「第一章 分析」『地域再生入門』ちくま新書、pp.13-44

牧野光朗、2016、「4 章 円卓の地域主義」『円卓の地域主義』事業構想大学大学院出版部、pp.158-186

清水陸美、2006、「ニューカマーの子どもの青年期」『教育学研究』73(4)、pp.457-269

坂本旬、2009、「メディア・リテラシー教育とドキュメンタリー制作」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』6、pp.121-138

樋田有一郎・寺崎里水、2018、「第 13 章 地域と学校の連携」植上一希・寺崎里水編『わかる・役立つ教育学入門』大月書店、pp.147-158

【成績評価の方法と基準】

発表 40 %、レポート 50 %、授業への貢献 10 %

【学生の意見等からの気づき】

学生はコミュニティとの接点をもつことが少ないので、ボランティア活動の体験や出身地・母校での子どもたちの支援など、意識的に関わる必要がある。

【その他の重要事項】

学部認定資格「地域学習支援士」の必修科目に位置付けられています。本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】

In this class, students learn how to support learning-groups, the way of networking, and the role of coordinator.

BSP200MA

地域学習支援Ⅱ

展開科目

寺崎 里水、田澤 実、金山 喜昭、児美川 孝一郎、坂本 旬、笹川 孝一、熊谷 智博、荒川 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 6/Fri.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地域学習支援Ⅰ（日本文化と人の生き方Ⅰ）」で学んだことを土台としつつ、分野の選択に応じて地域づくり、多文化教育、若者自立支援、地域文化振興、コミュニティとメディアに関する実践的展開の場で実習をおこない、地域学習支援の意義・方法、コーディネーターに求められる能力、専門性について実践的に学ぶ。

【到達目標】

計画した実習プログラムに沿って実習をおこない、現場における学習支援の体験を通じて求められる専門性、プログラム作成やコーディネート能力について習熟する。また実習の終了後、実践を振り返り、自分の役割やコミュニケーション能力の適切性、足りない点などを確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

実習は地域の文化施設や学習組織、NPO などへの訪問、行事・イベント等のサポート、遠隔地における滞在型実習、個々の学習者の支援、フィールド調査など、実習指導教員と現場職員・スタッフの協力によってプログラム作成がなされる。実習参加を通じて地域学習の現場で求められる支援のあり方を体験し、振り返りを通じて専門性について考察をおこなう。担当教員全員が等分に分担して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実習オリエンテーション	実習先や実習期間、実習の目的等について理解・確認する。(寺崎・金山)
2	実習先に関する事前学習 ①計画をたてる	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。(笹川・児美川)
3	実習先に関する事前学習 ②実習課題を明確にする	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。(田澤・熊谷)
4	実習先に関する事前学習 ③情報収集を行う	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。(坂本・荒川)
5	実習：地域づくり	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。(笹川・寺崎)
6	実習：青年自立支援	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。(児美川・田澤)
7	実習：多文化理解、コミュニティ・メディア	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する(熊谷、坂本)。
8	実習：地域文化	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する(荒川・金山)。
9	実習のまとめと報告①地域づくり	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。(寺崎、笹川)
10	実習のまとめと報告②青年自立支援	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。(児美川、田澤)
11	実習のまとめと報告③地域文化	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。(荒川、金山)
12	実習のまとめと報告④多文化理解、コミュニティ・メディア	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。(熊谷、坂本)
13	成果報告レポートの執筆	実習の成果について各自で課題を決定し、レポートを作成する。(寺崎、笹川、児美川、田澤)
14	全体の振り返り	地域学習支援の意義や課題、今後の学習課題などについてディスカッションを行う。(荒川、金山、熊谷、坂本)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習プログラムの作成、実習期間中の体験記録の作成、実習後の報告書作成など、授業時間外に多くの作業を行うことが求められる。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

実習先の領域に即して適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

実習中の体験記録作成 50 %

実習後の報告作成 50 %

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートや授業のレポート内容などの情報を総合的に集約し、担当教員間で進行などを話し合う予定である。

【その他の重要事項】

本科目は「地域学習支援Ⅰ（日本文化と人の生き方Ⅰ）」の単位を習得（A＋～C）した場合のみ履修可能です。

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】

Students go to practical training based on the studies in the spring semester. In the class, students are going to review their practical trainings and to prepare for the reports of the achievement.

BSP200MA

多文化教育Ⅰ

展開科目

村田 晶子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では学内の国際交流や多文化共生の現状について学び、多様な文化的な背景を持つ者同士が学び合い、協働するために何が必要なのかを考えます。本科目は講義、クラスディスカッション、グループでの事例発表から構成されます。

【到達目標】

本科目を通じて、学生は以下のことができるようになります。

- ・グローバル化が進む社会における国際交流、多文化共生の現状、課題を理解する。
- ・自分たちに何ができるのかを考え、国際交流の実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業は履修学生をグループに分け、毎回の授業で課題を提示し、グループ内でディスカッションを行い、全体に対して発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容提示、履修の有無判断
第2回	概説1	大学のグローバル化の光と影
第3回	概説2	「グローバル人材」と学生の階層化
第4回	概説3	労働者としての留学生とは
第5回	概説4	「やさしい日本語」は必要か（1）
第6回	概説5	「やさしい日本語」は必要か（2）
第7回	概説6	ステレオタイプについて考える：＜ハーフ＞と＜外人タレント＞
第8回	概説7	ヘイトスピーチについて考える
第9回	プロジェクトのトピック選び	多文化体験・多文化共修の意義・プロジェクトのトピックを選ぶ
第10回	プロジェクトの準備	グループに分かれてプロジェクトの準備
第11回	プロジェクトの発表1	発表とディスカッション
第12回	プロジェクトの発表2	発表とディスカッション
第13回	プロジェクトの発表3	発表とディスカッション
第14回	教場試験	大学のグローバル化と多文化共生：自分達に何ができるのか 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は授業で指示されたテキストをあらかじめ読んできてください。

【テキスト（教科書）】

村田晶子（編著）（2018）『大学における多文化体験学習・多文化共修への挑戦』ナカニシヤ出版

大学生協の教科書サイト：<https://kyoukasho.univ.coop/321301/html/>

【参考書】

村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄（編）（2019 予定）『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版

大学生協の教科書サイト：<https://kyoukasho.univ.coop/321301/html/>

【成績評価の方法と基準】

- ・積極的な授業の参加度 25%
- ・課題 25%
- ・最終発表 25%
- ・最終レポート 25%

【学生の意見等からの気づき】

課題は Google Classroom から提出するように指示しているが、使い方に慣れるまで少し時間がかかる学生が若干名いた。次回は使い方が分からない学生がいたら、最初のうちにもう少しケアしたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業の連絡、宿題の提出は法政大学用の Google Classroom を用いるため、履修者は必ず Google Classroom に第2週目の授業までに登録してください（クラスコードは初回の授業で伝えます）。
- ・授業の出席のチェックに Google Classroom を用いるため、授業には毎回携帯端末か PC を持参すること。

【その他の重要事項】

- ・第1回のオリエンテーション、第2回のグループ分けに必ず参加すること。1回目、2回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。

- ・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、この科目と秋学期の「多文化教育Ⅱ」をペアで履修することが単位取得の条件となります。
- ・履修者数が多い場合は、履修理由希望書によって選抜します。

【その他】

毎回の授業でのグループディスカッションへの参加が求められます。遅刻・早退、欠席の可能性が高い学生、課題に取り組む時間が取りにくい学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline and objectives】

This course discusses topics regarding multicultural education in Japan to facilitate students' understanding of the significance of cultural diversity, mutual understanding, and initiatives to facilitate cultural-exchange activities.

BSP200MA

多文化教育Ⅱ

展開科目

村田 晶子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は春学期に学んだことを踏まえて、学内や学外の国際交流や支援活動にボランティアとして参加し、その実践を振り返ります。そして文化の多様性を社会の豊かさにつなげる「多文化共生」の在り方を考えます。

【到達目標】

本科目を通じて学生は多文化共生社会に貢献するために何が必要なのかを考えを深め、今後の生活、勉学、将来に向けて、自分のボランティア経験をどのように生かすことができるのか、体験的な学びを言語化し、発信、共有することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では履修学生が中心の参加体験型の学習形態を取ります。授業は以下の流れで進めます。

1. 春学期の復習と補足
2. 国際交流や外国人支援のボランティア活動を行い、その体験を振り返る。
3. 体験学習を通じた学びをクラスで共有し、今後の目標設定をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容提示、履修の有無判断
第2回	概説1	多文化教育、国際交流について春学期の復習と補足説明
第3回	概説2	国際交流ボランティアとサービスラーニングの意義
第4回	交流活動計画1	国際交流ボランティアの方法の検討
第5回	交流活動計画2	国際交流ボランティアの計画表を作成し、発表
第6回	チュートリアル1	国際交流としての日本語教室ボランティアについて話し合う
第7回	チュートリアル2	国際交流としてのクラブ、サークル活動について話し合う
第8回	チュートリアル3	学外の国際交流について話し合う
第9回	ボランティアのまとめと発表準備	トピックごとに発表準備
第10回	活動の振り返り1	各グループの活動報告
第11回	活動の振り返り2	各グループの活動報告
第12回	活動の振り返り3	各グループの活動報告
第13回	活動の振り返り4	各グループの活動報告
第14回	今後の振り返りと目標設定、最終レポートの提出	クラス全体の振り返りと今後の目標設定を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の最後に次回の授業テーマに関連した課題が出るので、学生は事前に課題シートに考えを記入しておくこと。

【テキスト（教科書）】

村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄（編）（2019）『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版
大学生協の教科書サイト：<https://kyoukasho.univ.coop/321301/html/>

【参考書】

村田晶子（編著）（2018）『大学における多文化体験学習・多文化共修への挑戦』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

- ・積極的な授業の参加度 25%
- ・課題 25%
- ・最終発表 25%
- ・最終レポート 25%

【学生の意見等からの気づき】

課題は Google Classroom から提出するように指示しているが、使い方に慣れるまで少し時間がかかる学生が若干名いた。次回は使い方が分からない学生がいたら、最初のうちにもう少しケアしたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業の連絡、宿題の提出は法政大学用の Google Classroom を用いるため、履修者は必ず Google Classroom に第2週目の授業までに登録してください（クラスコードは初回の授業で伝えます）。
- ・授業の出席のチェックや課題提出に Google Classroom を用いるため、授業には毎回携帯端末か PC を持参すること。

【その他の重要事項】

・第1回のオリエンテーション、第2回のグループ分けに必ず参加すること。
1回目、2回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。

・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、春学期「多文化教育Ⅰ」に引き続きペアで履修し単位を取得することが条件となります。選択必修科目として履修する者を優先し、人数が多い場合は履修理由希望書によって選抜します。

【その他】

毎回の授業でのグループディスカッションへの参加が求められます。遅刻・早退、欠席の可能性が高い学生、課題に取り組む時間が取りにくい学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「多文化教育Ⅰ」を習得（A+～C）した場合のみ履修可能です。

【Outline and objectives】

This course aims to discuss the importance of multicultural learning through participants' projects chosen from the topics covered in the spring semester.

CAR200MA

職業能力ベーシックスキルⅠ 展開科目
【2013 年度以前入学者用】

CAR200MA

職業能力ベーシックスキルⅠ 展開科目
【2014 年度以降入学者用】

島村 泰子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくといふ基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。

基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション（話す、聴く、文章で伝えるなど）、②ビジネスマナー、③人間関係の築き方、④プレゼンテーション等を取りあげます。

学生の理解力を向上させるためにも、初回の授業で意欲等を確認させてもらいますので、履修希望者は初回に必ず出席してください。

【到達目標】

本授業の目標です。

①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。

②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得する。

③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、講義と実習（各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー）形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。

初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、授業中の座席を固定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機を確認とグループ分けをしますので、希望者は必ず出席してください。
第 2 回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。
第 3 回	意思を伝える話し方	話す目的は？ 相手の立場にたって、伝えるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第 4 回	状況にあわせたききかた	3つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ。
第 5 回	スピーチ実習	第 2 回～第 4 回の成果として 1 分間スピーチの実施。
第 6 回	情報伝達	報・連・相とは？ 指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けるとの重要性を学ぶ。事例検討。
第 7 回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ（よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方）。
第 8 回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作と TPO に合わせた身だしなみについて学ぶ。
第 9 回	面談、訪問、電話のマナー	就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第 10 回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第 11 回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。

発行日：2019/5/1

第 12 回	プレゼンテーションスキルを身につける①	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第 11 回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーションスキルを身につける②	【グループワーク】第 12 回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第 14 回	まとめ・理解度チェック	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で行った実習を振り返り、普段から実践することで習得度合いが高まります。次回に必要な準備学習や宿題があります。

【テキスト（教科書）】

必要な資料をその都度配布します。

【参考書】

授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席調査票」での確認事項及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合 20 %
②受講態度及び提出物（積極的に参加しているか・グループディスカッションの参加態度と成果物の内容・チーム作業の協働作業の態度と貢献度・プレゼンテーションや発表態度と内容の充実度）40 %、
③最終回に実施する理解度テスト 40 %
授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください（授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で、企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【その他の重要事項】

キャリアコンサルタント・企業で人事・採用・教育・キャリア支援の経験を活かし実践的な解説をします。企業側の視点から学生に求められていることや、社会人になるための基本的なスキル習得が得られるような授業を行います。社会人に必要な主体性を養うため、グループディスカッションや演習を多く取り入れます。

【Outline and objectives】

Basic career skills I

The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.

Students who want to take this course should take the first lesson.

Basic career skills I

The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.

Students who want to take this course should take the first lesson.

CAR200MA

職業能力ベーシックスキルⅡ 【2013 年度以前入学者用】

展開科目

CAR200MA

職業能力ベーシックスキルⅡ 【2014 年度以降入学者用】

展開科目

島村 泰子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、就職活動に結びつけます。【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。3 年次末から本格化する就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

【到達目標】

本授業の目標です。

- ①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
- ②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
- ③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
- ④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
- ⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。

【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用し調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。

【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期～大学生生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。

上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第 13 回の模擬面談を臨場感をもって体験できます。学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておく とよいスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの 流れを理解する。
第 2 回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報 収集方法 各業界の内容と求められる 職業能力について	業界・職種・企業情報の集め方・調べ 方を理解する。文系・理系に関わらず の活躍する職場や、多様な採用経路と その後のキャリア形成についても理解 する。
第 3 回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」 の検討	第 2 回の講義から、希望する業界を決 めてグループに分かれる。研究する業 界・企業の絞り込みと計画を立てる。業 界の企業間競争、学歴構成や雇用区分 について検討する。
第 4 回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味が ある職業を確認する。職業の興味から 業界を拡げて考えてみる。
第 5 回	【仕事理解】 キャリアセンター活用ス キル	【グループワーク】 第 3 回に検討した企業の調査を開始す る。キャリアセンター訪問して、キャ リアセンターの利用方法を学ぶ。 また、個別に企業の情報を調べ分析す る。
第 6 回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、 プレゼン準備を行う

第 7 回	【OB・OG・社会人の講話】①	社会人から、就職活動の方法やポイントを学ぶ。社会人への質問の仕方、対話をを通して業界を理解する。
第 8 回	「業界・職種・企業」研究の発表	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を払げることや調査の視点を学ぶ。
第 9 回	【自己理解】キャリア・プランシートの作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期から現在に至るまでの出来事や転機から、自分の強みや弱みの分析、アピールポイントを探す。
第 10 回	【OB・OG・社会人の講話】②	社会人から、企業におけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第 11 回	【自己理解】キャリア・プランシートの完成と履歴書作成	第 9 回で作成したキャリア・プランシートを元に模擬面接の準備を行う。「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第 12 回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイントを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動機、エントリーシートを作成する。
第 13 回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第 14 回	まとめ、確認レポート	授業全体のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。
自己理解においては、内省することや文章化、模擬面接の準備の時間は各自必要になります。事前準備や宿題があります。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度（主体性やグループ作業における貢献度）20％、「自己理解シート」及び「業界・職種・企業」研究の発表と内容の充実度 30％、模擬面接実習と資料内容 30％、最終確認試験 20％を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
業界研究をする場合は各自 PC の持参、またはキャリアセンターを利用してください。

【その他の重要事項】
「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能です。履修希望者は、必ず初回に参加してください。受講生に主体的に行動してもらう授業です。

【Outline and objectives】
Basic career skills Ⅱ
The purpose of this course is to develop practical career skills which are necessary for job-hunting and internship activity. Through activities like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy, old girl and working person, you can get the images of your working-life or occupational life and link these images to job-hunting.
Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-point, weak-point), presentation of yourself.
Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or businesses in which you are interested
Lecture given by old boy, old girl and working person : way of job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way of work of woman, having an interaction with working person

EDU200MA
教育マネジメント I 【2013 年度以前入学用】 展開科目
EDU200MA
教育マネジメント I 【2014 年度以降入学用】 展開科目
梅澤 希恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の大きな目的は、母校を素材にテーマ研究をすることです。そのために、自らの学びの履歴（キャリア）をふり取り、受講者同士で学びのキャリアを交流します。この活動を通し、これまでの人生で大きな比重を占める、学びのキャリア形成を見つめ直す機会としてください。また、授業の中では、講義形式などの形で教育に関する知識や情報を提供します。ただ知識や情報を受け取るだけでなく、自らの体験と組み合わせることが求められます。

【到達目標】

この授業では、将来の社会人・職業人に必要な「情報編集力」の育成をめざします。情報編集力とは、自らが収集し体験したりするなかで得た情報を組み合わせ、意味づけしながら作品化（文章化）し、他者に向けて発信する能力です。

初中等学校で実践されているプロジェクト学習などで培う力ですが、大学生にとっても「社会人基礎力」などといわれて重要になってきています。なお、講義形式などの形で提供される知識や情報を理解する情報処理力は、情報編集力の土台となるものであり、これを重視するのは言うまでもありません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、「母校研究」の助走・途中経過・まとめを節目に設定しながら、講義による知識や情報の提供を行います。個人の研究やスキル獲得は、グループワークなどの協働作業を組み込んで行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスを受ける	授業の進め方、情報の処理力と編集力
第 2 回	「母校研究」の助走をする ①：テーマを立ててみる	自分の学びのキャリアをふり取り、 テーマを立てる
第 3 回	「母校研究」の助走をする ②：どのような手法を用いるか	テーマに沿った調査の方法を考える
第 4 回	日本の教育システムと教育委員会を知る：講義 1	文部科学省、教委、学校の役割
第 5 回	校務分掌から学校と教師を捉える：講義 2	組織としての学校（職場づくり）、校務分掌の実際
第 6 回	国際調査から日本の教育の特徴を知る：講義 3	PISA 調査、TALIS 調査、データの読み取り
第 7 回	中間報告会：「母校研究」の経過発表	各自のテーマをプレゼンテーション
第 8 回	学級運営から先生のリアルを知る：講義 4	生徒との信頼関係づくり、授業を成立させる取組み
第 9 回	面白い学校のミッションを知る：講義 5	スーパーハイスクール、新しいタイプの学校、教育課程特例校、教育 NPO
第 10 回	いじめ問題を考える：講義 6	いじめ防止対策推進法、いじめの認知件数
第 11 回	特別なニーズ教育を知る：講義 7	特別支援学級、通級指導教室、合理的配慮
第 12 回	子どもの貧困を考える：講義 8	就学支援、教育費
第 13 回	学習環境デザインとは何か：講義 9	学校施設、学びの共同体、カリキュラム・デザイン
第 14 回	「母校研究」の報告会	プレゼンテーションと全体振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「母校研究（調べ学習）」の準備と実施が求められます。

【テキスト（教科書）】
プリントや資料を、適宜配布します。

【参考書】
授業において紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内のコメントペーパー（20%）、「母校研究」の企画書及び発表（30%）、「母校研究」レポート及びプレゼン（50%）

【学生の意見等からの気づき】
・調査スキルの形成に配慮します。

・各自の調査プロセスへの指導助言を充実させます。

【Outline and objectives】

The main objective of this course is to study alma maters of students and render them decide the theme related. Students look back their learning career and share it with other students. This course also provide students with knowledge of Japanese education.

EDU200MA

教育マネジメントⅡ【2013年度以前入学用】 展開科目

EDU200MA

教育マネジメントⅡ【2014年度以降入学用】 展開科目

福畠 真治

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育産業、教育 NPO、高等教育機関などを対象に教育業界研究を行う。教育業界についての動向を捉えるとともに、組織マネジメント論の視点に立ち事例研究を進めることで、それぞれのアクターごとの組織運営の特徴を把握する。また、それぞれを独立して捉えるだけでなく、「チーム学校」の文脈で「それぞれがその特質を活かして連携するにはどのような点を考慮すべきか」という課題にも挑戦する。

【到達目標】

教育産業、教育 NPO、高等教育機関等、教育業界研究の動向を捉え、組織マネジメント論の枠組みをもとに、選択した事例について必要な情報を収集しデータを編集して、レポートにまとめることができる。また、レポートの内容は、単なる情報の提示だけでなく、上記「授業の概要と目的」の課題に対する一定の示唆の提示を行うことが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教育業界を、教育産業、教育 NPO、高等教育機関に分けて、その概要や動向を捉え、組織マネジメント論の視点に立ち事例を検討する。教育業界に関するグループワーク、教育業界研究のレポート、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方・テーマ（教育業界の概要と意義について）説明
第 2 回	組織マネジメントに関する理論と政策	分析の枠組みの提示（組織マネジメント理論とチーム学校に関する政策紹介）
第 3 回	教育産業とは	概要・事例：ライフイズテック・花まる学習会
第 4 回	教育 NPO とは	概要・事例：カタリバ・東京シュレー
第 5 回	高等教育機関とは	概要・事例：法政大学
第 6 回	発表の準備	発表項目の説明、調査対象の選定・発表までの行程表作成
第 7 回	チーム発表(1)	教育産業
第 8 回	チーム発表(2)	教育 NPO、法政大学
第 9 回	企画書・現地調査の方法	企画書の書き方・質問項目の検討
第 10 回	研究レポートの書き方(1)	レポート作成の構成と進め方（先行研究・RQ・分析枠組・結果の提示と解釈）
第 11 回	研究レポートの書き方(2)	論文体裁について（段落構成、引用の仕方、参考・引用文献の書き方）
第 12 回	個人研究の報告会(1)	教育産業
第 13 回	個人研究の報告会(2)	教育 NPO、法政大学
第 14 回	授業のまとめ	振り返りと学校教育と学校外教育の連携に関する議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。担当テーマのレジュメを作成し発表準備をする。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。

【テキスト（教科書）】

文献、資料などは、該当授業ごとに指定または配布する。

【参考書】

伊丹 敬之『創造的論文の書き方』有斐閣
小川 正人・勝野 正章『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題・チーム発表レジュメ及び発表（30 %）、研究レポート及び発表（40 %）、をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

You make a study of educational industry such as educational NPO and institutions of higher education. You will become to be able to comprehend each feature of organizational management by grasping trend of educational industry and conducting some case studies from the point of view of the organizational management theory. Besides, you challenge the task “What kind of points should we consider in order to cooperate with one another as making the most of each specific character?”.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅰ 展開科目
【2013 年度以前入学者用】

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅰ 展開科目
【2014 年度以降入学者用】

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目指している。新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】

- ①新規事業の創造に必要であるイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べるができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

前期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。

ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義では皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報も提供する。後半は新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義	日本における大企業の動向と、シリコンバレーを中心とした企業・起業家の状況
第 3 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 1
第 4 回	ワークショップ 1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第 5 回	ワークショップ 1	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 7 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 2
第 8 回	ワークショップ 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	ワークショップ 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 11 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ 3
第 12 回	ワークショップ 3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	ワークショップ 3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 Newsなどを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定する際に、フィールドワーク、ディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ 発表・レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

グループワークや、プレゼンテーションのために PC を利用する。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to train entrepreneurship. Understand the qualities required of entrepreneurs through the case of new business creation. Entrepreneurship is necessary regardless of whether you work in a big company or start a business. Learn what entrepreneurship is, how to create a new business, and cultivate a mind set by actually working on groups.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅱ 展開科目
【2013 年度以前入学者用】

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅱ 展開科目
【2014 年度以降入学者用】

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家の経営者）の育成を目的として、実践的な授業を行う。アントレプレナーとして求められる資質を体得し、新規事業創出・ベンチャー経営に必要な行動的スキル・認知的スキルを実践的なグループワークを通じて高める。

具体的には新規事業を生み出すフレームワークを理解し、グループでビジネスモデル構築と事業計画作成の策定、プレゼンテーションを行うことを通じて、アントレプレナーに必要なスキルを習得する。

【到達目標】

- ①新規事業立案のための方法論・スキルについて、実践を通じて習得する。
- ②事業がどのように創造されていくのか、そのプロセスを体感することができる。
- ③自分の言葉で見解を述べ、グループメンバーを巻き込み協働できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ゲストスピーカーの講演、講義、グループワークにより構成される。ゲストスピーカーには企業の新規事業担当者や様々なビジネスモデルで起業をした社会人を招く。皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、新しいビジネスモデル構築のためのアイデア、業界トレンド、考え方についての情報も提供する。同時に、実際にビジネスプランを検討しながら実践的なスキルを高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ1
第 4 回	ワークショップ1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第 5 回	ワークショップ1	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 7 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ2
第 8 回	ワークショップ2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	ワークショップ2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・考えを発表する
第 11 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ3
第 12 回	ワークショップ3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	ワークショップ3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・企画を発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News など事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン（発表・資料） 20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

グループワークや、プレゼンテーションのために PC を利用する。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to train entrepreneurship. Mainly focused on practical workshops. Through that workshops, we will raise new business creation and behavioral skills and cognitive skills necessary for venture management.

Learn the framework to create new business, business model and business plan in group. Through presentation, you will acquire the skills necessary for business creation.

EDU200MA

キャリア研究調査実習 A（子ども・家庭生活研究）

展開科目

岩崎 香織

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、「子ども」や「家庭生活」をテーマとした社会調査（量的調査）を実施する具体的な方法を学ぶことにある。子どもの発達段階や家庭生活という私的領域について調査する難しさを理解し、先行研究をふまえた研究計画を立て、各自の調査テーマ・仮説に応じた質問紙や調査依頼状の作成を行う。

【到達目標】

子どもの発達段階や多様な家庭生活の状況に配慮した社会調査（量的調査）の方法や一連のプロセスについて学び、自ら調査を計画・実施できる力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には毎回教官が用意するプリントをもとに講義形式で進める。テキストは特に使用しない。また、本科目の研究関心である子どもの発達や家庭生活の現状を理解するため、部分的に映像学習を取り入れ、ディスカッション等を行う。本授業では、履修者個々の研究関心に基づき、質問紙調査票を作成することを課題とし、作成過程において、各自の進行状況・成果を発表する機会を設ける。履修者の研究関心が類似する場合には、小グループでの活動を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標・方法・計画について説明し、社会調査法の種類や研究テーマの設定方法、調査を進める上で重要となる研究倫理について確認する。
第 2 回	子どもの発達段階と調査方法	子どもの発達段階別に実施可能な調査方法が異なることを理解し、調査を進める上で配慮すべき事項について具体的に考える。
第 3 回	家庭生活・家族を調査する方法	多様な家族形態が存在する現在、「家族」を調査することは困難であり、調査者の価値観が、調査結果を左右することもある。家族社会学を基礎とした家族をとらえる視点や基礎概念、理論、研究上の留意点等について学ぶ。
第 4 回	育てられる者から育てる者へ	先行研究の学習①として、日本の結婚・出産の現状について、国内の主要な統計調査を基に理解する。
第 5 回	乳幼児と家庭生活	先行研究の学習②として、乳幼児期の子どもの発達に与える家庭生活の影響について、国内外の研究動向を知る。
第 6 回	学齢期の子どもと家庭生活	先行研究の学習③として、学齢期（小・中・高等学校）の子どもの家庭生活の現状を知る。
第 7 回	調査テーマと調査対象の決定	各自の研究関心に基づき、調査テーマと調査対象を決定し、発表すると共に今後の研究計画について具体的に考える。
第 8 回	先行研究と関連する制度の学習	各自の研究テーマに関連のある先行研究や既存の社会調査データを収集し、社会制度について調べ、調査仮説の構築や質問紙作成の準備を進める。
第 9 回	仮説の構築	先行研究に基づいた調査仮説を決定し、研究の意義について考えをまとめ、発表すると共に具体的な調査内容について考える。
第 10 回	質問紙の作成	質問紙作成の基礎を確認し、先行研究と比較可能な調査項目を中心に各自の研究関心に基づく質問紙調査票を作成する。
第 11 回	調査依頼状の作成	子どもを対象とした調査では、子ども本人と共に保護者や所属する園・学校関係者への調査依頼・説明が必要となる。基本的な調査依頼状の書き方を学ぶ。

発行日：2019/5/1

第 12 回	プレ調査の実施	授業内で互いの質問紙に記入し、回答しやすさ等を確認する。記入された質問紙の分析方法を考えながら、質問内容の修正を行う。
第 13 回	質問紙の修正	小グループ内で再度プレ調査を行い、調査仮説と照らし合わせた質問内容の妥当性について最終検討を行い、調査票を確定する。
第 14 回	成果報告会	各自の調査テーマと対象者、調査仮説、作成した質問紙、調査依頼状等について成果報告会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者各自の研究関心に基づき、先行研究の動向や関連する制度について調べ、研究計画（調査テーマ、調査対象、仮説の構築）や調査依頼状、質問紙調査票を作成する。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

林雄亮・石田賢示 2017『基礎から学ぶ社会調査と計量分析』北樹出版
神林博史・三輪哲 2011『社会調査のための統計学 このとおりやればすぐできる』技術評論社
大谷信介・他 2013『新・社会調査へのアプローチ理論と方法』ミネルヴァ書房
西内啓 2013『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

平常点（ディスカッションへの参加、コメントの提出等）（30％） 質問紙作成と発表（70％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（調査票の作成、先行研究のまとめ等に使用）

【キャリアデザイン学部より】

この授業は、受講者数 20 名程度を想定した授業です。想定より大幅に受講者が多い場合、抽選を行うことがあります。

【Outline and objectives】

A major objective of the class is to examine methodologies used in family and child life research to explore how different kinds of studies can be combined to yield a deeper and more accurate picture of family structures, processes, and relationships. Participants prepare a proposal for a survey (social research that uses questionnaires) that they would like to conduct.

EDU200MA

キャリア研究調査実習 B（恋愛の質的研究）

展開科目

大森 美佐

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「恋愛」についての各文献の講読を通じて、問いと調査方法（アプローチ）の関係や先行研究の用い方、調査をする上での倫理的配慮など、社会調査に必要な知識やマナーを学ぶこととする。

【到達目標】

- ・研究テーマと調査方法（アプローチ）の関係を理解する。
- ・調査にあたっての配慮事項を知る。
- ・メディアを対象にした調査をデザインし、運用してみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には毎回教官が用意するプリントをもとに講義と演習形式で進めていく。テキストは特に使用しない。第 4 回目からは、先行研究の講読を行う。方法については授業内で説明する。なお、毎回、授業の最後に意見や感想を書いて提出してもらい、終盤にはグループ・ワーク、グループ・プレゼンテーションを行ってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テーマとしての恋愛：授業の目標・方法・計画を説明 なぜ、いかに行うか。質的研究の意義、質的研究と量的研究の違い、質的研究の倫理と手続きなど
第 2 回	質的研究のフレームワーク	質的研究における文献の利用、理論的立場など
第 3 回	研究の視座と分析視覚	『婦人公論』などの雑誌の言説分析 民族史：当時のインタビュー（口頭データ）を読む
第 4 回	歴史から現在を考える①	漫画・雑誌分析
第 5 回	歴史から現在を考える②	ビジュアルデータ分析：写真、映画、ビデオ、ドラマなどの分析
第 6 回	現代の恋愛を捉える①	口頭データ分析
第 7 回	現代の恋愛を捉える②	半構造化インタビュー、グループディスカッション、縦断調査など
第 8 回	現代の恋愛を捉える③	社会・文化的差異の視点を用いた研究
第 9 回	現代の恋愛を捉える③ 恋愛・結婚の国際比較	グループワーク：先行研究を踏まえて研究計画を立てる
第 10 回	研究デザイン①	グループワーク：メディア分析の実践
第 11 回	研究デザイン②	グループワーク：プレゼンテーション資料の作成
第 12 回	研究デザイン③	グループワークの結果報告
第 13 回	学生グループプレゼンテーション①	グループワークの結果報告
第 14 回	学生グループプレゼンテーション②	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した文献資料は事前に読んで講義に参加すること。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

Uwe Flick, 2005, *Qualitative Sozialforschung*, Rowohlt Taschenbuch Verla (= 2011, 小田博志ほか訳 『質的研究入門－人間の科学のための方法論』新版) 春秋社)

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告・授業への感想文）（50％）、グループ・プレゼンテーション（50％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【キャリアデザイン学部より】

この授業は、受講者数 20 名程度を想定した授業です。想定より大幅に受講者が多い場合、抽選を行うことがあります。

【Outline and objectives】

This course provides an introductory overview of qualitative methods with reading previous studies on “romantic love”(=ren-ai). Through this course, students will be expected to learn methodological skills necessary to conduct their sociological research such as a relation of a question and method (approach), usage of the previous research, and ethical considerations.

EDU200MA

外書講読 A（発達・教育） 展開科目

福田 紀子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化（開発）に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準のテキストから、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した“価値観＝大切にしているもの”に近づきたいと思います。今年度は基本的な教育、人権、人道に関する国際文書や、アジアの成人教育の文脈で書かれた『Citizen's Education for Good Governance』の内容とアクティビティを取り上げ、Governance と Accountability の2つのキーワードを読み解いていきましょう。市民社会のどんな組織も必要な自分たちのコミュニティへの関与や公正な運営のありかたについて考えることとなります。また、成人教育のファシリテーター向けガイドブックのアクティビティ進行を通して、アクションラーニングや参加型ワークショップと言われる学習手法についての意義や進行者の態度・留意点を学んでいきます。

【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、報告書等から、人権、参加とエンパワメントに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、ジェンダー等、社会の公正な運営方法（Governance と Accountability）に必要な思考と行動のスキルを自分の生き方からし方、社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、当日配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会と、3名程度のチームで参加型学習のファシリテーターを実践する機会もあります。授業は講義と参加型アクティビティ、学生の発表（ファシリテーション）を進めていきます。その中でのディスカッションは日本語で行います。アクティビティやテキスト他の情報から何を学んだのかを重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation -Wants, Needs, Rights -Education as Human Rights ~Declaration of the Conference -selfesteem — The role of the facilitator	〈この授業の進め方〉 教育・学習・人権に関わる文書や文言を通してこの授業で捉えたい概念を概観します。 参加型学習のファシリテーターとしてのポイント①
2	-Governance Theme ① Power & Governance -“Peace”&“Violence”	人権を考える上で、“マイノリティ”に対する配慮がなぜ必要なのかを考えます。また “平和”と“暴力”枠組を知ります。
3	-Governance Theme ② Gender Equity	ジェンダーの認識と実態の基ジェンダーについての自分の認識と日本のデータにあたり、変化の要因を探ります。 *翻訳・進行の担当分担
4	Humanitarian Response & Rights base approach with the diversity -The Code of Conduct for the International Red Cross & Red Crescent Movement & Non-Governmental Organization(NGOs) in Disaster Relief / The Sphere Standard	人道支援の国際基準で求められる行動綱領と避難所シミュレーションから、人間の尊厳を大切し、公正に行うとは何かを理解します。
5	Citizen's Education for Good Governance ~ Outline of the Concept	Citizen's Education for Good Governance の基本概念を概観します

6	Citizen's Education for Good Governance ① Power and Governance	パワーとガバナンス エンパワーメントとは何かについて考えます
7	Citizen's Education for Good Governance ② Conflict and Governance	対立とガバナンス 課題解決のプロセスに必ずおこる対立の捉え方を学びます
8	Citizen's Education for Good Governance ③ Youth and Governance	若者とガバナンス 参加を促進するものについて考えます
9	Citizen's Education for Good Governance ④ Media and Governance	メディアのありかたについて考えます
10	Media Literacy and Gender	メディアリテラシーについて～ジェンダーの視点から考えます
11	Citizen's Education for Good Governance ⑤ Citizen's Organising for Governance	市民がつながる、協力的に活動することについて考えます
12	Citizen's Education for Good Governance ⑥ Analyzing & Understanding People's Reality	現実のしごとや暮らしの中の問題や変化について考えます
13	Citizen's Education for Good Governance ⑦ A Rights-Based Approach to Citizenship Capacities	人権の視点を基本にした市民社会のありかたについて考えます
14	Governance & Accountability	人道支援団体の国際基準が示す“アカウンタビリティ”を知り、ガバナンスを考えた意味を再考します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ／パートナーとの発表の準備が必要となります。
国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】

The Sphere Project-Humanitarian Charter and Minimum Standards in Humanitarian Response
<http://www.spherehandbook.org>
Core Humanitarian Standard/ Guidance Notes and Indicators
<http://www.corehumanitarianstandard.org/files/files/CHS-Guidance-Notes-and-Indicators.pdf>
Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)
『2030 年未来への選択』（西川潤）
『ワールドスタディーズ教え方学び方ハンドブック』『参加型で考える 12 のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、各回授業のふりかえりシート 40%
個人／グループでの発表と成果物（模造紙作業やワークシート）30%、
レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じるときもあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。

ファシリテーターの実践はより主体的な学習へのコミットメント（内容理解、スキルと態度）を高める機会としていってください。

【その他の重要事項】

国際合意の文書は完成された概念やクマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準をはじめ、あらゆる活動にグローバルな文脈があり、影響があります。ガバナンス、市民社会等、慣れないコンセプトかもしれませんが、国際的な合意の文脈を理解する為の一つのステップとして学んでいきましょう。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。分担したアクティビティのファシリテーションをはじめ、授業への出席を重視します。部活等の欠席の理由は特別な場合を除き特に考慮しませんので、規定の出席確保を前提に授業に望んで下さい。

【Outline and objectives】

The objective of this class would be getting the Basic Concepts for understanding Human Rights, Gender, Humanitarian Response, Activism for Social Justice through International Standard, Agreements and Methods.

The classroom would be mainly proceed with Participatory Learning Method as participants and facilitators, using "Citizen's Education for Good Governance"(2005,ASPBAE) that has been a training handbook of Adult Learning in Asian Context.

EDU200MA

外書講読B（発達・教育） 展開科目

長岡 智寿子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、今日における国際教育開発の現状と課題について、社会学的な視点から、私たち人間の生涯に渡る学びの様相を把握することを目指す。具体的には、本講義の内容に即した英文資料の他、関連する文献資料なども活用しながら、理解を深めていく。

【到達目標】

本講義では、英文資料を中心に、広く国際社会における教育活動の動向を把握するとともに、子どもからおとなまであらゆる人々を対象にした多様な生涯学習の活動について、その今日的課題を問い直すことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

人間の一生の中で、学習活動は決して学校教育に限定されるものではない。教育という営みは、私たち人間の社会が築いてきた価値観や慣習等の社会、文化的要因を背景に育まれていくことを、具体的事例を踏まえ社会学的視点からも検討していく。英文資料の他、視聴覚教材も活用しながら、内容理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要説明
第2回	Background : data and development	生涯学習に関する歴史的経緯の把握、内容理解
第3回	Literacy is the human rights	人権の観点から理解する
第4回	Literacy learning & development	読み書きの学びの重要性を社会学的視点から理解
第5回	Stories of imagination (1)	Raising voices; peaking up for participation
第6回	Stories of imagination (2)	Literacy and Life s kills
第7回	Stories of imagination (3)	About employment rights with literacy for poor women
第8回	Stories of imagination (4)	Women and Literacy in post-conflict
第9回	Stories of imagination (5)	Children's nutrition and literacy learning
第10回	Stories of imagination (6)	Literacy and learning for young women
第11回	Stories of imagination (7)	Learning reading, writing and health
第12回	Stories of imagination (8)	Community Empowerment
第13回	Challenges and solutions	Share and discussion for future
第14回	まとめ（試験、解説）	本講義全体を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、授業の際に説明する。

【テキスト（教科書）】

適宜、授業の際に説明、配布する。

主要テキスト

・『Literacy and Women's Empowerment: Stories of Success and Inspiration』, UNESCO Institute for Lifelong Learning, 2013
・『Quality Assurance Toolkit for Open and Distance Non-formal Education』, Commonwealth of Learning, 2012

【参考書】

『ジェンダーと国際社会：課題と挑戦』、菅野・西村・長岡 編、福村出版、2012 年

【成績評価の方法と基準】

授業態度（10 %）、小レポート（20 %）および、定期試験（70 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の際に、質問、意見等を記載してもらい、フィードバックを行える体制を整えていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講義形式ではあるが、積極的に授業に参画することを望みます。

【Outline and objectives】

In this lecture, we aim at grasping the issue of lifelong learning from a sociological point of view, taking as examples the current situation and problems of international education development today. Specifically, we will deepen our understanding by utilizing related literature materials as well as English textbooks that conform to the contents of this lecture.

PSY200MA

生涯発達心理学 I

展開科目

松浦 千春

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は生（誕生）から死に至るまでどのように発達し変化するのか、それぞれの人間の発達段階に沿っての発達課題とその発達特性を心理学的な視点より研究する。また同時に人間の発達とキャリア発達の観点からも研究することによって、キャリア発達は人間の生涯を通してどのように変化し発達するかについても研究する。前期は生（誕生）から青年期までの発達を取り上げ、それぞれの発達課題を研究し、発達課題が達成できない場合にはどのような発達上の問題や発達障害が発生するかについても研究する。

【到達目標】

人間の生から死に至る発達とその変化、特性の理解を行う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

前期と後期の通年を通して、人間発達の道筋とそれぞれの発達ステージにおける発達特性と発達課題について理解するために、主に講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	心理学より見た人間の発達とは何か	人間の生から死にいたる人間の発達を概観する
第 2 回	発達段階と発達課題について考える	人間の発達段階とその発達課題について学ぶ
第 3 回	人間の発達特性－遺伝と環境問題	人間の発達を左右する遺伝的な要因と環境的な要因について学ぶ
第 4 回	新生児・乳児期の発達とその発達特性	誕生から約 1 歳半までの乳幼児の発達特性について学ぶ
第 5 回	幼児期の発達とその発達特性	前期幼児期の 2 歳～3 歳の子どもの発達特性について学ぶ
第 6 回	幼児期の発達とその発達特性	後期幼児期の 4 歳～5 歳の子どもの発達特性について学ぶ
第 7 回	児童期の発達とその発達特性	前期児童期の小学校低学年の子どもの発達特性について学ぶ
第 8 回	児童期の発達とその発達特性	後期児童期の小学校高学年の子どもの発達特性について学ぶ
第 9 回	思春期の発達とその発達特性	中学生の子どもの発達特性について学ぶ
第 10 回	思春期の発達とその発達課題	高校生の子どもの発達特性について学ぶ
第 11 回	幼児期の臨床	臨床発達からみた幼児期の事例について学ぶ
第 12 回	児童期の臨床	臨床発達からみた児童期の事例について学ぶ
第 13 回	発達障害	発達障害の概念、事例について学ぶ
第 14 回	発達課題とキャリア発達	児童期から青年期に至るキャリア発達、キャリア教育について学ぶ

青年期までのキャリア教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書の予習

【テキスト（教科書）】

必要な資料をその都度授業の中で配布したり、参考文献を紹介します。

【参考書】

生涯発達心理学

【成績評価の方法と基準】

授業の中での提出課題、レポートの提出（30%）、最終試験（70%）の両面から、総合して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

臨床的な具体例などを豊富に盛り込む

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

人間の誕生から死に至る発達過程を心理学的側面から研究することを通して、自分自身がどのように今まで発達してきたのかについて自己理解をすると同時に、人間の発達、成長にはどのような因子が大きな影響を与えているのかについて、深く考えるきっかけにし、人間理解、それと並行してキャリア発達についてさらに理解を深めてください。

【Outline and objectives】

This course will help you to understand human development across the life span, comprehensive view of the individual at each stage of growth, from the viewpoint of biological, cognitive, social and emotional aspects of growth.

We will study about infancy(0-2), early childhood(2-6), middle childhood(6-12), in the spring semester.

We also study what developmental problems occur if developmental tasks can not be achieved.

PSY200MA

生涯発達心理学Ⅱ

展開科目

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は生（誕生）から死に至るまでどのように発達し変化するのか、それぞれの人間の発達段階に沿っての発達課題とその発達特性を心理学的な視点より研究する。また同時に人間の発達とキャリア発達の観点からも研究することによって、キャリア発達は人間の生涯を通してどのように変化し発達するかについても研究する。

秋学期は成人期から老年期、人間の人生の終末の死までの発達を取り上げ、それぞれの発達課題を研究し、発達課題が達成できない場合にはどのような発達上の問題が発生するかについても研究する。

【到達目標】

人間の誕生から死にいたる発達と変化、その特性を深く理解し、自分の今後のライフキャリアを展望するための気づきを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期と秋学期の通年を通して、人間発達の道筋とそれぞれの発達ステージにおける発達特性と発達課題について理解するために、主に講義形式で進めます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	心理学より見た人間の発達とは何か	人間の生から死に至る長期の発達とその過程について考える
第 2 回	発達段階と発達課題について考える	各発達段階の発達特性とその発達課題について学ぶ
第 3 回	人間の発達特性－生物学的、社会環境的な変化と発達	発達に影響を与える遺伝的な要因と環境要因について学ぶ
第 4 回	成人期の発達とその発達特性	成人期の発達特性とその発達課題とは何かについて学ぶ
第 5 回	成人期前期	成人期の発達特性とその発達課題とは何かについて学ぶ
第 6 回	成人期後期	成人期の発達特性とその発達課題とは何かについて学ぶ
第 7 回	中年期の発達とその発達特性	中年期の発達特性とその発達課題とは何かについて学ぶ
第 8 回	中年期の危機	中年期の発達特性とその発達課題とは何かについて学ぶ
第 9 回	老年期の発達とその発達特性	老年期の発達特性とその発達課題とは何かについて学ぶ
第 10 回	老年期の発達課題	老年期の発達特性とその発達課題とは何かについて学ぶ
第 11 回	人間の死とその心理学的特性	死をめぐるさまざまな課題について学ぶ、人間にとって死とは何か、その意味を考える
第 12 回	人間の死とその心理学的特性 死の意味	死をめぐるさまざまな課題について学ぶ、人間にとって死とは何か、その意味を考える
第 13 回	成人期の発達とキャリア発達	成人期以降のキャリア発達の特性、キャリアの転機、危機について学ぶ
第 14 回	初期～中期キャリア発達	中年期のキャリアの転機、危機、定年と生涯キャリアについて考える
第 15 回	中年、老年期の発達とキャリア発達	中年期のキャリアの転機、危機、定年と生涯キャリアについて考える
第 16 回	生涯キャリア発達	生涯キャリアについて考える
第 17 回	生と死の心理学	生から死にいたる人間の発達を総合的にまとめる、生きがいとは何か、幸福とは何か、について考える
第 18 回	生きることの意味	生から死にいたる人間の発達を総合的にまとめる、生きがいとは何か、幸福とは何か、について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連図書の予習

【テキスト（教科書）】

必要な資料をその都度授業の中で配布したり、参考文献を紹介します。

【参考書】

発達心理学入門Ⅰ（乳児・幼児・児童）無藤隆編 東京大学出版会

発達心理学入門Ⅱ（青年・成人・老人）無藤隆編 東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

レポートの提出（30 %）、期末レポート（70%）の両面から総合して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

臨床的な具体例の紹介や映画、ドラマ、物語などを適宜使って、生涯発達心理学の概念が理解しやすくなるように工夫する

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

人間の誕生から死に至る発達過程を心理学的側面から研究することを通して、自分自身がどのように今まで発達してきたのかについて自己理解をすると同時に、人間の発達、成長にはどのような因子が大きな影響を与えているのかについて、深く考えるきっかけにし、人間理解、キャリア発達理解をさらに深めてください。

【Outline and objectives】

This course will help you to understand human development across the life span, comprehensive view of the individual at each stage of growth, from the point of biological, cognitive, social and emotional aspects of growth.

We will study about adolescence(12-20), young adulthood(20-40), middle adulthood(40-65), late adulthood(65-) in the fall semester.

We also study what developmental problems occur if developmental tasks can not be achieved.

PSY200MA

臨床教育相談論 I

展開科目

飯野 雄大

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもたちへ教育相談を行っていく上での必要な知識の習得と子どもと関わる現代的な問題の理解をテーマとする。主に乳幼児期から青年期までの発達を理解し、幅広い意味での教育現場で起こる問題を読み解くための考え方を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 教育相談を行っていく上で必要な心理学的知識を習得する。
- (2) 現場で起こっている諸問題を理解する。
- (3) 心理学の知識や見方を用いて教育現場の問題を自分なりに考えることができるようになることの 3 点を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 人の発達と教育相談（第 2 回から第 7 回）。
 2. 乳幼児期の諸問題と教育相談（第 8 回から第 11 回）
 3. 児童期から青年期の諸問題と教育相談（第 12 回から第 14 回）
- 講義と実習を織り交ぜながら授業を行うようにする。講義を主とするが、適宜、演習の内容、グループワークやロールプレイなどの実習を行う。毎回アクションペーパーを提出をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、到達目標、講義形式、講義の進め方、導入にあたって必要な事項を解説する。
2	教育相談の現場と対象	教育相談はどのような場で、どのような人を対象として行われているのだろうか、教育相談の現場を概観する。
3	人の発達と特徴を知る① ：認知発達	人はどのように世界を認識しているのか、視覚的な認知の発達と特徴を学ぶ。
4	人の発達と特徴を知る② ：アタッチメントと対人関係の発達	人と人が関係を作るとはどういうことなのか、愛着などの関係性の発達と特徴について学ぶ。
5	人の発達と特徴を知る③ ：社会性の発達	「空気が読める」「相手の立場を理解する」とはどういうことか、メタ認知や社会性の発達について学ぶ。
6	人の発達と特徴を知る④ ：自己の発達	「自分はいつも失敗ばかり」「自分はいつも損な役回りで」といった現実を偏って捉えてしまう認知の特徴を学ぶ。
7	人の発達と特徴を知る⑤ ：知能の発達	知能（IQ）とはどのようなものか、教育現場でどのように用いられているのかを学ぶ。
8	発達の障害と教育相談	発達障害をはじめとした様々な障害の特徴について学ぶ。
9	乳幼児期の教育相談①： 虐待の理解と対応	虐待の実態と特徴について学ぶ。
10	乳幼児期の教育相談②： 育児相談・発達相談・園内及び就学の相談と支援	子どもの育児や発達についての保護者の相談の実態を学ぶ。また、保育園・幼稚園での支援と学校への入学にかかわる相談について学ぶ。
11	児童期から青年期の諸問題と教育相談①：いじめの理解と対応	学校現場でのいじめについて、その実態と背景について考える。
12	児童期から青年期の諸問題と教育相談②：不登校の理解と対応	学校現場での不登校の問題について、その実態と背景について考える。
13	児童期から青年期の諸問題と教育相談③：反社会的行動の理解と対応及び思春期の進路相談	学校での問題行動とその背景について考える。また青年期における進路相談に関してもふれる。
14	まとめ・振り返り	これまでの講義内容をまとめ、学校で起こる諸問題の基本的な内容と教育相談の機能について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分自身の小学校や中学校、高等学校などの学校経験から、印象に残っているエピソードを思い出しておく。
- ・子どもに関するニュースに注目し、目を通しておく。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

テキストは指定しない。

【参考書】

古屋喜美代・関口昌秀・萩野佳代子（編） 2013 児童生徒理解のための教育心理学 ナカニシヤ出版
本郷一夫・金谷京子（編） 2011 臨床発達心理学の基礎 ミネルヴァ書房
浜谷直人・三山岳（編） 2016 子どもと保育者の物語によりそう巡回相談：発達がわかる、保育がおもしろくなる ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

授業への出席を含みアクションペーパーによる参加度（4 割）とレポート（6 割）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な例や実体験を通して相談活動の基礎を学べるようにする。

【Outline and objectives】

This course deals with the child development and educational problem. The aim of this course is help students acquire an understanding of the fundamental principles of educational counseling.

PSY200MA

臨床教育相談論Ⅱ

展開科目

飯野 雄大

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床教育相談論Ⅰを土台にしながら、どのようなアプローチを使いながら相談を進めていけばよいのかを実践的に学ぶ。特に、子どもの問題を捉えるアセスメントの視点と子どもの問題に多角的にアプローチできる視点を学ぶ。

【到達目標】

理論を踏まえながら、教育相談の実際を理解する。教育相談の流れを、イメージできるようにする。子どもの問題状況を理解し、その状況に合わせて相談の目標を意識できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 教育相談に関する基本的な技法の理解（第 2 回から第 5 回）。
 2. 教育相談でのアセスメントと対処（第 6 回から第 11 回）
 3. ケーススタディを通じた教育相談の理解（第 12 回から第 14 回）
- 講義と実習を織り交ぜながら授業を行うようにする。実習では、2 ～ 5 人程度のグループになり、グループワーク、討論やケーススタディなどの実習を行う。他者と共同で行う活動が多くなるため積極的に参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、到達目標、講義の形式、講義の進め方、導入にあたって必要な事項を解説する。
2	コミュニケーションの基本	相談を行う上で基本的なコミュニケーションの技法について概観する。
3	関係性による相談の変化と相談活動における倫理	誰かに相談するということは、どういうものか体験を通して学ぶ。また、相談を行っていくうえでのプライバシーの保護、守秘義務といった倫理について学ぶ。
4	他者の話を聴く	他者の気持ちを意識しながら、傾聴するとどのようなものかを実習を通して学ぶ。
5	問題が起きている状況を理解する	問題状況を理解するためにどのような情報を収集し、どのように理解すればよいのかを学ぶ。
6	児童・生徒を理解する	児童・生徒を理解するとはどういうことか、基本的な技法について学ぶ。
7	アセスメントの技法① 知能検査	人を理解する技法のひとつである発達・知能検査について学ぶ。IQ を理解する。
8	アセスメントの技法② 性格検査	人を理解する技法のひとつである性格検査について学ぶ。類型論、特性論について知る。
9	障害への支援	特別支援教育など学校で障害児を支援する方法を理解する。
10	関係機関との連携及び ケーススタディの方法	教育現場と関係する病院や児童相談所といった機関とどのように連携していけばよいかを、各機関の特徴とともに学ぶ。また次回以降のケーススタディの方法を学ぶ。
11	ケーススタディ①	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に幼児期の問題について取り扱う。
12	ケーススタディ②	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に学校現場での問題について取り扱う。
13	ケーススタディ③	事例を検討しながら問題への対処を考える。特に障害にかかわる問題について取り扱う。
14	まとめ・試験	事例のまとめを行うとともに最終試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で学んだ内容を復習した上で、次の授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。テキストは指定しない。

【参考書】

鈴木・大橋・能智（編） 2015 ディスココースの心理学 ミネルヴァ書房

浜谷直人（編） 2009 発達障害児・気になる子の巡回相談—すべての子どもが「参加」する保育へ ミネルヴァ書房
 浜谷直人（編） 2013 仲間とともに自己肯定感が育つ保育—安心のなかで挑戦する子どもたち
 浜谷直人・三山岳（編） 2016 子どもと保育者の物語によりそう巡回相談：発達がわかる、保育がおもしろくなる ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

授業への出席を含むグループワーク、リアクションペーパーによる参加度（5割）と最終試験（5割）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

継続して具体的な事例を紹介しながら学べるようにしていきたい。分かりやすく、質問しやすい環境を工夫していく。

【Outline and objectives】

This course deals with the counseling method and case study. It also enhances the development of students' skill in case discussion and problem solves.

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅠ 展開科目

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングはキャリア開発、キャリア形成において、問題を抱える人達を支援する大切なカウンセリングです。キャリアカウンセリングは、カウンセリングの中でも、「育てる、開発するカウンセリング」として位置づけられます。キャリア教育の中での生徒、学生達の相談、未就業者の相談、再就職の支援、組織・企業内でのキャリア形成の相談など、多様な場面で求められている大切なカウンセリングです。この授業を受講することによって、まず、キャリアカウンセリングとは何かを正しく理解し、そのためには、どのような支援を行うか、キャリアカウンセリングの進めかたの具体的なステップ、アセスメントの方法、傾聴技法などについて理解し、実際に身につけることを授業の到達目標とします。

【到達目標】

キャリアカウンセリングとは何かを理解し、その歴史、理論的背景、キャリアカウンセリングの担当者に求められる要件、キャリアカウンセリングへのニーズとその活用などに対する深い理解を達成目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

キャリアに関する問題解決を効果的に支援するためには、その背景となるキャリア理論、カウンセリング理論などを適正に理解した上で、相談者のキャリア開発やキャリア形成の支援のために情報提供、助言指導などが必要になります。相談者がどのようなキャリア上の問題を抱えているのか、真摯に傾聴しながら、相談者をありのまま理解し、支援することが欠かせません。そのためには、キャリアカウンセリングは、具体的にどのように展開をしたらよいのか、そのステップはどのような過程をたどるのか、また、どのようなアセスメントを行なうことが必要かなどについても学び、キャリアカウンセリングについて理論だけではなくその技法も身につけることを行います。また、事例を取り上げて研究し、具体的な支援の方法を修得します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代社会とキャリア開発、キャリア形成	キャリア発達とは何か、キャリア支援とは何か、キャリアサポートはなぜ必要なのかについて学ぶ
第 2 回	生涯発達とキャリア発達、キャリア形成—子どもから大人へ	人間の生から死に至る生涯発達を展望したキャリア発達とキャリア形成について考える
第 3 回	生涯発達とキャリア発達、キャリア形成—成人から老年期へ	人間の生から死に至る生涯発達を展望したキャリア発達とキャリア形成について考える
第 4 回	人材育成とキャリア開発支援	社会経済の変化、労働環境の変化に伴って、そのようなキャリア開発支援が求められているかについて考える
第 5 回	キャリアカウンセリングとは何か	キャリア開発、キャリア形成を支援するキャリアカウンセリングとは何か、その意義について考える
第 6 回	キャリアカウンセリングの歴史と発達	キャリアカウンセリングはいかに誕生したのか、歴史と発達について考える
第 7 回	キャリアカウンセリングの活用とその機能	キャリアカウンセリングはどのように活用されているのか、その分野、キャリアカウンセラーの活躍の領域について考える
第 8 回	キャリア教育とキャリアカウンセリング	キャリア教育の中で果たすキャリアカウンセリングの役割とその意味について考える
第 9 回	キャリアカウンセリングの理論 初期理論	キャリアカウンセリングの理論について学ぶ
第 10 回	キャリアカウンセリングの理論 スーパーの理論の変化	キャリアカウンセリングの理論について学ぶ（スーパー）
第 11 回	キャリアカウンセリングの理論 ホランド、シャイン他の理論	キャリアカウンセリングの理論について学ぶ（ホランド、シャイン他）
第 12 回	キャリアカウンセリングのアセスメント	キャリアカウンセリングのアセスメントとその多様なツールについて学ぶ

第 13 回	キャリアカウンセリングの事例— 1（学生）	キャリアカウンセリングのケーススタディ（学生）を行い、カウンセリングの方法を検討する
第 14 回	キャリアカウンセリングの事例— 2（成人）	キャリアカウンセリングのケーススタディ（成人）を行い、カウンセリングの方法を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を紹介する

【テキスト（教科書）】

宮城まり子著「キャリアカウンセリング」2002、駿河台出版社

【参考書】

宮城まり子著「心理学を学ぶ人のためのキャリアデザイン」2007、東京図書
木村周著「キャリアカウンセリング」1997、雇用問題研究会
平野光俊「キャリア・ディベロップメント」1994、文真堂

【成績評価の方法と基準】

1. 提出課題 20%
 2. 期末試験 80%
- 2点よりの総合的な評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

授業の展開、スピードを緩める

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

After taking this course, you will be able to understand career counseling and development theories, including the following:

- ・interrelationships among and between work, family, and other life roles and factors,
- ・career counseling processes, techniques, and resources

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅡ 展開科目

高橋 浩

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングⅠでは主にキャリア理論、キャリアカウンセリング理論を学び、それを踏まえてキャリアカウンセリングⅡではキャリアカウンセリングの現場での事例紹介、事例検討などの活動を組合せて理解を進める。

【到達目標】

- ・キャリアカウンセリングの実際の展開について理解する
- ・カウンセリングの基本的理論について理解する
- ・キャリアカウンセリングが活用されている領域、分野での具体的な事例を知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

キャリアカウンセリングⅠで学んだキャリア理論を踏まえて、キャリアカウンセリングの実際の展開、アプローチの方法について学ぶ。各分野での事例検討、学習を通して深い理解を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアガイダンス等との比較から考える
第 2 回	キャリアカウンセリングの進め方	キャリアカウンセリングを進める 6 つのステップについて学ぶ
第 3 回	カウンセリングの実際 傾聴	キャリアカウンセリングで使える代表的な理論について学ぶ（～第 10 回） 傾聴、受容、共感を学ぶ
第 4 回	来談者中心療法	認知行動療法について学ぶ
第 5 回	認知行動療法	精神分析について学ぶ
第 6 回	精神分析	承認欲求にとらわれすぎない生き方働き方を学ぶ
第 7 回	アドラー心理学	問題志向／解決志向カウンセリングを学ぶ
第 8 回	ブリーフセラピー	マイクロ技法の階層表をもとに包括折衷的カウンセリングについて学ぶ
第 9 回	グループ・アプローチ	グループワークの効果体験する
第 10 回	ナラティブ・アプローチ	ナラティブ・アプローチについて実習を交えて学ぶ
第 11 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー学校	キャリアカウンセリングの活用分野について学ぶ（～第 14 回）学校での事例検討
第 12 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー企業	企業内での事例検討
第 13 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー就労支援	就労支援機関での事例検討
第 14 回	キャリアカウンセリングの活用分野ー多様性（ダイバーシティ）	女性、障害者などのキャリア開発の支援事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

興味をもったトピックについては授業で紹介する参考書などを積極的に参照する。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

「キャリアカウンセリング」宮城まり子 駿河台出版社
・「キャリア・コンサルティング 理論と実際 カウンセリング、ガイダンス、コンサルティングの一体化を目指して」木村周 社団法人 雇用問題研究会
・「新時代のキャリアコンサルティング キャリア理論・カウンセリングリ理論の現在と未来」労働政策研究・研修機構（編）独立行政法人 労働政策研究・研修機構

【成績評価の方法と基準】

授業中のミニレポート 20 % 期末レポート 80 %

【学生の意見等からの気づき】

前回のコメントシートに書かれた学生からの感想や質問を授業の冒頭に紹介しながら、双方向型の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

After taking this course, you will be able to understand career counseling and development theories, including the following:

- ・interrelationships among and between work, family, and other life roles and factors,
- ・career counseling processes, techniques, and resources

In the fall semester, we will study case studies of employment support, and workplace support.

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅢ (ケーススタディ)

展開科目

宮脇 優子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングの様々な事例（ケース）を研究（学習）することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの方法や意義について理解することを目的とする。

まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項―その独自性や起源・発展の経緯、現代社会においてキャリアカウンセリングが求められている背景・ニーズを学ぶ。

次に、キャリアカウンセラーに求められる能力（技能）や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。その上で、様々なケース研究に取り組み、実践への知見を深めることとする。

【到達目標】

・キャリアカウンセリングの基礎的な事項について理解できる

・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して

①現代社会の様相、特に働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへの社会的ニーズを理解できる

②キャリアカウンセリングの心理学理論に基づいたケースの見立て方、援助方法の理解・習得ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とグループワークを主体とし、授業内容によってはエクササイズ（ロールプレイング）や実習を取り入れる。

ケーススタディ（事例検討）は、グループでの意見交換や討議及び発表が中心となる。

授業終了後にコメントシートの提出を求め、次週の授業において感想・質問について応じるといった2 WAY コミュニケーションをはかりながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義、他の隣接領域との違いを学ぶ。
第 2 回	起源から見るキャリアカウンセリングの特徴	カウンセリングの誕生の背景、キャリアカウンセリングの発展の経緯を学び、キャリアカウンセリングの特徴を理解する。
第 3 回	社会経済・雇用環境の変化、社会のニーズとキャリア支援	社会経済・雇用環境の変化にともない、なぜキャリア支援が必要とされているのか。支援者であるキャリアカウンセラー（キャリアコンサルタント）への期待、果たせる役割について学ぶ。
第 4 回	キャリアカウンセリングの実際～キャリアカウンセラーに必要とされる能力	キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）、要件について学ぶ。＜キャリアカウンセリング実施＞
第 5 回	キャリアカウンセリングの実際～キャリアカウンセリングの具体的展開	キャリアカウンセリングはどのように行われるのか、具体的な展開方法について学ぶ。
第 6 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ①	事例検討：「キャリア支援のニーズが高い3つのケース」～新入社員、中高年、非正規社員への援助を考える。
第 7 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ②	事例検討：「キャリアチェンジを伴う転職がしたい」～資格取得とキャリアチェンジを考える。
第 8 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ③	事例検討：「職場の人間関係に悩むケース」～職場の人間関係問題へのアプローチ、心理学理論を応用した援助を学ぶ。
第 9 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ④	事例検討：「子育てしながら再び働きたい」～子育てしながら働く女性への援助を考える。
第 10 回	キャリアカウンセリングにおけるアセスメントの活用	キャリアカウンセリングにおけるアセスメントの効果的な活用方法を学ぶ。＜実習＞

第 11 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑤	事例検討：「メンタルヘルス不調からの脱出」～フォーマル・アセスメント（心理テスト）の活用、ストレス理論に基づいた見立て方、心理学理論を応用した援助方法を学ぶ。
第 12 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑥	事例検討：「職場の問題に悩む管理職」～個と組織を活かすキャリアカウンセリングを考える。
第 13 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑦	事例検討：「過重労働から職場不適応に陥ったケース」～キャリア支援とメンタルヘルス支援を考える。
第 14 回	まとめ、期末試験	これまでの授業の振り返り・まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に設定された課題について小レポートを作成し、提出する。

【テキスト（教科書）】

「働く人へのキャリア支援～働く人の悩みに応える27のヒント」

宮脇優子編著 金剛出版

【参考書】

「キャリアカウンセリング入門 人と仕事の橋渡し」

渡辺三枝子＋E.L. ハー著 ナカニシヤ出版

「キャリアカウンセリング」宮城まり子著 駿河台出版社

「キャリア・コンサルティング 理論と実際（三訂版）」木村周著 一般社団法人「雇用問題研究会」

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み姿勢、グループ討議・発表への参加度） 10%

小レポート課題 10%

期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

担当教員は、人事・教育関連を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動を開始し、現在に至っている。キャリアカウンセラーとしての16年の経験で支援してきた人は4,000人を超える。

これまでの経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人の様々な心理的問題、そしてキャリアカウンセラーの援助の実践について、授業の中で紹介しながら進めていきたい。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to understand the importance and methods of career counseling.

The first phase is to understand the basics of career counseling, i.e. its history and the reason why career counseling is required in today's society.

The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field.

Lastly, we will examine its practical usage by looking into various cases.

PSY200MA	
教育相談	展開科目
田澤 実	

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とリアクションペーパー提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学校における教育相談の意義
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児、児童の心理的特質や教育的課題
第 3 回	青年期の発達	生徒の心理的特質や教育的課題
第 4 回	成人期の発達	保護者の心理的特質
第 5 回	カウンセリングの基礎	カウンセリングにおける基本的態度
第 6 回	カウンセリングの技法	カウンセリングにおける傾聴、質問技法
第 7 回	教育相談の進め方	教育相談を進める際に必要な基礎的知識
第 8 回	非行に関する相談	非行に関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第 9 回	いじめに関する相談	いじめに関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第 10 回	不登校に関する相談	不登校に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 11 回	虐待に関する相談	虐待に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりに関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 13 回	発達障害に関する相談	発達障害に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 14 回	外部機関との連携	組織的な取り組みや連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を設ける回がある。

【テキスト（教科書）】

渡部昌平（編著）柴田健・田澤実 2018「実践 教育相談～個人と集団を伸ばす「最強のクラス作り」～」川島書店

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（70 %）、積極的参加（30 %）にて評価

【学生の意見等からの気づき】

授業の感想や定期試験の回答傾向を総合的に判断して扱うテーマや内容に一部変更を加えた。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA	
教育相談	展開科目
PSY200MA	
教育相談	展開科目

軽部 雄輝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携における基本的な考え方を理解することを目指す。

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で以下の3つのトピックを扱う。

1. 【教育相談の意義及び理論】（第 1 回～第 4 回）
 - ・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念
 2. 【教育相談の方法】（第 5 回～第 6 回）
 - ・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識
 3. 【教育相談の展開】（第 7 回～第 14 回）
 - ・幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味
 - ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携
- 講義では、教員はパワーポイントを用いて説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 3 回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 4 回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第 5 回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第 6 回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。
第 7 回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 11 回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第 13 回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第 14 回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理学の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容に関するレポート及び演習問題等の課題が課されることがある。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

春日井敏之（編）2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房
大芦治 2016『教育相談・学校精神保健の基礎知識』（第3版）ナカニシヤ出版
庄司一子（監修）杉本希映・五十嵐哲也（編著）2015『事例から学ぶ児童・生徒への指導と援助』（第2版）ナカニシヤ出版
森岡正芳（編著）2012『カウンセリングと教育相談—具体事例を通して理解する』あいり出版
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

試験（70％）、積極的参加（30％）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度から継続し、授業内でのグループディスカッション等を取り入れ、受講生間の意見交換や実践現場における疑似演習を体験いただく機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターを利用する。
講義では、教員はパワーポイントを用いて説明する。

【その他の重要事項】

担当者は、適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して、本授業では事例のトピックも取り上げ、可能な限り具体的な対応についても検討する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

今井 文男

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・教育相談とは、生徒指導の重要な領域であることを理解し、教育活動のあらゆる場面のあらゆる機会を通して行われていることを理解する。
・本授業を通して、一人一人の児童生徒に焦点を当てた、好ましい人間関係、生活適応、自己理解等、教育相談を行う上での基礎的な知識及び具体的な進め方を学ぶ。

【到達目標】

・教育相談について、その組織的な体制や進め方等の基礎的な知識が理解できるようになる。
・日常の教育現場における、児童生徒や保護者等への教育相談の具体的な進め方が理解できるようになる。
・教育の今日的な課題である、いじめ、不登校、特別な支援を要する児童生徒に関する教育相談の基礎的な知識が理解できるようになる。
・事例演習を通して、教育相談ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・講義と事例演習（学生同士のディスカッション及びグループワーク）を行います。
・毎回の授業において、リアクションペーパー（授業シート、演習シート）の提出を求めます。
・ゲストスピーカーによる授業が有る場合は、授業の順番が入れ替わることがありますので、ご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要、目標、計画、方法、評価方法と基準等についてのガイダンスをおこないます。
第 2 回	教育相談の意義	・教育相談についての全体像を把握する。 ・学校における教育相談の特質について。 ・事例演習。
第 3 回	教育相談体制	・教育相談の体制づくりについて。 ・組織的な教育相談について。 ・事例演習。
第 4 回	教育相談の進め方	・学級担任が行う具体的な教育相談について。 ・専門機関と連携した相談活動について。 ・事例演習。
第 5 回	学習相談の進め方	・学習相談の目的や機能について。 ・学習への取り組み法や学習障害児童生徒の理解。 ・事例演習。
第 6 回	進路相談の進め方	・キャリア教育の基礎的な理解について。 ・キャリアアカウンセリングの進め方について。 ・事例演習。
第 7 回	生活相談の進め方	・学校生活における法的な制度について。 ・懲戒、体罰、出席停止等と教育相談の関係について。 ・事例演習。
第 8 回	問題行動に関する相談	・問題行動の対応の進め方等について。 ・問題行動を起こす児童生徒の対応と相談について。 ・事例演習。
第 9 回	いじめに関する相談（1）	・いじめに関する基礎知識。 ・いじめの早期発見と相談活動について。 ・事例演習。
第 10 回	いじめに関する相談（2）	・いじめ問題のプロセスについて。 ・いじめ防止対応と適切な相談活動について。 ・事例演習。

第 11 回	不登校に関する相談（１）	・不登校に関する基礎知識。 ・不登校の早期発見と相談活動について。 ・事例演習。
第 12 回	不登校に関する相談（２）	・不登校を克服するための対応について。 ・不登校児童生徒と保護者のカウンセリングについて。 ・事例演習。
第 13 回	特別な支援を要する児童生徒に関する相談	・支援を要する児童生徒の基礎的な理解について。 ・発達障害に関する支援の在り方と相談活動について。 ・事例演習。
第 14 回	振り返り、まとめ試験	・教育相談について、基礎的な知識と進め方などについての振り返りを行い、授業の内容をまとめる。 ・授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教育相談に関する新聞記事等の閲覧やマスコミ等における児童生徒についての社会問題をとらえ多面的に思考する。授業に関する基礎的な知識などを事前に学習する。教育に関する時事問題への関心を深める。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。
適宜、必要な図書を紹介。資料等を配布する。

【参考書】

文部科学省「生徒指導提要」2010。
文部科学省「小学校キャリア教育の手引き」「中学校キャリア教育の手引き」「高等学校キャリア教育の手引き」2011。
文部科学省「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」[最新版]

【成績評価の方法と基準】

- ・授業毎のリアクションペーパー（4割）
- ・学習活動（2割）
- ・試験（4割）

【学生の意見等からの気づき】

授業時間を守る。
学生同士のディスカッションの時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。（利用する場合は、事前にお知らせいたします）

【その他の重要事項】

- ・時間を守ること。・他人の話は黙って聞くこと。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

山上 真貴子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的な知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行う。また、適宜視聴覚教材を使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	半期を通じた授業の流れについて説明する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第 3 回	青年期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第 4 回	成人期の発達	小中高を過ぎれば教育相談の範囲外？—困りごとはいきなり消えてはくれない。
第 5 回	カウンセリングの基礎	スクールカウンセラーって何をする人？
第 6 回	カウンセリングの技法	さまざまなカウンセリングの技法を紹介する。
第 7 回	教育相談の進め方	一般的な教育相談の進め方について概説する。
第 8 回	不登校に関する相談	不登校の現状について解説し、事例を用いて不登校に関する相談について考える。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの現状について解説し、事例を用いていじめに関する相談について考える。
第 10 回	非行に関する相談	非行の現状について解説し、事例を用いて非行に関する相談について考える。
第 11 回	虐待に関する相談	虐待の現状について解説し、事例を用いて虐待に関する相談について考える。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状について解説し、事例を用いて引きこもりに関する相談について考える。
第 13 回	発達障害に関する相談	発達障害の現状について解説し、事例を用いて発達障害に関する相談について考える。
第 14 回	外部機関との連携	どんな機関と、どう連携すれば良いか、事例を用いて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

興味を持ったトピックについて、授業内で紹介する文献を含めた関連書を積極的に参照すること。授業で紹介する各事例については、授業後に再度熟読すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

春日井敏之ら（編）2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

試験（40 %）、レポート（30 %）、積極的参加（30 %）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や間相当を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業中にフィードバックを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業支援システムに授業資料をアップします。事前に印刷が必要な場合、教員から指示します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

PSY200MA

教育相談

展開科目

軽部 雄輝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携における基本的な考え方を理解することを目指す。

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で以下の3つのトピックを扱う。

1. 【教育相談の意義及び理論】（第1回～第4回）
・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念
2. 【教育相談の方法】（第5回～第6回）
・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識
3. 【教育相談の展開】（第7回～第14回）
・幼児、児童及び生徒の不応や問題行動の意味
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携
講義では、教員はパワーポイントを用いて説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第3回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第4回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第5回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第6回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。
第7回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第8回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第9回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第10回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第11回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第13回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第14回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容に関するレポート及び演習問題等の課題が課されることがある。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

春日井敏之（編）2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房
大芦治 2016『教育相談・学校精神保健の基礎知識』（第3版）ナカニシヤ出版
庄司一子（監修）杉本希映・五十嵐哲也（編著） 2015『事例から学ぶ児童・生徒への指導と援助』（第2版）ナカニシヤ出版
森岡正芳（編著） 2012『カウンセリングと教育相談—具体事例を通して理解する』あいり出版
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

試験（70％）、積極的参加（30％）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度から継続し、授業内でのグループディスカッション等を取り入れ、受講生間の意見交換や実践現場における疑似演習を体験いただく機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターを利用する。
講義では、教員はパワーポイントを用いて説明する。

【その他の重要事項】

担当者は、適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して、本授業では事例のトピックも取り上げ、可能な限り具体的な対応についても検討する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

今井 文男

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・教育相談とは、生徒指導の重要な領域であることを理解し、教育活動のあらゆる場面のあらゆる機会を通して行われていることを理解する。
・本授業を通して、一人一人の児童生徒に焦点を当てた、好ましい人間関係、生活適応、自己理解等、教育相談を行う上での基礎的な知識及び具体的な進め方を学ぶ。

【到達目標】

・教育相談について、その組織的な体制や進め方等の基礎的な知識が理解できるようになる。
・日常の教育現場における、児童生徒や保護者等への教育相談の具体的な進め方が理解できるようになる。
・教育の今日的な課題である、いじめ、不登校、特別な支援を要する児童生徒に関する教育相談の基礎的な知識が理解できるようになる。
・事例演習を通して、教育相談ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・講義と事例演習（学生同士のディスカッション及びグループワーク）を行います。
・毎回の授業において、リアクションペーパー（授業シート、演習シート）の提出を求めます。
・ゲストスピーカーによる授業が有る場合は、授業の順番が入れ替わることがありますので、ご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要、目標、計画、方法、評価方法と基準等についてのガイダンスをおこないます。
第 2 回	教育相談の意義	・教育相談についての全体像を把握する。 ・学校における教育相談の特質について。 ・事例演習。
第 3 回	教育相談体制	・教育相談の体制づくりについて。 ・組織的な教育相談について。 ・事例演習。
第 4 回	教育相談の進め方	・学級担任が行う具体的な教育相談について。 ・専門機関と連携した相談活動について。 ・事例演習。
第 5 回	学習相談の進め方	・学習相談の目的や機能について。 ・学習への取り組み法や学習障害児童生徒の理解。 ・事例演習。
第 6 回	進路相談の進め方	・キャリア教育の基礎的な理解について。 ・キャリアアカウンセリングの進め方について。 ・事例演習。
第 7 回	生活相談の進め方	・学校生活における法的な制度について。 ・懲戒、体罰、出席停止等と教育相談の関係について。 ・事例演習。
第 8 回	問題行動に関する相談	・問題行動の対応の進め方等について。 ・問題行動を起こす児童生徒の対応と相談について。 ・事例演習。
第 9 回	いじめに関する相談（1）	・いじめに関する基礎知識。 ・いじめの早期発見と相談活動について。 ・事例演習。
第 10 回	いじめに関する相談（2）	・いじめ問題のプロセスについて。 ・いじめ防止対応と適切な相談活動について。 ・事例演習。

発行日：2019/5/1

- 第 11 回 不登校に関する相談（１）
- ・不登校に関する基礎知識。
 - ・不登校の早期発見と相談活動について。
 - ・事例演習。
- 第 12 回 不登校に関する相談（２）
- ・不登校を克服するための対応について。
 - ・不登校児童生徒と保護者のカウンセリングについて。
 - ・事例演習。
- 第 13 回 特別な支援を要する児童生徒に関する相談
- ・支援を要する児童生徒の基礎的な理解について。
 - ・発達障害に関する支援の在り方と相談活動について。
 - ・事例演習。
- 第 14 回 振り返り、まとめ試験
- ・教育相談について、基礎的な知識と進め方などについての振り返りを行い、授業の内容をまとめる。
 - ・授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教育相談に関する新聞記事等の閲覧やマスコミ等における児童生徒についての社会問題をとらえ多面的に思考する。授業に関する基礎的な知識などを事前に学習する。教育に関する時事問題への関心を深める。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。
適宜、必要な図書を紹介。資料等を配布する。

【参考書】

文部科学省「生徒指導提要」2010.
文部科学省「小学校キャリア教育の手引き」「中学校キャリア教育の手引き」「高等学校キャリア教育の手引き」2011.
文部科学省「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」[最新版]

【成績評価の方法と基準】

- ・授業毎のリアクションペーパー（4 割）
- ・学習活動（2 割）
- ・試験（4 割）

【学生の意見等からの気づき】

授業時間を守る。
学生同士のディスカッションの時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。（利用する場合は、事前にお知らせいたします）

【その他の重要事項】

- ・時間を守ること。
- ・他人の話は黙って聞くこと。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

田澤 実

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的な知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、リアクションペーパー提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の概要および成績評価等を説明する。
第 2 回	教育における発達理解の意義	発達と教育の関連
第 3 回	対人関係の発達	幼児、児童及び生徒の対人関係の発達および主体的学習を支える集団づくりの理解
第 4 回	認知の発達	乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達
第 5 回	アイデンティティ	心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
第 6 回	学習の理論	様々な学習の形態や概念
第 7 回	学習の指導	主体的な学習活動を支える指導の基礎
第 8 回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけ
第 9 回	学習の評価	主体的学習を支える学習評価の在り方
第 10 回	記憶の種類	様々な学習の過程を説明する代表的理論
第 11 回	性格の理解	乳幼児期から青年期の各時期における個人差
第 12 回	性格の様々な測定方法	個人差の測定方法
第 13 回	発達障害の理解	3つの発達障害の具体的特徴および歴史的背景
第 14 回	発達障害の支援・指導	3つの発達障害の具体的特徴を踏まえた学習支援と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前課題を設ける回がある。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにアップロードする。各自で印刷して持参する。

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】

授業の感想を踏まえて、授業で扱うテーマについて一部変更を加えた。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

軽部 雄輝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 1/Tue.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、子どもの健全な成長と発達、および人格形成を援助する教育場面に関わる心理学的理論と方法について学ぶ。具体的には、下記に関するトピックについて扱う。

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で以下の4つのトピックを扱う。

- 1.【発達】：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程についての知識（第2回～第5回）
- 2.【学習】：幼児、児童及び生徒の学習の過程や発達を踏まえた学習を支える指導（第6回～第10回）
- 3.【パーソナリティ】：幼児、児童及び生徒の特徴を理解するときの視点（第11回～第12回）
- 4.【臨床】：特別な教育的ニーズをもつ子どもへの援助（第13回～第14回）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する。
第2回	教育における発達理解の意義	教育場面における発達を理解することの意義を取り上げ、理解する。
第3回	対人関係の発達	乳幼児期から青年期における対人関係の発達と課題について理解する。
第4回	認知の発達	ピアジェの理論を中心として、乳幼児期から青年期における認知発達を理解する。
第5回	アイデンティティ	乳幼児期から青年期の各時期における発達課題と、アイデンティティとの関連について紹介する。
第6回	学習の理論	幼児、児童及び生徒の学習の過程を扱う。様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。
第7回	学習の指導	学習指導・生徒指導のあり方を理解する。
第8回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけを紹介し、やる気のメカニズムについて理解する。
第9回	学習の評価	学習評価・教育評価のあり方を理解する。
第10回	記憶の種類	記憶の構造や種類を説明し、認知の特徴と関連づけて理解する。
第11回	性格の理解	パーソナリティ研究の観点から、幼児、児童及び生徒の特徴を理解する。
第12回	性格の様々な測定方法	性格テストを体験する。心理学的な測定として、質問紙法、作業検査法、投影法を紹介する。
第13回	発達障害の理解	発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についてその特徴を紹介する。
第14回	発達障害の支援・指導	発達を踏まえた学習支援や生活指導についての基礎的な考え方を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容に関するレポート及び演習問題等の課題が課されることがある。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

櫻井茂男（監修）黒田祐二（編著） 2012 『実践につながる教育心理学』北樹出版
櫻井茂男（編） 2017 『改訂版たのしく学べる最新教育学—教職に関わるすべての人に—心理学』 図書文化
吉川成司・関田和彦・鉤治雄（編著） 2010 『はじめて学ぶ教育心理学』ミネルヴァ書房
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70％）、授業への積極的参加（30％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度から継続し、授業内でのグループディスカッションや体験学習等を取り入れ、受講生間の意見交換や実践的な疑似演習の機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターを利用する。

講義では、教員はパワーポイントを用いて説明する。

【その他の重要事項】

担当者は、適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して、本授業では理論のみならず、可能な限り具体的な実践場面への応用についても受講生とともに検討する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

児玉 茉奈美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では教育心理学を学ぶことで、人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に、その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。授業内で扱う主なトピックは以下である。

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程並びに特徴を理解する。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式ですすめていく。授業後半では、その日の学習内容をまとめた問題を解くことによって授業内容の振り返りをする。その上で、その日のテーマについてグループワークを行い、リアクションペーパーに自分の考えを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する
第 2 回	教育における発達理解の意義	幼児期から青年期まで発達過程を理解する教育的意義を説明する。
第 3 回	対人関係の発達	幼児期から青年期までの対人関係の発達について説明する。
第 4 回	認知の発達	幼児期から青年期までの認知の発達について説明する。
第 5 回	アイデンティティ	ライフサイクルと、発達時期による発達課題を説明する。
第 6 回	学習の理論	幼児から青年期までの学習のメカニズムについて説明する。
第 7 回	学習の指導	学習指導の在り方や方法を説明し、アクティブラーニングなど新しい学びの方法も紹介する。
第 8 回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけについて説明する。
第 9 回	学習の評価	教育目的や方法に応じて、どのように学習評価の観点や時期、評価者を検討するかを説明する。
第 10 回	記憶の種類	記憶のメカニズムをもとに、記憶と学習との関係を説明する。
第 11 回	性格の理解	性格テストを体験しながら、心理測定法の考え方を説明する。
第 12 回	性格の様々な測定方法	質問紙法、作業検査法、投影法など主要な心理測定法を紹介する。
第 13 回	発達障害の理解	発達障害のタイプに応じた特徴を説明する。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達障害のある幼児、児童、生徒をどのように指導・支援できるか説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[準備等] 教科書やレジュメを予め読んでおくこと
[復習等] レジュメを参照しながらミニテストの復習をすること

【テキスト（教科書）】

鎌原雅彦・竹銅誠一郎（2015）やさしい教育心理学〔第 4 版〕有斐閣（2052 円）

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】

毎回復習の時間にペアで重要用語を説明しあう時間を設けていますが、レジュメを見ずに説明できるようにしたいという声がありました。本年度からは、よりアクティブな復習時間を設けたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

山上 真貴子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達過程並びに特徴を理解する。
- ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

穴埋めプリントを中心に、講義形式で授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	半期を通じた授業の流れについて説明する。
第 2 回	教育における発達理解の意義	発達に応じた学びについて考える。
第 3 回	対人関係の発達	学びを支える家族・仲間・教師との人間関係を考える。
第 4 回	認知の発達	学びの背後にある認知発達について考える。
第 5 回	アイデンティティ	学びと深くつながる自己・アイデンティティについて考える。
第 6 回	学習の理論	学習についてのさまざまな心理学の理論を紹介する。
第 7 回	学習の指導	理論をもとに、教える方法・学ぶ方法について考える。
第 8 回	動機づけ	学びを支える「やる気」について考える。
第 9 回	学習の評価	学びをうながす教育評価について考える。
第 10 回	記憶の種類	記憶の仕組みについて知り、学びについての理解を深める。
第 11 回	性格の理解	学びの中で生じる個人差をはじめとし、さまざまな性格のとらえ方について理解する。
第 12 回	性格の様々な測定方法	性格は測れるのか。さまざまな測定法から性格に迫る。
第 13 回	発達障害の理解	近年注目の集まる発達障害とはどんなものかを概説する。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達障害の具体的な支援・指導とは何かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

興味を持ったトピックについて、積極的に文献を参照し、理解を深めてください。また、授業ごとに出席されるまとめの問題について復習しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

鎌原雅彦ら 2015『やさしい教育心理学 第 4 版』有斐閣アルマ

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や感想等を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業でフィードバックを行います。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに授業資料をアップします。各自、事前に忘れず印刷して持参してください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

遠藤 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：土 1/Sat.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎時間、ワークシートを配布します。ワークシートは授業内に完成して提出します。講義の他、文献講読、ディスカッション、ワークショップ、授業内での発表など、さまざまな授業形態を体験することで、主体的に学べるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の仕方について説明します。自分自身が 14 回の授業で学ぶことを確認します。
第 2 回	教育における発達理解の意義	教育において「発達過程を理解すること」の意義を理解し、発達の基礎概念について学びます。
第 3 回	対人関係の発達	乳幼児から青年期にかけての子ども・青年を取りまくさまざまな対人関係、社会性の発達について学びます。
第 4 回	認知の発達	ピアジェの理論を参照しながら、人の認知発達について学びます。認知発達の過程を通して、幼児期から児童・青年期それぞれに対する教育的関わりの違いや、学校教育について考えます。
第 5 回	アイデンティティ	エリクソンの理論を中心に、生涯発達と発達の危機、特に青年期の発達課題について学びます。
第 6 回	学習の理論	条件づけなどの学習に関する基礎的な理論について学びます。
第 7 回	学習の指導	さまざまな教授法や学習方略について学びます。
第 8 回	動機づけ	主体的な学習を支える動機づけや学習を効果的に進めるための集団づくりについて学びます。
第 9 回	学習の評価	学習の成果を評価することの意義や役割について学び、特に学校教育の中で「児童・生徒を評価すること」との関連を考えます。
第 10 回	記憶の種類	記憶についての心理学的な理論を学び、記憶の仕組みを理解します。また、記憶と日常生活の関わりについて考えます。
第 11 回	性格の理解	「個性」というものをとらえるために、人格・性格や知的な能力についていくつかの心理学的な理論を学びます。
第 12 回	性格の様々な測定方法	心理学で使われる諸検査を紹介します。さまざまな測定や検査を学ぶことで「人の個性を理解する」ということについて考えます。
第 13 回	発達障害の理解	発達障害について正しく学び、理解を深めます。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達障害をかかえる児童・生徒への支援や指導などについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題などは授業内で完結することを基本とします。現代の子ども・青年を取りまく状況に関心を寄せ、日常の中で疑問や発見を意識することが、授業時間外の学習となります。自分自身の日常生活における疑問や経験を意識しながら授業に臨みたいと思います。

【テキスト（教科書）】

子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣 2100 円＋税

【参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（40 %）、毎時間配布するワークシート・授業への積極的参加（60 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、すべての項目で概ね良い評価を得ました。特にさまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気」で授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で高校の心理職を兼務しており、現場での経験をふまえて、事例から具体的に学ぶ授業にもなります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

児玉 茉奈美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では教育心理学を学ぶことで、人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に、その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。授業内で扱う主なトピックは以下である。

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程並びに特徴を理解する。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式ですすめていく。授業後半では、その日の学習内容をまとめた問題を解くことによって授業内容の振り返りをする。その上で、その日のテーマについてグループワークを行い、リアクションペーパーに自分の考えを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する
第 2 回	教育における発達理解の意義	幼児期から青年期まで発達過程を理解する教育的意義を説明する。
第 3 回	対人関係の発達	幼児期から青年期までの対人関係の発達について説明する。
第 4 回	認知の発達	幼児期から青年期までの認知の発達について説明する。
第 5 回	アイデンティティ	ライフサイクルと、発達時期による発達課題を説明する。
第 6 回	学習の理論	幼児から青年期までの学習のメカニズムについて説明する。
第 7 回	学習の指導	学習指導の在り方や方法を説明し、アクティブラーニングなど新しい学びの方法も紹介する。
第 8 回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけについて説明する。
第 9 回	学習の評価	教育目的や方法に応じて、どのように学習評価の観点や時期、評価者を検討するかを説明する。
第 10 回	記憶の種類	記憶のメカニズムをもとに、記憶と学習との関係を説明する。
第 11 回	性格の理解	性格テストを体験しながら、心理測定法の考え方を説明する。
第 12 回	性格の様々な測定方法	質問紙法、作業検査法、投影法など主要な心理測定法を紹介する。
第 13 回	発達障害の理解	発達障害のタイプに応じた特徴を説明する。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達障害のある幼児、児童、生徒をどのように指導・支援できるか説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[準備等] 教科書やレジュメを予め読んでおくこと

[復習等] レジュメを参照しながらミニテストの復習をすること

【テキスト（教科書）】

鎌原雅彦・竹銅誠一郎（2015）やさしい教育心理学〔第 4 版〕有斐閣（2052 円）

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】

毎回復習の時間にペアで重要用語を説明しあう時間を設けていますが、レジュメを見ずに説明できるようにしたいという声がありました。本年度からは、よりアクティブな復習時間を設けたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

EDU200MA

学校論Ⅰ（キャリア形成） 展開科目

松尾 知明

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校とはどのような場所か、学校で私たちは何を学ぶのか、教師とはいかなる仕事かなど、本授業ではキャリアを形成する場・仕事の場としての学校について考えたい。社会が大きく変化し、教育課題が山積する中で、ライフコースと学校、特別なニーズと学校の視点から、学校とキャリアについて考察する。

【到達目標】

キャリアを形成する場、仕事の場としての学校についての基礎的な知識を得るとともに、選択したテーマをグループで協力して調べ、理想の学校の企画書を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学校というものをキャリア形成の場及び仕事の場という 2 つの側面から捉え、ライフコースと学校、特別なニーズと学校といったテーマに従って追究していく。本授業では、文献や DVD などをもとに、グループで意見交換するとともに、テーマの内容について講義を行う。また、学校と私についての発表レジュメ、理想の学校についての企画書を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	学びとは何か	学びの場としての学校
3	ライフコースと学校(1)	就学前の学校・施設
4	ライフコースと学校(2)	小学校
5	ライフコースと学校(3)	中学校
6	ライフコースと学校(4)	高等学校
7	学校と私	発表と質疑
8	特別なニーズと学校(1)	多様なニーズと夜間学校
9	特別なニーズと学校(2)	国際化と学校
10	特別なニーズと学校(3)	不登校とフリースクール
11	特別なニーズと学校(4)	問題行動と学校
12	理想の学校(1)	発表と質疑
13	理想の学校(2)	発表と質疑
14	授業のまとめ	授業の振り返りとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。また、担当のテーマについて調べたり、レジュメを作成したり、プレゼンの準備をしたりする。

【テキスト（教科書）】

文献、資料などは指定または配布する。

【参考書】

文部科学省「学習指導要領」。
荻谷恒彦『学校って何だろう－教育の社会学入門』ちくま文庫、2005 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30 %）、課題・発表（50 %）、テスト（20 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ペアやグループで話し合う時間を増やす。

【Outline and objectives】

What is a school? What do we learn at the school? What kind of work does the teacher engage at a school? This class explores the school as a place for career formation as well as occupation. As society changes dramatically and educational issues pile up, various themes around the school and careers are examined from the viewpoints of life courses as well as special needs.

EDU200MA

学校論Ⅱ（キャリア形成） 展開科目

遠藤 野ゆり

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生の初期の大部分を学校で過ごす、という現代社会を生きる以上、キャリア形成に対する学校生活の影響力は非常に大きい。学校教育の意味と課題もそこには含まれている。そこで本授業では、本講義は「学校に行くこと／行かないこと」がキャリア形成に及ぼす影響を、一般論だけではなく、個々の生徒一人ひとりの具体的なエピソードを分析するなかで考える。また、教育を「学問」として探求するための手法として、データをつなぎ合わせ、教育問題が具体的に人間のキャリア形成に及ぼす影響について考えることを目指す。

【到達目標】

学校生活のキャリア形成に関する文科省、厚労省の示すデータを読み取れるようになることを目指す。
それらのデータが学術的な先行研究においてどのように位置づいているのかを理解すると共に、諸外国や日本国内の学校状況に関する知識を習得する。実際の学校生活に関する事例を読み、自分の意見を表現できるようになることを目指す。

以上の目標を実現することで、学校教育および学校生活がキャリア形成においてどのような影響を与えているのかを多様な観点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義形式の授業の回と、グループでの事例検討の回とに分かれる。論理的な知識の習得をしようとして、具体的な分析をおこない、学術的な知見が、現実の具体的な学校現場を理解するうえでどのように有用なのかを理解する。授業では、海外と日本の教育事情の比較や、日本の学校における学力の位置づけ、ヒドゥンカリキュラム、進路多様校の実態、不登校経験者のキャリア形成、家庭教育と学校教育の関係などを学ぶ。
授業後には毎回、リアクションペーパーを書き、その時間ごとに何を理解したのかを表現する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～オランダの子どもは幸福？	授業の概要と進め方についての説明 子どもの幸福度が世界 1 の国はオランダという調査結果があります。この事例をととして、外国との比較から日本の教育を考える力を身につけ、同時に、学校を社会の中に位置づけて考える必要性を考えます。
2	学力とは何か	学力は容易に「高い」「低い」と言われますが、果たしてどのような力を「学力」と呼ぶのでしょうか。学校教育において学力はどのような機能をもっているのかを考えます。
3	優等生の生きづらさ	現在の学力論に即せば学力が高いことは「良いこと」とみなされがちです。しかし本当にそうでしょうか。優等生であることがキャリア形成にどのような影響を与えるのか事例を読み解きます。
4	学校文化	学校には社会とは異なる独特の「文化」があり、この文化がヒドゥン・カリキュラムとして人の考え方に大きな影響を与えています。「当たり前」「正しい」と思い込んでいる学校文化を検証します。
5	鼻くその味 オレばっか悪もの	鼻くそを食べる子どもはいじめられても当然か？ という疑問をもとに鼻くそを食べてしまう子どもの成長を事例で読み解きます。 教育の二極化が指摘されるなか、学校の二極化もまた指摘されます。学校の荒れはどのようなメカニズムによって生じるのかを、子どもの視点から考えます。
6	多様な学校	学校には様々な種類があり、それぞれの特質に即した生徒が進学してきます。「普通科」以外の学校について学びます。

7	商業高校の生きづらさ	商業高校に通うことは就職への近道であると同時に、人間関係に独特の息苦しさをもたらすことがあります。事例から、商業高校で学ぶことにはどのような息苦しさがあるのかを考えます。
8	発達障害当事者の生きづらさ	発達障害があるということが学校生活にどのような影響を与えるのかを考えます。
9	学校に行けない①不登校	不登校はどのような理論で「語られて」きたのでしょうか。不登校をめぐる言説を学びます。
10	学校に行けない②心の壁	学校に行けない子どもの「心理」はどのようなもののでしょうか。保健室登校という境界の事例から、学校に行くことの障壁について考えます。
11	学校に行けない③家庭資源の貧困	虐待や貧困などによって「学校に行きたくとも行けない」問題が起きています。学校に行くのが困難になる社会的背景を学びます。
12	学校に行けない④児童養護施設の子どもたちにとっての「学校」	虐待や貧困などにより家庭で暮らせない子どもたちは経済的な問題以外にも学校に通い難い要因を抱えています。児童養護施設で暮らす少女たちの事例から、学校生活を困難にする「他者の目」について考えます。
13	家庭と学校教育	学校教育に様々な影響を及ぼすのが教育資本など家庭教育の状況です。切っても切り離せない学校教育と家庭教育の状況を捉えます。
14	過保護な家庭で育つことのつらさ	過保護な家庭で育つことがキャリア形成にもたらす負の実態を事例をもとに読み解きます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループワークで読む事例は事前に課題とともに指示しますので、必ず予習をして臨んでください。

【テキスト（教科書）】
大塚類・遠藤野ゆり共編著（2014）『エピソード教育臨床 生きづらさを描く』創元社

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業での貢献度＋期末試験

【学生の意見等からの気づき】
グループワークの予習状況に個人差があり作業がしづらいという指摘があったため、予習を必須課題とします。

【Outline and objectives】
As we spend most of our early life at school, the influence of school life on our career development is very great. The significance and problems of school education are included therein. Therefore, in this class, in this classes we think about the influence of "going to school / not going" on career formation not only in the general theory but also in analyzing each concrete episode of each individual student. As a method to explore education as "academics", we aim to think about the influence of educational problems on human career formation concretely by joining data.

EDU200MA

学校論Ⅲ（キャリア教育） 展開科目

児美川 孝一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本におけるキャリア教育の現状と課題

【到達目標】
① キャリア教育とはなにか、その教育方法はいかにあるべきか、なぜキャリア教育が必要なのか等について、基本的な概念や考え方を理解する。
② 日本におけるキャリア教育の登場と展開の経緯について、基本的な事実、データ、社会的背景等を知るとともに、現状における問題点や課題を適切に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式の授業としてすすめていくが、可能な範囲で、受講者からの質疑や意見を求めたり、コメントカードの記入を求めたりする。
諸外国におけるキャリア教育の展開について、比較研究的な視点を持つことは重要であるが、本授業の対象は、主要には日本の学校教育におけるキャリア教育である。諸外国の事例については、日本との対比において参考になる点を示唆するとともに、
本授業の守備範囲は、日本におけるキャリア教育の歴史、理論、政策、学校レベルにおける施策である。さらに実践的に、学校現場におけるキャリア教育をどうすすめていくかといったテーマに関しては、「学校論Ⅳ（キャリア教育）＜キャリア教育論Ⅱ＞」の受講を薦めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画について概説するとともに、基本概念である「キャリア教育」について、本講義における共通理解の前提を確かめる。
2	職業教育からキャリア教育へ	内外のキャリア教育の成立史を概説し、職業教育とキャリア教育との異動について解説する。
3	権利としてのキャリア教育	いま、なぜキャリア教育が必要なのかという点とかかわって、権利としてのキャリア教育について解説する。
4	日本における職業指導と進路指導	戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史について概説し、それぞれの時期における特徴や問題点について考察する。
5	進路指導改革としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のひとつとして、1990年代前半の進路指導改革の動きについて概説する。
6	若年就労支援策としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のもうひとつとして、政府レベルでの若年就労支援策の展開について概説する。
7	日本のキャリア教育の現状と課題	キャリア教育の登場以降の学校現場における取り組みを概観し、その特徴と問題点について考察する。
8	職場体験・インターンシップ	キャリア教育への取り組みとしての職場体験・インターンシップについて、現状と課題を考察する。
9	進路指導としてのキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての進路指導について、現状と課題を考察する。
10	教科教育を通じたキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての教科を通じたキャリア教育について、現状と課題を考察する。
11	キャリア教育を志向した教育課程づくり	キャリア教育を志向した教育課程づくりについて、学校の事例等も示しつつ、考察する。
12	キャリア教育の担い手と組織体制	キャリア教育の担い手と学校内の組織体制のあり方について、現状と課題を考察する。
13	外部との連携	キャリア教育をすすめていくうえで不可欠な外部との連携について、いくつかの事例を踏まえて、考察する。
14	これからのキャリア教育	諸外国におけるキャリア教育への取り組みを紹介しつつ、日本のキャリア教育の現時点での到達点を確認し、今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業内容については、前回授業時に予告されるので、自分なりの問題関心を深め、事前に資料・データ等を調べたうえで、授業にのぞむこと。それぞれの授業時に紹介される参考文献については、自主的に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店
児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』日本図書センター
児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書
児美川孝一郎『夢があふれる社会に未来はあるか』ベスト新書
授業時にも、随時、紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10 %）
ミニレポート、コメントカード等（30 %）
学期末試験またはレポート提出（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講者に対するフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用して授業を行う。ファイルは、授業支援システムを通じて配布する。

【その他の重要事項】

この授業は、情報の読解・分析力、課題発見・解決力の養成につながる諸課題を、授業運営の中に組み込んでおり、広い意味での受講生の就業力育成に資する。

【Outline and objectives】

This course introduces the current condition and issues of career education in Japan.

EDU200MA

学校論Ⅳ（キャリア教育） 展開科目

寺崎 里水

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校と社会の関係について教育社会学的な観点から学び、キャリアの多様性と今日の課題について考える。

【到達目標】

学校に主眼を置きながら、社会的な条件によってキャリア形成やキャリア教育の課題が多様であることを理解する。よかれと思ってしていることが、意図せざる結果をうむ可能性があることを理解する。官公庁統計を読むことができる。他者と協働して行うグループワークを学びの機会として活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とグループワークを用いる。グループワークへの参加は単位取得のための必須条件とする。そのうえでグループごとにレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、授業の概要と目的的理解。
第 2 回	社会構造と私たち	「自分の考え」が社会や大人の受け売りになっている可能性に気づき、自分が当たり前だと思っていることを問い直すきっかけをつかもう。
第 3 回	教育と労働力	「規律正しい、訓練された、質のよい労働者」を育てるための学校教育、という目で学校を見てみよう。
第 4 回	グループワーク：100 人の中卒者	官公庁統計データを使って自分自身のキャリアを振り返るグループワーク。
第 5 回	教育格差	地位達成ゲームの今日的状況を読み解こう。
第 6 回	都会と地方	地方にとどまる若者たちをきっかけに、トラッキングについて考える。
第 7 回	グループワーク：教育機会の格差とキャリア形成	官公庁統計をもとに教育機会やキャリア形成の格差について考えるグループワーク。
第 8 回	キャリアイメージの男女差	「男らしい」子育てと女性のフルタイム就労との関係を見てみよう。
第 9 回	学校内部メカニズム	学校のなかの隠れたカリキュラムと進路分化について考える。
第 10 回	グループワーク：男の子の国と女の子の国	子供の頃から見てきた「成功の物語」と現実のギャップを鋭くえぐろう。
第 11 回	小括	グループワークで出てきた論点を整理し、期末レポート執筆課題をみつめる。
第 12 回	グループワーク①今まで例外的とされてきた事例から、キャリア教育の新しい展開を考える。	グループごとの作業
第 13 回	グループワーク②今まで例外的とされてきた事例から、キャリア教育の新しい展開を考える（続）	グループごとの作業の途中経過発表
第 14 回	発表とまとめ	グループワークの成果についてグループごとにレポートをまとめ、提出する。全体の授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワーク課題に取り組むためには、一定の授業時間外の予習が必要である。事前に指定された準備をしないこととグループワークに十分に参加できないので注意すること。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

グループワーク 3 回 60 %、最終グループレポート 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

自分のすぐ隣にいるかもしれない「普通」の人が抱えているキャリア形成上の大きな問題について理解してください。

【Outline and objectives】

In this class we are going to learn about the relationship between school and society from the viewpoint of educational sociology and to consider the diversity of today's issues and careers.

EDU200MA

生涯学習論Ⅰ（現代社会と社会教育Ⅰ） 展開科目

笹川 孝一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における「エゴイズム」と表現・自己表現

～自己肯定感を育む生涯学習社会を考える～

ego とはラテン語で「私」という意味で、「エゴイズム」とは私を軸にして他の人々との関係を作ること、自分だけでなく、全ての人の「私」を認めながら、「私たち」「社会」を作り出していくことである。

この「エゴイズム」の実現のためには、自己対話と他の人々との意思疎通のために、様々な自己表現を行い、他の人々と具体的な相互理解と協力を行うこと、そして、そのための技を磨くことが大切である。

現代人には「私を軸に社会を捉えること」と「社会を軸に私を捉えること」との両方が必要だが、「エゴイズム」を肯定できない雰囲気は日本や東アジア社会にあるために、自己肯定ができず、自分を社会的に展開することが苦手な人が多い。

この授業では、「エゴイズム」についての自分たちのイメージの共有を出発点としながら、歴史的・地理的なことから、現代社会のさまざまなできごとについての理解を深めつつ、私を肯定して社会的に展開するための人々の歩みと、そのための自己表現のスキル、生涯学習社会の在り方について学ぶ。

これらを通して、他者と共に生きる主体としての豊かな自己形成を図る。

【到達目標】

現代社会の諸課題（倫理、社会、文化、政策など）を取り上げて、現代社会における、人間としての在り方生き方について学ぶ。

- 1) 私たちの表現活動の基礎に、私 = ego・私たちの生活上の欲望、欲求、要求などの「自己主張」があることを学ぶ。
- 2) 「エゴイズムは悪いこと」として自己主張が抑圧されがちであることと、それを変える努力について、日本や東アジアの実際に即して、歴史的背景と現状を学ぶ。
- 3) エゴイズムを基礎としながら私・私たちを社会的に展開するための「表現」と「学力」について、自分自身に即しながら考える。また、西欧や日本の先人から、倫理的な諸価値や音楽、絵画、小説、舞踊などのアートの変革について学ぶ。
- 4) 以上を踏まえて、リテラシーの世界の広がりとその技法について、学校改革をふくめた生涯学習社会について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

必要な事項を教員が講義し、学生が討論し発表し、教員と意見交換する方法で授業を進める。

必要に応じて、小レポートを書く。

受講生が多い場合には、講義形式になることがある。

それについては、受講生と相談して決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の概要、進め方、ルール等について説明し、合意形成を図る。
2	講義①「エゴイズム」は悪か？	「私」を意味するラテン語である「エゴ」を踏まえたエゴイズムは、「自分の体をくぐらせて物事を認識する」上での基本であるが、日本や「東洋」ではそれが「悪いこと」「自分勝手」として抑圧されてきた。そのことによる、自己肯定感の弱さ、について検討する。一人ひとりの体験を踏まえて議論し、論点を整理し、意見交換を行う。
3	グループワークと発表討論①	グループの発表を行い、一人一人の感想をまとめる。
4	グループワークと発表討論②	近代ヨーロッパや日本で、エゴイズムを確立するために努力したデカルト、福澤諭吉、夏目漱石、ピカソなどの人々から学ぶ。
5	講義②エゴイズムを確立するための人々の努力	講義②を基に、一人ひとりが意見を出し合い、議論する。
6	グループワークと発表討論③	グループごとに発表し、意見交換する。
7	グループワークと発表討論④	
8	講義③エゴイズムを抑圧してきた「分を守る」社会の伝統	江戸時代における「分を守る」社会政策、教育政策について、『ヨーロッパ文化と日本文化』『女大学』などに即して解説をする。

9	グループワークと発表討論⑤	講義③を基に、一人ひとりが意見を出し合い、議論する。
10	グループワークと発表討論⑥	グループごとに発表し、意見交換する。
11	講義④私と人々、社会をつなぐ表現様式と、現代の学力、生涯学習社会。	ニューミュージック、J-Pop や自分史学習などに即して、自分と人々、社会をつなぐ表現方法や学力、リテラシー、コンピテンシーについて考える。
12	グループワークと発表討論⑦	講義に基づくグループワークを行う。一人ひとりの体験を踏まえて議論し、論点を整理し、意見交換を行う。
13	グループワークと発表討論⑧	グループ発表と一人一人の感想のまとめ
14	振り返りとまとめ	テストと成績評価について説明するとともに、授業の振り返りと、一人一人の認識変化について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自分自身の日常生活に即して、身体、言語、アート、モノづくりなど多様な表現方法について振り返りの習慣を身に着けるよう、心がけること。
・授業内容を把握するために、テキストや授業中に配布される資料を読み込むこと。
・受講生が多い場合には、講義形式にならざるを得ないので、その場合には、グループワークに替えて、小レポートを課す。

【テキスト（教科書）】

笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局
とくに、第Ⅱ部「リテラシー、コンピテンシー、生涯学習」

【参考書】

授業中に適宜紹介する。また、必要な資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

・授業への出席・参加（30 %）
・授業への積極的貢献（10 %）
・随時出されるレポートの内容（10 %）
・定期試験の結果（50 %）
以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

市場経済社会に生きる人はすべて、「私」を意識し「エゴイズム」を基盤に置きながら生きている。それにもかかわらず、日本や「東洋」の歴史の特質によって、「エゴイズム」=悪、と思い込まされている傾向が強くある。その結果、自分の個人的な表現の世界と、普遍性の世界が分裂して、自己肯定感が弱くなっている傾向がある。このことを基礎にして、現代社会における、生涯学習、キャリアデザイン、社会的教育を再構築し、その中で、表現と学問運用能力としての「学力」についてとらえ直すよう、内容を精査した。
2016 年度の授業は、「常識」を覆す内容が多く「目から鱗」だったと、評価が高かった。今年度も、緊張感のある、知的刺激の多い授業を心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

マイクロソフト・オフィス

【その他の重要事項】

この授業は、笹川が担当する「発達・教育キャリア入門 D（生涯学習入門Ⅱ）」における該当部分の中級編なので、発達・教育キャリア入門 D（生涯学習入門Ⅱ）を受講してあることが望ましい。
また、関連授業として「社会教育演習」（火曜 4 限）が設定してある。

【Outline and objectives】

Meaning of "ego-ism" and self-expression in the contemporary society

EDU200MA

生涯学習論Ⅰ（現代社会と社会教育Ⅰ）

展開科目

文 孝淑

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生には多様性を認め合う社会を目指している今だからこそ、生涯学習活動を「異文化・異民族間＜共同交流学习＞の一環としてとらえ、生涯学習の「あるべき姿」や大義名分を掲げる実践活動から顕在している人間同士のコンフリクトを克服し、地域活動の関わり方を考えていく。
それを踏まえ、とりわけダイバーシティ社会における現場の専門職員の講座づくりや住民の実践活動のマネジメントについて考えていく。

【到達目標】

学生一人一人が生涯学習社会の枠組みの中での「異なる」者同士が「共生」していく地域社会づくりの意義を再認識するとともに、＜異文化・異民族「共同交流学习」＞を通して、人間関係の再構築と地域創造へ道標を示す。また、定住・永住者の外国籍住民の受け入れ施策や受け皿について検証を行い、新たな生涯学習・実践活動の提示する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

年齢や性別、障害の有無、国籍といった垣根を越えネットワークの拡がりの中での人間関係のコンフリクトを克服する道標を考えるために、講義とフィールドワークの見学および映像などを通じて現状を把握し、意見を出し合い、受講者同士で共有できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義についてのオリエンテーション	講義の進み方の説明とアンケート作成。
第 2 回	地域国際化について（変遷と現状）	アンケートの回答のフィードバック、外国人住民をめぐる法制度や実践の取り組みなどの変遷について。
第 3 回	ダイバーシティ社会と生涯学習	外国人住民の生活・子育てのサポート活動と、日本語学習サポート活動について。
第 4 回	各自のテーマと課題提出	各自がテーマを決め、資料集めや現地調査などを行う。
第 5 回	実践・事例検討	外国人住民の学習を支援するボランティアグループの活動実態と課題について
第 6 回	大学が促す国際化	大学と留学生を中心に、地域住民とのかわり方、支援システムなどを分析する。
第 7 回	発表課題を決める	外国人住民や留学生などの支援活動の検討しうえ、各自の発表課題を決める。
第 8 回	事例検討 ①	外国籍住民に関連するトピックを取り上げ、それに沿った事例を紹介し、議論する。
第 9 回	事例検討 ②	外国人住民の生活様子を共有するための事例（資料や映像、インタビューなど）を取り上げ、検討する。
第 10 回	決めたテーマについてまとめ、発表①	各自が決めたテーマに沿って発表をし、質疑討議をする。
第 11 回	決めたテーマについてまとめ、発表②	各自が決めたテーマに沿って発表をし、質疑討議をする。
第 12 回	決めたテーマについてまとめ、発表③	各自が決めたテーマに沿って発表をし、質疑討議をする。
第 13 回	まとめと発表	各自が決めたテーマに沿って発表をし、質疑討議をする。
第 14 回	ふり振り返りとダイバーシティ社会への提案	発表した内容をまとめと、ダイバーシティ社会実現に向け、これから生涯学習が果たす役割についてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生自身が、外国籍住民や外国人児童・生徒の教育関連の活動の現場を訪ね、異文化・異民族交流活動の現状について考えていくようにする。そのためにも、積極的に学校外での国際交流・支援活動に関わることを促していく。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを持たずに毎回、テーマに沿ったレジュメと、講義内容に関わる参考資料配付、自治体の様々な活動や外国人関連内容の資料、映像などを使う。

【参考書】

講義中の参考文献を紹介するが、主な参考図書には以下のものがある。

『月刊社会教育』編集部編『月刊社会教育』国土社、毎月発行。異文化間教育学会編『異文化間教育』アカデミア出版、毎年発行。各自治体の外国人住民施策の報告書。21世紀研究会 編『常識の世界地図』文春新書、2005。フェリス女子学院大学編『異文化の交流と共生』2004。駒井洋・渡戸一浪編『自治体の外国人政策―内なる国際化への取り組み』明石書店、1997。日本社会教育編『多文化・民族共生社会と生涯学習』（第39集）東洋館出版社、1995。坂井俊樹編著『国際理解と教育実践 ― アジア・内なる国際化・教室―』エムティ出版、1992。日本社会教育学会編『国際識字10年と日本の識字問題』（第35集）東洋館出版社、1991など。

【成績評価の方法と基準】

毎回の提出する振り返りシートを媒介にし、質疑応答、意見交換への積極的な参加や発表、期末のレポートををもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が作成する振り返りシートを通じて学生と十分な意見交換ができるように、次の週の授業で振り返りシートに書かれた質問や意見、感想などにコメントを入れて、共有できるようにしていることが好評を得ている。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

受講者の人数や講義の進み具合によっては「授業計画」の変更があり得る。学期中に日本語教室や外国籍住民の活動の現場に出かける。

【Outline and objectives】

The concept of < intercultural exchange between foreigners > will be defined and discussed by the students, with the use of the following keywords; < race > , < discrimination > and < diversity > . This will be followed by organizing practicable learning programs which will be based on the examination of the local's necessity to educate and create awareness, foreign residents' lifestyle, support of their children, < colloquial language > and < academic language > and the achievements and problems of supporting.

EDU200MA

生涯学習論Ⅱ（現代社会と社会教育Ⅱ）

展開科目

笹川 孝一

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習社会とグローバリゼーション

～アジア・太平洋学習権共同体を考える～

グローバリゼーションの中で生きる私たちは、一人ひとりの私＝egoであるが、私は人々とのつながり、社会の中で展開して、初めてリアルな私になることができる。

「21世紀はアジア・太平洋の時代」と言われているが、この地域では、生活文化の広い交流基盤と近隣諸国間での摩擦の歴史があり、プラスを生かしマイナスをプラスにしていくためには、人と人が触れ合う交流・理解・協力とそのための生涯学習の役割が大きい。

この授業では、世界や日本の歴史的・地理的なことがら、現代社会の諸事象について扱う。ユネスコが提唱する「学習権」を軸として、①それぞれの国の内部、②いわゆる先進国と発展途上国、③先進国同士、発展途上国同士、④ユネスコなどの国際機関の4分野における、交流と協力の現状と今後について学ぶ。

そして、社会的なことがらについて、自分の生活体験を踏まえながら、客観的で公正な見方や考え方や人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める。

以上をふまえて、東アジア・太平洋人として生きていく人々に必要な教養と、それを育む生涯学習社会について考える。

【到達目標】

日本やアジア、世界の形成について、歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深める。

- 1) グローバリゼーションの中でのアジア・太平洋の時代について学ぶ。
- 2) 生涯学習社会の生活基盤である、アジア・太平洋地域における生活文化の相互交流についての視野を養う。
- 3) この地域における摩擦と和解の歴史を知る。
- 4) 「学習権」についての理解を深め、この地域での生涯学習とその交流の現状と課題を知る。
- 5) 「アジア・太平洋人」として生きていく意欲と誇り、能力について理解し、「東アジア＝太平洋学習権共同体」を展望する。
- 6) 諸地域の地域的特色を歴史的背景に留意して多面的・多角的に考察し、発表と討議を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 教員が必要な講義を行う。
- 2) その際、必要な文献を配布するとともに、映像や新聞記事などを活用し、できるだけわかりやすく授業を進める。
- 3) グループワークを可能な限り取り入れるが、受講生の人数が多い場合には、講義が中心になることもある。
- 4) 諸地域の地域的特色を歴史的背景に留意して多面的・多角的に考察し、発表と討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の進め方と授業のルールを説明し、協議の上、確認する
2	講義①グローバリゼーションと「アジア・太平洋の時代」と生涯学習社会	現在進行中の「グローバリゼーション」について、北米、西欧、アジアを視野に入れながら解説する。そして、アジアが進んでいた農業革命の時代から、アジアがヨーロッパに従属した工業革命の時代を経て登場した「アジア・太平洋の時代」とそこにおける生涯学習の現状について、GNP、QOL、GNHを視野に入れて理解する。
3	グループワーク①	一人ひとりの経験を踏まえて、「グローバリゼーション」「国際化」「アジア・太平洋地域」認識を出し合い、整理する。
4	グループワークの発表①	全体で発表し、討議し、「アジア人として生きる誇り」の基礎を作る。
5	講義②東アジアにおける生活文化交流と摩擦の歴史を考える。	水とリテラシーを軸とした東アジア地域の生活文化交流と「中華帝国」「アメリカ帝国」等による摩擦の歴史と現状を考える。

6	グループワーク②	文化交流と摩擦について、衣食住、音楽・絵画、言葉や文字、植民地統治の功罪などを視野に入れながら一人一人の経験や認識を出し合う。
7	グループワークの発表②	全体発表と討議によって、「東アジア・太平洋人」の誇りについて、認識を深める。
8	講義③ユネスコが提唱する学習権とそれを軸とした交流・協力活動を考える。	ユネスコの「学習権宣言」を学ぶとともに、実際の交流活動、協力活動を知る。
9	グループワーク③	一人ひとりの経験を出し合いながら、実際に何ができるか、考える。
10	グループワークの発表と討議③	全体発表と討議によって、アジア・太平洋学習権共同体をイメージする。
11	講義④アジア・太平洋人に求められる教養と学校を含む生涯学習社会。	オープンマインド、好奇心、知る努力、企画・実行力、言語能力などについて考える。
12	グループワーク④	一人ひとりの経験を出し合いながら、実際に何ができるか、考える。
13	発表と討議④	全体発表と討議によって、「私にできるアジア人の生き方と生涯学習社会」を考える。
14	振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、テストの内容と形式の説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活の中で、「グローバリゼーション」「国際化」「EU」「アメリカの変化」「アジア」「太平洋」関係のニュースや記事に注目する。
可能であれば、「アジア」「太平洋」地域の国へ行って、生活様式や言葉、音楽などの違いや共通点を感じ取る。

【テキスト（教科書）】

笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局 2014 年 第Ⅲ部第 3 章

【参考書】

山住正己編『教育と文化をつなぐ』国土社 2001 年
月刊社会教育編集部編『日本で暮らす外国人の学習権』国土社 1993 年
小林文人・伊藤長和・黄宗建編『韓国の生涯学習・社会教育』エイデル研究所 2004 年
日本社会教育学会編『国際識字の十年と日本の識字問題』東洋館出版社 1991 年
同編『民族共生・多文化社会と生涯学習』東洋館出版社 1995 年

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への出席・参加（30％）
 - ・授業への積極的貢献（10％）
 - ・随時出されるレポートの内容（10％）
 - ・定期試験の結果（50％）
- 以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・内容をできるだけわかりやすく講義する
 - ・グループワークの活用
 - ・映像や新聞記事の活用
 - ・私語への厳しい対応
- 以上について、心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

マイクロソフト オフィス

【その他の重要事項】

- ・学問共同体としての授業の充実を心がけたい。
 - ・学生側の積極的参加を呼びかけたい。
 - ・これを具体化するために、次のことを心がけてほしい。
- いま世界で何が起こっているかという想像力を働かせること。
 - 解らないことがあれば、その場で質問すること。
 - グループワークで、自分の疑問、アイディア、意見を出しながら、他の人の疑問、アイディア、意見にも耳を傾け、少数意見を排除せずに、全体をまとめるよう、心がけること。
 - 必要なことを調べ、よく準備してプレゼンテーションを行うこと。

【Outline and objectives】

Lifelong Learning and Globalization

EDU200MA

生涯学習論Ⅱ（現代社会と社会教育Ⅱ）

展開科目

文 孝淑

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が生涯学習の主体者の多様性を認識し、＜異文化・異民族間「共同交流学習」論＞を軸に、今日求められている生涯学習の内容及実践活動を考察する。

そのうえで、① 現場で見られる地域住民によるボランティア活動のマンネリ化の改善と多様な学習者のニーズに応えられる生涯学習プログラム作りをする。

② 異なる文化背景・民族の所有者たちの地域生活上の自立と地域「参画」を促すためのボランティアと職員のマネジメントの方法を探し出していく。

【到達目標】

① 学生が、授業を通して、ダイバーシティ社会における専門職員の事業や講座プログラムづくりなどのマネジメント能力を向上させていくようにする。

② 外国人住民の生活・育児・働く環境、外国人児童・生徒への施策と教育現状にみられる自治体行政施策の格差をはじめ、外国人住民の「自立」に欠かせない第 2 言語としての日本語教室とそれに携わっているボランティアの新たなあり方を見つけ出す。

③ 年齢や性別、障害の有無、国籍といった垣根を越えネットワークの拡がりをみせているダイバーシティ社会に向けて、従来の実践活動の省察と併せて、異なる文化背景・民族の所有者たちの地域生活上の自立と地域「参画」を促すためのボランティアと職員のマネジメントの方法を探し出していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義前半には、ダイバーシティ社会に向けて様々な取り組みをしている自治体の事例を取り上げて考察する。例えば、外国人住民に対する施策の変遷、社会教育活動の歴史を概説、日本語教室を軸にしながら外国人住民を取り巻く厳しい現状を把握するための事例－日本人住民による生活支援活動、外国人児童・生徒の学習支援活動などの社会教育実践活動－を取り上げ、取り組みなどを話し合っていく。

講義後半にはグループに分かれ、社会教育専門職員の視点に立ったプログラムづくりの作業をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のオリエンテーション	夏休み中に参加した活動や授業の進み方について説明する。
第 2 回	地方自治体における外国人住民の現状	地域社会の国際化がもたらす地域社会の変貌と、外国人住民施策の変遷と動向を概説する。
第 3 回	外国人住民と生涯学習活動	地域社会の社会教育施設・地域住民活動の蓄積を検討しつつ、外国人住民が地域づくりにもたらす役割を考える。また実践現場の見学を行う。
第 4 回	実践検討①	社会教育と外国人住民の学習・実践活動実態の概説と姜尚中著『在日』を用いて在日 1 世の生活記録を読みあい活社会教育の場で取り組みを考える。
第 5 回	実践検討②-日本語教室	地域行政と住民が協働で行われている日本語教室の活動を中心に、現場で取り組んでいる外国人住民及び外国人児童・生徒の教育支援システムと支援活動を考察する。
第 6 回	実践検討③-ボランティアの役割	外国人住民の自立を手助けすべく日本人ボランティア活動を検討、従来の活動を見直し、新たな活動のあり方考える。
第 7 回	実践検討④-外国人住民自立	外国人住民の自立へ向けての取り組みを見学し、受講者同士の意見を出し合い、異文化・異民族の人々が住みやすい生活環境をつくるためには行政側が果たす役割、住民側の活動グループのネットワーク作りの方法などを考える。
第 8 回	専門職員のマネジメントはかるプログラムづくりについて	専門職（司書や学芸員、主事）の立場に立つてプログラム編成を試みる趣旨と、地域の外国人住民のリーダを育てる必要性について説明をする。
第 9 回	グループ分けとテーマ設定	グループ分けの後、メンバー同士の自己紹介と、今後ダイバーシティ社会におけるプログラム作りのためのテーマを決める。

第 10 回	プログラムづくり① グループ分けと下調べ	日本人住民との協働でつくる地域づくりに向けてのプログラム作り作業を行う。
第 11 回	プログラムづくり② 実践対象の決定と内容決定	意見交換をしながら日本人住民が協働でつくる地域づくりに向けてのプログラムづくり作り作業を行う。
第 12 回	プログラムづくり③ 意見交換のまとめ、プログラム作成	プログラムづくりに必要な事項、内容編成などを整理していく。
第 13 回	ダイバーシティ社会実現に向けての提言①ーグループ別の発表と質疑	第 12 回でまとめたプログラムづくりを発表、質疑応答を行う。
第 14 回	ダイバーシティ社会実現に向けての提言②ーグループ別の発表と質疑②	第 12 回でまとめたプログラムづくりを発表、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地元の社会教育実践状況を知ると共に、外国人関連の事業・学習会に見学に行き、外国人住民たちとふれ合う機会を積極的に持つようにする。

【テキスト（教科書）】

毎回の講義レジュメ、各地域で行われている教育活動、外国人施策や外国人の生活様子や外国人をサポートするボランティアの取り組みなどの事例、記事、映像を使用する。

【参考書】

毎回の講義内容に沿った参考図書と資料の紹介をする。
その他に、阿部勤也著『日本でいきるということ』、姜尚中著『在日』『オモニ・母へ』及び小熊英二・姜尚中編著『在日 1 世の記憶』集英社／朴鐘碩・上野千鶴子『日本における多文化共生とは何か』新曜社／「月刊社会教育」編集部 編『月刊社会教育』国土社、毎月発行を参考になれる。そのほかには、坂井俊樹編著『国際理解と教育実践—アジア・内なる国際化・教室—』エムティ出版、1992 異文化間教育学会編『異文化間教育』（第 1～24 集）アカディア出版 日本社会教育学会編『国際識字 10 年と日本の識字問題』（第 35 集）東洋館出版社、1991 などがある。

【成績評価の方法と基準】

授業中や振り返りシートを通じて質疑応答をはじめ、実践現場の見学・傍聴とその感想の提出及び期末試験をもって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の振り返りシートに書かれている質問や意見、感想に対して、私からコメントを入れ、次週の授業で配布し、全員で共有しあえるようにしていることが好評なので、今年度も続けていこうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

「授業計画」や「授業方法」においては受講者の学年や人数により、講義内容や順序にに変更がある。

【Outline and objectives】

At this point in time, when lifelong education is under management, in-depth consideration of the history of lifelong education will be followed by the consideration of ways to develop the < education career > . Based on the individuals' lifestyle, independent or personalised learning activities will be planned and practiced. The communication network between the participants of the learning activities will be formed which will enhance the outcome of the learning activities. Furthermore, this communication network formed will help to find the no-hows to contribute to the local welfare.

FRI200MA

図書館情報学概論 I

展開科目

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 1/Tue.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館情報学の入門として、生涯学習の観点から、図書館活動の各領域についての基礎的なコンセプトを総合的に学ぶ。

【到達目標】

図書館情報学の基礎を学び、生涯学習施設の一つである図書館についての基本的な知識や概念を包括的に習得することができる。

市ヶ谷図書館の現場（事務室）で、図書館の運営方針、予算などを実際に職員に聞くことによって、図書館の実際について深く学ぶことができる。また、現場の見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験をより確実にすることができる。

授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実際の授業ではテキストを中心に、図書館司書課程 e-Learning システム (HULiC) を活用しながら、図書館情報学に関する多様な知識や概念を総合的に理解することをめざす。必要に応じて、図書館の見学やビデオ視聴、グループディスカッションなども取り入れる。

毎回授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズやメディア情報リテラシーのアンケート調査等も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンス、図書館とは何か
2	図書館の意義と役割①	図書館法、生涯学習社会の到来、教育観の変化、情報社会と図書館等
3	図書館の意義と役割②	図書館協力・ネットワーク、出版文化と図書館、著作権等
4	図書館の理念と図書館員の職務	図書館の自由、図書館員の倫理綱領（専門職とは何か、図書館員の対応）等
5	図書館法規と行政、施策	図書館の法的基盤、教育基本法と社会教育、地方自治法、国の図書館行政と施策等
6	地域社会と公共図書館（制度・機能）	地域の情報拠点としての図書館、市民参加、公共図書館の機能、制度、諸問題等
7	学校図書館及び大学図書館の制度と機能	学校図書館及び大学図書館に関する法律、機能、諸問題等
8	市ヶ谷図書館ツアー・ガイダンス（予定）	図書館ツアーの小レポートを課す。
9	国立国会図書館及び専門図書館の制度と機能	国立国会図書館及び専門図書館に関する法律、機能、諸問題等
10	図書館の歴史①	（古代～中世）
11	図書館の歴史②	（近世～現代）
12	外国の図書館	アメリカ、イギリス、北欧、中国等
13	図書館の類縁機関・関係団体 図書館の課題と展望	国際機関、図書館協会、図書館関係団体等 図書館の挑戦と課題（ケース・スタディ）
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジュメを事前に司書資格課程の授業ポータルサイトからダウンロードし、空欄を埋めておくこと。

【テキスト（教科書）】

塩見昇 編、『図書館概論』、日本図書館協会、最新版
(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-1)

【参考書】

高山正也、岸田和明 編集、『図書館概論』樹村房、2017 (現代図書館情報学シリーズ)ISBN-10: 4883672719 ISBN-13: 978-4883672714

【成績評価の方法と基準】

毎回の確認アンケートクイズ (30 %)、図書館ガイダンスのレポート (20 %)、筆記試験 (50 %) によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。毎回授業の初めに小クイズを行うため、遅刻・欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度が早いという指摘がいくつかあったので、しゃべる内容を精査したい。

【その他の重要事項】

本授業では、50 人収容の情報実習室で行われる。50 人以上の場合は、最初の授業で、(1) 上級生 (2) 図書館資格課程の履修生の優先順位で受講生を確定する。2 回目以降の受講は認めない。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

【Outline and objectives】

As an introduction to Library Information Science, students will learn foundations and basic concepts of libraries from the viewpoint of lifelong learning.

FRI200MA

図書館情報学概論 I

展開科目

原田 隆史

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 図書館情報学とは何かに関する理解
2. 情報の収集・整理・利用、およびその実践の場である図書館に関する基礎的な知識の習得
3. 情報メディアや情報検索に関わる基礎的な知識の習得

【到達目標】

1. 図書館・情報学についての基本的な知識を身につけ、情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館や各種の情報提供機関に関して理解できる
2. 現代社会での情報の生産・流通・処理・提供・利用・制度に関して、基本的な考え方・知識・技法、社会に及ぼす影響などについても理解できるようになる
3. 上記のような考え方・知識・技法が、図書館や情報提供機関の仕事およびサービスにどのように生かされるのか、その際に留意すべきことは何かについても考えを深められる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館・情報学とは何かについて、さまざまな新しいトピックを含めて解説していきます。まず、情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館に関する内容を中心に説明し、続いて情報メディアや情報検索に関わる内容を中心に講義します。図書館は、単に図書を集め、保存し、提供するという役割だけではなく、様々なサービスを行っています。図書館の持つ大きな可能性について知っていただきたいと思います。また、ネットワーク時代の図書館サービスも含め、実際の情報収集活動にも役立つ様々な知識を学ぶことができるように工夫していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館情報学とは何か	ガイダンスと授業の概要
2	図書館と情報メディア	図書館と情報メディアの意義・機能・歴史、図書館の種類と役割・特徴などについて説明します
3	図書館の諸機能 (1)	間接サービス、テクニカルサービスとは何かについて説明していきます
4	図書館の諸機能 (2)	直接サービス、レファレンスサービスについて説明していきます
5	図書館行政・図書館政策	図書館行政や図書館政策などについて説明します
6	図書館と法制度	図書館と関わりがある各種の法規（図書館法、著作権法など）について簡単に解説します
7	図書館の管理・経営	図書館経営について考えるとともに、図書館業務の評価についても述べます
8	知的自由と図書館	図書館員の専門性についても説明します。
9	図書館と出版流通	日本の出版状況などについて説明するとともに、図書館と出版流通の関係についても解説します
10	情報リテラシー	デジタルデバイドや情報リテラシーの問題について解説します
11	情報メディアと図書館資料の保存	情報メディアの特徴を説明するとともに、図書館での資料の保存についても解説します
12	情報検索	情報検索の基本的な考え方について説明するとともに、それを実現する情報検索システムについても述べます
13	図書館における児童サービス	公共図書館で行われる児童サービス、ヤングアダルトサービスについて解説します
14	図書館の将来展望と課題	授業のまとめを行ないながら、図書館の将来像について考えていきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を実際に使用したり、情報検索演習などを行う可能性があります。

【テキスト（教科書）】

逸村裕（ほか）編。図書館情報学を学ぶ人のために。世界思想社。2017。ISBN：978-4790716952

【参考書】

日本図書館情報学会「図書館情報学用語辞典」第3版(丸善)など(必須ではありませんが、専門用語などでわからない語が出てきた場合に参考にしてください)

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業への積極的な貢献度(出席状況を含む)、クラス参加、グループ作業の成果等)0~10%

単に教室にいただけでは成績評価に反映させませんがクラスに積極的に参加した場合には加点いたします。逆に教室にきても寝たり別の授業のことをしているなどの場合には大幅に減点します。

提出物・レポート 40%

現時点ではレポートを課す予定ですが、レポートを実施しない可能性もあります。その場合、期末試験 100%とします。

期末試験 50~60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

寝ている場合や、授業に関係すること以外のことをするなどをしていることがわかった場合は、退室を求めることがあります。

【Outline and objectives】

Basic knowledge on library and information science

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

丹 一信

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】

図書館にかかわる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コンピュータ、インターネットを使用しながら講義と演習、実習を組み合わせで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータとネットワークの基礎	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。 ・身の回りにあるコンピュータ ・コンピュータシステムの構造について学びます
2	コンピュータとネットワークの基礎②	・ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの基礎について ・コンピュータシステムが扱う「デジタルデータ」の基礎 ・コンピュータシステムの応用分野について学びます。
3	情報技術と社会	・情報化社会とはなにか ・情報技術の普及と社会の変化 ・情報化社会の抱える課題について
4	図書館における情報技術活用の現状	図書館で使われる情報技術について、具体的な事例に基づいて学習します。
5	図書館業務システムの仕組み	・図書館業務システムの構成 ・図書館業務システムの機能 —ソフトウェアの構成 ・オンラインサービスについて（ネットワークによるサービス）を学びます。
6	インターネットの仕組みとその歴史	インターネットの仕組みとその歴史について学ぶ
7	データベースの仕組み	・データベースの概要と構造、利用方法について（リレーショナルDBなどを中心に学びます）
8	検索エンジンの仕組み	検索エンジンの概要や歴史、課題について
9	電子資料の基礎	電子資料の基礎知識や管理技術、課題について学びます。
10	検索エンジンの種類	検索エンジンの種類と仕組みについて学び、演習を行う
11	コンピュータシステムの管理	システム管理の基本的な考え方やアプリケーション管理、データ管理、セキュリティについて学びます。
12	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの構築や図書館における具体例をあげながら、実際に演習も行います。
13	電子書籍・出版	電子書籍・出版の仕組みについて学び、演習を行う
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。

【テキスト（教科書）】

日高昇治 著. 図書館情報技術論 第二版. 学文社, 2017. ; ISBN:978-4-7620-2720-8

【参考書】

自動書庫や I C タグを使った管理システムについては、授業時に動画を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 % レポート課題 20% 期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で授業を行います。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。

情報実習室で授業を行う関係上、人数超過の場合は抽選となります。必ず初回の授業には出席してください。初回授業に出席しない場合は、履修を認めません。

授業はただ出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加も求めます。

【Outline and objectives】

In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.

In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

原田 隆史

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な知識
2. 図書館業務に関する技術（図書館システム、Web ページを用いた情報発信など）
3. データの管理を中心とした技術（データベース管理システム、デジタルアーカイブなど）
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】

1. 図書館をとりまく多様な情報環境について考えるための基礎となる知識を身につける
2. 各種の図書館業務に関わる技術手法について理解し、取り扱うことができる
3. 図書館活動を行う際に、どのような情報技術が利用可能であるのかを判断する能力を身につける
4. 図書館情報学を学ぶ際に必要な基本的な情報技術を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館をとりまく多様な情報環境、各種の図書館業務に関わる技術手法について説明します。まず、コンピュータやネットワークの基礎知識について学んだ後、図書館システムやデータベース管理システム、WebAPI などについて理解を深めていきます。講義のほか演習も行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術と図書館	ガイダンスと授業の概要について説明します
2	アナログとデジタル	デジタルとはどういうものなのか説明していきます
3	コンピュータの基礎知識	コンピュータの動作原理などについて解説します
4	ソフトウェアとアルゴリズム	OS やアプリケーションソフトウェアなどについて説明します
5	ネットワークの基礎知識	インターネットや LAN などの仕組みについて解説します
6	ネットワークサービスと電子資料の要素技術	HTML、CSS、XML などといった電子資料を作成する際の要素技術について演習します
7	データベース管理システム	データベース管理システムの仕組みと検索技法について学びます
8	図書館業務システム	図書館業務システムや OPAC の仕組みについて解説します
9	図書館システムをめぐる最新の動き	ディスカバリーインタフェースや次世代システムと呼ばれる仕組みについて解説します
10	図書館における外部サービスの利用	図書館が他の Web サービスを利用してサービス内容を高度化する手法などについて学びます
11	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実例などについて説明します
12	電子文書と電子出版、電子書籍	電子書籍について学ぶとともに、さまざまな電子書籍フォーマットについて理解します
13	図書館の管理・運営とセキュリティ管理	ネットワークサービスにおける管理・運用について説明するとともに、セキュリティ対策などについても述べます
14	ネットワーク社会の中での図書館サービス	図書館情報技術に関するまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館をとりまくコンピュータやネットワークなどの情報技術に関するレポートをいくつか作成していただきます。

【テキスト（教科書）】

杉本重雄編著、図書館情報技術論（現代図書館情報学シリーズ 3）、2014、224p、ISBN: 978-4883672035

【参考書】

特定の参考書は指定しません。必要に応じて資料プリントを Web 上で公開して用いることもあります。

【成績評価の方法と基準】

平常点 0～10%

授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが、授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のことをしているなどの場合は大幅に減点します。

レポート 40%

レポートを課す予定ですが、レポートを行わない可能性もあります。その場合には期末試験 100% とします。

期末試験 50～60%

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【その他の重要事項】

寝ている場合や、授業に関係すること以外のことをするなどをしていることがわかった場合は、退室を求めることがあります。

【Outline and objectives】

1. Basic knowledge of computers, networks and information technology
2. Information technology in libraries.
3. Database management system, digital archive
4. Network Security
5. Information Technology and Society

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

菅原 真悟

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土 3/Sat.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、図書館に関わる情報技術について理解を深めることをめざす。授業では主に下記の 5 つの項目を扱う。

1. コンピュータやネットワークに関する基礎知識
2. 図書館業務に関する技術（システム・情報発信・検索エンジン）
3. データ管理に関する技術（電子資料・データベース）
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】

図書館に関わる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、電子図書館、検索エンジン、コンピュータセキュリティ等について解説し、必要に応じて演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業支援システム (HULiC) の利用方法に関するガイダンス。
第 2 回	コンピュータの基礎知識 (1)	デジタルとアナログ。2 進数と 10 進数。ビットとバイト。
第 3 回	コンピュータの基礎知識 (2)	コンピュータの構成要素。
第 4 回	計算機の歴史	コンピュータの歴史。
第 5 回	ウェブ OPAC とデジタルアーカイブ	ウェブ OPAC を用いた演習。デジタルアーカイブの理論と実際。データベースの仕組み。
第 6 回	インターネット	インターネット発展の歴史。インターネットで使われている基本的技術 (TCP/IP 等) を学び、演習を行う。
第 7 回	ウェブの歴史	ウェブの誕生から普及に至る歴史。ブラウザの種類とシェアの推移。
第 8 回	図書館と ICT	コンピュータ研究の現在と未来。図書館における ICT 活用の将来。人工知能、リーディング・スキル。
第 9 回	検索エンジン	検索エンジンの種類と仕組みを学び、演習を行う。
第 10 回	電子図書館 (1)	電子資料・出版、電子図書館の現状。
第 11 回	電子図書館 (2)	タブレットを用いた演習。
第 12 回	図書館業務システム (1)	図書館業務システムの仕組み。
第 13 回	図書館業務システム (2)	図書館業務システムを用いた演習。
第 14 回	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	コンピュータの管理とセキュリティ対策。セキュリティに関する法律。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料提示・連絡・課題提出には、図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用いる。

<http://lc.i.hosei.ac.jp/>

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布する。

【参考書】

講義の中で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の演習への積極的な参加（出席状況を含む） 30%

課題（授業中に課題を数回出す予定） 40%

期末レポート 30%

課題・レポートは「HULiC」へアップロードして提出する。

【学生の意見等からの気づき】

演習時間を増やしたいと考えています。また、授業はただ出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加も求めます。

【その他の重要事項】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

1. Computer and network
2. Technology related to libraries
3. Database
4. Network security
5. Information Technology and Society

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

丹 一信

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】

図書館にかかわる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コンピュータ、インターネットを使用しながら講義と演習、実習を組み合わせで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータとネット ワークの基礎	授業について概説し、使用する機器や サイトについて説明する。 ・身の回りにあるコンピュータ ・コンピュータシステムの構造につ いて学びます
2	コンピュータとネット ワークの基礎②	・ハードウェア、ソフトウェア、ネッ トワークの基礎について ・コンピュータシステムが扱う「デジ タルデータ」の基礎 ・コンピュータシステムの応用分野に ついて学びます。
3	情報技術と社会	・情報化社会とはなにか ・情報技術の普及と社会の変化 ・情報化社会の抱える課題について
4	図書館における情報技術 活用の現状	図書館で使われる情報技術について、 具体的な事例に基づいて学習します。
5	図書館業務システムの仕 組み	・図書館業務システムの構成 ・図書館業務システムの機能 —ソフ トウェアの構成 ・オンラインサービスについえ（ネッ トワークによるサービス）を学びます。
6	インターネットの仕組み とその歴史	インターネットの仕組みとその歴史に ついて学ぶ
7	データベースの仕組み	・データベースの概要と構造、利用方 法について（リレーショナルDBなど を中心に学びます）
8	検索エンジンの仕組み	検索エンジンの概要や歴史、課題につ いて
9	電子資料の基礎	電子資料の基礎知識や管理技術、課題 について学びます。
10	検索エンジンの種類	検索エンジンの種類と仕組みについて 学び、演習を行う
11	コンピュータシステムの 管理	システム管理の基本的な考え方やアプ リケーション管理、データ管理、セ キュリティについて学びます。
12	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの構築や図書館に おける具体例をあげながら、実際に演 習も行います。
13	電子書籍・出版	電子書籍・出版の仕組みについて学 び、演習を行う
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館 サービスにつながる最新技術について 学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。

【テキスト（教科書）】

日高昇治 著. 図書館情報技術論 第二版. 学文社, 2017. ; ISBN:978-4-7620-2720-8

【参考書】

自動書庫や I C タグを使った管理システムについては、授業時に動画を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 % レポート課題 20% 期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で授業を行います。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。

情報実習室で授業を行う関係上、人数超過の場合は抽選となります。必ず初回の授業には出席してください。初回授業に出席しない場合は、履修を認めません。

授業はただ出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加も求めます。

【Outline and objectives】

In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.

In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

EDU200MA

メディア教育論 I

展開科目

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、ユネスコの「メディア情報リテラシー」のカリキュラムに基づく理論を学び、メディア分析を行う。具体的には、授業前半で、メディア情報リテラシー教育の重要な概念（シチズンシップ、メディア・情報言語、リプレゼンテーションなど）に関する理論的背景を学ぶ。授業後半では、グループで特定テーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでグループのプレゼンを行うことにより、メディア情報リテラシーの知識やスキルを包括的に習得する。

【到達目標】

多様なメディアの分析を通じて、メディア情報リテラシー教育における 4 つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につけることができる。

グループ活動では、プレゼン資料やおしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

シチズンシップ、メディア倫理、メディア・情報のリプレゼンテーションなど、メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景を、演習を通じて学ぶ。授業の後半では、グループでテーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでプレゼンテーションを行う。なお、グループとテーマについては、履修者が確定した時点でアンケート調査・調整を行い、決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、私のメディア史
2	メディア研究の方法	メディア情報リテラシー教育（MILE）の基本概念と分析モデル
3	MILE とシチズンシップ①	メディアの機能と多様性（メディア・リテラシー、図書館リテラシー、コンピュータ・リテラシー、他）
4	MILE とシチズンシップ②	表現の自由と情報の自由、情報へのアクセス
5	メディア倫理①	ジャーナリズムと社会（言論の自由の歴史、プロパガンダ、新聞統制）
6	メディア倫理②	ニュースの価値、報道の価値（なにがニュースになるのか）
7	メディア・情報のリプレゼンテーション①	ニュース報道とイメージの力（ビジュアルの力）
8	メディア・情報のリプレゼンテーション②	多様性とリプレゼンテーションにおけるメディア・コード
9	グループ活動①（メディアの特性）	グループごとに、各自がテーマについてメディア別に分析した内容をつきあわせる作業を行う。
10	グループ活動②（プレゼン資料の作成）	プレゼン資料の作成、発表の流れをつくる。
11	グループ活動③（発表に向けての確認）	発表の流れや役割分担の確認、リハーサルなど
12	研究発表① 多様性	多様性に関するテーマのメディア分析 グループ発表 (1)、全体討論
13	研究発表② 若者とシチズンシップ	若者とシチズンシップに関するテーマのメディア分析 グループ発表 (2)、全体討論
14	研究発表③ プロパガンダ	プロパガンダに関するテーマのメディア分析 グループ発表 (3)、全体討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

状況によって、グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【テキスト（教科書）】

なし。授業のレジメ、参考文献等は、その都度授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人の課題（分析）提出物（30％）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業の出席・参加貢献度（30％）、個人レポート（40％）によって総合的に評価する。
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視され、出席は80％を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14回中4回以上の欠席）のものは、「グループによる課題制作物、プレゼン、授業への参加・出席（30％）」の部分は0とする。正当な理由があるため4回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで5回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として0とする。本授業は「必修」ではないため、欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア（CQ Commons）上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループ学習でのコミュニケーションツールとして、CQ コモンズのグループウェアを用意したが、気軽には使えないとのこと。簡単なコミュニケーションには、LINE の活用も推奨する。

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコンスキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

本授業を受講する際は、「メディア教育論Ⅱ（メディアと教育Ⅱ）」をセットで履修することが望ましい。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室 H を使用している。定員は26名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業2回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline and objectives】

Students will learn the theory and practices of "Media and information literacy" that is based on the curriculum of the UNESCO, analyze real media and information contents, and lead presentations/discussions/debate by the group. Examples include the theoretical background of media and information literacy concerning citizenship, media, information language, representation, and so on.

EDU200MA

メディア教育論Ⅱ

展開科目

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マルチメディアを活用したグループによる協働活動を通じて、様々なメディア文化の様式を理解し、メディアの読み解きや制作に関する基礎的なスキルを学ぶ。特に、デジタルストーリーテリングの動画制作を通じてメディアの批判的分析と創造を目指す。

【到達目標】

デジタルストーリーリングの制作を通じて、メディア情報リテラシー教育における4つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景及び実際に学びながら、グループで決定したテーマについて各自がメディア制作（デジタルストーリーリング等の動画）を行い、プレゼンを行う。毎回講義とグループワークを組み合わせる。テーマについては、2・3 回目の授業でアンケート調査を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、メディア情報リテラシー教育（MILE）とは何か
2	メディア情報言語①	多様なメディア情動的テキストのなかのコードとときまり
3	メディア情報言語②	海外の動画、HP、ポスターで使われるコードの分析と評価
4	広告①	広告規制の分析と適用、収益モデルとしての広告
5	広告②	パブリック・サービス・アナウンスメント（PSA）とはなにか（分析と企画）
6	新旧のメディア①	メディアの歴史、新旧メディアの違い、グループ活動（絵コンテ、ストーリー展開）
7	新旧のメディア②	民主主義社会におけるニュー・メディアの可能性と弊害、グループワーク（ストーリー展開）
8	課題制作①	グループによる素材集め（ビデオ・写真撮影等）
9	課題制作②	グループによるプレゼン資料（パワポ）の作成および動画やデジスタ等の制作
10	課題制作③	グループ発表の最終確認（パワポ・動画やデジスタ等の最終確認）
11	課題発表①	課題のグループ発表（1）、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする）
12	課題発表②	課題のグループ発表（2）、全体討論
13	課題発表③	課題のグループ発表（3）、全体討論
14	メディアと教育に関する総まとめ	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【テキスト（教科書）】

なし、適時参考資料・レジメを授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人による課題制作物（個人のデジスタ・動画作品、他授業での課題）（30％）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業への参加・出席（30％）、個人レポート（40％）によって総合的に評価する。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視され、出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良 (14 回中 4 回以上の欠席) のものは、「グループによる課題制作物、プレゼン、授業への参加・出席 (30 %)」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。本授業は「必修」ではないため、欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル (文書・パワポ・画像・他) 提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (CQ Commons) 上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコン・動画作成スキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

・授業では授業用グループウェアを教員及び学生同士 (海外の学生も含む) のコミュニケーションツールとして活用する。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室 H を使用している。定員は 26 名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修 (授業 2 回目以降) は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline and objectives】

Students will analyze media and information contents and create digital-story telling (DST) videos. Producing DST videos through group activities, students acquire frame of “5Cs” in media and information literacy such as critical thinking, creation, communication, collaboration and global citizenship.

EDU200MA

教育マネジメント I 【2014 年度以降入学者用】

展開科目

EDU200MA

教育マネジメント I 【2013 年度以前入学者用】

展開科目

梅澤 希恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の大きな目的は、母校を素材にテーマ研究をすることです。そのために、自らの学びの履歴 (キャリア) をふり返り、受講者同士で学びのキャリアを交流します。この活動を通し、これまでの人生で大きな比重を占める、学びのキャリア形成を見つめ直す機会としてください。また、授業の中では、講義形式などの形で教育に関する知識や情報を提供します。ただ知識や情報を受け取るだけでなく、自らの体験と組み合わせることが求められます。

【到達目標】

この授業では、将来の社会人・職業人に必要な“情報編集力”の育成をめざします。情報編集力とは、自らが収集し体験したりするなかで得た情報を組み合わせ、意味づけしながら作品化 (文章化) し、他者に向けて発信する能力です。

初中等学校で実践されているプロジェクト学習などで培う力ですが、大学生にとっても「社会人基礎力」などといわれて重要になってきています。なお、講義形式などの形で提供される知識や情報を理解する情報処理力は、情報編集力の土台となるものであり、これを重視するのは言うまでもありません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、「母校研究」の助走・途中経過・まとめを節目に設定しながら、講義による知識や情報の提供を行ないます。個人の研究やスキル獲得は、グループワークなどの協働作業を組み込んで行われます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスを受ける	授業の進め方、情報の処理力と編集力
第 2 回	「母校研究」の助走をする ①：テーマを立ててみる	自分の学びのキャリアをふり返り、 テーマを立てる
第 3 回	「母校研究」の助走をする ②：どのような手法を用いるか	テーマに沿った調査の方法を考える
第 4 回	日本の教育システムと教育委員会を知る：講義 1	文部科学省、教委、学校の役割
第 5 回	校務分掌から学校と教師を捉える：講義 2	組織としての学校 (職場づくり)、校務分掌の実際
第 6 回	国際調査から日本の教育の特徴を知る：講義 3	PISA 調査、TALIS 調査、データの読み取り
第 7 回	中間報告会：「母校研究」の経過発表	各自のテーマをプレゼンテーション
第 8 回	学級運営から先生のリアルを知る：講義 4	生徒との信頼関係づくり、授業を成立させる仕組み
第 9 回	面白い学校のミッションを知る：講義 5	スーパーハイスクール、新しいタイプの学校、教育課程特例校、教育 NPO
第 10 回	いじめ問題を考える：講義 6	いじめ防止対策推進法、いじめの認知件数
第 11 回	特別なニーズ教育を知る：講義 7	特別支援学級、通級指導教室、合理的配慮
第 12 回	子どもの貧困を考える：講義 8	就学支援、教育費
第 13 回	学習環境デザインとは何か：講義 9	学校施設、学びの共同体、カリキュラム・デザイン
第 14 回	「母校研究」の報告会	プレゼンテーションと全体振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

「母校研究 (調べ学習)」の準備と実施が求められます。

【テキスト (教科書)】

プリントや資料を、適宜配布します。

【参考書】

授業において紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内のコメントペーパー (20%)、「母校研究」の企画書及び発表 (30%)、「母校研究」レポート及びプレゼン (50%)

【学生の意見等からの気づき】

・調査スキルの形成に配慮します。

・各自の調査プロセスへの指導助言を充実させます。

【Outline and objectives】

The main objective of this course is to study alma maters of students and render them decide the theme related. Students look back their learning career and share it with other students. This course also provide students with knowledge of Japanese education.

EDU200MA

教育マネジメントⅡ【2014年度以降入学者用】

展開科目

EDU200MA

教育マネジメントⅡ【2013年度以前入学者用】

展開科目

福畠 真治

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育産業、教育 NPO、高等教育機関などを対象に教育業界研究を行う。教育業界についての動向を捉えるとともに、組織マネジメント論の視点に立ち事例研究を進めることで、それぞれのアクターごとの組織運営の特徴を把握する。また、それぞれを独立して捉えるだけでなく、「チーム学校」の文脈で「それぞれがその特質を活かして連携するにはどのような点を考慮すべきか」という課題にも挑戦する。

【到達目標】

教育産業、教育 NPO、高等教育機関等、教育業界研究の動向を捉え、組織マネジメント論の枠組みをもとに、選択した事例について必要な情報を収集しデータを編集して、レポートにまとめることができる。また、レポートの内容は、単なる情報の提示だけでなく、上記「授業の概要と目的」の課題に対する一定の示唆の提示を行うことが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教育業界を、教育産業、教育 NPO、高等教育機関に分けて、その概要や動向を捉え、組織マネジメント論の視点に立ち事例を検討する。教育業界に関するグループワーク、教育業界研究のレポート、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方・テーマ（教育業界の概要と意義について）説明
第 2 回	組織マネジメントに関する理論と政策	分析の枠組みの提示（組織マネジメント理論とチーム学校に関する政策紹介）
第 3 回	教育産業とは	概要・事例：ライフイズテック・花まる学習会
第 4 回	教育 NPO とは	概要・事例：カタリバ・東京シュレー
第 5 回	高等教育機関とは	概要・事例：法政大学
第 6 回	発表の準備	発表項目の説明、調査対象の選定・発表までの行程表作成
第 7 回	チーム発表(1)	教育産業
第 8 回	チーム発表(2)	教育 NPO、法政大学
第 9 回	企画書・現地調査の方法	企画書の書き方・質問項目の検討
第 10 回	研究レポートの書き方(1)	レポート作成の構成と進め方（先行研究・RQ・分析枠組・結果の提示と解釈）
第 11 回	研究レポートの書き方(2)	論文体裁について（段落構成、引用の仕方、参考・引用文献の書き方）
第 12 回	個人研究の報告会(1)	教育産業
第 13 回	個人研究の報告会(2)	教育 NPO、法政大学
第 14 回	授業のまとめ	振り返りと学校教育と学校外教育の連携に関する議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。担当テーマのレジュメを作成し発表準備をする。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。

【テキスト（教科書）】

文献、資料などは、該当授業ごとに指定または配布する。

【参考書】

伊丹 敬之『創造的論文の書き方』有斐閣
小川 正人・勝野 正章『教育行政と学校経営』放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題・チーム発表レジュメ及び発表（30 %）、研究レポート及び発表（40 %）、をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

You make a study of educational industry such as educational NPO and institutions of higher education. You will become to be able to comprehend each feature of organizational management by grasping trend of educational industry and conducting some case studies from the point of view of the organizational management theory. Besides, you challenge the task “What kind of points should we consider in order to cooperate with one another as making the most of each specific character?”.

EDU200MA

教育政策

展開科目

村上 純一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「教育」と「政策」とを結びつけて考える機会、日常ではあまり多くないかもしれません。しかし、実際にはほとんどの教育活動は「政策」として策定され、それに則って実施されています。この授業では、教育に関する今日の「政策」を俯瞰し、そこに込められた目的や実施上の課題、今後の政策展望などを考えていきます。人のライフキャリアの視点も踏まえ、保育・就学前教育に関する政策から生涯学習政策までの段階に沿いながら今日の教育政策を考察し、理解を深めていきます。

【到達目標】

以下の各点について、当事者の視点で考え、理解できるようになることが目標です。

- 1) 今日の教育政策における課題・問題点
- 2) 公教育をめぐる諸政策の望ましい在り方
- 3) 個々人のライフキャリアにおける各学校段階の意義・役割

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式中心で進めますが、質疑の時間やリアクションペーパーなどを活用し、受講生同士でのディスカッションの時間を設けるなど、教員の講話一辺倒ではなく双方向のやり取りもある授業となるように努めていきます。また映像資料等も活用し、視聴覚教材を通じた理解の深化も図っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「政策とは何か」を、教育と関連づけて考える。
第 2 回	キャリア教育政策概観	現代日本におけるキャリア教育政策の展開を、その時々の課題と合わせて考察する。
第 3 回	保育・就学前教育政策	幼保一元化等の近年の政策動向とも絡めて、保育・就学前教育をめぐる政策を理解する。
第 4 回	教育課程政策	戦後日本の学習指導要領の変遷や小中／中高一貫教育、教育特区などを考える。
第 5 回	学校と社会との連携・協働	地域住民の学校参画をめぐる政策動向を理解する。
第 6 回	教員の人事・養成政策	教員の養成・研修に関わる制度や教員免許更新制などについて考える。
第 7 回	教育財政	義務教育費国庫負担など、教育をめぐる財政的諸問題を考える。
第 8 回	学校統廃合政策	学校統廃合を素材に、少子化時代の学校教育のあり方を考える。
第 9 回	高校多様化政策	SSH や SGH など、高等学校を舞台とした昨今の政策動向を理解する。
第 10 回	学力テスト政策	全国学力テストや国際学力調査を踏まえ、今日求められている「学力」の在り方を考える。
第 11 回	大学改革・高等教育政策	大学入試改革や大学でのキャリア教育などを素材に、今日のあるべき高等教育像を考える。
第 12 回	社会教育・生涯学習政策	学校外での学び、大人の学びをめぐる政策の動向を理解する。
第 13 回	安全教育・防災教育	教育現場の「安心・安全」を保つための政策上の工夫や課題を考える。
第 14 回	授業のまとめ	授業全体をふりかえり、今日の教育政策のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、次の回の内容に関する予習課題を提示します。それに取り組んだ上で授業に参加するようにしてください。また各回の資料の末尾には関連する参考文献リストを添付します。1 冊以上は必ず目を通すようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。各回、プリント資料を配布します。

【参考書】

配布資料の末尾に、各回の内容に即した参考文献リストを添付します。

【成績評価の方法と基準】

毎回、授業の最後にはリアクションペーパーの記入を求めます。成績評価はリアクションペーパー 40 %、期末課題 60 %で行います。期末課題は期末試験の実施を予定していますが、受講者数によっては期末レポートに代える場合もあります。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーでいただいたご意見は翌週の授業でご紹介し、受講生間でも共有して更なる理解の深化に繋げていきます。なお、本年度授業担当者変更につき、過年度の授業改善アンケート結果フィードバックはありません。

【Outline and objectives】

It seems to be unusual to think about education as a content of public policies. However, almost all of the educational activities are planned as 'policy', and are implemented as such. In this lesson, we overview the educational policies of contemporary Japan and think of their purposes and issues. First, we treat the policy about nursing and pre-school education.

Second, we treat the policy about school education. And, at last, we treat the policy about lifelong education. From the viewpoint of life stages, we consider the public policies of Japanese education.

EDU200MA

現代教育思想

展開科目

岩本 俊一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における教育的諸問題ならびに諸課題を教育の論理に即して分析し、これを通じて教育的なものの見方・考え方ができる力を培うことができるようになることを本講義の概要・目的とする。

【到達目標】

一億総教育評論家と言われるほどに現代社会に流布する常識的な教育論から脱し、現代社会が抱える教育的諸問題を教育の論理に即して理解する手がかりを得ること、そしてさらにそうした諸問題を教育独自の視点の下に考えることができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式によって行うことを基本とするが、質疑応答の機会を適宜設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに ー 本講義の概要とねらい	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第 2 回	序論 ー 教育的なものの見方と考え方について	教育的なものの見方・考え方とはどのようなことか、またその基礎となる教育の論理とはどのようなことかについて論じる。
第 3 回	教育の思想と教育学	人権思想の発展と教育学の成立について
第 4 回	現代社会における教育の諸問題 (1) ー 「ゆとり教育」と「学力」の問題	あるべき「ゆとり教育」について論じる。
第 5 回	現代社会における教育の諸問題 (2) ー 公教育における道德教育の問題	近代公教育における世俗性（ライシテ）の原則と道德教育の可能性について論じる。
第 6 回	現代社会における教育の諸問題 (3) ー 「特別の教科 道德」の問題	上記 5 を踏まえ、「特別の教科 道德」（「道德」の教科化）の問題について論じる。
第 7 回	現代社会における教育の諸問題 (4) ー 教員養成の問題	教師の「資質」向上をめぐる問題ー 日本における教員養成政策の変質について論じる。
第 8 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (1) ー 近代教育思想の展開	近代教育思想の本質とその史的発展について論じる。
第 9 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (2) 子どもの発見	ルソーにおける「子どもの発見」の意味について論じる。
第 10 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (3) ルソーの教育思想の継承と課題	ルソーの教育思想の現代的継承の在り方について論じる。
第 11 回	教育における体罰の問題 (1) 体罰肯定の思想の問題	体罰肯定論ー 体罰は教育的情熱の発露であるー の本質的問題点について論じる。
第 12 回	教育における体罰の問題 (2) 体罰克服の論理	体罰批判の思想を手がかりにして体罰克服の論理を論じる。
第 13 回	本講義を振り返って（質疑応答）	本講義の内容などについて質疑応答を適宜交えてまとめる。
第 14 回	まとめと試験	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。

【参考書】

参考文献については必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験 100 % で評価する。

平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

In this class we will examine the issues and challenges surrounding education in present-day society using a pedagogical framework.

The purpose of this examination will be to cultivate the students' ability to conceptualize and think from a pedagogical standpoint.

EDU200MA

生涯学習論Ⅲ（成人教育論Ⅰ） 展開科目

森本 扶

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代において、人々の学びの場や機会は大きく広がっている。学校教育がとらえる学習概念を超えて、生涯を通じた大人による学びの場づくりが、現代的課題（市民参画、識字、多文化共生、環境問題など）に対応するために不可欠となっている。授業では、現代的課題に対応する大人の学びの場づくりの諸相について理解し、その問題解決に向けて、社会教育・生涯学習がもつ可能性について考察していくことを目的とする。

【到達目標】

社会教育・生涯学習にまつわる現代的課題群を把握し、社会教育・生涯学習行政・制度がそうした問題にどのように対応してきた（している）のかを理解し、さまざまな社会教育・生涯学習実践がもつ意義や課題について解釈できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には毎回教官が用意するプリントをもとに講義形式で進めていく。テキストは特に使用しない。また、時折映像学習を取り入れる。なお、毎回、授業の最後に意見や感想を書いて提出してもらう（次回講義冒頭でフィードバックする）。終盤にはディスカッション形式によるワークショップを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標・方法・計画を説明
第 2 回	大人の生活とボランティアによる学習	物質的豊かさから精神的豊かさへ、学習・文化活動の広がり、ボランティア活動への関心の広がりボランティア学習など
第 3 回	市民参画型社会とボランティア・NPO・NGO	市民セクターへの注目と NPO の登場・その実態と課題、グローバル化社会における NGO の役割など
第 4 回	企業内教育やリカレント教育による人材開発と生涯学習	OJT・Off-JT・自己啓発、学び直しとリカレント教育の現代的意義など
第 5 回	社会貢献活動を通じた生涯学習	企業労働とは異なる体験を求める会社員たちの姿
第 6 回	教育の「保障」・「補償」としての識字教育	国際的な識字問題の背景と現在、（自主）夜間中学という場の意味など
第 7 回	多文化共生・地域国際交流が切り拓く未来	在留外国人の増加と多国籍化、グローバル化社会と地域国際交流という課題、多文化共生教育の取り組みなど
第 8 回	識字教育や多文化共生・地域国際交流の取り組み	（自主）夜間中学の実際の取り組み、地域国際交流の実際の取り組み
第 9 回	環境問題と持続可能な社会づくりのための生涯学習	発端としての自然保護教育、公害問題学習と環境教育、環境教育思想の国際的展開、今日の環境教育の展開など
第 10 回	大人の学びと開かれた大学	University extension の歴史的伝統、生涯学習社会における高等教育機関の役割、開かれた大学と地域づくりの可能性など
第 11 回	地域における社会教育施設の役割	多様化する学習施設の現状
第 12 回	学芸員による学びのプロデュース	公民館・図書館・博物館の歴史・役割資料収集、研究、展示のプロとしての学芸員の姿、文化の発信から交流の拠点としての博物館の模索
第 13 回	ワークショップ：意見表明スケール	対話型授業：これまでの授業内容をふまえて論点を抽出し、より深く議論する
第 14 回	授業内テストと全体のまとめ	授業内テストの実施後、全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマに関わって自らの意見を明確にしておき、最終的にワークショップ・期末テストに反映させる。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

佐藤一子編（1998）『生涯学習と社会参加』東京大学出版会
川野辺敏・山本慶裕編著（1999）『生涯学習論』福村出版
鈴木真理編（2003）『シリーズ 生涯学習社会における社会教育 1～7』学文社

佐藤一子編（2003）『生涯学習がつくる公共空間』柏書房
佐藤一子（2006）『現代社会教育学』東洋館出版社
上田幸夫・辻浩編著（2009）『現代の貧困と社会教育』国土社
鈴木真理・梨本雄太郎・永井健夫編著（2011）『生涯学習の基礎』学文社
社会教育・生涯学習辞典編集委員会編（2012）『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店
佐藤一子編（2015）『地域学習の創造』東京大学出版会
手打明敏・上田孝典（2017）『〈つながり〉の社会教育・生涯学習』東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への感想文）（15 %） 映像学習の際の考察文（15 %） 授業内期末テスト（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

In the present age, people learning places and opportunities are spreading widely. Beyond the learning concepts that school education catches, the creation of a place for learning by adults throughout their lives is essential to respond to contemporary issues. In the class, we aim to understand the various aspects of adult learning places to respond to contemporary issues, and to consider the possibility of social education and lifelong learning towards solving the problem.

EDU200MA

生涯学習論Ⅳ（成人教育論Ⅱ） 展開科目

朝岡 幸彦

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習は多様な担い手によってとりくまれている。学習機会の供給側（組織者・学習機会の提供者）の内容編成や展開の方法を中心に、歴史的、実践的、システムの理解を深め、学習支援の専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】

成人教育をプログラム編成する学習支援者としての専門性を理解し、実際にプログラムを作成する方法・技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

生涯学習の分野では、大学や公共機関とともに、民間の担い手が幅広く活動している実態をふまえ、生涯学習を推進・支援する課題に焦点をあてて考える。これらを通じて学習支援とは何かを考え、実際に学習プログラムを作成し、学習支援の専門性について理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	生涯学習において学習を支援する仕事とは何か、本授業のねらいと授業計画の概要及び評価について説明する。
2	生涯学習の学習支援と職員・スタッフ	学習を支援する仕事・専門性について、多様な機関・団体・制度に視野をひろげて全体像を把握する。
3	生涯学習社会を支える社会教育①	現代社会教育の基本的構図から生涯学習社会を支える社会教育の視点を確認する。
4	生涯学習社会を支える社会教育②	教育基本法・社会教育法等にみる社会教育観と「公共性」の理解から学習支援者の専門性を考える。
5	生涯学習社会を支える社会教育③	グローバル化の時代における生涯学習・社会教育実践の意味について考える。
6	生涯学習社会を支える社会教育④	アクションリサーチの視点から社会教育実践の意味と評価について考える。
7	社会教育が提案する新しい専門職像	これまでの社会教育職員論を踏まえて、＜学びあうコミュニティ＞を支援する職員論の意味を考える。
8	社会教育事業をデザインする	公民館を事例に年間事業をどのように計画、実施、評価するのかについて考える。
9	社会教育における講座の歴史と実践	市民の学びと講座の役割、課題や可能性について考える。
10	講座のつくりかた①	学習テーマの設定、学びを深めるプログラムの構成について考える。
11	講座のつくりかた②	幅広く伝える広報・宣伝の方法、講座の準備と運営のポイントについて考える。
12	講座のつくりかた③	講師や職員の役割について考える。
13	講座のつくりかた④⑤	講座終了後の支援、学びを拓く事業評価の視点について考える。受講者が作成した講座企画案について、発表・講評しながら「よい講座」について考える。
14	教室内期末レポート作成	授業の振り返りをふまえて、課題に即してレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの講読。
授業時ごとに簡単な課題レポート（ワークシート）を作成する。
授業後半に地域課題や学習ニーズについて、データを収集し、各自が講座企画案を作成する。

【テキスト（教科書）】

阿部治・野田恵編著『SDGs の教育 I 貧困・食料・健康と福祉・ジェンダー・安全な水』学文社 2019 年

【参考書】

朝岡・飯塚・井口・谷口編『講座づくりのコツとワザ』国土社 2013 年
社会教育推進全国協議会『社会教育の“しごと”』 2005 年
日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う』東洋館出版社 2009 年
佐藤一子著『現代社会教育学』東洋館出版社 2006 年

【成績評価の方法と基準】

テキストから課題レポート（ワークシート） 50 %
学習プログラム作成 40 %
期末レポート 10 %

【学生の意見等からの気づき】

実際に生涯学習の事業計画を作成する作業をつうじて、単にアイデアだけではなく実際に学習を支援する専門性とは何か、実態に即した気づきがある。グループワークを導入して事業計画のポイントを共有することが重要である。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。授業中に学生自身が接続する必要はない。

【その他の重要事項】

学習プログラムを必ず作成して提出してください。

【その他】

授業中に出题される課題を提出すること。

【Outline and objectives】

Lifelong learning is engaged by various stakeholders. This class will cover subjects mainly related to the content organization and the development process. Participants of this class will understand the expertise of learning support in a historical, practical and systematical way.

HIS200MA

学習の社会史 A

展開科目

山口 真里

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもはいつの時代も存在するが、子どもへのまなざしや把握の仕方は、時代や社会により異なる。同じように、子どもにどのような学びが促され、それをどこでどう行うかも多様であり、例えば、西洋や日本において学校がその中心を担うようになるのは、近代になってからのことである。この授業では、西洋教育史をベースに、どのようなまなざしが子どもに向けられ、学びがどう遂行されてきたのか、また、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し、発展してきたかを検討する。そして、それらの歴史と私たちの社会で常態化している子ども観や教育、およびそれらが抱える問題との関わりへ考察をすすめ、各自がその意味を相対化し、未来を構想する視点を得ることを目指す。

【到達目標】

西洋における子ども観や学びのありかたの変化を、その背景にある歴史事実と共に説明できる。
授業で学んだことと関連付けて、現在の教育問題を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・指定教科書は使わないが、適宜提示する関連文献と配布資料をもとに講義する。
- ・必要に応じてグループディスカッション等も行う。
- ・テーマの終わりにはワークシートで知識の定着をはかる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第 2 回	近代以前の子育てと徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第 3 回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第 4 回	近代における子どもの発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざしの変化
第 5 回	近代教育思想の形成	コメニウス、ロックの教育思想 ルソー『エミール』の子ども観
第 6 回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第 7 回	家庭、主婦の誕生と子どもの教育	家庭における女性の位置づけ 女子の教育
第 8 回	子どもと労働	工業化以前の子ども労働 産業革命と子どもの労働
第 9 回	近代学校の成立と子どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第 10 回	民衆学校の進展と義務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立
第 11 回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救済事業 権利主体としての子どもと「子どもの権利条約」
第 12 回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第 13 回	現代の子どもの学びと諸問題	多様化する家族と学校の抱える諸問題 子どもをとりまく諸問題と子ども観の変容
第 14 回	振り返りとまとめ、試験	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中で紹介する参考文献や配布プリントを読み、理解を深める。
必要に応じて、ワークシートを宿題とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、適宜提示する。

【参考書】

特に指定しないが、適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献・平常点 20 %、ワークシート 20 %、筆記試験 6 0 %を基準に、総合的に評価する。なお、総授業回数の 2 / 3 以上の出席を単位取得の要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Views on child depend on time or region, and therefore what kind of learning is encouraged to children and how to do it is also diverse. For example, in the West and Japan, it is modern time that the school began to play a central role.

In this class, based on the history of Western education, we will examine childhood and the education of children, and how the school as a child's learning institution has been established and developed.

Then, we will consider the relations between these histories and childhood, the education and problems they have in our society.

And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

HIS200MA

学習の社会史 B

展開科目

寺崎 里水

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。日本史、日本教育史について、議論の土台となる基礎的な知識を共有するために、復習的に振り返る。

【到達目標】

授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本史、日本教育史の基礎的な知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

あらかじめ指定した文献をもとに講義を行う。学生の知識の定着を促すため、ワークシートや小テストを課すことがある。

また日本史、日本教育史の基礎的な事柄については、事前に配布した課題プリントをもとに、指定した回の授業冒頭に小テストを行い、知識の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。
第 2 回	近代化の影響	日本の近代化を、個人と家族、地域共同体、国家の関係がどのように変質したのかという観点から学ぶ。
第 3 回	近代以前の社会と学習	古代、中世、近世における諸制度と教育機関について学ぶ。とりわけ、近世における経済の発展と庶民の学習に重点を置く。これらを通して近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第 4 回	試験の社会史	近代日本社会において、試験というシステムがどのように浸透していったのか考える。
第 5 回	学歴の社会史	学歴がなぜ重要視されるようになったのかについて、近代的職業の発達との関連から理解する。
第 6 回	競争と管理の学校史	学校という仕組みのなかに「競争」や「管理」がどのように浸透していったのかを学ぶ。
第 7 回	運動会、ブルマーの社会史	体育と近代の関係を考える。
第 8 回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第 9 回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第 10 回	近代化以降の社会の発展と学校教育制度の整備	明治維新後の学校教育制度の整備、発展について、これまで学んだことを制度的に跡付けるかたちでまとめる。とくに産業構造との関係に主眼を置く。
第 11 回	太平洋戦争後の制度改革と教育	戦後の制度改革から今日までの流れを概観しながら、教育制度の変化を学ぶ。
第 12 回	地方都市と教育	近代化以降広がる貧富の差、地方都市と大都市との格差などがどのように政策課題として扱われてきたのかを学ぶ。
第 13 回	大衆と教育	勤労青年と学歴エリートの差に注目しながら、働きながら学ぶ集団の誕生とその意義について学ぶ。
第 14 回	まとめと試験	我々はなぜ学ぶのかについて考え、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定文献の精読、配布プリント課題を必須とする。日本史の知識が必須なので、各自高校までの内容を復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の振り返りミニテスト 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, learning, examination, and family.

EDU200MA

教育社会学 I

展開科目

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、「教育を教育のなかだけで考えない」発想力と、それを支える知識・理解力をパワーアップし、自他のキャリアデザインについて自信をつけます。しかるべき知識と理解力を地道に身につけないと視野が広まらず、どこか自分に自信がないまま。これは多かれ少なかれ、多くの人に当てはまる。そんな自分の殻を突き破ろう。

【到達目標】

- ・「教育のべき論」に飛びつかない——社会的現実を質的／量的データで捉える「ディテール力」の基礎を磨きます。
- ・「社会」のパーツを掘り下げる——「社会」とは天下国家とは限らない。家族、友人関係、バイト先、大学、将来の職場・職業・産業、家族・世帯・地域、AI 化・・・大事な知識と理解を身の回りのことから徐々に広げ、教育と結びつけて考える力を養います。
- ・どんな社会で生きてゆきたいか——自分なりのビジョンを創り上げます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、最初の 1/5 が前回リアベへの回答・解説、真ん中の 2/5 が班での議論、最後の 2/5 が班からの発表と筒井の発展的解説、という流れ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「森全体」を見渡す
第 2 回	中学校長「二人以上産む最も大切」—どう思う？	社会科学の表現作法を理解する
第 3 回	ダメダメ ES に「ツッコミ」を入れる（第 2 章）	ディテールに普遍性が宿ることを理解する
第 4 回	わが子を未熟にする大人（第 3 章）	「親を突き放す優しさ」について考える
第 5 回	大人が言う「失敗を恐れるな」を信じられる？	教育・業と内的基準の関係を考察する
第 6 回	「キャリア教育」とどう付き合うか？（第 1 章）	キャリア教育の社会的背景を理解する
第 7 回	「SY」脱却大作戦（コラム①～⑩）	教育現象を記述統計を用いて理解する
第 8 回	学部と職業は関係あるの？（第 4 章）	労働と生活の基礎用語を知る
第 9 回	給料 2 割減、週 20 時間労働を選ぶ？（第 4 章）	ワーク・ライフ・バランスを実存から考える
第 10 回	どうしても働かなきゃダメ？（第 5 章）	「労働の道徳化」について理解する
第 11 回	愛嬌たっぷり先生ロボットは有能か？（第 6 章）	AI の社会的インパクトを考察する
第 12 回	社会には扶けてくれる他者がいる（第 7 章）	支援機関の知識を得て、背負える分だけ背負えばよいことを理解する
第 13 回	どんな社会で生きてゆきたいか（第 8 章）	個人／社会 × 現実／理想の象限を活用して考察する
第 14 回	試験の傾向と対策	限られた時間に論理的で説得的な文章を書く力を磨く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私の授業は反転授業方式です。レジュメの予習課題をこなして授業参加のこと。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀（2016）『自分の殻を突き破るキャリアデザイン——就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【参考書】

筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマニスト社

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 20 %、期末論述試験 80 %

【学生の意見等からの気づき】

中間レポートの添削と返却が好評なので続けます。

【Outline and objectives】

In this class the students are to learn "not to think about education only within education" and to master basic understandings of relevant knowledge and concepts, in order to be confident of career design. Let's get breakthrough.

EDU200MA

教育社会学Ⅱ

展開科目

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

周知のとおり日本社会では、教育・福祉・労働・生活をはじめとしたさまざまな領域で、歪み・軋みが生じています。では一体、どのように再創造していけばよいのでしょうか。現在、自治体と地域が、就労困難者に対してどのような支援や教育訓練を展開しているのかを具体的に学ぶなかで、それをデザインしてゆきます。

【到達目標】

就労困難者への支援や教育訓練というと、「どんなふうに接したら／教えたらいかがか」という対人関係の次元が浮かぶことが多いでしょう。これと同時に知恵を絞らなくてはならないのは、人・モノ・かね・情報といった諸資源をどのようにネットワーク化すればよいか、です。キャリアデザイン学部 of the students は、ミクロな次元からもっと視野を広げる必要があると痛感します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、最初の 1/5 が前回リポートへの回答・解説、真ん中の 2/5 が班での議論、最後の 2/5 が班からの発表と筒井の発展的解説、というスタイルです。毎回、ざっくりとした予習課題があり、それをやったうえで身体を教室に運ぶこと。すると班での議論のレベルが上がって盛り上がり、充実感が得られ、実力がつきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	森全体を見渡す日
2	自治体による就労支援とは何か	筒井・櫻井・本田編著（2014）の序章を読み、左記を理解する
3	国の福祉政策・労働政策はどう変わってきたか	筒井・櫻井・本田編著（2014）の第2章を読み、左記を理解する
4	シングルマザーを支援する飲食店	前掲書の第9章を読み、福祉と経営を「両立」させることについて議論する
5	横浜市の生活保護受給者への就労支援	前掲書の第3章第3節を読み、生活保護受給者への就労支援について議論する
6	社会調査と分析のコツ	調査で得たデータがどのように分析・加工され論文となるかを理解する
7	就労支援の民間委託	前掲書の第4章を読み、就労支援の民間委託について議論する
8	豊中市の生活保護受給者への就労支援	前掲書の第8章を読み、自治体の福祉部門と労政部門の連携の難しさについて議論する
9	就労支援者の次世代育成	筒井（2015）のクリティカル・レビューを書き、左記について議論する
10	就労支援の「出口」をどう創るか	前掲書の第7章を読み、中小企業支援について理解する
11	地域のニーズは誰が掘り起こせるのか	前掲書の第10章を読み、左記に関する固定観念を取り払いつつ議論する
12	高齢者と生きづらい若者をつなぐ	前掲書の第5章を読み、協同労働について議論する
13	中間的就労／社会的就労、半福祉・半就労とは何か	前掲書の序章を読み、左記について考察を深める
14	誰もが働き、生きていける社会とは	前掲書の終章を読み、左記について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私の授業は反転授業方式です。テキストを毎回1章読み、予習レジュメの「問い」を解くという準備をして授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著（2014）『就労支援を問い直す——自治体と地域の取り組み——』勁草書房。

筒井美紀（2017）「就労支援の「出口」開拓に資する地域資源の組織化——西岡正次氏（元・豊中市労働担当理事）のオーラル・ヒストリーに基づく考察——」『生涯学習とキャリアデザイン』Vol.14 No.2, pp.3-18.

【参考書】

授業中適宜指示

【成績評価の方法と基準】

筒井（2015）のクリティカル・レビュー 20 %（添削して全員返却）、期末論文試験 80 %

【学生の意見等からの気づき】

毎年この授業の履修者は、将来、教育や支援に関わる仕事に就きたい人、自治体職員を目指す人、教師になりたい人、どんな社会で生きてゆきたいか自分なりのビジョンを確立したい人——などが多いです。

【Outline and objectives】

The Japanese society has been dysfunctioning in the various areas such as education, welfare, labour and life. Then, how should recreate it? The students are to learn how to design better societies through reading and discussing the efforts by some municipalities and local organizations for support of the people with difficulties in work.

EDU200MA

教育経済学

展開科目

両角 亜希子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の経済的な側面、とくに学生のみなさんにとって身近な、学校教育や大学教育に関するトピックスを扱い、基礎的な概念や実証分析の結果を解説する。講義や議論を通じて、教育経済学の基本的な考え方や知識を学び、自分なりの意見や考え方を持つことで大学生生活や大学での学びをより良くすることを目的とする。

【到達目標】

この授業では、教育の経済的な側面に着目して基礎的な概念の解説を行う。到達目標は主に2つある。ひとつは、経済学的な観点からのものの見方を身につけること。もうひとつは、皆さん学生にとって身近な学校教育や大学教育・大学生生活に対する議論を通じて、自分の大学生生活をとらえなおすきっかけを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

履修人数にもよるが、講義・学生の授業内での発表だけでなく、学生同士のグループ討論を積極的に取り入れる予定なので、そのつもりで履修をするかを決めてほしい。
毎回の授業でリアクションペーパーを提出してもらう。
扱うテーマについては、学生の関心を見て、多少の変更を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	経済事業としての教育 受講希望理由書の提出
第2回	教育と社会・経済発展 (1)	日本の経験
第3回	教育と社会・経済発展 (2)	国際比較
第4回	学習・進学行動の経済分析 (1)	大学進学のための経済的なメリットは
第5回	学習・進学行動の経済分析 (2)	家計は学力や進学にどのように影響を与えるか
第6回	学習・進学行動の経済分析 (3)	女子の進学行動は男子と異なるのか
第7回	教育における効率と公正 (1)	授業料を下げるべきか、奨学金を渡すべきか
第8回	教育における効率と公正 (2)	教育費無償化の議論に迫って考えるー日本の議論から
第9回	教育における効率と公正 (3)	教育費無償化の議論に迫って考えるー国際比較から
第10回	教育成果の経済分析 (1)	学歴が高いと給与が高いのはなぜか
第11回	教育成果の経済分析 (2)	少数数学級は効果的か
第12回	大学教育と仕事の経済分析 (1)	大学で学んだ知識は役立つのか
第13回	大学教育と仕事の経済分析 (2)	社会人になっても学び続けるのか
第14回	期末試験	期末試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修人数によって授業のやり方は変えることになるが、以下のような授業外学習時間を想定している。
・参加学生が授業時間外に論文等を読んできたうえで、その内容を発表してもらうことを1人1回は行うことを予定している。
・グループ討論のために、参加学生が授業時間外にあらかじめ事前調べをしたうえで、簡単なレポート（メモ）を作成してもらうことも予定している。
教育経済学というと、数学などを用いて難しい話をするのではないかと思うかもしれませんが、この授業では数式などはほとんど用いずに、教育経済学の概念を説明したり、この分野で明らかになっている知見を紹介します。授業を取るにあたり必要な前提知識はありませんので、関心があれば気軽に受講してみてください。

【テキスト（教科書）】

とくに用いない

【参考書】

授業の中で、必要に応じて参考資料を配布・紹介する。
以下の文献などが候補である。
荒井一博 2002『教育の経済学・入門—公共心のある教育はなぜ必要か』勁草書房
橋本俊詔・松浦 司 2009『学歴格差の経済学』勁草書房

橋本俊詔 2017『子ども格差の経済学』東洋経済新報社
小林雅之 2008『進学格差—深刻化する教育費負担』ちくま新書
濱中淳子 2013『検証・学歴の効用』勁草書房
矢野真和 2015『大学の条件：大衆化と市場化の経済分析』東京大学出版会
赤林 英夫・直井 道生・敷島 千鶴・2016『学力・心理・家庭環境の経済分析—全国小中学生の追跡調査から見えてきたもの』有斐閣
柴田 悠 2016『子育て支援が日本を救う』勁草書房
中室牧子 2015『「学力」の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン

【成績評価の方法と基準】

平常点（発表・討議への参加度等）（30 %）、リアクションペーパーの内容（20 %）、期末試験（50 %）をまとめて総合的に評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

この授業の履修を考えている人は、第1回の授業に出席して、受講希望理由書（当日配布）に記入・提出すること。初回の授業に出られない場合は、事前に講師にメールで連絡をすること。morozumi@p.u-tokyo.ac.jp
履修者の人数によっては授業の方法を多少修正することもあるし、履修者の希望によっては、扱うトピックを少し修正する可能性がある。

【その他】

よりよい学習の場を作るのは、教員だけでなく、履修者たち自身でもある。自分の考えを大勢の人に向けて発するには勇気がいるが、勇気をもって発言してほしい。履修者同士が互いに協力し、他のメンバーに対して、礼儀や敬愛の精神で接してほしい。それがあれば、たいていは「話してよかった」という結果になる。自分の立場や考え方とは異なるものも受け入れる姿勢を持ってほしい。こうしたルールを皆で共有して、楽しく議論できればと思っています。

【Outline and objectives】

This course introduce the economics of Education. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental theory of the economics of education and useful knowledge needed to achieve a better performance in their university life.

MAN200MA

キャリア研究調査実習C（データで語るキャリア）

展開科目

久保田 貴文

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業を通じて、就業を中心とする働くことに関する調査の実施方法について理解すると同時に、自分自身で調査を計画実施する際に必要なスキルを修得する。この授業では、既存の調査票を参照しながら、調査票の設計方法、対象者の選定や回答依頼方法、分析方法、考察、まとめまでの一連の作業についてレクチャーし、その一部を体験することを通じて、量的調査のノウハウを身につける事を目標とする。

【到達目標】

- (1) 先行研究の調べ方、仮説・リサーチクエッションの立案ができるようになる
- (2) 調査票を作成できるようになる
- (3) 簡単なデータ分析ができるようになる
- (4) 得られた結果を報告出来るようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めるパートと、個人またはグループでの実習形式で進めるパートで構成される。講義では調査を実際に行う際に必要となるスキルをレクチャーし、その一部について実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方ならびに社会調査の概要を紹介する
第 2 回	調査の仕組みを知る	調査の流れを把握し、その内容を明確にする。また、調査企画に沿って調査の仕方を決め質問項目についても検討し、調査実施の際の倫理について理解する。
第 3 回	二次データの利用方法を知る	二次データとは何か、二次データの活用方法について理解し、集計の種類やデータの入力方法とデータの種類についても理解する。
第 4 回	就労に関する二次データの分析（1）単純集計	集計によって集団の特色や傾向を把握し、質的データの単純集計を行う。
第 5 回	就労に関する二次データの分析（2）代表値・ちりばり	量的データの単純集計により、平均値・中央値・最頻値等の代表値で理解し、分散・標準偏差によりばらつき具合を把握する。
第 6 回	就労に関する二次データの分析（3）単純集計の視覚化	度数分布表により単純集計の分布を把握し、段階評価データの集団の傾向についても視覚化する。
第 7 回	就労に関する二次データの分析（4）クロス集計と視覚化	クロス集計によって2つの質問項目の関係を把握し、グラフにより視覚化を行う。
第 8 回	就労に関する二次データの分析（5）相関分析	質的データと量的データの連関について調べ、量的データと量的データの相関についても測る。
第 9 回	就労に関する二次データの分析（6）回帰分析	関数式によって2つの項目間の関係を把握する。
第 10 回	就労に関する二次データの分析（7）レポート	統計結果を含むレポートの書き方を理解する。
第 11 回	調査計画の立案（1）	グループごとに、リサーチクエッションから仮設の構築までを行う。
第 12 回	調査計画の立案（2）	リサーチクエッションに基づく調査票の作成を行う。
第 13 回	調査計画の立案（3）	調査票の作成、サンプリングを含めた調査計画全般の立案を行う。
第 14 回	プレゼンテーション	調査計画についてプレゼンテーションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 4 回から第 9 回までは情報機器を使った実習を行うため、授業後に実施内容について復習等が必要である。また、毎回の授業において次回の実施内容を説明するので、必要に応じて準備学習を実施すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて授業内で指示する。

【参考書】

参考書は使用しない。必要に応じて授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）： 50 %
レポートや課題の提出： 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を利用した授業であるが、持参の必要性等については初回の授業にて指示する。

【その他の重要事項】

初回の授業に必ず出席すること

【キャリアデザイン学部より】

この授業は、受講者数 20 名程度を想定した授業です。想定より大幅に受講者が多い場合、抽選を行うことがあります。

【Outline and objectives】

Through class, students understand how to conduct surveys on workers, and at the same time, acquire skills necessary for planning and conducting surveys themselves. In this class, students will take lectures on a series of tasks including designing a survey form, selecting a target person and requesting a response, analyzing method, consideration, and summarizing, while referring to the existing questionnaire. Through those experiences, students aim to acquire the know-how of quantitative research.

MAN200MA

キャリア研究調査実習D（仕事とビジネスの質的研究） 展開科目

山口 豊

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

調査をもとに研究を行う際は、事前の十分な準備と適切な手法・調査対象の選択、そして調査結果の丁寧な解説が必須です。本授業では企業インタビューを実際に行いながら質的調査の一連のプロセスのすすめ方を習得し、産業・労働分野での質的調査の活かし方を学びます。

【到達目標】

- ①企業インタビューを実際に行いながら、質的調査の一連のプロセスのすすめ方を習得する。
- ②産業・労働研究での質的調査の活かし方を学ぶ。
- ③ゼミ論・卒論で質的調査を行うための、より実践的な能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

実習を中心に、講義を交えながら授業を進めます。講義では、質的調査の基本を理解し、産業・労働分野での優れた研究から質的調査の活かし方を学びます。実習では、調査に向けた準備を行い、実際にインタビュー調査をしたうえでその結果をまとめ、はじめに設定した調査テーマや明らかにしたいことと照合しておおまかな結論を導くまでの、一連の質的調査のプロセスを積み重ねます。実習では「日本企業における外国人労働者の活用」を調査テーマにして、企業や自治体等の関連機関にインタビューを行う予定です（※受講者の問題関心に応じて調査テーマを変更することもあります）。インタビューは担当教員を含めたグループ単位で、対象企業等を訪問して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標等の説明、調査テーマの確定とスケジュールの確認
第 2 回	質的調査の概説	社会調査と質的調査、質的調査の概説（講義）
第 3 回	質的調査の準備（1）	関連する先行研究の紹介と検討（講義）
第 4 回	質的調査の準備（2）	関連する制度の確認、既存の統計資料の整理（実習）
第 5 回	質的調査の準備（3）	調査対象の選定、調査趣旨書と質問票の作成（実習）
第 6 回	質的調査の活かし方（1）	産業・労働分野での、質的調査を用いた古典的な研究事例の紹介（講義）
第 7 回	質的調査の活かし方（2）	産業・労働分野での、質的調査を用いた現在の研究事例の紹介（講義）
第 8 回	質的調査の実践（1）	質的調査の実施：対象地域の実状を把握するためのインタビュー調査（実習）
第 9 回	質的調査の実践（2）	質的調査の実施：対象産業の実状を把握するためのインタビュー調査（実習）
第 10 回	質的調査の実践（3）	質的調査の実施：企業へのインタビュー調査（実習）
第 11 回	質的調査の記録（1）	調査から得た情報をもとに、記録文書を作成（講義+実習）
第 12 回	質的調査の記録（2）	作成した記録文書を報告し、共有（実習）
第 13 回	質的調査のまとめ（1）	調査テーマや準備段階で得た情報と記録文書の照合（実習）
第 14 回	質的調査のまとめ（2）	調査のプロセス全体から得た知見のまとめ（実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査の準備（対象地域や企業に関する下調べ）と調査の記録文書の作成、調査のとりまとめを行います。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（「授業時間外の学習」の成果）50 %、平常点（とくにインタビューの場での適切な態度）50 %。

【学生の意見等からの気づき】

参加型の授業という側面をより強調していきたいと思っています。

【キャリアデザイン学部より】

この授業は、受講者数 20 名程度を想定した授業です。想定より大幅に受講者が多い場合、抽選を行うことがあります。

【Outline and objectives】

In this class, we learn to make processes of the qualitative surveys through experiencing interviews with employers. Additionally, we receive lectures about how to reflect the results of the qualitative surveys in studies among labor-management relations. In interviewing, we plan to clarify the employment and utilization of foreign workers in Japanese firms. Finally, we will be able to acquire more practical ability for quantitative surveys: prepare carefully, choose ways properly and analyze the results of the surveys in a polite way.

MAN200MA

外書講読 A (ビジネス)

展開科目

中野 貴之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文やレポートを執筆する際など、私たちはいろいろな文献を読みます。その際、日本語で書かれた文献だけでなく、英語で書かれた文献まで自由に読めると、私たちが獲得できる知識の範囲は大幅に広がります。この授業では、一人で英語文献を読むのに必要な力を養うことを目的とします。

【到達目標】

英語で書かれた専門的な文献（ジャーナルの文献）を、一人で読めるようになることが目標です。受講者のレベルに合わせて授業内容を編成しますので、英語に苦手意識を持っている人もぜひ受講してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ビジネスキャリアに関する文献を読んでいきます。経済の基礎概念、および、日本の戦後経済史に関する平易な文献を読みます。さらに、多角化経営関連する米国の実証研究の文献を読んでいきます。実証の研究論文は、通常、①イントロダクション、②先行研究、仮説、③データの説明、④検証デザインと結果、⑤結論で構成されますが、これらのうちの前半部（いわゆる **Front-ends**）に限定して読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。また、受講者の英語能力を評価します。
2	Supply and Demand (The World of Economics)	"Supply and Demand"に関する文献を読みます。
3	Japanese Economy(1)	pp. 5-8 を読みます。
4	Japanese Economy(2)	pp. 8-14 を読みます。
5	Japanese Economy(3)	pp. 19-23 を読みます。
6	Japanese Economy(4)	pp. 23-32 を読みます。
7	Japanese Economy(5)	pp. 37-43 を読みます。
8	Japanese Economy(6)	pp. 49-56 を読みます。
9	Japanese Economy(7)	pp. 56-67 を読みます。
10	Berger and Ofek(1995)(1)	多角化の理論を勉強した上で、最初の 1 頁を読みます。
11	Berger and Ofek(1995)(2)	次の 1 頁を読みます。
12	Berger and Ofek(1995)(3)	最後の 2 頁を読みます。
13	Berger and Ofek(1999)(1)	最初の 2 頁を読みます。
14	Berger and Ofek(1999)(2)	後半の 2 頁を読みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語に親しむ機会を増やしてください。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業における発表、提出物等）と定期試験によって総合的に判断します。ただし平常点に比重を置き、最終授業における試験の比重は低いです。

【学生の意見等からの気づき】

文献を和訳するだけでなく、英会話に関する話題（日本人として使いやすい表現など）も積極的に取り上げ、英語に親しむ機会を提供したいと思います。受講者はやる気のある人が多いので、教員としてもやりがいのある授業です。

【その他の重要事項】

・英文による学術文献を地道に読んでいく授業ですので、授業に先立つ予習は必須です。当初、文法の解説も行いながら逐語訳を行っていますが、軌道に乗ってきたら、論旨をおさえる形態に変更し、進度を速めます。これらは、受講者の発表によって行うので、積極的に参加してください。
・日本語の世界は「狭い」、海外には「広い」世界が広がっていることを、海外の文献を読むことによって知る機会になれば幸いです。
・受講希望者が多い場合には、抽選等により受講者を制限します。このため、初回の講義には必ず出席してください。

【Outline and objectives】

If we can read not only Japanese but also literature written in English, the range of knowledge that we can acquire will be greatly expanded. In this lesson, we aim to cultivate the power needed to read the economic literature written in English alone.

MAN200MA

外書講読 B (ビジネス)

展開科目

杉原 弘恭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Steve Jobs が「アップルは Technology と Liberal Arts の交差点にしようとする」と述べたとき、どれだけの人が理解できたでしょうか？ 翻訳では異訳されてしまいました。また英文契約書が似た意味の動詞を並べて使う意味は？ 原文で理解する意味がそこにあります。また、アメリカでは民間企業でありながら、環境保全・社会奉仕など公的な役割を果たす **Benefit Corporation** という新しい会社制度が成立しています。この制度による会社では、そのような対外的な役割を社員の内発的動機づけ **Drive** や **Caring** 概念と同期させようとしている傾向が見受けられます。企業をとりまく国際的なマクロ情勢から人間のありようまでを立体的に理解すべく、原典を参照しながら進めて行きます。

【到達目標】

キャリアデザインの基本に位置するモチベーション 3.0 などの考え方を、最新の行動変容理論などとともに理解することを目標とします。これらが **capable communication**、ひいてはいのちの経営の参考になれば幸いです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

原典の全員による輪読と関連した講義を組み合わせて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	Communication の構造を学ぶ。
第 2 回	国際 Communication に必要な概念	Liberal Arts とは何かなどを学ぶ。
第 3 回	Career development に必要な概念	Management, Governance などを学ぶ。
第 4 回	就職状況の背後を探る	企業のポジション変化と雇用の変化について学ぶ。
第 5 回	日本の特異性	雇用に関する OECD の日本への勧告などを学ぶ。
第 6 回	未来の職業について学ぶ。	各種研究による未来予想図
第 7 回	AI について学ぶ	AI について学ぶ、オブジェクト指向、ブロックチェーン技術とは。
第 8 回	知っておくべき国際フォーラム	戦前、戦後、近年の SDG s など企業を取り巻く国際的な動向を学ぶ。
第 9 回	語られない国際情勢背後のエネルギー状況	報道されていないエネルギーの視点を学ぶ。
第 10 回	新しい企業制度を知る	先駆的なアメリカの Benefit Corporation 制度などを学ぶ。
第 11 回	近年重視される Management の基礎	財務諸表と PDCA サイクル、現在価値の割引等を学ぶ。
第 12 回	内発的動機付けの関連を学ぶ	Flow などの原典購読。
第 13 回	近年重視される Management の基礎	Brain science を学ぶ。
第 14 回	試験・まとめ	全体を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語では専門用語らしい翻訳語が、原語では日常用語であったりすることがあります。日頃から他に意味はないのか？ **Why? What if?** (もし〜としたらどうなるだろうか) などと考えるクセをつけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

適宜紹介します。関連の国家試験「IT パスポート」には、(本講義を含めて) 辞書代わりにも使える『よくわかるマスター IT パスポート試験対策テキスト』(FOM 出版) がお奨めです。

【成績評価の方法と基準】

試験 70%と平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

原典輪読の授業への一層のフィードバックや資料配布と板書のパランスに留意します。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

関連資格：IT パスポート（一番取得しやすい国家試験で、毎月 PC 受験可能）

IT 化した社会で働く社会人に必要な情報・経営・財務分析の基礎知識を持っているかを、国が認定するもので、エントリーシートの項目に取得の有無を入れる企業が増えてきています。本授業で得た知識が生かせます！

【Outline and objectives】

What is the meaning of liberal arts as Steve Jobs said, "Apple always try to be at the intersection of technology and liberal arts"? Why does a English contract agreement employ overlapping verbs? What is a benefit corporation in the United States? We will explore their roots and senses of meaning for the sake of capable communication.

MAN200MA

職業選択論Ⅱ

展開科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多様な雇用形態の現状と課題、男女の働き方の現状と課題を考えます。これらは相互に関係しあっています。働き方の変化は、特に若い世代に大きな影響を与えます。20 代に直面するかもしれない労働問題への理解を深め、現実的な職業選択のあり方をみずから考えられるようになること、さらに、多様な働き方の改善に社会人として自らかかわっていけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

雇用形態の多様化および、それが若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。男女の働き方の現状と課題を理解する。
＜まともな働き方＞を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業では現在の若年労働市場や働きかたの現状と問題点の理解をより一層重視します。春学期と同様に、授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを授業内外で適宜書きます。雇用をめぐる現状を理解した上での考察であることを春学期以上に重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。定期試験では持ち込み不可の論述試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介、春学期の論点の整理
2	若年労働市場の現状	学歴別・男女別に見た若年者の就業状況
3	正規雇用と非正規雇用（1）	正規雇用と非正規雇用の違い／雇用契約と処遇
4	正規雇用と非正規雇用（2）	多様な働き方の現状と課題／雇用ポートフォリオ／有期雇用から無期雇用への転換の動き
5	派遣労働の特徴と問題点	間接雇用である派遣労働の特徴と問題点
6	派遣労働の歴史と現在	派遣労働の歴史的経緯／紹介予定派遣
7	長時間労働の現状と背景	長時間労働の現状と背景／労働時間規制の法制度
8	長時間労働の改善に向けた動き	事例から見る長時間労働と考えられる対策
9	長時間労働と組合の役割	法制度と労働組合の役割の関係
10	男女の働き方とワークライフバランス（1）：夫婦の生活時間と仕事時間	女性の就業継続をめぐる意識と現状、夫婦の生活時間と仕事時間
11	男女の働き方とワークライフバランス（2）：法制度と現状	男女雇用機会均等法、育児・介護休業法などの法制度と実態
12	男女の働き方とワークライフバランス（3）：企業の実情	コース別雇用管理、企業の就業継続支援策、就業継続をめぐる課題
13	離職・転職を考える	長期安定雇用と転職の現状
14	雇用の保障とキャリアの保障	キャリア権、仕事の限定と無限定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに掲載する各回のレジュメに事前に目を通してから授業に参加する。
授業の話題に関連した新聞記事などを日ごろから読み、最近の動向を知り、検討する。
期末試験に向けて、授業内容を復習し、論述の準備を行う。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時にレジュメを準備します。レジュメは事前に授業支援システムに掲載します。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。
・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
・濱口桂一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書
・森岡孝二（2015）『雇用身分社会』岩波新書

・川入博（2014）『過労自殺 第二版』岩波新書
・久原穂（2018）『働き方改革』の嘘』集英社新書
・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブル Q & A』旬報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で6回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と定期試験（配点 60 点）により評価します。なお、ミニ・レポートの提出が0～2回の学生や、ミニ・レポートの代筆が判明した学生、定期試験で不正行為が判明した学生には、単位を付与しません。詳しくは初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

身近な内容でありながらアカデミックな講義で充実した内容だったとのコメントをいただきました。
働き方をめぐる現在の変化は、皆さんの働き方にも直結してきます。その関係をより理解できるように、努めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメは授業支援システムに事前に掲載します。各自、プリントアウトの上、持参してください。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方、ミニ・レポートについて、定期試験について等の説明を行いますので、必ず出席してください。
「職業選択論Ⅰ」を受講した上での受講が望まれます。

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide a basic understanding of the changing labor market and work styles. Main topics are diversification of employment types, long hours of work, work-life-balance, and gender equality.

MAN200MA

人材育成論Ⅰ

展開科目

佐藤 厚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材育成論Ⅰでは、ヒトが企業社会の中で職業能力を形成することの意義と方法、課題などについて学びます。現代産業社会では、企業は人的資源の活用と育成抜きには活動が成り立ちません。他方大半の現代人は組織に関わって働くことで生計を維持しています。そこで重要となるのは、ヒトが人材として育っていく環境であり、組織が人材を育てていくしくみや方法であり、それを学ぶのがこの授業の到達目標及びテーマとなります。

【到達目標】

この授業の学習目標は以下のようです。

- (1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。
- (2) 日本の組織における職業教育訓練の方法と特徴について説明することができるようになる。
- (3) 職業教育訓練がスキル形成に及ぼす影響を理解し、あわせて訓練効果を阻害する環境要因についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

人材育成論Ⅰの概要と方法は、人材育成＝①＜狭義：職業能力の訓練＝OJT＋OFF-JT＋自己啓発＞＋②＜広義：企業組織内でヒトが育つ組織内環境＝人的資源管理＋組織＞＋③＜最広義：ヒトが育つ社会環境：家庭＋学校＋地域全体社会＞という枠組みの中で、①と②を中心にその基礎を学びつつ、③への視野の拡大をはかってもらうことにあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	なぜ人材育成について学ぶか。講義の進め方。参考文献の指示など
第 2 回	現代社会と人材育成～産業化・労働市場・教育と人材育成～	「家庭 → 教育・学歴 → 職業キャリア」という枠組みの形成の意味と課題
第 3 回	組織の時代における人材育成	合理的な組織モデルとしての官僚制モデルと人材育成の考え方
第 4 回	モチベーションと人材育成	ヒトの動機付け（モチベーション）についての理論モデル（経済人モデル；社会人モデル；自己実現人モデル）
第 5 回	人的資源管理と人材育成	組織設計の理論およびヒトの動機付け（モチベーション）についての代表的考え方が現代日本企業の人的資源管理の制度にどのように生かされているか
第 6 回	雇用・処遇システムと人材育成——国際比較と日本の特徴——	国際比較でみる日本の経営の特徴（従業員重視型経営：長期雇用：人材育成への投資）
第 7 回	企業内教育訓練と人材育成（1）——教育訓練の目的と方法	日本企業的能力開発・教育訓練の特徴及びこれまでのキャリア・人材育成の特徴と課題
第 8 回	企業内教育訓練と人材育成（2）——「見える化」とリーダー人材育成	人材育成、能力開発の「見える化」とリーダー人材の育成
第 9 回	キャリア形成と人材育成——「これまで」の特徴と「これから」の課題	伝統的キャリア（ピラミッド組織で昇進するタイプ）から新しいキャリアへ（専門性や他社通用性を持ち、ワークとライフのバランスを重視するタイプ）
第 10 回	専門職（プロフェッショナル）人材の育成——キーワードとしての「自信」の持てる分野（キャリアアンカー）	キャリアアンカーの意義 人と組織のマッチングとしてのキャリアアンカー
第 11 回	内部育成と複数企業経験——内部労働市場と職業別労働市場	内部労働市場を補完するものとしての職業別労働市場
第 12 回	若年非正規労働者のき方とキャリア意識	伝統的キャリアだけでは把握できないキャリア環境の把握と非正規の正規への転換ニーズを知る
第 13 回	やりがいある仕事・ワークライフバランス・キャリア意識	仕事にやりがい感を持ち、ワークライフバランスにも満足する働き方はいかにして可能か
第 14 回	講義のまとめ	講義全体の振り返りとまとめを行う 学生との質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。

【テキスト（教科書）】

毎回授業時にレジメを配布しますが、とくに後半の講義内容を体系的に理解するには佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂（2011 年）を購入し併読することが望ましい。

【参考書】

佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016 年）を購入し併読することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

- ・学期末に定期試験を実施します。授業で取り上げた内容の理解度を問うのがねらいです。
- ・授業の中間（6 月頃）にレポート提出を課します。
- ・毎回の出席を成績に反映することはありませんが、毎回リアクションペーパーに、その日の授業の理解度の自己チェック及び質問やコメントを記入してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

前回の講義の質問や感想について紹介し、簡単な振り返りを行う。
毎回の講義のねらいを授業開始時に明示する。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

人材育成論Ⅰと人材育成論Ⅱをあわせて受講することが望ましい。

【Outline and objectives】

In this class, students can learn the importance and the way how employees work with firm develop their vocational skills and abilities in each organisations. In industrial society in modern society, human resource development may be indispensable for business activities of firms, on the other hand, working employees also depend on firms that employ them. Main purpose of this class is to learn about environment in which firm train employees and employees develop their skill.

MAN200MA

人材育成論Ⅱ

展開科目

池田 心豪

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材育成論Ⅱでは、人材育成論Ⅰと同様、ヒトが企業社会の中で職業能力を形成することの意義と方法、課題などについて学びます。

【到達目標】

人材育成論Ⅰでの基本理解を踏まえて、性別等労働者の属性別、また業種別、職種別、雇用形態別といったさまざまな切り口から人材育成の実態と課題を認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

人材育成論Ⅱでは、人材育成論Ⅰで学んだ枠組みをベースにした多様性やバリエーションを書く論的切り口から学びます。雇用形態（正社員とパート、契約、派遣などの非正規）、ホワイトカラー（事務系と技術系）とブルーカラー、大企業と中小企業、男性と女性 若年、中高年者などは各論的切り口の例です。

また人材育成論Ⅰでは主に企業組織の側からみた能力開発や人材育成をみてきました。これに対して、人材育成論Ⅱでは主に働く側からみた「育成」（＝長期の育成としてのキャリア形成）の視点を重視します。同時に人材育成の環境変化をできるだけリアルに把握するために、各種の統計データや調査結果を読み取ることも重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：人材育成論Ⅰの復習と人材育成論Ⅱのねらい	前期の授業内容について受講内容を振り返りながら、後期の問題意識を育てる。
第 2 回	企業の人事管理と人材育成	採用・配置・異動・昇進を通じた人材育成について概要を学ぶ
第 3 回	組織の論理と個人のキャリア	個人のやりたい仕事と会社がやらせたい仕事の関係について学ぶ
第 4 回	日本企業の人材育成の特徴	海外の企業との比較を通じて日本企業の特徴を理解する。
第 5 回	転職型キャリアと能力開発	転職者の能力開発機会について企業内・企業外双方の視点から学ぶ
第 6 回	多様な人材の育成	パート・アルバイト等の非正規社員を含めた人材育成のあり方について学ぶ。
第 7 回	中小企業の人材育成	大企業との対比を通じて中小企業の人材育成の特徴を理解する。
第 8 回	タレントマネジメント	「タレントマネジメント」概念の概要とその背景を学ぶ
第 9 回	若年層の定着と育成	若年層の初期キャリアについて人材育成の観点から学ぶ。
第 10 回	リーダーを育てる	企業経営を牽引する人材の育成について学ぶ。
第 11 回	ライフイベントと人材育成	育児や介護等で働き方に制約のある人材の育成について学ぶ。
第 12 回	プロフェッショナル人材の育成	専門・技術職の人材育成について学ぶ。
第 13 回	学校教育と人材育成	学校教育が企業の人材育成とどのようなかかわりを持っているかを学ぶ。
第 14 回	人材育成論Ⅱの総括	後期の授業の要点をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・参考文献等を通じて、各回のテーマについて予備的な学習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

佐藤厚『組織のなかで人を育てる――企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣 2016 年

【参考書】

佐藤博樹・藤村博之・八代充史著『新しい人事労務管理第 5 版』有斐閣 2015 年、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣 2004 年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂 2011 年

【成績評価の方法と基準】

期末に定期試験を実施します。また学期中に 1 回レポート課題を出します。授業で取り上げた内容の理解度を問うのがねらいです。平常点を成績に反映することはありません。

【学生の意見等からの気づき】

初めて担当するためなし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the significance, method, problems on human resource development in companies.

MAN200MA

産業・組織心理学 I

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学は、人が働くことを通じて経験する現象について心理学的視点から明らかにしようとするものです。本授業では、講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解すること、理解を通じて働く人々や自らのキャリアをより良いものとする視点を獲得することを目的とします。

【到達目標】

本授業の到達目的は以下の2点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要概念について理解し、日常の現象についてそれらの概念を用いて説明できるようになること。
- (2) 産業・組織心理学の知見を用いて、自らのキャリアについて展望を持てるようになること。
- (3) 産業・組織心理学の視点から、職場のマネジメントの問題点とその改善策を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は原則として講義形式で行います。各回下記の授業計画に記した産業・組織心理学の主要なトピックを1つずつ取り上げて、その概要について紹介します。

全15回のうち前半は個人内面に関わる概念、個人と個人をつなぐ概念を紹介し、後半は組織と個人の関係性に関わる概念を紹介します。

各回、授業を大きくトピックに関するミニクエスチョンを提示し、教員と学生とのやり取りを通じて、概念に関する理解ならびに、働く場への概念の応用に関する理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要や進め方、ならびに履修上の注意事項について説明します。
第2回	モチベーション①	モチベーションの内容理論：何がモチベーションを高めるのか
第3回	モチベーション②	モチベーションの過程理論：
第4回	リーダーシップ①	古典的リーダーシップ理論
第5回	リーダーシップ②	今日的なリーダーシップ理論：個別的な関係性の重視
第6回	公平性	公平性の諸理論：人が「公平さ」を感じる仕組み
第7回	職場のコミュニケーション①	コミュニケーション・職場とは何か
第8回	職場のコミュニケーション②	職場のコミュニケーションがもたらす功罪
第9回	個人と組織の関係性①組織社会化	組織への適応としての組織社会化
第10回	個人と組織の関係性②組織コミットメント	個人の組織に対する関与：人が組織にとどまる理由
第11回	個人と組織の関係性③組織エンゲージメント	組織と個人双方が高めあう関係
第12回	個人と組織の関係性④心理的契約	組織と個人の間の暗黙の関係
第13回	個人差を理解する	違いをもたらす要因としてのパーソナリティ
第14回	働きがいと働きやすさ	働きがい・働きやすさを高める仕組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌記事に目を通し、働く人々にとって現在どのようなことが問題になっているかについて知識を獲得するようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

山口裕幸・金井篤子編

『よくわかる産業・組織心理学』2007年、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験 90%

各回の授業中のペーパー 10%

【学生の意見等からの気づき】

各回授業の途中に課題を出してディスカッションを行う。教員と学生とのやり取りを中心としつつも、学生同士でのやり取りをさらに充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる PPT を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

授業計画は予定となります。1-2 回外部講師による講演が入る可能性ならびに進捗状況による変更の可能性があります。

【Outline and objectives】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, that studies human behavior in the workplace, specifically focusing on managing, supporting employees and aligning employee efforts with business needs..

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

MAN200MA

産業・組織心理学Ⅱ

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を説明できるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で重視する人材マネジメントについて語れるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は原則として講義形式で進めます。講義は大きく3つのパートで構成されます。

- (1) キャリアを理解する：キャリアとは何か、組織はキャリア形成にどのように影響を与えるのかといった点について紹介します。
- (2) 能力を高める：キャリア形成において重要となる能力・スキルはどのように獲得されるのか、紹介します。
- (3) 健康に働く：働くことがもたらしうる心身への悪影響、それを予防する取り組みについて紹介します。

産業・組織心理学Ⅰ同様、各回、授業を大きくトピックに関するミニクエスチョンを提示し、教員と学生とのやり取りを通じて、概念に関する理解ならびに、働く場への概念の応用に関する理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	初期キャリアにおいて重要になる職業興味
第3回	キャリアを理解する②	発達段階から捉えるキャリア
第4回	キャリアを理解する③	内的キャリアと外的キャリア
第5回	キャリアを理解する④	キャリアの転機をマネジメントする
第6回	キャリアを理解する⑤	キャリアをサポートする仕組み
第7回	能力を高める①	仕事経験を通じた学習
第8回	能力を高める②	仕事をもたらす一皮むけた経験
第9回	能力を高める③	斜め上の関係：先輩が後輩を支援するメンタリング
第10回	能力を高める④	チームとして機能する職場の力
第11回	健康に働く①	仕事を通じたストレスを理解する
第12回	健康に働く②	企業におけるメンタルヘルスに関する取り組み
第13回	今日のトピックス①	ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
第14回	今日のトピックス②	ダイバーシティとしての女性活用の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」と、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002年 PHP 新書
守島基博 人材マネジメント入門 2004年 日経文庫

【成績評価の方法と基準】

期末試験 90%

各回の最後に提出するコメントペーパー 10%

【学生の意見等からの気づき】

前年度同様、各回授業の途中に課題を出してディスカッションを行う。教員と学生とのやり取りを中心としつつも、学生同士でのやり取りを導入する。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる PPT を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

以下の点を守れることを確認した上で、受講してください。なお、授業担当者が授業運営上不適切と判断した場合には、退出を求めることがあります。
・授業中の私語や授業と関係ない作業（携帯等を触るなど）を行わないこと
・必要以上に教室を出入りしないこと
・レポート等は期日までに提出すること

授業計画は予定です。1-2 回外部講師による講演を実施する可能性があります。

【Outline and objectives】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, especially career development, mental health and diversity management. These are very important topics to future human Resource Management.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

MAN200MA

キャリア開発論

展開科目

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。つまり、個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえます。そのために、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】

授業を通じて、ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識を習得すること、キャリア開発が企業の人事管理はもとより社会の構造と関連していることについての視点をもつこと、ビジネスキャリア開発の背景にある社会構造について理解すること、を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。

適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認します。この授業で使用する資料等は、法政大学の web サイト上にある「授業支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。授業に出席する際には、この資料をプリントアウトしていただくことが必須要件です。また、欠席した場合などは、ここで必ず資料を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する
4	経営環境とキャリア開発の変化	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	キャリア自律	キャリア自律の考え方とキャリア政策の概要
6	ダイバーシティ経営	キャリア開発の新しい動向であるダイバーシティ・マネジメント
7	正社員の多元化とキャリア	正社員の働き方の現状、多元化の動向
8	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方をめぐる問題
9	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
10	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
11	再就職者のキャリア開発	女性の再就職の現状と課題
12	ブラック企業問題	ブラック企業、ハラスメントの問題
13	非正規雇用とキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題
14	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使う資料は授業支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ずプリントアウトしていただくこと。そうしないと授業のスピードについてこれません。

【テキスト（教科書）】

教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う』（2016年、中央経済社）です。テキストに沿って授業を進めるので必ず準備してください。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、参考文献を複数紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果を重視します。さらに出席（ミニレポートの内容を含む）点を加味して評価します。場合によっては中間レポートを課すことがあります。

期末試験 80 %、平常点 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の人数にもよりますが、受講者が主体的に参加できるように討議等の時間を取りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will examine how a personal business carrier is developed in the relation with social structure and the employment system. In addition, they will understand a theoretical frame about career development and learn a viewpoint, methodology to approach the current situation of the career development. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

MAN200MA

リーダーシップ論

展開科目

佐野 達

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーダーシップに関しては、これまで多くの研究が蓄積されておりリーダーシップ・セオリー・ジャンクルとよばれている。また現代社会において組織・集団などさまざまな場面でのリーダーシップの発揮が期待されており、リーダーシップを有する人材が求められている。

本講義では、リーダーシップ研究の多様なアプローチを紹介し、リーダーシップの基本的な知識を習得してもらう。また、個人と集団の相互影響やリーダーとフォロワーの関係性について講義・演習を通じて考える。本講義を通じて今後どのように自分自身のリーダーシップを開発していくかについて考えてほしい。

【到達目標】

- ・リーダーシップ研究の基礎を理解できる。
- ・グループ・ダイナミクス研究の基礎を理解できる。
- ・リーダーシップやグループ・ダイナミクスの知識を実践する方法について考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・主に講義形式で行う。
- ・一部グループディスカッションやグループ・ワークも行う予定である。なお、演習ではワークシートを記入し提出する。
- ・受講者数等によって変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や評価方法などについて説明する
第 2 回	リーダーシップとは	あなたが考えるリーダーシップとは？ リーダーシップの定義、
第 3 回	リーダーシップ研究①特性論	特性アプローチによる研究を紹介する
第 4 回	リーダーシップ研究②行動論	行動アプローチによる研究を紹介する
第 5 回	リーダーシップ研究③条件適合理論	条件適合アプローチによる研究を紹介する
第 6 回	新たなリーダーシップ研究④	対流的アプローチによる研究を紹介する
第 7 回	新たなリーダーシップ研究⑤	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第 8 回	新たなリーダーシップ研究⑥	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第 9 回	新たなリーダーシップ研究⑦	サーバント・リーダーシップ研究を紹介する
第 10 回	メンタリング	リーダーシップとメンタリング、多様性とリーダーシップについて紹介する
第 11 回	グループダイナミクス	個人と集団の相互影響について理解する
第 12 回	演習①	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第 13 回	演習②	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第 14 回	まとめ	講義のまとめを行う。なお、この回に期末試験を実施することがある。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の理解を深めるため事前に参考書等を読んで参加すること

【テキスト（教科書）】

【新版】グロービス MBA リーダーシップ, グロービス経営大学院,(ダイヤモンド社:2014)

【参考書】

最強のリーダーシップ理論集中講義, 小野善生, (日本実業出版社)

リーダーシップ入門, 金井壽宏, (日本経済新聞社)

M.M. チェーマーズ, リーダーシップの統合理論 (北大路書房)

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験 (80 %)
- ・レポート・ワークシート等 (20 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

- ・授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁する。違反した場合退場を命ずることがある。
- ・授業内容により、講義をインタラクティブに進めることがある。皆さんの積極的な授業参加を期待する。

【Outline and objectives】

Leadership is the ability to influence a group of people towards a goal. This Leadership class, focuses on understanding seminal and contemporary leadership theories and principles, and also groupdynamics. In this class students will be aware of their own leadership capacities through worksheet, groupwork and reflection. So, active participation in your own leadership growth will be needed.

MAN200MA

経営統計論 A（心理データ） 展開科目

坂田 哲人

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 1/Wed.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、経営組織論の中でも組織心理学や組織行動論といったマイクロ組織論において用いられる統計処理について学びます。よく知られるところでは、従業員満足度調査（モラールサーベイ）や、個人の適性検査・心理テストなどの場面で用いられており、これらの調査では、従業員（個人）に対して個票を配布し、そのデータを集計処理して傾向を把握するという方法が採られます。この一連のプロセスを順を追って学びつつ、統計処理の知識、ならびに統計解析ソフト（SPSS）を用いた分析のスキルを習得します。

【到達目標】

組織調査の目的と、その設計・実施に関する知識を獲得する
個票の作成・データ収集・データセットの作成といった調査に必要な手続きができるようになる
各統計分析手法のねらいや仕組みを説明出来るようになる。
多様なデータに対して、適切な統計手法を用いた分析が行えるようになる。
分析結果を、実際の状況に照らし合わせながら正確に解釈（記述）出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、最初に組織調査とは何かについて事例を用いながら学習します。その後、組織調査のプロセスに沿ってデータ処理の技法を獲得していきます。データ処理の技法の最初は調査の設計・実施・データセットの作成にかんする手順を学びます。次に、基本統計によってデータの特徴（例：サンプル数、平均値、標準偏差）を確かめた上で、より深いデータ分析に入ります。組織調査においてよく用いられる分析手法として、質問を集約するための因子分析、回答者を分類するためのクラスター分析、そして変数間の因果関係を把握するための回帰分析が用いられており、これらを順に学んでいきます。最後に、分析結果を解釈、説明していく際に必要とする信頼性と妥当性の考え方について学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業のねらいや目的、授業の進め方等のついて共有する。また必要が生じた場合には、この回において履修者の選抜を行う。
第 2 回	組織調査入門	組織調査の目的や方法について、いくつかの例を用いながら学習する。
第 3 回	組織調査の設計・実施プロセス	実際の質問票などを用いて、どのように調査が設計・実施されるのかについて確認する
第 4 回	データマネジメント	調査データを分析に用いるための手続きについて確認する
第 5 回	因子分析（1）	組織調査や心理テストなどで用いられる因子分析についての理解を深める
第 6 回	因子分析（2）	データを用いた因子分析の具体的な手続きについて習得する
第 7 回	因子分析（3）	精度・確度を高める因子分析の方法や工夫について習得する
第 8 回	信頼性と妥当性（1）	信頼性・妥当性をキーワードに因子構成の方法について理解する
第 9 回	統計的検定（1）	t 検定や F 検定などの方法を用いて、複数の回答者集団を検定する方法を学ぶ
第 10 回	統計的検定（2）・クラスター分析	回答者を分類する方法としてのクラスター分析について学習し、クラスター間の比較を実施する
第 11 回	回帰分析	データの関連性について、因果関係をもとにモデル化して測定する方法としての回帰分析を学習する
第 12 回	重回帰分析	回帰分析の実際の操作と、複数変数を用いた因果モデルである重回帰分析について学習する
第 13 回	信頼性と妥当性（2）	得られた統計データを現実的に解釈していくために気を付けなければならないことについて学習する
第 14 回	まとめと今後の展望	本授業で学習した内容を、今後に取り組む調査や論文執筆に向けてどのように応用していくかについて検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、毎回理解度確認のためのミニレポートを課します。このレポートは授業支援システムへ提出をしていただきます。また、最終レポート課題を作成するためのプロジェクトワーク（グループ作業）を課します。この課題については、原則として授業時間外において学習活動を進めていただきます。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

小塩真司「SPSS と Amos による心理・調査データ解析 [第 2 版]」
小塩真司「研究事例で学ぶ SPSS と Amos による心理・調査データ解析 [第 2 版]」
田尾雅夫・若林直樹「組織調査ガイドブック」

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに理解度確認のためのミニレポート課題を課します。これに全体の 50 % の割合を配分します。
また、学期末にレポート課題を課します。このレポート課題はグループ作業を前提としています。これに全体の 50 % の割合を配分します。
以上の合計によって 100 点満点にて評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

本授業を円滑に進行するために授業支援システムを利用しますので、操作に慣れておいてください。

【その他の重要事項】

クラス（教室）の収容人数を超える履修希望が見込まれる場合には、初回に抽選等の方法によって選抜を行います。そのため、必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】

Through this course, students will learn introductory statistics (basic statics, correlations, anova, linear regression analysis, factor analysis and hypothesis testing(t-test)) in business fields, especially on the perspective of organizational psychology and behavior. Furthermore, Students will learn basic concepts of using statistical models to draw conclusions from survey data.

MAN200MA

企業会計論

展開科目

松本 徹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「黒字決算」、「売上」、「利益」などの用語を聞いたことがあるでしょうか。これらは、就職活動の際に企業の業績・現状を調べたり、あるいは、企業で働く際には必須の知識です。ビジネスキャリアを企業で積んでいく人たちにとっては、これらは一生付き合っていく知識です。この授業では、こうした企業会計の基礎知識を、広く学んでいきます。

【到達目標】

この授業の目標は、企業会計の全領域について、広く浅く学ぶことです。企業会計は、①財務会計（企業の成績を外部に報告すること）、②管理会計（社内で従業員の業績を測ったり、経営戦略を練ったりするために会計を用いること）、③監査（企業の不正を防ぐこと）、④税務会計（企業が法人税を支払うしくみ）および⑤財務分析（企業の成績表を分析し経営戦略に用いること）等に分けられます。これらのすべての領域を学ぶことによって、この授業が終了するときには、企業の活動がはっきりと理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

最新の事例を盛り込みながら、主に講義形式で行っていきます。会計の知識は、就職の際にも威力を発揮しますので、現実的な役立ちを意識して演習も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	会計の守備範囲	企業会計の対象について学びます。
3	損益計算書 (1)	損益計算書の表示方法について学びます。
4	損益計算書 (2)	収益、費用の測定方法について学びます。
5	貸借対照表 (1)	貸借対照表の表示方法について学びます。
6	貸借対照表 (2)	資産、負債、純資産の評価方法について学びます。
7	会計を取り巻くルール (1)	金融商品取引法、会社法および法人税について学びます。
8	会計を取り巻くルール (2)	会計基準について学びます。
9	会社で生じるコスト	原価計算の基礎を学びます。
10	経営者を助ける会計	予算管理や意思決定をはじめ、管理会計の基礎を学びます。
11	不正防止と会計	公認会計士による監査などについて学びます。
12	会社の支払う税金	法人税の計算について学びます。
13	就職活動を意識した企業分析	就職活動を意識した企業分析について学びます。
14	本講義のまとめ	本講義の学習内容について要約・整理します。なお、講義の進行状況・受講人数等を勘案し、定期試験をこの回に授業内試験として実施することがあります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本経済新聞をはじめ、企業の決算に関する記事に注目すると、企業会計に対する理解が進展します。

【テキスト（教科書）】

鈴木一道『会計学はじめての一步』中央経済社 その他、必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

黒川保美『会計学を面白く学ぶ』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

定期試験 70 % と平常点 30 %（授業内レポート等）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな会計を学習するため、項目によっては初めて聞く言葉も多いとの意見がありました。そのため、よりわかりやすく身近な事例を取り上げるよう心がけます。

【Outline and objectives】

Basic knowledge of business accounting of the sales and the benefit will be learned at this session. This tuition's purpose is to learn about the reach of the financial accounting and all of wide business accounting as well as a management accounting. It'll be also useful in case of job hunting.

MAN200MA

経営統計論 B（企業データ） 展開科目

中野 貴之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、大量の経営・企業データを、パソコンを用いて、整理、集約および分析する方法を学びます。Excel の基本操作から開始し、最終的には、統計学における基本的な検定方法および回帰分析まで学びます。使用するデータは、主に利益および売上等の経済・企業データですが、本演習で獲得できる分析方法は、分野に拘わらず、広く役立つちます。

【到達目標】

統計学の基礎知識を身に付けるとともに、統計を用いた専門的論文を読めるように指導します。高度な統計学は扱いません。あくまで統計分析の基礎を、実践で使えるようになることを目標に置きます。また、経済・経営のデータに精通できるように指導します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

情報実習室にて、演習形式にて行います。パソコンを用いた分析ですので、統計分析の楽しさを経験しながら、自然に分析手法が身についていくと思います。また、経済・経営のデータに精通できるようになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	エクセルの基本操作	企業データの処理の基礎として、エクセルの基本操作について学びます。
3	記述統計 (1)	中心的尺度（平均、中位数、最頻値）について、企業データを用いて学びます。
4	記述統計 (2)	ちらばりの尺度（レンジ、分散、標準偏差）について企業データを用いて学びます。
5	記述統計 (3)	標準化（Z 値）について学びます。企業データの大小を相対的に理解できるようになります。
6	記述統計 (4)	2 変量の相関について学びます。企業データの関連性について理解できるようになります。
7	回帰分析 (1)	単回帰について学びます。企業データを一次関数により理解できるようになります。
8	回帰分析 (2)	重回帰について学びます。企業データの決定要因を大変量により理解できるようになります。
9	回帰分析 (3)	ダミー変数、交互作用項について学びます。企業データの決定要因をより詳しく理解できるようになります。
10	回帰分析 (4)	回帰診断について学びます。企業データの回帰結果を正しく診断できるようになります。
11	回帰分析 (5)	回帰分析を用いた、研究論文を読みます。企業データを用いた論文を正確に読めるようになります。
12	各種検定 (1)	平均値、平均差の検定等について学びます。企業データが有意に異なるかどうかについて理解できるようになります。
13	各種検定 (2)	分散比の検定、カイ二乗検定等について学びます。企業データの分散や比率が異なるかどうかについて理解できるようになります。
14	各種検定 (3)	回帰係数の検定について学びます。企業データの回帰の検定について理解できるようになります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまな授業で統計データが取り扱われることが多いと思いますので、それらに関心をもちつつ本講義を受けると、一層効果が高まります。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業における発言、提出物等）を中心に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

統計学を理解できてよかったという意見が多いので、引き続き受講者に有用な授業を行っていきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行い、パソコンを用いた演習を行いながら分析手法を身につけていきます。

【その他の重要事項】

・本講義は、「キャリア研究調査法（量的調査）」の実践編という位置づけにあります。新しい上級の知識を獲得するというよりは、基礎を十分に復習し、実践を積んで実際に自分で分析できるようになることが目的です。
・統計の基礎からはじめていくので、「キャリア研究調査法（量的調査）」を履修していない人でも大丈夫です。
・なお、本講義は情報実習室で行うため、履修人数に制限があります。初回の講義には必ず出席してください。履修制限を超えた場合には抽選を行います。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will learn how to analyze corporate data using a computer. Start with the basic operation of MS - Excel, and finally learn the basic test method and regression analysis in statistics. The data used is mainly economic and corporate data such as profit and sales.

MAN200MA

経営組織論Ⅰ

展開科目

梅木 眞

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の生活は企業を中心としたさまざまな組織に支えられている。また、我々自身も組織の一員として働き、キャリアを形成している。春学期はミクロな視点＝組織の中の個人に焦点を当てて学んでいく。

【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。将来企業組織などの一員として、働く人々の生産性を高めるために必要な知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的な講義形式で進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	個人行動の基礎	企業で働く人々の価値観や態度についての理解を深める
3	個人行動	従業員のものの見方（認知システム）や学習について理解を深める
4	働く人のパーソナリティ	パーソナリティの類型化と人間の感情
5	働く人の感情	パーソナリティや感情を、職務との関連で理解する
6	動機付けの基礎	初期の動機付け理論
7	動機付け理論（1）	現代の動機付け理論/マクレランド理論他
8	動機付け理論（2）	現代の動機付け理論/職務設計理論他
9	動機付けの実践（1）	動機付けの実践/MBO（目標による管理）他
10	動機付けの実践（2）	意思決定のメカニズム：合理的意思決定と現実の意思決定
11	個人の意思決定（1）	意思決定の改善のためのツール：どうすれば生産性の高い意思決定を行うことができるか
12	個人の意思決定（2）	意思決定の改善のためのツール：どうすれば生産性の高い意思決定を行うことができるか
13	集団行動（1）	集団に関する基礎、グループ・ダイナミクス
14	集団行動（2）	集団による意思決定のメカニズム、どうすれば組織的に良い意思決定を行うことができるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。

皆さんが所属している集団や、これから就職するであろう組織をイメージしながら受講すると、理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

ステイブン P. ロビンズ（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験によって評価する。講義中に行われるミニテストなどで若干の加点を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生によってスピードが速すぎる/遅すぎるという指摘がありました。授業の際には確認を取りながら進行していきますが、皆さんの協力をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを通じて参考資料を配布しますので、指示に従ってください。

【Outline and objectives】

Our lives are supported by various organizations. We work as a member of the organization and form a career. In Spring term, we focus on individuals within the organization.

MAN200MA

経営組織論Ⅱ

展開科目

梅木 眞

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトを動かし、組織を動かし、成果を出していくためにはどうすれば良いか。機能不全に陥った組織をどうすれば良いか。秋学期は集団、組織、組織間レベルの分析に焦点を当てていきます。

【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的な講義形式で進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	チーム	チームを理解する
3	コミュニケーション（1）	コミュニケーションのメカニズム
4	コミュニケーション（2）	コミュニケーションの阻害要因と改善メカニズム
5	リーダーシップ（1）	初期のリーダーシップ理論
6	リーダーシップ（2）	現代のリーダーシップ理論
7	パワーと組織内政治	組織内で行使される力
8	コンフリクト	コンフリクトの定義・分類・活用
9	交渉	組織内外における交渉のメカニズム
10	組織構造	組織構造の基礎と組織デザイン
11	組織文化	組織文化の類型化・文化の形成と業績との関連
12	人材管理	採用・育成・業績評価
13	組織変革と組織開発（1）	組織変革の基本
14	組織変革と組織開発（2）	変革のマネジメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。自分だったらどのように考え、行動するか、常に自身に置き換えて考えながら講義に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

ステイブン P. ロビンズ（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験によって評価する。講義中に行う課題で若干の加点を行う。

【学生の意見等からの気づき】

適切なスピードでの講義を心がけていきますので、皆さんの協力をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

参考資料を授業支援システムを用いて配布場合があります。指示に従ってください。

【Outline and objectives】

In this lecture, we study how to influence people, manage organization, and achieve its goal. We focus on group, and organizational, and inter-organizational level.

MAN200MA

戦略経営論Ⅰ

展開科目

木村 琢磨

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経営学の視点を中心とし、多くの社会人のキャリアデザインの場となる企業の戦略形成や戦略の内容を分析・理解するためのフレームワークを習得することを目的とする。具体的には、企業の経営戦略がどのようなプロセスで決定され、実行されるのか、そのプロセスでどのような課題が生じるか、を分析・理解するためのフレームワークを、理論的研究・実証的研究を素材として学ぶ。

【到達目標】

経営戦略の立案に関する考え方を、主要な理論および実証研究での発見により理解し、企業経営の現状と課題を企業の経営戦略という点から分析できるようになることを目指す。戦略がどのように策定されるか、どのように会社の変革が進められるかを理解することによって、経営戦略に基づいて会社を運営していく際の、（量的および質的な）様々な情報・データの収集力と分析力、および、会社の経営課題を考えるうえでの仮説構築力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を中心とする。講義中にリアクション・ペーパーを配付・回収し、理解度の確認や受講者の見解に対するコメントをしつつ進める。教室の環境と受講人数によっては座席指定にてグループワークを実施する回を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要と学習方法・成績評価方法について
第 2 回	価格設定の基礎	利益と費用、最適価格の考え方
第 3 回	競争戦略と価格	需給と価格との関係、価値と価格との関係
第 4 回	ビジネスモデルと価格	価格設定の様々なパターン
第 5 回	事業戦略	事業戦略の理論：差別化戦略、コスト・リーダーシップ戦略、集中戦略
第 6 回	事例分析（1）	差別化戦略の事例
第 7 回	事例分析（2）	コスト・リーダーシップ戦略の事例
第 8 回	資源ベース視点	資源ベース視点による戦略の考え方
第 9 回	事例分析（3）	資源ベース視点による事例分析
第 10 回	多角化戦略	成長戦略としての多角化戦略の理論
第 11 回	事例分析（4）	多角化戦略の事例
第 12 回	SWOT分析	SWOT分析の考え方と方法、実施
第 13 回	国際戦略	企業の国際展開・国際戦略の理論
第 14 回	事例分析（5）	企業の国際展開の事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義内容の復習（各回。授業は前回までの内容を理解しているものとして進めていく）。
・新聞やニュース（テレビ、ウェブサイト）などで企業経営に関するニュースに日ごろから目を通しておく。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

授業支援システムにて参考文献一覧を配付するので参照すること

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（配点 100 %）

実施形式：記述・論述式。参照不可

評価基準：基礎的な用語の理解度を問う。また、理論的フレームワークと、実際に生じている、あるいは今後生じている事象に関する考察に基づき、企業の事業戦略・国際戦略の現状と課題を分析し、対応策の検討が行えるかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・画像・動画および一般に非公開の文字情報を含めたため、今年度より（特別に許可したものを除き）スライドの撮影を禁止する。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する諸連絡や参考資料の配付は授業支援システムにより行う。

【その他の重要事項】

・秋学期の戦略経営論Ⅱの履修を予定している者には本科目の履修を推奨する。
・オフィスアワー：火曜3限（研究室）
・講義中に使用する投影スライドは配付しない。必要に応じて各自ノートをとること（許可したものを除きスライドの撮影は禁止）。

・リアクション・ペーパーへの回答。口頭での発言を求められた場合は回答すること。

・私語や教室の出入り等による授業の妨害をしないこと。リアクション・ペーパーへの回答における不正行為（代理回答、提出直前の入室・提出後の退出などの出席に関する不正など）をした者は定期試験の採点の対象外とする。

【Outline and objectives】

This course focuses on some of the essential issues in strategic management. It will cover basic analytical approaches and some practical examples of firms. It is consciously designed with a technological and global outlook since this orientation in many ways highlights the significant emerging trends in strategic management. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic approaches that can work as guides to formulate and implement strategies on corporate, business, and functional levels.

MAN200MA

戦略経営論Ⅱ

展開科目

小山 浩一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経営学と心理学の視点を中心とし、多くの社会人のキャリアデザインの間となる企業が、戦略の形成と実行のために人的資源（人材）を活用していく際のフレームワークを習得することを目的とする。具体的には、株式会社の仕組みの理解に基づき、グローバル経済下において企業の経営戦略の実行に際して取り組むべき諸課題を分析・理解するためのフレームワークを、理論的研究・実証的研究を素材として学ぶ。

【到達目標】

経営戦略と連動し、戦略の形成と実行において生じる課題を、主要な理論および実証研究での発見により理解する。それによって、経営戦略を推進するための組織の管理のために必要となる、様々な情報・データの収集力と分析力、および、生じる課題を考えるうえでの仮説構築力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を中心とする。講義中にリアクション・ペーパーを配付・回収し、理解度の確認や受講者の見解に対するコメントをしつつ進める。教室の環境と受講人数によっては座席指定にてグループワークを実施する回を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要と学習方法・成績評価方法について
第 2 回	消費者行動① 我々はみんな消費者だ！	個人としての消費者理解に関する基礎的用語・概念
第 3 回	消費者行動② 「消費者」といってもいろいろだ！	「知覚・学習・記憶・態度・意思決定」マーケティングの基礎的用語・概念 「セグメンテーション（デモグラフィクスとサイコグラフィクス）・コミュニケーション（高関与・低関与）」
第 4 回	消費者行動③ データを見てみよう。	「家計調査」で消費者をとらえてみよう。その他統計資料をあげて調べてみよう。
第 5 回	事業戦略事例①	「差別化戦略」 STP の観点からみてみよう。
第 6 回	事業戦略事例②	考えられる企業や商品を考えてみよう。 「コストリーダーシップ戦略」 低コストはどのように実現されているだろう。
第 7 回	事業戦略事例③	「集中戦略」 考えられる企業事例を考えてみよう。
第 8 回	イノベーションと組織 企業で人はどのように働いているだろう。	イノベーションと組織 「マトリクス型組織」「プロジェクト組織」と背景としての「企業内情報システム」
第 9 回	株式会社の仕組み	株式・株式会社にに関する基礎用語、株式会社のメリット 事業のための資金調達の形態
第 10 回	企業統治と成長戦略	企業統治の仕組み 企業のステークホルダー 成長戦略としての買収戦略（買収はなにを目的としているのだろうか）
第 11 回	企業風土と企業倫理	企業不祥事と組織風土との関係
第 12 回	個人の倫理性と企業倫理	企業不祥事をもたらす個人的性質
第 13 回	国民文化と多様性	ホフステッド指数 日本人は集団主義ってほんとう？
第 14 回	多様性と企業・消費者	多様性は我々に何をもたらすだろうか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義内容の復習（各回。授業は前回までの内容を理解しているものとして進めていく）。
・新聞やニュース（テレビ、ウェブサイト）などで企業経営に関するニュースに日ごろから目を通しておく。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業支援システムにて参考文献一覧を配付するので参照すること

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（配点 100 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する諸連絡や参考資料の配付は授業支援システムにより行う。

【その他の重要事項】

・戦略経営論Ⅰを履修済であることが望ましい。
・オフィスアワー：火曜 3 限（教授室）。
・講義中に使用する投影スライドは全量を配付しない。必要に応じて各自ノートをとること（許可したものを除きスライドの撮影は禁止）。
・リアクション・ペーパーへの回答。口頭での発言を求められた場合は回答すること。
・私語や教室の出入り等による授業の妨害をしないこと。リアクション・ペーパーへの回答における不正行為（代理回答、提出直前の入室・提出後の退出などの出席に関する不正など）をした者は定期試験の採点の対象外とする。

【Outline and objectives】

This course aims to build deeper understanding of strategic management based on the knowledge provided in the previous course (Strategic Management I). This course deals with fundamental theories and practical cases of strategic management, especially in the fields of marketing and project management. It aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and state-of-the-art pragmatic approaches in strategy formulation and implementation.

MAN200MA

経営分析論Ⅰ

展開科目

中野 貴之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業は、貸借対照表および損益計算書等を公表しています。企業を理解するには、これらの会計報告書を読めることは必須です。この授業では、貸借対照表・損益計算書がどのように作られているのか、その基礎を学びます。

【到達目標】

貸借対照表、損益計算書はなぜ公表されているのか、またどのように作られているのか、さらにそれらの分析方法の基礎を習得することを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用しながら進めます。経営分析は実践的なツールでもあるので、演習に積極的に取り組むことで効果が高まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	なぜ会計を学習するのか？	会計の社会的な意義などについて学びます。
3	会計の基本原則	会計の構成概念、認識・測定等について学びます。
4	貸借対照表（資産）(1)	資産の区分、種類について学びます。
5	貸借対照表（資産）(2)	有価証券、商製品の評価について学びます。
6	貸借対照表（資産）(3)	固定資産について学びます。
7	貸借対照表（負債と純資産）(1)	負債の構成要素について学びます。
8	貸借対照表（負債と純資産）(2)	資本の構成要素について学びます。
9	損益計算書 (1)	損益計算書の様式について学びます。
10	損益計算書 (2)	損益計算書の区分について学びます。
11	財務諸表を活用する (1)	財務諸表の入手方法、分析方法の総論について学びます。
12	財務諸表を活用する (2)	効率性、安全性、成長性分析について学びます。
13	連結財務諸表	連結財務諸表の考え方と作成方法について学びます。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・復習をこまめに行うことが知識の定着に有効です。

【テキスト（教科書）】
成川正晃編著『ビジネスセンスが身につく会計学』中央経済社

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験と平常点（提出物）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

抽象度の高い概念について、具体的な事例を用いた説明をすることを心がけます。

【その他の重要事項】

・「企業会計論」を学ぶと、本講義の内容を一層よく理解できます。
・本講義は、経営分析Ⅱの基礎となります。会計学は専門性が高いですが、一度身に着けると、ずっと使うことができるやりがいのある勉強です。積み重ねが重要ですので、遅刻・欠席をしないように心掛けてください。私語を慎むべきことは、言うまでもありません。

【Outline and objectives】

Listed Companies publish financial statements. It is essential to be able to read these financial statements in order to understand companies. In this lesson, you will learn the basics of how the balance sheet and the income statement are made.

MAN200MA

経営分析論Ⅱ

展開科目

中野 貴之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、「経営分析論Ⅰ」の続きです。具体的な企業分析の手法の習得、また、現実的な場面への適用が主な内容です。

【到達目標】

経営分析論Ⅰの続きですが、本講義は経営分析を独力で行うことができるようになることが目標です。それには練習が必要です。したがって、経営分析論Ⅰに比べ作業量が多く、大変ですが、よりやりがいもあります。経営分析は、ビジネスパーソンにとって必須ですので、この授業にまじめに取り組めば大学卒業後もずっと使うことができる有用な知識を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、実際の財務諸表の分析を行いながら、具体的な分析手法を身に付けていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	収益性の分析 (1)	収益性の概念を習得します。
3	収益性の分析 (2)	総合的収益性の分析について学びます。
4	収益性の分析 (3)	投下資本別分析、セグメント分析について学びます。
5	収益性の分析 (4)	効率性の分析について学びます。
6	生産性の分析 (1)	付加価値の概念について学びます。
7	生産性の分析 (2)	労働生産性の分析、付加価値の分配について学びます。
8	安全性の分析 (1)	リスクの概念、貸借対照表に基づく古典的指標について学びます。
9	安全性の分析 (2)	フロー数値に基づく指標、キャッシュ・フロー計算書の分析について学びます。
10	不確実性によるリスクの分析 (1)	損益分岐点分析について学びます。
11	不確実性によるリスクの分析 (2)	費用収益の構造式の導出について学びます。
12	不確実性によるリスクの分析 (3)	財務レバレッジに起因するリスクについて学びます。
13	経営分析の演習	授業で習得した手法を用いて、特定の業種の企業の分析を行います。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業外で経営分析を行うことが習得の早道です。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験と平常点（提出物）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習に積極的に取り組むように、レポートのフィードバックを積極的に行うようにします。

【その他の重要事項】

・「企業会計論」を学ぶと、本講義の内容を一層よく理解できます。同科目を履修済でない場合には、同時履修することを勧めます。
・経営分析の方法は、米国を中心に体系的に発展してきているため、専門性が高く、難しいと感じるかもしれません。その理解には、積み重ねが重要ですので、遅刻・欠席をしないように心掛けてください。私語を慎むべきことは、言うまでもありません。

【Outline and objectives】

This lecture aims at mastering method of business analysis.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅰ 【2014 年度以降入学者用】

展開科目

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅰ 【2013 年度以前入学者用】

展開科目

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目指している。新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】

- ①新規事業の創出に必要なイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

前期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。

ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義では皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報も提供する。後半は新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義	日本における大企業の動向と、シリコンバレーを中心とした企業・起業家の状況
第 3 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ1
第 4 回	ワークショップ1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第 5 回	ワークショップ1	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 7 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ2
第 8 回	ワークショップ2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	ワークショップ2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 11 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ3
第 12 回	ワークショップ3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	ワークショップ3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 Newsなどを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定する際に、フィールドワーク、ディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ 発表・レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

グループワークや、プレゼンテーションのために PC を利用する。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to train entrepreneurship. Understand the qualities required of entrepreneurs through the case of new business creation. Entrepreneurship is necessary regardless of whether you work in a big company or start a business. Learn what entrepreneurship is, how to create a new business, and cultivate a mind set by actually working on groups.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅱ 展開科目
【2014 年度以降入学者用】

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅱ 展開科目
【2013 年度以前入学者用】

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目的として、実践的な授業を行う。アントレプレナーとして求められる資質を体得し、新規事業創出・ベンチャー経営に必要な行動的スキル・認知的スキルを実践的なグループワークを通じて高める。

具体的には新規事業を生み出すフレームワークを理解し、グループでビジネスモデル構築と事業計画作成の策定、プレゼンテーションを行うことを通じて、アントレプレナーに必要なスキルを習得する。

【到達目標】

- ①新規事業立案のための方法論・スキルについて、実践を通じて習得する。
- ②事業がどのように創造されていくのか、そのプロセスを体感することができる。
- ③自分の言葉で見解を述べ、グループメンバーを巻き込み協働できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ゲストスピーカーの講演、講義、グループワークにより構成される。ゲストスピーカーには企業の新規事業担当者や様々なビジネスモデルで起業をした社会人を招く。皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、新しいビジネスモデル構築のためのアイデア、業界トレンド、考え方についての情報も提供する。同時に、実際にビジネスプランを検討しながら実践的なスキルを高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ1
第 4 回	ワークショップ1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第 5 回	ワークショップ1	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 7 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ2
第 8 回	ワークショップ2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	ワークショップ2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・考えを発表する
第 11 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ3
第 12 回	ワークショップ3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	ワークショップ3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・企画を発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

グループワークや、プレゼンテーションのために PC を利用する。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to train entrepreneurship. Mainly focused on practical workshops. Through that workshops, we will raise new business creation and behavioral skills and cognitive skills necessary for venture management.

Learn the framework to create new business, business model and business plan in group. Through presentation, you will acquire the skills necessary for business creation.

MAN200MA

職業キャリア論

展開科目

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業に関連する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解を深めます。さらに、個別のケースや職業を取り上げて、今後の職業キャリアについて考えます。

【到達目標】

以下を到達目標とします。

- ①「職業」に関する基礎的な知識や考え方を理解すること
- ②「職業」と社会・労働市場・企業・個人との関係を理解すること
- ③個別のケースや「職業」に関する検討を通じて、今後の職業キャリアに向けての気づきや示唆を得ること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は全体としては講義を中心に進めますが、原則として毎回、グループワークもしくは意見表明の時間を設けます。ゲストの招聘も予定しており、招聘の回については感想を書いて頂きます（内容は後ほどゲストにも共有します）。受講の状況、ゲストのスケジュールに応じて、授業計画の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①授業のオリエンテーション ②職業についてのイントロダクション
第 2 回	社会環境変化と職業	①社会環境の変化のもとでの職業の変遷 ②職業興味と新しい職業について考える
第 3 回	職業と人材のマッチング	①求人と求職の現状 ②官民によるマッチングの種類と役割について考える
第 4 回	日本の雇用システムのもとでの職業キャリア	①求人・求職の経路の一つとしての就職活動 ②日本の雇用システムのもとでの職業キャリアについて考える
第 5 回	職業倫理	①職業観、職業倫理 ②職業倫理を脅かす諸要素について考える
第 6 回	ジェンダーと職業	①職業選択におけるジェンダーの影響 ②女性の職業キャリアについて考える
第 7 回	職業人の講話	ゲストスピーカー（職業人）の講話と意見交換
第 8 回	職業資格・職業能力評価	①職業資格・職業能力評価の構造と種類 ②職業資格・職業能力評価の現状と課題について考える
第 9 回	事業・組織と職業	①事業・組織のなかでの職業の種類 ②事業・組織と職業のつながりについて考える
第 10 回	経営に関わる仕事～コンサルタント	コンサルタントの仕事
第 11 回	人のマネジメントを支える仕事～人事	人事の仕事
第 12 回	ものを売る仕事～営業職	営業職の仕事と待遇
第 13 回	公共的な仕事～公務員	公務員の仕事と待遇
第 14 回	授業の振り返り	これまでの授業の補足とポイントの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

情報収集やグループワークの残りを授業時間外に行っていただく場合があります。

授業内容から期末試験の問題が出されますので、授業内容の復習をしてください。また、授業中に紹介した参考文献等で、興味が持ったものを是非読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業の資料は授業支援システムに事前にアップしますので、必ず当日お持ちください（もしくはご自身で閲覧できるようにしてください）。それ以外に参考資料がある場合は、適宜授業で配布します。

【参考書】

阿部正浩・菅万理・勇上和史『職業の経済学』（中央経済社、2017 年）。
八幡成美『職業とキャリア』（法政大学出版局、2009 年）。
上記以外については、授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を、定期試験の期間中に実施し、試験結果によって成績評価を行います。ただし、授業への貢献度（単なる出欠ではなく、授業中の意見表明等）を成績評価に加味する場合があります。授業態度が悪い場合は、貢献度の評価がマイナス点になることもありますので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

職業の内容が体系的に理解できるように、授業の構成を検討したいと思います。また、レジュメにメモを書き込めるよう、レイアウトを工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、パソコン等の情報機器。

授業支援システムに事前に資料をアップしますので、授業当日に必ずお持ちください（もしくはご自身で閲覧できるようにしてください）。

【その他の重要事項】

私語、食べ物の持ち込みは厳禁。途中で退出しなければならない場合は必ず許可を得てください。

ルールを守らない場合はもちろんのこと、授業の進行の妨げになると判断した場合には、退席してもらいます（必要に応じて名前を確認します）。レポートなどで代筆が判明した場合には、代筆をしてもらった学生、代筆をした学生、ともにD評価とします。民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【Outline and objectives】

The present course aims to provide knowledge about jobs to students by introducing them to the relationship between jobs, society, labor markets, companies, and individual persons.

< Course Objectives >

1. Obtain fundamental knowledge about jobs
2. Understand the relationship between jobs, society, labor markets, companies, and individuals
3. Consider one's carrier through a case study

ECN200MA

労働経済学

展開科目

佐藤 一磨

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分を取り巻く社会環境、特に労働市場の状況を理解することは、キャリアを形成する上で非常に重要となります。そこで、この講義では労働経済に関する標準的なテキストを利用しながら、現在の日本の労働市場の状況を理論と現実の双方から学んでいきます。なお、授業の中ではキャリア形成を研究するうえで有効な統計データの内容や扱い方についても学習し、理解を深めていきます。

【到達目標】

労働経済に関する基礎的な理論を理解できるようになることを目標とします。また、労働市場に関する代表的なデータの内容やその利用方法を理解し、今後のキャリア形成を行っていく上でそれらの情報を応用できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、テキストを使用し、毎回一つのトピックに関する理論とデータを紹介します。経済学理論とデータ分析の理解をしてもらいます。なお、授業中に理解度を確認するためにも毎回小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	履修内容について全体解説。経済学を学ぶ意味について説明。
第 2 回	働く者を取り巻く環境の変化	近年の労働市場の変化をさまざまな側面から説明。
第 3 回	労働サービスの特性	他の財とは異なる労働の特徴について説明。
第 4 回	労働供給①	所得・余暇平面、無差別曲線、所得制約線を説明。
第 5 回	労働供給②	理論モデルを用い、労働者の就業の意思決定を説明。
第 6 回	労働需要①	資本・労働平面、等量曲線、等費用線を説明。
第 7 回	労働需要②	企業の最適労働需要モデルを説明。
第 8 回	失業	失業の種類、実際に動向、失業の経験法則について説明。
第 9 回	雇用調整	雇用調整係数について説明。
第 10 回	労働市場における情報の役割	情報探索コストが労働市場に及ぼす影響や雇用主が労働者を監視する上で発生するコストについて説明。
第 11 回	経済の構造変化と雇用制度	人口構造・競争構造・意識の変化について説明。
第 12 回	賃金と労働時間の経済分析	日本の賃金と労働時間がどのように変化してきたのかを理論とデータの側面から説明。
第 13 回	女性労働力	結婚・出産前後の女性就業の変化を中心にその実態を説明。
第 14 回	高齢者雇用の経済分析	高齢者雇用の実態とその直面する課題を説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備は特に要りませんが、授業後にテキストを読み直してください。

【テキスト（教科書）】

清家篤『労働経済』（東洋経済新報社）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（40%）と学期末のテスト（60%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

It is very important to understand the social conditions surrounding us and the labor market in building our careers. The purpose of this lecture is to understand the current Japanese labor market from both theory and reality by using standard text in this field. In the lecture, although the economic models are used, it assumes mathematics at junior high school level. In addition, we learn contents of statistical data which is related with career development and methods to use it.

MAN200MA

シチズンシップ論

展開科目

濱口 博史

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自立・自律した個人からなるコミュニティのあり方、市民によるコミュニティの運営の重要性和その方法について学ぶ。

【到達目標】

市民、市民社会、シチズンシップについての基礎的知識をもつことができる。個人の社会における権利・義務や法原則についての基礎的知識をもつことができる。

市民によるコミュニティの運営の重要性を認識することができる。地方自治の仕組みと運営について基礎的な知識をもつことができる。コミュニティ内で活動する共益又は公益を目的とする組織・法人（NPO 法人、一般法人、公益法人など）の仕組みや運営についての基礎的な知識をもつことができる。

企業（社会的企業を含む。）の公益にかかわる活動について基礎となるイメージをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業前半を基礎知識についての講義とし、授業後半を演習及びその回のまとめとする。演習は、具体的な事例に沿って、事例における問題点、視点、留意点及び解決方法などについて検討を求め、教員との短い応答、学生同士のディスカッション、グループワークを行う内容である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	個人と市民について（1）	市民社会とは何か、市民とは何か、市民社会のありかた、個人の尊厳、幸福の追求、シチズンシップ、SDGs についての基礎知識を学ぶ。
第 2 回	個人と市民について（2）	自己決定権、子どもの人権、両性の平等、立憲民主主義について具体的な事例を検討する。
第 3 回	個人と市民について（3）	第2回の続き
第 4 回	個人、家族とコミュニティについて（1）	ボランティア、法意識、社会福祉の法、インクルージョン、ダイバーシティ、共生、互助・共助・公助についての基礎知識を学ぶ。
第 5 回	個人、家族とコミュニティについて（2）	町内会、マンション管理組合、地縁団体などの仕組みと運営方法についての基礎知識、これらにかかわるときの視点、留意点について具体的事例を通して学ぶ。
第 6 回	個人・市民と民間組織について	ボランティア組織、NPO 法人、一般法人、公益法人などの仕組みと運営方法についての基礎知識、これらにかかわるときの視点、留意点を具体的事例を通して学ぶ。
第 7 回	個人・市民、コミュニティと民間組織、地方公共団体について	地方自治の本旨、住民自治と団体自治、地方公共団体の仕組みと運営、公民連携、PFI、指定管理者などについての基礎知識、地方公共団体とかかわるときの視点、留意点を具体的事例を通して学ぶ。
第 8 回	民間組織を通じた市民の活動について（1）	民間非営利組織の活動、ガバナンス、寄付・社会的責任投資・休眠預金の活用等の資源調達・資金循環、コレクティブ・インパクト、ソーシャルイノベーションなどの基礎知識、これらにかかわるときの視点、留意点について具体的事例を通して学ぶ。
第 9 回	民間組織を通じた市民の活動について（2）	企業の非財務活動、CSR、ESG、CSV、社会的企業、ガバナンスコード、ステュワードシップコードなどについての基礎知識を具体的事例を通して学ぶ。
第 10 回	具体的テーマ（1）	まちづくり・地域の発展に関する原理原則、法的問題点、視点、留意点、市民としての姿勢などを事例を通して学ぶ。
第 11 回	具体的テーマ（2）	第10回の続き

第 12 回 具体的テーマ（3）

子どもの貧困問題のコミュニティレベルでの課題解決について、原理原則、法的問題点、視点、留意点、市民としての姿勢などを事例を通じて学ぶ。
第12回の続き及びこれまでの講義の振り返り（個人・市民としてコミュニティにかかわるときの原理原則、視点、留意点、市民としての姿勢について学ぶ。）

第 13 回 具体的テーマ（4）

第 14 回 試験・まとめ

第1回から第13回までの授業授業内容の理解度をはかる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布される資料を次回までに読み、授業後半に行う演習に参加できるようにする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

名和田是彦著「コミュニティの法理論」（創文社・1998年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での学習状況及び演習への参加度）40%、授業内試験60%

【学生の意見等からの気づき】

抽象的な命題を、理解しやすいように具体的な事案に基づいて説明をし、かつ、理解を共通にするため、双方向の議論を大切にする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム等を利用することがある。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は選抜をする。

【Outline and objectives】

This course introduces the review of the status of the community formed by independent and autonomous individuals and the importance and methods of the self-governance of communities.

MAN200MA

生産システム論

展開科目

小林 哲也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済において大きな影響力を持っている製造業は、これまで圧倒的な競争力を保持してきました。しかし、現在では、その競争優位を失いつつある分野も存在します。日本製造業の競争優位の源泉の1つは独特の生産システムにあるといわれてきました。そこで、本稿では、製造業とは何か、日本製造業においてどのようにして競争優位を確立してきたのかを紹介することで、日本経済にとってなぜ製造業が重要であるのかを理解することを目的とします。さらに、競争優位の源泉の1つもとなっている生産システムがどのように発展してきたのかを学ぶことで製造業の置かれているポジションを理解することを目的とします。

【到達目標】

製造業の基本的な概念と具体的な事例を通じて、製造業が経済において果たしている役割を理解します。また、生産システム全体を見ることで、製造業が国の経済にどのような影響を果たしてきたのかを理解します。一方で、現在、日本経済・社会が直面しているさまざまな事象と製造業との関係を具体的に解説しながら、日本経済が直面している課題に製造業がどのように対応してきたのかを例示します。これらの内容を理解することによって、日本経済や産業への理解を深めることで、これからのキャリアやキャリアプランを考えるに際して、自ら得た知識を用いて問題を解決できるようにすることが、本講の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義によって進めます。具体的には、いくつかの製造業を取り上げ、その歴史や現状、課題等を解説します。また、グローバル経済における日本製造業の歴史的推移やそのポジション等を解説します。また、分業の基本的な概念を理解したうえで、生産システムの歴史的な発展経緯を解説します。以上の講義を通じて、製造業の概要と生産システムの役割等を理解してもらいます。なお、授業時にはリアクションペーパーを利用して、皆さんの授業への参加の状況をはかる物差しとして利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義全体の解説と授業の進め方、評価の方法などを解説します。さらに製造業の置かれている状況の概要を解説し、現在の産業が置かれている状況を理解できるようにします。
第2回	日本産業の変遷	日本の産業構造の変遷を歴史的視点を通じて振り返り、その中で、産業の役割がどのように変化してきたのかを理解できるようにします。
第3回	鉄鋼業	具体的な産業として素材型産業の代表例であり、基盤産業の1つでもある鉄鋼業を取り上げ、産業化を進めるにあたり、鉄鋼業がなぜ重要なのかを理解できるようにします。
第4回	金型産業	大量生産を確立する際に必ず必要になる金型産業を取り上げ、加工組立型産業の基盤としての金型産業の役割やその重要性を理解できるようにします。
第5回	自動車産業	世界のカー・インダストリーである自動車産業を取り上げ、現状と競争優位の背景を理解できるようにします。
第6回	分業と大量生産	現在の大量消費社会の基本となる分業について、大量生産の基本的な概念としての分業の持つ意味を理解できるようにします。
第7回	フォード生産方式	現在の大量生産の基本的なシステムとなったフォード生産方式を通じて、機械工業と大量生産が導入された背景と経済に与えた意味を理解できるようにします。
第8回	大量生産方式の発展	GMの経営手法による競争優位の確立を通じて、競争環境の変化とその対応を理解できるようにします。

第9回	日本的なシステム	日本自動車産業を例に、「日本的な経営・生産システム」の特徴と競争優位をいかにして確立したのかを理解できるようにします。
第10回	製造業のグローバル展開と生産システムの移管	産業のグローバル展開に伴う、日本的な生産システムの海外移転の状況やその際の課題などを考えられるようにします。
第11回	グローバル競争環境の変化	グローバル経済の拡大によって変化した競争環境が、日本の製造業にどのような影響を与えたのかを理解できるようにします。
第12回	情報通信産業が製造業に与えた影響	IT革命以降、急速に進展してきた情報通信産業の発展が、製造業にどのような影響を与えたのかを理解できるようにします。
第13回	製造業の労働・人材育成の現状と課題	日本経済の景気低迷が続く中で、深刻化する少子高齢化の進展と労働の問題を製造業の観点から理解できるようにします。
第14回	まとめ－競争環境の変化が日本製造業に与えた課題とその対応	競争環境の変化によって、日本製造業の競争優位の源泉に与えた影響を背景と課題から分析し考えることができるようにします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスに沿って、角界の授業に関して新聞や雑誌等を通じて、情報を集め事前に学習しておいてください。また、参考文献に目を通しておいてください。配布資料は事前に授業支援システムを通じて配布しますので、必ず読んでおいてください。

授業後には必ず内容をふりかえり、疑問点を抽出しておいてください。疑問点は必ず担当講師に確認してください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません

【参考書】

必要に応じて授業時に具体的に指示しますが、さしあたり三菱総合研究所『日本産業読本』東洋経済新報社
経済産業省『製造基盤白書（ものづくり白書）』
通商産業省『通商白書』
大野耐一『トヨタ生産方式』ダイヤモンド社
ヘンリー・フォード『藁のハンドル』中公文庫
アルフレッド・スローン『GMとともに』ダイヤモンド社
フレデリック・F・テイラー『科学的管理法』ダイヤモンド社
安部哲夫ほか『アメリカに生きる日本の生産システム』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーによる授業への参加の状況（30％）、期末レポート（70％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

経済に関わる分野が多い授業ですが、これまで経済学の基本的な枠組みを学んでいない学生の皆さんにも理解できるように、経済学の基本的な考え方を具体的な事例等を踏まえて授業内でも説明するように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムをつかって資料を配布し、連絡も行いますので、授業開始前までに利用方法を確認し登録を済ませてください。

【Outline and objectives】

In this class, students will learn about the development of production system and Japanese manufacturing industry.
The aim of this class is to understand why the manufacturing industry is a key industry for Japanese economy.

MAN200MA

国際経営論

展開科目

森 直子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ダイナミックにグローバル展開されるビジネスとその背景とはどのようなものかの基礎知識を学びます。また、個々の経営手法を覚えることに終始せず、国際的な企業経営の理解を出発点として現代社会そのものを広い視野で捉える訓練をします。

【到達目標】

企業活動のグローバル化の基本的な歴史や現状、捉え方を理解するとともに、国際ビジネスを形成する多様で複雑な要素、背景を知ること、国際人としての視野・視点を獲得してもらうことをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

決まったテキストを使わず、毎回の授業で教材を配布し、その回のテーマについて、事例をなるべく多く使った講義をします。そのうち1回は国際人材についての特別講義をおこなう予定です。この回で、グループディスカッションをしたいと思います。基本的に、毎回の授業の出席を重視します。また、月に1～2回、短い授業のまとめの提出を課します。さらに学期末レポートを課す予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論を学ぶということーグローバル社会に生きるために	授業の概要説明
第2回	国際経営論の基礎知識	多国籍企業論から始まった国際経営論を学ぶ
第3回	企業活動の国際化の歴史	貿易と海外直接投資、製造業からサービス産業の国際展開へ、IT化社会以降のグローバルな企業活動
第4回	生産システムの国際展開	プロダクトサイクル理論、生産クラスター、国際分業
第5回	国際マーケティング	競争優位の考え方、市場のグローバル化と現地市場への適応化
第6回	国際人的資源管理	グローバル展開する組織構造、人材・制度の多様性・異文化経営
第7回	国際M&A	「時間を買う」国際戦略提携、国際的な企業買収の動向と課題
第8回	研究開発と国際経営	R&Dと立地問題、国際標準化戦略、知的財産権の国際管理
第9回	日本企業による国際経営の展開	世界のなかでの日本企業、日本的経営・生産システムの海外移転、グローバルネットワークと中小企業
第10回	ベンチャーと国際ビジネス	情報ネットワーク時代の「最初から世界を狙う」起業
第11回	国際協力と国際ビジネス	ODA事業と国際ビジネスの関係、BOPビジネス、ソーシャルビジネス
第12回	アジアと国際ビジネス	新興国における国際ビジネスの変遷、地域経済統合の影響
第13回	「国際人」とは何か	“使える”人材に留まらない、真に国際社会で活躍する人になる
第14回	激動の時代のグローバルビジネスを考える	視野を広げるためのさらなるヒント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献について図書館等で読む。新聞等で国際ビジネスのニュースに目を通し、企業活動のグローバル化に関する知識を高める。可能であれば、関連の学術論文にも目を通す。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にないが、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

大石芳裕（2017）『実践的グローバル・マーケティング』シリーズ・ケースで読み解く経営学 2、ミネルバ書房
吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和編（2013）『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣
江夏健一・桑名義晴編著、IBI 国際ビジネス研究センター著（2012）『理論とケースで学ぶ国際ビジネス 3 訂版』同文館出版

【成績評価の方法と基準】

（1）授業への積極的な貢献 60 %

（2）学期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、事例を挙げて講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

事前に経済学や経営学の知識がない学生でも履行できるような内容です。しかし、授業で得た情報を元に、自分で知識を深める努力が必要です。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the background of global business unfolding all over the world. In the rapidly and dynamically transforming world business environment, companies constantly keep selecting optimal solutions for their management methods. To understand such trends and situations, students need to acquire abilities to grasp the current state of the market and society. Therefore, instead of memorizing individual business management methods for global business, students are expected to reinforce their ability to perceive the contemporary business world from a broad perspective with the understanding of international corporate management as a starting point. Students are also expected to obtain important viewpoint as the internationally-minded person with learning basic history and present conditions of the globalization and complicated factors forming an international business.

ECN200MA

日本経済論

展開科目

中村 宗悦

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代に生きる私たちにとって経済問題をどのように考えるかは非常に重要なテーマであるが、日々の経済現象は非常に複雑でわかりにくい。本講義ではそのわかりにくい経済現象を歴史という視点からできるだけ解きほぐしていきたい。経済現象は人間の営みそのものであるがゆえに、それぞれに歴史的な背景が存在している。歴史的な背景を理解することで私たちが直面する現代の経済問題にアプローチする手掛かりをできるだけ得られるようにしていく。

【到達目標】

現代の日本社会が直面する種々の問題を理解できるようになる。

- 1) 現代史の中にそれらの諸問題を的確に位置付けられる。
- 2) 現代に特有な問題が何かを明確に説明できる。
- 3) 諸問題解決に向けての自分の考えを論理的にまとめられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に Keynote を用いた講義形式で進める。事前（1週間前めど）にスライド形式のレジュメをアップしておくので、予習やノートテイキング等に活用して欲しい。また毎回リアクションペーパーを提出してもらう。講義についての質問は授業支援システム内の掲示板を用いておこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と全体の講義概要について説明をおこなう。
第 2 回	戦前期日本のキャッチアップ過程	自立的資本主義を目指した日本が国際的資本主義の中に入っていく過程を辿る。
第 3 回	危機への対応とその挫折	1920 年代のデフレ不況に関してそれへの対応と結果について考察する。
第 4 回	戦時期の日本経済	戦時期の統制経済のあり方について諸外国との比較を踏まえて概観する。
第 5 回	戦後復興と冷戦体制	戦後世界を規定した米ソ両大国の冷戦体制。その中で日本経済はどのように復興していったのかをみる。
第 6 回	高度経済成長の時代①	日本の高度経済成長の要因を供給サイドから考える。また後発国のモデル足りうるかも考察していく。
第 7 回	高度経済成長の時代②	高度成長はなぜ終わったのか。高度成長がその後の日本にもたらした遺産について考える。
第 8 回	中間まとめ	第 7 回までの講義を振り返り、中間テストをおこなう。
第 9 回	グローバル化の進展と日米経済摩擦	国際通貨システムの歴史転換を事例に、日本経済と国際経済の関係性を展望する。
第 10 回	バブルの発生と崩壊	1980 年代から 90 年代にかけての日本経済について論じる。バブル経済の崩壊がなぜその後の長期停滞をもたらしたのか。日本の「失われた 20 年」の要因を探る。
第 11 回	不良債権問題と金融危機	構造改革路線と経済成長路線がせめぎ合う中で、どのような政策が適切なのかについて考える。
第 12 回	「失われた 10 年」の諸相	テキストの第 10 章を読み、グループディスカッションをおこない、まとめる。
第 13 回	デフレ下での構造改革からアベノミクスまで	2008 年の世界的な経済危機への対応に出遅れた日本は、その後どのように復活するのか。現状を踏まえて概説する。
第 14 回	総まとめ：直面する課題と歴史的教訓	日本経済が直面する諸課題に歴史的教訓はどう活かされるべきか。本講義を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前によく読み、講義に臨むことが重要である。毎回の講義内容で不明確な点は授業支援システム上に質問のスレッドを立てること。またリアクションペーパーの提出は毎回必須である。

【テキスト（教科書）】

中村宗悦『テキスト現代日本経済史』（学文社、2018 年、2900 円+税）

【参考書】

岩田規久男編『昭和恐慌の研究』（東洋経済新報社、2004 年）

中村宗悦『経済失政はなぜ繰り返すのか』（東洋経済新報社、2005 年）

中村宗悦『『週刊ダイヤモンド』で読む日本経済 100 年』（ダイヤモンド社、2014 年、kindle 版ほか）

八代尚宏『日本経済論・入門』（有斐閣、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験：日本経済の現状について歴史的な観点から正確に叙述できるかどうか、日本経済が直面する問題について正しく理解できているかどうかなどについて筆記試験をおこなう（60 %）。

中間試験：講義内容前半の理解度をチェックする。（20 %）

平常点：毎回の授業に積極的に参加したかどうかについてリアクションペーパーの提出などで評価する（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】

やや授業の進め方が速いとの指摘を踏まえて適切なテンポで授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や質問への返答などに授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

For us living in modern times, how to think about economic problems is a very important theme, but the daily economic phenomenon is very complicated and difficult to understand. In this lecture I would like to unravel its difficult economic phenomena as much as possible from the perspective of history. Because economic phenomena are human activities themselves, historical backgrounds exist in each. I would like to get as much clues as possible to approach the modern economic problems that we face by understanding the historical background.

ECN200MA

産業論

展開科目

青木 成樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：土 2/Sat.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学を卒業し、働くことには大きく 2 つの意味があると思います。一つは、労働力を供給し、その対価としての賃金・給与を得て、生活の手段とすることです。もう一つは、自分の労働が企業などの活動を通して社会に新たな価値を創出することです。働くことは、個人にとって、企業にとって、そして社会にとって意味のあることです。

本授業では、皆さんの労働が新たな価値を生み出す土俵である日本の産業について、①産業構造の全体像と変化、②主要産業の特徴・変化や③主要企業の特徴等、多様な観点から学びます。

【到達目標】

本授業を通して、以下の 5 点について理解を高めることを目標とする。

- ①我が国の産業構造に大きな影響を与える要因が理解できる
- ②我が国の産業構造の変化について定量的に理解できる
- ③「主要産業」について産業全体の動向と主要企業の動向というマクロとミクロの視点からの理解ができる
- ④我が国産業におけるモノづくり（製造業）とサービスの相互依存性に関する理解ができる
- ⑤イノベーションの意味と意義の理解ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

産業論は、マクロ経済（一国の経済動向）とミクロ経済（企業や消費者の経済行動）の中間に位置する学問領域である。授業については、毎回のテーマに沿って、パワーポイント資料で説明する。全 14 回の講義内容は大きく 4 つに分けて行う。最初の 2 回（第 1 回～第 2 回）では、戦後の我が国産業構造の変遷や今後の産業構造に影響を与えるソーシャルトレンドについて学ぶ。次の 3 回（第 3 回～第 5 回）では、パソコンを利用し、世界的な分析ツールである「産業連関表」を用いて日本及び地域の産業構造を定量的に把握・分析する。次の 6 回（第 6 回～第 11 回）では、我が国の主要な産業分野について、当該分野の動向や主要企業の動向について学ぶ。次の 2 回（第 12 回～第 13 回）は、イノベーションについて学び、最後（第 14 回）に全体のまとめを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、我が国の産業構造の特徴	我が国の産業の見方について学ぶ。また、戦後の我が国の産業の変化について概観し、同時に最近の変化や国の Society5.0 について学ぶ。
2	少子高齢化とグローバル化	我が国の産業に影響を与える諸要因のうち、少子高齢化、グローバル化を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
3	産業連関分析の概要	産業についての国際的な分析ツールである産業連関表（Input-Output Tables）について学ぶ。
4	産業連関表から見た我が国及び地域の産業構造	平成 27 年に公表された「平成 23 年産業連関表」を用いて、我が国及び地域経済の産業構造の特徴を定量的に学ぶ。
5	経済波及効果分析	経済波及効果の意味を把握し、産業連関表を用いて、観光客の誘致、イベントの開催、工場等の誘致が地域経済に与える経済波及効果について具体的に学ぶ。
6	主要産業の動向（農業）	グローバル化の進展の中で、再び脚光を浴びている農業について、戦後の推移と最近の動向（農業の 6 次産業化、等）について学ぶ。
7	主要産業の動向（自動車産業）	戦後のリーディング産業である自動車製造業について、国際事業展開の動向、環境問題への取組、EV 化の動きや競争力向上に向けた取り組み等を学ぶ。
8	主要産業の動向（電気機械産業）	自動車産業とともに戦後の我が国産業社会をけん引してきた電器産業について、20 世紀末からの低迷と最近の復活の動向について学ぶ。

9	主要産業の動向（商業）	生活に密着した産業として商業、とりわけコンビニ業界の成長・発展について学ぶ。
10	主要産業の動向（情報関連産業）	我が国の 20 世紀から 21 世紀にかけての成長産業である情報関連（IT）産業の動向、とりわけ、成長産業として発展した要因について学ぶ。
11	主要産業の動向（健康関連産業）	今後期待される成長産業として健康関連産業の動向について学ぶ。健康関連産業は、医薬品、介護、医療サービス等多様であるが、今年度は医療機器産業を中心に学ぶ。
12	イノベーション	研究開発の成果やノウハウを製品化・商品化し、社会的課題の解決や生活の利便性を向上するという意味でのイノベーションの考え方や類型、具体的な事例について学ぶ。
13	中小企業、ベンチャー企業	イノベーションの推進の主体として、大手企業に加え特徴ある中小企業群やベンチャー企業について具体的事例について学ぶ。
14	まとめ	我が国の産業の特徴について、マクロとミクロの観点から振り返り、重要なポイントを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を効果的に学ぶためには、以下の 2 つについて、事前に学んでいることが望まれる。

- ①経済学の基礎（ミクロ経済学とマクロ経済学の概要）
- ②Excel の基本操作（第 3 回～第 5 回で学ぶ産業連関分析を理解するため）

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメ（PPT）を配布致します。

【参考書】

以下、順不同（五十音順）

- ①伊神満『「イノベータのジレンマ」の経済学的解明』日経 BP 社（2016 年）
- ②岩井克人『経済学の宇宙』日本経済新聞社（2015 年）
- ③楠木健『ストーリーとしての競争戦略』東洋経済新報社（2010 年）
- ④経済産業省中小企業庁編『中小企業白書』各年版
- ⑤経済産業省・厚生労働省・文部科学省編『ものづくり白書』各年版
- ⑥小峰隆夫『人口負荷社会』日本経済新聞社（2010 年）
- ⑦小室直樹『危機の構造』ダイヤモンド社（1976 年）、中公文庫から 1991 年に再刊
- ⑧ H. チェスブロウ『オープンイノベーション』産業能率大学出版部（2004 年）
- ⑨富山和彦『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP 新書（2014 年）
- ⑩中沢孝夫・藤本隆宏・新宅二郎『ものづくりの反撃』ちくま新書（2016 年）
- ⑪原文人『「公益」資本主義』文春新書（2017 年）
- ⑫日立東大ラボ『Society5.0』日本経済新聞社（2018 年）
- ⑬宮川努『生産性とは何かー日本経済の活力を問いなおす！』ちくま新書（2018 年）
- ⑭三宅秀道『新しい市場のつくりかた』東洋経済新報社（2012 年）
- ⑮吉川洋、『いまこそ、ケインズとシュンペーターに学ぶ』ダイヤモンド社（2009 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %
期末テスト 40 %
期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

今年で本講義は 8 年目である。最も受講者が多かった 2014 年度の授業改善アンケート調査をみると、「知識が身についた」（86.2 %）、「新しい発見があった」（41.4 %）、「進路選択に役立った」（10.3 %）の回答は全学部平均（各々 72.9 %、26.6 %、4.2 %）を上回った。一方、「授業難度が適切であった」「学生間の交流があった」については全学部平均を下回っている。このことから、本年度については上記『到達目標』に掲げた 5 つの目標を意識しながら、より明確な説明を心がけ、また毎回授業の終わり 10 分程度を質疑応答の時間に充て、意見交換の場を設けたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（第 3 回～第 5 回：情報実習室で実施予定）

【その他の重要事項】

私は 1985 年に長銀経営研究所に入社して以降、現在の日本政策投資銀行グループの価値総合研究所に至るまで民間のシンクタンクで約 35 年に渡り国や地方行政の産業政策関連の調査に係ってきた。その体験をベースに皆さんと学んでいきたいと思います。現時点でアドバイスさせて頂くことがあるとすれば以下です。

- ①「論点」を把握することの重要性。本講義では、社会における現象をやさしく説明するとともに、現象の背景にある問題の構造を多角的な視点で捉える事が出来るような講義にしていきたいと考えている。
- ②産業社会の現象を見る際、常に「需要」と「供給」の観点から見る癖を身に付けていただきたい。
- ③本講義でも難しい用語や概念が多く出てくると思います。その際、是非、「自分の」言葉で友人に話しかけて（議論して）下さい。やさしいことをやさしく説明するのは簡単です。難しいことを難しい言葉で説明することも、それほど難しくありません。しかし、難しいことをやさしい言葉で説明することは、非常に難しく、かつ重要なことだと思います。
- ④与えられた問題を解くことは、もちろん重要であるが、みなさんが社会人になってより求められるのは、問題を自分なりに設定・設計する能力、いわゆる企画設計力＝デザイン力だと思います。

【Outline and objectives】

I think there are two major meanings to graduating from college and working. One is to supply labor, obtain wages and salaries as compensation for it, and make it a means of living. Another is that the labor creates the new value in society through activity of an enterprise. Working is meaningful for individuals, businesses, and society. In this lesson, from the diverse viewpoints of Japan's industries, where your labor is creating new value, such as (1) the overall picture and changes of the industrial structure, (2) characteristics and changes of major industries, and (3) characteristics of major companies I will learn.

MAN200MA

広告ビジネス論

選択

小林 健一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session
曜日・時限： | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「マーケティングと広告」

「広告」は、「経営」「マーケティング」「マーケティングコミュニケーション」等と密接な関連を持ちながら、企業活動を支えています。この講座では、「広告」の役割を明らかにした上で、特に「マーケティングコミュニケーション」の一手段としての「広告」に焦点を絞り、その理論や実務上の知識を学ぶ事を目的とします。

【到達目標】

- ① 「経営」「マーケティング」と「広告」の関係を理解し、説明できる。
- ② 広告の機能/役割について理解し、説明できる。
- ③ 広告戦略/広告計画の立案手順を理解し、説明できる。
- ④ 広告ビジネスの構造や、関連企業の役割について理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- 講義は、電通出身の教員が勤めます。
- 講義を中心に進めますが、理解を深めるために授業内課題を併用します。
- 将来広告の仕事に携わる受講生ばかりではないことを考え、授業内に「今週の広告」「今週の言葉」「仕事の力裏表」等のミニコーナーを設け、幅広い知識見識が身につくようにします。
- また、広告ビジネスの現状に関する理解を深めるために、事業会社、広告会社等からのゲストを招いてお話をうかがいます。
- ゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。（授業計画には、参考までに、昨年度のゲスト講師を記載してあります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 授業計画の説明 受講動機等に関するアンケート
第 2 回	広告の定義 経営における広告の機能と役割	広告の定義 経営に果たす広告の機能と役割 社会・経済に果たす広告の機能と役割
第 3 回	マーケティングにおける 広告の機能と役割	マーケティングにおける 広告の機能と役割とは？ マーケティングコミュニケーションとは？
第 4 回	広告ビジネス	広告業務の流れ 広告主、広告会社、媒体社、 その他の広告関連企業の機能と役割
第 5 回	広告戦略/広告計画 1	広告会社の組織と機能 広告計画立案の流れ 広告計画の意味と重要性
第 6 回	（ゲスト講師）事業会社	状況分析と広告目標の設定 事業会社における広告業務 （昨年度は 資生堂ジャパン株式会社 コミュニケーション統括部部長 小出 誠 氏）
第 7 回	広告戦略/広告計画 2	戦略とは？ 広告戦略の基本
第 8 回	媒体計画	媒体計画とは？ 媒体計画の作成手順
第 9 回	（ゲスト講師）広告会社	実体験を核としたマーケティング・コミュニケーション （昨年度は（株）電通ライブ シニア・クリエイティブディレクター 原田 和明 氏）
第 10 回	表現計画	広告表現とは？ 広告表現の類型化

第 11 回	(ゲスト講師) 広告会社	広告表現制作の実際 (昨年度は (株) 電通 エグゼクティブクリエイティブディレ クター 佐藤 義浩 氏)
第 12 回	広告効果過程	消費者の購買意思決定過程 広告効果過程のモデル
第 13 回	広告効果測定	広告調査の種類と方法 広告効果測定の新しい流れ
第 14 回	ブランドと広告	ブランドとは？ ブランドと広告の関係 授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、日常的に、新聞/テレビ/雑誌/ラジオ/インターネット等の広告に積極的な関心を持って接しながら、その背景にある企業の意図や戦略を読み取る習慣を身につけるよう努めること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、適宜以下の参考書に基づいて講義を行います。

【参考書】

「現代広告論 第3版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017。
「消費者・コミュニケーション戦略」田中洋/清水聰（編）有斐閣、2006。

【成績評価の方法と基準】

出席はとりません。
授業内課題 30 % 学期末試験 70 % の比率で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・教員の実務経験についてもっと聞きたいという声があったので、適宜広告会社での経験についてもお話したいと思います。
・質問コーナーを設けてほしいという声があったので、できる限り学生の皆さんの質問に答える時間を作りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講義のアジェンダは授業開始前、講義に使用したスライドは、授業終了後授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】

教員は、(株)電通 IMC プランニングセンター長、(株)電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。過去の経験も交えながら、皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

【関連科目】

なし

【Outline and objectives】

Marketing and advertising

This course aims to clarify the role of "advertisement" at first and then focus on "advertisement" as a means of "marketing communication", to learn the theory and practical knowledge.

MAN200MA

マーケティング論

展開科目

菊池 一夫

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マーケティングは、新たな商品の開発、顧客満足の向上といった企業活動においてなくてはならない活動です。この授業では、マーケティングの理論を学び、実際の企業の活動を理解します。

【到達目標】

授業は、①マーケティングに関する基本的な用語を説明できる②マーケティングに関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解する③社会のなかで実践されているマーケティング活動を理論と結びつけながら理解する、の3つを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、マーケティングに関する基礎的な知識を修得することを目的とします。社会では様々な企業や事業体が活動をしています。企業や事業体は、社会に価値あるものを提供して、その対価として利益を得て継続的に存続していきます。社会に対して新しい価値を創意工夫して提供していくという活動をマーケティングというフレームワークを使って理解していきます。講義形式で毎回の授業を進めます。毎回完結型でマーケティングの基本的な考え方やフレームワークを1つずつ取り上げていきます。実社会と密接に結びついた現場の学問ですので事例を出しながら説明していきます。マーケティング論の入門として、幅広く知識を修得するように身近な話題を入れながら、わかりやすく説明したいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マーケティングという考え方	授業の中心的概念であるマーケティングというものが、どのような活動なのかを理解します。
2	マーケティング論のなりたち	様々なマーケティングの説を紹介しします。
3	セグメンテーションとターゲティング	セグメンテーション（市場細分化）とターゲティングの重要性について考えます。
4	ポジショニング	競争していくにあたって自分の立ち位置を決めるプロセスを説明します。
5	マーケティング・マネジメント	マーケティング・ミックスとそれらを統合的にマネジメントしていく考え方について説明します。
6	マーケティング・マネジメントの実際	ゲストスピーカーからマーケティング・マネジメントの実際の話伺います。
7	製品政策（プロダクト）	製品コンセプトや顧客のベネフィットについて考えます。またアイデア発想のワークを行います。
8	チャネル政策（プレイス）	どのような製品であればどのような店舗で売ったらいいのか、どのようなチャネルが有効なのかを考えます。
9	販売促進政策（プロモーション）	企業のプロモーションについて説明します。
10	価格政策（プライス）	いろいろな価格決定のアプローチを紹介していきます。
11	顧客満足と顧客価値	顧客満足と顧客価値はどう違うのか、顧客満足の向上はなぜ大切なのかを説明します。
12	マーケティングリサーチの実際	ゲストスピーカーからマーケティングの実際について話を伺います。（予定：マクロミル）
13	ブランドマネジメントの実際	ゲストスピーカーからブランドマネジメントの実際の話伺います（予定：ソニークリエイティブプロダクツ）
14	まとめ	ここまでの話を総括して、これからのマーケティングを展望します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。多くの事は話で説明しますので、ノートは単に板書やスライドを写すだけではなく、自分で工夫して作成するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特に指示しませんが、参考書に沿った授業内容となります。

【参考書】

和田充夫他『マーケティング戦略 第4版 (有斐閣アルマ)』2012、有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①マーケティングに関する一般的知識を習得したか②マーケティング理論を十分理解し、説明することができるか③社会におけるマーケティングの役割を理解し、実際のマーケティング活動を理論に関連付けて説明することができるか、の3点を毎回行うコメント用紙によるコメント（30％）と、定期試験（70％）によって評価する方法で行います。

【学生の意見等からの気づき】

講義で使用するプレゼン資料については授業支援システムに事前にアップロードします。毎回のコメント用紙の配付と次回における質問への回答をおこない内容理解を促進します。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答に授業支援システムを使用します。

【Outline and objectives】

Marketing is an essential activity in corporate activities such as development of new products and improvement of customer satisfaction.

In this lesson, you learn the theory of marketing and understand the activities of actual companies.

MAN200MA

流通・マーケティング戦略論 展開科目

首藤 禎史

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネス市場戦略行動においてその最前線で消費者と直接対峙・接触する流通業（とくに、小売業）の競争およびマーケティング戦略に関係する諸問題を理論と実務の両面から検討・理解していくようにします。

【到達目標】

- ① 流通構造と小売業の社会・経済における役割と機能を理解する。
- ② 小売業者の市場における行動をその事業形態と小売競争枠組みを検討することを通じて理解する。
- ③ 小売競争理論と小売マーケティングミックスを理解することにより、小売市場におけるビジネス競争・戦略活動をマネジメントできる基礎を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、上記のように、「社会において流通とはどのような機能・システムを構成しているか」ということから、「小売業の意義と役割」そして小売市場における競争行動やその理論を学ぶことによって、小売業のマーケティング戦略の立案と実行、あるいは小売業のマネジメントに関係する基礎的な知識を身に着けるようにすることを目的としています。

授業は講義形式で進められますが、学生諸君の積極的な参加や意見を歓迎します。私たちの生活に最も密着したビジネスである小売業の現状を実体験や観察を通じて得た知識をもって、理論との融合（理論のどこが使えて、どこが実社会に適合できないのかなど）を検討していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	マーケティング・流通における小売業の概念と役割Ⅰ	マーケティングにおける小売業の位置づけと機能
第2回	マーケティング・流通における小売業の概念と役割Ⅱ	小売サービスの概念と小売サービスの種類
第3回	マーケティング・流通における小売業の概念と役割Ⅲ	小売業者の社会・経済的役割
第4回	小売業者の種類と小売事業形態Ⅰ	業種・業態分類と小売フォーマット
第5回	小売業者の種類と小売事業形態Ⅱ	小売フォーマットによる小売業分類と小売事業形態
第6回	小売業者の種類と小売事業形態Ⅲ	所有・経営形態による分類（垂直的マーケティング・システム）
第7回	小売業者の種類と小売事業形態Ⅳ	商業集積の諸形態と成り立ち
第8回	小売競争モデルと理論仮説の理解と検討Ⅰ	水平的競争
第9回	小売競争モデルと理論仮説の理解と検討Ⅱ	垂直的競争（システム間競争）
第10回	小売競争モデルと理論仮説の理解と検討Ⅲ	代表的な理論仮説の検討
第11回	小売マーケティング戦略の構築Ⅰ	小売ミックスの概念と枠組み
第12回	小売マーケティング戦略の構築Ⅱ	小売ミックスの諸要素の理解
第13回	小売マーケティング戦略の構築Ⅲ	小売ミックスの具体的な組み合わせと小売ビジネス競争
第14回	事例研究	Sears, Wal-mart, Whole Foods Market, Trader Joe's

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経営・経済に関する基本的知識、および当該科目に関する予習・復習はもとより、大学生として授業に臨む心構えを期待します。また、日ごろの買い物などにおいて敏感に疑問を持つように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストについてはとくに指定しません。プリントを配布するか、Power Pointを用いて授業をします。

【参考書】

『アメリカの流通業の歴史に学ぶ』徳永豊著、中央経済社。
Retailing Management 5th-ed, M. Levy, B. A. Weitz, McGraw Hill- Irwin

【成績評価の方法と基準】

定期試験 100 %, 授業中小テストとを実施した場合は、+ a として採点します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート集計中のため未記入。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

In this lecture, we study and discuss the retail management and marketing strategy in terms of both the theories and practices.

MAN200MA

流通・サービスビジネス論

展開科目

中嶋 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

流通・サービスビジネスを理解するための知識と理論を修得することを目的とします。流通・サービスビジネスのしくみや特徴を学問的な枠組みのなかから理解していきます。サービス経済化が進んでいく、これからの日本を含めたグローバル社会を見据えて、私たちが働くことになるビジネス環境の理解を深めます。将来を見据えて、自らのキャリアを考えていくうえで必要となるビジネス環境、ビジネス・システムを深く理解することを目指します。

【到達目標】

受講者が①流通・サービスビジネスに関する基本的な用語を説明できること②流通・サービスビジネスに関する一般的な知識を習得し、その経営のしくみを理解し説明できること③流通・サービスビジネスに関する実際の現象や出来事を理論と結びつけながら理解できることの 3 点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

流通ビジネス・サービスビジネスについては特段深い知識はなく、初めて触れることを前提としておこないます。ただし、ビジネスキャリア入門科目、マーケティング論などのビジネスの基礎的な授業は最低限履修していることを前提とします。

身近なところの具体的事例から流通・サービスビジネスを理解できるよう授業を構成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	流通の役割としくみ	流通が社会において、なぜ必要であるのかを考えます。
2	小売業態と百貨店	商流、物流、情報流の 3 つの視点を使って流通の構造を理解します。小売業態とは何かを解説します。代表的な業態である百貨店（デパート）を取り上げそのビジネスの特徴について解説します。
3	総合スーパー（GMS）とチェーンシステム	総合スーパーの経営をチェーンシステムの特性とともに解説します。
4	食品スーパーのイノベーション	現代における小売ビジネスのイノベーションを食品スーパーのビジネスを通して解説します。
5	流通ビジネスの実際①	企業の方を招いてお話を伺います。（予定：ヤオコー）
6	CVS とフランチャイズ・システム	身近なコンビニエンスストアのビジネスのしくみを解説します。
7	流通ビジネスの実際②	企業の方を招いてお話を伺います。（予定：セブンアイホールディングス）
8	SPA とサプライチェーン	SPA のビジネスを支えるサプライチェーンのしくみとともにユニクロ、H&M のビジネスを解説します。
9	サービス・ビジネスの特性	モノとの対比によって形のないサービスという概念を理解します。
10	人的サービスと付加価値	人的サービスの特徴と課題について説明します。美容サロン、マッサージサービスなどを取り上げます。
11	物的サービスと効率化	物的サービスの特徴と課題について説明します。プライダルサービス、ホテルなどを取り上げます。
12	コンテンツサービス、金融サービス	映画、音楽などのコンテンツを提供するサービスの特徴を解説します。金融サービスの特徴を解説します。
13	サービスビジネスの実際①（ゲスト）	企業の方を招いてお話を伺います。（予定：SMBC コンシューマーファイナンス・プロミス）
14	シェアリングサービス	近年、成長著しいシェアリングビジネスの特徴をシェアリングエコノミーの考え方とともに解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。さらに流通・サービスビジネスの多くは身近に利用するものばかりです。このビジネスはどのように成り立っているのか、自分はなぜこのお店で買い物をするかを深く考えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特に指示はしません。

【参考書】

石原武政他『1からの流通論』2008、碩学舎。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①流通・サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか、②流通・サービスビジネスのしくみを十分理解し説明することができるか、③社会における流通・サービスビジネスの役割を理解し、現実の商業の諸問題を流通理論に関連付けて説明することができるかを試験によって評価する方法で行います。

【学生の意見等からの気づき】

予習のための講義用スライドの授業支援システムに数日前にアップロードをします。

学生の理解度を勘案して講義スピードを調整します。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答に授業支援システムを使用します。

【Outline and objectives】

It aims to acquire knowledge and theory to understand distribution / service business.

We will understand the mechanism and characteristics of distribution and service business from academic framework.

Looking to the future, We will deeply understand the business environment, business and systems that are necessary to think about our career.

MAN200MA

就業機会発見実務

展開科目

田辺 康広

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「就業機会を増やす人、そうでない人の違いは何か」「ビジネス機会を作る人とは」を考え、自らのエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める機会とする。

【到達目標】

労働市場や時代の理解を深める手法、自己理解を促進したり点検したりする手法について理解し、自己の社会的役割認識やエンプロイアビリティを高める機会とする。また、キャリアデザイン学部出身者として強みとなる「人のエキスパート」（という実務家）とは何か、について思索する時間も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

エンプロイアビリティやアントレプレナウアーシップの認識を高めるため、①職場、職業等を理解する②キャリア理論で学んだ自己理解手法を演習を通じて確認し、キャリア形成に資する体験とする③模擬採用面接等の体験を通じて自己理解を深める④エンプロイアビリティや職場・チーム運営を高めるための各種スキルトレーニングをアクションラーニングメソッドを用いて行う。グループ演習が多いので出席することが必須。試験は実施（オープンブック方式：電子機器を除いて持ちこみ可）。試験問題のテーマはオリエンテーションの回で案内予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーショングループ討議	「就業機会を増やす人とそうでない人」
第 2 回	職業理解 1（採用）	採用に際して重要視しているものを日米で比較し、理解する。また、創業を志す人の特性についても思索する。
第 3 回	職業理解 2（職務）	ジョブ（職務）の概念を理解し、ジョブ（職務）を中心として人事制度ができてきたことを理解する。
第 4 回	職業理解 3（職場コミュニケーション）	職場やチームにおいてなぜコミュニケーションが必要か、ビジネスレベルでのコミュニケーションを円滑にするにはどのようなことに気をつけたらよいかを理解する。
第 5 回	自己理解 1	社会的成熟を果たしていくためには常に自分を点検する姿勢が必要であるという点、と点検ポイントについて理解する。
第 6 回	自己理解 2（特性因子理論から）	RIASEC の理論（ホランド）をアクションラーニング演習を通じて体感し、自己理解への啓発的体験とする。
第 7 回	自己理解 3（発達理論から）	「ライフライン」（スーパー）ワークシート記入を通じて自分の中に形成しているキャリアドライバーを見つめ、自己理解への啓発的体験とする。
第 8 回	自己理解 4（トランジションへの対応として）	4S 理論（シュロスバーク）を背景に、具体的事例（ケース）を用いて、キャリアの節目に対応する手法を学び、自己理解への啓発的体験とする。
第 9 回	一歩先行く就活 I	応募書式記入のポイントを記入演習を通じて理解する。
第 10 回	一歩先行く就活 II	「グループ面談」のポイントを実際の模擬面談を通じて理解する。
第 11 回	一歩先行く就活 III	「グループ討議」のポイントを実際の模擬面談を通じて理解する。
第 12 回	一歩先行く就活 IV	自己 PR で気をつける点を理解する。
第 13 回	一歩先行く就活 V	「個人面接 模擬」
第 14 回	振り返り	13 回のセッションを通じて自己のエンプロイアビリティは高まったか、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な宿題を出すことがあります。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験、宿題、出席時の授業コメント提出による。授業への参画度も勘案。
 期末試験はオープンブック方式（電子機器以外は持ちこみ可）で、論文 2 問
 です。テーマは第 1 回目の授業でお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

参加型授業を推し進めます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

キャリアデザイン学部は、一人ひとりが自分の持つ価値観を探索したり、自分の強い部分や弱い部分を素直に見つめたりすることを通して、強い自分を発見する、強い自分を作ることを目的にしています。そのために重要なことは自分を理解することです。加えて、未来へのイメージネーションを働かせることです。今、未来が見えていなくても大丈夫です。学生時代にもがき、悩み、思索する体験こそ、意義や意味があるのです。この学部は「社会における自分の役割は何か」「そのために何をすべきか」を考える機会を提供します。そのような機会や環境を活かして、時代認識を持ち、強くてしなやかな自分をプロデュースしてください。専門性はあとから自ずとついてきます。そしてこのような人材こそ、激動の時代に立ち向かう現在の企業や教育機関が渴望している人材なのです。信頼できる自分に出会い、時代が求めているキャリアデザイン学部の卒業生としての誇りを持って社会に巣立っていったきたい、と考えています。

【Outline and objectives】

Discussion and Role-play are used in the classes, so students are required to be participative attitude. The discussion theme is "how to enhance my employability" or entrepreneurship.

SOC200MA

キャリア研究調査実習 E（幸福 展開科目
 論）

小塩 靖崇

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア調査実習の中で、幸福（ウェルビーイング）を題材として量的調査を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域ですが、いずれの分野でも、幸福（ウェルビーイング）をどのように捉えるかは、中心概念として共通しています。本講義を通して、キャリアデザイン研究において、量的調査を具体的に実践するためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 先行研究の調べ方、仮説・リサーチクエスション立案に関するスキルを獲得する
- (2) 質問紙を作成し、簡単なデータ収集と分析のスキルを獲得する
- (3) 得られた結果の解釈に関するスキルを獲得する
- (4) 上記 (1)-(3) を実践的に学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人またはグループでの実習となります。具体例を示しながら、丁寧に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	幸福（ウェルビーイング）の定義 なぜ研究方法を学ぶのか
第 2 回	研究の構造と機能	研究プロトコルのアウトライン 研究デザインの例
第 3 回	研究例（1）尺度研究	幸福（ウェルビーイング）を評価尺度 研究の例
第 4 回	研究例（2）メカニズム研究	幸福（ウェルビーイング）のメカニズム を考える 研究の例
第 5 回	研究例（3）介入研究	幸福（ウェルビーイング）を促す介入 研究の例
第 6 回	研究テーマを考える	研究テーマと研究計画の検討方法
第 7 回	コホート研究とは？	前向きコホート研究 後ろ向きコホート研究
第 8 回	横断研究とケースコントロール研究とは？	横断研究 ケースコントロール研究
第 9 回	観察研究における因果推論	交絡への対処方法
第 10 回	介入研究とは（1）	よく用いられる介入研究デザイン
第 11 回	介入研究とは（2）	ランダム化比較試験と非ランダム化比較試験
第 12 回	質問紙をデザインする	質問紙の作り方
第 13 回	研究をデザインする（1）	上記の知識を復習し、研究計画を作成する
第 14 回	研究をデザインする（2）	上記の知識を復習し、研究計画を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やニュースにおける様々な統計情報（世論調査、ランキング、経済統計など）に関心を持ってください。

【テキスト（教科書）】

本原雅子／木原正著 『医学的研究のデザイン：研究の質を高める疫学のアプローチ 第3版』 2011 年 メディカル・サイエンス・インターナショナル

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）」： 50%
 「レポートや課題の提出」： 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【キャリアデザイン学部より】

この授業は、受講者数 20 名程度を想定した授業です。想定より大幅に受講者が多い場合、抽選を行うことがあります。

【Outline and objectives】

To conduct quantitative survey research, this class will teach epidemiological research methods with the theme of well-being. Thinking about well-being can help you to design your career and consider career design in society.

SOC200MA

キャリア研究調査実習F（まちづくり論） 展開科目

大西 未希

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、地域社会においてさまざまな課題を解決する「まちづくり」の在り方が注目されている。地域に根ざした課題を発見するためには、まずはつぶさな視点で街を調査すること、そのデータ検討し、課題を浮かび上がらせることが重要である。そこで本授業では「まちづくり」をテーマとした社会調査（質的調査）のプロセスを学び、実践的な能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

- (1) 質的調査の調査デザイン、調査手続きに関するスキルを獲得する。
- (2) 考現学、参与観察、インタビューの手法について説明でき、実践するスキルを獲得する。
- (3) 対象地域において適切な調査デザインを採用し、調査を進めることができる。
- (4) 対象地域への調査結果からまちづくりの提案を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と、個人またはグループでの実習を取り合わせて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の到達目標、テーマ、概要、方法（講義）
第 2 回	質的調査の概要	質的調査と量的調査の調査法の違い、質的調査を元にした研究、情報機器を用いたデータのとり方（講義+実習）
第 3 回	調査の手続き①	調査対象地域の選定方法、アポイントメントの取り方、依頼書の書き方（講義+実習）
第 4 回	調査の手続き②	文献や既存の資料の調査、地域の歴史等事実関係の整理、作業仮説の立て方（講義+実習）
第 5 回	質的調査の方法（1）考現学①	考現学の手法、路上観察におけるスケッチ、メモの研究成果（講義）
第 6 回	質的調査の方法（1）考現学②	考現学の手法、路上観察におけるスケッチ、メモの手法（実習）
第 7 回	質的調査の方法（2）フィールドノート①	参与観察の手法、ラボールの築き方、写真データのとり方、フィールドノートの書き方（講義+実習）
第 8 回	質的調査の方法（2）フィールドノート②	フィールドノートのとり方、清書版の書き方、データの検討（講義+実習）
第 9 回	質的調査の方法（3）インタビュー	構造化／半構造化／非構造化インタビューの違いと手法（講義+実習）
第 10 回	質的調査の方法（4）調査デザイン	これまでの講義の内容の復習、調査実践のデザイン（講義+実習）
第 11 回	質的調査の実践①	個人、またはグループになり、講義で学んだ手法のうち一つを用いた質的調査の調査デザインを行う（実習）
第 12 回	質的調査の実践②	個人またはグループで特定の地域を対象に質的調査を行う（実習）
第 13 回	質的調査の実践③	質的調査の成果から「まちづくりへの提案」構想を発表する（1回目）
第 14 回	質的調査の実践④	質的調査の成果から「まちづくりへの提案」構想を発表する（2回目）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で実習課題が課されることがある。

授業外に調査実習を行うことがある。

【テキスト（教科書）】

指定なし。

【参考書】

佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク 書を持って街へ出よう（増訂版）』新曜社

前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆編（2016）『最強の社会調査入門——これから質的調査をはじめるときのために』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度：20% 授業内課題：30% 最終課題：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する回がある。

【その他の重要事項】

フィールド調査に行くことがある。

【キャリアデザイン学部より】

この授業は、受講者数 20 名程度を想定した授業です。想定より大幅に受講者が多い場合、抽選を行うことがあります。

【Outline and objectives】

Qualitative research involves the collection and rigorous analysis of observations, interviews, and other records of human activity so that we can come to a richer understanding of structures, processes, and perspectives that drive or shape human behavior. We will also practice some of the activities associated with executing a qualitative research study relevant to community development.

SOC200MA

外書講読 A（ライフ）

展開科目

門脇 仁

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 6/Fri.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のグローバル化が一段と進むなか、世界のさまざまな情報をキャッチしたり多様な人々とのコミュニケーションを図るうえで、英語の使用はもはや不可欠のものとなっています。この授業では、アイデンティティ、文化、コミュニティ、まちづくり等、「ライフキャリア」の領域に関わるキーワードにそって、さまざまなトピックスのもとに英語で情報を検索する・文献を読んで理解する・自己を表現する、といったスキルを身につけます。

【到達目標】

初年次の終わりまでに修得した英語力をもとに、学生各自が自らの関心事や専門性にそって、更なる英語の読解力・表現力を身につけていきます。「ライフキャリア」に関連した英語文献（新聞・雑誌記事、統計資料、論文、ウェブページなど）に数多く触れることによって、速読の訓練を積むとともに、この分野でよく用いられるさまざまな単語や表現にも慣れていきます。英語というツールを実践的に用いることによって、各自のキャリア形成における可能性を広げていくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、受講生自身の問題意識に即して英文の文献を探す、それを読み込む、自分の考えを英語で表現する、といったプロセスを通して、外国語をより身近なものにしていきます。外国語の習得には自己の強い関心と積極的な参加が必要です。受講生は、特に優れた語学力は必要としませんが、授業への積極的な参加と、予復習におけるためまね学習の積み重ねが求められます。なお、参加型の授業の性質上、必要に応じて受講者数に制限を設ける場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンス	授業の進め方、必要な辞書等について説明する。
2	英語による自己紹介	自身が関心のある領域やテーマについて英語で紹介する。
3	情報検索①「文化」をテーマに	文化に関わるテーマで英文の Web ページやデータベースの活用方法を学ぶ。
4	情報検索②「コミュニティ」をテーマに	コミュニティに関わるテーマで英文の Web ページやデータベースの活用方法を学ぶ。
5	文献講読①アイデンティティをテーマに	アイデンティティをテーマに指定した文献の講読・ディスカッションを行う。
6	文献講読②文化をテーマに	文化をテーマに指定した文献の講読・ディスカッションを行う。
7	文献講読③コミュニティをテーマに	コミュニティをテーマに指定した文献の講読・ディスカッションを行う。
8	文献講読④まちづくりをテーマに	まちづくりをテーマに指定した文献の講読・ディスカッションを行う。
9	テーマの設定①アウトラインの作成	自分が抱えている問題意識を英文で表現・説明するためのアウトラインを作る。
10	テーマの設定②文章の構成	自分が抱えている問題意識を英文で表現・説明するために文章の構成を考える。
11	英語によるスピーチ①文化・アイデンティティをテーマに	文化・アイデンティティをテーマに各自がスピーチを行うとともに質疑応答の機会を設ける。
12	英語によるスピーチ②コミュニティをテーマに	コミュニティをテーマに各自がスピーチを行うとともに質疑応答の機会を設ける。
13	英語によるスピーチ③まちづくり・地域活性化をテーマに	まちづくり・地域活性化をテーマに各自がスピーチを行うとともに質疑応答の機会を設ける。
14	まとめと試験	半期の授業で身につけた能力を英文読解と英作文を通して検証する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学の学習は時間を要します。授業外においても、課題文献の講読の予習や短い英文エッセイの執筆などのホームワークが適宜課されます。

【テキスト（教科書）】

特に定めませんが、適宜プリントを配布します。

原則として毎時間、英和・和英辞書を持参してください。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（ホームワークの成果、ディスカッションなど）：50 %
学期末の記述試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

これまでは主として文献講読と英作文（および添削）に時間を費やしてきましたが、今後はさらにスピーチやプレゼンテーションの機会もより多く設けたいと考えています。

【Outline and objectives】

As globalization in our society progresses more and more, to use English has already been essential for catching various information about the world and communicating with diverse people. In this class, students try to search for information, read the material and express one's opinion in English under various topics concerning the field of Life Studies, such as identity, culture, community, town planning, etc.

SOC200MA

外書講読 B（ライフ）

展開科目

門脇 仁

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を動かす情報はいかに発信され、伝達されていくのか。海外の情報にどうアプローチすれば、自分の研究やビジネスに役立てることができるのか。それにはまず、外国語によるさまざまな情報を吸収し、速く正確に処理するスキルが必要となる。この講義では、インタビュー、ルポルタージュ、講演、報告書、宣伝広告などの多様な英文を取り上げ、その訳読を通して英語による情報収集や調査の基礎的ノウハウを習得する。

【到達目標】

英語の文章を読み、音声を聴き取ることで、地球規模の情報を手際よくキャッチする能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。履修者は、読解・聴解の目安となる数値目標（速読スピード、TOEIC スコアなど）を自分で定め、半年間の授業でそれをクリアできるようにしていくことが推奨される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回 A 4 版 1～2 枚程度の平易な英文資料を配布し、翌週までにそれを読んでおくことを課題とする。講義では、課題文で取り上げる分野の背景や情報収集法、構文の読み解き、語彙と音声についてのアドバイスなどと併せて訳読を実践する。外国語の効果的な学習法や、リスニングの実技訓練も指導するので、文法や語彙を復習・再強化する必要のある学生も受講可能。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法。
第 2 回	エッセー・伝記の読解	平易に書かれたオートバイグラフィック（自伝）の一部を課題文とし、英文の情報構造を踏まえて内容を速く正確に読む方法を実践する。
第 3 回	海外ニュースの核心	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計にもとづく情報ソースにさかのぼり、一次情報を活用する方法を身につける。
第 4 回	インタビューを読む	英文雑誌のインタビュー記事を通じて、話者の強調する論点のつかみ方、口語英語のニュアンスなどを学び取る。
第 5 回	字幕英語の活用	洋画の一部を視聴し、英語字幕を活用したりリスニングと読解の相乗的な強化法を学ぶ。
第 6 回	グローバル 이슈の読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチを探究。ここでは英字新聞の記事の読み方を学ぶ。
第 7 回	個人発表①	この時点までの授業で最も参考になった知識にもとづき、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
第 8 回	ルポルタージュの視点	National Geographic 誌のルポルタージュを参考に、科学的・歴史的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
第 9 回	ラジオの英語	平易な海外ラジオ番組をディクテーションし、音声の導入で語彙を増やしながら速読力も高めるトレーニング法を実践する。
第 10 回	プレゼンテーションの聴き方	TED Conference で行われている各種の講演を題材に、英語でのプレゼンテーションを聴き取る方法や、よく用いられる表現などを知る。
第 11 回	TOEIC の活用法	TOEIC の各パートで出題される問題文を取り上げ、英語のリスニング力と読解力をともに向上させる日常的なトレーニング方法を習得する。
第 12 回	メッセージを読み解く	昨年ノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランをはじめ、海外ポップアーティストの歌詞を重視した音楽に注目し、表現や伝達メカニズムを探る。

第 13 回 広告の英語

海外の商品広告、求人広告、テレビ CM などの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

第 14 回 個人発表②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、次の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。

【テキスト（教科書）】

・授業で配布するレジュメと課題文がテキストとなる。
・グローバルな問題や情報へのアプローチについては、下記の書物をサブテキストとし、授業で指定のあった回に持参されたい。
『エコカルチャーから見た世界』（門脇仁著、ミネルヴァ書房刊）

【参考書】

上記サブテキストを参考書としても活用。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験、授業への参加度（出席状況、リアクションペーパーの内容、受講態度）。特にリアクションペーパーは、履修者が授業で何を学び、今後それをどう実践して行きたいかを考察する記録として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、この授業を受講して読解力とリスニング能力が相乗的に高まったという学生の声が多かった。今年度はこの点を一層重視し、できるだけ多様な情報を目と耳の両方から取り入れることができるようトレーニングする。またリアルタイムに進行している出来事や、時流に即したテーマを盛り込むことが履修者のモチベーション向上につながるので、これまでよりも一層現代的な視点を強化し、新鮮な情報を迅速に処理するノウハウに主眼を置く。さらに、受講者の英語力を要望に合わせてカリキュラム内容や指導レベルを微調整し、最適な授業を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

教室設置の PC、プロジェクター、DVD プレーヤー、音響機器等を使用するので、個人発表者以外は機器の準備は不要。

【その他の重要事項】

全てのコースのベースとなる科目です。

【その他】

課題文の全訳を自分の解釈と照らし合わせ、理解度の向上に役立てる。ディクテーションもできるだけ毎回行うので、リスニング能力のアップをその都度チェックする。

【Outline and objectives】

How is information sent and shared to move our society? How can we access it to make use of them for study or business? To make it possible, we need some skills for collecting various information in foreign language and dealing with it quickly and properly. In this class, through reading various types of English writing such as essay, interview, reportage, presentation, bulletin, advertisement, etc., you would acquire fundamental knowledge to collect information and use it for your research.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅰ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通しまた異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業です。

1 つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業の最後リアクションペーパー（講義内容に関する簡単なコメント）を書いてもらい、次回以降の授業に反映させていきたいと考えています。正当な理由のない遅刻・欠席、授業中の私語・居眠り、授業と関係のない作業（たとえば他の科目の勉強、読書、携帯電話や音楽プレーヤーの操作）、必要以上の教室の出入り、授業の最後に来てリアクションペーパーだけを提出する等の行為は厳禁です。真面目に取り組む意欲のない人は受講しないで下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法 揺／生計をとともにする者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第 2 回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなざしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第 3 回	性別役割分業の歴史の変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第 4 回	宗教から見た西欧の歴史の変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第 5 回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第 6 回	19 世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第 7 回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第 8 回	官僚制の歴史の変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第 9 回	地理的世界の拡大とネットワーク化の変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第 10 回	時代の変化と少年犯罪のまなざし方の変化	第 3 回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する
第 11 回	歴史と社会を見る目（1）	コミュニティの健全性に関するデュルケムの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
第 12 回	歴史と社会を見る目（2）	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する

第 13 回	歴史と社会を見る目 (3)	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第 14 回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに活用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（70%）、平常点（30%）。
欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline and objectives】

Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅱ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
(2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業です。

1 つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業の最後にリアクションペーパー（講義内容に関する簡単なコメント）を書いてもらい、次回以降の授業に反映させていきたいと考えています。
正当な理由のない遅刻・欠席、授業中の私語・居眠り、授業と関係のない作業（たとえば他の科目の勉強、読書、携帯電話や音楽プレーヤーの操作）、必要以上の教室の出入り、授業の最後に来てリアクションペーパーだけを提出する等の行為は厳禁です。真面目に取り組む意欲のない人は受講しないで下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは〇〇が問題だ」というまなざし方（社会病理的見方）の歴史を把握する
第 2 回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第 3 回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第 4 回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第 5 回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第 4 回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第 6 回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第 7 回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第 6 回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第 8 回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第 9 回	社会史的視点 (1)	19 世紀末から 20 世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第 10 回	社会史的視点 (2)	20 世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第 11 回	社会史的視点 (3)	戦後の流行歌を取り上げ、大衆の生活の様相について理解する
第 12 回	社会史的視点 (4)	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる

発行日：2019/5/1

第 13 回 歴史と社会の再生産

第 12 回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第 5 回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する

第 14 回 まとめ・総括

比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のペースをつくることです。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（70%）、平常点（30%）。

欠席時間数が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline and objectives】

How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison.

SOC200MA

家族論

展開科目

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本における家族を扱い、その中でもキーワードを『多様性／多様化』とする。また『多様性／多様化』の是非について考え、個人と社会にとっての家族のあり方について考える。

【到達目標】

本講義の目標は、2 つである。①家族という問題を、常識や自らの経験の中での理解を超え、家族社会学を基盤として、統計的実態・事例・政策／制度・研究知見などを題材に『多様性／多様化』の内実を理解する。②家族とは個人のキャリアが発展するフィールドであり、家族を知ることは自らのキャリアをデザインすることに役立つと思われるため、職場や地域コミュニティとの関係も視野に入れつつ、受講者が自らのキャリアをデザインするためのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、就労・結婚・出産・子育て・離婚・介護などの典型的なライフイベントに注目し、受講者自身がこれまでの家族生活を整理したり、今後の家族生活をデザインしたりするための題材を提供する。また応用的論点として、男女の差異や平等性をめぐるジェンダー、家族を取り巻く地域コミュニティ、欧米や発展途上国あるいは前近代社会との比較、家族の機能不全としての虐待や諸問題に対応する政策・制度や支援職に言及する。必要に応じて、視聴覚資料・DVD・ビデオ教材などを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	親子関係①	児童虐待の現状
3	親子関係②	文化的再生産、子どもへの親の影響
4	親子関係③	今どきの親の抱える問題
5	男女と結婚生活①	パートナーの選定、結婚事情
6	男女と結婚生活②	家事・育児、就労、専業主婦
7	男女と結婚生活③	夫婦関係
8	“ふつうの人生” から外れること①	未婚・晩婚
9	“ふつうの人生” から外れること②	無子夫婦、不妊
10	離婚や一人親家庭①	離婚の現状・社会的背景、その影響
11	離婚や一人親家庭②	一人親家庭の現状、関連諸制度
12	高齢者と家族	独居・同居、介護、虐待
13	国際比較	他社会や歴史性、現代日本の客観視
14	まとめ	家族生活のキャリアデザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、指定された課題を遂行すること。

【テキスト（教科書）】

『親になれない親たち』（齋藤嘉孝、2009 年、新曜社）

【参考書】

・『よくわかる現代家族』（神原文子・杉井潤子・竹田美和編著、2009 年、ミネルヴァ書房）

・『論点ハンドブック 家族社会学』（野々山久也編、2009 年、世界思想社）

・他は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（40%）・小レポート（10%）・期末試験（50%）と総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

【その他の重要事項】

受講者の希望等によって、上記の予定が若干変更される可能性がある。

【Outline and objectives】

This course deals with contemporary families in Japan, especially, in terms of such keywords as "diversity." We think of how the families work for individuals and the society.

SOC200MA

若者文化論

展開科目

山崎 鎮親

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者文化についての概説を受講し、若者文化に関する研究理論や研究方法について学んでいきます。主に日本の若者と若者文化を取り上げ、暴走族、モッズやパンク、ギャル、ヤンキー、オタ、ゴスロリ、趣味縁、地元文化などの若者文化、若者の関係性やアイデンティティ、情報化・消費文化化と若者文化との関係、キャリア形成との関係などトピックを扱いながら、若者文化についての一定の理解の構築をめざします。

【到達目標】

若者文化を研究したり、若者文化について専門的科学的に語るために必要な社会学、心理学、記号論、社会批評・文化批評などさまざまな理論や分析方法などを学んでいきます。その学習を通じて、若者文化についての、科学に裏打ちされた自分なりの視点を獲得し、若者文化に関するさまざまな知識を習得し、若者文化について研究することができるようになります。そのため、講義内容で示される若者分館具体像と性質や特徴に関する一定程度以上の理解を構築することが必要となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

大人数の受講が予想されます。そのため、講義形式が中心になってしまいます。若者文化の具体例を毎回の授業で取り上げて説明と分析の例示を中心に進めていきます。毎回レジュメと資料を配付します。必要に応じて視聴覚資料も用います。簡単なワークや授業内容に関する授業内課題（小レポートなど）を数回実施します。なお、授業内課題は成績評価と連動します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「若者文化論」の説明：若者文化研究の具体例	授業の進め方や内容紹介などを説明。若者文化を学問的に料理することの例の提示
2	若者文化とは：若者と若者文化	若者文化、若者について分析する際の視角や見取り図の提示。
3	若者文化の探究枠組み (1)：若者文化のスタイル分析	社会階級と文化。トライブ。文化記号論分析。モッズやパンクなどの若者文化。
4	若者文化の探究枠組み (2)：スタイルとアイデンティティ	日本の若者文化のスタイルの記号分析。ストリート・ファッション・スタイル。ガールズ文化。
5	若者文化の探究枠組み (3)：若者文化の「界」分析	「界」と「若者文化資本」。ゴスロリ文化。鑑識眼・審美眼。身体性と感覚。
6	若者文化の探究枠組み (4)：複数の「界」の関係分析	若者の種族の対立関係。文化間の対立。「界」間の関係など。鳥宇宙。
7	日本の若者文化の展開 (1)：1960-1970 年代、族の文化の時代	1960-1970 年代の若者と若者文化。族的な若者文化。トライブ。暴走族。
8	日本の若者文化の展開 (2)：1980 年代、系の文化の登場	族から系へ。1980 年代の変化。社会の消費社会化・消費文化化。同調の文化。
9	日本の若者文化の展開 (3)：同調の文化としての系	1990 年代後半以降現在。同調の文化、個人化、系、個性。
10	日本の若者文化の展開 (4)：情報社会化と若者文化の人間関係	コミュニケーション。仲良しだけど仲良しじゃない、微妙な人間関係。
11	日本の若者文化の展開 (5)：社会関係資本と若者文化	社会関係資本。強い紐帯と弱い紐帯。ネットワーク。趣味縁。
12	若者のキャリアと若者文化 (1)：地元つながり文化の社会的機能	キャリア形成と若者文化との関係。地元つながりの文化。内向きと外向き
13	若者のキャリアと若者文化 (2)：地元つながり文化の二面性	表出的機能と道具的機能。地元若者文化のつながりの二面性。
14	若者文化論のまとめ	これまでの講義内容を振り返る。若者文化研究の課題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

若者や若者文化に対して柔軟な姿勢で受講し、難解な理論について頭をフル回転させて整理しながら理解を目指す。そのため、授業後は講義内容に関する復習と整理とが必要となります。必要に応じて授業で紹介された参考文献も読む。また、若者文化に関する細かなネタやマイナーなエピソードなどが具体例として出てきたときは、質問用カードが用意されるので遠慮なく活用する。大人数が受講する可能性が高いので、そうなった場合は積極的な姿勢で集中力を上げて受講します。

【テキスト（教科書）】

授業用のオリジナル・プリントや資料を配布します。必要に応じて映像資料を中心に視聴覚資料を用います。

【参考書】

講義において、必要に応じていろいろと紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験（内容の理解の質を問います。自分なりに筋道を立てて理解することが重要になります）の出来（70 %程度を予定）、3 回行う予定の授業内課題（全体の 30 %程度を予定）の出来から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

毎回興味を持って受講されている方がたいへん多いのですが、内容によってはやや理論的で抽象的になりがちなので、なかなか理解がむずかしい方がいらっしゃるようです。そこで、できるだけ具体性を持たせ、身近な問題として若者文化をとりあげ、若者文化を語ることのおもしろさを感じ取れるように授業を構築していく所存です。

【Outline and objectives】

I will learn an overview of youth cultures. On youth and youth cultures I will learn about research theory and research methods. I mainly study Japanese youth and youth cultures. Youth subcultures, youth tribes, mods and punk, geek, gothic lolita, hobbyist, local youth culture etc. I will also learn about relationships and identities of young people, relations between informationization / consumption culturalization and youth culture, and relationships with career formation. I will build a certain understanding about youth culture.

SOC200MA

世代間交流論

展開科目

安田 節之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世代間交流の考え方と役割と取り組みについて学び、地域課題の解決策としての世代間交流プログラムのあり方について考える。

【到達目標】

- ①世代間交流の背景と活動のあり方が分かる。
- ②地域や社会の課題と連動した世代間交流の意義が分かる。
- ③世代間交流プログラムの開発と評価方法が分かる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

社会的なつながりの目的と方法が変化し続ける現代社会において、これまで個人と家族あるいは地域とのつながりを形成するうえで主な役割を担ってきた世代間交流のあり方も変化してきている。この授業では、世代間交流の背景にある考え方をまず学び、それがどのような肯定的な効果をもたらすことが可能なのかについて検討する。そして、新たな世代間交流の活動を創造する意義と方法について世代間交流プログラムという視点から考える（※演習としてグループワークを行いますので、他の学生との積極的なコミュニケーションが必要となります）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など。
第 2 回	理論的背景①	学際的視点から世代間交流を学ぶ（事例：駄菓子屋）。
第 3 回	理論的背景②	世代間交流におけるソーシャルキャピタルの役割を検討する。
第 4 回	理論的背景③	多様な交流のあり方とアイデンティティ（事例：シェアハウス）。
第 5 回	理論的背景④	高齢者のサクセスフルエイジングの視点から捉えた世代間交流についてを学ぶ。
第 6 回	実践的課題①	世代間交流の視点から社会課題を検討する（演習：問題分析ワーク）。
第 7 回	実践的課題②	世代間交流のために必要なコミュニケーション技法を学ぶ。
第 8 回	世代間交流プログラムの開発①	プログラムの実施背景と活動方針の検討（演習：ゴール設定）。
第 9 回	世代間交流プログラムの開発②	ロジックモデルの枠組みから世代間交流プログラムを捉える（演習：ロジックモデル開発①）。
第 10 回	世代間交流プログラムの開発③	ロジックモデルを完成し運営方法を検討する（演習：ロジックモデル開発②）。
第 11 回	世代間交流プログラムの評価①	世代間交流のプロセスと成果・効果を検討する（演習：アウトカムとデータ収集計画の計画）。
第 12 回	世代間交流プログラムの評価②	効果検証を行うための評価クエスションおよび評価デザインを考案する（演習：評価クエスションの設定）。
第 13 回	世代間交流プログラムの評価③	プログラムの開発および評価計画についての発表を行う。
第 14 回	まとめ	授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。

【テキスト（教科書）】

配布資料等を使用する。

【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）」（安田節之、2011、新曜社）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50 %）、グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）（30 %）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（20 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

大教室における授業でも、コメント票作成などを通して学生の能動的参加を促すようにする。グループワークではより効率的な運営を行う。

【Outline and objectives】

This class focuses attention on understanding intergenerational theory and methods of developing programs related to intergenerational issues in the communities that we live.

SOC200MA

身体表現論

展開科目

楠原 竜也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演劇的手法によるエクササイズを通して、「自己表現」について今一度考え直してみる。

【到達目標】

自己表現力・自己発見・他者理解・創造力・コミュニケーション力等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

自分を見つめなおす機会を持ち（自己発見）、他者との違いに気づき、多様な価値観を認め合う空気を感じる（他者理解）。さらに、多様な他者と相互に支えながら共同作業していくことを、試行錯誤しながら主体的に体験し、頭だけではなく身体感覚でもそれらを実感する（共感と共鳴）。多様な価値観をもつ人々と共生する社会を生きていくために必要な『生きる力』を養う（調和と創造）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明
2	コンディショニングづくり	こころと身体の解放
3	集中・感覚・身体1	立つ
4	集中・感覚・身体2	歩く
5	集中・感覚・身体3	聴く
6	集中・感覚・身体4	視る
7	集中・感覚・身体5	触る・嗅ぐ・味わう
8	感情	伝達
9	言葉・想像	色・形
10	インプロヴィゼーション1	基礎
11	インプロヴィゼーション2	発展
12	フィールドワーク1	学外施設でのワークショップ 基礎
13	フィールドワーク2	学外施設でのワークショップ 発展
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを普段の生活で活かせるように、身体感覚を意識して生活することを心がけること。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を適宜配布。

【参考書】

特に使用しない。必要に応じて資料を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

実技中心の授業のため、原則として 1/5 以上欠席すると単位取得は不可とする。出席と授業への参加姿勢 70 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業では、学生のみなさんに授業を通して沢山の発見をしてもらうことができたので、今年度もより良い授業を提供できるよう努めていきたいと思います。フィールドワークが充実していたとの声が多かったため、今年度も引き続き行ないます。

【その他の重要事項】

動きやすい服装で参加のこと（体操着・レオタード等の着用の必要はない）。頭で考える前にまず動いてみましょう。そして、個人個人の持つ表現能力をあらゆる手段で発見しましょう。なお、教室のサイズにより、受講者数を制限（選抜）することがあります。履修希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください。また、ガイダンス時に詳細を説明しますが、通常の授業時間以外を使つてのフィールドワークなどを行います。フィールドワークなども出席回数に含みますので、その他の時間の調整も必要になることもあります。履修に関して注意してください。

【フィールドワーク】

日時：5月2日（木祝）10:00～5月3日（金祝）13:00 <一泊二日>

場所：大学セミナーハウス（八王子市）

※単位修得にはフィールドワークへの参加が必須です。（費用は自己負担：交通費以外で 6,000～7,000 円程度）

【Outline and objectives】

We will explore our self expression through Drama/Theatre education.

SOC200MA

地域文化論

展開科目

緑川 岳志

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：土 2/Sat.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会がこれから課題となってくることは何かについて、様々なデータや研究を通じて、一緒に探っていきます。特に歴史、経済、社会、法律の各視点から、生活者の変化、文化の変容を見つめます。授業に参加される方には、それぞれ自分の住んでいる市区町村の「地域政策課長」になって、発言やグループワークを行っていただきます。グループワークは全体のうち3回となります。対象は、日本国内になります。

【到達目標】

自分の住んでいる街の地域政策をマクロ、ミクロ視点で理解することで、これから必要になる地域文化施策はなにかを提言することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学生は、自分の住んでいる市区町村の地域政策課長になっていただき、授業に参加いただきます。すべての分析や検討について、地域政策課の課長としての意見が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	＜講義形式＞本講義は地域文化施策をする当事者になって参加をすることが前提であることを中心にガイダンスを行います。
第 2 回	地域文化の歴史と現在	＜講義形式＞地域文化はだれのためのものかを歴史を振り返りながら確認していきます。
第 3 回	地域文化を残す、地域文化を創る	＜講義形式＞地域文化の創成がどのように生まれて、どのように継承されてきたかを確認します。
第 4 回	地域コミュニケーションの成り立ち方	＜講義形式＞地域文化施策に必要な広報活動および生活者同士のコミュニケーションの活性化施策を歴史背景も踏まえて確認します。
第 5 回	地域の課題：高齢者福祉、医療から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、福祉や医療の問題点と歴史的視点も入れてその施策について話し合います。
第 6 回	地域の課題：教育、スポーツから文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、教育やスポーツ振興の問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 7 回	地域の課題：防犯、防災から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域の安心安全にまつわる問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 8 回	地域の課題：外国人、異文化住民から文化施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域に生活する外国人との異文化交流の問題点とその施策について歴史的視点も入れて話し合います。
第 9 回	地域の課題：財源の確保	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域文化施策を行う際の重要な財源を確保していくアイデアを考えます。
第 10 回	地域の課題：地域文化の広報施策を考える	＜セッション形式＞各自治体の地域政策課長として、地域文化施策の広報活動について歴史的視点も入れて話し合います。
第 11 回	SECI モデル（暗黙知と共有知）の活用について	＜講義形式＞地域文化施策に必要な知の共有化について、SECI モデルについて習得します。
第 12 回	地域文化ランキングの指標づくり（グループワーク）	＜ワークショップ＞グループワークで、地域文化度の高い街はどんな街か、指標作りをしていただきます。
第 13 回	地域文化ランキングワークショップ（グループワーク）	＜ワークショップ＞グループワークで、地域文化度の高い街はどんな街か、指標作りの発表資料を作成いただきます。

第 14 回 期末・まとめ

＜最終レポートの提出＞担当した地域の課題と解決策について提言を行います。（レポート型）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が住んでいる市区町村の施策やデータを事前に調べて参加します。そのため、セッションおよびグループワークの講義は、毎回宿題が課されます。宿題のプレゼンテーションがあり、10 月、11 月のタイミングはとくに分量が増えます。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布いたします。

【参考書】

「実践ソーシャルイノベーション - 知を価値に変えたコミュニティ・企業・NPO」

著：野中 郁次郎 出版社：千倉書房

【成績評価の方法と基準】

講義への参加および期末試験とワークショップの内容で評価します。

・平常点：35 %

・セッションワークショップ：35 %

・期末試験：30 %

【学生の意見等からの気づき】

講師は、リクルートや毎日新聞社で地域活性化事業を行ってきた実業家です。論文やネット情報ではなく、泥臭いリアルティのある現場の話を交えながら講義やワークショップを進めます。

なお、本講座は、土曜日開講で宿題も多いため受講者数は多くありません。参加者数が少ない場合は後半のセッションの「グループワーク」を個人ワークに変更します。

【その他の重要事項】

リアルな会議を想定したワーキングを行い、考える力を養いますので、毎度の宿題と講義への出席が必須となります。

【Outline and objectives】

We will explore what the community is going to be in the future through various data and your research.

In particular, from the viewpoints of history, economy, society, and law, we look at changes in people, changes in culture.

In this lesson, we will become the "Regional Policy Division Manager" of the municipalities where you live and speak and group work.

SOC200MA

アイデンティティ論

展開科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生における「アイデンティティ」とは何か、どのように発達し、人生にどのような影響をあたえるのかを理解する事が本講義の目的です。個人的アイデンティティと社会的アイデンティティの両面からアイデンティティをどのように形成・獲得し、またそれから意識的・無意識的にどのような影響を受けるのかを学び、将来のキャリアデザインに活用できる知識の獲得を目指します。また毎年、第 13 回目の講義を最先端の研究成果のレビューに当てる事によって、学生には最新の知識を提供します。

【到達目標】

受講者が自分や他人のキャリアデザインを行う際に、アイデンティティの影響を考慮に入れて検討し、それを活用出来るようになる事を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

以下の 3 点について講義形式を中心に行いますが、必要に応じて学生とのディスカッションも行います。更には毎回コメントペーパーにて質問を受け付け、次の冒頭でその回答を行います。

個人的アイデンティティ：主にアイデンティティの発達について学びます
社会的アイデンティティ：社会的アイデンティティの諸研究について学びます。
アイデンティティ研究の応用：アイデンティティ研究の応用法について学びます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のスケジュール、内容、形式、評価方法及びアイデンティティについて学ぶ事の意義について説明します。
第 2 回	アイデンティティ研究の諸相	アイデンティティに関するこれまでの主な議論を紹介します。
第 3 回	アイデンティティの形成・発達	発達心理学の観点からアイデンティティ及びモラトリアムについて解説します。
第 4 回	社会的アイデンティティの理論と代表的研究	社会心理学における自己及び社会的アイデンティティに関する代表的理論とその研究成果をレビューします。
第 5 回	社会的アイデンティティ（グループダイナミクス）	集団の一員となることで生じるアイデンティティの変化が、社会的促進・抑制や集団思考に与える影響を解説します。
第 6 回	社会的アイデンティティ（協力・援助）	援助行動における自己像と社会的アイデンティティによる促進効果について、これまでの研究成果を解説します。
第 7 回	社会的アイデンティティ（集団間関係）	集団成員となることで他の集団と対立的になる心理過程及びその解決に関する研究成果を解説します。
第 8 回	ビジネスとアイデンティティ	企業合併など職場環境の変化から生じるアイデンティティの変化が職場のモラル、人間関係などに与える影響について解説します。
第 9 回	政治とアイデンティティ	投票行動や政治的態度、社会的信念などに対するアイデンティティの影響について解説します。
第 10 回	文化とアイデンティティ	相互協調的自己と相互依存的的自己など、自己とアイデンティティに関する文化差と、それによって生じる人間関係への影響について解説します。
第 11 回	差別とアイデンティティ	性別、人種、年齢（例えば世代論）等に関する偏見や差別とアイデンティティの関係について解説します。
第 12 回	キャリアとアイデンティティ	これまで授業で取り上げた研究や理論をキャリアデザインに応用するにはどのようなアプローチが考えられるが、受講者の意見も交えて議論します。
第 13 回	アイデンティティ研究の最前線	過去 1 年間に発表されたアイデンティティ研究の中から特に優れたものを抜粋し、最新の研究動向を解説します。
第 14 回	まとめ	これまでの授業内容を振り返り、よりマクロな視点からアイデンティティの問題を捉え直します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメ、図表および引用文献は、授業支援システムにアップロードします。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨んで下さい。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介いたします。

【参考書】

梶田淑一・中間玲子・佐藤徳編著『現代社会の中の自己・アイデンティティ』金子書房 2016
鐘幹八郎監修、宮下一博・谷冬彦・大倉得史編『アイデンティティ研究ハンドブック』ナカニシヤ出版 2014
脇本竜太郎編著/熊谷智博・竹橋洋毅・下田俊介共著『基礎からまなぶ社会心理学』サイエンス社 2014

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（70 %）、平常点（30 %）で評価します。ただし受講者の人数によってはレポート課題にて筆記試験の代替とする場合があります。授業回数の 3 分の 1 以上欠席の場合は、成績評価対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

毎回授業終了時にコメントペーパーにて質問を提出してもらいます。その内容を要約し次回授業にて質問への回答をします。

【Outline and objectives】

Students will learn theories concerning "identity" from social psychology perspective. Especially, it is focused on social identity theory and group dynamics.

SOC200MA

余暇集団論

展開科目

丁野 朗

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光による地域活性化は、地域の多様な産業に大きな経済波及効果があります。従って、地域の観光政策には、各種産業分野を横串する総合的な編集視点が求められます。同時に自然や景観、歴史遺産などの資源の保全・活用や、人の移動を支える地域交通の整備、地域食材などのブランド化など、多面的な事業とその組み合わせが重要となります。本講座では、こうした地域活性化の多面性や構造を理解し、新たな地域ブランディングや地域ビジネスの創出とその手法について考え、各地域の事例とともに実践的に考えることのできる手法・能力を習得を目指します。

【到達目標】

2018年末にわが国への訪日外国人客はついに3,000万人を超え、2020年政府目標として上方修正された4,000万人も視野に入ってきました。既にわが国のインバウンド需要は4,4兆円に達していますが、これは電子部品や自動車部品の輸出額を上回る規模となりました。こうした中、日本政府としても観光戦略は、国としての重点施策の柱となっています。この中で、政府は新たな観光ビジョンを策定し、その目標達成のために、国立公園の活用や「日本遺産」など地域文化資源を活用した地域活性化事業に取り組んでいます。「観光」とは読んで字のごとく、地域の「光」を「観る」ことです。しかし、その「光」は地域や時代によって大きく変化します。本講座では、各地域にある固有の歴史的・文化的資源のポテンシャル・資源性について考え、これらを観光など地域活性化のための資源として活用するための最新の編集視点や事業化手法などを学びます。授業では国内外の数多くの地域をケーススタディーします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は毎回パワーポイント資料を基本に、関係資料を用いて実施します。テキストは特に指定せず、毎回、パワーポイント資料を投影しながら講義を進めます。＊講義資料は授業支援システム（エチュード）を利用して逐次アップします。各自、教材をプリントアウトし講義に参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義全体の内容、到達目標などのガイダンス
第2回	I. 地域資源論	地域活性化のための資源の捉え方や編集の視点と手法
第3回	①「観光資源論」 I. 地域資源論	観光・サービスは「時間消費」。時間
第4回	②資源としての「時間」 I. 地域資源論 ③「時間」ビジネスとその手法	環境の歴史と現状などについて学ぶ マーケティングの基礎概念の一つ「時間消費」の事例と手法について学ぶ
第5回	II. 資源編集論 ①観光インバウンドと地域活性化	観光インバウンド政策と地域活性化の手法を学ぶ
第6回	II. 資源編集論 ②地域と二次交通（交通政策）	地域活性化や生活利便にとって不可欠の地域二次交通のあり方を学ぶ
第7回	II. 資源編集論 ③地域資源活用とストーリー（地域ブランディング）	日本遺産（文化庁）など地域文化資源の活用と編集視点
第8回	III. 地域イノベーション論 ①ツーリズムニューの手法	地域活性化のための新たな観光手法について学ぶ
第9回	III. 地域イノベーション論 ②産業観光とその手法	産業資源を新たな観光活性化に生かす視点と手法を学ぶ
第10回	IV. ケーススタディー① 鉱山地域の資源とその活用	日本の近代化の礎となった鉱山の資源とその活性化手法を学ぶ
第11回	IV. ケーススタディー② 電源地域の資源とその活用	地域エネルギー拠点の資源とその活用手法について学ぶ
第12回	IV. ケーススタディー③ 四囲を海に囲まれたわが国の港湾エリア	四囲を海に囲まれたわが国の港湾エリアの資源とその活用手法を学ぶ

第13回	IV. ケーススタディー④ 田園地域の資源とその活用	日本文化・食と伝統産業の源流である田園地域の資源とその活用手法を学ぶ
第14回	講義のまとめ	本講義のまとめとキャリアデザインの考え方について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各地域の事例に即して実践的な講義を行います。当該地域や関連地域についての予備知識が必要となりますので、各自、事前に予習して授業に参加してください。また、皆さんのゆかりの地域（出身地・居住地・かかわりのある地域など）では、どのようなことが可能か。当該地域固有の資源を編集し、どのような手法で地域活性化が可能なのか。期末レポートの課題としますので、毎回、そのことを意識しながら授業に参加して下さい。

【テキスト（教科書）】

固定の教科書は使用しません（毎回パワーポイント資料を配付）。

【参考書】

- ①『産業観光の手法』（学芸出版社）
- ②『地域からの未来創生』（学文社：共著）
- ③『レジャー白書』（（財）社会経済生産性本部刊）
- ④『産業観光への取り組み』（（財）日本交通公社／丁野朗監修）
- ⑤『日本遺産の可能性と期待』文化遺産の世界Vol. 26などを参照

【成績評価の方法と基準】

- 期末にレポート試験を行います
- 成績評価は当該レポートの成績（70点）と講義への貢献（30点：授業中の発言や授業への意見・感想コメントなど）を基準として評価します。
- レポートは授業に対する理解度はもとよりですが、皆さん自身の考えや手法等が明確に表現されていることを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

- 私語が目立つという指摘があります。私語をする学生は教室から退去して頂きます（真面目に学ぼうとしている学生を基準に対処します）。

【学生が準備すべき機器他】

- 講義資料は、毎回「授業支援システム（エチュード）」にアップします。紙媒体にプリントアウトしない場合は、ノートパソコンなどを持ち込んでください。

【その他の重要事項】

本講義内容については、シラバスに記載のもののほかに、皆さんからの質問・要望などを取り込み、これらに沿って、適宜、講義内容を発展させていきたいと思っています。その意味でも、積極的に講義に参加して下さい。

【その他】

本講義は、活きた地域の実践例を基本としますので、当該地域について、事前によく学習して授業に参加してください。

【Outline and objectives】

Tourism brings great economic effect to various industries in the region. Therefore, it is important to preserve and utilize local nature, landscapes, historic heritage, improve local transportation, branding of foods and so on. In this lesson, we will learn techniques for such community development and examples of various places

SOC200MA

NPO論

展開科目

山口 佳子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPOは地域社会のニーズに応える社会サービスの創り手として、社会的課題の解決と組織が掲げたミッション（使命）の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されています。しかし、現状として、多くのNPOが「人材・資金・事業・情報等」のマネジメントに課題を抱えています。本講義では具体的な事例を通して、NPO活動を発展させるためのマネジメントの向上について、そのあり方や課題を考察します。

【到達目標】

NPO／非営利組織についての基本的な知識を習得することに合わせて、その現状と社会的意義について理解を深めることを目標とします。また授業で得られた知識に基づいてグループワークを実施し、NPOの事業を考え、事業のプレゼンテーションを行えるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義では、テーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、グループでのディスカッションを行ってもらうこともあります。なお、初回アンケートにより、授業テーマに若干の変更があり得るほか、大学外でのフィールドワークも予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：	本授業全体の概要確認。参加者の関心事項についてのミニアンケートも行うので、受講希望者は必ず出席のこと。
第2回	NPOの基礎知識	NPOの意味や意義、NPOとNGOの違い、非営利の意味などについて理解する。
第3回	NPOの社会的役割	日本における市民社会の歴史を知り、日本におけるNPOの社会的役割について理解する。
第4回	NPOの具体的事例①	NPOの実態についての資料を利用し、その具体的な活動について理解する。
第5回	NPOの具体的事例②	実際にNPOで活動するゲストを招き、具体的な活動事例をもとに、NPOの社会的役割を考える。
第6回	NPOの組織と運営について	NPOの組織運営について学び、その課題について理解する。
第7回	NPOと行政との協働	NPOと行政の関係を学ぶとともに、「協働」の具体的事例を紹介する。
第8回	市民活動やNPOの現在	市民活動やNPO、またコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの最新事例の紹介する。
第9回	NPOと雇用	NPOの雇用・就労の場としての可能性と課題について、データを基にその問題点と可能性を考える。
第10回	中間振り返り	前半の知識の整理、質疑応答、ディスカッションなど。
第11回	グループワーク①	講義を踏まえてテーマを設定し、それに基づいたグループワークを実施する。
第12回	グループワーク②	グループワークのまとめ。アウトプットを完成させる。
第13回	グループワーク③	グループごとにプレゼンテーションをおこなう。
第14回	まとめ	全体のまとめ、レポート課題についてなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、授業であつた事例に関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験（50％）と、小レポート（10％）、授業への積極的貢献（20％）、グループワークとプレゼンテーション等への参加度・貢献度（20％）によって成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

NPOの立ち上げから10年間代表理事をつとめており、組織の運営、および様々な行政・民間企業等との協働について具体的な事例を通して、学生の皆さんと共にこれからのNPOの在り方について考えていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

NPO creates service in response to the needs of the community, solution and the organization of the social problem raised. NPO is expected to play a key role in solving the social problems and for the realization of the mission organized by them. However, many NPOs have problems with managing (human resources, funds, business, information, etc.) as a present situation. We are facing many objectives to be solved in the future as our challenge. In this course, we will examine the way and problem about improving management to develop NPO activities thorough concrete example.

SOC200MA

公共サービス論

展開科目

前浦 穂高

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共サービスとは何か？と問いかねられたら、皆さんはどのようなサービスを思い浮かべるだろうか。詳しくは授業で説明するが、公共サービスは、皆さんが思い浮かべる以上に多種多様で、また、私たちの日常生活及び社会生活に欠くことのできないものである。しかし、よく考えてみると、私たちは公共サービスについて知らないことが多いことに気付く。公共サービス論の授業では、受講者の皆さんと今後の公共サービスのあり方について考えたい。

【到達目標】

公共サービスを正確に理解し、今後の公共サービスのあり方について、受講者が明確な考えを持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。授業では、各テーマに沿うデータや事例を取り上げることで、実態に即した形で公共サービスに対する理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要説明 公共サービスの定義
第 2 回	公共サービスの提供と評価 (1)	公共サービスと公共政策の手段 公共サービスを提供する仕組み
第 3 回	公共サービスの提供と評価 (2)	公共サービスを評価する仕組み
第 4 回	政府と市場の役割分担 (1)	民間委託の歴史・現状・課題
第 5 回	政府と市場の役割分担 (2)	市場化テスト 公共サービス改革法のインパクト
第 6 回	政府と市場の役割分担 (3)	指定管理者制度の背景・現状・課題
第 7 回	政府と市場の役割分担 (4)	民営化の歴史と現状 (3 公社の民営化、郵民営化)
第 8 回	働く環境の変化と人事行政 (1)	地方公務員を取り囲む環境の変化 人事管理制度とその実態
第 9 回	働く環境の変化と人事行政 (2)	給与構造改革 能力・実績主義の浸透：人事処遇の個別化の進展
第 10 回	働く環境の変化と人事行政 (3)	非常勤職員の活用と課題 官製ワーキングプア 正規職員と非常勤職員との均衡処遇
第 11 回	公共サービスの現状 (1)	環境政策
第 12 回	公共サービスの現状 (2)	産業政策
第 13 回	公共サービスの現状 (3)	福祉政策
第 14 回	これまでの授業内容の整理とまとめ	これまでの授業内容の振り返り 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り扱うテーマには、時事問題が含まれる。ニュースを見たり、新聞を読んだりしておくと良い。また授業を受講するために、前の講義内容を復習しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

本授業ではテキストを指定しない。

【参考書】

- ・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉（2017）『公共政策学の基礎 新版』有斐閣ブックス。
- ・井上雅雄＋立教大学キャリアセンター編（2008）『講義 仕事と人生』新曜社。
- ・外山公美他著（2014）『日本の公共経営』北樹出版。
- ・磯崎初仁・金井利之・伊藤正次（2014）『ホーンブック 地方自治 [第 3 版]』北樹出版。
- ・岩崎馨・田口和雄編著（2012）『賃金・人事制度改革の軌跡—再編過程とその影響の実態分析』ミネルヴァ書房。
- ・大谷基道・河合晃一編著（2019）『現代日本の公務員人事——政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』第一法規。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出欠状況、授業への取り組み姿勢等）の取り扱いについては、受講者の意見を踏まえて決定する。出欠をとる場合は、平常点 40%、期末試験 60%で成績を決定する。出欠をとらない場合は、平常点 20%、期末試験 80%で成績を決定する。

期末試験は、公共サービスに関する知識を問うものではなく、提示した課題に対する受講者の考えを問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス執筆時点で、アンケート調査結果が届いていないため、アンケート調査に対するフィードバックはできない。学生からの質問や意見等については、授業の冒頭でコメントし、出席者全員にフィードバックしている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

Through this class, students learn about public service.

The public service is indispensable to our everyday life.

Therefore I want to think about future public service with students.

SOC200MA

アート・マネジメント論

展開科目

荒川 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとなって生み出されるアート、もしくはアートの要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】

わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら、アートとはなにか、わたしたちの生活や仕事にどのように活かしていくことができるのか、といったことを探ります。受け身の講義に終始せず、学生自身のアイデアや体験に基づくプレゼンテーションの機会を設け、ディスカッションを通じて理解と考察を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回	学問領域としてのアート	アートに関する研究領域について概説する。
第 3 回	「美」とは何か①	古来、人々が「美」をめぐるどのような探究を行ってきたのかを概観する。
第 4 回	「美」とは何か②	近代以降の「美」の概念の変化について論じる。
第 5 回	「アート」の誕生	西洋近代にアート（芸術）という領域が成立した背景を探る。
第 6 回	「アート」の制度化	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第 7 回	「アート」の伝播	明治以降の日本にアートという概念が導入された経緯をたどる。
第 8 回	「アート」の変容①	1960 年代頃を境にアートの表現が大きく変化していった経緯をたどる。
第 9 回	「アート」の変容②	20 世紀の末以来、アートという領域が著しく拡大した背景を探る。
第 10 回	生活のなかのアート	わたしたちの暮らしにアートがどのように関わっているのかを考える。
第 11 回	地域とアート	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第 12 回	企業とアート	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第 13 回	アートを支える多様な人材	社会とアートを結びつけるつなぎ手について考える。
第 14 回	まとめと試験	現代社会におけるアートの役割について、半期の授業を通して得られた知見を検証する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場に実際に足を運び、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりプレゼンテーションを行うことが求められます（フィールド活動の際に、入場料などの費用が若干かかる可能性があります）。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中にほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】

徳丸吉彦・利光功『芸術文化政策Ⅰ 社会における人間と芸術』日本放送出版協会
川崎賢一・佐々木雅幸・河島伸子『アーツ・マネジメント』日本放送出版協会

※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（課題の成果、ディスカッションへの参加など）： 50 %
期末試験（論述式）： 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生によるプレゼンテーション／ディスカッションの時間を十分確保するよう心がけたいと思います。

【Outline and objectives】

Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

SOC200MA

文化経営論

展開科目

荒川 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の成熟社会においては、「文化」が重要なファクターとなっています。ここで言う文化には、美術や音楽や演劇といった芸術文化はもとより、日常生活文化や伝統文化、映画やアニメ、ファッションなどの若者文化やポピュラー文化、さらには街並みや景観まで含まれます。それらを文化的「資源」ととらえ、まちづくりやひとづくり、あるいは文化産業をはじめとするビジネスなどに活用していくための「マネジメント」のあり方を考えます。

【到達目標】

文化のしくみを知り、文化に働きかけ、新しい文化を創生していくために、「文化をマネジメントする」という視点を養います。より具体的には、以下のふたつの面からアプローチします。まず、日本の文化政策、自治体の文化行政、文化予算やファンドレイジングなど、文化を取り巻くさまざまな制度について理解します。続いて、文化産業、企業メセナ、文化関連のNPOなど、文化を推進したり支援している多様な実践的活動について、その現状と課題、今後の可能性などを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら授業を進めます。一方的な講義に終始することなく、学生自身が実際に文化の現場に出かけ、そのマネジメントのありようを分析してプレゼンテーションをしたり、文化に関わるイベント等の企画立案を試みたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回	日本の文化政策①	明治から昭和初期までの文化政策の歩みをたどる。
第 3 回	日本の文化政策②	第二次世界大戦から戦後の文化政策の転換までを概観する。
第 4 回	日本の文化政策③	高度経済成長期の文化政策の特徴を探る。
第 5 回	日本の文化政策④	今日の文化政策の動向を概観する。
第 6 回	文化と法	「文化芸術振興基本法」をはじめ、文化を支える法的基盤について学ぶ。
第 7 回	文化と経済①	文化を支える予算やファンドレイズについて理解する。
第 8 回	文化と経済②	文化産業／創造産業について事例をもとに考察する。
第 9 回	企業による文化支援	企業メセナを中心に企業と文化の関係を探る。
第 10 回	市民社会と文化①	「創造都市」という考えを中心に文化と社会の関わりを考える。
第 11 回	市民社会と文化②	まちづくり・地域活性化の観点から文化にアプローチする。
第 12 回	文化のマネジメント①	学生によるプレゼンテーションと質疑応答
第 13 回	文化のマネジメント②	学生によるプレゼンテーションと質疑応答
第 14 回	まとめと振り返り	授業を通じて学んだことをもとに、文化をマネジメントするための方法や今後の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館、劇場などの文化施設、まちづくりのための各種プロジェクト、企業や自治体が開催するイベントなど、文化に関わる現場に実際に足を運び、そのマネジメントについてフィールド調査を行うことが求められます（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、文化関連の企画立案や、そのプレゼンテーションのための準備の時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中にほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】

授業中に適宜、参考図書および参考ウェブサイトを提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（課題の成果、プレゼンテーション／ディスカッションへの参加など）：50 %

期末試験（論述式）：50 %

【学生の意見等からの気づき】

知的発言が非常に多い授業との評価をいただいているのですが、ともすれば受け身の講義になってしまうため、学生の積極的な参画を促すべく、プレゼンテーションやディスカッションの機会を確実に設けていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

春学期開講の「アート・マネジメント論（社会とアートⅠ）」も併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

"Culture" is an important factor in the mature society of the 21st century. Culture here includes not only art such as fine arts, music and theater but also youth culture and popular culture such as movies, animation, fashion, and even cityscapes and landscapes. We consider them as "cultural resources" and try to make use of them for business development, such as town planning, human resource development and cultural industry.

SOC200MA

メディア文化論

展開科目

堤 信子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、テレビ、ラジオ、雑誌などによるメディア文化の歴史と現状について各メディアの具体的な事例をもとに紐解いていく。今日、メディアは、作り手と受け手の相互コミュニケーションを大事にしていく傾向にあり、メディアの受け手もメディア文化形成の一端を担っているといえる。また、ソーシャルメディアの隆盛により、メディアを創り出し、様々な日常を発信していくことができる。そこで本講義では、メディア文化の展開を学ぶだけでなく、アナウンサーなどの表現者としての技術や、多種多様なメディアを創り出していく手法も実践的に学んでいく。

【到達目標】

各種メディアの中身を理解することにより、今後ますます多種多様になっていく各種メディアとの関わり方を学ぶことができる。
また、発表などのプレゼンを通して、各自の表現力、コミュニケーション力の向上をも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の中に、授業内での学生による発表、表現力を磨くための演習を織り交ぜながら進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：メディア文化とは？	われわれのまわりに存在する主要メディアに着目し、メディア文化を捉える視座を確立する。
第 2 回	メディア文化の源流：雑誌、ラジオ、テレビ	雑誌、ラジオ、テレビの主要メディアの歴史的経緯を理解する。
第 3 回	雑誌メディアの文化論	週刊誌、月刊誌何例かを取りあげ、その歴史的経緯を分析していくことで、雑誌によるメディア文化形成を読み解く。
第 4 回	ラジオメディアの文化論	ラジオ番組の何例かを取り上げ、その歴史的経緯を分析していくことで、ラジオによるメディア文化形成を読み解く。
第 5 回	テレビメディアの文化論 ①	テレビ番組何例かを取り上げ、その歴史的経緯を分析していくことで、テレビによるメディア文化形成を読み解く①。
第 6 回	テレビメディアの文化論 ②	朝のレギュラー番組を取り上げ、番組に携わるスタッフ、出演者などの役割、生放送の仕組みを学ぶことを通し、メディアにおけるテレビの立場を紐解く②。
第 7 回	メディアを作る：ビジネス本の事例	『ありがとう上手の習慣』の制作秘話を交え、アナウンサーとしてのコミュニケーション術を書籍で伝えるという書籍メディアを理解する。
第 8 回	メディアを作る：旅エッセイ本の事例	『旅鞆いっぱいバリ・ミラノ』『旅鞆いっぱいバリふたたび』の制作秘話、取材法などを交え、メディア文化を作ることを理解する。
第 9 回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談 1	雑誌や新聞、通信社などの現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第 10 回	ソーシャルメディアの利用法	facebook や twitter 等のソーシャルメディアの特徴や今後の可能性を洞察し個人の関わり方を考える。専門家をゲストに迎えることも。
第 11 回	ラジオ番組の収録体験	ラジオのパーソナリティーをゲストに迎え、ラジオ番組の制作についての話を聞くとともに、受講生へのインタビューを収録する経験を通して、言葉で表現することの大切さを学ぶ。
第 12 回	アナウンサーに学ぶ情報の伝え方	アナウンサーなどのメディアにおける出演者が身につける技術の一つ、発声やプレゼン方法などの基礎を学ぶことで、自主メディアの発表に備える。

第 13 回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談 2	テレビ、ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。
第 14 回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談 3	テレビ、ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時々、レポート提出もあり得る。

【テキスト（教科書）】

教科書は、使用しない予定です。
配布資料中心です。

【参考書】

堤信子著「100人中99人に好かれるありがとう上手の習慣」ディスカヴァー 21

堤信子著「旅鞆いっぱいバリ・ミラノ」本の泉社
「旅鞆いっぱい京都・奈良」エイ出版社
「旅鞆いっぱいバリふたたび」実業之日本社
「旅鞆いっぱい京都ふたたび」実業之日本社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内発表や出席）40%と 課題レポート60%

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表など実践を今後とも積極的に取り入れて行きたいと思っています。テレビやラジオなどの番組に使用されている台本や原稿などにも実際に触れる機会を引き続き作っていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントや DVD 映像などを見せたりするので、スクリーンを使用します。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will understand the history and current status of media culture by television, radio, magazines etc. based on concrete examples of each media. Today, the media tends to cherish mutual communication between creators and recipients, and it can be said that media recipients also play a part in media culture formation. Also, with the rise of social media, it is possible to create media and transmit various daily life. Therefore, in this lecture, in addition to learning the development of media culture, we will also practice the techniques as an announcer and other expressors, as well as the methods to create a wide variety of media.

SOC200MA

文化マーケティング論

展開科目

酒井 博基

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 6/Tue.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化志向のマーケティングの考え方と方法について学ぶ。
文化化する産業と、産業化する文化。
社会の変化にともない、消費者の価値観や消費動向が急速に変化する現代において、文化と産業が重なる領域は、企業が消費者と良好な関係を築く上で、今後益々重要視されることが予測される。
今後さらに複雑化するマーケティング領域においては、事業性検討、戦略策定や製品開発などの具体的アプローチの検討はもちろん重要だが、それ以前にある社会的意義などの部分を深く考察する、コンセプト開発の能力が求められる。
この授業では、現代の社会背景を踏まえ、なぜ？ 何のために？ 誰のために？ 文化志向のマーケティングが世の中に必要とされるのかを考える力がつくような授業としたい。

【到達目標】

キャリアデザイン、コミュニケーションデザインの視点から文化マーケティングについて考察し、近い将来この分野で生き、働く上で有意義な考え方と方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

マーケティング、文化を全体的・動的にとらえるとともに、相互の結合を図る。マーケティングの基礎知識に加え、講師の事例紹介や、文化とマーケティングが重なる領域で活躍する実践者をゲストに迎えた講義も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業全体の説明
第 2 回	文化マーケティングとは	文化マーケティングが重視される背景、文化志向のマーケティングの考え方と方法
第 3 回	マーケティング基礎の理解①	マーケティングの考え方（プランニング、リサーチなど）
第 4 回	マーケティング基礎の理解②	マーケティングの考え方（ポジショニング、ブランディングなど）
第 5 回	文化マーケティング事例紹介①	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（街づくりプロジェクト）
第 6 回	文化マーケティング事例紹介②	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（アートプロジェクト）
第 7 回	文化マーケティング事例紹介③	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（メディア）
第 8 回	職業・仕事としての文化マーケティング①	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（アート領域）
第 9 回	職業・仕事としての文化マーケティング②	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（街づくり領域）
第 10 回	職業・仕事としての文化マーケティング③	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（広告・メディア領域）
第 11 回	職業・仕事としての文化マーケティング④	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（商業施設）
第 12 回	職業・仕事としての文化マーケティング⑤	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（エンターテインメント領域）
第 13 回	授業内簡易レポート	職業・仕事としての文化マーケティングについての授業内簡易レポートの実施、ポイント解説
第 14 回	文化マーケティングについてのまとめ	文化マーケティングについてのまとめと授業全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した事例について実際の展開を学ぶ

授業内で紹介した参考文献を読む

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、授業への積極的な参加、授業内簡易レポート）100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Learn about culture-oriented marketing thinking and methods.

Industry to culture and culture to industrialize.

In today's world where consumer values and consumption trends are rapidly changing due to social changes, the area where culture and industry overlap is to be emphasized more and more in the future as companies build good relationships with consumers. Is predicted.

In the field of marketing, which will become even more complex in the future, it is important to consider business approaches, concrete approaches such as strategy formulation and product development, but of course the ability of concept development to deeply consider social significance etc. Is required.

In this class, why is it based on the modern social background? For what? for whom? I would like the class to have the power to think whether culture oriented marketing is needed in the world.

SOC200MA

ブランド創造論

展開科目

首藤 禎史

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マーケティング戦略において重要な役割を担っている“ブランド”およびブランド戦略に関して、その起源や役割から、「ブランドとは何か」「それはどうマネジメントされるべきか」さらには「現代ブランド戦略の趨勢と問題点」などといったテーマに沿って検討・解説していきます。

【到達目標】

- ① ブランドの概念と捉え方を正しく理解する。
- ② 現代企業の主要なブランド戦略を理解・説明できる。
- ③ 現代のブランドおよびブランド戦略に関する問題点や捉え方を識別する。
- ④ 現代企業におけるマーケティング戦略に基づくブランド・マネジメントの構築と実行の方法を検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、講義形式で進められますが、学生諸君の積極的な質疑や授業参加を歓迎します。質問などがあれば、授業中に積極的に教員に問いかけてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容と授業の進め方の説明—授業概要	マーケティングとブランドの関係
第 2 回	ブランドの概念とその捉え方	ブランドとは何か、ブランドの起源やその捉え方
第 3 回	ブランドの種類とブランド設定の意義	ブランドの種類とその役割及び機能
第 4 回	現代企業のブランド政策 I	現代ブランド政策（ブランド・ネーム政策）
第 5 回	現代企業のブランド政策 II	ブランドの階層性と製品ライン拡張（ビジネスの多角化）
第 6 回	現代企業のブランド政策 III	ブランド・フランチャイズとブランド拡張戦略
第 7 回	ブランド・エクイティ	ブランド・エクイティとは何か—その始まりと目的・問題点
第 8 回	わが国の商標制度とブランド・マネジメント	わが国の商標商標登録に関する制度と現状
第 9 回	製品ブランド開発とブランド・マネジメント I	製品開発におけるアイデア創出の方法とマネジメント
第 10 回	製品ブランド開発とブランド・マネジメント II	製品ブランド開発の方法と手順
第 11 回	製品ブランド開発とブランド・マネジメント III	製品・事業開発と市場におけるそのマネジメント方法
第 12 回	現代企業のマーケティング戦略とブランド・マネジメント I	現代企業のマーケティング戦略の方法とブランド・マネジメントの関係
第 13 回	現代企業のマーケティング戦略とブランド・マネジメント II	現代社会におけるブランドの概念と問題点
第 14 回	現代市場と現代ブランド戦略のまとめ	現代市場において成功するブランド戦略とは何かについての議論と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経営・経済に関する基本的知識、および当該科目に関する予習・復習はもとより、大学生として授業に臨む心構えを期待します。また、日ごろの買い物などにおいて敏感に疑問を持つように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストについてはとくに指定しません。プリントを配布するか、Power Point を用いて授業をします。

【参考書】

D. A. アーカー著『ブランド優位の戦略—顧客を創造する BI の開発と実践』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %、授業中に小テスト等実施した場合は、+ a として採点します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

In this lecture, we study and discuss the brand management and strategy through considering what is brand, and/or what is the problem in the contemporary brand management.

SOC200MA

産業文化論

展開科目

砂川 秀樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、産業と人の移動や文化の変化、産業と都市や街の形成、そして、その中での人々の紐帯のあり方について学びます。それにより、産業が人々の生活に及ぼす影響について知り、私たちの生活、生き方との結びつきについて考えます。しかし、そうした社会的構造に規定される面があると同時に、私たちは社会を作り上げてもいるという視点にたって授業を進めていきます。そして、どういう社会のあり方が、多様な私たちにとって自分らしく生きられるものであるか、それを実現するためには何ができるのかということイメージできたらと思います。

【到達目標】

- (1) 産業と人の移動、文化の関係について知る
- (2) 今、大きな社会問題となっている産業と移民の関係について考えを深める
- (3) 都市と街、産業の視点から、生きやすい社会について想像する
- (4) 以上の学びを通して、社会構造と人々の生活が常に影響し合っている視点を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を中心としながらも、必要に応じてグループディスカッションを取り入れる予定です。また終盤には発表を予定しています。人数により、グループ発表にするか、個人発表にするかを決めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、講師の紹介、受講生の関心についての共有。
第 2 回	観光と文化（1）	観光とは何か。観光をめぐるそれぞれの経験を共有し、観光について考えるきっかけにする。
第 3 回	観光と文化（2）	観光人類学の考え方から、観光による文化の生成、ホスト-ゲストの関係をめぐる議論について学ぶ。
第 4 回	観光と文化（3）	具体的事例として沖縄をとりあげ、どのように観光地としての歴史をたどったのか、それによりどう変化したのかを考える。
第 5 回	移民と産業（1）	世界と日本における移民の歴史と現状、その背景についての概要。
第 6 回	移民と産業（2）	現在、日本において、その待遇に関して問題になっている外国人技能実習制度について考える。
第 7 回	移民と産業（3）	実質上の移民が多く居住する中、何が求められるのか、ともに働き、生活するとはどういうことか、これからの日本と世界における課題について議論する。
第 8 回	人の移動と文化の変化	これまでの話から、人が移動することと文化が変化すること、あるいは文化が多様化していくことについて考える。
第 9 回	盛り場と都市の紐帯（1）	盛り場や都市とは何か。それぞれが経験してきたこと、その中での人と人とのつながりがどのように形成されているのか、それと産業はどうかかわりがあるのか考える。
第 10 回	盛り場と都市の紐帯（2）	拙著『新宿二丁目の文化人類学』から、盛り場、街にコミュニティ意識ができるとはどういうことか、バーなどが果たす役割について考える。
第 11 回	都市の再編と街づくり（1）	いくつかの都市や街の実例をもとに、街づくりや都市計画と産業の関係について学ぶ。
第 12 回	都市の再編と街づくり（2）	「創造性」と産業、都市、そして、人々の生きやすさについて考える。
第 13 回	発表（1）	それぞれが好きな街について調べ、どのような店で構成されているのかを発表する。
第 14 回	発表（2）	どういう街が居心地がいい街なのかを考え、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、インターネット、雑誌、書籍などから調べたり、自分の考えを整理して、発表できるようにする。発表の準備をする。

【テキスト（教科書）】

なし。プリント配布。

【参考書】

『新宿二丁目の文化人類学』（砂川秀樹 著、太郎次郎社エディタス）／『創造都市への挑戦』（佐々木雅幸 著、岩波書店）／クリエイティブ都市論（リチャード・フロリダ 著、ダイヤモンド社）

【成績評価の方法と基準】

授業態度（意見の発表やディスカッションへの参加など授業への貢献など）：20% コメントペーパー：30% 発表：25% レポート：25%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

In this class, we learn how industry relates with migration of people or changes of culture, how cities are developed by industry, and how people make relationships in processes of those. Thereby, we explore how industry influences our daily lives and life courses. However we stand on a viewpoint that we negotiate with social structures while we are constructed by social structures. Finally, we aim to imagine what our societies should be like in order that diverse people live as they are, and how we can work on to realize it.

CUM200MA

ミュージアム概論

展開科目

金山 喜昭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：土 5/Sat.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化施設として「ミュージアムとは何か」について理解し、その社会的な役割や意義を学ぶ。

【到達目標】

将来博物館や美術館などに関連する仕事を志す者に対しては博物館に関する基礎的な知識を修得することをめざす。他方、文化・教育関連、地域や NPO の仕事でも活躍できる知識や能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

博物館学やその歴史を概観した上で、博物館の定義（種類、目的、機能など）を示す。さらに日本と海外の博物館の歴史や現状を説明するとともに、学芸員論や博物館法と関連法令などを取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館学の目的・方法・構成	授業ガイダンスに加えて、博物館ならびに学問としての博物館学について概説する。
第 2 回	博物館学史	博物館学の歴史を概観する。
第 3 回	ミュージアムの誕生	西洋の博物館の歴史について解説する。
第 4 回	日本の博物館史	日本の博物館の歴史について解説する。
第 5 回	博物館の制度（博物館法と関連法令）	博物館法ならびに関連する法律・制度について解説する。
第 6 回	博物館の分類	博物館の種類・設置者・対象にする領域など、多角的に博物館を分類して定義する。
第 7 回	日本の博物館の現状	博物館に関する統計データから博物館の現状と課題を解説する。
第 8 回	海外の博物館の現状	英国をはじめ、海外の博物館・美術館の最新状況について説明する。
第 9 回	博物館機能論	資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及など、博物館の特徴的な機能について説明する。
第 10 回	地域博物館論	各種の地域博物館の事例を取り上げ、その理念と現状について解説する。
第 11 回	博物館と地域コミュニティ	地域と市民生活にとって博物館が果たす役割や可能性を解説する。
第 12 回	博物館と現代社会	現代社会の諸課題に取り組む博物館の姿を紹介する。
第 13 回	学芸員の役割	博物館で働く専門職としての学芸員の仕事について解説する。
第 14 回	博物館現地調査	東京および関東近郊の博物館にて、その業務について学芸員から解説指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。
東京国立博物館はキャンパスメンバーであるために常設展は無料で見学できるので活用すること。

【テキスト（教科書）】

金山 喜昭『博物館学入門』（慶友社、2003）

【参考書】

金山 喜昭『日本の博物館史』（慶友社、2001）

金山 喜昭『公立博物館を NPO に任せたらー市民・自治体・地域の連』（同成社、2012）

金山 喜昭『博物館と地方再生ー市民・自治体・企業・地域との連携ー』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

出席（授業数の 70 % 以上）を前提として、学期末試験（100 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

授業計画の詳細や博物館見学会の日程は、授業中の指示、資格課程実習準備室の掲示等を留意すること。

【Outline and objectives】

This course aims to understand “What is a museum? as a cultural facility and learn its social role and significance.

CUM200MA

ミュージアム経営論

展開科目

杉長 敬治

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 6/Tue.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、博物館経営についての基本知識を学習します。基本知識の習得後、学生は、日本の博物館の経営の現状と課題について学習し、経営上の課題を解決するためのスキルについて学びます。

【到達目標】

日本の博物館が急増し始めた 1970 年代・80 年代とグローバル化が進み、社会構造が大きく変化しつつある現在では、博物館の経営環境は大きく変化しています。この変化に伴い、博物館に求められている役割や期待も、大きく変わりつつあります。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

博物館経営に関する基本事項について講義します。博物館の業種特性、博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）の現状と課題について理解を深め、博物館経営の望ましい在り方を考察していきます。①博物館制度論の観点からの考察、②博物館統計によるマクロな視点からの考察、③事例研究によるミクロな視点からの考察を行います。受講生には、講義内容を踏まえて、自身が選択した博物館について、フィールドワーク（講義外の時間を活用して博物館現場のリサーチを行う）などにより経営分析を行い、その成果をレポートにまとめてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスー博物館経営の基本概念、博物館の業種特性を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性について学習する。
2	博物館の経営資源について	博物館の主要な経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）について学習する。
3	博物館の経営資源から見た日本の博物館の特徴と課題	博物館の経営資源に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこと）を把握し、博物館の課題を考える。
4	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組について	博物館のミッションがどのように設定されているかについて学習する。また、ミッションを達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなる PDCA サイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
5	博物館の経営戦略についてーマーケティング	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの基本概念とマーケティングを活用した博物館経営について学習する。
6	博物館の経営戦略についてー広報戦略・ブランド戦略	博物館の経営戦略のうち、広報戦略・ブランド戦略について学習する。
7	博物館の経営戦略についてー連携・協力、支援組織	経営資源を豊かにする上で、連携・協力は極めて重要である。連携・協力の現状と課題について学習する。また、博物館の支援組織（友の会・後援会、ボランティア）について学習する。
8	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題について	利用者サービス施設（ミュージアムショップ、レストラン・カフェ）と施設設備に係わる諸問題（老朽化対策、バリアフリー）について学習する。
9	博物館経営におけるイノベーションについて	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
10	国立博物館の経営ー現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状と課題について学習する。主要国の代表的な博物館との比較を行い、各国の博物館経営の特徴について理解する。

11	公立博物館の経営ー現状と課題	公立博物館の行財政制度、指定管理者制度、地方独立行政法人制度とその導入事例、国の公立博物館に関する政策の動向について学習する。
12	私立博物館の経営ー現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
13	博物館の倫理規程・行動規範について	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理について・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、時間をつくって博物館を見学し、博物館経営の観点から博物館を観察・分析するマインドと方法を身につけてください。博物館を調査し、経営分析を行ってもらい、成果をレポートにまとめてもらいますので、講義外の時間に博物館現場に出向くことが必須になります。また、参考図書は、講義内容の理解を深めていく上で欠かせないものです。他の学芸員資格科目の学習にも役に立つものを選んでいきますので、積極的に読んでください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回プリントを配付します。

【参考書】

①公立博物館を NPO に任せたら、金山喜昭著、同成社、②博物館と地方再生：市民・自治体・企業・地域との連携、金山喜昭著、同成社、③ミュージアムが都市を再生する、上山信一・稲葉郁子、日本経済新聞社、④「日本の博物館総合調査研究」報告書・基本データ集、http://www.mus-nh.city.osaka.jp/sakuma/mirror_museum-census_jp/ に収録、⑤ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、⑥マネジメント、P. F. ドラッカー、ダイヤモンド社、⑦思想としてのミュージアム、村田麻里子、人文書院、⑧その他ー授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題にどのように取り組んでいるかを判定するため、①期末レポート（50%）、②各回の講義内容に添った課題レポート（40%）、③平常点（10%）により評価します。①の期末レポートのテーマは、博物館の経営分析です。対象として取り上げる博物館について、調査（現地調査を含む。）・分析をしてもらい、その成果をレポートにまとめてもらいます。②の課題レポートは、授業時に課題として出すものの中から選択してもらい、指定する時期までに提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんの授業理解が深まるよう進行速度を調整しながら講義します。授業内容に不明な点がある時には、質問をしてください。いただいた質問には、授業支援システムを使って回答します。また、授業環境（照明・温度）に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにより教材の配付や諸連絡を行います。授業毎に必ずアクセスをしてください。

【その他の重要事項】

この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目です。学芸員資格の取得を目指さないが、博物館経営に関心のある方の受講も念頭に置いて、授業を進行していきます。①疑問、質問、ご意見があれば、出席表のコメント欄に書いてください。皆さんのコメントは、授業への参画のための重要なツールで、授業を面白くする上でも重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く”そして“考える”がセットになった行動が必要不可欠です。経営分析のレポート作成を通して、皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館での勤務経験を踏まえて、博物館現場の姿を伝えることに力点を置きたいと思います。

【Outline and objectives】

Students will learn basic knowledge about museum management. After mastering basic knowledge, students learn about the current state of management and tasks of Japanese museums and learn about the skills to solve management problems.

CUM200MA

ミュージアム経営論

展開科目

金山 喜昭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：土 3/Sat.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミュージアムの経営の現状とその課題や改善について具体的に検討する。

【到達目標】

将来、ミュージアム（博物館や美術館などの文化施設）に関連する仕事を志す者が、ミュージアムの適切な管理・運営について理解するとともに、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

博物館や美術館の形態や運営に関する基礎的知識に加えて、組織管理・経営戦略・経営評価について学ぶ。特に、適切な管理・経営を遂行するミュージアムについて事例を学ぶとともに、実際のミュージアムの経営調査・報告発表等のグループワークを通じて、博物館経営に関する理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館経営とは何か？	授業ガイダンスに加え、博物館・美術館を「ミュージアム経営」の視点から考える必要性を概説する。「ミュージアム・マネジメント」の概念の理解。
第 2 回	博物館の経営基盤	博物館の経営基盤について概説する。特に、組織体や職種のほか、関連する行財政制度や人材育成面について、その特徴を解説する。
第 3 回	博物館経営の現状 I（公立博物館・民間博物館）	公立博物館及び民間博物館について、財務管理、施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ、施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 4 回	博物館の使命・社会的役割	博物館の社会的使命、行動規範・倫理ならびにリスク・マネジメント（危機管理）やコンプライアンスについて解説する。
第 5 回	博物館調査に入るためのガイダンス	博物館の経営調査をグループ・ワークで進めるための準備作業。調査から発表に至るまでの方法・プロセスや留意点を説明する。
第 6 回	博物館の計画・評価 I	博物館における使命・理念・方針を踏まえた経営計画・経営評価について、最新の事例を交えながら、解説する。
第 7 回	博物館の計画・評価 II	博物館における使命・理念・方針を踏まえた経営計画・経営評価について、最新の事例を交えながら、解説する。
第 8 回	博物館のコミュニケーション活動	内外の博物館における広報戦略、広告宣伝・マーケティング活動について、ミュージアム・グッズの開発・販売の事例を交えながら、解説する。
第 9 回	博物館における連携・ネットワーク I	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の最新事例を扱う。
第 10 回	博物館における連携・ネットワーク II	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の最新事例を扱う。
第 11 回	博物館経営調査（調査・分析）	実際にグループワークで博物館の経営状況について調査・分析し、その成果をまとめる。
第 12 回	博物館経営調査の実際 I（報告/討議）	グループワークで調査・分析した成果を発表・報告し、各事例について相互に討議・解説する。
第 13 回	博物館経営調査の実際 II（報告/討議）	グループワークで調査・分析した成果を発表・報告し、各事例について相互に討議・解説する。
第 14 回	本授業の総括と試験	本授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。実際にグループで調査するので授業時間だけでは足りません。曜日を決めて集まるなど、手間を惜しまずに取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

金山喜昭『公立博物館を NPO に任せたら-市民、自治体、地域の連携』（同成社、2012）

【参考書】

金山喜昭『博物館と地方再生』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

出席（授業数の 70 % 以上）を前提として、グループ調査の成果（30 %）、学期末試験（70 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

授業計画の詳細や博物館見学会の日程は、授業中の指示、資格課程実習準備室の掲示等を留意すること。

【Outline and objectives】

This course aims to learn the present conditions of museum management and consider its problems and improvement plans.

SOC200MA

多文化社会論 I

展開科目

小田 昌教

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる「グローバル人材」について書かれた本をみると、「異文化理解」は、グローバル人材に求められる「グローバル・マインドセット」であり、かつまた、グローバル人材に欠かすことのできない「ビジネススキル」いわれ、その重要性が指摘されています。なぜなら、2010 年代の現在でもなお、多くの国と地域では、異文化に対するさまざまな偏見や差別があり、そうした文化の摩擦や衝突が、しばしば紛争やテロリズム、ヘイトスピーチを生み出し、人種差別や排外主義などの問題をひきおこしているからです。とりわけ複数の異文化が混在する「多文化社会」ではそれが顕著にみられます。しかし、それはなにも外国だけの話ではありません。多文化社会化が進んでいる日本も決して例外ではなく、いまや異文化理解は、誰にとっても必要なマインドセットであり、現代を生きるために欠かすことのできないスキルです。

【到達目標】

この授業では、「異文化理解」だけでなく、多文化社会で生きてゆく上で知っておきたい教養として、「ステレオタイプ」「ヘイトスピーチ」「ヘイトクライム」「文化表象」「レイシズム」「オリエンタリズム」「文化相対主義」「多文化共生」といったことばの意味とその実例を、さまざまな映画や映像を通して学び、それを通して、多文化コミュニケーションのできるスキルとリテラシーを身につけることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は 4 つのパートに分かれています。

【A：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇】

最初のパートでは「異文化理解」のむずかしさを、それとは逆の「異文化誤解」の実例をみることで学びます。具体的には、みなさんにとってなじみのある日本文化が、二〇世紀から現在までの映画や、様々なメディアの中でどのように表象されてきたかを見てゆき、文化がいかに誤解されやすいものであるかを学びます。

【B：さまざまな視点からみた日本の文化】

このパートでは、日本の作家や表現者たちをはじめ、インバウンドや日本在住の外国人など、さまざまな視点からの日本文化の表象のされ方、語られ方を学びます。また近年、日本政府が海外にむけて展開している「国策としてのクールジャパン」についても考えます。

【C：レイシズムの過去と現在】

異文化に対する偏見や差別の多くは、レイシズムやエスノセントリズム、ステレオタイプや排外意識などから生まれます。このパートでは、多文化社会アメリカにおけるレイシズムの過去と現在、そして、日本におけるヘイトスピーチを通して、それらにどのように向かいあえばよいかを学びます。

【D：「文化相対主義」と「多文化共生」～多文化社会のいまと未来】

多文化社会のリテラシーとして最も重要なものに、「文化相対主義」と「多文化共生」という概念があります。高校の教科書では「文化相対主義」は「文化の多様性や異質性、価値観の相対性を前提とすること」と説明され、「多文化共生」は「たがいをあるがままに受け入れ、違いを認め、人間として尊重しあいながらともに生きてゆくこと」と説明されています（第一学習社「高等学校 倫理」）。これを記号学者のツヴェタン・トドロフは「平等のもとで差異を生きること」ということばで表現し、また、詩人の金子みすずの「みんなちがって、みんないい。」にもその考えをみてとることができます。このパートでは、文化相対主義を概念ではなく、現実として生きている人たちの存在を知るとともに、すでにさまざまなメディアやジャンルではじまっている多文化共生の具体的なとりくみと未来のヴィジョンを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【ガイダンス】多文化リテラシーチェックとアクティヴ・ラーニング	・Airbnb 事件 (2017 年) ・全日空「羽田国際線大増便CM」(2014 年) ・浦和レッズサポーター・ヘイトスピーチ横断幕事件 (2014 年) ・ユナイテッド航空事件 (2017 年) ・ザイン制作「ラマダーン月のほんとうの意味 2017 年」

2	A-1：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇 1 映画のなかのニッポン文化	・映画「チート」(1917 年) ・映画「ティファニーで朝食を」(1961 年) ・映画「007 は二度死ぬ」(1961 年) ・映画「東京画」(1985 年) ・映画「ブラックレイン」(1989 年) ・映画「ミスターベースボール」(1992 年) ・映画「ロスト・イン・トランスレーション」(2003 年) ・映画「キルビル」(2003 年) 海外のTVCMやMVに見るニッポン文化 サムライ、ニンジャ、ゲイシャ、キモノ、ヤクザ、寿司、蕎麦、相撲、ネオン、カワイイ、カタカナ プロパガンダアニメとSF映画に見るニッポン文化 ・ダン・ゴードン「ボパイ～ばかなジャップ」(1942 年) ・レオン・シュレジンガー「ルーニー・チューンズ〜トキオ、ジョキオ」(1943 年) ・NHK「憎しみはこうして激化した～戦争とプロパガンダ」(2015 年) ・エレクトリック・アーツ社「コマンド&コンカー レッドアラート3」(2008 年) ・ジェームズ・マンガールド「ウルヴァリン SAMURAI」(2013 年) ・マシオカ「HEROES」(2006 年) ・小島淳二「日本の形」(2006 年) ・田中健一「ジャパン ストレンジな国」(2010 年) ・村上春樹「カタルーニャ文学受賞記念スピーチ」(2011 年) ・ジョージ・タケイ「GAMAN」(2011 年)
5	B-1：日本人が海外に向けて語る日本文化の形と謎とその精神	・国土交通省「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(2003 年) ・日本オリンピック委員会「IOC総会プレゼンテーション」(2013 年) ・きゅりーばみゅばみゅ「にんじりばんばん」(2013 年) ・日清食品「SAMURAI」(2014 年) ・「ゴースト・イン・ザ・シェル」(2017 年)
7	B-3：インバウンドの視点から見た日本の文化	・地味「外国人が日本に来て撮ったwktk 動画集」(2008 年) ・sknb「スーベニア・オブ・ジャパン」(2012 年) ・マカロン・チャンネル「外国人の視点で捉えた日本映像が秀逸すぎる」(2014 年) ・アダム・マイヤー「ステンレス」(2013 年)
8	B-4：日本で暮らす「ガイジン」の視点から見た日本の文化	・ベトリ・ストロベリ「ア・ライフ・イン・ジャパン」(2010 年) ・ロコハマ「在日黒人男性から日本人へのオープンレター」(2015 年) ・カメル・アメット「ゴッド・イン・ニューヨーク」(2007 年) ・マイケル・ブラウン射殺事件 (2014 年)
9	C-1：多文化社会アメリカにおける人種差別とヘイトクライム	・フレディ・グレイ死亡事件 (2015 年) ・チャールストン米黒人教会銃乱射事件 (2015 年) ・大統領候補ドナルド・トランプ問題発言 (2015 年) ・ユネスコ「人種の本質と人種の違いに関する声明」(1951 年) ・山口敏「『人種』は虚構か」 ・ベルトラン・ジョルダン『人種は存在しない』(2013 年) ・世界人権宣言ボルトガル事務局「世界人権宣言 50 周年記念CM」 ・アンジェリカ・ダス「ヒューマン」(2008 年) ・映画「アミスタッド」(1997 年) ・映画「ホテル・ルワンダ」(2004 年) ・映画「リンカーン」(2012 年) ・映画「ジャンゴ 繋がれざる者」(2012 年) ・映画「マンデラ 自由への長い道」(2013 年) ・映画「グローリー 明日への行進」(2014 年)
10	C-2：人種差別の起源とその歴史	

- 11 C-3: いま・そこにあるレイシズムと向かいあう
・日本テレビ「21世紀への伝言 キング牧師」(2000年)
・PBS制作「分断されたクラス」(1985年)
・ABC制作「あなたならどうする〜人種差別の実験」(2003年-)
・NYタイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012年)
・マイケル・サンデルの白熱教室 2018「人を見た目で選んでもいいのか?」
・映画「スワロウテイル」(1996年)
・映画「サウダージ」(2011年)
・ブラッド・ブラッドフォード「ハーブじゃないんだ」(2012年)
・kanadajin3「WHITE JAPANESE PEOPLE -白人系日本人」(2013年)
・リンダⅢ世「愛犬アンソニー」(2013年)
・ボンジュノ「シェイキング東京」(2008年)
- 12 D-1: 同時代のメディア表現にみる日本のリアルと多文化状況
- 13 D-2: 「HAFU」の視点から見た日本の多文化状況とその未来
・映画「HAFU」(2013年)
・西倉めぐみ「私は「半分日本人」ではなく「半分外国人」とみなされる」
・ヒリス&ブル研究所「生命の樹」(2005年)
・NYタイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012年)
・モ・モンド社「The DNA Journey」(2016年)
・アシュラ・K・ル＝グイン「ゲド戦記を観て」
・マックルモア&ライアン・ルイス「セイムラヴ」(2013年)
・アド・カウンスル「Love Has No Labels」(2015年-2017年)
・アップル社「プライド」(2014年)
・プリンス Ea「わたしは黒ではない、白でもない」(2015年)
・ハインケン社「Worlds Apart OpenYour World」(2017年)
・プリンス Ea「わたしは黒ではない、白でもない」(2015年)
- 14 D-3: 平等のなかで差異を生きたこと、多文化社会と民主主義の精神

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本では「スーパープレゼンテーション」(NHK教育テレビ)という番組名で放映されている「TEDトーク」は、みんなでシェアする価値のあるアイデアを世界にひろめ、それを学ぶことのできる動画学習サイトです。すでに2000を超えるコンテンツがあり、さまざまなジャンルの専門家たちの興味深い話を無料で視聴することができます。日本語版サイト (<http://www.ted.com/talks?language=ja>) もあり、そこには多文化社会に関するコンテンツもありますので、リストアップしました。授業時間外の準備学習・復習ならびにアクティヴ・ラーニングのための教材として積極的に視聴してください。(※ Google で下記のタイトルを検索すれば簡単に見つかります)

・デヴィッド・ウィリアムス
「人種差別はなぜ黒人の健康を阻害するのか?」
・ヤズミン・アブデルマジッド
「最初の認識をスルーすること、それはまちがっているから」
・チママンダ・アディーチェ
「シングル・ストーリーの危険性」
・バサーム・タリク
「多様で美しい、ムスリムとしての生き方」
・アナンド・ギリダラダス
「2つのアメリカの物語と、衝突の現場になったコンビニ」
・デーヴ・トロイ
「人種はなにも決定しない、ソーシャルマップが街に住む人々の往来と、さらに分離を描き出す」
・リッチ・ベンジャミン
「アメリカで最も白人主義的な町々に突入」

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。授業ごとに、プリントを配布します。

【参考書】

参考書は使いません。授業ごとに、必要な資料をプリント配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に実施する「アクティヴ・ラーニング方式」のテストで評価します。テストの方法については、最初の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートで「とてもわかりやすい」と好評だった映像資料や映像教材をさらに充実させます。授業は、シラバスのスケジュールに沿って進めますが、開講中、この授業と関係する事件や出来事が起きた場合などには、それに対応して、リアルタイムのニュースやトピックをとりあげながら、臨機応変に授業を進めてゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、携帯電話、プリント保管用クリア・ファイル

【その他の重要事項】

この授業では、教材として、たくさんの映画や映像作品を紹介しますが、授業時間の制約があるため、作品を全編通して見ることがあまりできません。したがって、授業で紹介した映像のなかで興味を持った作品があれば、図書館やレンタルショップ、YouTubeなどを積極的に活用して、各自で全編を通して見るように心がけてください。また授業で映像を見ているときは、映画館と同じく、まわりの人たちの学習のさまたげにならないよう、私語や携帯電話、スマートフォンなどの使用はひかえてください。ただし、授業中に今すぐネットで検索したいことや、メモしておきたいことがあるときだけは、使用してもかまいません。

【Outline and objectives】

Goals of this course are the acquisitions of

- (1)Literacy for multi-cultural societies
- (2)Skill for understanding of the other culture.

SOC200MA

多文化社会論Ⅱ

展開科目

山田 貴夫

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 1/Wed.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の植民地支配の結果、日本に定住する在日韓国・朝鮮人、中国人や 1990 年代前後から移住してきた Newcomer など、日本に暮らす外国籍住民や民族的少数者は多様化してきている。彼らに対する処遇政策の歴史と現状・課題を学び、外国人労働者の増加が不可避となった現在、多民族・多文化が共生できる日本社会を構築するために必要な制度設計とマジョリティである日本人の課題を考える。

【到達目標】

日本の近現代の歩みを東アジアとの関係史の中でとらえ、戦後の歩みも冷戦体制を背景に捉え、自国（自民族）中心の発想を見直したい。また、日本社会は日本国籍者のほか様々な外国にルーツをもつ住民で構成されていることを意識化してほしい。そして、違い（差異）を豊かさにとらえ、多民族の人格と人権が尊重される社会の形成に関心を持ってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使って講義を行い、このほか必要な資料を配布する。受講者は出席票に毎回必ず質問、意見、感想などを記入し、重要な意見、質問には翌週の授業に補足説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業計画説明。及び近代の日本と東アジアの関係の概論	明治維新以降の西欧の開国要求と東アジア各国の対応
第 2 回	台湾の植民地支配	台湾植民地支配の経過と実態。植民地支配が残したもの
第 3 回	朝鮮植民地支配	朝鮮植民地支配の経過と実態。植民地支配が残したものは何か
第 4 回	中国、東アジアにおける戦争責任	日本が与えた被害と戦後賠償の実態
第 5 回	日本軍「慰安婦」等の事例から戦後補償問題を考える	「慰安婦」問題を通して加害の事実と名誉回復、被害の補償の実態
第 6 回	日本の敗戦受諾と旧植民地出身者の処遇	占領下の在日朝鮮人政策の実態
第 7 回	サンフランシスコ平和条約と戦後の日本の政治体制	植民地の放棄、東京裁判受諾、領土問題等と在日コリアンに対する国籍差別の開始
第 8 回	日韓条約について	何が解決し何が未解決なのか、交渉の経過と課題を考える
第 9 回	在日コリアン二世の登場と権利獲得運動	日本に永住を決めた世代の権利獲得運動とアイデンティティ確立
第 10 回	在日外国人の政治参加、社会参加	外国人の参政権、公務就任権など住民としての参加の権利を考える
第 11 回	外国人移住者の問題、経過と受入れの関する議論	1990 年入国管理法改定によって急増した外国人移住者とその法的地位・在留管理
第 12 回	国際人権法から外国人の人権を考える	特に人種差別撤廃条約を事例に。国際人権法から見た日本社会を考える
第 13 回	「外国人材受入れ・共生のための総合的対応策」を検討する	国連人権委員会の勧告、諸外国の政策を参考に外国人移住者受入れ問題を考える
第 14 回	ヘイトスピーチから多文化共生を考える	川崎、大阪、新大久保などで行われたヘイトスピーチとヘイトスピーチ解消の取組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回参考文献を紹介するので、関心に応じて読んでほしい。

【テキスト（教科書）】

指定のテキストはない。毎回資料を配布する。参考書は以下の通り

【参考書】

田中宏『在日外国人第三版』（岩波新書）、内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』（日本史リブレット山川出版）、趙景達『植民地朝鮮と日本』（岩波新書）、文京洙『在日朝鮮人』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

期末試験は試験時間内に小論文の作成とし 70%、平常点 30% の配分とする。

【学生の意見等からの気づき】

客観的に考えられるように適切な資料を配布し丁寧な説明を心がけ、理解を助けるように努める。

【Outline and objectives】

Immigrants in Japan has been diversified. Some, called 'old comers', migrated from Korea and Taiwan under Japanese colonialism and others, called 'new comers' migrated from somewhere under globalization mainly since the 1990s. The number of immigrants in Japan can be expected to increase as a result of recent immigration policy change. This course will help students to learn a critical history of Japanese immigration policy and some challenges for constructing a multi-cultural or multi-ethnic Japanese society.

SOC200MA

多文化社会論Ⅲ

展開科目

加藤 丈太郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に人の移動が活発になり、移民・難民の数は増え続けている。一方、アメリカ・メキシコ国境間への壁の建設計画、ヨーロッパでの極右政党の台頭に象徴されるように、受け入れ社会における移民・難民への憎悪も増している。日本における在留外国人数は過去最高を更新し続けている。2018 年、日本政府は新たな外国人労働者の受け入れを決断した。しかし、外国人労働者が家族を帯同することは原則として認めていない。さらに、移民政策は取らないと強調している。2020 年には東京五輪が開催される。外国人観光客数を年間 4,000 万人とする目標が掲げられ、来日に当たっての外国人へのビザ発給要件は緩和される。外国人（移民）を巡る課題も増えることが想定され、課題解決の方策が必要とされる。また、日本は「多文化社会」を目指すのか、目指さないのか、真剣に考えるべき時に来ている。

本授業では、移民・難民の人生を通して「多文化社会」のあり方を共に考える。また、移民・難民をめぐる対立や紛争を調和・調整できる人材の育成を目指す。受講者は、ミニリサーチ発表会、ワークショップ（ドラマづくりなど）を通じ、クリティカルシンキング・想像力を鍛える。

【到達目標】

- ・日本の出入国管理政策の現在、外国人受け入れの変遷を理解できるようにする。
- ・日本における「多文化社会」とは何かを自ら考えられるようになる。
- ・将来、NGO/NPO、国際機関、企業等で働く際に必要となるクリティカルシンキング・想像力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義（約 2/3）とワークショップ（約 1/3）から構成される。講義の際には、映像、ゲストスピーカーのお話を取り入れ、受講者が移民・難民の人生を少しでも感じやすくするようにする。講義で扱った内容を、後からワークショップでアウトプットする。活きた知識の習得を目指す。ワークショップでは一部、授業外でグループ毎に準備をしてもらう。履修登録の際にはこの点に留意されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 日本の出入国管理政策の現在（講義）	講義内容、評価方法を説明する。 日本の出入国管理政策の何が改正され、今後どのような課題が想定されるのかを解説する。
第 2 回	第 1 回の続き（講義） 多文化社会（外国人と共に暮らすことができる社会）とは（ワークショップ①）	前回の講義の続きを解説する。 映像を視聴後、「ダイヤモンドランキング」（ワークショップの手法の一つ）を使って多文化社会について考える。
第 3 回	在日コリアン（講義）	在日コリアンの就職差別・ヘイトスピーチとの闘いに学ぶ。
第 4 回	「多文化共生」を問い直す（ワークショップ②）	テキスト（山田）の論考を元に、日本型「多文化社会」とも言われる「多文化共生」を問い直す【テキスト使用】
第 5 回	日系ブラジル人（講義）	1990 年代以降に受け入れが進んだ日系ブラジル人を巡っては様々な課題が提起されている。特に子どもの教育・若者の進学における課題について考える。
第 6 回	技能実習生（講義）	技能実習制度は国際貢献か労働力補充の手段なのか。多面的に制度を見る。
第 7 回	外国人労働者受け入れにおける課題—地方の現場から（ゲストによる講演）	山梨県から人材派遣会社の社長と県内で働く外国人をゲストにお招きする。お話から「地方」における課題という視点を得る。受講者には感想文を次週に提出してもらう。
第 8 回	留学生（講義） ミニリサーチ準備	多くの留学生が日本での就職を希望している。現行の制度でキャリアの構築は可能かを考える。 授業の終盤では、次週のミニリサーチの準備をグループ毎に行う。【テキスト使用】

第 9 回 ミニリサーチ発表会（ワークショップ③）

第 10 回 難民（講義）

第 11 回 非正規滞在者（講義）

第 12 回 日本に暮らす外国人の気持ち进行を想像する「ドラマ」づくり①（ワークショップ④前半）

第 13 回 日本に暮らす外国人の気持ち进行を想像する「ドラマ」づくり②（ワークショップ④後半）

第 14 回 試験・まとめ

テキスト（田中・加藤・松尾）のいずれか 1 章を選び、その章を読んで興味を持ったことについてグループ毎に調べ、全体に発表する。【テキスト使用】日本において難民受け入れ数が少ないのはなぜかを考える。また、日本でファッションデザイナーとして活躍するミャンマー人難民の半生に学ぶ。もし、あなたビザがない若者だとしたら日本でどうやって生きて行くのか。当事者の経験から考える。
演劇ワークショップ準備編
テキスト（飛田）の内容を理解する。グループ毎にドラマの脚本を作る、配役を決める。【テキスト使用】
演劇ワークショップ発表編
グループごとに発表する。

論述形式（持ち込み不可）の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの指定箇所を事前に読んで来る。【第 4 回・第 8 回・第 12 回】
- ・ゲストスピーカーの話を聞いての感想文を提出する。【第 7 回】
- ・ミニリサーチ発表会、「ドラマ」づくりは、授業外でもグループ毎に集まっての事前準備が必要となる。履修登録に当たっては、この点に十分留意されたい。【第 9 回・第 13 回】
- ・移民・難民をめぐるニュースに注目すること（新聞を読むこと）。

【テキスト（教科書）】

松尾慎編著、山田泉・田中宝紀・加藤丈太郎・飛田勘文著（2018）『多文化共生 人が変わる、社会を変える』にほんごの凡人社、978-4893589521、2,160 円

【参考書】

- ※読みやすいものを挙げている。興味があるものはぜひ手に取って読んでみて欲しい。
- 移民政策学会設立 10 周年記念論集刊行委員会編（2018）『移民政策のフロンティア—日本の歩みと課題を問い直す』明石書店、978-4750346526
- 岸澤健介（2018）『コンビニ外国人』新潮新書、978-4106107672
- 中島弘象（2017）『フィリピンパブ嬢の社会学』新潮新書、978-4106107047
- 西日本新聞社（2017）『新移民時代—外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店、978-4750345864
- 山村淳平（2015）『難民からまなぶ世界と日本』解放出版社、978-4759263398

【成績評価の方法と基準】

試験（50 %）、ゲストによる講演の感想文（5 %）、ワークショップへの貢献度（45 % 内訳：① 5 %、② 5 %、③ 15 %、④ 20 %）により評価する。講義の回の出席は取らないが、試験は毎回の出席を前提として問題を作成する。また、持ち込み不可とする。遅刻・欠席が多いと高い点数を得るのは難しいであろう。

本授業はワークショップを多く取り入れ、カリキュラムを構成している。急な欠席は、本人だけでなく、グループのメンバーにも多大な影響を及ぼす。就職活動・インターシップ等を理由とした、ワークショップの欠席に救済措置は原則として取らない。ワークショップに欠席の場合、当該回の得点は 0 点となる。また、ワークショップ③・④で高い評価を得るためには、授業時間外での準備が前提となる。履修登録をする際にはこれらの点に十分留意すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・昨年度はキャリアデザイン学部・国際文化学部から、2-4 年生まで幅広い履修があった。アンケートより、昨年度の受講者は、初めて出会う他学部、他学年の受講者とのワークショップを楽しんでいることが分かった。今年度においても、新たな出会いを楽しんで欲しい。
- ・「パワーポイントの文字が細かい」とのご指摘をいただいた。パワーポイントは出来るだけ簡潔にする。文章が長くなる箇所は別途プリントを提供する。また、今年度はテキストを導入し、文章はテキストで読んでもらうことにする。
- ・昨年度は毎回リアクションペーパーの提出を求めた。ぎっしりと意見や質問を寄せていただいたが、一方で、リアクションペーパーが受講者からの教室での発言機会を減らしていると感じた。授業中に多く発言・質問をしていただきたいため、今年度は、リアクションペーパーは原則として用いない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。ワークショップの際、何か使いたい機器があれば事前に相談をすること。

【その他の重要事項】

- ・講義時は、分からない点、より深めたい点を講師に質問すること。
- ・講義中の私語は他の受講者の迷惑となるので、厳重に慎むこと。
- ・ワークショップ時は、学部・学年の枠を超えて、初めて話す方同士で議論をしていただく。ぜひ、ワークショップに苦手意識を持つ方こそ、積極的に交流して欲しい。
- ・皆さんがアウトプットを出せば出すほど、学びが深まり、授業が面白くなる。私も受講者と共に学ぶことを楽しみにしている。
- ・授業時間外の学習を多く求める科目である。決して「楽勝科目」ではない。履修登録をする際にはこの点に十分留意されたい。
- 「実務経験のある教員による授業」該当
日本の外国人支援 NGO/NPO で外国人相談に当たってきた。受講者には移民・難民について字面だけではなく、リアリティを持って考えてもらうことを目指す。

【Outline and objectives】

This subject considers "Multi Cultural Society" through life of migrants and refugees in Japan. The lecturer intends to educate students to mediate and coordinate conflicts regarding migrants and refugees. Students develop their critical thinking and imagination by various activities such as mini-research presentation and workshop (making "drama").

ARS200MA

アジア社会論 I

展開科目

趙 宏偉

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジアの国々、人々の生き方を知るには、彼らの地理と歴史の空間と時間の中での経済の営みを知ることが重要である。経済の営み、発展のプロセスは、各地域社会の人びとの生活、宗教、意識を基盤として繰り広げるものである。この講義はアジアの国々について、地政学の観点を取り入れながら、その国の発展を中心に、政治、社会、文化も語る。受講者は国際知識を増やし、とりわけ日本が立地するアジアに対する知識と意識を養う。

【到達目標】

東南アジア諸国を中心に、その政治と経済、社会と文化の基礎的な知識を得、地図、年表、当家資料、文化遺産、地球儀などを活用して地理と歴史を把握し、日本と比較し関連付けて考察する。公民教育における本授業の意味は、アジアの国々の政治と経済、社会と文化について地政学の観点から学習し、国際化し続く日本社会と国際社会の中で広い視野をもちながら主体的に生きることを心得ることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教員の講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。なお、去る一週間の国際時事問題を 15 分ほどの時間を利用して解析する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	地図をもとに授業で扱う国の位置関係を把握し、授業のテーマと課題意識を共有する。
2	韓国、危機と改革	危機と改革の反復運動。
3	台湾 主体的発展と中国大陸との関係	台湾は大陸を経済の舞台とする。台湾の発展プロセスを講義する。
4	香港、世界 1 の自由経済	自由度世界一の市場経済の発展と中国大陸との関係。
5	シンガポール、儒教経済	儒教政治・文化と経済発展。
6	タイ、積極的な開放経済	積極的な開放経済と政治不安定
7	マレーシア、多民族、多宗教の共存経済	マレーシア、多民族、多宗教でありながらの政治安定と共存経済
8	インドネシア、2 億人の経済開発	経済開発における軍政と民主主義
9	フィリピン、サービス産業に活路	フィリピン、政治・経済紆余曲折、サービス産業に活路。
10	華人経済圏	東南アジアをつなぐ華人経済圏の歴史と現在
11	ベトナム、社会主義と経済	社会主義の低開発から高度成長期へ移行
12	インド、高度成長の時代	カースト社会・経済構造からサービス業を中心とする経済成長へ
13	中国、新たな超大国	低開発の社会主義国から新たな超大国へ
14	アセアンと中国	アセアン・中国自由経済圏と東アジア共同体

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に教科書を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書 アジアの政治経済・入門新版（有斐閣ブックス）片山裕、大西裕

【参考書】

エズラ・ヴォーゲル『ジャパン・アズ・ナンバーワン』TBS ブリタニカ、1979 年。
エズラ・ヴォーゲル『ジャパン・アズ・ナンバーワン—それからどうなった』たちばな出版、2000 年。
関志雄『チャイナ・アズ・ナンバーワン』東洋経済新報社、2009 年。
岩崎育夫『入門東南アジア近現代史』講談社現代新書、2017 年。
趙宏偉他『中国外交の世界戦略』明石書店、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業態度、授業への積極的な参加と貢献（40 点）、2. 学期末に筆記試験（60 点）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳禁、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

この科目はアジアの知識を習得することにより、情報収集力・分析力、情報判断・行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】

Asian Society I

The lecture talks about the politics, economics, society and culture of each country, taking into consideration the geography of Asia, the space and time of history, and the geopolitical perspective. Participants will increase international knowledge and, in particular, develop knowledge and awareness of Asia where Japan is located.

ARS200MA

アジア社会論Ⅱ

展開科目

趙 宏偉

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア社会論Ⅰで学修したアジアの国々についての知識を踏まえて、アジア社会論Ⅱでは諸国間の国際関係について教授する。アジア太平洋地域の国際システム及び各国間の外交は、中国外交史を手がかりに、その基礎知識を総合的に講義する。受講者はアジア太平洋の国際問題について知識を増やし、自らの問題関心と理解を深める。

教員の講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。なお、授業のはじめの15分ほどの時間に、去る一週間の国際時事問題を解析して受講者の国際知識を増やし国際社会に対する関心を養う。

【到達目標】

アジア太平洋地域という地理の空間と歴史の時間における国際関係を1990年代以来のプロセスを中心に把握することは、授業の到達する目標である。地図、年表、統計資料、文化遺産、地球儀などを活用し、そして日本と比較し関連付けて考察する。公民教育における本授業の意味は、アジア太平洋という国際社会の面々を地政学の観点から学習し、国際化し続く日本社会と国際社会の中で広い視野をもちながら主体的に生きることを心得ることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、授業開始からの15分ほどを使ってその週の国際時事を解説し、それから、教科書を使って講義を中心とする授業を行うが、質疑応答とディスカッションの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	地図をもとに授業で扱う国の位置関係を把握し、授業のテーマと課題意識を共有する
2	国際関係学におけるアジア	国際関係のなかでアジアをどう捉えるか
3	朝鮮戦争	朝鮮戦争における朝鮮半島と米中ソ
4	東南アジア諸国の独立とアジア太平洋の国際関係	1950年代の東南アジアと国際社会
5	ベトナム戦争と東アジア	インドシナ問題と米ソ中
6	中ソ関係	中ソ、同盟から敵対へ
7	米中関係	敵対から和解へ
8	日中関係 1	1972年の国交正常化までの歴史
9	日中関係 2	国交正常化後の日中友好の時代、1990年代まで
10	日中関係 3	日中対立の時代、2000年から
11	中国外交と上海協力機構	中国・ロシア・中央アジア・西アジア協力体制
12	アセアンとアセアン共同体の成立	アセアンと日中韓米との関係
13	東北アジアの国際関係	北朝鮮核問題を巡っての関係国の国際関係
14	日中露関係の歴史と現在	日中露間の合従連衡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎日『日本経済新聞』の国際ニュースに目を通すこと、授業前に教科書を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

益尾佐知子、青山瑠妙、三船恵美、趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会 2017 年。

【参考書】

趙宏偉 他著『中国外交の世界戦略—日米アジア攻防の 30 年』明石書店、2011 年。

進藤榮一『東アジア共同体をどう作るか』筑摩新書、2007 年。

毛里和子『現代中国外交』岩波書店、2018 年。

趙宏偉『中国外交論』明石書店、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

授業態度、授業への貢献度（40 点）を求め、学期末に筆記試験を行う（60 点）。

【学生の意見等からの気づき】

私語の禁止、携帯弄りの禁止、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

この科目は国際関係の知識を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】

Asian Society II

The lecture will teach comprehensively the basic knowledge of international relations in the Asia-Pacific region and diplomacy of each country based on the history of Chinese diplomacy. Students will increase their knowledge of international issues in Asia Pacific and deepen their own interests and understanding.

ARS200MA

国際関係論 I

展開科目

趙 宏偉

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は現代の国際関係、その理論、地理、歴史、時事を踏まえて講義する。中国と各国との国際関係を手がかりに文明論からリアリズムまで様々な視点から国際社会における国家間、パーソン間のドラマを観察する。受講者は国際社会についての見方、国際問題の解け方、国際社会における人間の生き方を学ぶ。人びとはその生活、宗教、意識を基盤として地理と歴史の中で政治、経済、文化さまざまなしくみを形成し、人間は具体的な国のみならず、国際社会のしくみの中でさまざまな生き方を営んできた。人間が作り、かつ暮らしている国際社会のしくみを知り、そしてそんな国際社会を生きる人間の営みを考察する。そのことは一国にとどまらないキャリアデザインを考える人に限らず、国際化している現代社会を生きる我々一人ひとりのキャリアデザインにとって重要である。

【到達目標】

国際関係学の諸理論を知り、その基本を習得することはまずの目標である。そのうえ、地理の空間と歴史の時間に繰り広げられている国際関係の局面局面を地図、年表、文献資料、文化遺産、地球儀などを活用してその地理と歴史を把握し、日本と比較し関連付けて考察する。公民教育における本授業の意味は、国際社会における政治と経済、社会と文化について学習し、国際化し続く日本社会と国際社会の中で広い視野をもちながら主体的に生きることを心づけることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業のはじめの 15 分ほどの時間に、去る一週間の国際時事問題を解析して受講者の国際知識を増やし国際社会に対する関心を養う。教員による講義を中心とするが、質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業の進め方や課題を含めて説明する
2	国際関係学の視点（1）	国際関係学の理論
3	国際関係学の視点（2）	国際関係学の方法論
4	国際関係学の視点（3）	国際関係学の学説
5	国際関係学の視点（4）	質疑応答を中心とした基礎概念の復習
6	ユーラシアの国際関係	対立から協調へ、北方の国際協調体制
7	アジア共同体と日米	政治・経済・文化の観点から現状を分析する
8	東北アジアの国際関係	朝鮮核問題を中心とする地域の国際関係
9	日本、ソ連・ロシア、中国のトライアングル関係	戦後史を踏まえた現状の理解
10	日中関係と日中韓トライアングル	国内政治と国際政治の連関の理解
11	日中関係と日米中のトライアングル	グローバル・リーダーシップの競争
12	習近平の世界戦略	国際社会における中国の論理と行動
13	米中露トライアングル関係と日本	国際関係秩序と国際法の視点からの考察
14	総括と思考	日中関係を国民意識、国家意識から考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎日『日本経済新聞』の国際ニュースに目を通すこと、授業前に教科書を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

趙宏偉『中国外交論』明石書店、2019 年。

【参考書】

入江 昭『グローバル・コミュニティ』早稲田大学出版部、2005 年。
ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』NTT 出版、1997 年。
ジェラード・デランティ『コミュニティ グローバル化と社会理論の変容』NTT 出版、2006 年。
益尾佐知子、青山瑠妙、三船恵美、趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会、2017 年。

【成績評価の方法と基準】

授業態度、授業への貢献度を求め（40 点）、学期末に筆記試験を行う（60 点）。

【学生の意見等からの気づき】

私語と携帯弄りの禁止、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

この科目は国際関係の知識を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】

International relations theory I

This class gives lectures on contemporary international relations, based on its theory, geography, history and current events. Observe the drama between nations and people in international society from various viewpoints from civilization theory to realism with clues on international relations between China and each country. The students learn how to look at the international community, how to solve international problems, and how people live in the international community.

ARS200MA

国際関係論Ⅱ

展開科目

趙 宏偉

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義は永遠な隣人である東アジアと現代中国をその地理と歴史を踏まえて語る。受講者は共生してきた日本と隣国、そして共生していかなければならない日本人と隣人たちの多様な生き方、とりわけ近現代中国について思考し思考力を高める。

【到達目標】

中国という事実を知り、自分なりの見方を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業はアジアという地理空間と歴史時間における中国の近現代史を講義する。また、日々に発生する時事問題を事例に取り上げて講義し、国際社会、東アジア、現代中国を見る目を鍛えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業説明	教科書、進め方等を説明
2	現代中国の成立	1949 年前後
3	朝鮮戦争と台湾問題	東アジア冷戦
4	「大躍進」前後	中国経済の失敗
5	中ソ論争と核武装	中国・ソ連関係
6	文化大革命	中国の内乱
7	ニクソン訪中と日中国交	米中関係の変化
8	毛沢東時代の終焉	混乱中国の閉幕
9	改革開放と鄧小平	経済発展の時代
10	教科書問題と靖国問題	日中関係の問題
11	天安門事件と天皇訪中	中国の独裁政治
12	香港返還と台湾問題	中国の統一問題
13	世界大国への飛躍	超大国への驚進
14	中国の民族問題	民族紛争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎日『日本経済新聞』の中国関係ニュースに目を通すこと、授業前に教科書を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

並木頼壽、杉山文彦編（趙宏偉執筆）『中国の歴史を知るための 60 章』明石書店、2011 年。

【参考書】

朝日新聞社取材班『歴史は生きている 東アジアの近現代がわかる 10 のテーマ』朝日新聞出版、2008 年。

岡崎雄児『最新中国を知るキーワード 99』同学社、2008 年。

中藤康俊『冷戦後の北東アジアと日本 20 年の歩み』大学教育出版社、2008 年。

堀敏一『東アジア世界の歴史』講談社、2008 年。

益尾佐知子、青山瑠妙、三船恵美、趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会、2017 年。

【成績評価の方法と基準】

出席と授業態度、授業への貢献度を求め（40 点）、学期末に筆記試験を行う（60 点）。

【学生の意見等からの気づき】

私語と携帯弄りの禁止、出席のチェックを厳格に行う。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

この科目は近現代中国の知識を習得することにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】

International relations theory II

The lecture talks about eternal neighbors East Asia and modern China based on its geography and history. The students think and think about the various ways of living of Japan and neighboring countries that have coexisted, the Japanese and the neighbors who have to coexist, in particular the modern China, in particular

ARS200MA

国際地域研究 I

展開科目

福井 令恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、従来の国家の枠組みだけでなく「地域」という枠組みの重要性が増している。本コースでは、グレートブリテン島およびアイルランド島にある社会を対象に、「地域」という概念の理解を深め、さらに地域間の関係性を学ぶ。具体的には、イングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランド・アイルランドの社会を、それぞれの関係性に着目しつつ、理解する。これらの社会を自分とはまったく無関係の社会としてではなく、私たちがつながりのある、同時代の社会である点を実感できるよう授業を行う。

【到達目標】

授業を通じて「地域」・「国家」の概念について検討し、多様性をもつ社会を理解できるようになることを目標にする。具体的には、アイルランド島とグレートブリテン島の諸地域について、それぞれの関係性に注目しながら、歴史・社会構造をふまえて理解することを目指す。加えて、対象社会や人々について多面的な理解が可能となることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進める。パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。また、授業内でリアクションペーパー等の提出をしてもらう。なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方・方針について	地域研究とはどのような学問なのか、また授業の方針と各回の内容を説明する。日本に住む私たちにとって、他の国・地域を学ぶ重要性について考える。
第 2 回	地域とヨーロッパ	「国家」の絶対的な地位が揺らぎ、国家を超える組織や機構、運動の果たす役割の重要性とともに、下位レベルの「地域」の重要性が増してきた。ここでは、ヨーロッパと地域について、多層化と再編をキーワードに考える。
第 3 回	アイルランドとイギリスを構成する諸地域	「地域」という概念をもとにアイルランド、イギリスの諸地域を捉えることの意義を考える。イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、北アイルランドについて、それぞれの地域について私たちが知っている事やイメージについて、それらがどこから得られているのか考える。
第 4 回	イギリスを構成する諸地域 イングランドを中心に	イギリス（UK）内の「地域」の独自性・独立性について検討する。中心的な位置づけにあるイングランドについて学ぶ。
第 5 回	イングランド社会・文化	グレートブリテン島の他の諸地域およびアイルランド島の地域などとの関係からイングランド社会を考える。
第 6 回	ウェールズ社会・文化	ウェールズ社会・文化は、他の諸地域と比較して、私たちの意識の中でその存在感がやや薄いかもしれない。その理由を歴史背景に言及しつつ考える。また、言語に注目し、ウェールズ社会と文化について考察する。
第 7 回	スコットランド社会・文化①	スコットランド社会の現在を考える。その際、文化や歴史をイギリスおよびアイルランドの関係性からも検討する。
第 8 回	スコットランド社会・文化②	ヨーロッパとの関係から、スコットランド社会の現在を考える。
第 9 回	イギリスのなかの 4 つの地域	関連する映画を鑑賞し、イギリス社会について考える。
第 10 回	アイルランド社会・文化①	EU とアイルランドの関係が、どのようにアイルランド社会に影響を与えているのか考える。近年の動きについても解説する。
第 11 回	アイルランド社会・文化②	アメリカとアイルランドの歴史的なつながりを知り、両者の現在の関係について理解する。

- 第 12 回 アイルランドの二つの国 北アイルランドの成立期である 1920 年代のアイルランドの独立と南北分断から、第二次世界大戦までの歴史・社会状況を説明する。なぜ、アイルランドに二つの国があるのかを理解する。
- 第 13 回 北アイルランド紛争 北アイルランド紛争は、どのような経緯で勃発するに至ったのかについて学ぶ。異なるナショナル・アイデンティティをもつ住民集団間の紛争のひとつの事例として、北アイルランド紛争の原因について考える。
- 第 14 回 まとめ 全体のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料、関連文献を読む。

【テキスト（教科書）】

講義に関連したプリントを配布するため、テキストは指定しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加）および授業内での課題等 30%

期末試験 70 %

* 欠席が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】

* 受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。

* 初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず出席すること。

【Outline and objectives】

In this course, we reconsider the concepts of “region” (or “sub-nation”) and “nation state” by examining the cases of the UK and Ireland. We will also focus on the relationship between these sub-nations (England, Wales, Scotland, and Northern Ireland). Through examining these societies, we aim to understand the societies in the UK and Ireland from various perspectives.

ARS200MA

国際地域研究Ⅱ

展開科目

福井 令恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異なる文化、ナショナル・アイデンティティ、歴史観をもつ住民集団の「共生」のあり方について考える。具体的にはイギリスとアイルランドという地域のなかの、「ひとつの国」・独自の地域である北アイルランドを事例として中心的にとりあげつつ、＜異＞文化と＜異なる＞国家帰属意識を持つ住民集団が対立しつつも、ともに生きるという現代的な課題について考察する（北アイルランドの事例以外の地域の例も必要に応じて言及する予定である）。北アイルランドの住民の歴史的・文化的な帰属意識は、しばしば国境を超える点にも注目する。

【到達目標】

現代社会において私たちは、多様な文化的・社会的バックグラウンドを持つ人々とともに同じ場所で暮らしている。異なる文化や歴史観をもつ人々と「共に暮らす」というのは、往々にして緊張関係や対立を伴う。主として北アイルランドの紛争後社会を事例にし、長年の対立関係のなかで暮らす人々がどのように困難な取り組みに向き合っているのか、またそこでのあらたな課題について、社会構造を踏まえ理解する。コースの最後には、他者への理解を深め、より良い関係を構築するためにどのような点が重要なのか、自分の考えをまとめ、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進める。パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。授業では、単に座って聞くだけのものではなく、討議や発表を目的として授業内でグループワークをする可能性がある。また、リアクションペーパーの提出をしてもらう予定である。
なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方・方針について	授業のねらいと具体的な進め方、評価方法について説明する。
第 2 回	紛争の歴史と＜異なる＞住民集団間関係	北アイルランドを具体例として、異なるナショナル・アイデンティティをもつ二つの住民集団の関係性と「多文化社会」について考える。対立してきた住民集団間の関係と紛争の背景にある歴史・社会構造について理解する。
第 3 回	国家の境界とその間	「国家」と帰属意識の関係について、歴史背景を学び、理解する。
第 4 回	国家の境界とその間：アイデンティティと帰属	「北アイルランド人」というアイデンティティの意味について、北アイルランド社会の変化との関連からその意味を検討する。
第 5 回	文化とナショナリズム	文化とナショナリズムの関係について、事例をもとに考える。
第 6 回	国籍と現代社会	国家と国籍の関係について複数の視点から検討する（グループワークを行う場合がある）。
第 7 回	北アイルランドの紛争と二つの住民集団	関連する映画を鑑賞し、歴史・社会構造について学ぶ。
第 8 回	階級・文化・紛争経験の関係	社会構造と紛争経験の関係に注目して住民集団間の対立についてさらに理解を深め、今後の課題について考える。
第 9 回	北アイルランド社会と紛争経験の表象	紛争の激しい地域の住民の手によって描かれる＜壁画＞をめぐる活動と表象から、紛争経験と歴史認識について検討する。
第 10 回	学校教育制度と教育の分断	北アイルランドの教育制度から、分断状況の現状について学ぶと同時に、分断社会を超えるための試みと課題について考える。
第 11 回	学校教育と＜歴史＞	学校で学ぶ歴史教育について検討し、現状と課題について学ぶ。

第 12 回 観光と紛争後社会

和平合意後に急速に進んだ観光から、観光地のイメージの形成を、北アイルランドの歴史的・社会的背景と関係づけて考える。また、紛争の痕跡を「見学する」という観光客の行為の意味についても検討する。

第 13 回 北アイルランドと EU、英国、アイルランド

イギリスの EU 離脱交渉において、鍵となるアイルランド国境問題から、歴史背景・社会構造を学ぶことの重要性を理解する。

第 14 回 まとめ

全体のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料、関連文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義に関連したプリントを配布するため、テキストは指定しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加）および授業内での課題等 30%

期末試験 70 %

*欠席時間が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】

*受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。

*初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず出席すること。

*本コースは、春学期とは別個の独立した科目だが、授業の中で春学期の授業を前提とする場合もあるため、国際地域研究Ⅰを受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】

In this course, we consider how people with different cultures and ethnic backgrounds in society live side by side, by exploring the case of Northern Ireland. After 30 years the conflict between two groups (Protestant/Catholic, Unionist/Nationalist), a peace agreement was reached. The society has been tackling important issues to eliminate social, economic, and cultural segregation. We will use the lessons learned from their efforts and see if and how they are important for our society.

CAR200MA

就業機会とキャリア

展開科目

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな仕事について考えるとともに、現代社会における産業や企業のあり方について学びます。
企業に求められる人材、組織で働くこと、社会人として何が期待されているのかについてゲストスピーカーのお話から考えます。日々変化する企業の最新情報にふれることで、自らのキャリアをデザインする力を身につけるとともに、就業機会におけるキャリア選択を考えるきっかけを提供します。

【到達目標】

①様々な働き方、仕事に興味をもつこと、②いろいろな企業やそこでの働き方を理解すること、③自らのキャリア形成に前向きに取り組む姿勢を身につけること、を到達目標に授業を実施します。
様々な業界や企業、キャリアに対する偏見や先入観をなくして、しっかりと自分自身の力で業界や企業を分析し理解できる力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回、多様な企業からさまざまな職種、役職の方をお招きして、その業界の最新動向について語っていただくとともに、仕事の内容、キャリアパスの実際、組織での働き方などについてお話をうかがいます。各回の授業は講義 80 分、質疑応答 10 分、レポート作成が 10 分の時間配分で実施します。毎回の講義時間配分が変更になることがあります。また、講師の方の都合により業種などが変更になることもあります。講義日が祝日にあたった場合には、ゲストを呼ぶことは困難ですので、中間レポートの作成にあてることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、受講の心構え、授業形式、成績評価の方法などの説明を行います。
2	人材派遣業界	人材業界の仕事を学びます。企業の採用活動、学生の就職活動についても情報を提供していただきます。
3	流通産業	我々にとって大変身近な業界である流通産業における働き方を学びます
4	IT 産業	社会基盤を担う IT 産業での働き方や生き方を学びます。
5	ソフトウェア産業	ソフトウェア業界とそこでの働き方を学びます。
6	政府系企業	国と密接に関係しつつも公務員でもない機関について、その仕事を紹介いただきます。
7	エンターテインメント産業	サービス経済化がすすむ我が国において成長が期待できるエンターテインメント産業での働き方を学びます。
8	教育産業	これからの成長が期待できる分野である教育産業を取り上げて、そこでの働き方を学びます。
9	医薬品産業	高齢化社会を見据えて重要な産業である医薬品業界での働き方について学びます。
10	アパレル産業	日常的に接する事が多い衣料品分野を取り上げます。アパレル産業での働き方について学びます。
11	ベンチャー	組織で働く、雇用者として働く以外の選択肢である起業について、ベンチャー起業の経営者の実体験を語っていただきます。
12	生き方、働き方①	グローバル化がすすむなかで、どのような働き方が求められているのか、社会人に求められることはどのようなことか、お話をいただきます。
13	生き方、働き方②	働くとはどういう事か、社会人に求められることはどのようなことか、お話をいただきます。
14	まとめ	ゲストの話を総括して、これからのキャリアについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特段の準備を求めることはありませんが、事前にインターネットや新聞などで情報をとって一つ、二つ質問できる程度の用意はしてください。人との出会いは一期一会です。二度とチャンスは巡ってはきませんので、せっかくの機会を無駄にしないようにしてください。

【テキスト（教科書）】

全体を通じてのテキストはありません。
資料、レジュメ等は必要であれば各回に配布します。どのような企業の方をお呼びするかは最初の授業でお知らせします。

【参考書】

たとえば『会社四季報業界地図 2018 年度版』東洋経済新報社、2019 年。など

【成績評価の方法と基準】

各回の授業内レポートの評価 5 0 %、授業に参加する姿勢 5 0 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

1. レポートを書く時間を確保します。
2. 幅広い業界からゲストを招聘し、授業をアレンジします。

【その他の重要事項】

学生の皆さんには知られていない業種も含めて、幅広い企業の方から直接話をうかがう貴重な機会です。幅広く関心を持って講義に臨んでください。また、遅刻、途中退出、私語を慎んで礼節をもって授業を受けてください。
昨年度は、リクルートキャリア、博報堂、ソニーミュージックエンターテイメント、日本銀行、日本公文教育研究会、マツモトキヨシホールディングス、ラムリサーチ（半導体製造装置メーカー）、DHL サプライチェーン、オービックビジネスコンサルタント、ワールド、キョーリン製薬ホールディングス、日本政策金融公庫、富士通、マクアケ（サイバーエージェント）の企業の方々にご協力いただきました。継続してお願いしている企業様もありますが、入れ替わりもあります。
また、お話いただく企業の方のご都合もありますので、シラバスに示した順番は変わります。

【Outline and objectives】

In this lesson, we will consider various tasks and learn about industries and companies in modern society.

From the lecture of the guest speaker, we think about what kind of persons are required in society, working on organization.

By acquiring up-to-date information on companies and societies that change everyday, we will acquire the ability to design our own careers. Also, through this lesson, you will have the opportunity to think career selection.

CAR200MA

職業能力ベーシックスキルⅠ 展開科目
【2014 年度以降入学者用】

CAR200MA

職業能力ベーシックスキルⅠ 展開科目
【2013 年度以前入学者用】

島村 泰子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくといふ基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。

基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション（話す、聴く、文章で伝えるなど）、②ビジネスマナー、③人間関係の築き方、④プレゼンテーション等を取りあげます。

学生の理解度を向上させるためにも、初回の授業で意欲等を確認させてもらいますので、履修希望者は初回に必ず出席してください。

【到達目標】

本授業の目標です。

- ①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
- ②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得する。
- ③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、講義と実習（各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー）形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。

初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、授業中の座席を固定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機を確認とグループ分けをしますので、希望者は必ず出席してください。
第 2 回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。
第 3 回	意思を伝える話し方	話す目的は？相手の立場にたって、伝えるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第 4 回	状況にあわせたききかた	3つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ。
第 5 回	スピーチ実習	第 2 回～第 4 回の成果として 1 分間スピーチの実施。
第 6 回	情報伝達	報・連・相とは？指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第 7 回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ（よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方）。
第 8 回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作と TPO に合わせた身だしなみについて学ぶ。
第 9 回	面談、訪問、電話のマナー	就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第 10 回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第 11 回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。

第 12 回	プレゼンテーションスキルを身につける①	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第 11 回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーションスキルを身につける②	【グループワーク】第 12 回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこなう、プレゼンテーション力を身につける。
第 14 回	まとめ・理解度チェック	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で行った実習を振り返り、普段から実践することで習得度合いが高まります。次回に必要な準備学習や宿題があります。

【テキスト（教科書）】

必要な資料をその都度配布します。

【参考書】

授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席調査票」での確認事項及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合 20 %
 - ②受講態度及び提出物（積極的に参加しているか・グループディスカッションの参加態度と成果物の内容・チーム作業の協働作業の態度と貢献度・プレゼンテーションや発表態度と内容の充実度）40 %、
 - ③最終回に実施する理解度テスト 40 %
- 授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないてください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください（授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で、企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【その他の重要事項】

キャリアコンサルタント・企業で人事・採用・教育・キャリア支援の経験を活かし実践的な解説をします。企業側の視点から学生に求められていることや、社会人になるための基本的なスキル習得が得られるような授業を行います。社会人に必要な主体性を養うため、グループディスカッションや演習を多く取り入れます。

【Outline and objectives】**Basic career skills I**

The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.

Students who want to take this course should take the first lesson.

Basic career skills I

The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.

Students who want to take this course should take the first lesson.

CAR200MA

**職業能力ベーシックスキルⅡ
【2014 年度以降入学者用】**

展開科目

CAR200MA

**職業能力ベーシックスキルⅡ
【2013 年度以前入学者用】**

展開科目

島村 泰子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、就職活動に結びつけます。【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。3 年次末から本格化する就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

【到達目標】

本授業の目標です。

- ①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
- ②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
- ③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
- ④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
- ⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。

【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用して調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。

【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期～大学生生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。

上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第 13 回の模擬面接を臨場感をもって体験できます。

学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておく とよいスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの 流れを理解する。
第 2 回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報 収集方法 各業界の内容と求められる 職業能力について	業界・職種・企業情報の集め方・調べ 方を理解する。文系・理系に関わらず の活躍する職場や、多様な採用経路と その後のキャリア形成についても理解 する。
第 3 回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」 の検討	第 2 回の講義から、希望する業界を決 めてグループに分かれる。研究する業 界・企業の絞込みと計画を立てる。業 界の企業間競争、学歴構成や雇用区分 について検討する。
第 4 回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味があ る職業を確認する。職業の興味から 業界を上げて考えてみる。
第 5 回	【仕事理解】 キャリアセンター活用ス キル	【グループワーク】 第 3 回に検討した企業の調査を開始す る。キャリアセンター訪問して、キャ リアセンターの利用方法を学ぶ。 また、個別に企業の情報を調べ分析す る。
第 6 回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、 プレゼン準備を行う

第 7 回	【OB・OG・社会人の講話】①	社会人から、就職活動の方法やポイント を学ぶ。社会人への質問の仕方、対 話を通して業界を理解する。
第 8 回	「業界・職種・企業」研究 の発表	役割分担を決めてプレゼンテーション を実施する。他グループの発表も参考 にし、他業界に興味を拡げることや調 査の視点を学ぶ。
第 9 回	【自己理解】 キャリア・プランシート の作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期 から現在に至るまでの出来事や転機か ら、自分の強みや弱みの分析、アピ ールポイントを探す。
第 10 回	【OB・OG・社会人の講話】②	社会人から、企業におけるキャリア デザインの考え方を学び、自己の棚卸 に活用する。
第 11 回	【自己理解】 キャリア・プランシート の完成と履歴書作成	第 9 回で作成したキャリア・プラン シートを元に模擬面接の準備を行う。 「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第 12 回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポ イントを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動 機、エントリーシートを作成する。
第 13 回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」 を用いて、模擬面接を体験する。面接 する側、される側を体験することで、 面接のポイントや書類の書き方の重要 性を理解する。
第 14 回	まとめ、確認レポート	授業全体のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。自己理解においては、内省することや文章化、模擬面接の準備の時間は各自必要になります。事前準備や宿題があります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

【参考書】

『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度（主体性やグループ作業における貢献度）20 %、
「自己理解シート」及び「業界・職種・企業」研究の発表と内容の充実度 30 %、
模擬面接実習と資料内容 30%、最終確認試験 20 %を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

業界研究をする場合は各自 PC の持参、またはキャリアセンターを利用して
ください。

【その他の重要事項】

「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能です。履修希望者は、必ず
初回に参加してください。受講生に主体的に行動してもらう授業です。

【Outline and objectives】

Basic career skills Ⅱ

The purpose of this course is to develop practical career skills which are
necessary for job-hunting and internship activity. Through activities
like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy,
old girl and working person, you can get the images of your working-life
or occupational life and link these images to job-hunting.

Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-
point, weak-point), presentation of yourself.

Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or
businesses in which you are interested

Lecture given by old boy, old girl and working person : way of
job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way
of work of woman, having an interaction with working person

EDU200MA

演習（発達・教育）2年生

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

興味関心のあるテーマについてデータや先行研究を調べる力を身につけます。
レジュメの切り方、プレゼンの仕方を身につけます。
ディスカッションの基本、司会進行の仕方を身につけます。
自分の身近な出来事やその分析を文章で表現する力を身につけます。

【到達目標】

興味関心のあるテーマについて自分なりに調べることができる。
調べたことについて適切なレジュメの作成、プレゼンができる。
授業内で質の高いディスカッションができる。
自分の身近な出来事を文章で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ディスカッション形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミとは何か 本ゼミの進め方 担当者決め。
2	ゼミにおけるレジュメ作成の力	レジュメを作成するとはどういうことかを考えます。
3	レジュメの作成（実践編）	課題図書について自分なりのレジュメを作成します。それについての講評を行い、よりよいレジュメ作りの方法を学びます。
4	プレゼンの仕方	プレゼンの大事なポイント、問題提起で欠かせないポイントを考えます。
5	発表①	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
6	発表②	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
7	発表③	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
8	発表④	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
9	発表⑤	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
10	事例の記述	事例を記述するとはどういうことかを学びます。
11	事例の記述（実践）①	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。
12	事例の修正	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。
13	事例の記述（実践）③	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。最終的な事例を書きあげます。
14	ゼミの総括・先輩の卒業論文講読	自分たちの発表や事例の書き方を確認し、先輩の書いた卒業論文を講読し最終的な目標を見定めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの講読、事例の記述、プレゼンの準備など

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業でのプレゼンテーション 30 点 ディスカッション 30 点 その他授業活動への貢献 40 点

【学生の意見等からの気づき】

特に指摘はありませんでした。受講生が主体的に参加できる演習を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

発表に際して投影機器を使う場合には事前に準備しておくこと。

【Outline and objectives】

This class aims to acquire the ability to examine data and previous researches about issue of interest.

To learn how to make resume and how to present it.

To learn how to do "discussion" and "moderator work."

To acquire the ability to express your familiar events and its analysis with writing.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4年生
（春）

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術図書の講読をとおりて教育問題への学術的なアプローチに触れます。
質的研究の方法について学び、教育現場についての記述ができるように目指します。
エピソードを事例として書き起こすトレーニングをします。

【到達目標】

学術的な教育研究を理解できる。
記述力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

小グループでのディスカッションの実施の後全体での議論をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	担当決め、スケジュール決め。
2	読書報告	春休みに各自がした読書についての報告をしてもらいます。
3	文献講読①	共通の文献を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
4	文献講読②	共通の文献を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
5	文献講読③	共通の文献を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
6	文献講読④	共通の文献を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
7	文献講読⑤	共通の文献を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
8	論文執筆の方法	質的研究の方法を学びます。
9	事例研究①	事例の書き方を学びます。
10	事例研究②	事例に基づく論文を執筆します。
11	文献講読⑥	共通の文献を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
12	文献講読⑦	共通の文献を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
13	文献講読⑧	共通の文献を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
14	文献講読⑨	共通の文献を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の講読 レジュメの作成 論文執筆等

【テキスト（教科書）】

授業内で決定します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度

【学生の意見等からの気づき】

引き続き同じ形式を踏襲しますが状況を見て適宜判断します。

【Outline and objectives】

This class aims to know the academic approach way to educational problems through reading academic books.
To learn about qualitative research methods and to describe the educational site.
To train to write an episode as a case.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4年生
（秋）

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミでの調査結果を記述・分析・考察します。
興味関心のあるテーマについて先行研究を洗い出します。
学術論文を読む力を身につけます。
卒論の構想をたて、調査を進めます。

【到達目標】

ゼミでの調査結果を記述・分析・考察します。
興味関心のあるテーマについて先行研究を洗い出します。
学術論文を読む力を身につけます。
卒論の構想をたてます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ディスカッション形式で行います。
先行研究と学術論文の講読は輪番制です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期の計画をたてます。
2	調査結果の分析	調査で得られたデータをデータ化する作業、すなわち事例を記述する力を身につけます。
3	結果の報告	事例について記述の仕方、考察等を検討します。
4	事例と考察の修正	検討内容に基づいて事例や考察を修正します。報告集を作ります。
5	図書館の使い方（確認）	図書館の利用について指導を受けます。
6	学術論文の講読①	担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
7	学術論文の講読②	担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
8	学術論文の講読③	担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
9	学術論文の講読④	担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
10	学術論文の講読⑤	担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
11	卒業論文執筆に向けて① テーマの設定	卒業論文の執筆に向けてテーマを絞ります。
12	卒業論文執筆に向けて② 事例の確認	卒業論文の執筆に向けて事例を読み合い確認します。
13	卒業論文執筆に向けて③ 章の組み方	論文の基本構成を学びます。
14	懸賞論文構想発表	来年度の懸賞論文の構想を発表し検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事例の記述
講読論文の読解など

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度

【学生の意見等からの気づき】

特に改善点は指摘されていません。計画を引き継ぎますが受講生の要望を取り入れて臨機応変に対応します。

【Outline and objectives】

This class aims to gain the ability to describe, analyze and discuss the results of the survey at the seminar.
To identify the prior research on the subjects of interest.
To acquire the ability to read academic papers.
To make the plan of the graduation thesis and proceed with the investigation.

EDU200MA

演習（発達・教育）2年生

松尾 知明

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、多様性を価値ある資源として捉え直し、多様な人々の共生をいかに進めるのかが大きな課題となっている。本授業では、多文化社会をめぐる諸課題に焦点をあて、多文化共生と教育に関わる基本的な概念や事象を検討することを通して、多文化共生のあり方を追究したい。

【到達目標】

- ・多文化共生と教育に関する概念、動向や課題などの基本的な知識を得ることができる。
- ・担当する課題や興味あるテーマについて調査研究を進め、効果的な発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

担当したテーマについてレジュメを作成し発表を行い話し合う。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、自己紹介
2	多文化マップ(1)	散策とマップ作成
3	多文化マップ(2)	マップ作成と発表
4	多様性への対応をめぐって	ディベート
5	多文化共生のパースペクティブ	発表と討論
6	文化とは	発表と討論
7	外国人と日本人	発表と討論
8	マジョリティとマイノリティ	発表と討論
9	研究レポートに向けた中間報告	発表と討論
10	つながる世界	発表と討論
11	南北問題を考える	発表と討論
12	日本社会と日本人であること	発表と討論
13	研究レポートの発表(1)	プレゼンと質疑
14	研究レポートの発表(2)	プレゼンと質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、教科書や関連文献などを読んでくる。担当テーマのレジュメを作成し発表準備をする。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。

【テキスト（教科書）】

松尾知明『多文化共生のためのテキストブック』明石書店、2013 年。

【参考書】

授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、レジュメと発表（30 %）、研究レポートとプレゼン（40 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

話し合いを重視する。

【Outline and objectives】

Along with the progress of globalization, a big issue is how to rethink diversity as a valuable resource and how to enhance symbiosis of diverse people. In this course, focusing on various issues related to a multicultural society, basic concepts and phenomena related to multicultural education are examined to explore ways of multicultural symbiosis.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生
(春)

松尾 知明

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、多様性を価値ある資源として捉え直し、多様な人々の共生をいかに進めるのかが大きな課題となっている。本授業では、諸外国の多文化教育に焦点をあて、多文化共生と教育に関わる国際的な動向や課題を検討することを通して、多文化共生のあり方を追究したい。

【到達目標】

- ・諸外国の多文化教育の動向や課題などの基本的な知識を得ることができる。
- ・担当する国の多文化教育について調査研究を進め、効果的に発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

担当した国の多文化教育についてレジュメを作成し発表を行い話し合う。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	英国（イングランド）の多文化教育	発表と討論
3	ドイツの多文化教育	発表と討論
4	フランスの多文化教育	発表と討論
5	アメリカの多文化教育	発表と討論
6	カナダの多文化教育	発表と討論
7	中間発表	進捗状況の報告と質疑
8	オーストラリアの多文化教育	発表と討論
9	ニュージーランドの多文化教育	発表と討論
10	シンガポールの多文化教育	発表と討論
11	韓国の多文化教育	発表と討論
12	日本の多文化教育	発表と討論
13	研究レポートの発表(1)	プレゼンと討論
14	研究レポートの発表(2)	プレゼンと討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、教科書や関連する文献や資料を読んでくる。担当国のレジュメを作成し発表の準備をする。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。

【テキスト（教科書）】

松尾知明『多文化教育の国際比較－世界 10 カ国の教育政策と移民政策』明石書店、2017 年。

【参考書】

授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、レジュメと発表（20 %）、研究レポートとプレゼン（50 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

話し合いを重視する。

【Outline and objectives】

Along with the progress of globalization, a big issue is how to rethink diversity as a valuable resource and how to enhance symbiosis of diverse people. In this course, focusing on multicultural education in other countries and Japan, international trends and issues related to multicultural symbiosis are explored.

EDU200MA

**演習（発達・教育）3・4年生
（秋）**

松尾 知明

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、多文化社会をめぐる諸課題に焦点をあて、多文化共生と教育に関する調査研究を進めることを通して、多文化共生のあり方を追究したい。具体的には、多文化共生をテーマに事例研究を遂行することを通して、基本的な研究の考え方や進め方について学ぶとともに、自分の設定したテーマを追跡して、研究レポートにまとめる。

【到達目標】

・多文化共生と教育に関する概念、動向や課題などについての知識を深めることができる。
・興味あるテーマについて調査研究を進め、効果的に研究レポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

調査研究の進め方や研究レポートの書き方について、具体的な事例を検討しながら学ぶ。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	テーマの設定	調査研究の構想
3	先行研究の検討	発表と質疑
4	先行研究の検討	発表と質疑
5	リサーチエッチョンと研究計画	研究の計画
6	テーマ設定の理由	先行研究への位置づけ
7	調査研究のデザイン	発表と質疑
8	中間発表	進捗状況の報告と質疑
9	調査研究の実施(1)	進捗状況の報告と質疑
10	調査研究の実施(2)	進捗状況の報告と質疑
11	調査研究の実施(3)	進捗状況の報告と質疑
12	研究レポートの執筆要領	執筆上の留意事項
13	研究レポートの発表(1)	プレゼンと質疑
14	研究レポートの発表(2)	プレゼンと質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献などを読み、課題をやってくる。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。

【テキスト（教科書）】

授業において適宜紹介する。

【参考書】

授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（40%）、研究レポートとプレゼン（60 %）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

先行研究を重視する。

【Outline and objectives】

In this course, focusing on cases of multicultural education in Japan, trends and issues related to multicultural symbiosis are explored. Also, with the theme of multicultural symbiosis, research reports are written by conducted by conducting case studies. Through these learning activities, how to actualize multicultural coexistence is discussed and explored.

EDU200MA

演習（発達・教育）2年生

児美川 孝一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】

- ① 今日の若者のキャリア形成上の諸問題、および対応するキャリア支援の諸課題について、主として教育場面を探索の対象としつつ、その実践的および専門的理解を深める。
- ② 参加者各自が設定した小テーマについて、それを探索・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに、研究発表を通じて、プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の具体的な運営方法については、参加者と相談しながら、随時決めていく。

想定される学習活動は、①共通文献の輪読と検討、②個人またはグループによる研究発表と討論、等である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者の問題関心を交流し、各自の小テーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	ゼミ運営計画の策定	参加者の小テーマについて交流し、共有化をはかる。ゼミ運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
6	個人研究発表①	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
7	個人研究発表②	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
8	個人研究発表③	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
9	個人研究発表④	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
10	個人研究発表⑤	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
11	個人研究発表⑥	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
12	個人研究発表⑦	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
13	個人研究発表⑧	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
14	まとめ	学習全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通文献の検討の際には、事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当者は、入念な準備と発表用レジュメを作成する。

個人研究発表に際しては、先行研究の収集・読解、仮説的な理論フレームの考案など、ふだんから準備を重ねておく。自分以外の参加者の発表に際しても、テーマは前週に周知されるので、関連情報を調べたり、提示された参考文献を熟読しておく。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』（日本図書センター）
児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』（徳間書店）
児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
その他、授業時に、随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

出席を含む平常点（20 %）
討論を含む授業への積極的参加（30 %）
個人またはグループ発表（20 %）
学期末レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】

少人数形式の演習授業であり、学生参加型の主体的学習を重視している。かつ、受講生には、調査、研究、レジュメ作成、プレゼンテーション、論文執筆のサイクルを経験してもらうため、本授業は、結果として、学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline and objectives】

This course is a seminar on youth and career development.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4年生（春）

児美川 孝一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】

- ① 今日の若者のキャリア形成上の諸問題、および対応するキャリア支援の諸課題について、主として教育場面を探索の対象としつつ、その実践的および専門的理解を深める。
② 参加者各自が設定した小テーマについて、それを探索・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに、研究発表を通じて、プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の具体的な運営方法については、参加者と相談しながら、随時決めていく。

想定される学習活動は、①共通文献の輪読と検討、②ワークショップ形式等でのテーマ討論、③個人またはグループによる研究発表と討論、④ゲストスピーカーを招いてのヒアリングの実施、等である。

授業時以外での課外活動として、夏冬にゼミ合宿を実施する。学外の研究会・研究会等への参加、若者に対するキャリア形成支援の現場への訪問調査の実施等についても検討したい。

秋学期授業と併せて履修することを原則とする。年度末には、「ゼミ紀要（学生による研究論文集）」を発行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者の問題関心を交流し、各自の小テーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	春学期のゼミ運営計画の策定	参加者の小テーマについて交流し、共有化をはかる。春学期のゼミ運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
6	個人研究発表①	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
7	個人研究発表②	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
8	個人研究発表③	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
9	個人研究発表④	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
10	個人研究発表⑤	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
11	個人研究発表⑥	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
12	個人研究発表⑦	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
13	個人研究発表⑧	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
14	春学期のまとめ	春学期の学習全体について振り返りを行い、ディスカッションを通じて、夏合宿および秋学期の研究課題を抽出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通文献の検討の際には、事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当者は、入念な準備と発表用レジュメを作成する。

個人研究発表に際しては、先行研究の収集・読解、仮説的な理論フレームの考案など、ふだんから準備を重ねておく。自分以外の参加者の発表に際しても、テーマは前週に周知されるので、関連情報を調べたり、提示された参考文献を熟読しておく。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」でなくなったのか』（日本図書センター）
児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』（徳間書店）
児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
その他、授業時に、随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

出席を含む平常点（20％）
討論を含む授業への積極的参加（30％）
個人またはグループ発表（20％）
学期末レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】

少人数形式の演習授業であり、学生参加型の主体的学習を重視している。かつ、受講生には、調査、研究、レジュメ作成、プレゼンテーション、論文執筆のサイクルを経験してもらうため、本授業は、結果として、学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline and objectives】

This course is a seminar on youth and career development.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4年生
（秋）

児美川 孝一郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】

- ① 今日の若者のキャリア形成上の諸問題、および対応するキャリア支援の諸課題について、主として教育場面を探索の対象としつつ、その実践的および専門的理解を深める。
② 参加者各自が設定した小テーマについて、それを探索・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに、研究発表を通じて、プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の具体的な運営方法については、参加者と相談しながら、随時決めていく。

想定される学習活動は、①共通文献の輪読と検討、②ワークショップ形式等でのテーマ討論、③個人またはグループによる研究発表と討論、④ゲストスピーカーを招いてのヒアリングの実施、等である。

授業時以外での課外活動として、夏冬にゼミ合宿を実施する。学外の研究会・研究会等への参加、若者に対するキャリア形成支援の現場への訪問調査の実施等についても検討したい。

春学期授業から引き続き履修することを原則とする。年度末には、「ゼミ紀要（学生による研究論文集）」を発行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	共同研究のテーマ設定	春学期における個人研究発表の内容も踏まえ、秋学期の共同研究のテーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	秋学期のゼミ運営計画の策定	共同研究を進めるためのグループ分けを行い、秋学期のゼミの運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について、報告グループからの発表を受けて、全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について、報告グループからの発表を受けて、全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について、報告グループからの発表を受けて、全体でディスカッションする。
6	グループ研究発表①	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
7	グループ研究発表②	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
8	グループ研究発表③	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
9	グループ研究発表④	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
10	グループ研究発表⑤	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
11	グループ研究発表⑥	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
12	グループ研究発表⑦	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
13	グループ研究発表⑧	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
14	秋学期のまとめ	秋学期の学習全体について振り返りを行い、ディスカッションを通じて、冬合宿および秋学期の研究課題を抽出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通文献の検討の際には、事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当グループは、入念な準備と発表用レジュメを作成する。

グループ研究発表に際しては、先行研究の収集・読解、仮説的な理論フレームの考案など、ふだんから準備を重ねておく。自分の属するグループ以外のグループ発表に際しても、テーマは前週に周知されるので、関連情報を調べたり、提示された参考文献を熟読しておく。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』（日本図書センター）
児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』（徳間書店）
児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
その他、授業時に、随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

出席を含む平常点（20 %）
討論を含む授業への積極的参加（30 %）
個人またはグループ発表（20 %）
学期末レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】

少人数形式の演習授業であり、学生参加型の主体的学習を重視している。かつ、受講生には、調査、研究、レジュメ作成、プレゼンテーション、論文執筆のサイクルを経験してもらうため、本授業は、結果として、学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline and objectives】

This course is a seminar on youth and career development.

EDU200MA

演習（発達・教育）2年生

坂本 旬

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市民メディアと異文化探究学習の実践的研究

【到達目標】

多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的（グローバル）な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与する意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①メディア情報リテラシーの基礎学習
- ②小中学高校等で実施する文化探究・異文化交流学習の支援
- ③福島への取材と映像制作

必要に応じて、ゲスト講師による特別授業を行う予定。
また、授業は原則として5限・6限を通して実施するため、両時限に他の授業を履修しないこと。（原則として6限がメインとなる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
2	基礎学習 1	「体験の言語化・記憶の映像化」の基礎
3	基礎学習 2	「体験の言語化・記憶の映像化」の事例分析
4	実践学習 1	「体験の言語化・記憶の映像化」に必要な学習環境と機材
5	実践学習 2	「体験の言語化・記憶の映像化」のための制作方法（基礎）
6	実践学習 3	「体験の言語化・記憶の映像化」のための制作方法（カメラワーク）
7	実践学習 4	「体験の言語化・記憶の映像化」のための制作方法（インタビュー）
8	実践学習 5	「体験の言語化・記憶の映像化」のための制作方法（編集）
9	授業支援方法 1	「体験の言語化・記憶の映像化」のための学習支援の方法
10	授業支援方法 2	「体験の言語化・記憶の映像化」のための学習支援の計画
11	授業支援方法 3	「体験の言語化・記憶の映像化」のための学習支援の実践
12	制作実習 1	「体験の言語化・記憶の映像化」実習（企画）
13	制作実習 2	「体験の言語化・記憶の映像化」実習（撮影）
14	制作実習 3	「体験の言語化・記憶の映像化」実習（編集）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学外小中高校等での授業支援、映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。海外研修活動も正規の授業ではなく、課外活動の一環として行う。（海外研修については、2年生は希望者のみ）

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014年）

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート等の提出物 50 %
3・4年用「授業評価基準（ループリック）」を流用する。2年ゼミでは4段階のうち2段階を目標とする。

●コンピテンシー

多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的（グローバル）な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。

●受講態度（4段階）

- 1 8割以上ゼミに出席している。
- 2 ゼミでの討論に参加し、発言する。
- 3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。
- 4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。

●映像制作態度（4段階）

- 1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。

- 2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
- 3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
- 4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。

●映像制作技術（4段階）

- 1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
- 2 ビデオカメラを使って、カメラワークを意識した撮影ができる。
- 3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて5分程度の映像編集ができる。
- 4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。

●ファシリテーション（4段階）

- 1 小中高校の授業支援に参加する。
- 2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
- 3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
- 4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。

●異文化対話（4段階）

- 1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
- 2 異文化に対するステレオタイプなものの見方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
- 3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
- 4 異文化を越えた協働（コラボレーション）を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】

自ら学習到達度を確認し、学習課題の自己理解を深めるために、HOPS(eポートフォリオ)を積極的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業は資格課程実習室（精密）と CALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）を併用する。授業支援システムとして、HOPS を使用する。また、映像制作ツールとして、ビデオカメラおよび Macintosh を用いる。本演習の映像制作ソフトは iMovie および Final Cut Pro とする。

【その他の重要事項】

- ①演習参加にあたって、2～4年のうちに次の授業を必ず履修すること
「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン学総合演習」
- ②次の授業は履修を推奨
「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」（坂本担当）、「地域学習支援Ⅱ」（コミュニティ・メディア）

【Outline and objectives】

To explore citizen media and intercultural exchange practice

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4年生（春）

坂本 旬

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市民メディアと異文化探究学習の実践的研究

【到達目標】

多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的（グローバル）な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①国連の映像コンクールへの応募作品制作を通じて、映像制作スキルを身につける。
- ②小中高校で実施する文化探究・異文化交流学習の支援を行う。
- ③毎日新聞社のインターンとして福島を取材し、映像作品を作る。
- 必要に応じて、新聞記者や映像制作者による特別授業を行う予定。
- ④授業は5限と6限を連続して行うことを原則とするため、他の授業をいれないこと。（メインは5限目とする。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
2	基礎学習	市民メディアおよび異文化探究学習の基本的理論と方法の学習
3	国連映像コンクールの解説	国連映像コンクールについての解説
4	国連映像コンクール作品の閲覧	国連映像コンクール入賞作品の閲覧と評価
5	国連映像作品のテーマ	国連映像コンクール応募作品のテーマの検討
6	映像制作スキルの概要	国連の映像コンクール応募のための映像制作スキルの概要
7	映像制作スキルの基本	国連の映像コンクール応募のための映像制作スキルの基本
8	映像制作スキルの習得	国連の映像コンクール応募をめざした映像制作スキルの習得
9	映像制作支援活動の概要	小中高校等の授業支援と映像制作の実践学習の概要
10	映像制作支援活動の実際	小中高校等の授業支援と映像制作の実際の実際
11	映像制作支援活動の展開	小中高校等の授業支援と映像制作の実際の実際
12	被災地取材の概要	被災地取材に関する基礎知識の解説
13	被災地取材の計画	被災地取材の計画立案
14	被災地取材の準備	被災地取材の準備と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学外の学校での授業支援、地域での取材や映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。夏合宿は福島で取材活動を行う。なお、秋学期（演習）に予定されている海外研修活動は正規の授業ではなく、課外活動の一環として行うことを理解されたい。

【テキスト（教科書）】

『メディア情報教育学』坂本旬、法政出版局、2014年

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート等の提出物 50 %

授業評価基準（ルーブリック）

●コンピテンシー

多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的（グローバル）な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。

●受講態度（4段階）

- 1 8割以上ゼミに出席している。
- 2 ゼミでの討論に参加し、発言する。
- 3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。
- 4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。
- 映像制作態度（4段階）
- 1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。

- 2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
- 3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
- 4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。

●映像制作技術（4段階）

- 1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
- 2 ビデオカメラを使って、カメラワークを意識した撮影ができる。
- 3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて5分程度の映像編集ができる。
- 4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。

●ファシリテーション（4段階）

- 1 小中高校の授業支援に参加する。
- 2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
- 3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
- 4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。

●異文化対話（4段階）

- 1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
- 2 異文化に対するステレオタイプなものの見方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
- 3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
- 4 異文化を越えた協働（コラボレーション）を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】

自ら学習到達度を確認し、学習課題の自己理解を深めるために、HOPS(eポートフォリオ)を積極的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業は資格課程実習室（精密）と CALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）を併用する。授業支援システムとして、HOPS を使用する。また、映像制作ツールとして、ビデオカメラおよび Macintosh を用いる。本演習の映像制作ソフトは iMovie および Final Cut Pro とする。

【その他の重要事項】

- ①演習参加にあたって、次の授業を履修しておくこと。
「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン学総合演習」（秋期）、
「卒業論文」（4年）
- ②次の授業の履修を推奨する。
「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」（坂本担当）、「地域学習支援Ⅰ・Ⅱ」（コミュニティ・メディア）

【Outline and objectives】

To explore citizen media and intercultural exchange practice

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4年生
（秋）

坂本 旬

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市民メディアと異文化探究学習の実践的研究

【到達目標】

多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的（グローバル）な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①小中高校で実施する文化探究・異文化交流学習の支援
- ②カンボジア・メコン大学の大学生との映像の協働制作（課外活動）
- ③カンボジアの小学校での異文化交流学習支援（課外活動）
- ④福島への取材と映像制作
- 必要に応じて、新聞記者や映像制作者による特別授業を行う予定。
- ⑤授業は5限と6限を連続して行うことを原則とするため、他の授業をいれないこと。（原則として5限をメインとする。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
2	取材活動と映像制作の計画	被災地の取材映像の編集計画
3	取材活動と映像制作の実際	被災地の取材映像編集の実際
4	取材活動と映像制作の発展	被災地の取材映像編集の発展
5	取材活動と映像の発信	被災地の取材映像の完成と発信
6	発展途上国研修のための基礎学習 1	カンボジアの地理と歴史
7	発展途上国研修のための基礎学習 2	カンボジアの生活と教育環境
8	発展途上国研修のための基礎学習 3	カンボジアの文化と言語
9	発展途上国研修のための発展学習 1	カンボジアでの映像制作の概要
10	発展途上国研修のための発展学習 2	カンボジアでの映像制作の計画
11	発展途上国研修のための発展学習 3	カンボジアでの映像制作の実際
12	発展途上国研修のための発展学習 4	カンボジアの学生との交流の方法と実際
13	発展途上国研修の準備	カンボジアでの研修の準備と確認
14	発展途上国研修の振り返り	学生研究発表会に向けた映像制作りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学外小中高校での授業支援、映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。なお、海外研修活動は正規の授業ではなく、課外活動の一環として行う。

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014年）

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート等の提出物 50 %

授業評価基準（ルーブリック）

●コンピテンシー

多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的（グローバル）な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。

●受講態度（4段階）

- 1 8割以上ゼミに出席している。
- 2 ゼミでの討論に参加し、発言する。
- 3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。
- 4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。
- 映像制作態度（4段階）
- 1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。

- 2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
- 3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
- 4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。

●映像制作技術（4段階）

- 1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
- 2 ビデオカメラを使って、カメラワークを意識した撮影ができる。
- 3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて5分程度の映像編集ができる。
- 4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。

●ファシリテーション（4段階）

- 1 小中高校の授業支援に参加する。
- 2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
- 3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
- 4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。

●異文化対話（4段階）

- 1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
- 2 異文化に対するステレオタイプなものの見方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
- 3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
- 4 異文化を越えた協働（コラボレーション）を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】

自ら学習到達度を確認し、学習課題の自己理解を深めるために、HOPS(eポートフォリオ)を積極的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業は資格課程実習室（精密）と CALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）を併用する。授業支援システムとして、HOPS を使用する。また、映像制作ツールとして、ビデオカメラおよび Macintosh を用いる。本演習の映像制作ソフトは iMovie および Final Cut Pro とする。

【その他の重要事項】

- ①演習参加にあたって、次の授業を履修すること。
「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン総合演習」「キャリアデザイン学演習」（4年生）
- ②また、次の授業の履修を推奨する。
「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」（坂本担当）、「地域学習支援Ⅱ」（コミュニティ・メディア）

【Outline and objectives】

To explore citizen media and intercultural exchange practice

EDU200MA

演習（発達・教育）2年生

笹川 孝一

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人物研究」を通して、自分のキャリアデザインを考える

～エゴイズムと自己表現の視点から～

この授業では、受講生一人一人が関心を持つことやそれを創り、育てた人々に焦点を当てて、その人たちの一生を学び、調べ、考える。それによって、「キャリアデザイン」や「生涯学習」の有効性と、自分自身のキャリアデザインの今後について考える。

その際に、現代人にとって必要な「私」＝ ego や「私たち」と「社会」＝ socio との関係に注目する。

一人一人の人間が、ある時代、ある社会・環境に生まれて、その時代・社会・環境を生かしながら、時代や社会や環境の制約を超えて生きていく姿を学ぶ。とくに、どのように「私」や「私たち」を大切にしたいのか、どのように自分や自分たちを表現したのか、その表現を通じてどのように人々や社会に貢献したのか、について注目する。

これらを通じて、受講生一人一人が、自分を大切に、自分を生かして、他の人や社会に貢献する方法を、具体的に学ぶ。

【到達目標】

- 1) 自分が関心を持つ事柄について、関連の深い人々を広く知る。
- 2) その人たちが、生まれ育った時代や社会・環境の制約の下で出会った壁を知る。
- 3) その壁をどのように乗り越えようと、実際に乗り越えたのか、について学ぶ。
- 4) その際に、どのように自分や自分たちを生かそうとしたかを知る。
- 5) また、一人一人の表現を通じて、どのような協力を作り、どのように人々や社会に貢献したのかを、知る。
- 6) これらの点について、日本とアジアの近代化に強い影響を与えた福澤諭吉を素材として、書物だけでなく、映像や現地でのフィールドワークなどによって、基礎的な研究方法を身につける。
- 7) その際、映像、フィールドワークなども活用する。
- 8) 以上によって、キャリアデザインの研究方法の基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 2年生のゼミ選択決定後、3・4年生による「2年生セミナー」を実施し、ゼミのコンセプト、内容・方法、係り分担、年間スケジュール等に関する、ガイダンスを行う。
- 2) 具体的な授業の進め方と研究方法については、教員が提案し、全体で相談して決める。
- 3) 授業は、2年生独自プログラムと、2～4年生合同プログラムを組み合わせる。
- 4) 人物研究の方法について、わかりやすく、丁寧に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業の内容と進め方の検討	授業内容と進め方、ゼミの係り分担、スケジュール等を協議確認する。
2	人物研究の方法を学ぶ①	書物を通して学ぶ。 教員が問題を提起し、学生間でグループワークを実施する。
3	人物研究の方法を学ぶ②	グループワークの続きと発表、コメント
4	人物研究の方法を学ぶ③	映像から学ぶ～異なる見解を突き合わせる～ 慶應義塾監修『福澤諭吉』（『福翁自伝』を基礎とする映像）（その1）
5	人物研究の方法を学ぶ④	映像から学ぶ～異なる見解を突き合わせる～ 『慶應義塾監修『福澤諭吉』（『福翁自伝』を基礎とする映像）（その2）
6	人物研究の方法を学ぶ⑤	グループワークと発表。
7	人物研究の方法を学ぶ⑥	解釈の異なる映像から学ぶ～ 劇映画『福澤諭吉』（『福翁自伝』の解釈に批判的な映像）（その1）
8	人物研究の方法を学ぶ⑦	解釈の異なる映像から学ぶ～ （『福翁自伝』の解釈に批判的な映像） 劇映画『福澤諭吉』（その2）

9	人物研究の方法を学ぶ⑧	フィールドワークで学ぶ 慶應義塾等訪問の準備を行う（その1）
10	人物研究の方法を学ぶ⑨	フィールドワークで学ぶ 慶應義塾等訪問の準備を行う（その2）
11	人物研究の方法を学ぶ⑩	福沢諭吉都内ツアーを振り返る ～3年生とともにに行った福沢諭吉都内 ツアーの振り返りを行う。グループ ワークと発表
12	私の人物研究①	一人一人が関心のあることがらや関連 する人物について発表する
13	私の人物研究②	それぞれが勤める自伝・伝記について 発表し、意見交換する。
14	レポート集作成と学生研 究発表会の準備	レポート集作成と学生研究発表会の準 備を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考文献を読む
レポート集の作成
フィールドワークの準備と実施
卒業生との交流
パーティー実習の企画と運営

【テキスト（教科書）】

笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』第Ⅱ部第3章
とくに「自分史と人物研究」の項目
法政大学出版局 2014 年
笹川「キャリアデザイン学における人物研究の意義と方法について～福沢諭
吉にそくして～」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』第7号 2009 年

【参考書】

福沢諭吉『福翁自伝』岩波文庫
福沢『学問のすすめ』岩波文庫
笹川孝一監訳『現代語対訳「学問のすすめ」』泉文堂 2018 年刊行予定
笹川『学問のすすめに』成立における中津時代の意義について』
『法政大学キャリアデザイン学部紀要』第5号 2007 年
小泉信三『福沢諭吉』岩波新書
杉田玄白『蘭学事始』岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

ゼミにおける積極的参加（40 %）
ゼミ報告の十分な準備（10 %）
フィールドワーク、レポート集作成、学生研究発表会、4 年生送別会等の準備
活動への貢献（20 %）
レポートの内容と形式（30 %）
以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・人物研究の方法について、わかりやすく、丁寧に授業を進める。
・人物選定にあたって面談を実施する

【学生が準備すべき機器他】

・ワード、パワーポイント、エクセル
・プロジェクター操作
・ゼミ HP の活用

【その他の重要事項】

・学問共同体としてのゼミ活動と先輩たちとの交流のさらなる充実を心がけ
たい。

【その他】

自分自身の体験を踏まえながら、授業で取り上げる様々な人の人生について、
想像力を持ちながら授業に臨んでほしい。

【Outline and objectives】

On Career Design by Biography Study

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生
（春）

笹川 孝一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人物研究を通してキャリアデザインと生涯学習の有効性を考える②
～エゴイズムと自己

表現②

キャリアデザインの過程では、チャレンジ、環境変化、突発的できごとなど
による「挫折」とそこからの立ち直りが必ず付いて回る。
そこで、この授業では、具体的な人物に即して、とくに、「挫折 → 立ち直り」
「自己表現の変化」過程に焦点をあてて研究する。
それを通して、キャリアデザインと生涯学習の有効性について考える。
また、その結果として、自分自身のキャリアデザインと生涯学習能力を高め
ることができる。

【到達目標】

到達目標：

- 1) 福沢諭吉に即して、キャリアデザイン学における人物研究の方法を学ぶ。
- 2) 3 年生は、各人が推薦する自伝や伝記を素材にして、人物研究の方法を
深める。
- 3) 4 年生は、卒業論文の作成を軌道に乗せる。
- 4) 中間まとめ合宿を経て、レポート集の企画、編集、印刷、製本、合評を
行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 授業の進め方と研究方法について、教員が講義し、全体で協議、確認する。
- 2) 福沢諭吉とフランクリンにそくして、研究方法を深める。
- 3) 「福沢諭吉 大分ツアー（フィールドワーク）」などを実施する。
- 4) 夏休み合宿（2泊3日）を実施する。
- 5) 学生によるグループワークと教員による個人面談を必要に応じて実施
する。
- 6) 研究対象を選び、自分のテーマ設定、調査研究を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のテーマと進め方の 説明	授業内容と進め方、ゼミの係り分担、 スケジュール等を協議確認する。
2	福沢諭吉地方ツアーと卒 業論文の準備確認	前年度から準備してきた地方ツアーの 準備状況の確認と、『福翁自伝』『学問 のすすめ』『蘭学事始』など必要な文 献の理解を行う。 4 年生は、卒業論文の執筆計画に着手 する。
3	地方ツアーの準備と卒業 論文構想の発表①	地方ツアーの準備を行う。 卒業論文構想の発表を行う。
4	地方ツアーの準備と卒業 論文構想の発表②	地方ツアーの準備を行う。 卒業論文構想の発表を行う。 （続き）
5	地方ツアーの準備と卒業 論文構想の発表③	グループワークとディスカッション
6	地方ツアー準備の点検①	予算決定、チーム編成と確認、訪問先 との連絡調整、移動手段と宿泊先の確 保、タイムテーブル、役割分担決定、 工程表と葉の作成等を行う。
7	地方ツアー準備の点検②	前回の続き 葉の完成 直前打ち合わせ
8	地方ツアーの振り返り①	実施した地方ツアーの振り返りと発表 を行う。
9	地方ツアーの振り返り②	前回の続き
10	卒論進捗状況の発表①	卒論の進捗状況を発表する グループワークを行う
11	卒論進捗状況の発表②	前回の続き
12	まとめの会と夏の課題を 検討する①	まとめの会と夏合宿の準備を行う
13	まとめの会と夏の課題を 検討する②	前回の続き
14	春学期の振り返りとまと めの会	春学期のまとめの会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考文献を読んでおくこと
レポート集の作成

フィールドワークの準備にかなする分担と協力

学生研究発表会の準備

新3年セミナーの実施

卒業生との交流

パーティー実習の企画と実施

【テキスト（教科書）】

笹川孝一監訳『現代語対訳「学問のすすめ」』泉文堂

笹川「キャリアデザイン学における人物研究の意義と方法について～福沢諭吉にそくして～」

【参考書】

福沢諭吉『福翁自伝』岩波文庫

笹川孝一「福沢諭吉の著作における『学問のすすめ』の位置について」

笹川『学問のすすめに』成立における中津時代の意義について』小泉信三『福沢諭吉』岩波新書

杉田玄白『蘭学事始』岩波文庫

平川祐弘『進歩がまだ希望であった頃～フランクリンと福沢諭吉～』講談社学術文庫他

【成績評価の方法と基準】

ゼミにおける積極的参加（40 %）

ゼミ報告の十分な準備（10 %）

フィールドワーク、合宿、レポート集作成、学生研究発表会、パーティー実習等の準備活動への貢献（20 %）

レポートの内容と形式（30 %）

以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・人物選定にあたっての十分な面談

・調査研究能力向上

・とくに学術文献検索の方法

・レポート添削

以上の指導を向上させたい。

【学生が準備すべき機器他】

・ワード、パワーポイント、エクセル、プロジェクター操作、ゼミ HP の活用

【その他の重要事項】

・学問共同体としてのゼミ活動と先輩たちとの交流のさらなる充実を心がけたい。

・学生側のいっそうの努力を呼びかけたい。

【その他】

時代や地域についての想像力をもって、授業に参加してほしい。

【Outline and objectives】

On Career Design by Biography Studies ②

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生（秋）

笹川 孝一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人物研究を通してキャリアデザインと生涯学習の有効性を考える③

～自己表現とエゴイズム③

キャリアデザインの過程では、チャレンジ、環境変化、突発的できごとなどによる「挫折」とそこからの立ち直りが必ず付いて回る。

そこで、この授業では、具体的な人物に即して、とくに、「挫折 → 立ち直り」「自己表現の変化」過程に焦点をあてて研究する。

それを通して、キャリアデザインと生涯学習の有効性について考える。

また、その結果として、自分自身のキャリアデザインと生涯学習能力を高めることができる。

【到達目標】

1) 福沢諭吉に即して、文献とフィールドワークの両面から、人物のキャリア研究の方法を学ぶ。

2) 具体的な人物に即して、研究を深める。

3) 2 年生とともに、人物研究の方法について、基礎的な事柄を確認する。

4) 年度のまとめのレポート集（電子版）を、各学年ごとに作る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

1) ゼミ選択決定後、3・4 年生による「2 年生セミナー」を実施し、ゼミのコンセプト、内容・方法、係り分担、年間スケジュール等に関する、ガイダンスを行う。

2) 具体的な授業の進め方と研究方法については、教員が提案し、全体で協議、確認する。

3) 授業は 2～4 年生合同で行うことを基本とし、経験の継承＝ゼミ内のピアサポートを大切にする。必要に応じて、2 年、3 年、4 年のそれぞれに応じた内容に即して行う。

4) 福沢諭吉にそくして、研究方法を習得する。具体的には、

①関連する基本文献を読み、小レポートとパワーポイントによる発表と意見交換を行い、文献の調査・読み方、プレゼンテーション方法、意見交換の方法を習得する。

②「福沢諭吉 都内ツアー I」（2・3 年生）を行い、現地調査の手法を習得する。

5) 各自が推薦する自伝・伝記を紹介し合い、分析方法や分析結果について、意見交換する。

6) 1 月に卒業論文発表会を開く。

7) 3 年生、4 年生は学生研究発表会で発表する。

8) 年度末に、レポート集（電子版）を作成する。

9) 教員による個人面談を各学期ごとに、また必要に応じて行う。

10) 日常的なゼミへの卒業生の参加、および卒業生組織である「笹川ゼミ同窓会」の研究会等への現役ゼミ生の参加により、キャリアデザインの実践について、広く学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業の内容と進め方の検討	授業内容と進め方、ゼミの係り分担、スケジュール等を協議確認する。大分ツアーと卒論合宿準備等は、これ以後随時取り上げる。
2	夏の課題検討①（人物研究と自分研究）その 1	夏の課題のうち、『福翁自伝』について、分担発表し、検討する。
3	夏の課題検討②（人物研究と自分研究）その 2	上記の課題を継続する。
4	夏の課題検討③（人物研究と自分研究）その 3	一人ひとりの発表を踏まえて、グループワークと発表を行い、自分研究と人物研究との関係について、全体討議を行う。
5	卒論中間発表①	4 年生の卒論中間発表を一人ずつ行い、2・3 年生は卒業論文のイメージを作る。
6	卒論中間発表②	上記の作業を継続する。
7	夏の課題検討④（人物研究と自分研究）その 4	夏の課題である『蘭学事始』と『学問のすすめ』初編、2 編「端書」について、一人ひとりのレポートに即して検討する。
8	夏の課題検討⑤（人物研究と自分研究）その 5	上記の課題を継続する。
9	フィールドワークと文献調査の結び付け方の検討	前年度の実施経験を踏まえながら、「福沢 都内ツアー」2・3 年の計画を検討する。

10	「都内」「横浜」「卒論」等の振り返り。その1	都内ツアー、横浜ツアーをふりかえり、卒論進捗状況を共有して、レポート集の内容を決定し、作成、パーティー実習準備に取り掛かる。
11	「都内」「卒論」等の振り返り。その2	卒論完成までの課題を確認する。
12	私の推薦する自伝・伝記	2・3年生が、それぞれ、推薦する自伝・伝記を紹介し、意見交換する。
13	パーティー実習	中間まとめレポートと卒論を踏まえ、それを報告するパーティー実習を開き、ゼミの先輩たちからコメントをもらう。
14	学生研究会準備	①卒論発表会と学生研究発表会の準備を開始し、②レポート集（電子版）作成、③4年生修了式、④新3年生セミナー、⑤3年生の地方（大分、長崎、大阪など）福沢ツアー等の計画を立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考文献を読んでおくこと
レポート集の作成
フィールドワークの準備にかなする分担と協力
学生研究発表会の準備
2年セミナーの実施
卒業生との交流
パーティー実習の企画と実施

【テキスト（教科書）】

笹川孝一監訳『現代語対訳 「学問のすすめ」 泉文堂
笹川「キャリアデザイン学における人物研究の意義と方法について～福沢諭吉にそくして～」

【参考書】

福沢諭吉『福翁自伝』岩波文庫
笹川孝一「福沢諭吉の著作における『学問のすすめ』の位置について」
笹川「学問のすすめに」成立における中津時代の意義について」小泉信三『福沢諭吉』岩波新書
杉田玄白『蘭学事始』岩波文庫
平川祐弘『進歩がフランクリンまだ希望であった頃～フランクリンと福沢諭吉～』講談社学術文庫
ベンジャミン・フランクリン『フランクリン自伝』岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

ゼミにおける積極的参加（40 %）
ゼミ報告の十分な準備（10 %）
フィールドワーク、合宿、レポート集作成、学生研究発表会、パーティー実習等の準備活動への貢献（20 %）
レポートの内容と形式（30 %）
以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・人物選定にあたっての十分な面談
・調査研究能力向上
・とくに学術文献検索の方法
・レポート添削
以上の指導を向上させたい。

【学生が準備すべき機器他】

・ワード、パワーポイント、エクセル
・プロジェクター操作
・ゼミ HP の活用

【その他の重要事項】

・学問共同体としてのゼミ活動と先輩たちとの交流のさらなる充実を心がけたい。
・学生側のいっそうの努力を呼びかけたい。

【Outline and objectives】

On Career Design by Biography Studies ③

EDU200MA

演習（発達・教育）2 年生

高野 良一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは、3, 4 年ゼミと同じく、「対話を重視し、知的スキルを形成しながら、学校などの現場やプロフェッショナルに学ぶ」です。基礎的な文献を読み、自らの学び体験や「心の習慣」を振り返りつつ、現場やプロと交流・体験していく場としたいのです。3 年生以降のゼミと連動します。それゆえ、現地調査などの企画の立案と実施も、学びの内容に加わります。

【到達目標】

コミュニケーションや知的なコンピテンシーの基礎を身につけることが目標です。つまり、情報の批判力や編集力、自分の意見をプレゼンする力や、仲間の意見を受け入れる傾聴力も培います。加えて、「身近なモデル」である上級生との共同学習として学びながら、文献や現場、プロフェッショナルから知的な好奇心をかき立てられて、能動的な学習者となることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、二つの部分から構成されます。その一つが、基礎的な文献学習です。これは 2 年生同士で学び合うことが多くなります。もう一つは 3,4 年生との共同学習の場への参加です。「プロフェッショナル論」（通称、「プロ論」）と「現地研究」の協働プロジェクトに参加して、現場とヒトから学びます。これらを通じて、調べる力や企画力の基礎を養います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の趣旨と進め方を示し、自己紹介しあう
2	身近なモデルから学ぶ	3, 4 年生の個人プロジェクト発表を聞き、対話する
3	資質・能力を見直す：文献学習（1）	『デザイン思考が世界を変える』パート 1 前半から、自らを振り返る
4	資質・能力を見直す：文献学習（2）	『デザイン思考が世界を変える』パート 1 後半から、自らを振り返る
5	協働プロジェクト A の企画・準備に参加する	ゼミ「プロ論」企画の打ち合わせ
6	協働プロジェクト A の実施に参加する	ゼミ「プロ論」企画の実施と振り返り
7	「心の習慣」を考える：文献学習（3）	アメリカの学習習慣に学ぶ（第 1,2 章を中心に）
8	「心の習慣」を考える：文献学習（4）	アメリカの「心の習慣」に学ぶ（3,4 章を中心に）
9	協働プロジェクト B の実施に参加する	「現地研究」の実施とふり振り返り
10	卒論最終報告会に参加する	3, 4 年生との共同学習
11	卒論最終報告会に参加する（続）	3, 4 年生との共同学習
12	PBL の技法を学ぶ（1）	『プロジェクト学習の基本と手法』第 2, 3 章を講読する
13	PBL の技法を学ぶ（2）	『プロジェクト学習の基本と手法』第 4 章を講読する
14	協働プロジェクトの全体総括に参加する	秋学期のプロジェクト全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献学習、「プロ論」と現地調査には、個人及びチームでの事前の準備も必要になります。

【テキスト（教科書）】

鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』教育出版
ティム・ブラウン『デザイン思考が世界を変える』早河書房

【参考書】

授業の中で、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

個人及び共同の文献発表やグループワーク、学外での「現地研究」とそのコメントペーパー作成という授業中の活動が 50%、授業終了後の個人 PBL レポートとその発表が 50 %です。

【学生の意見等からの気づき】

「身近なモデル」としての上級生からの学びとコミュニケーション空間が活性化することに心がけます。

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is for students to build the framework of knowledges and to train intellectual skills through the practices and dialogues among them. For achieving it they must plan, do and reflect on-site researches and hearings to the professionals with elder students of the seminar.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4年生
（春）

高野 良一

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「対話を重視し、社会的及びアカデミックなスキルを形成しながら、教育文化施設の現場やプロフェッショナルから学ぶ」が、テーマです。春学期は、いくつかの現場やプロフェッショナルを訪ねる機会も作りますが、基本的な文献や資料を読み、受講生相互の知識の共有と対話力の形成を重視します。

【到達目標】

社会的な能力及びスキルを自ら省察する力を養うとともに、アカデミック・スキルの形成を図ります。アカデミック・スキルとは、「読む、調べる、聞く、話し合う、書く」という技能です。これらのスキルは、間近に控えた就活や将来の職業生活の土台となるものです。特に、高野ゼミでは、現場に出かけて調べる、事前事後に話し合い、書くことを重視しています。言い換えれば、ひとりひとりが、そしてゼミとして協同で、プロジェクトを企画し実施する能力を形成することがテーマとなります。「プロジェクト企画・実施力」こそ、将来の職業生活のために必要な力と考えるからです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、文献を手がかりにして、まず、ゼミの場づくりとも関わる社会的な能力とそのスキルについて学び、次に PBL の基本を確認し、そして、学習環境デザインの基本を学びます。また、個人のプロジェクトを発表し、その相互批評もおこないます。さらに、秋学期に向けた協働プロジェクトの企画立案も話し合います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの趣旨説明や進め方の議論
2	プロジェクト学習成果発表会	3,4年生の継続テーマの報告と相互交流
3	プロジェクトの基本設計 ブレンストリーミング	夏休み、秋学期の協働プロジェクトを視野に入れた計画づくり
4	自らの社会的能力と認知を省察する（1）	『キャリアデザイン入門Ⅰ』の協働の講読と省察
5	自らの社会的能力と認知を省察する（2）	『キャリアデザイン入門Ⅰ』の協働の講読と省察（続）
6	春学期プロジェクトの実施設計	現地研究の候補地の絞り込み
7	PBLの技法を磨く（1）	『プロジェクト学習の基本と手法』を再読（2,3章）
8	PBLの技法を磨く（2）	『プロジェクト学習の基本と手法』（4章）を再読し、個人PBLを見直す
9	PBLの技法を磨く（3）	『プロジェクト学習の基本と手法』を再読（6章）し、個人PBLを書き直す
10	協働プロジェクト実施：春学期の現地研究	教育文化施設が特色ある学校を訪問
11	学習環境デザインを知る（1）	『「未来の学び」をデザインする』の協働講読
12	学習環境デザインを知る（2）	『「未来の学び」をデザインする』の協働講読（続）
13	4年生の個人プロジェクト発表	卒論企画書の発表と討論
14	3年生の個人プロジェクト発表	学習企画書の発表と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミは正規外の時間にも自主ゼミとしておこなわれます。学外にも一緒に出かけて、多様な文化的な営みに参加することと、個人発表のための準備を重視します。

【テキスト（教科書）】

大久保幸夫『キャリアデザイン入門Ⅰ』日経文庫
鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』教育出版
美馬みのり・山内祐平『「未来の学び」をデザインする』東京大学出版会

【参考書】

ティム・ブラウン『デザイン思考が世界を変える』早河書房
その他、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

個人及び共同の文献発表とグループワークが30%、協働プロジェクト（PBL）への参加と貢献が30%、個人PBLプロジェクトの中間報告書とその発表が40%。

【学生の意見等からの気づき】

今年も、知的興味・意欲への刺激、スキル形成、思考力と判断力の育成に努めたゼミをみんなで創りたい。

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is for students to build the framework of knowledges and to train intellectual skills through the practices and dialogues among them. For achieving it they must plan, do and reflect on-site researches and hearings to the professionals with elder students of the seminar

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4年生
（秋）

高野 良一

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「対話を重視し、社会的及びアカデミックなスキルを形成しながら、教育文化施設の現場とプロフェッショナルから学ぶ」が、テーマです。秋学期は、例年どおり、現地調査研究と教育関係プロフェッショナルの聞き取り調査が主になります。

【到達目標】

社会的な能力及びスキルを自ら省察する力を養うとともに、アカデミック・スキルの形成を図ります。アカデミック・スキルとは、「読む、調べる、聞く、話し合う、書く」という技能です。これらのスキルは、間近に控えた就活や将来の職業生活の土台となるものです。特に、高野ゼミでは、現場に出かけて調べる、事前事後に話し合う、書くことを重視しています。言い換えれば、ひとりひとりが、そしてゼミとして集団で、2種のプロジェクトを企画し実施する能力を形成することが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

夏合宿を踏まえて、「現地研究」と「プロフェッショナル論」（通称、プロ論）の企画案の策定、そのための資料や文献の学習、企画の実施と反省を、いわばPDCAサイクルとして進めます。こうした協働（共同）プロジェクトと並行して、卒論も含む個人のプロジェクトもチェックポイントを設定して進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期ゼミの進め方	協働プロジェクトの企画を中心としたスケジューリング
2	個人プロジェクトの中間発表	夏休みのプロジェクト学習の相互交流
3	社会的及び認知的能力を考える（1）	昨年度は今井むつみ著を講読しながら考えた。今年度の文献は合議して決定
4	社会的及び認知的能力を考える（2）	合議して決定し文献講読の2回目
5	協働プロジェクトAの企画・準備（1）	「プロ論」企画の打ち合わせ
6	協働プロジェクトAの実施	「プロ論」企画の実施とふり回り
7	協働プロジェクトBの企画・準備（1）	「現地研究」プロジェクト1の打ち合わせ
8	協働プロジェクトBの企画・準備（2）	「現地研究」プロジェクト1の打ち合わせ
9	協働プロジェクトBの実施	「現地研究」プロジェクト1の実施とふり回り
10	4年生卒論最終経過報告会	個人報告と質疑
11	4年生卒論最終経過報告会（続）	個人報告と質疑
12	3年生PBL経過報告会	個人報告と質疑
13	PBL技法を再確認する	鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』第3,4章を中心に
14	協働プロジェクトCの準備	秋学期修了後の実施プロジェクトCの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミは正規外の時間にも自主ゼミとしておこなわれます。これらへの参加と、個人と協働のプロジェクトのための準備を重視します。

【テキスト（教科書）】

秋学期のはじめに、合議を経て決定します。

【参考書】

鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』教育出版
ティム・ブラウン『デザイン思考が世界を変える』早河書房
そのほか適宜、必要に応じて示します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の個人及び共同の文献・資料発表が20%、「現地研究」等の協働プロジェクトへの貢献が30%、個人PBLレポート作成及びその発表が50%。

【学生の意見等からの気づき】

今年も、知的興味・意欲への刺激、スキル形成、思考力と判断力の育成に努めたゼミをみんなで創りたい。

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is for students to build the framework of knowledges and to train intellectual skills through the practices and dialogues among them. For achieving it they must plan, do and reflect on-site researches and hearings to the professionals with elder students of the seminar.

EDU200MA

演習（発達・教育）2年生

田澤 実

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザインに関連した先行研究の基本的な原理を学ぶ。また、口頭発表および自己調整的な学習習慣のスキルの獲得も目指す。

【到達目標】

・自ら研究を深めたいと思うようなテーマを探るために、関心事に関連した社会現象や政策・施策等について基本的な知識を得るための方法を知っている。
・上記で得た知識を総合的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

【集団で話し合うためのスキル】

・実演を通してワークショップの進め方を理解する。

【自らの研究テーマ】

自分が関心のある新聞記事を発表する。図書館の端末やスマートフォンを活用しながら「いかにして関心のあるテーマの最新ニュースを集めるのか」という方法についても学ぶ。この発表を参考にしながら、教員がそのゼミ生の関心事についての発表資料を決める。ゼミ生はそれぞれ自分の関心事に近いテーマの資料で発表し、それについてゼミ生間でディスカッションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業の流れを説明する。
第2回	集団で話し合うためのスキル（1）	ワークショップの進め方について理解する。
第3回	集団で話し合うためのスキル（2）	ワークショップを実演する。
第4回	写真を用いた自己紹介（1）	自分らしいと思われる過去・現在・未来の写真を撮影して、まとめる。
第5回	写真を用いた自己紹介（2）	上記を基にしてプレゼンテーションをする。
第6回	情報収集のスキル（1）	新聞記事の情報の集め方を身につける。
第7回	情報収集のスキル（2）	集めた新聞記事を発表する。自らの関心事を探る。
第8回	文献購読（1）	自らの関心事にあわせて担当文献を決める。
第9回	文献購読（2）	文献の内容を発表する。
第10回	文献購読（3）	内容に基づいた疑問や論点を整理する。
第11回	文献購読（4）	論点を基にしてディスカッションする。
第12回	文献購読（5）	今までに発表した文献と文献のつながりについて考察する。
第13回	文献購読（6）	上記の論点を整理し、ディスカッションする。
第14回	まとめ	演習での学びを振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメによる報告を求めることがある。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

田澤実 2016「図書館情報とスマートフォンを併用した文献の探し方」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』13, p227-251.

【成績評価の方法と基準】

レポート（5割）、積極的参加（5割）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

集団で話し合うためのスキルを学んだあとに、自らの研究テーマを探る流れは好評であった。今年度も継続することにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で授業を行う回がある。

【その他】

ホームページの参考のこと

【田澤実研究室】

<http://www.i.hosei.ac.jp/~mtazawa/lab/>

【履修推奨科目（3年秋学期までに履修すべき科目）】

教育心理学

【履修推奨科目（授業に関連する可能性が高い科目）】

生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ、教育相談、職業選択論Ⅰ・Ⅱ、キャリアアカウンセリングⅠ・Ⅱ・Ⅲ（ケーススタディ）、学校論Ⅲ（キャリア教育論Ⅰ）、キャリア研究調査法（量的調査）

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of career studies. It also enhances the development of students'skill in making oral presentation and self-regulated learning.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4年生（春）

田澤 実

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯発達心理学や教育心理学の観点から「問い」を探究する。アカデミックライティング、心理学に基づいた引用表記および研究方法の基礎について学ぶ。

【到達目標】

- ・キーワード検索を用いて、先行研究を探ることができる。
- ・Excel を使って数値データから視覚的に理解しやすい図表を作成できる。
- ・それらの図表から読み取れることを解釈し、他者に説明できる。
- ・問題と目的、方法、結果、考察という一連の論文の書き方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習および授業内での発表。

■3年次

- ・数グループに分かれて、調査を行う対象者を決定。
- ・その対象者には現在、どのような問題が起こっているのか先行研究を探す。
- ・グループごとに、その対象者にアンケートやインタビューを行い、分析。
- ・グループごとに最終レポートを作成。

■4年次

- ・各自テーマを深めて卒論に取り組む。
- ・自分でデータを収集することが必須である。必要に応じて統計分析の仕方も教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	キックオフミーティング	到達目標を共有する。
第2回	卒論関心発表（1）	卒論の関心に関連するキーワードを探る。
第3回	卒論関心発表（2）	キーワード検索を用いて、先行研究を探した結果を報告する。
第4回	共同調査（1）	共同研究で扱うテーマについて議論する。
第5回	共同調査（2）	共同研究のテーマのキーワードを探る。
第6回	共同調査（3）	キーワード検索を用いて、先行研究を探して、まとめる。
第7回	共同調査（4）	共同研究で扱うデータを収集する。
第8回	共同調査（5）	収集したデータを分析する。
第9回	共同調査（6）	データを解釈して、どのような図表にまとめて表現するか考える。
第10回	共同調査（7）	グループ内で結果の解釈について議論する。
第11回	共同調査（8）	結果について本文で記述する。
第12回	共同調査（9）	得られた結果と先行研究の対比をする。考察を深める。
第13回	共同調査（10）	問題と目的、方法、結果、考察という一連の流れで書く。
第14回	卒論中間発表	予備調査の計画を含めて卒論の中間発表をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

年に数度の課題がある。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

文献の探し方@法政大学

<http://www.i.hosei.ac.jp/~mtazawa/ref/>

【成績評価の方法と基準】

課題（6割）、積極的参加（4割）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケート結果はおおむね好評であった。4月の最初の授業で改めて意見を聞く。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を利用する回がある。

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing, APA citation style and the fundamentals of academic research to students taking this course.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4年生（秋）

田澤 実

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ論および卒業論文を完成させる。

【到達目標】
授業終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とする。
・重要な理論と方法論を説明できる
・重要な研究成果について、その研究方法・結果・含意の重要性を判断できる
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習および授業内での発表。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	秋学期のスケジュール、課題、発表順などを確認する。
第2回	3年生関心発表（1）	個人の関心事を発表する。
第3回	3年生関心発表（2）	先行研究を探すためのキーワードを探る。
第4回	文献の探し方	キーワードから先行研究を探す技法を紹介する。
第5回	4年生中間発表（1）	卒業論文の中間発表を行う。
第6回	4年生中間発表（2）	予備調査の結果について考察を加える。
第7回	4年生中間発表（3）	本調査を視野に入れて全体の構成を検討する。
第8回	3年生中間発表（1）	なぜそのテーマを扱う意義があるのか。イントロダクションに該当する文言を考える。
第9回	3年生中間発表（2）	そのテーマはどこまでのことが明らかになっているのか概観する。
第10回	3年生中間発表（3）	先行研究の問題点およびまだ明らかになっていない点を探る。
第11回	3年生中間発表（4）	上記の問題点に対して代案を示す。文献レビューのオリジナリティーを探る。
第12回	3年生中間発表（5）	上記までの流れを精緻化する。およびその章立てを確定する。
第13回	図表のまとめ方	視覚的に理解しやすい図表の作成方法を紹介する。
第14回	4年生卒論発表	卒論の要旨を報告する。 質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読み込む作業や調査の実施。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

田澤実 2016「図書館情報とスマートフォンを併用した文献の探し方」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』13, p227-251.

【成績評価の方法と基準】

課題（6割）、積極的参加（4割）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

計画上是現状維持とした。ゼミの進行については必要に応じて話し合いの時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を利用する回がある。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:
・ Describe and explain major methods and theories,
・ Evaluate major studies in terms of their methods, results, conclusions and implications,

EDU200MA

演習（発達・教育）2年生

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文完成をゴールに、＜学術論文7つの構成要素＞という基本中の基本である作法をマスターしたうえで、現時点での卒論構想（プロポーザル）を書いてみる。

【到達目標】

世の中にはさまざまなタイプ・レベルの論文がある。その良しあしを見抜く眼力を磨くこと。論文の名に値する論文には、この7つが入っている——それが＜学術論文7つの構成要素＞だ。そのうえで、自分でも卒論構想を書いてみて、自分は何にパッションがあるのか、本当に研究したいことは何か、これからどんな本を読み、何を対象にしたらいのか——などなど悩みぬくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生の問題関心（入ゼミ時の志望理由書に書かれたこと）に基づき、筒井が論文をピックアップし、毎回みんなで検討する。報告者は毎回2名だが、全員が要約とコメントを書いてくこと。議論はゼミ生に「お任せ」、筒井は最後に20分程度解説するのみ。授業終了時に、全員に添削済みを返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの進め方、ミニ・レクチャー＜学術論文7つの構成要素＞
2	聴き取り・観察調査の論文を検討する①	要約方法の解説を中心とする
3	聴き取り・観察調査の論文を検討する②	議論を中心とする
4	量的調査の論文を検討する①	要約方法の解説を中心とする
5	量的調査の論文を検討する②	議論を中心とする
6	歴史的調査の論文を検討する①	要約方法の解説を中心とする
7	歴史的調査の論文を検討する②	議論を中心とする
8	高校現代社会の授業をつくる：労働基本権	授業づくりの実際を経験し、教師の立場に立って教育を考える
9	矢野真和（2000）その①	近過去を理解することの意義を知る
10	矢野真和（2000）その②	グローバル化／教育／政治／経済／地域の関係を理解する
11	市川昭午（2002）その①	新自由主義と心理主義の相同性を理解する
12	市川昭午（2002）その②	個性主義と適格主義を理解する
13	卒論構想発表①	3人報告（3班に分かれて）
14	卒論構想発表②	3人報告（3班に分かれて）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回議論する文献について、要約とコメントを書いてくこと

【テキスト（教科書）】

入ゼミ生の関心に合わせて選択します。

【参考書】

適時指示。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出の要約・コメント：40% ゼミでの議論：40% 卒論構想発表&春休みの研究計画：20%

【学生の意見等からの気づき】

5限と6限の間の「軽い夕飯・買い出し」好評につき継続します。

【その他の重要事項】

5・6限全体が「筒井ゼミ」なので、2年生は両方出席のこと

【Outline and objectives】

In order to write a sociological graduation thesis, the students are master the < the seven components of academic paper >, the basic skill, and theh wтите a provisional proposal for it.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4年生（春）

筒井 美紀

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「教育・生活・文化・労働・政策」

なぜ、何らかの社会問題が生じると、人びとは何かと教育に期待する／解決を求めるのだろうか？ 教育はそんなに万能だろうか？ 「働くことはいいことだ」「働くことで人間は成長する」、その根拠は？ 「地方分権の方が住民の目が届くから、より良い政策が展開できる」、本当だろうか？ —— などなど、ついつい私たちが自明視していることへ疑いの目を向けること。では本当はどうなのか？ をとことん調査し文献を紐解き、集めた資料・データに基づいて分かりやすく論理的な文章にすること。このような、研究・学術論文の作法（≒大学の学び）を身体にしみ込ませ、上記5領域の少なくともいずれか1つに関わる、あなたが好きなテーマをやり抜くこと（それによって身につく総合力は、どこへ行っても応用が効く）が、この演習のゴールである。

【到達目標】

筒井ゼミでは2年間かけて卒業論文を完成してゆく。3年生春学期では、その土台部分を固める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

2年生秋学期・春休みの進捗を踏まえて卒論テーマを決め、卒論構想発表をする。そのうえで、具体的に研究を進め、先行研究の検討や質問紙項目案、インタビュー項目案など、適宜進捗報告をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春休みの進捗報告①	2人ずつ、読んだ文献やデータ分析について紹介する
2	春休みの進捗報告②	2人ずつ、読んだ文献やデータ分析について紹介する
3	春休みの進捗報告③	2人ずつ、読んだ文献やデータ分析について紹介する
4	春休みの進捗報告④	2人ずつ、読んだ文献やデータ分析について紹介する
5	卒論構想発表①	<学術論文7つの構成要素>の（1）～（5）に沿って書いてくる
6	卒論構想発表②	<学術論文7つの構成要素>の（1）～（5）に沿って書いてくる
7	卒論構想発表③	<学術論文7つの構成要素>の（1）～（5）に沿って書いてくる
8	卒論構想発表④	<学術論文7つの構成要素>の（1）～（5）に沿って書いてくる
9	卒論進捗報告①	2人ずつ報告
10	卒論進捗報告②	2人ずつ報告
11	卒論進捗報告③	2人ずつ報告
12	卒論進捗報告④	2人ずつ報告
13	卒論進捗報告⑤	2人ずつ報告
14	卒論進捗報告⑥	2人ずつ報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論研究に必要なすべてのことを行なう

【テキスト（教科書）】

各自の卒論研究に応じて、各自が決定する（“選球眼”を養う！）。もちろん、助言はする。

【参考書】

適宜助言

【成績評価の方法と基準】

発表（レジュメ）の出来具合 50 %、ディスカッション（仲間に対する知的貢献） 50 %

【学生の意見等からの気づき】

5・6限の間の「軽い夕飯の買い出し」好評につき続けます。

【Outline and objectives】

Theme: Education, Life, Culture, Labour and Policy

Why are people likely to expect education to solve the social problems when they have happened? Is education so almighty? "Working makes a person develop." On what ground do you think so? "Decentralization can implement better policies because the distance to the residents is shorter." Is it true? — In this class we are to deconstruct what we usually take it for granted, to do the research, analyze data and write a logical and relevant paper. Devote yourself to this both hard and joyful work!

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4年生
（秋）

筒井 美紀

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「教育・生活・文化・労働・政策」

なぜ、何らかの社会問題が生じると、人びとは何かと教育に期待する／解決を求めるのだろうか？ 教育はそんなに万能だろうか？「働くことはいいことだ」「働くことで人間は成長する」、その根拠は？「地方分権の方が住民の目が届くから、より良い政策が展開できる」、本当だろうか？——などなど、ついつい私たちが自明視していることへ疑いの目を向けること。では本当はどうなのか？をほとんど調査し文献を紐解き、集めた資料・データに基づいて分かりやすく論理的な文章にすること。このような、研究・学術論文の作法（≒大学の学び）を身体にしみ込ませ、上記5領域の少なくともいずれか1つに関わる、あなたが好きなテーマをやり抜くこと（それによって身につく総合力は、どこへ行っても応用が効く）が、この演習のゴールである。

【到達目標】

筒井ゼミでは2年間かけて卒業論文を完成してゆく。3年生秋学期では、各自具体的に研究を進めてゆく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

夏休みの進捗を踏まえて、引き続きどんどん進める。先行研究の検討や質問紙項目案、インタビュー項目案など、適宜進捗報告をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夏休みの進捗報告①	2人ずつ、行なった作業について報告
2	夏休みの進捗報告②	2人ずつ、行なった作業について報告
3	夏休みの進捗報告③	2人ずつ、行なった作業について報告
4	夏休みの進捗報告④	2人ずつ、行なった作業について報告
5	卒論進捗報告①	2人ずつ報告
6	卒論進捗報告②	2人ずつ報告
7	卒論進捗報告③	2人ずつ報告
8	卒論進捗報告④	2人ずつ報告
9	卒論進捗報告⑤	2人ずつ報告
10	卒論進捗報告⑥	2人ずつ報告
11	卒論進捗報告⑦	2人ずつ報告
12	卒論進捗報告⑧	2人ずつ報告
13	卒論進捗報告⑨	2人ずつ報告
14	卒論進捗報告⑩	2人ずつ報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論研究に必要なすべてのことを行なう

【テキスト（教科書）】

各自の卒論研究に応じて、各自が決定する（「選球眼」を養う！）。もちろん、助言はする。

【参考書】

適宜助言

【成績評価の方法と基準】

発表（レジュメ）の出来具合 50 %、ディスカッション（仲間に対する知的貢献） 50 %

【学生の意見等からの気づき】

5・6限の間の「軽い夕飯の買い出し」好評につき続けます。

【Outline and objectives】

Theme: Education, Life, Culture, Labour and Policy

Why are people likely to expect education to solve the social problems when they have happened? Is education so almighty? "Working makes a person develop." On what ground do you think so? "Decentralization can implement better policies because the distance to the residents is shorter." Is it true? — In this class we are to deconstruct what we usually take it for granted, to do the research, analyze data and write a logical and relevant paper. Devote yourself to this both hard and joyful work!

EDU200MA

演習（発達・教育）2年生

寺崎 里水

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

興味関心のあるテーマを見つけるために、社会認識をつくるための力を身につけます。スキルとしては、文献の探し方、データの読み方、情報のまとめ方、プレゼンの仕方といったことを身につけます。勉強ができる、成績が良い、頭がいい、いい人、地頭がよい、先生からの評価が高いなど、学校や社会でよいパフォーマンスを示す人を指すことばはたくさんあります。自分はいったいどういうふうになりたいのか、興味関心のあるテーマを探しながら、かつアカデミック・スキルを身につけながら、自分自身の社会への位置づき方を考えていきましょう。

【到達目標】

世の中の出来事が自分とどのようにつながっているのかが実感できるようになること、自分の身の回りの出来事、ある学説や理論に則って、専門用語を使いながら説明しようと試みるようになることを目標とします。人に説得的に自分の意見を説明できる、人の発表に対して建設的な意見を言える、質の良いディスカッションができるようにファシリテイトするといった技術についても学びます。人の能力の発揮の仕方にはいろいろなタイプがありますので、いろいろな活動を経験して、自分がどんなことが得意なのか、自分のつよみを理解してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

論文講読、ワークショップをもとに、ディスカッション形式で行います。あらかじめ与えられたテーマや課題について取り組む力よりも、自分自身でテーマを設定し、課題を発見して取り組む力を重視します。そのためのサポートをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アイスブレイキング。 ゼミの進め方。 ゼミでのルールの確認。
第2回	プレゼンテーションの種類と方法	レジュメをつくる、パワポをつくる、ポスターをつくる、論文を書くといった方法について、それぞれの特性と作法を学ぶ。
第3回	文献を読む-学力論①	学歴をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第4回	文献を読む-学力論②	学力や階層格差をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第5回	ディスカッション	学力論の2本の論文を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第6回	文献を読む-ジェンダー①	ジェンダーとはなにかについて、最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第7回	文献を読む-ジェンダー②	差別とジェンダーについて扱った文献を読み、知識と語彙を増やす。
第8回	ディスカッション	ジェンダーに関する2つの文献を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第9回	文献を読む-家族①	家族と子供の教育をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第10回	文献を読む-家族②	近代家族をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第11回	ディスカッション	文献を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第12回	自らの問題関心を明確にする	これから考えたいことを人に説明する。
第13回	文献リストをつくる	情報を収集して、自らのテーマに基づく文献リストをつくる。その方法を学ぶ。
第14回	まとめ	情報を収集し、知識や語彙を増やしていく方法について、具体的に学ぶ。 課題レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献の講読、プレゼンの準備を必ず行うこと。自らのテーマについて考えるためにも、ニュースを見る、映画を見る、本や漫画を読む、旅行に行く、コンサートに行く、筋トレするなど、積極的な活動を行って、経験の幅をひろげること。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの出来 30 %、提出物 30 %、授業への貢献 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムをチェックできる機器を自分で用意すること。

【その他の重要事項】

とくになし

【Outline and objectives】

It is a small seminar that learns about education, social strata, and gender issues.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4 年生
（春）

寺崎 里水

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

興味関心のあるテーマに基づき、質的、量的いずれかの調査を実施し、関連文献を講読し、卒業論文執筆を進めます。

【到達目標】

自らの考えを理論的、説得的にまとめる力、社会の見かたを養い、学習や行動につなげていく力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

方法論についてまとめたテキスト、論文をいくつか読みます。その後は各人の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果をゼミで発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方、分担決め、指定文献の配布等。 2 月、3 月中の課題の回収、講評。
第 2 回	方法論を学ぶ①	問いをたてるということについて学ぶ。
第 3 回	方法論を学ぶ②	仮説をたて、調査計画を練る方法について学ぶ。
第 4 回	方法論を学ぶ③	フィールドワークについて学ぶ。
第 5 回	テーマの検討①	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第 6 回	文献を読む①	学校観察をもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第 7 回	文献を読む②	インタビューをもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第 8 回	文献を読む③	雑誌分析をもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第 9 回	テーマの検討②	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第 10 回	個人研究発表①	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 11 回	個人研究発表②	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 12 回	個人研究発表③	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 13 回	振り返り	ここまでの作業を振り返り、今後の課題を明確化し、レポート執筆への意欲を高める。
第 14 回	まとめ	ディスカッションを行い、最終レポート執筆作業をすすめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献収集、整理、語句調べなどを各自で行うこと。また、レジュメ作成、レポート執筆を課す。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

大谷信介ほか 2013『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房
石川淳志ほか 1998『見えないものを見る力』八千代出版
佐藤郁哉 2002『フィールドワークの技法』新曜社

【成績評価の方法と基準】

授業中の発言、発表、レジュメの出来 30 %、読書ノート 10 %、レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【Outline and objectives】

It is a small seminar dealing with issues of education, social class, gender. We may conduct qualitative surveys or quantitative surveys.

EDU200MA

演習（発達・教育）3・4年生
（秋）

寺崎 里水

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

興味関心のあるテーマに基づき、文献講読および卒業論文執筆を進めます。
また、それとは別に、社会の出来事と大学の学びとを結びつける活動として、
合宿や学外のセミナー、シンポジウムなどの機会を積極的に利用します。

【到達目標】

自らの考えを理論的、説得的にまとめる力、社会の見かたを養い、学習や行
動につなげていく力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

方法論についてまとめたテキスト、論文をいくつか読みます。
その後は各人の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果をゼミで発表
します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方、分担決め、指定文献の 配布等。 夏休み中の課題の回収、講評。合宿の 振り返り。
第 2 回	合宿報告	合宿の活動成果について報告し、レ ポートの執筆分担などを決める。
第 3 回	個人研究発表①	各自のテーマに基づき文献を収集し、 整理して発表する。
第 4 回	個人研究発表②	各自のテーマに基づき文献を収集し、 整理して発表する。
第 5 回	個人研究発表③	各自のテーマに基づき文献を収集し、 整理して発表する。
第 6 回	文献を読む①教育領域	最新の学会誌から論文を 1 つ選び、精 読する。
第 7 回	文献を読む②心理領域	最新の学会誌から論文を 1 つ選び、精 読する。
第 8 回	文献を読む③その他の領 域	最新の学会誌から論文を 1 つ選び、精 読する。
第 9 回	個人研究発表④	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗 状況について報告する。
第 10 回	個人研究発表⑤	各自のテーマに基づき文献を収集し、 整理して発表する。
第 11 回	個人研究発表⑥	各自のテーマに基づき文献を収集し、 整理して発表する。
第 12 回	振り返り	ここまでの作業を振り返り、今後の課 題を明確化し、レポート執筆への意欲 を高める。
第 13 回	レポート執筆準備	最終レポート提出にむけ、ディスカッ ションを行い、執筆作業をすすめる。
第 14 回	まとめ	卒論構想発表に向けて、プレゼンの練 習をする。 最終レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献収集、整理、語句調べなどを各自で行うこと。また、レジюме作成、レ
ポート執筆を課す。

【テキスト（教科書）】
とくになし

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】

授業中の発言、発表、レジюмеの出来 30 %、読書ノート 10 %、レポート
60 %

【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【Outline and objectives】

It is a seminar that discusses social issues such as education, social
stratum, gender, etc.

EDU200MA

演習（発達・教育）2 年生

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メインテーマは「親子関係と仕事人生」です。人生において最も大切なこと
は？と問われたフロイトは「愛することと働くこと」と答えました。私の専
門分野の臨床心理学とキャリアアカウンティングのみならず、幅広い視点から
一緒に考えていきます。これによって興味関心あるテーマを調べ、レポート
を書き、発表し、討議する力を身につけます

【到達目標】

- ・興味関心のあるテーマについて自分なりに調べる方法を身につける。
- ・調べたことのレジюме、レポート、プレゼンができる。
- ・授業で聞く、話す、話し合う力がつく。
- ・インタビュー調査の実施・考察・文章化の一連の過程を体験し質的方法を理
解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は演習形式で学生が調べてきたことを発表し、討議します。
身近な人へのインタビュー、逐語録作成、質的分析までを体験します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方 担当者決め
2	インタビューの方法	インタビュー調査のための講義
3	課題図書のリポートと討 議 1	担当者のレジюмеをもとにしたグルー プ討議
4	課題図書のリポートと討 議 2	担当者のレジюмеをもとにしたグルー プ討議
5	課題図書のリポートと討 議 3	担当者のレジюмеをもとにしたグルー プ討議
6	インタビュー調査 1	ゼミの学生同士でインタビューを取り 合う
7	インタビュー調査 2	逐語録をもとに分析する
8	インタビュー調査 3	逐語録をもとに分析する
9	インタビュー調査の発表 1	インタビュー調査の結果考察を発表す る
10	インタビュー調査の発表 2	インタビュー調査の結果考察を発表す る
11	インタビュー調査の発表 3	インタビュー調査の結果考察を発表す る
12	卒論テーマにむけての発 表 1	現在、興味関心あるテーマから卒論 テーマにつなぐプレゼン
13	卒論テーマにむけての発 表 2	現在、興味関心あるテーマから卒論 テーマにつなぐプレゼン
14	卒論テーマにむけての発 表 3	現在、興味関心あるテーマから卒論 テーマにつなぐプレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書については、レジюме担当者はもとより全員が事前に読んで授業に
望むこと。

宿題としては身近な人へのインタビュー調査（1 時間程度）を各自が授業時
間以外に行なう。その録音データをもとに逐語録を作成する。

【テキスト（教科書）】
授業で適宜、指示します

【参考書】

生きる意味 上田紀行 岩波新書
認められたいの正体 山竹伸二 講談社現代新書
愛着障害 子ども時代を引きずる人びと 岡田尊司 光文社新書
母という病 岡田尊司 ポプラ新書
発想法 川喜田二郎 中公新書

【成績評価の方法と基準】

出席 30 %
授業中の積極的参加 20 %
発表 20 %
期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特にありません

【Outline and objectives】
The main theme of this lesson is "Parent-child relationship and work life".
What is the most important thing in life? Freud said "to love and work".
We will study not only clinical psychology and career counseling in my special field but also wide field.
This gives you the ability to write, present and discuss

EDU200MA

演習（発達・教育）3年生（春）

廣川 進

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテーションの力を涵養することをゼミの目的とする。

【到達目標】
研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員から高い評価を受け、研究過程とその発表結果より、研究に対する興味関心を強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることが、最終的到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討論を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第 2 回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める討論を行う
第 3 回	グループ研究発表 1	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 4 回	グループ研究発表 2	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 5 回	個人研究発表 1	個人研究発表を行い討論を行う
第 6 回	個人研究発表 2	個人研究発表を行い討論を行う
第 7 回	個人研究発表 3	個人研究発表を行い討論を行う
第 8 回	個人研究発表 4	個人研究発表を行い討論を行う
第 9 回	個人研究発表 5	個人研究発表を行い討論を行う
第 10 回	個人研究発表 6	個人研究発表を行い討論を行う
第 11 回	個人研究発表 7	個人研究発表を行い討論を行う
第 12 回	個人研究発表 8	個人研究発表を行い討論を行う
第 13 回	個人研究発表 9	個人研究発表を行い討論を行う
第 14 回	個人研究発表 10	個人研究発表を行い討論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する

【テキスト（教科書）】
授業内で紹介する

【参考書】
授業内で紹介する

【成績評価の方法と基準】
個人研究発表の成果、ゼミへの積極的参画度を評価する
出席 30 %
授業中の積極的参加 20 %
発表 20 %
期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スクリーンなど情報機器

【その他の重要事項】
主体性、自主性を重視する

【Outline and objectives】
The main theme of this lesson is "Parent-child relationship and work life".
What is the most important thing in life? Freud said "to love and work".
We will study not only clinical psychology and career counseling in my special field but also wide field.
This gives you the ability to write, present and discuss

EDU200MA

演習（発達・教育）3年生（秋）

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテーションの力を涵養することをゼミの目的とする。

【到達目標】

研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員から高い評価を受け、研究過程とその発表結果より、研究に対する興味関心を強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることが、最終的到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討論を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第 2 回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める討論を行う
第 3 回	グループ研究発表 1	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 4 回	グループ研究発表 2	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 5 回	個人研究発表 1	個人研究発表を行い討論を行う
第 6 回	個人研究発表 2	個人研究発表を行い討論を行う
第 7 回	個人研究発表 3	個人研究発表を行い討論を行う
第 8 回	個人研究発表 4	個人研究発表を行い討論を行う
第 9 回	個人研究発表 5	個人研究発表を行い討論を行う
第 10 回	個人研究発表 6	個人研究発表を行い討論を行う
第 11 回	個人研究発表 7	個人研究発表を行い討論を行う
第 12 回	個人研究発表 8	個人研究発表を行い討論を行う
第 13 回	個人研究発表 9	個人研究発表を行い討論を行う
第 14 回	個人研究発表 10	個人研究発表を行い討論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する

【テキスト（教科書）】

授業内で紹介する

【参考書】

授業内で紹介する

【成績評価の方法と基準】

個人研究発表の成果、ゼミへの積極的参画度を評価する

出席 30 %
授業中の積極的参加 20 %
発表 20 %
期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スクリーンなど情報機器

【その他の重要事項】

主体性、自主性を重視する

【Outline and objectives】

The main theme of this lesson is "Parent-child relationship and work life".

What is the most important thing in life? Freud said "to love and work". We will study not only clinical psychology and career counseling in my special field but also wide field.

This gives you the ability to write, present and discuss

EDU200MA

演習（発達・教育）4年生（春）

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテーションの力を涵養することをゼミの目的とする。

【到達目標】

研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員から高い評価を受け、研究過程とその発表結果より、研究に対する興味関心を強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることが、最終的到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討論を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第 2 回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める討論を行う
第 3 回	グループ研究発表 1	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 4 回	グループ研究発表 2	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 5 回	個人研究発表 1	個人研究発表を行い討論を行う
第 6 回	個人研究発表 2	個人研究発表を行い討論を行う
第 7 回	個人研究発表 3	個人研究発表を行い討論を行う
第 8 回	個人研究発表 4	個人研究発表を行い討論を行う
第 9 回	個人研究発表 5	個人研究発表を行い討論を行う
第 10 回	個人研究発表 6	個人研究発表を行い討論を行う
第 11 回	個人研究発表 7	個人研究発表を行い討論を行う
第 12 回	個人研究発表 8	個人研究発表を行い討論を行う
第 13 回	個人研究発表 9	個人研究発表を行い討論を行う
第 14 回	個人研究発表 10	個人研究発表を行い討論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する

【テキスト（教科書）】

授業内で紹介する

【参考書】

授業内で紹介する

【成績評価の方法と基準】

個人研究発表の成果、ゼミへの積極的参画度を評価する

出席 30 %
授業中の積極的参加 20 %
発表 20 %
期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

グループでの討議に時間を十分取る

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スクリーンなど情報機器

【その他の重要事項】

主体性、自主性を重視する

【Outline and objectives】

this course will help you to do a study of your interest for graduation thesis.

EDU200MA

演習（発達・教育）4年生（秋）

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学時代の学習の集大成としての卒業論文を完成させ、その作成過程で得られる能力を身につける

【到達目標】

優れた卒業論文を期日までに作成すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文の概要、進捗状況の発表、相互にコメントし合いながら、論文作成を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	卒業論文作成のためのオリエンテーション	卒業論文とは何か、どのように作成するかなどについて講義
第 2 回	自己の論文テーマに関する発表 1	どのようなテーマで論文を作成するか、一人ひとりが概要を発表する
第 3 回	自己の論文テーマに関する発表 2	どのようなテーマで論文を作成するか、一人ひとりが概要を発表する
第 4 回	自己の論文テーマに関する発表 3	どのようなテーマで論文を作成するか、一人ひとりが概要を発表する
第 5 回	自己の論文テーマに関する発表 4	どのようなテーマで論文を作成するか、一人ひとりが概要を発表する
第 6 回	自己の論文テーマに関する発表 5	どのようなテーマで論文を作成するか、一人ひとりが概要を発表する
第 7 回	自己の論文テーマに関する発表 5	どのようなテーマで論文を作成するか、一人ひとりが概要を発表する
第 8 回	自己の論文テーマに関する発表 6	どのようなテーマで論文を作成するか、一人ひとりが概要を発表する
第 9 回	自己の論文テーマに関する発表 7	どのようなテーマで論文を作成するか、一人ひとりが概要を発表する
第 10 回	自己の論文テーマに関する発表 8	どのようなテーマで論文を作成するか、一人ひとりが概要を発表する
第 11 回	自己の論文テーマに関する発表 9	どのようなテーマで論文を作成するか、一人ひとりが概要を発表する
第 12 回	自己の論文テーマに関する発表 10	どのようなテーマで論文を作成するか、一人ひとりが概要を発表する
第 13 回	自己の研究論文内容の振り返り 1	研究論文の振り返りを行い、再度課題を明確化する
第 14 回	自己の研究論文内容の振り返り 2	研究論文の振り返りを行い、再度課題を明確化する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

情報収集を行い、まとめ、整理し、自己の新たな情報を再構築し、深く思考し、論文にまとめる作業を行う

【テキスト（教科書）】

授業内で紹介する

【参考書】

授業内で紹介する

【成績評価の方法と基準】

研究論文内容と積極的な学びと研究の姿勢態度

出席 30 %

授業中の積極的参加 20 %

発表 20 %

期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

自ら積極的に研究に取り組み、そのプロセスから得られるものを自己のリソースとすることを常に意識すること

【Outline and objectives】

This course will help you to do a study of your interest for graduation thesis

EDU200MA

演習（発達・教育）4年生（春）

蟹江 教子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として、それぞれの興味関心に基づいて研究テーマを設定し、仮説をたて実証し、卒業論文としてまとめます。卒業論文のテーマを具体化する作業を通して、論理的思考力を養うとともに、問題を解決するためのプロセスを学びます。

【到達目標】

全員がルールに従って卒業論文を執筆、完成させることを目標とします。卒業論文の執筆を通して、問題を設定し、調査、分析、考察するプロセスを学ぶとともに、そこで得られた知見を適切な表現を用いて文章化し発表する力も修得しましょう。自らの研究だけでなく、他者の研究を評価する力も養いましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文の目的、調査方法等について報告し、議論を通じて内容を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の進め方
第 2 回	研究倫理について	論文執筆、調査を実施する際のルール（研究倫理）について確認
第 3 回	研究報告（1）	研究枠組みについての報告と議論
第 4 回	研究報告（2）	研究枠組みについての報告と議論
第 5 回	研究報告（3）	研究枠組みについての報告と議論
第 6 回	研究報告（4）	研究枠組みについての報告と議論
第 7 回	研究報告（5）	研究枠組みについての報告と議論
第 8 回	データの収集（1）	目的と方法の整合性についての検討と確認、データ収集
第 9 回	データの収集（2）	目的と方法の整合性についての検討と確認、データ収集
第 10 回	データの収集（3）	目的と方法の整合性についての検討と確認、データ収集
第 11 回	データの収集（4）	目的と方法の整合性についての検討と確認、データ収集
第 12 回	データの収集（5）	目的と方法の整合性についての検討と確認、データ収集
第 13 回	春学期のまとめ	これまでの進捗状況の確認と今後の課題の整理
第 14 回	夏休みに向けて	夏休みの課題について確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は、レジュメを必ず準備してください。配布されたレジュメは必ず読んでから授業にのぞんでください。文献収集は積極的に行ってください。

【テキスト（教科書）】

井下千以子,2014,『思考を鍛えるレポート・論文作成術 第2版』慶應義塾大学出版会。

【参考書】

小泉潤二・志水宏吉編,2007,『実践的研究のすすめ』,有斐閣。
石川淳志・佐藤健二・山田一成著,1998,『見えないものを見る力』,八千代出版。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート 50 %（設定した条件を満たしているか、理論的な思考が出来ているか）、授業での報告 25 %（分かりやすい説明がなされているか）、授業での発言 25 %（仲間の研究に貢献できているか）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

報告の際は、全員分のレジュメを準備してください。

【その他の重要事項】

統計分析については、必要な授業を履修してください。

【Outline and objectives】

Students will select a subject related to their interest and prepare a thesis. This seminar includes instructions on quantitative/qualitative analytical skills as well as research skills to articulate research questions, collect proper data, and structure thesis. Students are encouraged to make several presentations on their research topic, research progress and tentative results of their research.

EDU200MA

演習（発達・教育）4年生（秋）

蟹江 教子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として、それぞれの興味関心に基づいて研究テーマを設定し、仮説をたて実証し、卒業論文としてまとめます。卒業論文のテーマを具体化する作業を通して、論理的思考力を養うとともに、問題を解決するためのプロセスを学びます。

【到達目標】

全員がルールに従って卒業論文を執筆、完成させることを目標とします。卒業論文の執筆を通して、問題を設定し、調査、分析、考察するプロセスを学ぶとともに、そこで得られた知見を適切な表現を用いて文章化し発表する力も修得しましょう。自らの研究だけでなく、他者の研究を評価する力も養いましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文の目的、調査方法、結果等について報告し、議論を通じて内容を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の進め方について
第 2 回	中間報告（1）	これまでの成果についての報告と議論
第 3 回	中間報告（2）	これまでの成果についての報告と議論
第 4 回	中間報告（3）	これまでの成果についての報告と議論
第 5 回	中間報告（4）	これまでの成果についての報告と議論
第 6 回	中間報告（5）	これまでの成果についての報告と議論
第 7 回	個別指導（1）	卒業論文の執筆
第 8 回	個別指導（2）	卒業論文の執筆
第 9 回	個別指導（3）	卒業論文の執筆
第 10 回	個別指導（4）	卒業論文の執筆
第 11 回	個別指導（5）	卒業論文の執筆
第 12 回	結果報告（1）	結果の報告と提出論文の修正
第 13 回	結果報告（2）	結果の報告と提出論文の修正
第 14 回	秋学期のまとめ	卒業論文の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は、レジュメを必ず準備してください。配布されたレジュメは必ず読んでから授業にのぞんでください。文献収集は積極的に行ってください。

【テキスト（教科書）】

井下千以子,2014,『思考を鍛えるレポート・論文作成術 第2版』慶應義塾大学出版会。

【参考書】

小泉潤二・志水宏吉編,2007,『実践的研究のすすめ』,有斐閣。
石川淳志・佐藤健二・山田一成著,1998,『見えないものを見る力』,八千代出版。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート 50 %（条件を満たしているか、理論的な思考が来ているか）、授業での報告 25 %（分かりやすい説明がなされているか）、授業での発言 25 %（仲間の研究に貢献できているか）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

報告の際は、全員分のレジュメを準備してください。

【その他の重要事項】

統計分析については、必要な授業を適宜履修してください。

【Outline and objectives】

Students will select a subject related to their interest and prepare a thesis. This seminar includes instructions on quantitative/qualitative analytical skills as well as research skills to articulate research questions, collect proper data, and structure thesis. Students are encouraged to make several presentations on their research topic, research progress and tentative results of their research.

MAN200MA

演習（ビジネス）2年生

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜能力形成 → 就職活動・採用活動 → 初期キャリア＞に関わる諸問題を演習のテーマとします。
共通の文献を読み、ディスカッションすることを通して、自らのキャリアの中で大きな節目となる学校から職業への移行過程を、一歩引いた俯瞰的な視点でとらえることを目指します。

【到達目標】

文献を読み、情報収集を行う中で、論点を把握することができる。
その論点をめぐって考察を深め、その結果を適切に発表・論述できる。
共通の論点をめぐって受講生同士で考察を深め合うことができる。
みずからが探求したい「問い」を見つけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

4年次における卒論の執筆に向けた段階的な指導を行います。2年次秋学期は、文献を読み込み、論点を明らかにしていくこと、その論点についてディスカッションを行う中でみずからの「問い」を形成していくこと、書式に従った論文を書くこと、データや文献を収集することなど、「基礎ゼミ」で学んだ内容をもう一度自分たちで辿って、ゼミ論を書けるようになる準備をする期間と位置付けます。同時に、3年次のゼミ論につながる「問い」を絞り込んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミのテーマと進め方、自己紹介と問題意識の共有、文献紹介
2	身近な話題をめぐるとのディスカッション	1つの論点をめぐるとのディスカッションに慣れる
3	就職活動をめぐるとの共通文献 A の検討 (1)	共通文献 A（前半部分）の的確な内容理解と論点の抽出、論点をめぐるとのディスカッション
4	就職活動をめぐるとの共通文献 A の検討 (2)	共通文献 A（前半部分）の論点をめぐるとの論述とディスカッション
5	就職活動をめぐるとの共通文献 A の検討 (3)	共通文献 A（後半部分）の的確な内容理解と論点の抽出、論点をめぐるとのディスカッション
6	就職活動をめぐるとの共通文献 A の検討 (4)	共通文献 A（後半部分）の論点をめぐるとの論述とディスカッション
7	企業の労務管理をめぐるとの共通文献 B の検討 (1)	共通文献 B（前半部分）の的確な内容理解と論点の抽出、論点をめぐるとのディスカッション
8	企業の労務管理をめぐるとの共通文献 B の検討 (2)	共通文献 B（前半部分）の論点をめぐるとの論述とディスカッション
9	企業の労務管理をめぐるとの共通文献 B の検討 (3)	共通文献 B（後半部分）の的確な内容理解と論点の抽出、論点をめぐるとのディスカッション
10	企業の労務管理をめぐるとの共通文献 B の検討 (4)	共通文献 B（後半部分）の論点をめぐるとの論述とディスカッション
11	データの読解	データの比較とディスカッション
12	関連文献・データの収集 (1)	文献・データの所在と収集方法
13	関連文献・データの収集 (2)	文献・データの収集と発表
14	「問い」の明確化	各自の「問い」の発表と明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通文献の読解、レジュメ作成、論点提示を行う。
プレゼンの準備、レポートの執筆を行う。
関連する文献やデータを収集する。
関連するニュースや論考を追う。

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

・井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成術 第2版』慶應義塾大学出版会
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
共通文献については、授業内で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの主体的な参加： 30 %
レジュメの作成と論点提示： 30 %
レポート： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

The theme of the seminar is “Major Issues related to the School-to-Work Transition”.

In this seminar, participants will develop better understanding of changing labor market and work styles, and develop perspectives of their career by reading, discussion, and critical writing.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（春）

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<能力形成 → 就職活動・採用活動 → 初期キャリア>に関わる諸問題を演習のテーマとします。
ゼミ論の執筆に向けて、文献の読み込みと調査によって「問い」を深めます。

【到達目標】

春学期は関連文献を読み込むこと、みずからの「問い」を深めること、独自調査の計画を立てて実行することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

卒論の執筆に向け、3年次にはゼミ論の完成を目指します。春学期は、各自が設定したゼミ論の「問い」に関連した文献・データを適切に収集して検討した上で、「問い」を改めて文章化し、その「問い」を深めるための独自調査の計画を立てて発表し、実行していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミ論の「問い」の発表と検討 (1)	各自が設定したゼミ論テーマの「問い」を発表し、ディスカッションする
2	ゼミ論の「問い」の発表と検討 (2)	各自が設定したゼミ論テーマの「問い」を発表し、ディスカッションする
3	論文の構成の理解	論文の基本的な構成を理解する
4	先行研究の収集と検討 (1)	文献収集状況の発表
5	先行研究の収集と検討 (2)	収集した文献の重要度の検討
6	先行研究の収集と検討 (3)	収集した文献の論点整理
7	独自調査の計画の策定	先行研究を踏まえた独自調査の必要性を検討する
8	独自調査の計画の発表 (1)	各自が独自調査の計画を発表し、相互に検討する
9	独自調査の計画の発表 (2)	各自が独自調査の計画を発表し、相互に検討する
10	独自調査の実施の中間報告 (1)	各自が独自調査を実施し、その結果を中間報告する
11	独自調査の実施の中間報告 (2)	各自が独自調査を実施し、その結果を中間報告する
12	研究計画の再検討 (1)	独自調査結果を踏まえ、さらなる文献検討や独自調査の必要性を再検討する
13	研究計画の再検討 (2)	独自調査結果を踏まえ、さらなる文献検討や独自調査の必要性を再検討する
14	振り返りとまとめ	各自の進捗状況を振り返り、中間発表に向けた各自の課題を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献・データを収集し、論点を整理し、発表の準備を行う。
独自調査を企画し、実施し、その結果を整理する。

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

・井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成術 第2版』慶應義塾大学出版会
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
その他については、授業内で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの主体的な参加： 30 %
先行研究の整理： 30 %
独自調査の企画と実施： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

一人ひとりの力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

2年次の演習からの継続受講を原則とします。
4年次は卒業論文執筆指導となります。シラバスの「卒業論文（ビジネス）」を参照すること。

【Outline and objectives】

The theme of the seminar is “Major Issues related to the School-to-Work Transition”.

In this seminar, participants will clarify their own theme by reading and research.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（秋）

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜能力形成 → 就職活動・採用活動 → 初期キャリア＞にかかわる諸問題を演習のテーマとします。
秋学期はゼミ論の完成に向けて論文執筆に取り組みます。

【到達目標】

適切な論文構成により、ゼミ論を完成させることができる。
ゼミ論執筆のプロセスを通じて、みずからの卒論の研究課題と研究方法を固めていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期はゼミ論の執筆に取り組みます。論文の構成の方法、先行研究への適切な言及方法、研究結果の整理の方法などを実践的に学びながら、ゼミ論を完成させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究課題の文章化	研究課題を文章化し、検討する
2	ゼミ論中間発表 (1)	各自のゼミ論の構想を中間発表し、相互に検討する
3	ゼミ論中間発表 (2)	各自のゼミ論の構想を中間発表し、相互に検討する
4	既存の文献から学ぶ (1)	すぐれた論文の構成を検討する
5	既存の文献から学ぶ (2)	すぐれた論文の構成を検討する
6	論文構成の再検討	論文構成を再検討する
7	ゼミ論の執筆と指導 (1)	ゼミ論の執筆状況を確認し、個別指導を行う
8	ゼミ論の執筆と指導 (2)	ゼミ論の執筆状況を確認し、個別指導を行う
9	ゼミ論の執筆と指導 (3)	ゼミ論の執筆状況を確認し、個別指導を行う
10	ゼミ論の発表とコメント (1)	ゼミ論を発表し、寄せられたコメントを検討する
11	ゼミ論の発表とコメント (2)	ゼミ論を発表し、寄せられたコメントを検討する
12	ゼミ論の発表とコメント (3)	ゼミ論を発表し、寄せられたコメントを検討する
13	振り返りと課題設定 (1)	ゼミ論執筆を振り返り、卒論に向けた課題設定を行う
14	振り返りと課題設定 (2)	ゼミ論執筆を振り返り、卒論に向けた課題設定を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

独自調査結果を整理し、発表の準備を行う。
ゼミ論の執筆を進める。
中間発表、ゼミ論発表に向けた準備を行う。

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

・井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成術 第2版』慶應義塾大学出版会
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
その他については、授業内で随時、指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの主体的な参加：30 %
発表：20 %
ゼミ論：50 %

【学生の意見等からの気づき】

一人ひとりの力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

The theme of the seminar is “Major Issues related to the School-to-Work Transition”.
In this seminar, participants will write research reports of their own theme.

MAN200MA

演習（ビジネス）2年生

西村 純

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域を対象として、社会調査の実践的な学習を進めていきます。まず、地域データ分析やインタビューの理論や方法を学びます。その後、実際に地域調査を実施する中で、調査のスキルを身に付けることを目指します。また、同時に地域経済や地域活性化政策について文献を読みながら議論をし、現代における地域経済について学びます。

【到達目標】

2 年生秋学期の授業なので、3 年次以降の演習に繋がるように調査スキルの学習を第一に考えます。一人で地域経済の官庁統計を理解し、分析できること。さらに、人物にアポイントメントをとり、インタビュー調査を実施できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

西村幸夫・野澤康「まちの見方・調べ方ー地域づくりのための調査法入門」（朝倉書店）や岡田知弘・品田茂「行け行け！ わがまち調査隊ー市民のための地域調査入門」（自治体研究社）の数章を基礎に調査法を学び、実際に地域調査を行います。調査対象地域に関しては、学生と一緒に相談しながら決めたいと思いますが、繰り返し調査地域を訪れるので、大学から近い地域になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの運営方針の説明。班分けなど。	ゼミの運営方針を説明し、お互いの自己紹介を行います。
第 2 回	地域の官庁統計の説明。	地域統計を解説。
第 3 回	統計情報の分析 (1)	実際の官庁統計を分析してみる。
第 4 回	統計情報の分析 (2)	前回講義に引き続き、官庁統計を分析してみる。
第 5 回	統計分析の実習	ある地域を決めて、統計分析を実際に行う。
第 6 回	報告会	統計分析のレポート報告会
第 7 回	地域資料の利用方法（地図、行政資料、歴史資料）	地域の文献資料の探し方を解説。
第 8 回	地域図書館・資料館の訪問。	実際に地域の図書館・資料館を訪問する。
第 9 回	インタビュー調査方法の説明	インタビュー調査方法について、解説。
第 10 回	インタビュー調査の企画会議	インタビュー調査の計画を練る。
第 11 回	地域まちあるき	外に出て、調査対象を探す。
第 12 回	インタビュー調査実習①	インタビューを実施。その経験を振り返る。
第 13 回	インタビュー調査実習②	インタビューを実施。その経験を振り返る。
第 14 回	報告会	インタビュー調査のレポート報告会。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域調査を軸とした演習運営なので、授業時間外に調査の時間を確保してもらいます。実際は、班分けをして調査を行いますので、学生の自主性が重んじられます。

【テキスト（教科書）】

西村幸夫・野澤康「まちの見方・調べ方ー地域づくりのための調査法入門」（朝倉書店）

【参考書】

岡田知弘・品田茂「行け行け！ わがまち調査隊ー市民のための地域調査入門」（自治体研究社）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 (50%) + 報告内容 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により前年にアンケートを実施していません。授業の中で皆さんの意見を取り入れてより良いものにしていければと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンや ic レコーダーを使用します。

【Outline and objectives】

The main objects of this course are to get method of social research and conduct research about local economy or community by yourself. To achieve this goal, this course is to study how to use official statistics, conduct literature searching, interview somebody and carry out an observation.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（春）

梅崎 修

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

調査を通じた地域研究・地域マネジメントが授業のテーマである。具体的な調査実習を通して地域活動について考えてもらう。梅崎演習では、調査報告だけでなく、各地域での地域連携プロジェクトも実施してきた。プロジェクトの企画運営を通じて、地域マネジメントの課題解決について議論する。

【到達目標】

身に付けた調査スキルを使って実際の調査を企画、実施、論文・レポートにまとめる。地域が抱える課題を調査で浮き彫りにし、その上で地域活性化やまちづくりに対する具体的な提案ができるようになる。地域との連携プロジェクトでは、プロジェクトの企画力、チーム運営力などを身に付けてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生は、班ごとの地域調査レポートの作成と地域プロジェクト運営、4 年生はプロジェクトの完成と卒業論文の作成を第一に考える。春学期の授業では、調査の企画、開始までを指導を受けながら少しずつ進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の進め方を話し合う。班分けなどを決める。
2	調査法解説	これまでの調査経験を振り返り、新たに身に付けるべき調査法について検討。
3	論文・レポートの書き方	論文・レポートの書き方を解説。
4	論文・レポートの発表の仕方	論文・レポートの発表の仕方を解説。
5	地域経済学（文献）を読む。	地域経済学に関する文献を読み、議論する。
6	オーラルヒストリー（文献）を読む	オーラルヒストリーに関する文献を読み、議論する。
7	まちづくり（文献）を読む。	まちづくりに関する文献を読み、議論する。
8	調査企画報告①	約 5 名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
9	調査企画報告②	約 5 名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
10	調査企画報告③	約 5 名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
11	調査経過報告①	約 5 名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
12	調査経過報告②	約 5 名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
13	調査経過報告③	約 5 名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
14	夏休み合宿準備	合宿先での調査を全員で議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査は、基本的に授業外の時間で行います。時間を確保して、事前準備、調査実施、調査のまとめを行ってもらいます。また、授業時間とは別にサブゼミに参加してもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【参考書】

特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 50%、レポート・論文の報告内容 50%

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文に関しては、長文を書くのに苦労をするので、春学期の段階から論文の書き方を講義していく。

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn regional management through investigations. Seminar students plan and conduct research while learning the survey method. At the Umezaki seminar, we have managed research reports as well as regional cooperation projects in each region. We will discuss the problem solving of regional management through project planning and management.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（秋）

梅崎 修

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

調査を通じた地域研究・地域マネジメントが授業のテーマである。具体的な調査実習を通して地域活動について考えてもらう。梅崎演習では、調査報告だけでなく、各地域での地域連携プロジェクトも実施してきた。プロジェクトの企画運営を通じて、地域マネジメントの課題解決について議論する。

【到達目標】

春学期に引き続き、身に付けた調査スキルを使って実際の調査を企画、実施、論文・レポートにまとめる。秋学期は、レポートや論文の完成を目指す。地域が抱える課題を調査で浮き彫りにし、その上で地域活性化やまちづくりに対する具体的な提案ができるようになる。地域との連携プロジェクトでは、プロジェクトの企画力、チーム運営力などを身に付けてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生は、班ごとの地域調査レポートの作成と地域プロジェクト運営、4 年生は卒業論文の作成を第一に考える。春学期の授業では、調査の企画、開始までを指導を受けながら少しずつ進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夏休み合宿の振り返り	夏休み合宿の振り返り、議論をする。
2	文章力向上のための講義	長文を論理的に書くためのノウハウを講義する。
3	プレゼンテーション向上のための講義	プレゼンテーションを時間内にわかりやすく行うためのノウハウを講義する。
4	文献購読（アクションリサーチ）	地域連携プロジェクトを最終的な課題提案につなげるために、アクションリサーチの文献を読む。
5	文献購読（地域政策）	地域政策の論文を輪読し、議論する。
6	レポート・論文の中間報告①	約5名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
7	レポート・論文の中間報告②	約5名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
8	レポート・論文の中間報告③	約5名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
9	レポート・論文の中間報告④	約5名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
10	ゲスト講師の講義	地域活性化に携わるゲスト講師の講義
11	地域連携プロジェクトのワークショップ①	サブゼミ中心に進めてきた地域連携プロジェクトの成果報告とワークショップ形式で議論。
12	地域連携プロジェクトのワークショップ②	サブゼミ中心に進めてきた地域連携プロジェクトの成果報告とワークショップ形式で議論。
13	レポート・論文の最終報告①	10 名ずつ、論文・レポートの最終報告会。サブゼミの時間も使う。
14	レポート・論文の最終報告②	10 名ずつ、論文・レポートの最終報告会。サブゼミの時間をを使う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査は、基本的に授業外の時間で行います。時間を確保して、事前準備、調査実施、調査のまとめを行ってもらいます。また、授業時間とは別にサブゼミに参加してもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【参考書】

河野哲也「レポート・論文の書き方入門 第3版」慶應義塾大学出版会

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 50%、レポート・論文の報告内容 50%

【学生の意見等からの気づき】

レポート・卒業論文作成は、長文を書くことに苦勞するので、細かいチェックポイントを設けて指導していく。

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn regional management through investigations. Seminar students plan and conduct research while learning the survey method. At the Umezaki seminar, we have managed research reports as well as regional cooperation projects in each region. We will discuss the problem solving of regional management through project planning and management.

MAN200MA

演習（ビジネス）2年生

木村 琢磨

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年次・4年次の演習に向けて、組織行動論の基本を学習し、企業を組織マネジメントの視点から理解できるようになることを目指す。授業内で行うプレゼンテーション、議論、レポートの作成を通じて、組織のマネジメントに関する分析的視点を養う。

【到達目標】

組織行動論の主なテーマ（モチベーション、リーダーシップなど）の理論・研究に関して一般的な大学の教科書レベルの知識を身につけ、体系的に整理をし、他の人に教えることができるレベルを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題文献に基づく、学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心として進める。プレゼンテーションは、内容の要約的説明と分析、論点提示を中心とする。プレゼンテーションに基づいて学生同士で質疑、ディスカッションを行う。取り扱うテーマの内容は履修者の関心に応じて変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と学習方法・成績評価方法について
第2回	モチベーション	モチベーションの内容論と過程論
第3回	組織コミットメント	コミットメントの種類と規定要因
第4回	意思決定と合意形成	意思決定のプロセス、意思決定におけるバイアス
第5回	組織市民行動	組織市民行動の内容と規定要因
第6回	組織ストレス	ストレスの規定要因、予防・対処策
第7回	チーム・マネジメント	チームのタイプ、チーム・ビルディング
第8回	リーダーシップ	リーダーシップの種類、リーダーシップ開発
第9回	キャリアデザイン特別講演	外部講師を招聘し、企業におけるキャリアデザインに関する講演を聞き、討論する
第10回	組織変革	組織変革の推進方法、変革への抵抗の発生要因
第11回	組織文化	組織文化の機能、組織文化の改革
第12回	組織的公正	組織的公正とは、組織的公正の規定要因
第13回	組織社会化	組織社会化とは、組織社会化の促進策
第14回	ダイバーシティ・マネジメント	人材の多様性の影響、ダイバーシティ・マネジメントの考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・プレゼンテーションの準備、論点の準備、各種課題の準備

【テキスト（教科書）】

開本浩矢（2014）『入門組織行動論（第2版）』中央経済社

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 30%

・評価基準：教科書の内容を正しく理解し、必要に応じて他の資料を参考にし理解を深め、担当テーマについて他の学生に教えることができること。

平常点（発言・議論）30%

・評価基準：教科書・プレゼンテーションの内容を正しく理解し、批判的・建設的な考察を加えることができること。

提出課題 40%

・評価基準：授業で扱った複数のテーマを統合的に考え、テーマの関連性をふまえて現実の問題に当てはめて考察することができること。

【学生の意見等からの気づき】

使用テキストを、基礎力強化に重点を置いたものにした。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配付は授業支援システム上で行います。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：火曜3限（研究室）

【Outline and objectives】

This course focuses on some of the essential topics in organizational behavior. It will cover basic analytical approaches and some practical examples of firms. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic approaches that can work as guides to implement human resource management.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（春）

木村 琢磨

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①3 年次前半：2 年次の学習内容を発展させ、選択したテーマに基づいて文献研究を行う。さらに、秋学期に向けてグループワークの研究テーマの設定も行う。

②3 年次後半：ゼミ生自身でテーマを決め、グループ研究に取り組む。研究方法は、データ分析、インタビュー調査、参与観察など、研究テーマに合わせて決定する。

③4 年次：2 年、3 年次に学習した内容を下に、卒業論文の作成に向けた研究を行う。

【到達目標】

3 年次は、2 年次の学習を発展させ、企業の組織マネジメントを多角的な視点から理解・分析できるようになることを目指す。

4 年次は、3 年次に修得したことをもとに、各自でテーマ（企業経営と人材のマネジメントに関するもの）を設定し、卒業論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学生による授業（プレゼンテーション）と、それに対する他の学生から質問・意見を出し、学生同士でディスカッションをする、という進め方を基本とする。学生が自身の調査に基づいて自ら発信する形をとり、教員はファシリテーションとコメントに徹する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方・学習方法の説明、ゼミ生の役割分担の決定を行う。
第 2 回	卒業論文研究計画発表	卒業論文のテーマと研究計画に関するプレゼンテーションを行う。
第 3 回	テーマ検討グループワーク	3 年生の取り組む深めるテーマの選定、4 年生との討議
第 4 回	テーマ研究グループワーク	3 年生によるテーマ研究、4 年生の卒業論文構想検討
第 5 回	テーマ研究発表（1）	3 年生によるプレゼン（1 人目）
第 6 回	テーマ研究発表（2）	3 年生によるプレゼン（2 人目）
第 7 回	テーマ研究発表（3）	3 年生によるプレゼン（3 人目）
第 8 回	テーマ研究発表（4）	3 年生によるプレゼン（4 人目）
第 9 回	テーマ研究発表（5）	3 年生によるプレゼン（5 人目）
第 10 回	テーマ研究フィードバック	前週までのプレゼンテーションに対するフィードバック
第 11 回	グループ研究テーマ検討	3 年生のグループ研究のテーマを検討する。
第 12 回	卒業論文中間報告（1）	4 年生第 1 グループの卒業論文の中間報告会を行う。
第 13 回	卒業論文中間報告（2）	4 年生第 2 グループの卒業論文の中間報告会を行う。
第 14 回	卒業論文中間報告（3）	4 年生第 3 グループの卒業論文の中間報告会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・プレゼンテーションの準備、論点の準備、各種課題の準備

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 50%

・評価基準①：選択したテーマに関して、基礎的な概念・理論の理解に基づき、データや先行研究を参照して概括的な説明ができること。

・評価基準②：自ら設定した研究テーマに関し、先行研究に基づいてリサーチ・クエスチョンまたは仮説を設定し、その意義を説明できること。および、それらを検証のための研究計画が立てられること。

平常点（発言・議論）50%

・評価基準：他の人が行ったプレゼンテーションの内容を、求められる専門知識・フレームワークを元に正しく理解し、批判的・建設的な考察を加えることができること。

【学生の意見等からの気づき】

3 年次にグループ研究のみならず個人研究も導入した。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：火曜3限（研究室）

【Outline and objectives】

This course is designed to complete capstone projects that provide the student with theoretical and practical knowledge of organizational behavior and human resource management. The contents of the course are dependent on the thematic areas in which each student or group is working on their projects.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（秋）

木村 琢磨

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年次後半：ゼミ生自身でテーマを決め、グループ研究に取り組む。研究方法は、データ分析、インタビュー調査、参与観察など、研究テーマに合わせて決定する。

4年次：3年次に取り上げたテーマをベースにして、卒業論文の作成に向けた研究を行う。

【到達目標】

3年次には、グループとして自ら設定したテーマに基づいて研究を進め、企業の組織マネジメントを経営の視点から分析する能力を身につける。

4年次には、3年次に修得したことをもとに、各自でテーマ（企業経営と人材のマネジメントに関するもの）を設定し、卒業論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・学生による授業（プレゼンテーション）と、それに対する他の学生から質問・意見を出し、学生同士でディスカッションをする、という進め方を基本とする。学生が自身の調査に基づいて自ら発信する形をとり、教員はファシリテーションとコメントに徹する。

・期末に、研究成果として論文（3年生はグループ研究論文、4年生は各自の卒業論文）を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の進め方・計画の説明。研究の基本的な進め方についての確認
第2回	研究論文輪読	卒業論文・グループ研究の参考とすべき論文（質的分析）の輪読
第3回	研究論文輪読	卒業論文・グループ研究の参考とすべき論文（量的分析）の輪読
第4回	グループ研究中間報告	3年生によるグループ研究の中間報告
第5回	卒業論文中間報告（1）	4年生第1グループ。卒業論文の中間報告を行う（プレゼンテーションと議論）
第6回	卒業論文中間報告（2）	4年生第2グループ。卒業論文の中間報告を行う（プレゼンテーションと議論）
第7回	卒業論文中間報告（3）	4年生第3グループ。卒業論文の中間報告を行う（プレゼンテーションと議論）
第8回	キャリアデザイン特別講演	外部講師を招聘し、企業におけるキャリアデザインに関する講演を聞き、討論する
第9回	キャリアデザイン特別講演	外部講師を招聘し、企業におけるキャリアデザインに関する講演を聞き、討論する
第10回	卒業論文最終報告（1）	4年生第1グループ。卒業論文の提出前最終報告を行う（プレゼンテーションと議論）
第11回	卒業論文最終報告（2）	4年生第2グループ。卒業論文の提出前最終報告を行う（プレゼンテーションと議論）
第12回	卒業論文最終報告（3）	4年生第3グループ。卒業論文の提出前最終報告を行う（プレゼンテーションと議論）
第13回	グループ研究最終報告	グループ研究の仕上げのための完成前の最終報告を行う
第14回	研究成果発表	卒業論文、グループ研究の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ビジネスキャリア入門D、経営組織論Ⅰ・Ⅱ、人材育成論Ⅰ・Ⅱ、経営分析論Ⅰ・Ⅱ、戦略経営論Ⅰ・Ⅱを併せて履修することを推奨する。

・プレゼンテーションの準備、論点の準備、各種課題の準備

・実態調査

・論文執筆

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

渡辺知明（2015）『文章添削の教科書』芸術新聞社

井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成法（第2版）』慶應義塾大学出版会
 そのほか、受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 30%

・評価基準：自身の研究について、研究の意義・先行研究・方法・調査結果・結論を明確にまとめ、他者が理解しやすい形でプレゼンテーションをし、質疑への応対が的確にできること。

平常点（発言・議論）30%

・評価基準：他の人が行ったプレゼンテーションの内容を、求められる専門知識・フレームワークを元に正しく理解し、批判的・建設的な考察を加えることができること。

期末課題 40%

・評価基準：自ら設定した研究テーマにつき、先行研究に基づいて意義あるリサーチ・クエスチョンまたは仮説を設定し、それを検証するための適切かつ十分な調査を行って結論を導き出せること。

【学生の意見等からの気づき】

前年度と同様の形式で進める。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：火曜3限（研究室）

【Outline and objectives】

This course is designed to complete capstone projects that provide the student with theoretical and practical knowledge of organizational behavior and human resource management. The contents of the course are dependent on the thematic areas in which each student or group is working on their projects.

MAN200MA

演習（ビジネス）4年生（春）

杉浦 治

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆非エンジニアらしくテクノロジーを理解し、ビジネス現場で必要とされる人材になるための基盤を創る。

今後のビジネス現場では、エンジニアでなくても（文化系でも、体育会系でも）テクノロジーに対する正しい理解が必要です。たとえば、「スマートフォンにはどんなセンサーが載っていて、活用可能なデータにはどんなものがあるか？」を知らないと“ポケモン Go”を企画することはできません。Siriに天気を聞けば答えてくれるのは皆さんも知っているでしょうが、“音声認識を使った新しいプロモーション”を企画することは、「AI（人工知能）で何ができそうかか？」をイメージできない担当者には無理なのです。

そこで、「Web」「スマートフォン」「クラウド」「ビッグデータ（AI、IoT、MA、DMP）」「プライバシー」「セキュリティ」「決済」「物流」などの環境変化を正しく理解し、それらが社会生活、消費行動、ビジネスに与える影響を考察します。

この考察を通じて、未知の領域を調べる力、専門家に質問する力、自分の意見を持つ力を養います。これらの力は、社会に出た後に自分の居場所を創り、自分らしいキャリアを重ねる基礎となります。

4年の春学期は、上記テクノロジー全般について考察し、自分の見解（アウトプット）について評価を受けることを目指します。

【到達目標】

テクノロジーが社会に与える影響について、自分の言葉、身近な事例で表現し、外部から評価を受ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

■関連する社会動向についてファクトを把握する。

- 調査、専門家ヒアリングなどから動向を正しく把握する。
- 日頃から与えられたテーマに関するニュースを読み、気づきを加えて記録する。

■ファクトに対して意見をもち、議論し、意見を高度化する。

- 入手した情報を鵜呑みにせず、自分の意見を持つ。
- クラス内で意見を共有し、多様な意見を受け入れ、議論する。

■アウトプットする

- ブログ原稿を書く。
- 表や概念図を使用して、主張の論理構造を明確に示す。
- イラスト、写真、動画などのうち、自分が比較的好きな形式を使用してリッチコンテンツを作る。

■アウトプットに対して、何らかの方法で評価を受ける。

- サイトで公表してシェアしてもらう。
- アウトプットを配信または配布してレビューをもらう。
- アウトプットを対面でプレゼンしてコメントをもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方、留意事項、目標、評価方法、用語解説、自己学習の方法
第2回	テーマ調査、ディスカッション	演習
第3回	テーマ調査、ディスカッション	演習
第4回	第1回アウトプットの共有	発表と意見交換
第5回	アウトプットの評価方法検討	演習
第6回	アウトプットの評価方法検討	演習
第7回	第1回アウトプットの評価共有	発表と意見交換
第8回	テーマ調査、ディスカッション	演習
第9回	テーマ調査、ディスカッション	演習
第10回	第2回アウトプットの共有	発表と意見交換
第11回	アウトプットの評価方法検討	演習
第12回	アウトプットの評価方法検討	演習

第 13 回 第 2 回アウトプットの評 発表と意見交換

価共有

第 14 回 まとめ 振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

■ 定常的な情報収集

- ニュース
- 調査レポート

■ 講師への質問準備

■ ゼミ内で案内した Web コラムや書籍の読了

■ OB、OG 訪問等による企業の取材

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、レポートもしくは試験

【学生の意見等からの気づき】

重点テーマを絞り、時間をかけて議論をする。

【学生が準備すべき機器他】

PC など、インターネット接続デバイス。

ビジネスシーンに近い機動性が必要なため、スマホではなく、タブレットか PC を推奨。

【Outline and objectives】

In the field of business, people who are not engineers also need to understand technology properly.

Therefore, students learn "Web" "smart phone" "cloud" "big data (AI, IoT, MA, DMP)" "privacy" "security" "Fintech" "logistics".

Students will look at the impact of the above technologies on social life, consumption behavior, business.

In the spring semester of the 4th year, students will consider the above technology in general and aim to be evaluated about their views (outputs).

MAN200MA

演習（ビジネス）4 年生（秋）

杉浦 治

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆非エンジニアらしくテクノロジーを理解し、ビジネス現場で必要とされる人材になるための基盤を創る。

今後のビジネス現場では、エンジニアでなくても（文化系でも、体育会系でも）テクノロジーに対する正しい理解が必要です。たとえば、「スマートフォンにはどんなセンサーが載っていて、活用可能なデータにはどんなものがあるか？」を知らないと「ポケモン Go」を企画することはできません。Siri に天気を開けば答えてくれるのは皆さんも知っているでしょうが、「音声認識を使った新しいプロモーション」を企画することは、「AI（人工知能）で何ができそうか？」をイメージできない担当者には無理なのです。

そこで、「Web」「スマートフォン」「クラウド」「ビッグデータ（AI、IoT、MA、DMP）」「プライバシー」「セキュリティ」「決済」「物流」などの環境変化を正しく理解し、それらが社会生活、消費行動、ビジネスに与える影響を考察します。

この考察を通じて、未知の領域を調べる力、専門家に質問する力、自分の意見を持つ力を養います。これらの力は、社会に出た後に自分の居場所を創り、自分らしいキャリアを重ねる基礎となります。

4 年の秋学期は、上記テクノロジー全般について考察した自分の見解（アウトプット）に対する評価をもとに、アウトプットを改善、高度化することを目指します。

【到達目標】

テクノロジーが社会に与える影響について、自分の言葉、身近な事例で表現し、外部から評価を受け、自身のアウトプットを改善、高度化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

■ 関連する社会動向についてファクトを把握する。

- 調査、専門家ヒアリングなどから動向を正しく把握する。
- 日頃から与えられたテーマに関するニュースを読み、気づきを加えて記録する。

■ ファクトに対して意見をもち、議論し、意見を高度化する。

- 入手した情報を鵜呑みにせず、自分の意見を持つ。
- クラス内で意見を共有し、多様な意見を受け入れ、議論する。

■ アウトプットする

- ブログ原稿を書く。
- 表や概念図を使用して、主張の論理構造を明確に示す。
- イラスト、写真、動画などのうち、自分が比較的得意な形式を使用してリッチコンテンツを作る。

■ アウトプットに対して、何らかの方法で評価を受ける。

- サイトで公表してシェアしてもらう。
- アウトプットを配信または配布してレビューをもらう。
- アウトプットを対面でプレゼンしてコメントをもらう。

■ アウトプットを改善、高度化する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方、留意事項、目標、評価方法、用語解説、自己学習の方法
第 2 回	テーマ調査、ディスカッション	演習
第 3 回	テーマ調査、ディスカッション	演習
第 4 回	第 1 回アウトプットの共有	発表と意見交換
第 5 回	アウトプットの評価方法検討	演習
第 6 回	アウトプットの評価方法検討	演習
第 7 回	第 1 回アウトプットの評価共有	発表と意見交換
第 8 回	テーマ調査、ディスカッション	演習
第 9 回	テーマ調査、ディスカッション	演習
第 10 回	第 2 回アウトプットの共有	発表と意見交換
第 11 回	アウトプットの評価方法検討	演習

第 12 回	アウトプットの評価方法	演習
	検討	
第 13 回	第 2 回アウトプットの評	発表と意見交換
	価共有	
第 14 回	まとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

■ 定期的な情報収集

- ニュース
- 調査レポート

■ 講師への質問準備

■ ゼミ内で案内した Web コラムや書籍の読了

■ OB、OG 訪問等による企業の取材

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、レポートもしくは試験

【学生の意見等からの気づき】

重点テーマを絞り、時間をかけて議論をする。

【学生が準備すべき機器他】

PC など、インターネット接続デバイス。

ビジネスシーンに近い機動性が必要なため、スマホではなく、タブレットか PC を推奨。

【Outline and objectives】

In the field of business, people who are not engineers also need to understand technology properly.

Therefore, students learn "Web" "smart phone" "cloud" "big data (AI, IoT, MA, DMP)" "privacy" "security" "Fintech" "logistics".

Students will look at the impact of the above technologies on social life, consumption behavior, business.

In the fall semester of the 4th year, students aim to improve and upgrade the output based on the evaluation on their view (output) which considered the above technology in general.

MAN200MA

演習（ビジネス）2 年生

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。プロジェクトベースラーニングを通して、企画力、構想力、実行力を身につけます。

【到達目標】

春学期、秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。またグループワークによって協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミはグループワークを中心に進めます。何事もゼミ生相互に協働しながら活動を行います。プロジェクトを実施します。また 3 年と合同でビジネスプランコンテストに参加します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期のゼミの運営方法について意見を交換します。
2	ゼミ計画とチームビルディング	秋学期の 2 年生プロジェクトの計画を立てるとともに、チームを形成してプロジェクトに臨む準備をします
3	マーケティングコンテストプラン作成 1	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
4	マーケティングコンテストプラン作成 2	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
5	マーケティングコンテストプラン中間発表	コンテストに提出するプランの途中経過を発表します。
6	マーケティングコンテストプラン作成 3	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
7	マーケティングコンテスト提出プランの発表	ブラッシュアップした最終提案を発表します
8	マーケティングコンテストの振り返り	PDCA のチェックを行います。実践をゼミ全体で振り返ります。
9	プロジェクトの準備	プロジェクトのテーマを決定して、計画を立てます
10	プロジェクトパートナーとの打合せ	ともにプロジェクトを進める外部機関との調整を行います
11	プロジェクトの実施 1	内容をかためて実践に移します
12	プロジェクトの実施 2	内容をかためて実践に移します
13	プロジェクトの振り返り	プロジェクト実施までのプロセスを振り返ります。
14	まとめ	プロジェクトを報告書にまとめるための活動総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プロジェクトを成功させるために、日常生活のなかで、さまざまな経験を積む事を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

授業開始後に決定します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度 4 0 %，プロジェクトへの取り組み姿勢 4 0 %，プロジェクトの成果 2 0 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士、学生と教員のディスカッションが活発になるように工夫をします。

【その他の重要事項】

ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline and objectives】

In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it.

Through project-based learning, we will acquire creativity, structure building ability and execution skill.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（春）

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。プロジェクトベースラーニングを通して、創造力、構想力、実行力を身につけます。

【到達目標】

春学期、秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。また起こして協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。特段、春学期では文献資料を集める経験を経ることで情報収集スキルを獲得することをもう一つの目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミは PBL（プロジェクトベースラーニング）によって進めます。ある課題に対してそれを解決するためのプロセスを通してさまざまなことを学んでいこうとする方法です。実際の行動をとまないますので、「協調性」「責任感」「リーダーシップ」「実行力」がすべてのゼミ生に求められます。

ゼミの取り組みは大きく2つあります。①プロジェクトの企画と運営、②新たなビジネスプランの考案です。プロジェクトは現実に関心を動かす経験をするようになります。ビジネスプランの考案は、ビジネスプランコンテストに参加して外部の評価を受けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの運営方法について意見を交換します。学生主体で運営していけるような形を話し合ひで決めていきます。
2	プロジェクトビルディング 1	プロジェクトを作り上げるためのグループワーク
3	プロジェクトビルディング 2	プロジェクトを作り上げるためのグループワーク
4	ビジネスプラン作成 1	ビジネスプランコンテストに向けてアイデアを練り上げます。ゼミ内でプレゼンテーションを行ってブラッシュアップし、外部のコンテストに参加します。
5	ビジネスプラン作成 2	ビジネスプランコンテストに向けてアイデアを練り上げます。ゼミ内でプレゼンテーションを行ってブラッシュアップし、外部のコンテストに参加します。
6	プロジェクト実施に向けたリサーチ 1	プロジェクトを行うにあたって必要なマーケティングリサーチを行います。
7	プロジェクト実施に向けたリサーチ 2	プロジェクトを行うにあたって必要なマーケティングリサーチを行います。
8	プロジェクト実施に向けたリサーチ 3	プロジェクトを行うにあたって必要なマーケティングリサーチを行います。
9	プロジェクトの実施 1	プロジェクトを動かすことによって、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます。
10	プロジェクトの実施 2	プロジェクトを動かすことによって、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます。
11	プロジェクトの実施 3	プロジェクトを動かすことによって、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます。
12	プロジェクトの実施 4	プロジェクトを動かすことによって、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます。
13	プロジェクトの実施 5	プロジェクトを動かすことによって、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます。
14	春学期まとめ	夏期休暇中のゼミの活動計画と秋学期の準備をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会の出来事はすべて現場で起きています。とにかく何ごとにも実践です。現場で体験する、実際にアクションを起こして経験していくことが大事です。机に向かって勉強するよりは、外に出かけてさまざまな事象に向き合うようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特に指示しません。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度50%、プロジェクトへの取り組み姿勢50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士、学生と教員のディスカッションを活発にする工夫をしています。

【その他の重要事項】

ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline and objectives】

In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it. Through project-based learning, we will acquire creativity, structure building ability and execution skill.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（秋）

酒井 理

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。プロジェクトベースラーニングを通して、創造力、構想力、実行力を身につけます。

【到達目標】

春学期、秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。またグループワークによって協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミはグループワークを中心に進めます。何事もゼミ生相互に協働しながら活動を行います。秋学期は、春学期と同様にプロジェクトを実施します。また、半期に1度のビジネスプランコンテストに参加します。3年生は卒業論文のベースとなるようにプロジェクトの内容を深く掘り下げてまとめる作業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期のゼミの運営方法について意見を交換します。
2	プロジェクト準備 1	秋学期のプロジェクトの準備作業を行います
3	プロジェクト準備 2	チームビルディングを行います
4	ビジネスプラン作成	提出するビジネスプランの作成作業を行います
5	ビジネスプランのブラッシュアップ	提出するビジネスプランの作成作業を行います
6	ビジネスプラン発表 1	提出するビジネスプランのゼミ内プレゼンテーションを行います。
7	ビジネスプラン発表 2	提出するビジネスプランのゼミ内プレゼンテーションを行います。
8	プロジェクトの計画	プロジェクトの計画を立てます
9	プロジェクトのためのミーティング、ディスカッション	チームでディスカッションをしながらプロジェクトを練り上げます
10	プロジェクトの実施 1	プロジェクトを運営して、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます
11	プロジェクトの実施 2	プロジェクトを運営して、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます
12	プロジェクトの実施 3	プロジェクトを運営して、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます
13	プロジェクトの実施 4	プロジェクトを運営して、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます
14	まとめ	プロジェクトを報告書にまとめるための活動総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プロジェクトを成功させるために、日常生活のなかで、さまざまな経験を積む事を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

授業開始後に決定します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度50%、取り組み姿勢50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士、学生と教員のディスカッションが活発になるように工夫をします。

【その他の重要事項】

ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline and objectives】

In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it. Through project-based learning, we will acquire creativity, structure building ability and execution skill.

MAN200MA

演習（ビジネス）2年生

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、産業・組織心理学の視点から、働く人々や人材マネジメントについて考えていきます。具体的には個人の **well-being** を追及する心理学と、人材の活用を通じたパフォーマンスの向上を求める組織との間で生じる様々な現象について理解を深めます。

2 年次には、心理学の基礎概念に関する理解を深めつつ、身近なテーマを産業・組織心理学の視点から理解すること、自分自身のキャリアを含めた将来についての疑問や不安を調査という方法で（部分的にでも）解消できるようになることを中核的な目標とします。

【到達目標】

到達目標は大きく分けて2つある。

- (1) 産業・組織心理学の基礎概念について、①正しく理解した上で、自分の言葉で説明できるようになること、②働く場の様々な問題への対応策を個人レベル、職場レベル、組織レベルで考えられるようになること
- (2) 3 年次以降のゼミ活動につながるように、①仮説を立てて検証し、レポートを作成するまでの調査実施、レポート作成、プレゼンテーションのスキル獲得、②グループワークに必要なコミュニケーション力、を身に着けること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の前半の時期は、基礎文献の購読とそれに関連するワークを実施します。文献の購読については、レジュメの担当を割り振ります。後半の時期はアンケート調査もしくはビジネスコンテストへの応募案の検討を実施します（変更の可能性あり）。活動はグループ単位で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第 2 回	文献購読に向けての準備	論文の読み方やレジュメの作成方法
第 3 回	文献購読（1）	指定文献についての内容理解と討議を行う：モチベーション
第 4 回	文献購読（2）	指定文献についての内容理解と討議を行う：リーダーシップ
第 5 回	文献購読（3）	指定文献についての内容理解と討議を行う：若者のキャリア
第 6 回	文献購読（4）	指定文献についての内容理解と討議を行う：ワーク・ライフ・バランス
第 7 回	文献購読（5）	指定文献についての内容理解と討議を行う：支援
第 8 回	ディベート（1）	特定のテーマに基づいてディベートを実施する
第 9 回	ディベート（2）	前回とは別のテーマに基づいてディベートを実施する
第 10 回	ビジネスコンテストへの応募（1）	グループ分けとテーマ選定
第 11 回	ビジネスコンテストへの応募（2）	テーマに関する資料の収集・分析
第 12 回	ビジネスコンテストへの応募（3）	アイデアの抽出ならびにレポートの作成
第 13 回	ビジネスコンテストへの応募（4）	レポートの完成
第 14 回	結果の報告	グループごとに発表・質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

□文献購読について

指定された文献については、全員が読んでくること。またレジュメ作成担当になった回には、分担してレジュメの作成ならびに報告を行うこと。

□ディベートならびにビジネスコンテストについて

指定されたテーマに関する情報収集ならびに整理はゼミ前に各自で行うこと。ゼミの時間内はメンバーとのディスカッションと意見の整理を行う。

【テキスト（教科書）】

木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与）：6 割

調査報告（報告書とプレゼンテーション）：4 割

【学生の意見等からの気づき】

各回で1つのテーマを取り上げていたが、進行状況に応じて2回に分ける取り上げる等により、より理解を深める。

【Outline and objectives】

The main aim of the seminar is to discuss the important topics in career development considering the changes over the recent years of company, from the perspective of industrial/organizational psychology and Human Resource Management. For better understanding, students are expected to participate actively in group discussion.

At the end of the seminar, students are expected to explain the essential concepts of industrial/organizational psychology, explain workplace problems from the point of view of industrial/organizational psychology, and propose a solution to the problem about career development.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（春）

坂爪 洋美

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「多様な人材が活躍できる場」の実現に向けて、産業・組織心理学の専門知識を修得し、企業での実際について学ぶ。それらを通じて、組織レベル・職場レベル・個人レベルでの取組みを検討できるようになる。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下3点である。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念についての理解を得る。
- (2) 調査計画を立案し、調査を実施し、結果をレポートとしてまとめる。
- (3) 企業での様々な取組みについて整理した上で理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にグループでの活動を中心とする。文献購読に際しては、分担された文献のレジュメを作成し、ディスカッションのファシリテーションを行う。また各テーマに基づいたワークを実施することがある。調査については、調査計画の立案からレポートの作成までを担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	前期のゼミの進め方について検討する。	半期の活動計画を立てる。
第2回	グループ研究のテーマ決め	2-3のグループで行う調査のテーマを決める。
第3回	テーマに関する基礎文献の購読（1）	各グループで調査するテーマに関する文献を読む。
第4回	テーマに関する基礎文献の購読（2）	各グループで調査するテーマに関する文献を読む。
第5回	調査計画の立案（1）	グループごとに興味のあるテーマを調査計画として企画する。
第6回	調査計画の立案（2）	調査計画に基づき、調査の実行プランを検討・確定する。
第7回	調査の実施（1）	調査実施の準備を行う。
第8回	調査の実施（2）	調査の途中経過を報告する。
第9回	調査の実施とまとめ（1）	調査データを分析し、結果をえる。
第10回	調査の実施とまとめ（2）	結果に基づく考察を行う。
第11回	レポートの作成（1）	レポート作成の方法について学ぶ。
第12回	レポートの作成（2）	レポートならびに発表資料を作成する。
第13回	発表会	調査結果を報告する。
第14回	夏合宿の計画	夏合宿にむけての準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に毎週課題が出る。事前準備をしてきたものを、ゼミでブラッシュアップするという形になる。また、グループでの作業が中心になるので、ゼミ以外の時間で集まって作業をすることも多い。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ内での発表等授業に対する貢献 60 %
レポート等の提出物 40%

【学生の意見等からの気づき】

ゼミでのディスカッションがさらに充実するように働きかけると同時に、基礎知識の習得に必要な時間を確保する。

【Outline and objectives】

The main aim of the seminar is to develop skills needed to carry out the research about organizational behavior and to write a report. All activities are carried out in groups. Therefore, students are need communication skills to collaborate with others.

As a result of taking this course, students are expected to pose a research question, express a theoretical foundation upon which their research will build, draft a purpose statement, gather primary and secondary data, estimate basic descriptive statistics, create data visuals, analyze data and logical thinking which will be tested at inter-seminar workshops and external presentations.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（秋）

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「多様な人材が活躍できる場」の実現に向けて、産業・組織心理学の専門知識を修得し、企業での実際について学ぶ。それらを通じて、組織レベル・職場レベル・個人レベルでの取組みを検討できるようになる。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下 3 点である。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念についての理解を得る。
- (2) 調査計画を立案し、調査を実施し、結果をレポートとしてまとめる。調査については、前期を踏まえさらに具体的なテーマ・卒業論文につながるテーマを設定した上で、調査方法をさらに体得すること、レポートとしてまとめることを目的とする。
- (3) 企業での様々な取組みについて整理した上で理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にグループでの活動を中心とする。文献購読に際しては、分担された文献のレジュメを作成し、ディスカッションのファシリテーションを行う。また各テーマに基づいたワークを実施することがある。調査については、調査計画の立案からレポートの作成までを担当する。後期では、他大学の合同ゼミやビジネスプランコンテストの実施も検討している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	後期のゼミの進め方について検討する。	半期の活動計画を立てる。
第 2 回	ディベート（1）	その時点でのホットなトピックに関してディベート形式で討論する。
第 3 回	ディベート（2）	その時点でのホットなトピックに関してディベート形式で討論する。
第 4 回	グループでの調査研究テーマの策定	前期のグループ研究成果をふまえ、改めてグループで調査を実施する。そのテーマを決める。
第 5 回	調査計画の立案（1）	グループごとに興味のあるテーマを調査計画として企画する。
第 6 回	調査計画の立案（2）	調査計画に基づき、調査の実行プランを検討・確定。
第 7 回	関連文献の購読（1）	グループごとに調査計画に関連する文献を探し出し、報告する。
第 8 回	関連文献の購読（2）	グループごとに調査計画に関連する文献を探し出し、報告する。
第 9 回	調査の実施とまとめ（1）	調査データを分析し、結果をえる。
第 10 回	調査の実施とまとめ（2）	結果に基づく考察を行う。
第 11 回	レポートの作成（1）	レポート作成の方法について学ぶ。
第 12 回	レポートの作成（2）	レポートならびに発表資料を作成する。
第 13 回	発表会	調査結果を報告する。
第 14 回	発表会を踏まえての修正	発表会でもらったコメントを踏まえての修正。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に毎週課題が出る。事前準備をしてきたものを、ゼミでブラッシュアップするという形になる。また、グループでの作業が中心になるので、ゼミ以外の時間で集まって作業をすることも多い。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ内での発表等授業に対する貢献 60 %

レポート等の提出物 40 %

【学生の意見等からの気づき】

グループでのディスカッションがさらに円滑になるように働きかける。

【Outline and objectives】

The main aim of the seminar is to discuss the important topics in career development considering the changes over the recent years of company, from the perspective of industrial/organizational psychology and Human Resource Management. For better understanding, students are expected to participate actively in group discussion.

At the end of the seminar, students are expected to explain the essential concepts of industrial/organizational psychology, explain workplace problems from the point of view of industrial/organizational psychology, and propose a solution to the problem about career development.

MAN200MA

演習（ビジネス）2 年生**武石 恵美子**

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「これからの働き方を考える」をテーマに授業を進める。
働く人の多様化（ダイバーシティ）、それに伴う働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、問題意識の明確化など、研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深める。

【到達目標】

現代社会におけるビジネスキャリア形成をとらえる問題意識をもち、その解明のために研究を進めることができる基礎力を身に付けることを目標とする。具体的には、文献サーベイ、データの収集・分析、レポート・論文の書き方など、研究を進める上での基礎を身に付けることに加え、世の中で起きている事象について問題意識をもち、その課題を掘り下げるという課題設定・課題解決能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習は、少人数で、特定のテーマを集中的に議論、研究する場であると考えてほしい。

大学での学びは、自分が知りたいことを主体的に追求すること、が基本なので、与えられたものではなく、自分で探究心をもって学習することが重要である。ゼミはそのための貴重な機会であり、ゼミでは積極的に発言し、他の人の考えにも耳を傾けることに努めること。

特に、キャリアデザインに関して正解はないことが多いので、他者の意見をききながら自分の意見をまとめて発言する、ということが重要である。本を読むときも「自分の意見との違い、批判」を忘れないこと。

授業は、講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施する。3 年次以降の演習を視野に入れた授業展開を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要についてのオリエンテーション
2	レジュメの作り方、文献の読み方	ゼミを進める上での基本的なスキルとしてのレジュメ作成、文献講読の基礎を習得する。
3	共通文献（1 章）の講読	共通文献の 1 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
4	共通文献（2 章）の講読	共通文献の 2 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
5	共通文献（3 章）の講読	共通文献の 3 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
6	ゲストスピーカーとの討議	ゲストスピーカーとテーマについて討議をする。
7	共通文献（4 章）の講読	共通文献の 4 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
8	共通文献（5 章）の講読	共通文献の 5 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
9	文献の集め方、論文の読み方	文献サーベイのための、文献の集め方、論文の読み方について理解する。
10	レポートの書き方	課題で提出したレポートをフィードバックしながら、レポートの書き方について習得する。
11	論文の書き方	学術論文を読んで論文の基礎、書き方を習得する。
12	次年度のグループ研究のテーマ設定	次年度実施するグループ研究のテーマ、メンバーを決定する。
13	まとめ	授業の振り返り、総括を行う。
14	卒業論文発表会	4 年生の卒業論文の発表をきく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持ったり、事実を発見したりするために、多くの文献を読むことが必要である。また、実態把握のための調査等、授業内では対応できないことも多いので、主体的、積極的に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

講読テキストは適宜授業内で指定する。

【参考書】

授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席と受講態度、研究課題への取組姿勢、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価する。
レポート等課題対応 50 %、授業の参加姿勢 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

全体のディスカッションやグループで研究する作業を重視することとしたい。

【その他の重要事項】

2 年次までに、「ライフコース論」「ビジネスキャリア入門」「キャリア開発論」「職業選択論Ⅰ・Ⅱ」「人材育成論Ⅰ・Ⅱ」など、職業キャリアや企業の人材マネジメントに関する授業を受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】

In this seminar, the theme is “how the coming work-style changes”. In this course, I will pick it up about the diversification of the working person, the current situation and the agenda of the work-style. Students will learn the basics of study through a discussion, documents reading.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（春）

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「これからの働き方を考える」を年間テーマに授業を進める。

働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、実証研究の進め方、論文作成など研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深める。

【到達目標】

現代社会におけるビジネスキャリア形成に関する問題意識をもち、その解明のために実証的な研究、分析ができるようにする。具体的には、研究テーマの設定、課題意識の明確化、文献研究の進め方、問題意識への実証的なアプローチの方法、実証的なデータ等から結論を導く方法、論文やレポートの書き方など、一連の研究の流れを習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、年間を通じてグループ別の研究テーマを設定し、その研究課題を解決するための文献講読、データ等の収集などを行い、論文を執筆する。講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施する。特に、実証的な調査（インタビューやアンケートなど）を実施し、そのデータを加工・分析して結論を導くことを重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要についてのオリエンテーション
2	研究テーマの設定	研究テーマの設定、その内容の具体化を行う
3	研究テーマの深め方	研究テーマについてテーマの絞り込みや深化を行う
4	文献収集の方法、文献の読み方	文献収集の方法、その読み方について
5	研究の企画	研究の企画を行う
6	研究方法の検討	研究の方法を検討する
7	調査内容の検討	調査対象や内容の検討を行う
8	中間報告	研究の中間報告を行う
9	調査の実施	フィールド調査を実施する
10	調査の実施の継続	フィールド調査を継続する
11	調査の実施とデータの集約	引き続きフィールド調査を実施しデータの集約を行う
12	調査の実施とデータの集約の継続	引き続きフィールド調査を実施しデータの集約を継続する
13	データの収集、分析方法	データの整理方法についての講義
14	総括	半期の進捗の振り返り、まとめ、夏休みの課題など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究のための文献サーベイや調査の実施等

【テキスト（教科書）】

テキストは適宜授業内で指定する。

【参考書】

授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席と受講態度、研究への取組姿勢、研究論文、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価する。レポート等課題対応 50 %、授業の参加姿勢 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションやグループで研究する作業を重視することとしたい。

【その他の重要事項】

2 年次までに、「ライフコース論」「キャリア開発論」を含めて、職業キャリアや企業の人材マネジメントに関する授業を受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】

In this seminar, the theme is “how the coming work-style changes”. In this course, I will pick it up about the agenda of current situation of the work-style. Students will be able to deepen the understanding about the carrier design through a discussion, documents reading and article writing.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（秋）

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「これからの働き方を考える」を年間テーマに授業を進める。

働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、実証研究の進め方、論文作成など研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深める。

【到達目標】

現代社会におけるビジネスキャリア形成に関する問題意識をもち、その解明のために実証的な研究、分析ができるようにする。具体的には、研究テーマの設定、課題意識の明確化、文献研究の進め方、問題意識への実証的なアプローチの方法、実証的なデータ等から結論を導く方法、論文やレポートの書き方など、一連の研究の流れを習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、年間を通じてグループ別の研究テーマを設定し、その研究課題を解決するための文献講読、データ等の収集などを行い、論文を執筆する。講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施する。特に、実証的な調査（インタビューやアンケートなど）を実施し、そのデータを加工・分析して結論を導くことを重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業のオリエンテーション	秋学期の授業計画についてのオリエンテーション
2	とりまとめ方向の報告	今後のとりまとめの方向についての報告を行う
3	調査の実施	フィールド調査を実施
4	データの収集	データを収集し、その取りまとめを行う
5	データの分析	収集したデータの分析・整理の仕方についての講義
6	ゲストスピーカーとの討議	ゲストスピーカーとテーマについて討議する
7	結果のまとめ	調査結果をまとめる
8	結果の分析	結果を分析する
9	論文の書き方	実際の論文を読んで講評し、論文の書き方を習得
10	研究論文のアウトライン	研究論文のアウトラインを決める
11	研究論文の執筆	研究論文を執筆する
12	報告準備、研究論文の集約	報告資料の作成、報告の準備、各自研究論文集約
13	研究報告会と講評	研究の報告会、研究報告の講評
14	卒業論文発表会	4 年生の卒業論文の発表をきく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究のための文献サーベイや調査の実施等

【テキスト（教科書）】

テキストは適宜授業内で指定する。

【参考書】

授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席と受講態度、研究への取組姿勢、研究論文、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価する。レポート等課題対応 50 %、授業の参加姿勢 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションやグループで研究する作業を重視することとしたい。

【Outline and objectives】

In this seminar, the theme of the course is “how the coming work-style changes”. In this course, I will pick it up about the agenda of current situation of the work-style. Students will be able to deepen the understanding about the carrier design through a discussion, documents reading and article writing. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

MAN200MA

演習（ビジネス）2年生

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、計量分析の基礎を演習を行いながら学んでいく。

【到達目標】

各種計量分析が一通りできるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習双方を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	パソコン操作の基本	パソコン操作の基本を学ぶ。
3	データ処理の基礎	データ処理の基礎について学ぶ。
4	データの種類	研究で用いるデータの種類について学ぶ。
5	データセットの構築 (1)	統計パッケージにおいて、データセットを構築する方法を概説する。
6	データセットの構築 (2)	グループワークを通じて、データセットの構築をより深く学ぶ。
7	データセットの構築 (3)	データセットの構築を効率的に行えるように、簡単なプログラミングを学ぶ。
8	変数の相関 (1)	変数の相関の基本を学ぶ。
9	変数の相関 (2)	変数の相関の解釈方法やより高度な相関係数について学ぶ。
10	単変量分析	単変量分析の方法を学ぶ。
11	多変量分析	多変量分析の方法を学ぶ。
12	計量分析の演習 (1)	財務データを用いた演習を行う。
13	計量分析の演習 (2)	アンケート・データを用いた演習を行う。
14	計量分析の演習 (3)	作表について演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、提出物等）によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

【Outline and objectives】

In this seminar, you learn about quantitative analysis.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（春）

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、企業行動等について、計量的な分析を実施できる能力を身につけることを目的とする。そのために、基本的な統計手法について学ぶとともに、実証的な研究論文の読み方を学んでいく。

【到達目標】

計量的な分析を実施できる能力と、実証的な研究論文の読み方を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表双方を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	統計分析の基礎 (1)	データセットの構築を行う。
3	統計分析の基礎 (2)	アンケートデータの分析方法について学ぶ。
4	統計分析の基礎 (3)	前回に続いて、アンケートデータの分析方法について学ぶ。
5	統計分析の基礎 (4)	会計のアーカイバルデータの分析方法について学ぶ。
6	統計分析の基礎 (5)	会計の代表的な論文の分析の複製を試みる。
7	統計分析の基礎 (6)	前回に続いて、会計の代表的な論文の分析の複製を試みる。
8	研究論文のサーベイ (1)	生活経済に関する論文を輪読する。
9	研究論文のサーベイ (2)	前回に続いて、生活経済に関する論文を輪読する。
10	研究論文のサーベイ (3)	労働経済に関する論文を輪読する。
11	研究論文のサーベイ (4)	前回に続いて、労働経済に関する論文を輪読する。
12	研究論文のサーベイ (5)	会計学に関する論文を輪読する。
13	研究論文のサーベイ (6)	前回に続いて、会計学に関する論文を輪読する。
14	研究論文のサーベイ (7)	ファイナンスに関する論文を輪読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する

【参考書】

開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業における参加態度、発表資料等）によって総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

本演習の内容に前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

【Outline and objectives】

In this seminar, we aim to acquire the ability to carry out quantitative analysis on corporate behaviors. For that purpose, we will learn basic statistical methods and learn how to read empirical research papers.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（秋）

中野 貴之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、春学期に学習した知識を踏まえて、実際に研究主題を選択し、実証的な研究を実施し、一定の研究成果を残すことを目的とする。各自、具体的な研究テーマを設定し、研究発表に向けた作業を行っていく。

【到達目標】

各自研究を実施し、論文等の形態で研究成果を残すことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に実証的な作業を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	研究テーマの設定 (1)	研究テーマについて、グループで検討する。
3	研究テーマの設定 (2)	研究テーマを、各グループで具体的に絞り込む。
4	先行研究の検討	先行研究の検討を各グループで行う。
5	仮説の構築 (1)	検証仮説について検討する。
6	仮説の構築 (2)	候補となる検証仮説を具体的に特定する。
7	データ分析 (1)	データの分析を開始する。
8	データ分析 (2)	データの分析をグループワークにより進める。
9	データ分析 (3)	前回到続いて、データの分析をグループワークにより進める。
10	検証結果の考察	検証結果について、グループにおいて議論する。
11	検証結果の再検討	各グループにおいて再検証を行う。
12	発表資料の作成 (1)	発表資料の作成を行う。
13	発表資料の作成 (2)	前回到続いて、発表資料の作成を行う。
14	発表	各グループの発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、発表資料等）によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本演習の内容に前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

【Outline and objectives】

In this seminar, we aim to select research topics, conduct empirical research and present research results. You have to set up a specific research theme and present your research results.

MAN200MA

演習（ビジネス）2年生

佐藤 厚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では「人材育成とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、人材育成というキーワードをベースにしながら、a) 人事管理の側での働き方と、b) 働く側の長期的な働き方のニーズ（＝キャリア選択と形成）の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。

【到達目標】

人材育成とキャリア形成に関する基本的な文献を読み込み、以下の獲得を到達目標とします。

- ①テーマに関わる基礎知識を習得する。
- ②文献の批判的読解力を獲得する。
- ③①と②を通じて、課題設定 → 情報収集 → 情報分析 + まとめ、といった3～4年演習での学習に必要な基礎的能力の形成をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この演習では、グループを編成し、文献についてグループごとに主担当者を決めて、①上記テーマに関わる文献のレビュー、②読解 → レジメ作成 → 報告+討論、③まとめ（自分なりの要約とコメント）の作成と発表という形で展開されます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方について
第2回	テーマに関する文献の収集と読み込み (1)	キャリア教育、フリーター、中高年非正規雇用などに関する文献を中心に人材育成、能力開発に関する文献を中心に
第3回	テーマに関する文献の収集と読み込み (2)	女性のキャリア形成に関する文献を中心に
第4回	テーマに関する文献の収集と読み込み (3)	リーダーシップ開発やリーダー人材育成に関する文献を中心に
第5回	テーマに関する文献の収集と読み込み (4)	職場学習や中小企業の能力開発に関する文献を中心に
第6回	テーマに関する文献の収集と読み込み (5)	キャリア教育、フリーター、中高年非正規雇用などに関する文献を中心に
第7回	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (1)	
第8回	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (2)	人材育成、能力開発に関する文献を中心に
第9回	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (3)	女性のキャリア形成に関する文献を中心に
第10回	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (4)	リーダーシップ開発やリーダー人材育成に関する文献を中心に
第11回	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (5)	職場学習や中小企業の能力開発に関する文献を中心に
第12回	クリティカル・リーディング・レポートの報告に向けた論点整理	これまでのテーマにそった主要論点を整理しプレゼンの準備を行う
第13回	クリティカル・リーディング・レポートの報告 (1)	報告に基づくプレゼンと討論 (1)
第14回	クリティカル・リーディング・レポートの報告 (2)	報告に基づくプレゼンと討論 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献収集、報告準備、クリティカル・リーディング・レポートの作成などは授業外で積極的に行うようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

佐藤 厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚『仕事の社会学』有斐閣

佐藤 厚『キャリア社会学序説』泉文堂

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣

佐藤 厚『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構

『日本労働研究雑誌』のバックナンバー
『労政時報』などの実務雑誌のバックナンバー

【成績評価の方法と基準】

演習への参加と報告、およびクリティカル・リーディング・レポートの作成を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

先輩の作成したグループレポート論集を参考にしながら、自分たちの到達目標を自覚し、明確化してもらう。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline and objectives】

In this class, students can learn basic theme on human resource development and career formation, focusing on some topics of vocational education and training (VET), such as on-the-job-training, off-the-job training, leadership development, international policy on VET

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（春）

佐藤 厚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習では「人事管理とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、a) 人事管理の側での働き方と、b) 働く側の長期的な働き方のニーズ（＝キャリア選択と形成）の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。
このテーマはさらに若年の採用と定着、仕事と生活の両立、高齢者の継続雇用、グローバル人事、非典型雇用、ホワイトカラーの成果・キャリア管理・労働時間管理、中小企業の人材育成といったサブテーマ（これらはあくまで例示です）に分割可能です。上記 a) と b) をベースに受講者の関心と組み合わせつつ柔軟なサブテーマの設定とグループ編成を考えております。

なお、春学期では、サブテーマごとのグループ編成を行い、秋学期で予定している資料収集・ヒアリングのための基礎固めを行います。

【到達目標】

この授業の学習目標は以下のようです。

- (1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を様々な資料に基づいて理解する。
- (2) 日本の組織における職業教育訓練の方法とその特徴についての多様な事例を説明することができるようになる。
- (3) 職業教育訓練がスキル形成に及ぼす影響を理解する。
- (4) 以上のことについて、実証的データに基づいて認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

①基本的な共通テキストを読んで、演習のテーマに必要な基礎的な概念や知識の習得をはかる。

②演習のテーマはさらに若年の採用と定着、仕事と生活の両立、高齢者の継続雇用、グローバル人事、非典型雇用、ホワイトカラーの成果・キャリア管理・労働時間管理、中小企業の人材育成といったサブテーマ（これらはあくまで例示です）に分割可能です。上記 a) と b) をベースに受講者の関心と組み合わせつつ柔軟なサブテーマの設定とグループ編成を考えております。
なお、春学期では、サブテーマごとのグループ編成を行い、秋学期で予定している資料収集・ヒアリングのための基礎固めを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミテーマの趣旨説明と進め方、グループ編成、テキストの指示など
第 2 回	共通基礎文献の読み込み（1）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（1）
第 3 回	共通基礎文献の読み込み（2）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（2）
第 4 回	共通基礎文献の読み込み（3）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（3）
第 5 回	共通基礎文献の読み込み（4）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（4）
第 6 回	共通基礎文献の読み込み（5）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（5）
第 7 回	共通基礎文献の読み込み（6）	テキスト章別編成にそった内容理解及び討論（6）
第 8 回	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（1）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（1）
第 9 回	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（2）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（2）
第 10 回	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（3）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（3）
第 11 回	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（4）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（4）
第 12 回	基礎文献による論点の整理と関連データの収集およびレビュー（5）	テキスト章別編成にそった論点を整理し関連したデータの収集およびレビューを行う（5）
第 13 回	基礎文献および論点全体の振り返り	ゼミ全体を振り返りまとめを行いつつ、課題を整理する
第 14 回	課題レポートの発表と討論	基礎文献および論点を踏まえた課題レポートの発表と討論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本ゼミに先だって、レジメ作成のためのサブゼミを班ごとに設定し、読み込みと論点整理、および課題の整理等を行っておく必要があります。

【テキスト（教科書）】

佐藤博樹・佐藤 厚編著『仕事の社会学』有斐閣

佐藤 厚『キャリア社会学序説』泉文堂

佐藤 厚『組織のなかでひとを育てるー企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣

【参考書】

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『マテリアル 人事労務管理』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

演習への出席と取り組み姿勢50%。演習の課題レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

共通テキストの基本理解を深めるための討論を重視する。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

In this class, students can learn the study theme on human resource management and career formation, focusing on some topics, such as problems about transition from school to work for younger people, the importance of work and life balance for women, and some problems about atypical workers.

The main purpose of this class is to investigate some conditions that strike on the point between firm's demands and employee's needs.

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（秋）

佐藤 厚

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では「人事管理とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、a) 人事管理の側での働き方と、b) 働く側の長期的な働き方のニーズ（＝キャリア選択と形成）の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。

【到達目標】

- 1 春学期をベースにグループテーマを設定し、仮説 → 調査 → 検証のPDCAサイクルを主体的に回す力を養成する。
- 2 フィールドワークのための基礎的知識や情報の収集力の養成
- 3 収集した情報を仮説検証の観点から分析する能力の養成
- 4 分析結果を論理的な文章にまとめる能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期では、春学期で編成したグループをベースに、サブテーマを設定し、論点の整理、資料の収集及びフィールドワークを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各班ごとに合宿までの総括と秋学期の進め方の確認を行う
第2回	文献研究（1）	グループ研究（各班）：文献レビューと問題意識の整理
第3回	文献研究（1）	グループ研究（各班）：文献レビューと問題意識の整理
第4回	ゲストスピーカーヒアリング（1）	問題意識について聞く・聞いてもらう
第5回	ヒアリング調査の企画（1）	グループ研究（各班）：訪問ヒアリングの質問紙の検討
第6回	ヒアリング調査の企画（2）	グループ研究（各班）：訪問ヒアリングの質問紙の検討
第7回	ゲストスピーカーヒアリング（2）	問題意識について聞く・聞いてもらう
第8回	グループ研究のまとめ（1）	グループ研究（各班）グループ研究のまとめとレポートの作成
第9回	グループ研究のまとめ（2）	グループ研究（各班）グループ研究のまとめとレポートの作成
第10回	ゲストスピーカーヒアリング（3）	問題意識について聞く・聞いてもらう
第11回	グループ研究まとめの報告（1）	グループ研究：レポートのまとめの報告（1）
第12回	グループ研究まとめの報告（2）	グループ研究：レポートのまとめの報告（2）
第13回	ゲストスピーカーヒアリング（4）	問題意識について聞く・聞いてもらう
第14回	グループ研究まとめの報告（3）	グループ研究：レポートのまとめの報告（3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

通常の演習とは別にサブゼミを班ごとに行い、文献レビューやヒアリング調査の準備をする必要があります。

また企業への訪問とヒアリングの実施も通常の演習とは別に行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

とくに指定はしない。必要に応じて参考文献を演習時に指示します。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚『仕事の社会学』有斐閣

佐藤 厚『キャリア社会学序説』泉文堂

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣

佐藤 厚『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構

佐藤 厚『組織のなかで人を育てるー企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

演習への出席及び取り組み姿勢50%。演習の課題レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

先輩の作成したグループレポート論集を参考にしながら、自分たちの到達目標を自覚し、明確化してもらう。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline and objectives】

In this class, students can learn the study theme on human resource management and career formation, focusing on some topics, such as problems about transition from school to work for younger people, the importance of work and life balance for women, and some problems about atypical workers.

MAN200MA

演習（ビジネス）2年生

松浦 民恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3・4年次の演習に向けて、2年次の授業においては、働き方に関する基礎知識、情報収集・説明・議論の基礎を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ①働き方に関する基礎的な知識を身につける
- ②特定のテーマに関連する基礎的な情報を収集し、他者にわかりやすく伝えることができる
- ③定説を鵜呑みにせず、複眼的な視点で考察することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。

まずは基礎知識をつけることを目的として、課題図書に関するレジュメを作成頂き、授業当日に配布・説明頂きます。

また、議論を通じて思考を深めることができるように、働き方に関する何らかの「問い」をたてて頂き、それについて議論する機会を設けます。

なお、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ＜3・4年生との合同＞	自己紹介、ゼミの進め方に関する説明と意見交換
第2回	課題図書に関する発表と質疑（1）	課題図書（1）に関する発表と質疑
第3回	課題図書に関する発表と質疑（2）	課題図書（2）に関する発表と質疑
第4回	課題図書に関する発表と質疑（3）	課題図書（3）に関する発表と質疑
第5回	課題図書に関する発表と質疑（4）	課題図書（4）に関する発表と質疑
第6回	3年生の共同研究中間報告 ＜3年生との合同＞	3年生の共同研究の中間報告と質疑
第7回	振り返り・相談 ＜3・4年生との合同＞	これまでのゼミの振り返りと今後の運営に関する相談
第8回	働き方に関する問いの設定	グループワークに向けた問いの設定に関する説明
第9回	図書館ガイダンス（アドバンス編）	文献サーベイのための方法の解説
第10回	グループワーク～問いの設定	問いの設定に関する議論、問いの確定
第11回	3年生共同研究 発表 ＜3・4年生との合同＞	3年生の共同研究の完成版の発表
第12回	グループワーク～参考文献リストと骨子の提示 ＜3・4年生との合同＞	2年生の議論骨子の発表と質疑
第13回	4年生 卒論発表（1） ＜3・4年生との合同＞	卒論の発表（前半）と質疑
第14回	4年生 卒論発表（2） ＜3・4年生との合同＞	卒論の発表（後半）と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書の購読、レジュメの作成、グループワーク発表資料の準備等が必要になります。

【テキスト（教科書）】

課題図書については初回の授業で候補を提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況や受講態度、資料作成や議論（準備を含む）等への取り組み姿勢や内容、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

A B D（アクティブ・ブック・ダイアログ）による輪読が好評でしたので、今年度も継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】

基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関連する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。

2017 年度からスタートした発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイデアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願いします。

不定期で3・4年生との合同ゼミがあり、その場合原則として5・6限またがって実施することになりますので、ゼミの日は5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。

教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【Outline and objectives】

This course is designed for students to obtain basic knowledge about work styles and also the fundamental skills of collection and presentation of information.

< Course Objectives >

1. Obtain basic knowledge on work styles
2. Compile a broad range of information about a given topic and deliver it with clarity
3. Consider a variety of perspectives without believing accepted opinions

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（春）

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の執筆に向けて、論文執筆に不可欠な「思い」や「問い」を自ら持つように、知識の醸成、論理的な思考の訓練を行います。また、調査の企画・実践を通じて、調査の進め方についての理解を深めます。

【到達目標】

- ①働き方に関して設定した個別テーマ（問い）について、学術的な文献や論文をサーベイできるようになること
- ②働き方に関して設定した個別テーマ（問い）について、十分な理解のもとで他者に論点を提示できるようになること
- ③調査を企画・実践することを通じて、調査の進め方の基礎を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。前半は、働き方に関して設定した個別テーマ（問い）に関して、文献サーベイによって得た知識のもとで、活発かつ建設的な議論を行い、思考を深めて頂きます。後半は、共同研究のテーマを設定し、調査の企画・実践を行います。なお、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要についてのオリエンテーション
第 2 回	個別テーマの発表と質疑（1）	個別テーマ（2020 年オリンピック（仮））に関する発表と質疑
第 3 回	個別テーマの発表と質疑（2）	個別テーマ（外国人労働力（仮））に関する発表と質疑
第 4 回	個別テーマの発表と質疑（3）	個別テーマ（日本的雇用システム（仮））に関する発表と質疑
第 5 回	個別テーマの発表と質疑（4）	個別テーマ（やりがい搾取（仮））に関する発表と質疑
第 6 回	ゼミの進め方	ゼミの進め方に関する意見交換
第 7 回	調査方法に関するイントロダクション	代表的な調査方法に関する説明
第 8 回	共同研究（1）	共同研究の企画についての意見交換
第 9 回	共同研究（2）	テーマの確定
第 10 回	3 年生共同研究・4 年生卒論研究計画の共有	研究の進捗状況を共有する
第 11 回	共同研究（3）	調査対象や内容の検討
第 12 回	共同研究（4）	依頼状や調査票等の作成
第 13 回	定量調査の分析	定量調査の分析に関する解説と質疑
第 14 回	質的調査の分析	インタビュー調査の分析に関する解説と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究のための文献サーベイや調査の実施・結果のとりまとめ等。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況や受講態度、資料作成や議論（準備を含む）等への取り組み姿勢や内容、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

共同研究の実施を、昨年度よりも前倒して進めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】

基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関連する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。

2017 年度からスタートした発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイデアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願いします。

不定期で5・6限またがってゼミを実施することがありますので、ゼミの日は5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。
教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【Outline and objectives】

Students will be trained to hone their own knowledge and logical thinking in this course and to develop their passion for the issues that are important for the thesis.

< Course Objectives >

1. Research academic literature related to the theme/issue related to work styles covered in the thesis
2. Explain the issue of the thesis with good understanding
3. Understand the technicalities of research through planning and practice

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4年生（秋）

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年次の卒業論文の執筆に向けた具体的な準備に入ります。共同研究のなかで、調査結果の分析・解釈の訓練を行い、結論や示唆について考察を深めます。

【到達目標】

- ①論文の問いの設定ができるようになること
- ②調査結果の分析・解釈ができるようになること
- ③論文を執筆する上での論理展開力を醸成すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。共同研究の分析や発表を行います。

なお、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夏休み合宿の振り返りと今後の進め方についての意見交換 ＜2年生との合同＞	①夏休み合宿の振り返り ②今後の進め方についての意見交換 ③オリエンテーション
2	共同研究（1）	調査結果の分析
3	共同研究（2）	調査結果の分析の続き
4	共同研究（3）	調査結果の解釈
5	共同研究（4）	発表資料の作成
6	共同研究の中間報告 ＜2年生との合同＞	共同研究の中間報告と質疑
7	振り返り・相談 ＜2年生との合同＞	これまでのゼミの振り返りと今後の進め方
8	共同研究（5）	調査結果の追加分析
9	共同研究（6）	発表資料の改訂版の作成
10	共同研究（7）	発表資料の改訂版の作成の続き
11	共同研究の発表 ＜2年生との合同＞	共同研究の完成版の発表と質疑
12	2年生のグループワーク 中間報告 ＜2年生との合同＞	2年生の議論骨子の発表と質疑
13	4年生 卒論発表（1） ＜2年生との合同＞	卒論の発表（前半）と質疑
14	4年生 卒論発表（2） ＜2年生との合同＞	卒論の発表（後半）と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究のための文献サーベイや調査の実施、発表資料の作成等。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況や受講態度、資料作成や議論（準備を含む）、共同研究等への取り組み姿勢や内容、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

共同研究を昨年度より前倒しで進めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】

2017年度からスタートした発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイデアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願いします。

不定期で5・6限またがってゼミを実施することがありますので、ゼミの日は5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。
教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【Outline and objectives】

Through this course, students will start preparing for their senior thesis.

< Course Objectives >

- 1.Choose an issue for the thesis
- 2.Analyze and interpret the survey result
- 3.Obtain the necessary skills for logical structuring of the thesis

MAN200MA

演習（ビジネス）4年生（春）

梅木 眞

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習ではまず、3 年次に引き続き企業マネジメントの基本について学ぶ。さらに専門論文を読み進め、卒論を書くための基本について学んでいきます。

【到達目標】

マネジメントの基本について理解することができる。
マネジメントの知識を事例に応用したり、分析することができる。
マネジメントの知識をふまえて専門論文を読むことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、発表、輪読を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、年間計画について説明していきます。
第 2 回	卒業論文のテーマ発表 (1)	卒業論文のテーマと研究計画について報告を行います（グループ 1）。
第 3 回	卒業論文のテーマ発表 (2)	卒業論文のテーマと研究計画について報告を行います（グループ 2）。
第 4 回	卒業論文のテーマ発表 (3)	卒業論文のテーマと研究計画について報告を行います（グループ 3）。
第 5 回	卒業論文のテーマ発表 (4)	卒業論文のテーマと研究計画について報告を行います（グループ 4）。
第 6 回	学術論文の基礎 (1)	経営に関する学術論文の基礎について学んでいきます。
第 7 回	学術論文の基礎 (2)	学術論文の基本的なパターンについて学んでいきます。
第 8 回	学術論文の輪読（組織マネジメント）(1)	組織マネジメントに関する論文の輪読を行います。
第 9 回	学術論文の輪読（組織マネジメント）(2)	第 8 回に引き続き組織マネジメントに関する論文の輪読を行います。
第 10 回	学術論文の輪読（組織マネジメント）(3)	第 9 回に引き続き組織マネジメントに関する論文の輪読を行います。
第 11 回	学術論文の輪読（戦略マネジメント）(1)	戦略マネジメントに関する論文の輪読を行います。
第 12 回	学術論文の輪読（戦略マネジメント）(2)	第 11 回に引き続き戦略マネジメントに関する論文の輪読を行います。
第 13 回	学術論文の輪読（戦略マネジメント）(3)	第 12 回に引き続き戦略マネジメントに関する論文の輪読を行います。
第 14 回	春学期の振り返り	春学期に学んできたことを振り返り、ゼミ生同士で気付きを共有します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学術論文の読み込み、プレゼンテーションの準備

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

必要に応じ、授業支援システムなどを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表および質疑応答で 100 %評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本演習を担当するのは本年度限りとなりますので、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン資料や論文を閲覧するためのタブレットや PC があることが望ましいですが、義務ではありません（印刷したものを持ち込んでも構いません）。

【Outline and objectives】

In this seminar, we will continue to learn about the fundamentals of corporate management. We will further read some articles to write a graduation thesis.

MAN200MA

演習（ビジネス）4年生（秋）

梅木 眞

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、企業マネジメントの基本について学ぶ。さらに専門論文を読み進め、卒論を書き上げるために必要な知識を身に付けていきます。

【到達目標】

マネジメントの基本について理解することができる。
マネジメントの知識を事例に応用したり、分析に用いることができる。
マネジメントの知識を深く理解し論文を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義及び発表、論文の輪読を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期の振り返り	春学期および夏休みまでに各自が進めてきた成果を発表・共有します。
第2回	学術論文の輪読（変革/イノベーション）(1)	組織変革およびイノベーションマネジメントに関する論文の輪読を行います。
第3回	学術論文の輪読（変革/イノベーション）(2)	第2回に引き続き組織変革およびイノベーションマネジメントに関する論文の輪読を行います。
第4回	学術論文の輪読（変革/イノベーション）(3)	第3回に引き続き組織変革およびイノベーションマネジメントに関する論文の輪読を行います。
第5回	学術論文の輪読（組織と社会）(1)	企業と社会との関わりに関する論文の輪読を行います。
第6回	学術論文の輪読（組織と社会）(2)	第5回に引き続き企業と社会との関わりに関する論文の輪読を行います。
第7回	学術論文の輪読（組織と社会）(3)	第6回に引き続き企業と社会との関わりに関する論文の輪読を行います。
第8回	ゼミ内での知識共有	これまで読み進めてきた論文で得られた知見を言語化・体系化し、ゼミ内で共有していきます。
第9回	関連文献の報告	各自の研究テーマに沿った文献情報を報告・共有する
第10回	関連資料の報告	各自の研究で用いる資料・データを報告・共有する。
第11回	論文の発表（1）	卒論要旨をもとに発表を行う（グループ1）。
第12回	論文の発表（2）	卒論要旨をもとに発表を行う（グループ2）。
第13回	論文の発表（3）	卒論要旨をもとに発表を行う（グループ3）。
第14回	論文の発表（4）	卒論要旨をもとに発表を行う（グループ4）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文の読み込み、報告の準備
また、企業マネジメントについて学ぶ場合、実際の企業を見ておくことが重要です。休みなどを利用してフィールドワークなどを行うよう求めます。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】

必要に応じ、授業支援システムなどを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表および質疑応答で100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】

4年演習を担当するのは本年度限りとなりますので、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン資料を閲覧するためのタブレットやPCがあることが望ましいですが、義務ではありません（印刷したものを持ち込んでも構いません）。

【Outline and objectives】

In this seminar, We learn the basics of corporate management. And we read the specialized papers and acquire the necessary knowledge to write a graduation thesis.

MAN200MA

演習（ビジネス）4年生（春）

菊池 一夫

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は企業のマーケティング戦略の基本原則とその応用について研究する。具体的には小売業をテーマにしてそのマーケティング戦略について検討をしていく。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。
・小売業のマーチャンドライジングについて理解できる。
・小売業のプロモーションについて理解できる。
・小売業の立地戦略について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義については毎回、報告者が要約を作成して発表をする。それに対して報告者以外は質疑を行い、マーケティングへの理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	小売業のマーケティングの体系	小売業のマーケティングの体系について理解する。
第2回	小売業の機能と構造	小売業のマーケティング機能とその構造について理解する。
第3回	商品分類とマーケティング	消費者行動に基づいた商品分類について検討する。
第4回	マーチャンドライジング戦略（市場戦略）	品ぞろえの視点からマーチャンドライジングを理解する。
第5回	マーチャンドライジング戦略（財務戦略）	財務的視点からマーチャンドライジングを理解する。
第6回	マーチャンドライジング戦略（価格戦略）	価格設定について理解する。
第7回	マーチャンドライジング戦略（仕入れ）	商品の仕入れ先の選定と管理について理解する。
第8回	小売業の立地戦略	都市の選定と立地場所の選定について理解する。
第9回	商圏の理解	都市商圏、商業集積の商圏、店舗の商圏について理解する。
第10回	小売業のプロモーション戦略（広告）	広告について理解する。
第11回	小売業のプロモーション戦略（人的販売）	人的販売について理解する。
第12回	小売業のプロモーション戦略（販売促進）	販売促進について理解する。
第13回	通信販売ビジネス	通信販売のビジネスモデルを理解する。
第14回	オムニチャネル小売業への理解	オムニチャネル小売業の特性とその戦略的方向性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された教科書を事前に読むことが予習となる。復習としては講義後に配布された資料を読み返し、関連する事例を宿題として調べる。

【テキスト（教科書）】

青木均『小売マーケティングハンドブック』同文館出版

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

下記の内容についての理解度の把握（60%）と平常点（40%）
・小売業のマーチャンドライジングについて理解できる（20%）。
・小売業のプロモーションについて理解できる（20%）。
・小売業の立地戦略について理解できる（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な概念の理解とその応用ができるように論理的思考の育成を強化する。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on principles of marketing and marketing strategy, especially on retail marketing management.

MAN200MA

演習（ビジネス）4年生（秋）

菊池 一夫

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はサービス・マーケティングを研究し、従来のマーケティング戦略との融合を研究していく。

【到達目標】

本講義はサービスマーケティングについて以下のことを理解できることを目標とする。

- ・サービス品質とその理解
- ・サービス人的資源管理
- ・サービス提供システム
- ・伝統的マーケティングとデジタル・マーケティングの融合

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

報告者は毎回、担当章を要約し、発表する。他の者は質問を行い、質疑応答を通じてサービス・marketing への理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	サービス・マーケティングの体系	サービス・マーケティングの体系について理解する。
第2回	真実の瞬間の重要性	サービス品質が知覚される真実の瞬間への理解
第3回	サービス提供システムの意義	サービス提供システムについての理解
第4回	サービス・マーケティング・コミュニケーション	サービス・マーケティング・コミュニケーションについての理解
第5回	サービス人的資源管理	サービス人的資源管理についての理解
第6回	サービス品質の概念	サービス品質の概念とその測定手法、顧客満足について
第7回	マーケティング 4.0 について（伝統的マーケティング）	伝統的マーケティング戦略について理解する
第8回	マーケティング 4.0 について（デジタル・マーケティング）	デジタル・マーケティングの体系の理解
第9回	デジタル・マーケティングと消費者行動	SNS 等を通じた消費者購買行動、使用者行動についての理解
第10回	デジタル・マーケティングの展開（インターネット広告）	インターネット広告について理解する
第11回	デジタル・マーケティングの展開（アプリ）	アプリや CRM の仕組みについて理解する。
第12回	デジタル・マーケティングの展開（SNS）	ソーシャル CRM について理解する。
第13回	ミレニアル世代へのマーケティングの展開	ミレニアル世代の特性とマーケティングの展開について理解する。
第14回	事例研究	マーケティング 4.0 に関わる諸事例について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書を読むことを予習とし、講義時に配布された資料を読み返すことを復習とする。また講義に関連する事例を調べることを宿題とする。

【テキスト（教科書）】

P. コトラ他著、恩蔵直人監訳『コトラのマーケティング 4.0』朝日新聞出版。

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

サービス・マーケティングに関わる以下の四項目全体の理解（60 %）と平常点（40 %）

- ・サービス品質とその理解（15 %）
- ・サービス人的資源管理（15 %）
- ・サービス提供システム（15 %）
- ・伝統的マーケティングとデジタル・マーケティングの融合（15 %）

【学生の意見等からの気づき】

基礎概念の理解とその応答を促進するために論理的思考力を高める。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on services marketing, and then combine it with traditional marketing.

SOC200MA

演習（ライフ）2年生

荒川 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アート」「文化」「創造性」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アート・マネジメント、文化政策、まちづくり、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】

文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同でアート・プロジェクトを実施します（そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します）。そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
8	プレゼンテーション②	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
9	研究の実践①	ゼミ論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じてフィールド調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
14	プレゼンテーション④	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究成果のプレゼンテーションに向けて、文獻調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環としてさまざまなアート・プロジェクトを行うため、企画立案から実施までかなりの時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、適宜プリント資料を配布します。

【参考書】

ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など）：50 %

期末レポート：50 %

※単位取得の要件として、2 年次の終わりにはレポート執筆、3 年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また 4 年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務づけます。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】

ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。

ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline and objectives】

Each student does research on the theme which they choose among the fields of "art", "culture", "creativity" and "local community". Art here includes fine arts, music, literature, movies, dance, fashion, subculture, arts management, cultural policy, town planning, etc. Then we explore how we can utilize them in our way of life and way of working. Through presentations and discussions we will share the results of the research of other students.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（春）

荒川 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アート」「文化」「創造性」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アート・マネジメント、文化政策、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】

文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同でアート・プロジェクトを実施します（そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します）。そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
8	プレゼンテーション②	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
9	研究の実践①	ゼミ論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じて調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
14	プレゼンテーション④	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環としてアート・プロジェクトを実施するため、企画立案から現場での遂行までかなりの時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、適宜プリント資料を配布します。

【参考書】

ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など）：50 %
期末レポート：50 %

※単位取得の要件として、2 年次の終わりにはレポート執筆、3 年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また 4 年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務づけます。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】

ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。

ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline and objectives】

Each student does research on the theme which they choose among the fields of "art", "culture", "creativity" and "local community". Art here includes fine arts, music, literature, movies, dance, fashion, subculture, arts management, cultural policy, town planning, etc. Then we explore how we can utilize them in our way of life and way of working. Through presentations and discussions we will share the results of the research of other students.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（秋）**荒川 裕子**

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アート」「文化」「創造性」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アート・マネジメント、文化政策、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】

文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同でアート・プロジェクトを実施します（そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します）。そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などの講習会も随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
8	プレゼンテーション②	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
9	研究の実践①	ゼミ論／卒論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じて調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
14	プレゼンテーション④	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環としてアート・プロジェクトを実施するため、企画立案から現場での遂行までかなりの時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、適宜プリント資料を配布します。

【参考書】

ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など）：50 %
期末レポート：50 %

※単位取得の要件として、2 年次の終わりにはレポート執筆、3 年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また 4 年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務づけます。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】

ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。

ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline and objectives】

Each student does research on the theme which they choose among the fields of "art", "culture", "creativity" and "local community". Art here includes fine arts, music, literature, movies, dance, fashion, subculture, arts management, cultural policy, town planning, etc. Then we explore how we can utilize them in our way of life and way of working. Through presentations and discussions we will share the results of the research of other students.

SOC200MA

演習（ライフ）2年生

福井 令恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、アイルランド・イギリスを対象とした地域研究をテーマにします。今後の日本社会、また国際社会において、私たちは、ますます異なる社会・文化的背景をもつ人々とともに生きる必要にせまられます。その際、困難が伴う場合もあるでしょう。アイルランドやイギリスの経験は、その際の参考になると考えられます。「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考えていきます。

スキルとしては、文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、情報のまとめ方といったことを身につけます。

【到達目標】

以下の4点を到達目標とする。

1. テーマに関する基本的な知識の習得。
2. 文献を読むスキルの向上（それぞれの文献の論点・エッセンスをきちんとつかむこと）。
3. 必要文献の探し方の習得。
4. 問題関心を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文献講読をもとに、ディスカッション形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミの進め方、ゼミでのルールを確認する。
第2回	レジュメの作り方、文献の読み方	ゼミにおいて必要な、基本的なスキル——読書ノートの作り方、報告の仕方、文献講読の基礎——を習得する。
第3回	基本文献講読①	文献を読み、内容の理解を深めたいうえでディスカッションをする。
第4回	基本文献講読②	文献を読み、内容の理解を深めたいうえでディスカッションをする。
第5回	基本文献講読③	文献を読み、内容の理解を深めたいうえでディスカッションをする。
第6回	基本文献講読④	文献を読み、内容の理解を深めたいうえでディスカッションをする。
第7回	基本文献講読⑤	文献を読み、内容の理解を深めたいうえでディスカッションをする。
第8回	基本文献講読⑥	文献を読み、内容の理解を深めたいうえでディスカッションをする。
第9回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方①	文献サーベイのための、文献の集め方について理解する。
第10回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方②	論文の読み方について理解する。
第11回	レポートの書き方	レポートの書き方を習得する。
第12回	レポート準備	各自テーマを自分なりにまとめるために準備を進める。
第13回	発表	発表と討議をする。
第14回	まとめ	全体を振り返り、総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読に当たっては、毎回必ず念入りに文献を読み、指定されたやり方にしたがってノートを作成した上で討論に参加すること。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加度、研究課題への取り組み姿勢（レジュメ、ディスカッションの参加等）と内容、レポート等の課題をもとに総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックを重視しつつ授業運営をすすめます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

不定期で5・6限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。

【Outline and objectives】

The theme of this seminar concerns area studies (UK and Ireland) mainly from the perspectives of sociology and culture studies. We consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society.

This course is also designed to develop research and writing skills (finding sources, learning citations, and critical reading and writing skills).

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（春）

福井 令恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、アイルランド・イギリスを対象とした地域研究をテーマにします。「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考えていきます。テーマに基づき、文献購読、ディスカッション、発表を行います。文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、論理的・説得的な議論の展開といったスキルを身につけます。

【到達目標】

自分の興味関心をもとにしたテーマを設定し、それを社会的なかわりの中で考えることができますようにします。またアカデミックスキル（適切な文献の探し方・読み方、自分の考えを論理的・説得的にまとめる力）を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

共通文献の読み込みによりさらに知識を習得し、グループでの議論を通じて理解を深めます。また、各自の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果をゼミで発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 春休みの進捗発表 文献研究①	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究②	イギリス・アイルランド社会の現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究③	発表と討論を行う。
4	文献研究④	発表と討論を行う。
5	文献研究⑤	発表と討論を行う。
6	これまでのまとめ	これまでの内容をまとめ、課題や問題設定について議論する。
7	研究の実践①	各自の関心、調査の計画を発表する。
8	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究を調べる。
9	研究の実践③	調査方法の検討。
10	研究発表①	個人研究発表。
11	研究発表②	個人研究発表。
12	研究発表③	個人研究発表。
13	夏休みの研究計画発表	夏休みの研究計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究成果の発表に向けて、文献調査やデータ収集などの作業をサブゼミの時間に行うなど、積極的な参加が求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜紹介する。

【参考書】

ゼミにおいて適宜提示・助言します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加度、研究課題への取り組み姿勢（レジュメ、ディスカッションの参加等）と内容、レポート等の課題をもとに総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文執筆に関して、長い分量を書くことに対する不安を少なくするために、春学期から論文の書き方を紹介・指導する。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

不定期で5・6限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。

【Outline and objectives】

The theme of this seminar concerns area studies (UK and Ireland) mainly from the perspectives of sociology and culture studies. We consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society. This course is also designed to develop research and writing skills (finding sources, learning citations, and critical reading and writing skills).

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（秋）

福井 令恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月6/Mon.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、アイルランド・イギリスを対象とした地域研究をテーマにします。「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考えていきます。テーマに基づき、文献購読、ディスカッション、発表を行います。文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、論理的・説得的な議論の展開といったスキルを身につけます。

【到達目標】

自分の興味関心をもとにしたテーマを設定し、それを社会的なかわりの中で考えることができますようにします。またアカデミックスキル（適切な文献の探し方・読み方、自分の考えを論理的・説得的にまとめる力）を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

共通文献の読み込みによりさらに知識を習得し、グループでの議論を通じて理解を深めます。また、各自の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果をゼミで発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 夏休みの進捗発表 テーマの設定 先行研究の検討 先行研究の検討 研究計画 調査研究のデザイン これまでのまとめ	演習の目的と進め方について説明する。
2	研究の実践①	調査研究の構想。
3	研究の実践②	発表と討議を行う。
4	研究の実践③	発表と討論を行う。
5	研究発表①	研究計画を練る。
6	研究発表②	発表と討論を行う。
7	研究発表③	これまでの内容をまとめ、課題や問題設定について議論する。
8	研究発表④	進捗状況の報告と質疑。
9	研究発表⑤	進捗状況の報告と質疑。
10	研究発表⑥	研究発表を行う。
11	研究発表⑦	研究発表を行う。
12	研究発表⑧	研究発表を行う。
13	研究発表⑨	研究発表を行う。
14	春休みの研究計画発表	春休みの研究計画について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究成果の発表に向けて、文献調査やデータ収集などの作業をサブゼミの時間に行うなど、積極的な参加が求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜紹介する。

【参考書】

ゼミにおいて適宜提示・助言します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加度、研究課題への取り組み姿勢（レジュメ、ディスカッションの参加等）と内容、レポート等の課題をもとに総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文執筆に関して、長い分量を書くことに対する不安を少なくするために、春学期の段階から論文の書き方を紹介・指導する。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

不定期で5・6限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。

【Outline and objectives】

The theme of this seminar concerns area studies (UK and Ireland) mainly from the perspective of culture studies. We consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society. The theme of this seminar concerns area studies (UK and Ireland) mainly from the perspectives of sociology and culture studies. We consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society.

This course is also designed to develop research and writing skills (finding sources, learning citations, and critical reading and writing skills).

SOC200MA

演習（ライフ）2 年生

金山 喜昭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「地域コミュニティを探る」です。

人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設のあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】

- ①「地域コミュニティ」に関する考え方を理解する。
- ②各地の事例をみる。
- ③参加者のそれぞれのテーマを実現することができるスキルや方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方については、参加者と相談したうえで行う。基本的な授業の流れは、①共通するテーマに関する文献の購読、②現地見学、③プレゼンテーションと討論、④レポート作成

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	参加者のテーマの確認と、授業の進め方を確認する
2	ゼミ運営の作成	具体的にゼミの進行計画を作成する
3-10	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。 （参考図書：河野著）を元にする
11-13	個人レポート発表	参加者の関心のあるテーマをレポートにまとめて発表し、意見交換する
14	現地見学会	授業のテーマに合わせて現地見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①基本文献は事前に知らせる。発表に先立ち、（参考文献：河野、P14-29）の形式に則して、発表用のレジュメを用意する。
- ②日頃から、地域に関する関心のあるテーマについて情報収集する（新聞、文庫、雑誌など）。
- ③見学会は日帰りとし、行先は参加者と検討する。

【テキスト（教科書）】

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会

【参考書】

金山喜昭『公立博物館を NPO に任せたらー市民・地域・自治体の連携ー』同成社

【成績評価の方法と基準】

課題の提出

課外授業の参加や課題の提出などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

参加者からの意見を大切に授業を運営する。

【学生が準備すべき機器他】

随時使用。

【Outline and objectives】

The theme of this course is “exploring a local community”.

Way of living cannot be complete without the relationship with the living area. People live with the relationship with the living area through their lives, jobs, NPO activities, governments, cultural activities and welfare activities. The subject of this course is “way of living in a local community” such as volunteer activities and events in the living area, forming a community at a cultural facility such as a museum and revitalizing the living area.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（春）

金山 喜昭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「地域コミュニティを探る」です。

人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設の効果的なあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】

● 3 年生

①地域コミュニティに関する共同調査によりフィールドワークの技法を学び、コミュニケーション能力をつける。

②「まちづくり」活動が市民のキャリア形成におよぼす現状を理解する。

③参加者が各自で設定したテーマについて調査や分析方法を獲得しレポートを作成する。その発表や討論を通じて自己形成をはかる。

● 4 年生

卒業論文の準備と中間報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生は、実地見学、文献購読など。共同調査と報告書の作成。

4 年生は、卒業論文作成のための調査研究と報告・発表。

3 年生は、千葉県野田市の NPO 法人による博物館運営にスタッフとして参加し（2 か月に 1 回程度）、地域コミュニティにおける NPO や市民活動を経験するとともに、活動を通して市民と協働する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	参加者のテーマの確認と、授業の進め方を確認する
2	ゼミ運営の計画づくり	ゼミの計画書を作成する
3-5	共通信の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。 （参考図書：河野著）を元にする
6-7	現地調査の打ち合わせ準備	現地調査の調査項目と論点を確認する
8-11	現地調査	現地調査
12	現地調査の検討	調査後の成果や反省点を確認する
13-14	報告書作成（1）～（2）	作成・編集作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際にグループで調査するので授業時間だけでは足りません。曜日を決めて集まるなど、手間を惜しまずに進歩させることが肝心です。

【テキスト（教科書）】

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』

随時コピーなどを配布する。

【参考書】

金山喜昭『公立博物館を NPO に任せたらー市民・自治体・地域の連携ー』。

随時コピーなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出

出席や課外授業の参加や課題の提出などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

参加者からの意見を大切にして授業を運営する。

【その他の重要事項】

受講に際しては「ミュージアム概論」「ミュージアム経営論」を受講することが望ましい。

3 年生と 4 年生の授業は別に実地する予定。

春季は現地調査を行う。（宿泊の場合あり）

夏季休暇には合宿を行う（2 泊 3 日程度）

全員、卒業論文を提出する。

【Outline and objectives】

The theme of this course is “exploring a local community”.

Way of living cannot be complete without the relationship with the living area. People live with the relationship with the living area through their lives, jobs, NPO activities, governments, cultural activities and welfare activities. The subject of this course is “way of living in a local community” such as volunteer activities and events in the living area, forming a community at a cultural facility such as a museum and revitalizing the living area.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（秋）

金山 喜昭

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「地域コミュニティを探る」です。

人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設の効果的なあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】

● 3 年生

- ①「まちづくり」活動が市民のキャリア形成におよぼす現状を理解する。
- ②参加者が各自で設定したテーマについて調査や分析方法を獲得しレポートを作成する。その発表や討論を通じて自己形成をはかる。

● 4 年生

卒業論文の準備と中間報告・完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生は、説明、実地見学、文献購読など。共同調査と報告書の作成。

4 年生は、卒業論文作成のための調査研究と報告・発表。

3 年生は、千葉県野田市の NPO 法人による博物館運営にスタッフとして参加し、市民との協働をはかる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究テーマの設定	卒論テーマにつなげる。
2	研究テーマの妥当性を再検討する	卒論テーマにつなげる。
3	テーマに関する調査・発表・討議①	各自のテーマに基づいて調査したものをもとめて発表する。3 回以降、順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
4-12	テーマに関する調査・発表・討議②～⑩	各自のテーマに基づいて調査したものをもとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
13	小論文作成のガイダンス	これまでの作業を踏まえて、小論文作成の準備をする（参考文献参照）。
14	学生研究発表会に向けた準備	発表準備の作業と、発表の予行練習をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。

3 年生は卒業論文を踏まえて小論文の作成（学年末）。

4 年生は卒業論文の提出。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。授業の中で紹介する。

【参考書】

随時指定する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出

授業や課外授業への参加度

【学生の意見等からの気づき】

参加者からの意見を大切にして授業を運営する。

【その他の重要事項】

受講に際しては「ミュージアム概論」「ミュージアム経営論」を受講することが望ましい。

3 年生と 4 年生の授業は別に実地する予定。

全員、卒業論文を提出する。

【Outline and objectives】

The theme of this course is “exploring a local community”.

Way of living cannot be complete without the relationship with the living area. People live with the relationship with the living area through their lives, jobs, NPO activities, governments, cultural activities and welfare activities. The subject of this course is “way of living in a local community” such as volunteer activities and events in the living area, forming a community at a cultural facility such as a museum and revitalizing the living area.

SOC200MA

演習（ライフ）2年生

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本では、虐待・DV、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】

次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
・家族生活を通じた将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的なスキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、まず調査デザインを進める。このほか、適宜ゲストスピーカーを呼び、話を聞いたり、ディスカッションをしたりする。なお、必要に応じてボランティア活動を紹介するので、できるだけ多くの機会に参加し、ふだん関わることの無い人々と接することを勧めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-7	自己理解・他者理解にむけたワーク	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解・他者理解を進める。
8-14	文献購読	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持つことが重要である。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度や課題提出などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline and objectives】
This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways (e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews).

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（春）

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本では、虐待・DV、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】

次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
・家族生活を通じた将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的なスキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、まず調査デザインを進める。このほか、適宜ゲストスピーカーを呼び、話を聞いたり、ディスカッションをしたりする。なお、必要に応じてボランティア活動を紹介するので、できるだけ多くの機会に参加し、ふだん関わることの無い人々と接することを勧めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-7	文献購読	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。
8-14	社会調査	ゼミ生共同で1つの調査（アンケート）を行うための調査デザインを進める（仮説作成・標本設定・質問紙作成・予備調査など）。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持つことが重要である。

【テキスト（教科書）】
開講時に指示する。

【参考書】
授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度や課題提出などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline and objectives】
This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways (e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews).

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（秋）

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本では、虐待・DV、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】

次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
・家族生活を通じた将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的なスキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、まず調査デザインを進める。このほか、適宜ゲストスピーカーを呼び、話を聞いたり、ディスカッションをしたりする。なお、必要に応じてボランティア活動を紹介するので、できるだけ多くの機会に参加し、ふだん関わることのない人々と接することを勧めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-7	社会調査	ゼミ生共同で1つの調査（アンケート）を行うための調査デザインを進める（仮説作成・標本設定・質問紙作成・予備調査など）。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
8-14	統計的分析	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。記述統計から重回帰分析まで各種の手法を学び、自らの論文執筆の糧とする。SPSSという統計ソフトを使用する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持つておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度や課題提出などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline and objectives】

This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways (e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews).

SOC200MA

演習（ライフ）2年生

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習テーマは「自分で考える力を身につけよう！」です。

ニュース記事等をもとにしたディスカッションを通して、ゼミ生仲間の多様な意見に触れ、ものの見方の幅を広げつつ、自分なりの考えをまとめ、説明するトレーニングを行います。

さらに、年度末の学生研究発表会に向けたグループワークにおいて、関心のある社会的・文化的テーマを選択し、データ・資料を収集しながら、中間報告・ディスカッションを行い、自分たちの考えをまとめあげていきます。

【到達目標】

ニュース記事等の読解をもとに行うディスカッションを通して、自分で考え説明できる力を身につけるとともに、グループワークにおいて自分たちでテーマを選択し、データ・資料を収集しながら、学生研究発表会に向けて考えをまとめあげることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。

具体的な内容としては、①ニュース記事等の読解をもとに行うディスカッション、②学生研究発表会に向けたグループワーク（中間報告・ディスカッション）です。

進行方法等に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきます。

現代社会についてのクールな問題意識と熱い心意気を持っている、やる気のある諸君の参加を歓迎します。

なお、演習という性格上、登録だけして出席しない「幽霊くん」も困りますが、出席だけして発言しない「お地蔵さん」も困ります。報告・ディスカッションに主体的に取り組み、お互いの意見をめぐって議論し合うことが大切です。

きちんと出席し積極的に発言しながら報告・ディスカッションに取り組む意欲、ゼミ生仲間と協調しつつ自分たちでゼミをつくっていくという自発性を期待します。

その上でわたしは、ゼミが、「勉強」の場であると同時に、大学における居心地のいい「居場所」でもあってほしいと願っています。いっしょに「まじめ and 楽しい」ゼミをつくっていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／テキスト購読（1）	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／テキスト購読・ディスカッション
2	テキスト購読（2）	テキスト購読・ディスカッション
3	テキスト購読（3）	テキスト購読・ディスカッション
4	レポート中間報告Ⅰ（1）	レポート構想の中間報告・ディスカッション
5	レポート中間報告Ⅰ（2）	レポート構想の中間報告・ディスカッション
6	レポート中間報告Ⅰ（3）	レポート構想の中間報告・ディスカッション
7	ニュース記事ディスカッション（1）	ニュース記事に基づくディスカッション
8	ニュース記事ディスカッション（2）	ニュース記事に基づくディスカッション
9	ニュース記事ディスカッション（3）	ニュース記事に基づくディスカッション
10	ニュース記事ディスカッション（4）	ニュース記事に基づくディスカッション
11	レポート中間報告Ⅱ（1）	レポート構想の中間報告・ディスカッション
12	レポート中間報告Ⅱ（2）	レポート構想の中間報告・ディスカッション
13	レポート中間報告Ⅱ（3）	レポート構想の中間報告・ディスカッション
14	まとめ・総括	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のレポート執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、可能な範囲で構想を練り、中間報告に備えてください。

【テキスト（教科書）】

開講後にお伝えします。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（70%）、平常点（30%）。
欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理をお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度同様、具体的事例を通して理論をできる限り分かりやすく説明していきたいと思います。

【Outline and objectives】

The practice theme is “Develop Your Thinking Skill!”
Through discussions based on news articles, etc., students mutually share diverse opinions with other classmates, widen their scopes, and cultivate skills to form their own opinions and explain them.
Furthermore, in the groupwork for the year-end presentation, students select social and cultural themes they are interested in, collect data and materials, and form their collective opinions through interim reports and discussions.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（春）

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習テーマは「社会学への招待：『常識を疑え！』」です。
社会学の基本的なものの見方・考え方を習得し、それに基づき、ゼミ参加者各自が自分なりの関心あるテーマについて社会学的に分析できるようになることをめざします。
社会学的なものの見方・考え方（テキストを用いて授業中に学んでいきます）に基づいていれば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由です。

【到達目標】

夏合宿の段階で、ゼミ論・卒論の「本論」前半までを執筆することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。
具体的な内容としては、①ゼミ論・卒論作成に向けた中間報告・ディスカッション、②テキストの文献報告・ディスカッション、③新聞記事やあらかじめ決めておいたテーマに基づく社会学的ディスカッション・ディベートのトレーニング等です。
進行方法等に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週の卒論ゼミの時間以外に、休日出校（休日出校は春学期・秋学期とも各2日程度【土休日】）を予定しています。
現代社会についてのクールな問題意識と熱い心意気を持っている、やる気のある諸君の参加を歓迎します。
なお、演習という性格上、登録だけして出席しない「幽霊くん」も困りますが、出席だけして発言しない「お地蔵さん」も困ります。報告・ディスカッションに主体的に取り組み、お互いの意見をめぐって議論し合うことが大切です。
きちんと出席し積極的に発言しながら報告・ディスカッションに取り組む意欲、ゼミ生仲間と協調しつつ自分たちでゼミをつくっていくという自発性を期待します。
いっしょに「まじめ and 楽しい」ゼミをつくっていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法
2-8	テキスト購読：春学期（1）～（7）	テキスト購読・ディスカッション
9-10	社会学的ディスカッション・ディベート：春学期（1）～（2）	新聞記事やあらかじめ決めておいたテーマに基づく社会学的ディスカッション・ディベートのトレーニング
11-13	論文中間報告：春学期（1）～（3）	論文構想の中間報告・ディスカッション
14	まとめ・総括	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のゼミ論・卒論執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、可能な範囲で構想を練り、中間報告に備えてください。

【テキスト（教科書）】

開講後にお伝えします。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論・卒論の達成度（70%）、平常点（30%）。
欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理をお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度同様、具体的事例を通して理論をできる限り分かりやすく説明していきたいと思います。

【Outline and objectives】

The practice theme is “Invitation to Sociology: Doubt Your Common Sense!”
Upon obtaining basic sociological viewpoints and way of thinking, students cultivate individual ability to sociologically analyze themes they are personally interested in.

As long as the discourse is based on sociological views and ideas (which are covered in textbook-based lessons), students may choose their own themes for seminar essays and graduation theses.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（秋）

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習テーマは「社会学への招待：『常識を疑え！』」です。

社会学の基本的なものの見方・考え方を習得し、それに基づき、ゼミ参加者各自が自分なりの関心あるテーマについて社会学的に分析できるようになることをめざします。

社会学的なものの見方・考え方（テキストを用いて授業中に学んでいきます）に基づいていれば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由です。

【到達目標】

夏合宿の段階における、ゼミ論・卒論の「本論」前半までの執筆作業を受け、秋学期中にゼミ論・卒論を完成させることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。

具体的な内容としては、①ゼミ論・卒論作成に向けた中間報告・ディスカッション、②テキストの文献報告・ディスカッション、③新聞記事やあらかじめ決めておいたテーマに基づく社会学的ディスカッション・ディベートのトレーニング等です。

進行方法等に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週のゼミの時間以外に、休日出校（2日程度〔土休日〕）を予定しています。現代社会についてのクールな問題意識と熱い心意気を持っている、やる気のある諸君の参加を歓迎します。

なお、演習という性格上、登録だけして出席しない「幽霊くん」も困りますが、出席だけして発言しない「お地藏さん」も困ります。報告・ディスカッションに主体的に取り組み、お互いの意見をめぐって議論し合うことが大切です。

きちんと出席し積極的に発言しながら報告・ディスカッションに取り組む意欲、ゼミ生仲間と協調しつつ自分たちでゼミをつくっていくという自発性を期待します。

いっしょに「まじめ and 楽しい」ゼミをつくっていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-7	テキスト購読：秋学期（1）～（7）	テキスト購読・ディスカッション
8-9	社会学的ディスカッション・ディベート：秋学期（1）～（2）	新聞記事やあらかじめ決めておいたテーマに基づく社会学的ディスカッション・ディベートのトレーニング
10-13	論文中間報告：秋学期（1）～（4）	論文構想の中間報告・ディスカッション
14	まとめ・総括	ゼミ全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のゼミ論・卒論執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、可能な範囲で構想を練り、中間報告に備えてください。

【テキスト（教科書）】

開講後にお伝えします。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論・卒論の達成度（70%）、平常点（30%）。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度同様、具体的事例を通して理論をできる限り分かりやすく説明していきたいと思います。

【Outline and objectives】

The practice theme is “Invitation to Sociology: Doubt Your Common Sense!”

Upon obtaining basic sociological viewpoints and way of thinking, students cultivate individual ability to sociologically analyze themes they are personally interested in.

As long as the discourse is based on sociological views and ideas (which are covered in textbook-based lessons), students may choose their own themes for seminar essays and graduation theses.

SOC200MA

演習（ライフ）2年生

田中 研之輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】

- ①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べるできるようになります。
③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深掘していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。

尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク

9	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all? An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】

必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】

出席、ディスカッション参加貢献度と期末レポートによる総合評価

【学生の意見等からの気づき】

適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】

*ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものをばせるようサポートしていきます。

【Outline and objectives】

This course introduces research methods, academic writing and practical presentation skills ,as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（春）

田中 研之輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】

- ①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べるできるようになります。
③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深掘していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。

尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク

9	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all? An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】

必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】

出席、ディスカッション参加貢献度と期末レポートによる総合評価

【学生の意見等からの気づき】

適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】

*ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものをばせるようサポートしていきます。

【Outline and objectives】

This course introduces research methods, academic writing and practical presentation skills ,as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（秋）

田中 研之輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】

- ①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べるできるようになります。
③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深掘していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。

尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク

9	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all?An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】

必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】

出席、ディスカッション参加貢献度と期末レポートによる総合評価

【学生の意見等からの気づき】

適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】

*ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものをばせるようサポートしていきます。

【Outline and objectives】

This course introduces research methods,academic writing and practical presentation skills ,as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

SOC200MA

演習（ライフ）2年生

趙 宏偉

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミの名は「現代中国と東アジア研究会」です。ゼミは国際政治経済学と国際文明学の視点から、広く中国論、アジア論、日本と中国並びに日本人と中国人とアジアに生きる人々が絡み合いながら歩んできた道と歩んでゆく道の政治・経済・文明・国際キャリアデザインを演習の研究課題とします。受講生はアジアという広い分野の中でそれぞれ関心を持つ具体的な課題を見付けて研究し、趙宏偉は皆さんをサポートします。

【到達目標】

各自は自分が決めた研究テーマの研究を完成し、卒業時にその研究成果を卒論に仕上げて提出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

趙宏偉は中国人で、留学生として来日し、東京大学大学院で博士号を取得してから、大学教員になり今に至ります。専攻は政治学、国際関係学で、主に国際政治経済学と国際文明学の視点から中国、日本を含むアジアを研究しています。

私達は国際化している社会、言い換えれば国際社会の中で生きています。国際社会の中での人間の生き方、そして人間の集まりである国の生き方、さらに人間味のある国際社会の仕組みのあり方、言い換えれば国際社会とキャリアデザインは、このゼミの研究意識です。

2年生（秋学期から）、3年生、4年生は同じ時間に同じ教室で一緒に受講し、ゼミ活動を行います。2年生と3年生は学術文献の学習、3年生は年次研究レポートの取り組み、4年生は卒論の研究と作成をそれぞれ主な演習課題とします。3学年の学生は学びあい、助けあい、ゼミを作っていきます。7月に2泊3日、2月に1泊2日の研究合宿を行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	進め方や課題など
2	文献輪読、資料輪読、グループワーク研究	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
3	文献輪読、資料輪読、グループワーク研究	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
4	文献輪読、資料輪読、グループワーク研究	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
5	文献輪読、資料輪読、グループワーク研究	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
6	文献輪読、資料輪読、グループワーク研究の中間発表	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
7	文献輪読、資料輪読、グループワーク研究	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
8	文献輪読、資料輪読、グループワーク研究	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
9	文献輪読、資料輪読、グループワーク研究	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
10	文献輪読、資料輪読、グループワーク研究	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
11	文献輪読、資料輪読、グループワーク研究	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
12	文献輪読、資料輪読、グループワーク研究	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
13	文献輪読、資料輪読、グループワーク研究	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
14	グループワーク研究の成果発表	研究成果の発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

開講時に指示

【テキスト（教科書）】

開講時に指示

【参考書】

開講時に指示

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加、授業への貢献度を求め、グループワークの研究発表、年次レポート、卒論により、評価。

【学生の意見等からの気づき】

日本の時事、世界の時事への理解を高めること。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

履修の条件、学生への要望など

- ① 2年次（秋学期）と3年次と4年次で続けて履修することを条件とします。
- ② 月曜日と木曜日に開講される趙宏偉の講義「国際関係論Ⅰ・Ⅱ（国際社会のしくみと人間Ⅰ・Ⅱ）」と「アジア社会論Ⅰ・Ⅱ（アジアのコミュニティと文化Ⅰ・Ⅱ）」を、通年で履修しなければなりません。
- ③ ゼミの授業と合宿を遅刻、欠席してはいけません。
- ④ ゼミの授業時間は木曜日 5 限（16 時 50 分～）と 6 限です。さまざまなゼミ活動も基本的に木曜日の夕方に行われますので、この時間帯に他授業やバイトや用事などを入れずに時間を空けておくことを要求します。
- ⑤ 毎年 10 月に、恒例のゼミ OBOG も参加する BBQ 大会があり、現役ゼミ生は全員参加します。

【就業力効果】

この科目は東アジアの知識を習得することにより、国際力、情報判断力・行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】

In the seminar, a research topic of various phenomena such as politics, economics, society, culture, international career design, etc. in the way that Japan, China, Asian countries, Japanese, Chinese and Asian people have entered while intertwining. Each student finds and studies specific subjects that are interested, and strives to improve thinking ability and acquire problem solving methods.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（春）

趙 宏偉

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミの名は「現代中国と東アジア研究会」です。ゼミは国際政治経済学と国際文明学の視点から、広く中国論、アジア論、日本と中国並びに日本人と中国人とアジアに生きる人々が絡み合いながら歩んできた道と歩んでゆく道の政治・経済・文明・国際キャリアデザインを演習の研究課題とします。受講生はアジアという広い分野の中でそれぞれ関心を持つ具体的な課題を見付けて研究し、趙宏偉は皆さんをサポートします。合宿は7月に2泊3日、2月に1泊2日2回行います。

【到達目標】

各自は自分が決めた研究テーマの研究を完成し、卒業時に研究成果を卒業論文に仕上げて提出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

趙宏偉は中国人で、留学生として来日し、東京大学大学院で博士号を取得してから、大学教員になり今日に至ります。専攻は政治学、国際関係学で、主に国際政治経済学と国際文明学の視点から中国、日本を含むアジアを研究しています。

私達は国際化している社会、言い換えれば国際社会の中で生きています。国際社会の中での人間の生き方、そして人間の集まりである国の生き方、さらに人間味のある国際社会の仕組みのあり方、言い換えれば国際社会とキャリアデザインは、このゼミの研究意識です。

2年生（秋学期から）、3年生、4年生は同じ時間に同じ教室で一緒に受講し、ゼミ活動を行います。2年生と3年生は学術文献の学習、3年生は年次研究レポートの取り組み、4年生は卒論の研究と作成をそれぞれ主な演習課題とします。3学年の学生は学びあい、助けあい、ゼミを作っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	課題や進め方等
2	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
3	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
4	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
5	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
6	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
7	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
8	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
9	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
10	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション

11	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
12	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
13	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
14	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

開講時に指示

【テキスト（教科書）】

開講時に指示

【参考書】

開講時に指示

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加、授業への貢献度を求め、年度レポート、卒論により、評価。

【学生の意見等からの気づき】

日本の時事、国際時事への理解を高めること。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

履修の条件、学生への要望など

- ① 2年次（秋学期）と3年次と4年次で続けて履修することを条件とします。
- ② 月曜日と木曜日に開講される趙宏偉の講義「国際関係論Ⅰ・Ⅱ（国際社会のしくみと人間Ⅰ・Ⅱ）」と「アジア社会論Ⅰ・Ⅱ（アジアのコミュニティと文化Ⅰ・Ⅱ）」を、通年で履修することを推奨します。
- ③ ゼミの授業と合宿を遅刻、欠席してはいけません。
- ④ ゼミの授業時間は木曜日5限（16時50分～）と6限です。さまざまなゼミ活動も基本的に木曜日の夕方に行われますので、この時間帯に他授業やバイトや用事などを入れずに時間を空けておくことを要求します。
- ⑤ 毎年10月に、恒例のゼミOBOGも参加するBBQ大会があり、現役ゼミ生は全員参加します。

【就業力効果】

この科目は東アジアの知識を習得することにより、国際力、及び情報判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】

In the seminar, a research topic of various phenomena such as politics, economics, society, culture, international career design, etc. in the way that Japan, China, Asian countries, Japanese, Chinese and Asian people have entered while intertwining. Each student finds and studies specific subjects that are interested, and strives to improve thinking ability and acquire problem solving methods.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（秋）

趙 宏偉

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミの名は「現代中国と東アジア研究会」です。ゼミは国際政治経済学と国際文明学の視点から、広く中国論、アジア論、日本と中国並びに日本人と中国人とアジアに生きる人々が絡み合いながら歩んできた道と歩んでゆく道の政治・経済・文明・国際キャリアデザインを演習の研究課題とします。受講生はアジアという広い分野の中でそれぞれ関心を持つ具体的な課題を見付けて研究し、趙宏偉は皆さんをサポートします。ゼミ合宿は 7 月に 2 泊 3 日、2 月に 1 泊 2 日行います。

【到達目標】

各自は自分が決めた研究テーマの研究を完成し、卒業時に研究成果を卒論に仕上げて提出します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

趙宏偉は中国人で、留学生として来日し、東京大学大学院で博士号を取得してから、大学教員になり今日に至ります。専攻は政治学、国際関係学で、主に国際政治経済学と国際文明学の視点から中国、日本を含むアジアを研究しています。

私達は国際化している社会、言い換えれば国際社会の中で生きています。国際社会の中での人間の生き方、そして人間の集まりである国の生き方、さらに人間味のある国際社会の仕組みのあり方、言い換えれば国際社会とキャリアデザインは、このゼミの研究意識です。

2 年生（秋学期から）、3 年生、4 年生は同じ時間に同じ教室で一緒に受講し、ゼミ活動を行います。2 年生と 3 年生は学術文献の学習、3 年生は年次研究レポートの取り組み、4 年生は卒論の研究と作成をそれぞれ主な演習課題とします。3 学年の学生は学びあい、助けあい、ゼミを作っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	進め方と課題など
2	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
3	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
4	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
5	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
6	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
7	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
8	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
9	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
10	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション

11	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
12	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
13	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション
14	論文輪読、資料輪読、グループワーク研究の成果発表、年次レポート&卒論の取り組み	研究内容の打ち合わせ、教員指示・指導、発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

開講時に指示

【テキスト（教科書）】

開講時に指示

【参考書】

開講時に指示

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加、授業への貢献度を求め、年度レポート、卒論により、評価。

【学生の意見等からの気づき】

日本の時事、国際時事への理解を高めること。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

履修の条件、学生への要望など

- ① 2 年次（秋学期）と 3 年次と 4 年次で続けて履修することを条件とします。
- ② 月曜日と木曜日に開講される趙宏偉の講義「国際関係論Ⅰ・Ⅱ（国際社会のしくみと人間 A・B）」と「アジア社会論（アジアのコミュニティと文化Ⅰ・Ⅱ）」を、通年で履修しなければなりません。
- ③ ゼミの授業と合宿を遅刻、欠席してはいけません。
- ④ ゼミの授業時間は木曜日 5 限（16 時 50 分～）と 6 限です。さまざまなゼミ活動も基本的に木曜日の夕方に行われますので、この時間帯に他授業やバイトや用事などを入れずに時間を空けておくことを要求します。
- ⑤ 毎年 10 月に、恒例のゼミ OBOG も参加する BBQ 大会があり、現役ゼミ生は全員参加します。

【就業力効果】

この科目は東アジアの知識を習得することにより、国際力、及び情報判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】

In the seminar, a research topic of various phenomena such as politics, economics, society, culture, international career design, etc. in the way that Japan, China, Asian countries, Japanese, Chinese and Asian people have entered while intertwining. Each student finds and studies specific subjects that are interested, and strives to improve thinking ability and acquire problem solving methods.

SOC200MA

演習（ライフ）2年生

安田 節之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習（ゼミ）の学びの柱はコミュニティ心理学とプログラム評価です。この 2 つの柱をもとに、どのような人間の行動や心理が「社会のなかでより良く生きる（live a good life）、よい人生を送る」ことと関連するのか、つまり「ライフキャリアの質」を高めることにつながるのかについて検討します。そして、どのような取り組み（プログラム）がライフキャリアの質向上に貢献できるのかについて各自の研究テーマをもとに考えていきます。

【到達目標】

- ① 個人や集団に対して実施されるライフキャリア・プログラムの実情を知る。
- ② 自らが関心をもつ社会課題を理解し、その原因（問題）の分析が行えるようになる。
- ③ 今後のライフキャリアについて心理学の視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

皆さんが興味・関心のあるテーマは人それぞれだと思います。各自がゼミで取り組みたいというテーマを自主的に選び、研究していく形で全く問題ありません。ただ、そのテーマが単なる自分の関心事というだけでなく、より広く社会の関心事（例：社会課題）であることが大切であると考えています。自己満足の研究で終わってしまわないように、つまり“そんなことが分かってどうするのか（so what?）”あるいは“そんなことを研究して何になるのか（for what?）”とならないように、できるだけ「自分だけでない誰かのライフキャリアの質を高めるための視点」から問いを立てるところからスタートしてください。ゼミでは課題図書や論文を読み、個人研究テーマに関するディスカッションを行います。また 3 年生と共同で調査データの収集・分析を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第 2 回 - 第 4 回	ライフキャリア支援とは	ライフキャリア支援の考え方について、コミュニティ心理学とプログラム評価の視点から学ぶ。
第 5 回 - 第 7 回	個人研究テーマの検討と共有①	現段階で関心のある個人研究テーマについて発表する。発表内容は、対象となる社会課題の現状（必須）、課題解決のために実施されているプログラムの概要（任意）。
第 8 回 - 第 11 回	調査研究の理解	3 年生と共同で調査データ（質的・量的）を収集し、調査研究の方法を実践的に学ぶ。
第 12 回 - 第 13 回	個人研究テーマの検討と共有②	3 年次の春学期からの個人研究テーマの集中的な検討に向けて、2 年次での自身の研究関心を再確認する。
第 14 回	総括	半期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域社会や様々な人々のライフキャリアの課題について考えるようにしてください。ゼミの時間以外の個人学習およびサブゼミ等を活用して、自分自身が探求したい研究テーマの設定をしっかりと行ってください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。また課題図書（テキスト）は授業時に検討・決定する。

【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）」（安田節之，2011，新曜社）

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミで学ぶ専門知識とライフキャリアの学びとのバランスをとる。

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to help students understand the theory and methods of community psychology and program evaluation. Based on those understanding, students are to learn about how they can build their careers in the future for the purpose of living a good life in the future.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4 年生（春）

安田 節之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ライフキャリア支援を目的として実施されるプログラムの分析を行う。またキャリアデザインに関する量的調査研究の計画・実施・分析方法を学ぶ。

【到達目標】

- ① 各自が関心をもつプログラムの分析・評価スキルを習得する。
- ② 量的調査研究の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業（演習）では、各自の研究テーマに沿ったプログラムの分析を行う。2 年次に行った社会課題の分析を通して、課題解決に向けたプログラムのゴールの明確化を行う。そして、各自のプログラムのロジックモデルを完成させる。またキャリアデザイン調査研究の演習として、グループで量的調査を計画・実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第 2 回 - 第 4 回	個人研究テーマの検討と共有③	2 年次に検討した社会課題の分析結果をもとに、プログラムのゴールの明確化とロジックモデルの作成を行い、ゼミで共有する。
第 5 回 - 第 7 回	ライフキャリア調査研究の検討	ゼミでのワークとして、グループで量的調査の計画・準備を行う。テーマの設定・先行研究の検討・質問項目の作成を行う。
第 8 回 - 第 10 回	ライフキャリア調査研究の実施	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行う。
第 11 回 - 第 13 回	個人研究テーマの検討と共有④	各自が作成したロジックモデルを参考に、個人研究として行うプログラム評価の焦点を定める。
第 14 回	総括	半期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人の研究テーマ（プログラム評価の準備）に関しては、ゼミ以外の時間（個人学習やサブゼミ活用）で継続的に進め、「個人研究テーマの検討と共有④（第 11 回～第 13 回）」においてしっかりとプレゼンテーションできるようにしてください。また 4 年生は、秋学期での卒業論文完成に向けて、サブゼミ等を活用して積極的に論文執筆に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）」（安田節之，2011，新曜社）

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Students will acquire knowledge and skills to develop and evaluation life-designing programs in this seminar. Particular attention will be placed on helping students to develop quantitative-analytic techniques to conduct related research studies.

SOC200MA

演習（ライフ）3・4年生（秋）

安田 節之

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ライフキャリア支援を目的として実施されるプログラムの評価を実施し、卒業論文の執筆準備（3年生）および執筆（4年生）を行う。

【到達目標】

- ① 継続的に分析を行ってきたライフキャリア支援のプログラムの評価の計画・実施スキルを習得する。
- ② 評価データの収集と結果の分析・考察方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各自が関心をもつ社会課題とその解決を目的として実施されるプログラムの評価研究を行う。そのために、評価実施のスケジュールを作成し、ゼミでのディスカッションを通して評価内容や評価方法を検討する。評価のスケジュールに沿って質的・量的データを収集し、分析を行う。そして卒業論文の執筆の準備を開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第2回～第3回	個人研究テーマの検討と共有⑤	各自のプログラムの評価実施のスケジュールを検討し、ゼミで共有する。
第4回～第10回	プログラム評価の実施	評価実施のスケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況についてプレゼンテーションを行う（個人発表）。
第11回～第13回	評価結果の分析と考察の執筆	各自で収集した評価データの結果を分析し、卒業論文の執筆準備を行う。
第14回	総括	半期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文執筆に向けて、各自の研究テーマをゼミの時間以外でも継続的に進めてください。また4年生は卒業論文の完成に向けて、サブゼミ等を活用して積極的に論文執筆を行ってください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）」（安田節之，2011，新曜社）

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミでのグループ作業と個人の研究指導とのバランスをとる。

【Outline and objectives】

Students are to prepare individual research studies (junior) and complete their thesis (senior) throughout this seminar.

SOC200MA

演習（ライフ）2年生

熊谷 智博

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について理解し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決するためにどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。

【到達目標】

ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

2年生のゼミでは、3年生以降に各自で研究を行うのに必要となる基礎的知識を身につけるため、社会心理学の文献・論文を読み、ディスカッションを通じて知識とスキルの共有を図ります。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第2回	社会心理学の基礎知識	社会心理学の基本的知識について議論します。
第3回	社会心理学の基礎知識	社会心理学の基本的知識について議論します。
第4回	社会心理学の基礎知識	社会心理学の基本的知識について議論します。
第5回	研究論文の読み方	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文文化の仕方についての知識を獲得します。
第6回	研究論文の読み方	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文文化の仕方についての知識を獲得します。
第7回	研究論文の読み方	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文文化の仕方についての知識を獲得します。
第8回	研究論文の読み方	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文文化の仕方についての知識を獲得します。
第9回	研究論文の読み方	専門的な研究論文の輪読を通じて、科学研究方法の考え方、記述法、分析方法、発表・論文文化の仕方についての知識を獲得します。
第10回	研究の再現	先行研究の追試を通じて、心理学実験や調査の具体的な方法、ノウハウなどを身につけます。
第11回	研究の再現	先行研究の追試を通じて、心理学実験や調査の具体的な方法、ノウハウなどを身につけます。
第12回	研究の再現	先行研究の追試を通じて、心理学実験や調査の具体的な方法、ノウハウなどを身につけます。
第13回	研究の再現	先行研究の追試を通じて、心理学実験や調査の具体的な方法、ノウハウなどを身につけます。
第14回	まとめ	これまでの成果を振り返り、3年次以降の研究の進め方について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合もあります。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【参考書】

授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点で評価します。発表内容の出来、提出物の完成度等に基づき評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn introduction of social psychology, how to read journals and to design studies.

SOC200MA

演習（ライフ）3年生（春）

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について「診断」し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決する「治療」するためにどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。

【到達目標】

ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年次ゼミでは先行研究を元に、研究を計画、実施することでデータを収集し、それを分析・考察することで、社会心理学研究を実際に経験して貰います。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第 2 回	社会心理学研究の基礎知識	社会心理学の基本的知識について議論します。
第 3 回	社会心理学の研究計画法	社会心理学研究を実際に行う方法について議論します。
第 4 回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 5 回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 6 回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 7 回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 8 回	社会心理学研究の実施・発表	専研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 9 回	社会心理学研究の実施・発表	専研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 10 回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 11 回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 12 回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 13 回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 14 回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合もあります。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【参考書】

授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

平常点で評価します。発表内容の出来、提出物の完成度等に基づき評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

【Outline and objectives】

In this seminar course, students will learn how to conduct social psychological study and discuss about results.

SOC200MA

演習（ライフ）3年生（秋）

熊谷 智博

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について「診断」し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決する「治療」するためにどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。

【到達目標】

ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3年次ゼミでは先行研究を元に、研究を計画、実施することでデータを収集し、それを分析・考察することで、社会心理学研究を実際に経験して貰います。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第2回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第3回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第4回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第5回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第6回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第7回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第8回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第9回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第10回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第11回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第12回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第13回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第14回	社会心理学研究の実施・発表	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合もあります。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【参考書】

授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点で評価します。発表内容の出来、提出物の完成度等に基づき評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

【Outline and objectives】

In this seminar course, students will learn how to conduct social psychological study and discuss about results.

SOC200MA

演習（ライフ）4年生（春）

平野 貴大

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個々のテーマに沿った研究テーマの明確化を行い、その研究に必要な方法論や分析方法について学ぶ。

【到達目標】

- ① 各自が関心をもつ研究対象の分析方法について習得する。
- ② 分析に基づく研究の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業（演習）では、各自の研究テーマに沿った内容を深めることを主目的とする。

合わせて、必要な調査方法や分析方法についての学習を行い実践的な能力の獲得を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第 2 回～ 第 4 回	個人研究テーマの検討と共有	2 年次のフィールドワークなどの内容を踏まえ、各自の興味範囲と研究テーマのターゲットを明確にする。
第 5 回～ 第 7 回	研究方法の検討	研究内容に基づき、その内容を深めるための分析方法や調査方法としてどのようなものがあるのか、個別の状況に基づき検討を行う。
第 8 回～ 第 10 回	予備調査研究の実施	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行い。必要に応じ共有を行う。
第 11 回 ～ 第 13 回	個人研究テーマの決定	各自の研究テーマについて、予備調査研究の内容を踏まえ、テーマを決定する。
第 14 回	総括	半期のまとめと後期の授業方針の検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人の研究テーマ

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて指定などを行います。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

We clarify the research theme according to each theme and learn about the methodology and analysis method necessary for that research.

SOC200MA

演習（ライフ）4 年生（秋）

平野 貴大

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自の研究テーマに沿って卒業論文、またはこの研究レポートの執筆を開始する。

【到達目標】

- ① 各自の研究テーマを踏まえ、卒業論文、研究レポートのフォーカスを明確にする。
- ② データの収集と結果の分析・考察方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各自が関心をもつ研究テーマをさらに深め、卒業論文、研究レポートの執筆に繋げる。

そのために、ゼミでのディスカッションを通して研究内容や分析方法を検討する。各自のスケジュールに沿ってデータの収集、分析を行い内容を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第 2 回～	個人研究テーマの検討と共有	各自の研究テーマの調査・分析のスケジュールを検討し、ゼミで共有する。
第 3 回	共有	
第 4 回～	個人テーマに関する内容の調査・分析	スケジュールに沿って、データを収集・分析する。進捗状況についてプレゼンテーションを行い、経過報告を行う。
第 10 回		各自で収集した評価データのデータの収集と分析を行い卒業論文、研究レポートの執筆を行う。
第 11 回	評価結果の分析と考察の	
～第 13 回	執筆	
第 14 回	総括	半期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文、研究レポート執筆に向けて、各自の研究テーマをゼミの時間以外でも継続的に進めてください。また 4 年生は卒業論文の完成に向けて、サブゼミ等を活用して積極的に論文執筆を行ってください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて指定します。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミでのグループ作業と個人の研究指導とのバランスをとる。

【Outline and objectives】

Start writing a graduation thesis or a research report here in accordance with each research theme.

SOC200MA

演習（ライフ）4 年生（春）

酒井 博基

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アート」「文化」「創造性」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらを生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求していきます。

教室での演習（調べる・発表する・議論する・書く）に加え、さまざまなイベントの企画・運営を通じて、文化やアートを実際にマネジメントするためのスキルも身につけます。

【到達目標】

文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養い、これらを実際にマネジメントできる知識やスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートや街づくりに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同で街づくりやアートに関わるリアルプロジェクトを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアート、地域コミュニティをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
8	プレゼンテーション②	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
9	研究の実践①	期末レポートの執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じて調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
14	プレゼンテーション④	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環としてリアルプロジェクトを実施するため、企画立案から現場での実施までかなりの時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など）： 50 %
期末レポート： 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

PC など

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Based on keywords such as "art" "culture" "creativity" "local community", we will practice (examine, discuss, plan, plan how you can use them in your way of life and way of working) We will pursue through practice.

In addition to classroom exercises (examining, presenting, discussing, writing), you will acquire skills to actually manage culture and art through the planning and management of various events.

SOC200MA

演習（ライフ）4年生（秋）

酒井 博基

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アート」「文化」「創造性」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらを生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求していきます。

教室での演習（調べる・発表する・議論する・書く）に加え、さまざまなイベントの企画・運営を通じて、文化やアートを実際にマネジメントするためのスキルも身につけます。

【到達目標】

文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養い、これらを実際にマネジメントできる知識やスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートや街づくりに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同で街づくりやアートに関わるリアルプロジェクトを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアート、地域コミュニティをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
8	プレゼンテーション②	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
9	研究の実践①	期末レポートの執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じて調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。
14	プレゼンテーション④	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環としてリアルプロジェクトを実施するため、企画立案から現場での実施までかなりの時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など）：50 %

期末レポート：50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

PC など

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Based on keywords such as "art" "culture" "creativity" "local community", we will practice (examine, discuss, plan, plan how you can use them in your way of life and way of working) We will pursue through practice.

In addition to classroom exercises (examining, presenting, discussing, writing), you will acquire skills to actually manage culture and art through the planning and management of various events.

SOC200MA

演習（ライフ）4年生（春）

山口 佳子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において個人がキャリアをデザインしてゆくにあたって、社会／世界をどのようにとらえ、そこでの生き方をどのように探究・構築していくべきなのか。自己を取り巻き、自己のアイデンティティや価値観の形成に大きく関わる「文化」や「コミュニティ」をキーワードに具体的に事例研究を行い、ディスカッションやプレゼンテーションをととして、自分なりの考えをまとめ、説明するトレーニングを行います。

【到達目標】

「文化」や「コミュニティ」に焦点を当てることによって、生きること＝ライフの意味を改めて問い直すとともに、より実践的に地域づくりや文化振興に活かすことができる知識やスキルを身につけ、卒論の具体的なテーマ設定、執筆に向けて問題意識の整理を行います。同時に、プレゼンテーションを軸としたディスカッションレベルの向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「文化」や「コミュニティ」という視点を媒介にして、社会や地域と実際にどうコミットしていくことができるのかを、参加者それぞれの関心あるテーマをもとに、グループ学習を交えながら考えていきます。なお、演習の具体的な運営方法については、参加者と相談しながら、随時決定します。また、実際の文化施設等でのフィールドワークやゲスト講師などによる授業も何度か行います。（学外授業の際は若干の費用がかかる場合がありますので、予めご了承ください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明し、次回以降の事例研究の内容についてディスカッションを行います。
2-6	事例研究&フィールドワーク	参加者の関心意識に基づいた事例について、具体的な文献等を通じ研究します。また実際の文化施設へのフィールドワークも行います。
7-8	まとめと振り返り	演習の成果について再考し、今後の課題を明確化します。
9-13	プレゼンテーション	研究の成果を報告し、ディスカッションを行います。
14	まとめと振り返り	演習の成果について再考し、今後の課題を明確化します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した参考文献やフィールドワークを基に小レポートを作成したり、ディスカッションやプレゼンテーションのための準備が求められます。

【テキスト（教科書）】

特に定めませんが、適宜プリントを配布します。

【参考書】

授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（課題提出、テーマ発表など）70 % レポート提出 30 %

【学生の意見等からの気づき】

フィールドワーク等の教室外の学習については、オリエンテーション時に学生とのコミュニケーションにより決定していきます。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the development of skills in designing your career :

- ・ To understand how you explore and build your identification in a "culture" and "community"
- ・ To capture the current society and environment surrounding of you
- ・ To consider how you live in the society

with concentered case studies and through discussion, presentation, and training to share your own idea.

SOC200MA

演習（ライフ）4年生（秋）

山口 佳子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において個人がキャリアをデザインしてゆくにあたって、社会／世界をどのようにとらえ、そこでの生き方をどのように探究・構築していくべきなのか。自己を取り巻き、自己のアイデンティティや価値観の形成に大きく関わる「文化」や「コミュニティ」をキーワードに具体的に事例研究を行い、ディスカッションやプレゼンテーションをとおして、自分なりの考えをまとめ、説明するトレーニングを行います。

【到達目標】

「文化」や「コミュニティ」に焦点を当てることによって、生きること＝ライフの意味を改めて問い直すとともに、より実践的に地域づくりや文化振興に活かすことができる知識やスキルを身につけます。また、卒論の具体的なテーマ設定、執筆に向けて問題意識の整理を行い、実際に文章を書き伝えられるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「文化」や「コミュニティ」という視点を媒介にして、社会や地域と実際にどうコミットしていくことができるのかを、参加者それぞれの関心あるテーマをもとに、グループ学習を交えながら考えていきます。なお、演習の具体的な運営方法については、参加者と相談しながら、随時決定します。また、実際の文化施設等でのフィールドワークやゲスト講師などによる授業も何度か行います。（学外授業の際は若干の費用がかかる場合がありますので、予めご了承ください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明し、次回以降の内容についてディスカッションを行います。
2-6	プレゼンテーションとディスカッション	各自の卒論テーマとスケジュールを検討し、ゼミで共有します。それを基にグループでのディスカッションを行います。
7-11	個人研究発表	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告し、ゼミ内で共有します。発表を通して、仮設の妥当性について確認し、論文を書き進めていきます。
12-14	まとめと振り返り	卒論の最終報告および卒論執筆を通しての成果の報告を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマの調査研究をゼミの時間以外でも継続的に進め、卒業論文執筆の基礎とすること。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】

必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（課題提出、テーマ発表など）70 % レポート提出 30 %

【学生の意見等からの気づき】

フィールドワーク等の教室外の学習については、オリエンテーション時に学生とのコミュニケーションにより決定していきます。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the development of skills in designing your career :
・To understand how you explore and build your identification in a "culture" and "community"
・To capture the current society and environment surrounding of you
・To consider how you live in the society
with concreted case studies and through discussion, presentation, and training to share your own idea.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

遠藤 野ゆり

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質の高い卒業論文を書きます。
データを収集する方法、根拠を示しながら論理的に読者を説得する力を習得します。考えを文章でまとめ、わかりやすく表現する能力を習得します。

【到達目標】

明確な問いを立ててそれに対する適切なデータ・資料を収集し価値ある考察をする。それを文章で適切に表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

報告とディスカッションの繰り返しです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒業論文構想発表会Ⅰ	卒業論文の構想を発表します。
2-3	データ収集	各自でデータ収集
4-7	成果発表	懸賞論文と卒業論文の進捗状況を報告し合い今後の進め方等についてディスカッションします。
8	卒論構想発表会Ⅱ	卒業論文の構想を発表します。
9-13	成果発表	懸賞論文と卒業論文の進捗状況を報告し合い今後の進め方等についてディスカッションします。
14	総括	総括と懸賞論文の仕上げをします。
15	懸賞論文の評価	懸賞論文の総括をし今後の論文構想を最終確認します。
16-27	成果発表	卒業論文の進捗状況を報告し合い今後の進め方等についてディスカッションします。
28	提出	提出物を完成させ確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データを取り卒業論文を執筆する

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文

【学生の意見等からの気づき】

アンケートからは特に要望はありませんが、受講生の要望に応じて柔軟に対応します。

【Outline and objectives】

This class aims to write a high quality thesis.
The aims are to learn how to collect data, to gain the ability to persuade the reader logically with evidences. We will compile sentences with ideas and master the ability to express them clearly.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

蟹江 教子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として、それぞれの興味関心に基づいて研究テーマを設定し、仮説をたて実証し、卒業論文としてまとめます。卒業論文のテーマを具体化する作業を通して、論理的思考力を養うとともに、問題を解決するためのプロセスを学びます。

【到達目標】

全員がルールに従って卒業論文を執筆、完成させることを目標とします。卒業論文の執筆を通して、問題を設定し、調査、分析、考察するプロセスを学ぶとともに、そこで得られた知見を適切な表現を用いて文章化し発表する能力を身につけましょう。自らの研究だけでなく、他者の研究を評価する力も養いましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、各自が設定した研究課題に関連する先行研究をサーベイし研究の位置づけを明確にして、調査を計画、実施します。秋学期は研究論文の執筆指導が中心です。適宜、個別指導も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（1）	卒業論文の目的と意義
第 2 回	ガイダンス（2）	卒業論文執筆のスケジュール
第 3 回	研究倫理について	調査を実施する際のルール（研究倫理）について確認
第 4 回	卒論計画の報告発表（1）	研究計画の概要報告と議論
第 5 回	卒論計画の報告発表（2）	研究計画の概要報告と議論
第 6 回	卒論計画の報告発表（3）	研究計画の概要報告と議論
第 7 回	卒論計画の報告発表（4）	研究計画の概要報告と議論
第 8 回	卒論計画の報告発表（5）	研究計画の概要報告と議論
第 9 回	卒論計画の報告発表（6）	研究計画の概要報告と議論
第 10 回	学術論文のルール	卒業論文執筆のためのルール確認
第 11 回	中間報告（1）	進捗状況の報告と議論
第 12 回	中間報告（2）	進捗状況の報告と議論
第 13 回	中間報告（3）	進捗状況の報告と議論
第 14 回	中間報告（4）	進捗状況の報告と議論
第 15 回	中間報告（5）	進捗状況の報告と議論
第 16 回	中間報告（6）	進捗状況の報告と議論
第 17 回	個別指導（1）	卒業論文の執筆
第 18 回	個別指導（2）	卒業論文の執筆
第 19 回	個別指導（3）	卒業論文の執筆
第 20 回	個別指導（4）	卒業論文の執筆
第 21 回	個別指導（5）	卒業論文の執筆
第 22 回	個別指導（6）	卒業論文の執筆
第 23 回	結果報告（1）	卒業論文原稿の検討
第 24 回	結果報告（2）	卒業論文原稿の検討
第 25 回	結果報告（3）	卒業論文原稿の検討
第 26 回	結果報告（4）	卒業論文原稿の検討
第 27 回	結果報告（5）	卒業論文原稿の検討
第 28 回	まとめ	提出に向けての最終確認と 1 年間のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究倫理を守って、計画的に卒業論文の執筆をすすめましょう。

【テキスト（教科書）】

井下千以子,2014,『思考を鍛えるレポート・論文作成術 第2版』慶應義塾大学出版会。

【参考書】

小泉潤二・志水宏吉編,2007,『実践的研究のすすめ』,有斐閣。
石川淳志・佐藤健二・山田一成著,1998,『見えないものを見る力』,八千代出版。

【成績評価の方法と基準】

以下の点から、卒業論文を評価します。

1. 学術的に意義のある研究課題、テーマを設定していますか。
2. 研究課題（研究の目的）にふさわしい研究資料、題材、研究手法を用いていますか。
3. 研究結果をエビデンスに基づいて論理的に説明していますか。
4. 先行研究を整理し、自身の論文の位置付けを明確にしていますか。

5. 新しい知見を見出すことができましたか。
6. 書式を守り、学術論文にふさわしい表現で執筆できていますか。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

報告の際は、全員分のレジュメを準備してください。

【その他の重要事項】

統計分析については、必要な授業を適宜履修してください。

【Outline and objectives】

Students will select a subject related to their interest and prepare a thesis. This seminar includes instructions on quantitative/qualitative analytical skills as well as research skills to articulate research questions, collect proper data, and structure thesis. Students are encouraged to make several presentations on their research topic, research progress and tentative results of their research.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

児美川 孝一郎

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成に沿って、各ステップごとに指導していく。先行研究の調査、データ分析方法、およびインプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

【到達目標】

卒業論文としての要件を備えた論文を執筆できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「授業のテーマ」「授業の到達目標」を参照

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
2	研究方法の概説①	理論研究、実証研究および文献サーベイ等、研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。
3	研究方法の概説②	理論研究、実証研究および文献サーベイ等、研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。
4	研究方法の概説③	理論研究、実証研究および文献サーベイ等、研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。
5	テーマの設定①	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
6	テーマの設定②	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
7	テーマの設定③	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
8	先行研究の調査①	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
9	先行研究の調査②	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
10	先行研究の調査③	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
11	先行研究の調査④	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
12	先行研究の調査⑤	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
13	研究計画の確定①	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法および分析方法等、実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
14	研究計画の確定②	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法および分析方法等、実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
15	調査データの整備①	調査データの収集、データベース化を行う。
16	調査データの整備②	調査データの収集、データベース化を行う。
17	調査データの整備③	調査データの収集、データベース化を行う。
18	検証仮説の検討①	検証仮説等について再検討を行う。
19	検証仮説の検討②	検証仮説等について再検討を行う。
20	検証仮説の検討③	検証仮説等について再検討を行う。
21	分析の実施①	仮説およびデータを用いて分析を行う。
22	分析の実施②	仮説およびデータを用いて分析を行う。

23	論文執筆①	論文の目的、先行研究、仮説、研究デザイン、検証結果、発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
24	論文執筆②	論文の目的、先行研究、仮説、研究デザイン、検証結果、発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
25	論文執筆③	論文の目的、先行研究、仮説、研究デザイン、検証結果、発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
26	リファインの作業①	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
27	リファインの作業②	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
28	リファインの作業③	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文以前に、3 年生からのゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み、および論文の内容を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からのフィードバックを生かして、卒業論文指導を行う。

【Outline and objectives】

This course gives guidance for writing graduation thesis.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

坂本 旬

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文の執筆または映像作品の制作

【到達目標】

3 年間の学習成果をふまえ、自己の問題意識をよりいっそう高めて、学問的社会的に価値のある論文の執筆または映像作品を制作すること。（要件等については「履修の手引き」参照。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

卒論指導は原則として月曜5 限または6 限目に行う（3 年ゼミに重ならないように調整）。卒論は論文またはドキュメンタリー映像作品（ドキュメンタリードラマも含む）のいずれかとする。どちらを選ぶか、あらかじめ選択しておくこと。

「演習（発達・教育）」および「キャリア総合演習」を履修すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学習方法を解説する
2	卒論の書き方・作品の作り方 (1)	メディアを活用した基本的な論文の書き方と映像作品の作り方
3	卒論の書き方・作品の作り方 (2)	テーマの決め方と論文・映像の構成
4	卒論の書き方・作品の作り方 (3)	仮のテーマを決める
5	卒論の書き方・作品の作り方 (4)	さまざまな情報収集の方法（Evernote の活用法）
6	卒論の書き方・作品の作り方 (5)	OPAC による書誌情報の収集の仕方
7	卒論の書き方・作品の作り方 (6)	各種のオンラインデータベースの使い方
8	卒論の書き方・作品の作り方 (7)	RefWorks 等を活用した情報を管理方法
9	卒論の書き方・作品の作り方 (8)	アウトラインプロセッサーを活用した論文や作品の構成の作り方
10	卒論の書き方・作品の作り方 (9)	情報共有のための GoogleDocs の使い方
11	テーマの設定と構成 (1)	論文や作品のテーマの設定
12	テーマの設定と構成 (2)	テーマに関する事前情報の収集と構成
13	テーマの設定と構成 (3)	問題意識を整理して文章にまとめる
14	テーマの設定と構成 (4)	論文に必要な情報のリストをまとめる
15	テーマの発表	テーマを発表し、いろいろな人の意見を聞く（夏合宿）
16	情報の収集と構成 (1)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
17	情報の収集と構成 (2)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
18	情報の収集と構成 (3)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
19	情報の整理と執筆・撮影の準備	収集した情報をパソコンに取り込んで整理し、執筆や撮影に備える
20-28	執筆（撮影・編集）～完成	完成に向けた論文の執筆（映像の場合は撮影・編集）と個別指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論・卒業作品は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

構成、引用・参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

論文・卒業作品のテーマはできるだけ早めに決めること。

【学生が準備すべき機器他】

論文作成にはパソコンを用いる。ドキュメンタリー作品の制作については、DV カメラとパソコンを用いる。

【その他の重要事項】

ドキュメンタリービデオを卒論として選択する場合、ビデオ制作は一人一作品とするが、制作過程にゼミ生同士が協力し合うことは可とする。一作品の長さは一人で制作する場合 15～20 分程度。複数人で制作する場合はこの数字に人数をかけたものとなる。

また、ビデオ作品は、企画書、シナリオ（絵コンテ）、ナレーション原稿、参考文献一覧表、制作記録、感想等を含め、1 万 2000 字以上の文字原稿を付けて一つの作品とみなす。ビデオだけでは作品と見なさないで、注意すること。その他の詳細については、卒論指導時に紹介する。

【Outline and objectives】

To write graduation thesis or produce graduation video appropriately

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

笹川 孝一

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文作成を行うとともに、それを通して調査研究、論文作成、発表、意見交換のスキルを向上させ、実社会での仕事に備える。

【到達目標】

- 1) 3 年生から継続して研究している人物のキャリアについて、さらに研究を深め、卒業論文を作成する。
- 2) 調査研究、論文作成、発表、意見交換のスキルを向上させ、実社会での仕事に備える。
- 3) 以上によって、法政大学キャリアデザイン学部で学んだ自分の人生について、誇りを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 卒業論文の書き方について、教員が講義をする。
- 2) 卒業論文作成の計画を作る。
- 3) 研究作業を進める。
- 4) 中間発表会を行う。
- 5) 中間検討合宿を実施する。
- 6) 卒業論文を完成させ、提出する。
- 7) キャリアデザイン学部学生研究発表会で成果を発表し、レポート集を作る。
- 8) 学生によるグループワークと教員による個人面談を必要に応じて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	卒業論文の位置づけと方法	大学教育における卒業論文の位置と具体的方法について説明する。
第 2 回	1200 字レポートの検討①	3 年次秋学期に書いた「1200 字レポート」を一人ずつ検討し、意見交換を行う。①
第 3 回	1200 字レポートの検討②	3 年次秋学期に書いた「1200 字レポート」を一人ずつ検討し、意見交換を行う。②
第 4 回	1200 字レポートの検討③	3 年次秋学期に書いた「1200 字レポート」を一人ずつ検討し、意見交換を行う。③
第 5 回	1200 字レポートの検討④	3 年次秋学期に書いた「1200 字レポート」を一人ずつ検討し、意見交換を行う。④
第 6 回	1200 字レポートの検討⑤	3 年次秋学期に書いた「1200 字レポート」を一人ずつ検討し、意見交換を行う。⑤
第 7 回	1200 字レポートの検討⑥	3 年次秋学期に書いた「1200 字レポート」を一人ずつ検討し、意見交換を行う。⑥
第 8 回	資料収集と分析、ノート作成と年表作成の進捗状況チェック①	一人ひとりに即して進捗状況をチェックする。①
第 9 回	資料収集と分析、ノート作成と年表作成の進捗状況チェック②	一人ひとりに即して進捗状況をチェックする。②
第 10 回	資料収集と分析、ノート作成と年表作成の進捗状況チェック③	一人ひとりに即して進捗状況をチェックする。③
第 11 回	資料収集と分析、ノート作成と年表作成の進捗状況チェック④	一人ひとりに即して進捗状況をチェックする。④
第 12 回	執筆状況のチェック①	一人ひとりに即して進捗状況をチェックする。⑤
第 13 回	執筆状況のチェック②	一人ひとりに即して進捗状況をチェックする。⑥
第 14 回	夏の課題検討①	一人ひとりが夏の課題とスケジュールを明確にする。①
第 15 回	夏の課題の振り返り	一人ひとりの夏の課題の成果を振り返り、討論する
第 16 回	執筆から提出までの道のりについて講義する。	提出に至るまでの具体的作業とスケジュールについて説明する。
第 17 回	執筆状況のチェック 1 – ①	一人ひとりに即して発表し、検討する。①

第 18 回	執筆状況のチェック 1 – ②	一人ひとりに即して発表し、検討する。②
第 19 回	執筆状況のチェック 1 – ③	一人ひとりに即して発表し、検討する。③
第 20 回	卒論合宿の準備	卒論中間発表合宿の準備を行う。
第 21 回	卒論合宿の振り返りと今後の課題	実施した合宿についてふりかえる。
第 22 回	執筆状況のチェック II – ①	一人ひとりに即して、提出に至るまでの道のりを明確にする。①
第 23 回	執筆状況のチェック II – ②	一人ひとりに即して、提出に至るまでの道のりを明確にする。②
第 24 回	執筆状況のチェック II – ③	一人ひとりに即して、提出に至るまでの道のりを明確にする。③
第 25 回	執筆状況のチェック II – ④	一人ひとりに即して、提出に至るまでの道のりを明確にする。④
第 26 回	執筆状況のチェック II – ⑤	一人ひとりに即して、提出に至るまでの道のりを明確にする。⑤
第 27 回	執筆状況のチェック II – ⑥	一人ひとりに即して、提出に至るまでの道のりを明確にする。⑥
第 28 回	執筆状況のチェック II – ⑦	一人ひとりに即して、提出に至るまでの道のりを明確にする。⑦

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の研究対象に即して資料収集、分析、年表作成、章節建て、執筆、書き直し作業を行う。

【テキスト（教科書）】

笹川「キャリアデザイン研究における人物研究の位置と方法について」

【参考書】

本多勝一『日本語作文の技術』朝日文庫

【成績評価の方法と基準】

- ・卒論計画作成
- ・計画に基づく調査研究、執筆の実施
- ・中間報告会等への参加
- ・卒業論文の内容と形式をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・卒論の書き方についての講義
- ・調査研究能力向上
- ・とくに学術文献検索の方法
- ・添削

以上の指導を向上させたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ワード、パワーポイント、エクセル
- ・プロジェクター操作
- ・ゼミ HP の活用

【その他の重要事項】

- ・キャリアデザイン学部での勉学の集大成に相応しい、質量の卒論作成を“学問共同体”として進めたい。
- ・卒業論文や進路選択の点で、先輩たちとの交流のさらなる充実を心がけたい。

【Outline and objectives】

In this course, students write a thesis about career studies.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

高野 良一

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年次に、個人のプロジェクト学習 (Project Based Learning,PBL) のまとめとして小論文を作成しました。これを発展的に継承し、4 年次の PBL を進めて、卒業論文の完成をめざします。

【到達目標】

プロジェクト学習のスキルに習熟しながら、「学校から社会・職業へ」の最終盤の 1 年間を通じて、実社会の問題と各自の問題をつなぐ知的スキル (KJ 法、トゥールミン・モデル等) の形成を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人のプロジェクト学習ですが、節目（チェックポイント）ごとに受講生全員での相互検討会を開催します。教員による指導は、適宜、集団のおよび個別に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒論ガイダンス	卒論を書く意義やプロセス、様式などの解説
2	3 年次プロジェクト・レポートの発表	各個人のプロジェクト・レポートの発表と相互討論
3	3 年次プロジェクト・レポートの発表（続）と講評	各個人のプロジェクト・レポートの発表と相互討論、全体講評
4	PBL を再学習する（1）	鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』の抜粋講読
5	PBL を再学習する（2）	鈴木敏恵著の抜粋講読
6	トゥールミン・モデルを学ぶ（1）	福澤一吉『議論のレッスン』の抜粋講読（入門編、初級編）
7	トゥールミン・モデルを学ぶ（2）	福澤一吉著の抜粋講読（中級編、実践編）
8	テーマ及び趣旨の個人発表	卒論執筆の最初の PBL シート（v.1）に基づく発表会
9	テーマ及び趣旨の個人発表（続）と講評	PBL シート（v.1）の発表会、全体講評、今後の進め方
10	先行研究やデータの収集を学ぶ：インターネット検索	PBL シート（v.1）を充実させる資料検索と訪問・調査先のリストアップ
11	先行研究やデータの収集を学ぶ：図書館利用案内	図書資料の検索
12	論文作成計画の立案	PBL シート V.2 の作成
13	論文作成計画の指導	PBL シート V.2 の個別（あるいはグループ）指導
14	論文作成計画の相互交流	各自の論文作成計画からの学び合い
15	夏休みの論文作成作業の確認	夏のゼミ合宿での発表に向けた卒論作成作業の発表
16	卒論の中間報告会	秋学期の冒頭のゼミ合宿での個人発表と相互交流
17	卒論の中間報告会（続）と講評	個人発表、相互交流および全体講評
18	途中経過に対するグループ指導	類似したテーマや領域別のグループ指導
19	途中経過に対するグループ及び個人指導	類似したテーマや領域別のグループ指導、必要に応じた個人指導も含む
20	論文執筆スキルを学ぶ（1）	戸田山和久『新版 論文の教室』1、2 章
21	論文執筆スキルを学ぶ（2）	戸田山和久著（3 章）
22	ゼミ OB/OG の卒論に学ぶ	2 つほど卒論を取り上げてテーマ設定と構成を学ぶ
23	ゼミ OB/OG の卒論に学ぶ（続）	図表や引用などの仕方を学ぶ
24	最終段階の個別指導（1）	テーマと構成を主として指導
25	卒論の最終報告会	類似したテーマや領域ごとの個人報告会（2、3、4 年全体）
26	卒論の最終報告会（続）	類似したテーマや領域ごとの個人報告会（2、3、4 年全体）
27	最終段階の個別指導（2）	文書表現や引用などを中心とした指導

28 論文提出に向けた個別指導 必要とする個人への指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文に結実する個人のプロジェクト学習は、ゼミ時間内での発表や協働学習、教員の集団および個別指導と並行しながら、授業外でのデータ収集や論文の読み込みなどの学習活動が大きな比重を占めます。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜、紹介します。

【参考書】

戸田山和久『新版 論文の教室』NHK 出版
 福澤一吉『議論のレッスン』（生活人新書）NHK 出版
 鈴木敏恵『プロジェクト学習の基本と手法』教育出版

【成績評価の方法と基準】

プロジェクト学習が進行する過程でのチェックポイントでの実績と、完成した論文の内容を総合的に勘案して評価します。チェックポイントとは、春学期のテーマ及び趣旨の発表、夏休み合宿での中間報告、秋学期の途中及び最終経過報告です。

【学生の意見等からの気づき】

自らの問題意識を「見える化」・客観化するアカデミック・スキルの形成に努めたい。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to write up a graduation thesis through an individual project-based learning(PBL) which is based on the third year's PBL.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

田澤 実

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成に沿って、それぞれの段階に応じて指導していく。先行研究の調査、データ分析方法、およびインプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

【到達目標】

卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「授業の到達目標及びテーマ」を参照

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	卒論執筆が大学における学びについてどのように位置づけるのか説明する。
第2回	テーマ特定	卒論で扱うテーマについてキーワードを探す。
第3回	先行研究のレビュー（1）	キーワードが確定したら、そのキーワードで先行研究を探し、まとめる。まずは新聞等の記事の探し方を扱う。
第4回	先行研究のレビュー（2）	キーワードで先行研究を探し、まとめる。該当する書籍や論文等の探し方を扱う。
第5回	計画発表（1）	卒論を執筆するうえで、研究枠組みと今後の研究計画を発表する。
第6回	計画発表（2）	実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
第7回	計画発表（3）	発表を通じて、さらに調べるべきキーワードの有無を確認する。
第8回	文献レビュー（1）	そのテーマを扱う意義についてイントロダクションを考える。
第9回	文献レビュー（2）	そのテーマの先行研究で明らかになっている範囲をまとめる。
第10回	文献レビュー（3）	先行研究で明らかになっていないことや、問題点を探る。
第11回	文献レビュー（4）	問題点をクリアするためには、どのような研究アプローチが必要かを考える。
第12回	文献レビュー（5）	卒論の目的の詳細を詰める。
第13回	予備調査の計画	データ収集に向けて、具体的な方法を検討する。
第14回	中間レポート発表	予備調査の実施計画を含めて発表する。
第15回	予備調査の実施	予備調査を実施することにより本調査の見通しを立てる。
第16回	中間発表（1）	予備調査の結果を踏まえて発表する。質疑応答を行う。
第17回	中間発表（2）	他者の発表も聞くことにより自らの研究の位置づけを相対化する。
第18回	中間まとめ	自らの発表や他者の発表を聞き、卒論の構成の修正を検討する。
第19回	分析の実施（1）	データ入力の方法について扱う
第20回	分析の実施（2）	分析のために形式を参考にする論文や書籍を探す
第21回	分析の実施（3）	具体的な分析の仕方について扱う
第22回	分析の実施（4）	結果について見通しを立てる
第23回	論文執筆（1）	問題と目的を中心に扱う
第24回	論文執筆（2）	方法を中心に扱う
第25回	論文執筆（3）	結果と考察を中心に扱う
第26回	卒論経過発表（1）	ゼミ内で発表、質疑応答を行う。最終仕上げの前に位置づけを明らかにしていく。
第27回	卒論経過発表（2）	ゼミ内で発表、質疑応答を行う。他者の発表も聞くことにより自らの研究の位置づけを相対化する。
第28回	卒論口頭発表	完成した卒論について発表し合う。質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 年秋学期に執筆するゼミ論が卒論の一部になることがある。

ゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。

卒論のテーマによっては上記のスケジュールが変更になることがある（データの性質上、入手可能な時期が限定される場合など）。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する

【参考書】

開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み、および論文の内容を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて随時話し合いをしてきた。今年度もそれを継続する。

【Outline and objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Evaluate major studies in terms of their methods, results, conclusions and implications,
- ・ Apply theories or findings to real world situations.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

筒井 美紀

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育・生活・文化・労働・政策の、少なくともいずれか1つをテーマとして、社会学の卒業論文を完成させる。

【到達目標】

「嗚呼、その答えが知りたい!」と読者に思わせ、社会的意義のある、かつ、学術論文の型・作法をマスターした「美しい」、内容の濃い、社会学の卒業論文を書き上げること、それがこの演習のゴールである。そのプロセスであなたは、より高次の精神性をもって生きてゆくことの意味を実感するだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学術論文を書き上げるには、実にたくさんの作業をこなし、そのなかで習熟していくことが不可欠である。それゆえ筒井ゼミでは、「仕上がった学術論文・本ってのはこういうものなのだ」という、「美しい完成品」の「審美眼（どうやって組み立てられ、何が部材として使われているから素晴らしいのかの理解）」を養う。卒論執筆は、「じゃあ自分も一丁やってみるか」とそれを実践に移すものだ。怒涛のような作業のなかで、自分の初発の問題関心とセンスを信じて失わずに続けられるか。我流では難しい。だから適宜アドバイスする。その大前提は自力でどんどん進めることだ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-2	研究計画の発表①	「学術論文 7 つの構成要素」の①～⑤を盛り込んで書き、それを発表する。
3-4	研究計画の発表②	前回続き。リファインする。ゴーサインが出次第、実査に入る。
5-6	分析結果の発表と検討①	前回続き。リファインする。
7-8	分析結果の発表と検討②	データ分析・知見・考察の検討。
9-10	分析結果の発表と検討③	データ分析・知見・考察の検討。
11-12	分析結果の発表と検討④	データ分析・知見・考察の検討。
13-14	章立ての検討①	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する
15-16	章立ての検討②	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する
17-18	草稿の一部をもとにアドバイス①	1 章分を目安に指導する。
19-20	草稿の一部をもとにアドバイス②	1 章分を目安に指導する。
21-22	草稿の一部をもとにアドバイス③	1 章分を目安に指導する。
23-24	草稿の一部をもとにアドバイス④	1 章分を目安に指導する。
25-26	第一稿の朱入れ①	リライトのポイントを助言。
27-28	第一稿の朱入れ②	リライトのポイントを助言。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論執筆に必要なこと全てを行う。

【テキスト（教科書）】

適宜指示。

【参考書】

適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の出来具合 100%。

【学生の意見等からの気づき】

全学懸賞論文というゴール設定は大変良い励みになるので、今年度も目指します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンは用意があるので、USB を適宜持参。

【Outline and objectives】

The students are to write a sociological graduation thesis, choosing the theme from education, life, culture, labour, and/or policy.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

寺崎 里水

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学における学修の集大成として卒業論文に取り組みます。卒業論文としてふさわしい課題設定、論文構成、議論、考察を行います。

【到達目標】

論文としてふさわしい形にすること、他者に自分の考察を伝えられることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個人の作業と全体での検討を並行して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒業論文の位置づけ、意義について説明します。卒業論文に取り組むという意識を高めます。
2-4	テーマの設定（1）～（3）	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見を踏まえながら検討します。
5-7	調査方法の設定（1）～（3）	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について検討します。
8-12	先行研究の調査（1）～（5）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
13-15	中間報告（1）～（3）	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
16-21	分析の実施と経過発表	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
22-27	論文完成にむけた個別指導	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
28	最終仕上げ	論文としてふさわしい構成になっているかどうかを確認しながら、最終的な仕上げを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関する文献を空き時間に探し、計画的に読んでいくこと。

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

特に定めない

【成績評価の方法と基準】

論文の内容、他者への貢献を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

互いの学修を助けあうような雰囲気醸成していきたい。

【Outline and objectives】

In this class, the students are going to write on graduation thesis as a compilation of their studies at the university.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）**廣川 進**

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成の方法と手順を理解し、獲得し、実際に論文を完成させる。

【到達目標】

各自が卒業論文として研究するテーマを選び、そのテーマについて調査、文献調査、文章の推敲、討論、等々をとおして、自らの主張としての論文を完成させ、大学卒業にふさわしい知的探求者へと成長することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、スキルを蓄積していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文作成に取り組む意義と準備すべき点について説明する。
2	研究方法の概説①	理論研究、実証研究という二つの研究手法の特徴と性格について概説する。
3	研究方法の概説②	理論研究、実証研究それぞれの手順の概要を説明する。
4	研究方法の概説③	前回の続きに加えて文献の探し方を紹介する。
5	テーマの設定①	執筆者の問題意識を整理する。
6	テーマの設定②	問題意識から、候補となるテーマを洗い出す。
7	テーマの設定③	テーマを報告し、他者の批判に応え説明する。
8-10	先行研究の調査	洗い出したテーマに関する先行研究を広く調査し、そこに示されている知見と残された課題を識別する。その上で、先行研究に何が足りないか、いかなる課題や問題が残されているかを把握する。
11-12	研究計画の策定	具体的な研究テーマを設定し、先行研究のレビューと批判、検証仮説の作成、データ収集方法および分析方法など、計画する。
13-14	小論文の執筆	課題、論点など明確にし、いくつかの点について、実際に論文を書き、書くことの意味を実感する。
15	研究計画の再検討	研究テーマ・課題、検証すべき仮説、用いる研究手法を再検討し、研究計画を再検討する。
16	調査データの収集と整理①	それぞれの研究計画に従いつつ、量的データ、質的データを収集し、データベース化を行う。
17	調査データの収集と整理②	調査を一定読み込み、自分の研究テーマに照らしてその意味を検討する。
18-20	調査データによる検証仮説の検討①～②	収集・整理したデータと検証仮説を照合し、仮説の補強や修正の必要がある場合はそれを行う。
21-22	分析の実施①～②	仮説およびデータを用いて分析を行う。この分析が論文の中核部分となる。
23-25	論文執筆	実際の論文執筆体制に入る。
26	論文のリファイン	ゼミで論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
27	論文の完成①	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
28	論文の完成②	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3年生からのゼミ活動に熱心に取り組み、卒業論文作成のイメージと課題意識を培っておくこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示する。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

論文完成に至るまでの研究への取り組み、および論文の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の探究したいテーマを重視して、研究計画を作っていく指導を行う。

【Outline and objectives】

This course will help you to write your graduation thesis.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

松尾 知明

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独自のテーマを追究して、多文化共生と教育に関する卒業論文を完成させる。多文化社会と教育に関連する調査研究を進めることを通して、多文化共生の実現に向けた方策やあり方の一端を検討して、そのための示唆を得る。

【到達目標】

・自分の興味・関心に基づき、多文化共生と教育に関するテーマを自ら設定して、計画を立て、調査研究を進めることができる。
・調査研究から得られた結果をもとに、論文作成の留意事項に従って卒業論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、演習内で指導を行う。授業計画に従い、各自の研究テーマを設定し、先行研究を踏まえて研究計画を立て、調査研究を進める。秋学期は必要に応じて個別指導を行う。進捗状況をもとに研究計画の見直しを行い、調査研究を遂行して、卒業論文にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究の進め方について
2-3	テーマの設定	調査研究の構想
4-5	先行研究の検討	発表と質疑
6-8	リサーチエッチョンと研究計画	研究計画の構想
9-12	データの収集と整理	進捗状況の報告と質疑
13-14	中間発表	発表と質疑
15	進捗状況の報告と計画の見直し	研究活動の振り返り
16-20	データの収集・整理・分析	進捗状況の報告と質疑
21-26	卒業論文の執筆	進捗状況の報告と質疑
27-28	卒論発表	プレゼンと質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献を読み、先行研究を深める。調査研究を主体的に進める。また、報告やプレゼンの準備をする。

【テキスト（教科書）】

授業において適宜紹介する。

【参考書】

授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況、論文の形式や内容などをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Graduate theses on multicultural symbiosis and education are completed by setting up and exploring individually selected themes. Through conducting research projects related to multicultural society and education, how to actualize multicultural coexistence is discussed and implicated.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

上西 充子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の完成に向けて、自らの問題意識に即した研究課題の設定、論文の構成、先行研究の調査、データの収集と分析、インプリケーションの捉え方等、段階的に指導を行います。卒業論文で自らの問いを納得のいく形で追及できるようにすることが目的です。

【到達目標】

自らが明らかにすべき問いを立てることができる。
研究課題を絞り込み、先行研究への適切な言及と適切な研究方法によって、その研究課題を明らかにすることができる。
読み手に説得的な論述を行った卒論を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

下記の授業計画に従って、演習内で指導を行います。秋学期には適宜個別指導を並行して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（1）	卒論の意義について説明する
2	ガイダンス（2）	卒論執筆スケジュールと心構えについて説明する
3	卒論構想の発表（1）	各自の問題意識を発表し、議論する
4	卒論構想の発表（2）	各自の問題意識を深める
5	研究方法の概説（1）	研究方法について説明する
6	研究方法の概説（2）	量的調査法に基づく文献を検討する
7	研究方法の概説（3）	質的調査法に基づく文献を検討する
8	研究課題の設定（1）	各自の問題意識を深め研究課題を絞り込む
9	研究課題の設定（2）	研究課題を文章化する
10	先行研究の調査（1）	先行研究の探し方を学ぶ
11	先行研究の調査（2）	収集した先行研究を検討する
12	先行研究の調査（3）	先行研究から得られる知見を理解し、分析の視点から学ぶとともに、残された課題を認識する
13	研究計画の策定（1）	研究課題に即した研究計画を策定する
14	研究計画の策定（2）	調査方法を具体的に検討し、調査・執筆スケジュールを検討する
15	調査・分析結果の発表（1）	調査結果を整理して発表する
16	調査・分析結果の発表（2）	調査結果の分析方法を改めて検討する
17	調査・分析結果の発表（3）	調査結果の分析を発表する
18	調査・分析結果の発表（4）	調査結果から得られた知見を検討する
19	調査・分析結果の発表（5）	調査結果から得られた知見を文章化する
20	章立ての検討	論文全体の構成案を検討する
21	執筆内容の検討（1）	課題設定の執筆内容を検討する
22	執筆内容の検討（2）	先行研究の検討の執筆内容を検討する
23	執筆内容の検討（3）	調査結果の執筆内容を検討する
24	執筆内容の検討（4）	まとめの執筆内容を検討する
25	執筆内容の検討（5）	文献リストの執筆内容を検討する
26	論文の発表とリファイン（1）	論文を発表し、寄せられたコメントを検討する
27	論文の発表とリファイン（2）	コメントを踏まえて論文を修正する
28	卒論発表	提出した卒論の要旨を発表し、その内容と意義について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献を読み込む。
データの収集と分析を行なう。
卒論の完成に向けて、執筆を進める。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成術 第2版』慶應義塾大学出版会
・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

【参考書】

授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

先行研究の論旨の的確な把握、引用や記述のルールの順守、文章の明確さ、論理構成の的確さ、課題設定の独創性、知見の独創性などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究課題の絞り込みが難しいと感じる学生が多いように見受けられます。先行研究の収集・分析と並行しての研究課題の絞り込みを早期からサポートしていきます。

【Outline and objectives】

To the participants, step-by-step instruction will be provided to write their senior theses.

The objective of this course is to acquire skills to investigate their own theme.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

梅木 眞

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の執筆のための研究指導を行う。研究テーマの設定、論文の構成、先行研究のレビューおよび分析手法などについて体系的に指導していく。

【到達目標】

学術的に一定の水準を満たした論文を完成させることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義及び発表、論文の輪読を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学術論文の意義について学んでいく。
第 2 回	研究テーマの発表（1）	論文の構想、テーマを報告しピアレビューを行う。
第 3 回	研究テーマの発表（2）	論文の構想、テーマを報告しピアレビューを行う。
第 4 回	研究テーマの発表（3）	論文の構想、テーマを報告しピアレビューを行う。
第 5 回	研究テーマの発表（4）	論文の構想、テーマを報告しピアレビューを行う。
第 6 回	研究計画の設定	研究計画の立て方について学ぶ。
第 7 回	論文の形式の確認	論文の書式・形式などについて指示を行う
第 8 回	調査方法講義	定性的/定量的調査手法について学ぶ。
第 9 回	先行研究の調査（1）	先行研究の探し方について学ぶ
第 10 回	先行研究の調査（2）	先行研究の探し方/体系化の方法について学ぶ
第 11 回	論文構成の完成	論文の構成・目次について完成・報告する
第 12 回	研究計画の策定（1）	これまでに学んだことをもとにして具体的な研究計画を策定する。
第 13 回	研究計画の策定（2）	研究計画をもとにして論文
第 14 回	春学期の振り返り/長期休暇における研究計画	これまでの研究を振り返るとともに、長期休暇前における研究計画の確認を行う。
第 15 回	春学期のレビュー	春学期までに研究を行ってきたことを振り返り確認する。
第 16 回	中間報告（1）	卒業論文の中間報告および質疑応答を行う。
第 17 回	中間報告（2）	卒業論文の中間報告および質疑応答を行う。
第 18 回	中間報告（3）	卒業論文の中間報告および質疑応答を行う。
第 19 回	中間報告（4）	卒業論文の中間報告および質疑応答を行う。
第 20 回	執筆内容に関するピアディスカッション	各自の執筆内容に関する問題点、課題の克服などについてメンバーで話し合う。
第 21 回	論文構成の再確認	論文の構成を確認し、修正を行う。
第 22 回	論文内容の確認	論文の内容面における問題点を確認し、修正を行う。
第 23 回	論文の執筆（1）	論文の各部分について執筆を進める。
第 24 回	論文の執筆（2）	論文の全体像を確認し、完成させる。
第 25 回	論文の執筆（3）	論文の推敲を行う。
第 26 回	卒論の発表（1）	卒論要旨をもとに発表および質疑応答を行う。
第 27 回	卒論の発表（2）	卒論要旨をもとに発表および質疑応答を行う。
第 28 回	卒論の発表（3）	卒論要旨をもとに発表および質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに即した本・論文などに関しては自ら進んで読み進めておくこと。時間のかかる調査などに関しては長期休暇（特に夏休み）などを利用して能動的に取り組むこと。

授業は授業時間以外に行われる研究活動のアウトプットの場と考えること。

論文作成においては第三者の目がきわめて重要です。ピアディスカッションなどの機会を用いてさまざまな気づきを得るよう心がけてください。

【テキスト（教科書）】
特に用いない。各自のテーマに沿ったものを適宜指示する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み、論文の内容を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度限りの授業となるためありません。

【Outline and objectives】
In this lecture we conduct research guidance for writing graduation thesis. We will systematically learn the setting of the research theme, composition of the paper, review of previous research and analysis method, and so on.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

梅崎 修

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年生を対象に、キャリアデザイン学に関する卒業論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】
学術論文のための論文作成方法を学ぶ。具体的には、調査から意味解釈や因果関係の推測、さらには検証ができる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は論文の書き方を指導し、秋学期は論文に具体的コメントを行う。個別指導が中心であるが、春学期に 1 回、秋学期 1 回、発表会を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期のスケジュール確認	卒論執筆の年間スケジュールを確認する。
2	卒論テーマ報告（1）	1 人 30 分 ×3 名で卒論テーマを発表し、議論する。
3	卒論テーマ報告（2）	1 人 30 分 ×3 名で卒論テーマを発表し、議論する。
4	卒論テーマ報告（3）	1 人 30 分 ×3 名で卒論テーマを発表し、議論する。
5	卒論テーマ報告（4）	1 人 30 分 ×2 名で卒論テーマを発表し、議論する。
6	調査方法講義（ヒアリング調査）	卒業論文で使える方法論について講義する。
7	調査方法講義（観察法）	卒業論文で使える方法論について講義する。
8	調査計画発表（5）	1 人 30 分 ×3 名で調査計画を発表し、議論する。
9	調査計画発表（6）	1 人 30 分 ×3 名で調査計画を発表し、議論する。
10	調査計画発表（7）	1 人 30 分 ×3 名で調査計画を発表し、議論する。
11	調査計画発表（8）	1 人 30 分 ×2 名で調査計画を発表し、議論する。
12	論文構成	論文構成の書き方を講義。
13	図書館と情報検索のやり方	情報検索の方法を講義。
14	先行研究のまとめ方	先行研究を整理する方法を講義。
15	相談	調査計画の個別相談を受ける。
16	調査結果の報告（9）	1 人 30 分 ×3 名で調査結果を発表し、議論する。
17	調査結果の報告（10）	1 人 30 分 ×3 名で調査結果を発表し、議論する。
18	調査結果の報告（11）	1 人 30 分 ×3 名で調査結果を発表し、議論する。
19	調査結果の報告（12）	1 人 30 分 ×2 名で調査結果を発表し、議論する。
20	調査結果の分析・解釈（1）	1 人 30 分 ×3 名で分析・解釈を発表し、議論する。
21	調査結果の分析・解釈（2）	1 人 30 分 ×3 名で分析・解釈を発表し、議論する。
22	調査結果の分析・解釈（3）	1 人 30 分 ×3 名で分析・解釈を発表し、議論する。
23	調査結果の分析・解釈（4）	1 人 30 分 ×2 名で分析・解釈を発表し、議論する。
24	発表方法	プレゼンテーションの方法を講義する。
25	議論の方法	質問、批判の方法を学ぶ。
26	卒論発表会（1）	1 人約 30 分 ×3 名で卒論発表。
27	卒論発表会（2）	1 人約 30 分 ×3 名で卒論発表。
28	卒論発表会（3）	1 人約 30 分 ×3 名で卒論発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に調査、執筆を行うことになる。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

作品の完成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

論文作成だけでなく、論文の発表方法も教授し、簡潔でわかりやすい発表ができるようにする。

【Outline and objectives】

I will provide support to fourth graders for writing their graduation thesis and producing academically valuable papers.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

菊池 一夫

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はマーケティング戦略の理解とその応用を行うにあたり、企業の問題点を見出し、その解決方法を考案することに主眼を置く。

【到達目標】

マーケティング理論をベースにして、以下のことが出来るようにする。

- ・企業が抱えるマーケティング問題を把握できる。
- ・企業が抱えるマーケティング問題の解決方法を考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

報告者は毎回、要約を発表し、他の参加者は質疑応答を行うことでマーケティングへの理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	卒業研究の在り方とテーマ設定について①	卒業研究の概略とテーマ設定を行う。
第 2 回	卒業研究の在り方とテーマ設定について②	卒業研究の概略とテーマ設定を行う。
第 3 回	卒業研究の在り方と問題設定①	卒業研究におけるテーマ設定と問題設定について理解する。
第 4 回	卒業研究の在り方と問題設定②	卒業研究におけるテーマ設定と問題設定について理解する。
第 5 回	資料の選定①	卒業研究にかかわる資料を選定する。
第 6 回	資料の選定②	卒業研究にかかわる資料を選定する。
第 7 回	先行研究のレビューとその検討①	先行研究のレビューを通じて批判的に検討していく。
第 8 回	先行研究のレビューとその検討②	先行研究のレビューを通じて批判的に検討していく。
第 9 回	現状の把握と仮説の設定①	現状の把握から仮説を設定する。
第 10 回	現状の把握と仮説の設定②	現状の把握から仮説を設定する。
第 11 回	問題を探究するための研究アプローチ（定性的方法）①	定性的方法について理解し実施する。
第 12 回	問題を探究するための研究アプローチ（定性的方法）②	定性的方法について理解し実施する。
第 13 回	問題を探究するための研究アプローチ（定量的方法）①	定量的方法について理解し実施する。
第 14 回	問題を探究するための研究アプローチ（定量的方法）②	定量的方法について理解し実施する。
第 15 回	仮説の検証①	仮説の検証プロセスについて理解する。
第 16 回	仮説の検証②	仮説の検証プロセスについて理解する。
第 17 回	仮説の検証③	仮説の検証プロセスについて理解する。
第 18 回	仮説の検証と結果の議論①	研究した結果について議論を行う。
第 19 回	仮説の検証と結果の議論②	研究した結果について議論を行う。
第 20 回	インプリケーションの導出について①	研究上、実務上のインプリケーションを導出する。
第 21 回	インプリケーションの導出について②	研究上、実務上のインプリケーションを導出する。
第 22 回	結論について①	これまでの研究の結論を導出する。
第 23 回	結論について②	これまでの研究の結論を導出する。
第 24 回	発表に向けての準備①	卒業研究を報告するにあたっての準備を行う。
第 25 回	発表に向けての準備②	卒業研究を報告するにあたっての準備を行う。
第 26 回	発表に向けての準備③	卒業研究を報告するにあたっての準備を行う。
第 27 回	発表に向けての最終準備	卒業研究を報告するにあたっての最終準備を行う。
第 28 回	発表	卒業研究を公の場で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業研究にあたり、教科書を事前に読んでおくことが予習である。企業の事例について調べておくことが復習になる。宿題は事例調査やアンケート調査を行うことになる。

【テキスト（教科書）】

田村正紀「リサーチ・デザイン」白桃書房。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

マーケティングの視点から以下のことを理解できる（40 %）。平常点（60 %）
・企業が抱える問題点を把握できる。
・企業が抱える問題点の解決方法を考案できる。

【学生の意見等からの気づき】

卒業研究にあたって論理的思考力の強化。

【Outline and objectives】

In this seminar, students will be able to understand the principle of marketing strategy and its application, identify the problem of a company and make some solutions.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

木村 琢磨

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「企業経営と人材活用」に関わる研究テーマを学生自身で設定し、先行研究に基づいてリサーチ・クエスチョンまたは仮説を立て、それを検証し、論文にまとめる。

自ら問題を発見し、その問題に適用できるフレームワークを用いてリサーチ・クエスチョンまたは仮説の検証を行い、問題の因果関係の背後にある原因・理由を解明する能力を習得することを目指す。

【到達目標】

卒業論文の完成を到達目標とし、リサーチ・クエスチョンの設定方法、研究計画の作成方法、先行研究の調査と批判的レビューの方法、仮説の設定方法、仮説検証の方法、調査方法、論文の構成の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者各自が1本の論文を完成させるため、各自の中間報告を受け、進捗状況も踏まえて論文作成の方法についてステップごとに指導する。中間報告のスケジューリングは、受講生を複数のグループに分けて設定し、報告担当以外のグループはコメンテーターとして参加する。各回のテーマ・内容は、下記の通り事前に設定しているが、論文作成はスケジュール通りに進むものではないので、各回のテーマ・内容は各自の進捗状況に応じて変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	参考論文の輪読 (1)	仮説検証型の論文を読み、仮説検証型研究の方法を理解する
第 2 回	参考論文の輪読 (2)	仮説探索型の論文を読み、仮説探索型研究の方法を理解する
第 3 回	研究計画の作成方法	研究を計画的に進めるための計画の立て方を理解する
第 4 回	リサーチ・クエスチョンの設定方法	論文のテーマ設定、テーマの改訂を行うための考え方を理解する
第 5 回	先行研究の調査方法	先行研究となる論文・調査の参照の方法、まとめ方・分析方法について理解する
第 6 回	仮説設定の方法	仮説検証型研究における仮説の設定方法を理解する
第 7 回	質的調査法 (1)	インタビュー調査の実施方法の説明
第 8 回	質的調査法 (2)	参与観察・観察調査の実施方法の説明
第 9 回	量的調査法 (1)	アンケート調査の実施方法の説明
第 10 回	量的調査法 (2)	公開データの分析方法の説明
第 11 回	先行研究の調査結果発表 (1)	第 1 グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第 12 回	先行研究の調査結果発表 (2)	第 2 グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第 13 回	先行研究の調査結果発表 (3)	第 3 グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第 14 回	調査計画の決定 (1)	第 1 グループ、第 2 グループ。9 月までに行う調査の計画を発表し、計画を確定
第 15 回	調査計画の決定 (2)	第 2 グループ、第 3 グループ。9 月までに行う調査の計画を発表し、計画を確定
第 16 回	第 1 次調査結果の発表 (1)	第 1 グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第 17 回	第 1 次調査結果の発表 (2)	第 2 グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第 18 回	第 1 次調査結果の発表 (3)	第 3 グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第 19 回	論文の全体構成の検討 (1)	第 1 グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する
第 20 回	論文の全体構成の検討 (2)	第 2 グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する
第 21 回	論文の全体構成の検討 (3)	第 3 グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する

第 22 回	第 2 次調査結果報告 (1)	第 1 グループ、第 2 グループ。後期に実施した追加調査の結果報告
第 23 回	第 2 次調査結果報告 (2)	第 2 グループ、第 3 グループ。後期に実施した追加調査の結果報告
第 24 回	論文の草稿作成 (1)	第 1 グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第 25 回	論文の草稿作成 (2)	第 2 グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第 26 回	論文の草稿作成 (3)	第 3 グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第 27 回	最終プレゼンテーション (1)	第 1 グループ。完成原稿とレジュメに基づく発表とディスカッションを行い、論文の内容を確定させる
第 28 回	最終プレゼンテーション (2)	第 2 グループ。完成原稿とレジュメに基づく発表とディスカッションを行い、論文の内容を確定させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で発表するための調査・分析・執筆。授業ではそれらの作業ではなく、発表と議論に時間が使えるように準備すること。

【テキスト（教科書）】

受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

【参考書】

渡辺知明（2015）『文章添削の教科書』芸術新聞社

井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成法（第 2 版）』慶應義塾大学出版会

そのほか、受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

提出された卒業論文の水準（テーマの重要性、論理性、調査方法・分析の妥当性、オリジナリティ）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文章校正・推敲および書式・形式に関する指導は原則として行わない（参考図書を読んで各自行うこと）。論文指導は研究内容に関することに集中して行う。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：火曜 3 限（研究室）

【Outline and objectives】

This course is designed to complete the undergraduate thesis project. It provides the student with theoretical and practical knowledge of organizational behavior and human resource management. The contents of the course are dependent on the thematic areas in which each student is working on their thesis.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

杉浦 治

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《大学生生活の集大成として、人生のモニュメントを残す》

《レポート、調査報告書、企画書、（学術）論文の違いについて理解する》

《デシプリンとは何かについて理解し、学問一般についての理解を深める》

【到達目標】

○学術論文とは何かを学び、卒業論文を書き上げる。

..

○社会に疑問をもつ。問題点を見つけ出す。その解決方法を自分で考える。そのような姿勢を身につける（リサーチクエスションの設定）。

○関心をもった分野に関連する図書や論文（参考文献）を幅広く探し、その中で論文の対象とできるものを特定化する。

○人の考えや自分の問題意識を言葉で表現し議論する能力をつける。

○調査研究や分析の方法（実証性について）を学ぶ。

○文章を論理的に組み立てる。学術論文や調査報告書の作成の手法（型）を学ぶ（ただし、社会科学にはすべてを貫く型があるわけではない）。

○文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

原則個別指導であるが、プレゼン学生による質疑コメント、教員のコメントを行いながら、内容を深めていく。グループワークでリサーチクエスションの内容を高めあうことも検討している。ゼミで発表する機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスⅠ	卒論の意味・意義について
2	ガイダンスⅡ	卒論の意味・意義について
3	調査研究方法の概説、模範論文の読了Ⅰ	調査方法、分析の視点、具体例に触れる。
4	調査研究方法の概説、模範論文の読了Ⅱ	調査方法、分析の視点、具体例に触れる。
5	調査研究方法の概説、模範論文の読了Ⅲ	調査方法、分析の視点、具体例に触れる。
6	テーマの検討（リサーチクエスションの提示）Ⅰ	調査研究分野や対象について議論
7	テーマの検討（リサーチクエスションの提示）Ⅱ	調査研究分野や対象について議論
8	テーマの検討（リサーチクエスションの提示）Ⅲ	調査研究分野や対象について議論
9	テーマの検討（リサーチクエスションの提示）Ⅳ	調査研究分野や対象について議論
10	文献や資料などの収集・検討Ⅰ	研究カードやノートの作成、資料のリストイング
11	文献や資料などの収集・検討Ⅱ	研究カードやノートの作成、資料のリストイング
12	文献や資料などの収集・検討Ⅲ	研究カードやノートの作成、資料のリストイング
13	ラフスケッチの提示Ⅰ	発表会 今後の調査研究方法の検討
14	ラフスケッチの提示Ⅱ	発表会 今後の調査研究方法の検討
15	調査研究計画の提示Ⅰ	12 月卒論（10 月懸賞論文）提出に向けたスケジュール
16	調査研究活動の中間報告Ⅰ	進捗報告書提出と論点整理・分析
17	調査研究活動の中間報告Ⅱ	進捗報告書提出と論点整理・分析
18	調査研究活動の中間報告Ⅲ	進捗報告書提出と論点整理・分析
19	論文執筆Ⅰ	一次原稿提出
20	論文執筆Ⅱ	一次原稿提出
21	論文執筆Ⅲ	一次原稿提出
22	論文執筆Ⅳ	二次稿提出
23	論文執筆Ⅴ	二次稿提出
24	論文執筆Ⅵ	二次稿提出
25	論文執筆Ⅶ	二次稿提出
26	リファイン作業Ⅰ	発表と修正
27	リファイン作業Ⅱ	発表と修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ活動に積極的に取り組む。テーマ選定にあたっては「とことん研究」を通じて絞り込む。そのためにブレインストーミングを行うことも検討している。また、自ら行動して情報に触れることも大切である。内外の様々な人との出会いや会話・議論から思わぬヒントをもらえる。最終的には、検証のためにインタビューやアンケートなどを行うことになる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示をする。

【参考書】

佐藤望他『アカデミック・スキルズ』慶応義塾大学出版会、鷲田 小彌太『入門・論文の書き方』PHP 新書、小笠原 喜康『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、江川 純『レポート・小論文の書き方』日経文庫、妹尾 堅一郎『研究計画書の考え方』ダイヤモンド、ダン・レメニイ他『社会科学系大学院生のための研究の進め方』同文館出版、米盛裕二『アブダクション-仮説と発見の論理-』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組みや論文の内容を総合的に勘案

【学生の意見等からの気づき】

定期的に全員を集め特別講義を実施する。またグループワークなども検討する。

【Outline and objectives】

Understand the differences between reports, survey reports, proposals, (academic) papers.

Understand what disciplines are and deepen their understanding of academics in general.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

酒井 理

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、自分たちが手がけたマーケティングに関わるプロジェクトを論文にします。

現状を把握するための分析、実際の問題を解決するための実践のプロセスを通して、仮説設定と検証実験による学術的なアプローチを学びます。

【到達目標】

卒業論文の完成が最終目標です。アンケート調査、インタビュー調査などで集めたデータを使用した実証的な研究方法によって論文を完成させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

必ず実証データを使用して研究を進めてもらいます。アンケートでデータを集めても結構ですし、消費者へのインタビューや街頭観察でデータを収集することでも結構です。さらに企業訪問してインタビューを行うのも推奨します。とにかく、実際に現場に向向いて自分でデータを集めて現象について考察することを求めます。自分の足で現場に向向いてデータを直接集めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文研究の進め方について説明します。
2	テーマ・仮説の設定 1	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
3	テーマ・仮説の設定 2	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
4	テーマ・仮説の設定 3	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
5	文献サーベイ 1	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
6	文献サーベイ 2	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
7	文献サーベイ 3	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
8	リサーチデザイン 1	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
9	リサーチデザイン 2	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
10	リサーチデザイン 3	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
11	リサーチ結果報告 1	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
12	リサーチ結果報告 2	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
13	リサーチ方法の改善 1	本格的なりサーチの実施に向けて、テストリサーチの反省を踏まえた改善を考えて報告します。
14	リサーチ方法の改善 2	本格的なりサーチの実施に向けて、テストリサーチの反省を踏まえた改善を考えて報告します。
15	オリエンテーション	秋学期の進め方について意見交換を行います。
16	論文執筆作法	論文の執筆ルールについて説明します。
17	論文執筆作法	論文の執筆ルールについて説明します。
18	個別指導 1	各自執筆と個別指導を行います。
19	個別指導 2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
20	個別指導 3	各自執筆と個別指導を行います。
21	中間発表 1	論文執筆の途中経過の報告を行います。
22	中間発表 2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
23	個別指導 1	論文執筆の途中経過の報告を行います。
24	個別指導 2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
25	個別指導 3	論文執筆の途中経過の報告を行います。
26	研究成果の発表 1	最終的に完成した論文の内容を発表します。

27	研究成果の発表2	最終的に完成した論文の内容を発表します。
28	研究成果の発表3	最終的に完成した論文の内容を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会の出来事はすべて現場で起きています。フィールド（現場）に出向いて研究を進めることを強く推奨します。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

各自の研究成果である卒業論文の評価が100%です。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施

【その他の重要事項】

学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline and objectives】

In this lesson, we will make a paper of marketing projects which we have conducted.

We will learn academic approaches based on hypothesis setting and verification experiments through analysis to understand the current situation and practice process to solve problems in a "real" world.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

坂爪 洋美

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の学習の集大成として、自らの興味関心に基づき研究テーマを設定し、テーマに基づく調査の実施、調査結果の検討を通じて、卒業論文を完成させる。

【到達目標】

卒業論文作成上の到達目標は以下の通りである

- （1）興味関心を研究テーマとして構築できるようになる
- （2）研究テーマに関連する先行研究をレビューしまとめられるようになる
- （3）調査を設計し実施できるようになる
- （4）調査結果の分析ができるようになる
- （5）分析結果をふまえ論文を執筆できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

前期については論文執筆に進め方ならびに調査の実施に関するレクチャーが中心になる。後期は調査実施状況に応じた個別指導が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマについての検討（1）	各自の興味に基づき研究テーマを抽出する
第2回	研究テーマについての検討（2）	各自の興味に基づき研究テーマを精査する
第3回	論文の書き方について理解する（1）	卒業論文の構成と書き方について講義と実習を行う
第4回	論文の書き方について理解する（2）	論文を読みつつ、論文の基本的な書き方について学習する
第5回	先行研究のレビューを理解する（1）	各自のテーマに関連する先行研究を持ちより発表する
第6回	先行研究のレビューを理解する（2）	各自のテーマに関連する先行研究を持ちより発表する
第7回	先行研究のレビューを理解する（3）	先行研究のまとめ方をレクチャーし、集めた資料をまとめる
第8回	調査計画を立案する（1）	研究テーマを仮説として構築する
第9回	調査計画を立案する（2）	研究テーマを仮説として構築する
第10回	調査計画を立案する（3）	仮説のブラッシュアップを図る
第11回	調査票の作成（1）	仮説検証に必要な調査票を作成する（1）
第12回	調査票の作成（2）	仮説検証に必要な調査票を作成する（2）
第13回	中間報告（1）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第14回	中間報告（2）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第15回	中間報告（3）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第16回	夏休みの報告	夏休み中の進捗について報告する
第17回	分析方法を学ぶ（1）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第18回	分析方法を学ぶ（2）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第19回	分析方法を学ぶ（3）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第20回	結果をまとめる（1）	分析結果を論文としてまとめる方法について講義を行った上で、各自結果をまとめる
第21回	結果をまとめる（2）	結果を論文としてまとめる
第22回	考察の進め方を学ぶ（1）	考察の進め方をレクチャーした上で、各自考察の進め方を検討する
第23回	考察の進め方を学ぶ（2）	各自考察をまとめる
第24回	論文の書き方（1）	論文の書き方についてのレクチャーを行い、各自これまでの成果を論文としてまとめる
第25回	論文の書き方（2）	論文として書き上げたものについて検討する

- 第 26 回 論文の書き方（3） 論文として書き上げたものについて検討する
- 第 27 回 論文発表（1） 論文を発表しコメントをもらう
- 第 28 回 論文発表（2） 論文を発表しコメントをもらう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の作成は各自が主体的に行うものである。授業は進捗の確認と進捗のサポートが中心であることから、何よりも主体的・積極的な準備が求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

各自のテーマに合わせて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の完成度に基づいて評価する。

具体的には、①問題設定の明確さ、②先行研究の充実度、③調査結果の適切な分析、④仮説に基づいた考察、⑤文章の明確さ、について評価する。

【学生の意見等からの気づき】

調査の実施時期を前倒しにし、余裕を持ったスケジュールとする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis.

This course provide the student with knowledge of how to seek facts and how to plan, carry out and present work as well as theoretical and practical specialization within a industrial/organizational psychological subject area.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

佐藤 厚

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒論作成を演習及び学部での学びの総決算として位置づけて指導します。参加者各自の研究テーマを設定し、関連文献の収集とレビュー、実証的データの収集と分析に基づき、論理一貫性のある論旨を展開しながら、説得力ある結論を導く文章の作成および作成能力の獲得を目標とします。

【到達目標】

各自の問題意識とテーマにそって個別に執筆指導を行います。

春学期は、問題意識とテーマの明確化と鍵文献の収集とレビューに主眼を置きます。

各自の卒論テーマに関連した文献レビューを幅広く行い、内容を理解してもらおう。

また先行研究の知見と自分の考えを区別して論述する力を養成する。

以上の学習を通じて、①テーマ設定力、②テーマに基づく情報収集力、③収集した情報を分析する方法、④分析結果を論理的な文章にまとめる思考力と編集力、を形成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の問題意識とテーマにそって個別に執筆指導を行います。

春学期は、問題意識とテーマの明確化と鍵文献の収集とレビューに主眼を置きます。

合宿をはさんで、秋学期は、文章全体の章別構成の明確化と説得力ある文章の作成、および論文の完成を目標とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒論執筆の意義、執筆のプロセスなど
第 2 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（1）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 3 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（2）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 4 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（3）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 5 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（4）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 6 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（5）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 7 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（6）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 8 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（7）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 9 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（8）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 10 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（9）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 11 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（10）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 12 回	卒論骨子の発表とコメント（1）	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう
第 13 回	卒論骨子の発表とコメント（2）	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう
第 14 回	卒論骨子の発表とコメント（3）	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう
第 15 回	テーマ設定、章別構成、構造化された文章の書き方について	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる際の留意事項を理解する

第 16 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（1）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 17 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（2）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 18 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（3）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 19 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（4）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 20 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（5）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 21 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（6）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 22 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（7）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 23 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（8）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 24 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（9）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 25 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（10）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 26 回	執筆と推敲（1）	文章化の完成を目指しての可能な限りの推敲（1）
第 27 回	執筆と推敲（2）	文章化の完成を目指しての可能な限りの推敲（2）
第 28 回	口頭試問	論旨を口頭で説明し、コメントについてリプライする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

系統的な文献の収集と読み込みが必要です。執筆にむけた一定の執筆時間の確保が必要です。

【テキスト（教科書）】

適宜、授業時に指示します。

【参考書】

各自の関心に応じて適宜、文献を指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のゼミでの報告への取り組みと論文の到達水準、完成度で評価します。口頭試問での論旨の口頭説明及びコメントへのリプライの的確さを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

中間段階での到達点を明確化し、課題を意識してもらう。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline and objectives】

In this class,students study each topics through writing paper for graduation.

Main purpose of this class is to comlete paper for graduation,collecting useful information for each topics, then analysing the information based on some research method,and writing structured sentences.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

武石 恵美子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する卒業論文執筆のための研究指導を行う。キャリアデザイン学の視点から自分の問題意識を掘り下げ、4 年間の学びの集大成とする。

【到達目標】

卒業論文執筆により、自らの問題意識をもとに課題を設定し、その課題解決のために実証的な方法によって論証を行い、課題に対する結論を導く能力の開発を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は、春学期は論文の書き方等の指導を講義形式で行い、秋学期は個別指導を中心に進め論文の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	論文テーマの発表	論文の構想、テーマを報告し、研究にあたっての問題意識を明確にする。
2	論文の書き方の基礎	卒業研究とは、論文の書き方の基礎。
3	論文の書き方の事例	具体的な論文を読みながらポイントを解説する。
4	研究方法の解説	理論研究、実証研究および文献サーベイ等、研究方法について説明する。
5	研究の背景の明確化	各自の研究テーマに関する現状や課題等の背景を明確にする。
6	研究の意義の明確化	各自の研究テーマについて、背景を踏まえた研究の意義を明確にする。
7	研究計画の策定	研究計画について説明する。
8	研究内容の決定	研究計画を策定して、具体的な内容を詰める。
9	先行研究のサーベイ	テーマに関連する先行研究を広く調査する方法を解説する。
10	先行研究の検討	先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
11	実証のやり方	実証のための方法について解説する。
12	実証方法の検討、具体化	実証のための方法を検討し、実証のための方法をより具体的に決定する（調査対象、内容等の決定）。
13	データ等の収集	データを収集する。
14	春学期のまとめと総括	各自の論文の経過報告を行い、総括する。
15	中間報告会	中間報告を行う。
16	中間報告会の講評	中間報告の講評を行う。
17	現状把握のデータ整理	現状についてのデータ収集とその整理を行う。
18	現状分析	現状についてのデータ収集とその分析を行う。
19	データの解釈	データの解釈を行う。
20	仮説の検証、論証	現状分析を踏まえた仮説検証の方法を知る。自分の研究に照らして仮説の検証、論証を行う。
21	論文執筆	論文の目的、先行研究、仮説、研究デザイン、検証結果、発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
22	論文執筆とフィードバック	執筆部分についてのフィードバックを行う。
23	論文の修正	執筆部分についてのフィードバックを踏まえた修正を行う。
24	論文発表	論文を発表して意見を聴く
25	論文発表からの検討	発表に対する意見を踏まえて内容を検討する。
26	論文の修正	論文の修正を行う。
27	論文完成	論文提出に向け、論文を完成させる。
28	卒業論文発表会	2,3,4 年生合同ゼミにおいて、卒業論文の発表および質疑を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文執筆のための文献研究や調査等を行う。卒業論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが何より重要であり、当然であるが、授業に出席するだけでは論文は執筆できない。

【テキスト（教科書）】

個人のテーマに応じて適宜指定する。

【参考書】

個人のテーマに応じて適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

論文の内容を総合的に評価する。
卒業論文については、問題意識の設定、先行研究サーベイの的確さ、現状分析を踏まえた結論と考察が論理的に導かれていることを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

進行に関して互いの報告会を行い、情報を共有しつつ、互いの問題意識から触発を受けるようにする。

【Outline and objectives】

In this seminar, students will write the graduation thesis about carrier design studies. They will examine own article theme and complete learning of 4 years.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

中野 貴之

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成に沿って、各ステップごとに指導していく。先行研究の調査、データ分析方法およびインプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

【到達目標】

一定水準以上の論文として、卒業論文を仕上げる事が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義と発表とを組み合わせで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。理論研究、実証研究および文献サーベイ等、研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
第 2 回～	研究方法の概説	
第 4 回		
第 5 回～	テーマの設定	
第 7 回		テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法および分析方法等、実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。調査データの収集、データベース化を行う。
第 8 回～	先行研究の調査	
第 12 回		
第 13 回	研究計画の策定	
～ 第 14 回		検証仮説等について再検討を行う。
第 15 回	調査データの整備	
～ 第 16 回		
第 17 回	検証仮説の検討	
～ 第 18 回		仮説およびデータを用いて分析を行う。
第 19 回	分析の実施	
～ 第 20 回		
第 20 回	論文執筆	
～ 第 23 回		論文の目的、先行研究、仮説、研究デザイン、検証結果、発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
第 24 回	リファインの作業	
～ 第 26 回		
第 27 回	論文完成	
～ 第 28 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文以前に、3 年生からのゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する

【参考書】

開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み、および論文の内容を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていきます。

【Outline and objectives】

In this lesson, I will tell you how to make a academic paper. Specifically, you will learn about the planning and writing of the paper.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

松浦 民恵

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでの大学生活における学びの集大成として、自らの興味関心に基づいて問いを立て、調査の実施、調査結果の分析・検討を通じて、卒業論文を執筆し、完成させる。

【到達目標】

- ①論文の問いが設定できるようになること
- ②調査を企画・設計し、実施できるようになること
- ③調査結果の分析・解釈ができるようになること
- ④分析結果を踏まえて、説得力のある論理的な文章を書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は研究計画書に関する相談、秋学期は調査や執筆に関する相談を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文についてのオリエンテーション
第 2 回	論文執筆に向けた解説	卒業論文の構成、執筆上の留意点についての解説
第 3 回	問いの検討（1）	①先行研究と問いの案との提示 ②論文になり得るかについての検討（第 1 グループ）
第 4 回	問いの検討（2）	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討（第 2 グループ）
第 5 回	問いの検討（3）	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討（第 3 グループ）
第 6 回	問いの確定	問いや仮説の仮決定
第 7 回	研究計画（1）	研究計画の提示と検討（第 1 グループ）
第 8 回	研究計画（2）	研究計画の提示と検討（第 2 グループ）
第 9 回	研究計画（3）	研究計画の提示と検討（第 3 グループ）
第 10 回	3 年生共同研究・4 年生卒論研究計画の共有	研究の進捗状況の共有
第 11 回	研究計画再考	議論を踏まえた練り直し
第 12 回	調査票の作成（1）	問いに答えられる、仮説を検証できる調査票の作成
第 13 回	調査票の作成（2）	調査票の作成の続き
第 14 回	調査の実施	調査をスタートする
第 15 回	オリエンテーション	①夏休み合宿の振り返り ②今後の進め方についての意見交換 ③オリエンテーション
第 16 回	調査の進捗報告	調査の進捗報告（全員）
第 17 回	分析の相談（1）	調査の分析方法に関する相談（第 1 グループ）
第 18 回	分析の相談（2）	調査の分析方法に関する相談（第 2 グループ）
第 19 回	分析の相談（3）	調査の分析方法に関する相談（第 3 グループ）
第 20 回	分析	各自分析を進める
第 21 回	論文骨子作成（1）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成する（第 1 グループ）
第 22 回	論文骨子作成（2）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成する（第 2 グループ）
第 23 回	論文骨子作成（3）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成する（第 3 グループ）
第 24 回	論文の推敲（1）	論文をお互いに推敲する
第 25 回	論文の推敲（2）	論文をお互いに推敲する（続き）
第 26 回	論文発表の準備	発表用資料を作成する
第 27 回	論文発表（1）	論文の発表と質疑（第 1 グループ）
第 28 回	論文発表（2）	論文の発表と質疑（第 2 グループ）
	< 2・3 年生との合同 >	
第 28 回	論文発表（2）	論文の発表と質疑（第 2 グループ）
	< 2・3 年生との合同 >	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の執筆、執筆に伴う先行研究サーベイや調査の実施の大部分は、授業時間外に、各自主体的に実施いただくことになります（授業は進捗確認と必要に応じたアドバイス中心）。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

- 卒業論文の内容を、以下の観点から評価します。
- ①問いの立て方（自己の関心が絞られているか、独創性があるか等）
 - ②先行研究レビュー（十分にサーベイがなされているか等）
 - ③調査の企画・設計・実施・分析（適切な手順、方法か等）
 - ④文章の展開（論理的な説得力があるか等）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度担当していないため、ご意見をいただいております。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】

演習（ビジネス）3・4 年生（春 5 限・秋 6 限）とは別に卒論指導を行います。演習（ビジネス）3・4 年生（春・秋）にも出席してください。秋学期の 2 年生との合同ゼミは 5 限スタートになります。演習の時間が内容によって変則になりますので、オリエンテーション時に連絡するスケジュールをよく確認してください。教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【Outline and objectives】

Through this course, students will develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

荒川 裕子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化やアート、地域コミュニティといった観点からキャリアデザインにアプローチし、論文を作成します。問題提起（研究テーマの設定）、先行研究のサーベイ、論文の構成（章立て）、ヒアリングやアンケート、文献などによる調査の実施、論文の執筆方法など、研究に必要な一連のプロセスを段階的に学んでいきます。また、適宜、教室において論文作成の経過報告を発表し、ディスカッションを通じて考察を深めていきます。必要に応じて、個別指導も複数回実施します。

【到達目標】

大学における四年間の学びの集大成として、アカデミックな形式にのっとった論文を執筆します。自分自身の関心領域や問題意識を明確にし、仮説を組み立て、それを論証していくために必要な資料やデータを収集し、説得力のある文章にまとめていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「授業のテーマ」および「到達目標」を参照。
 教室での授業（プレゼンテーションやディスカッション）と個別指導の二本立てで論文の作成を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学術論文とは何か、について説明する。
第 2～4 回	研究方法の概要	理論研究と実証研究、文献のサーベイや検索方法など、研究の進め方について説明するとともに、具体的な研究事例を紹介する。
第 5～7 回	テーマの設定	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく。
第 8～11 回	先行研究の調査	自身の研究テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見をもとに、自らの課題を明確にしていく。
第 12～14 回	研究計画の策定	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査の計画を立てる。
第 15～18 回	調査データの集積	また、この段階で中間報告を行う。説得力のある論を展開していくために必要な調査を実施し、データを集積していく。
第 19～20 回	仮説の検討	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる。
第 21～22 回	論文の組み立て	論の展開にそって明確な章立てを行う。
第 23～25 回	論文の執筆	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜指導を受けながら執筆を行う。
第 26～27 回	リファインの作業	ゼミにおいて論文の内容を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文のリファインを行う。
第 28 回	論文の完成	論文の提出に向けて書式等を整え、最終的な仕上げを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文執筆に向けて、文献の収集やフィールド調査など、各自の研究テーマにそってさまざまな課外活動が必要となります。
 また、ときどきの発表に向けて、スライドやレジュメの作成等の準備作業を行うことも求められます。

【テキスト（教科書）】

適宜プリント資料を配布します。
 また、一年次に履修した基礎ゼミのテキストやノートに適宜活用するのが望ましいです。

【参考書】

授業中に適宜提示します。各自のテーマにそった文献の紹介も適宜行います。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み姿勢：50 %

論文の完成度：50 %

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施

【Outline and objectives】

Students write a paper on the theme concerning culture, art, local community and so on. They learn the whole process necessary for the research for paper, such as setting a theme, surveying previous researches, performing hearing and questionnaire investigations, etc. Also, they have to report the progress of their research in the classroom and discuss with other students. Individual guidance will be carried out several times as necessary.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

金山 喜昭

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「地域コミュニティを探索」です。
 人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設のあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】

卒業論文の作成を目標とする。4 年間の学業の集大成として位置づけ、卒業後のキャリア形成にとってのコア形成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文の準備と中間報告・完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-3	前年研究成果発表①～③	小論文を発表する。
4-5	テーマの設定①～②	小論文のテーマを検討する。発表。
6	テーマの再検討	発表を基にして再度テーマの妥当性について再検討して発表する。
7-13	卒論作成のための準備作業①～⑦	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
14	夏休みの課題を確認する	卒論作成に必要な夏休みの作業を確認する。
15-24	卒論作成のための準備作業①～⑩	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
25	卒論提出	卒論提出前の最終確認。
26	卒論面接	卒論に対する質問やコメントをする。
27 - 28	卒論発表	ゼミ生（3 年生を含む）に卒論を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、卒論に必要とされる調査をする。

【テキスト（教科書）】

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会

【参考書】

随時、資料などを配布する。

【成績評価の方法と基準】

積極的参加状況及び卒業論文を評価の対象にする。

【学生の意見等からの気づき】

参加者からの意見を大切に授業を運営する。

【Outline and objectives】

The theme of this course is “exploring a local community”.
 Way of living cannot be complete without the relationship with the living area. People live with the relationship with the living area through their lives, jobs, NPO activities, governments, cultural activities and welfare activities. The subject of this course is “way of living in a local community” such as volunteer activities and events in the living area, forming a community at a cultural facility such as a museum and revitalizing the living area.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

齋藤 嘉孝

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の完成を最終目標とする。そのために必要な学問的知識や技術、視点などを学ぶ。各自がそれぞれのテーマで取り組むことになるが、共通するテーマとして「家族」に関するものを選ぶこととする。

【到達目標】

卒業論文の執筆を目標とする。論文を書き上げるのであって、レポートやエッセイではないことに注意したい。学術的な論理やエビデンス、文章法などが必要となるが、それらの習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文を作成するため、各段階ごとに指導する。先行研究の読み込み方や引用のしかた、データの収集や分析方法、および社会や政策への提言の書き方等について、具体的に取りあげる。履修者は各自で学習していき、その進展に応じて指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文の概要や意義等について
2-4	研究方法	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法について学ぶ
5-7	テーマ設定	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかを考える
8-12	先行研究の探索	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する
13-14	研究・調査計画の策定	具体的な研究・調査のテーマを設定し、データ収集方法および分析方法等を計画する
15-18	データ収集	調査データの収集・入力・整理等をおこなう
19-22	データ分析	検証仮説を再検討し、データを分析する
23-24	論文執筆	論文における形式・書式・文章作成等を学び、実際に執筆する
25-26	報告およびディスカッション	論文を口頭発表し、各側面に関する意見やディスカッションを参考にして論文を洗練させる
27-28	論文完成	論文提出に向け、最終的な仕上げ作業や推敲等をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2 年次からのゼミ活動やこれまでの各授業等において、熱心に取り組むことが重要である。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み、および論文の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施

【Outline and objectives】

The aim of this course is to complete an academic paper. Learn necessary academic knowledge, skills and perspectives along with each student's theme. The individual theme must be chosen among the topics concerning families.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

酒井 博基

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化やアート、地域コミュニティといった観点からキャリアデザインにアプローチし、論文を作成します。定期的に論文作成の経過報告を発表し、ディスカッションを通じて考察を深めていきます。必要に応じて、個別指導も複数回実施します。

【到達目標】

大学における四年間の学びの集大成として、アカデミックな形式ののった論文を執筆します。自分自身の関心領域や問題意識を明確にし、仮説を組み立て、それを論証していくために必要な資料やデータを収集し、説得力のある文章にまとめていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「授業のテーマ」および「到達目標」を参照。

教室での授業（プレゼンテーションやディスカッション）と個別指導の二本立てで論文の作成を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	論文とは何か、について説明する。
第 2～4 回	研究方法の概要	理論研究と実証研究、文献のサーベイや検索方法など、研究の進め方について説明するとともに、具体的な研究事例を紹介する。
第 5～7 回	テーマの設定	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく。
第 8～11 回	先行研究の調査	自身の研究テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見をもとに、自らの課題を明確にしていく。
第 12～14 回	研究計画の策定	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査の計画を立てる。
第 15～18 回	調査データの集積	また、この段階で中間報告を行う。説得力のある論を展開していくために必要な調査を実施し、データを集積していく。
第 19～20 回	仮説の検討	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる。
第 21～22 回	論文の組み立て	論の展開にそって明確な章立てを行う。
第 23～25 回	論文の執筆	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜指導を受けながら執筆を行う。
第 26～27 回	リファインの作業	ゼミにおいて論文の内容を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文のリファインを行う。
第 28 回	論文の完成	論文の提出に向けて書式等を整え、最終的な仕上げを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文執筆に向けて、文献の収集やフィールド調査など、各自の研究テーマにそってさまざまな課外活動が必要となります。また、ときどきの発表に向けて、スライドやレジュメの作成等の準備作業を行うことも求められます。

【テキスト（教科書）】

適宜プリント資料を配布します。

【参考書】

授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み姿勢：50 %
 論文の完成度：50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

We approach career design from the perspective of culture, art, and local communities, and make dissertations. We will regularly present the progress report of the paper preparation and deepen the discussion through the discussion. Individual instruction will also be held several times, if necessary.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

佐藤 恵

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミ論をベースとして、卒業ゼミ参加者各自が自分なりの関心あるテーマについて社会学的分析を行い、ゼミでの数回の中間報告とディスカッションを通して、卒業論文を作成していきます。

【到達目標】

夏合宿の段階で、卒業論文の「本論」前半までを執筆し、年末の段階で、「本論」後半までを執筆、それらの作業を通して、提出締切日までに卒業論文を完成させることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。

具体的な内容としては、①ゼミ論のシェア、②卒業論文作成に向けた中間報告・ディスカッション、③テキスト購読、④新聞記事やあらかじめ決めておいたテーマに基づく社会学的ディスカッション・ディベートのトレーニング等です。

進行方法等に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週の卒業ゼミの時間以外に、休日出校（休日出校は春学期・秋学期とも各2日程度〔土休日〕）を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法
2-6	ゼミ論のシェア（1）～（5）	ゼミ論における発見のシェア
7-8	テキスト購読：春学期（1）～（2）	テキスト購読・ディスカッション
9-10	社会学的ディスカッション・ディベート：春学期（1）～（2）	新聞記事やあらかじめ決めておいたテーマに基づく社会学的ディスカッション・ディベートのトレーニング
11-14	卒論中間報告：春学期（1）～（4）	卒業論文構想の中間報告・ディスカッション
15-18	テキスト購読：秋学期（1）～（4）	テキスト購読・ディスカッション
19-23	社会学的ディスカッション・ディベート：秋学期（1）～（5）	新聞記事やあらかじめ決めておいたテーマに基づく社会学的ディスカッション・ディベートのトレーニング
24-27	卒論中間報告：秋学期（1）～（4）	卒業論文構想の中間報告・ディスカッション
28	まとめ・総括	卒業ゼミとしてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の卒業論文執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、可能な範囲で構想を練り、中間報告に備えてください。

【テキスト（教科書）】

開講後にお伝えします。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の達成度（70％）、平常点（30％）。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施

【Outline and objectives】

Based on their respective seminar essays, the participants of the graduation thesis seminar sociologically analyze their own choice of themes and prepare graduation theses through several interim reports and discussions taking place during the course.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

田中 研之輔

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座は、①ライフキャリアに関する理論整理、②方法論の選定と検討、③質的調査の実施と分析、④執筆を通じて、個人研究論文を仕上げていくことを目的としています。

【到達目標】

①ライフキャリアに関する理論レビューができるようになります。

②質的調査に基づいたアカデミックライティングの基礎が身につきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本ゼミの主要テーマは、「人生 100 年時代のライフキャリアを理論的、経験的に分析する」です。現代都市東京は、疑いもなく、文化・経済・政治の集積都市として世界的に注目されています。しかし、東京に身を置かれわれですら、東京の全貌を捉えることは難しいことです。また逆に、東京で生活しているからこそ、東京がみえにくいのだともいえるかもしれません。本ゼミでは、ライフキャリア論の理論的視座、フィールドワークの認識論、インタビュー方法論を学びながら、それぞれの身体資本を最大限に活かす「現場」で参予観察（可能ならば、観察的参予）を実施していくための実践的サポートをしていきます。一筋縄ではいかない「現場」の選択、コミットメント、のプロセスそのものをゼミの中で議論し共有していきましょう。その意味で、本ゼミは、ゼミ生の個人プロジェクトではなく、ゼミ生の集合的な協働プロジェクトとしてフィールドワークを位置づけています。また、大学から社会への移行とその後のライフキャリア戦略を実践的に学ぶ機会でもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1-3	テーマ設定「ライフキャリア、労働・情報・現代社会論・都市社会論」から個人テーマを選定、検討	個人研究論文の関心テーマの絞り込みを行います。
4-10	研究テーマに関する理論整理の検討と報告会	理論整理と報告会を重ねていきます。
11-15	質的調査の方法論についての整理と検討	質的調査の方法論を網羅的におさえ、調査方法論を選定していきます。
16-20	質的調査の進捗動向についての中間報告	各自の質的調査の進捗状況について中間報告会を実施していきます。
21-25	卒業論文の執筆と文章の洗練	論文を執筆しながら、適宜、輪読を行い、文書を洗練していきます。
26-28	卒業論文の報告会	卒業論文の報告とディスカッションを重ねていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英文課題&理論整理論文を毎週、読み続け、議論にそなえる。計画的に質的調査を実施し、論文を執筆していきます。

【テキスト（教科書）】

毎週、電子版英文資料を共有サイトにアップします。

【参考書】

必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】

出席、ディスカッション参加貢献度と期末レポートによる総合評価

【学生の意見等からの気づき】

補足論文の検討と個人研究報告会をさらに充実化させる。

【Outline and objectives】

This course introduces research methods and academic writing as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）**趙 宏偉**

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の課題研究、教員による指示・指導

【到達目標】

字数 2 万字以上、合格の卒業論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業中の指導、授業外の個別指導、メール等を通しての指導

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業説明	質疑応答
第 2 回	卒業論文の課題発見	指導
第 3 回	卒業論文の課題発見	指導
第 4 回	卒業論文の課題発見	指導
第 5 回	卒業論文テーマの確定	指導
第 6 回	卒業論文テーマの確定	指導
第 7 回	卒業論文テーマの確定	指導
第 8 回	卒業論文テーマの課題研究	指導
第 9 回	卒業論文テーマの課題研究	指導
第 10 回	卒業論文テーマの課題研究	指導
第 11 回	卒業論文テーマの課題研究	指導
第 12 回	卒業論文テーマの課題研究	指導
第 13 回	卒業論文テーマの課題研究の成果発表	指導
第 14 回	卒業論文テーマの課題研究の成果発表	指導
第 15 回	総括	講評
第 16 回	卒業論文の原稿作成	指導
第 17 回	卒業論文の原稿作成	指導
第 18 回	卒業論文の原稿作成	指導
第 19 回	卒業論文の原稿作成	指導
第 20 回	卒業論文の原稿作成	指導
第 21 回	卒業論文の原稿の中間発表	講評
第 22 回	卒業論文の原稿の中間発表	講評
第 23 回	卒業論文の完成稿作成	指導
第 24 回	卒業論文の完成稿作成	指導
第 25 回	卒業論文の完成稿作成	指導
第 26 回	卒業論文の完成稿作成	指導
第 27 回	卒業論文の完成稿作成	指導
第 28 回	卒業論文の提出	指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時指導

【テキスト（教科書）】

随時指導

【参考書】

随時指導

【成績評価の方法と基準】

課題発見力、思考と研究力、卒業論文の内容の創造性、文筆力を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人で悩まずに、常に教員と議論しましょう。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【就業力効果】

この科目は東アジアの知識を習得することにより、国際力、及び情報判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【Outline and objectives】

Teach research on issues of graduation thesis. Presentation by students and discussion.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

平野 貴大

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個々のテーマに即した、卒業論文の執筆を行い、卒業論文の完成を目指す。

【到達目標】

・個々のテーマに即した卒業研究を論文としてまとめあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ論執筆の段階では、先行研究のレビューやデータ収集・分析などに個人差があると予想されるため、ゼミ全体での報告（中間発表）やディスカッションでの学びを各自の卒論にする。またゼミおよびサブゼミでの個人の卒論指導を通して、研究報告としての論文の質を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	卒業研究および卒業論文の意義や卒論執筆・提出の流れについて確認する。
第 2 回 - 第 4 回	問題と目的および先行研究の確認	研究テーマに関する問題設定や研究目的を改めて確認し、論文の骨組みを作る。 先行研究に関しては、適切な論文・書籍のレビューが行われているかを確認する。
第 5 回 - 第 7 回	研究方法	個々のテーマに即した、研究方法であるかを確認し、調査実践につなげる。
第 8 回 - 第 12 回	研究結果	調査実践で得られた内容を精査し、その結果についての分析を行う。
第 13 回 - 第 15 回	追加データ収集の検討	前段階の研究結果を踏まえ、必要十分なデータが収集できたかを確認する。必要であれば、追加データなどの収集を検討する。
第 16 回 - 第 18 回	中間報告	ゼミ全体の卒論執筆状況の確認のための中間報告を行う。
第 19 回 - 第 23 回	考察（意見交換）	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を行う。
第 24 回 - 第 26 回	論文完成	問題・目的、先行研究レビュー、研究方法と結果の分析、考察の全体を確認し、卒論完成・提出にむけた作業を行う。
第 27 回 - 第 28 回	成果報告	卒論の最終報告および卒論執筆を通しての成果の報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の執筆については各自のペースで進めてもらう形で結構ですが、個人の卒論指導やゼミ内での意見交換を通しての学びやアドバイスを十分に反映させた卒論にしてください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の完成度（60%）、卒業研究への取り組み（20%）、授業への積極的な貢献度（20%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループでのディスカッションの時間と個人の卒業論文の指導のバランスをとる。

【Outline and objectives】

Write a graduation thesis in line with each theme, aim to complete a graduation thesis.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

安田 節之

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年次に執筆・提出したライフキャリア研究またはプログラム評価研究に関するゼミ論をもとに卒業論文を完成させることを目的とする。

【到達目標】

・ライフキャリアまたはプログラム評価に関する卒業研究を論文としてまとめあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ論執筆の段階では、先行研究のレビューやデータ収集・分析などに個人差があると予想されるため、ゼミ全体での報告（中間発表）やディスカッションでの学びを各自の卒論にする。またゼミおよびサブゼミでの個人の卒論指導を通して、研究報告としての論文の質を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	卒業研究および卒業論文の意義や卒論執筆・提出の流れについて確認する。
第 2 回 - 第 4 回	問題と目的および先行研究の確認	研究テーマに関する問題設定や研究目的を改めて自身のリサーチクエストに反映させる。先行研究に関しては、適切な論文・書籍のレビューが行われているかを確認する。
第 5 回 - 第 7 回	研究方法	量的調査については、質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については、データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う。
第 8 回 - 第 12 回	研究結果	集中的なデータ分析を行い、結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
第 13 回 - 第 15 回	追加データ収集の検討	前段階の研究結果の状況を踏まえ、各自のリサーチクエストに対して必要十分なデータが収集できたかを再確認する。必要であれば、追加データの収集計画を立てる。
第 16 回 - 第 18 回	中間報告	ゼミ全体の卒論執筆状況の確認のための中間報告を行う。
第 19 回 - 第 23 回	考察（ディスカッション）	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を行う。
第 24 回 - 第 26 回	論文完成	問題・目的、先行研究レビュー、研究方法と結果の分析、考察の全体を確認し、卒論完成・提出にむけた作業を行う。
第 27 回 - 第 28 回	成果報告	卒論の最終報告および卒論執筆を通しての成果の報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の執筆については各自のペースで進めてもらう形で結構ですが、個人の卒論指導やゼミ内でのディスカッション（中間報告）を通しての学びやアドバイスを十分に反映させた卒論にしてください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の完成度（60%）、卒業研究への取り組み（20%）、授業への積極的な貢献度（20%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループでのディスカッションの時間と個人の卒業論文の指導のバランスをとる。

【Outline and objectives】

This seminar focuses attention on completing an individual thesis that is based on issues related to life-designing problems and/or program evaluation.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

山口 佳子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミ論をベースとして、卒論ゼミ参加者各自が自分なりの関心あるテーマについて調査や分析を行い、ゼミでの数回の中間報告とディスカッションを通して、卒業論文を作成していきます。

【到達目標】

卒業論文の作成を目標とする。4 年間の学業の集大成として位置づけ、卒業後の各自のキャリア形成にとっての素地づくりを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での授業（プレゼンテーションやディスカッション）と個別指導（メール等での指導含む）の二本立てで論文の作成を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文研究の進め方について説明します。
第 2 回	3 年次ゼミ論の内容発表とテーマ・仮説の検証 (1)	各個人のゼミ論の内容発表と相互討論。各自の卒論テーマと仮説をゼミで共有し、それを基にその妥当性等についてディスカッションを行います。
第 3 回	3 年次ゼミ論の内容発表とテーマ・仮説の検証 (2)	各個人のゼミ論の内容発表と相互討論。各自の卒論テーマと仮説をゼミで共有し、それを基にその妥当性等についてディスカッションを行います。
第 4 回	3 年次ゼミ論の内容発表とテーマ・仮説の検証 (3)	各個人のゼミ論の内容発表と相互討論。各自の卒論テーマと仮説をゼミで共有し、それを基にその妥当性等についてディスカッションを行います。
第 5 回	3 年次ゼミ論の内容発表とテーマ・仮説の検証 (4)	各個人のゼミ論の内容発表と相互討論。各自の卒論テーマと仮説をゼミで共有し、それを基にその妥当性等についてディスカッションを行います。
第 6 回	3 年次ゼミ論の内容発表とテーマ・仮説の検証 (5)	各個人のゼミ論の内容発表と相互討論。各自の卒論テーマと仮説をゼミで共有し、それを基にその妥当性等についてディスカッションを行います。
第 7 回	論文の書き方の確認	卒論作成に必要な作業を具体的に確認します。
第 8 回	論文作成計画の確認 (1)	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
第 9 回	論文作成計画の確認 (2)	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
第 10 回	論文作成計画の確認 (3)	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
第 11 回	個人研究発表 (1)	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告し、ゼミ内で共有します。発表を通して、仮説の妥当性について確認し、論文を書き進めていきます。
第 12 回	個人研究発表 (2)	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告し、ゼミ内で共有します。発表を通して、仮説の妥当性について確認し、論文を書き進めていきます。
第 13 回	個人研究発表 (3)	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告し、ゼミ内で共有します。発表を通して、仮説の妥当性について確認し、論文を書き進めていきます。
第 14 回	中間まとめ	研究の進捗状況について確認し、夏休みの課題等について意見交換を行います。
第 15 回	オリエンテーション	秋学期の進め方について説明および意見交換を行います。
第 16 回	論文執筆作法についての確認	論文の執筆ルールについて説明します。
第 17 回	個別指導 (1)	各自執筆と個別指導を行います。

第 18 回	個別指導 (2)	各自執筆と個別指導を行います。
第 19 回	個別指導 (3)	各自執筆と個別指導を行います。
第 20 回	個別指導 (4)	各自執筆と個別指導を行います。
第 21 回	個別指導 (5)	各自執筆と個別指導を行います。
第 22 回	中間発表 (1)	論文執筆の途中経過の報告を行います。
第 23 回	中間発表 (2)	論文執筆の途中経過の報告を行います。
第 24 回	執筆内容の検討 (1)	まとめの執筆内容を検討します。
第 25 回	執筆内容の検討 (2)	文献リストの執筆内容を検討します。
第 26 回	卒業論文の報告会 (1)	完成した卒論について発表しあい、質疑応答を行います。
第 27 回	卒業論文の報告会 (2)	完成した卒論について発表しあい、質疑応答を行います。
第 28 回	卒業論文の報告会 (3)	完成した卒論について発表しあい、質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文執筆に向けて、文献の収集やフィールド調査など、各自の研究テーマにそってさまざまな課外活動が必要となります。

【テキスト（教科書）】

特に定めませんが、適宜プリントを配布します。

【参考書】

授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の完成度（60%）、卒業研究への取り組み（20%）、授業への積極的な参加（20%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施

【Outline and objectives】

This course deals with acquiring the ability to write a graduation thesis, and you will:

- ・ Investigate and analyze your own interesting subjects
- ・ Develop your basic knowledge through the presentation and discussion at seminars
- ・ Complete a graduation thesis based on the report prepared in the 3rd year.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

福井 令恵

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考え、独自のテーマを追究して、卒業論文を完成させる。自分の問題意識を掘り下げ、4 年間の集大成とする。

【到達目標】

自分の興味・関心に基づき、テーマを自ら設定して、計画を立て、調査研究を進めることができる。また、調査研究から得られた結果をもとに、論文作成の留意事項に従って卒業論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、演習時に指導を行う予定である。授業計画に従い、各自の研究テーマを設定し、先行研究を踏まえて研究計画を立て、調査研究を進める。秋学期は必要に応じて個別指導を行う。進捗状況をもとに各自が研究計画の見直しを行い、調査研究を遂行して、卒業論文を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究の進め方について
2-3	テーマの設定	調査研究の構想
4-5	先行研究の検討	発表と質疑
6-8	リサーチエッセッションと研究計画	研究計画の構想
9-12	データの収集と整理	進捗状況の報告と質疑
13-14	中間発表	発表と質疑
15	進捗状況の報告と計画の見直し	研究活動の振り返り
16-18	データの収集・整理・分析	進捗状況の報告と質疑
19-24	卒業論文の執筆	進捗状況の報告と質疑
25-26	卒論提出	卒論提出の最終確認
27-28	卒論発表	ゼミ生（3 年生を含む）への卒論発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献を読み、先行研究を深める。調査研究を主体的に進める。また、報告やプレゼンの準備をする。

【テキスト（教科書）】

授業において適宜紹介する。

【参考書】

授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み、および論文の形式や内容などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンを持参すること。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to write a high-quality thesis. Students learn the necessary process to complete their research paper such as how to collect data and gain the ability to persuade the reader logically with evidence and thought. In this course, students will report on the progress of their research and discuss with other students. Individual guidance will be carried out several times as necessary.

OTR400MA

キャリアデザイン学総合演習

坂本 旬

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：3~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①経営者、弁護士や会計士などの士業、医者、政治家を含む社会人を前に自己の学びをテーマとしたプレゼンテーションを行う。
 ②上記の目標を達成するために、キャリアデザイン学部での学びをプレゼンテーション用のスライドやデジタル・ストーリーテリングなどのショートムービーにまとめる。

【到達目標】

①キャリアデザイン学部での多様な学びを振り、スライドやショートムービーにまとめる力を身につける。
 ②実社会で通用するプレゼンテーション力を身につける。
 ③学習に PDCA（Plan = 計画、Do = 実行、Check = 評価、Act = 改善）を用い、PDCA を活用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は次の方法で進める。

- ①ディスカッションを中心としたグループ学習
- ②ゲストを招いた講義
- ③ショートムービー制作またはプレゼン資料制作
- ④課外活動として、士業コミュニティである「A コモンズ・ミーティング」に参加し、プレゼンテーションを行う。
- ⑤必要に応じて、社会人としての基本的なマナー講座を実施する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 1	授業の内容と方法の紹介
第 2 回	課外活動の解説	「A コモンズ・ミーティング」の紹介（外部講師）
第 3 回	グループワーク 1	プレゼンテーションの方向性の検討
第 4 回	グループワーク 2	プレゼンテーション内容の検討 (1)
第 5 回	グループワーク 3	プレゼンテーション内容の検討 (2)
第 6 回	発表準備 1	外部講師による講評およびアドバイス
第 7 回	発表準備 2	プレゼンテーション内容の修正
第 8 回	発表準備 3	プレゼンテーションの予行演習
第 9 回	プレゼンテーション（課外学習）	A コモンズ・ミーティングでのプレゼンテーション
第 10 回	プレゼンテーション振り返り	プレゼンテーションを振り返る
第 11 回	社会人特別授業 (1)	特別講師による社会人講座
第 12 回	社会人特別授業 (2)	特別講師による社会人講座
第 13 回	パーティ実習準備	社会人を招いたパーティの計画
第 14 回	授業のまとめとパーティ実習	これまでの授業を振り返り、成果をゲストに報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

士業コモンズ・A ミーティングについては以下の Web サイトを参考にすること。<https://www.a-commons.com/>
 経営者や士業従事者などの会合に参加するため、スーツなどの服装の用意、名刺の制作、社会人としての基本的なマナーの習得が必要である。なお、課外学習の日程は授業内で決める。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。必要に応じて、議論に必要な資料を配布します。

【参考書】

笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局
 小門裕幸『アントレプレナーシップとシティズンシップ』法政大学出版局
 山田泉『多文化教育Ⅰ』法政大学出版局
 坂本旬『メディア情報教育学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

授業および課外活動への参加、プレゼンテーションの内容、振り返りレポートを元に総合的に評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

実社会で活躍する人々の集まる会合への参加は学生にとっては大きな挑戦であり、確実に力がつくだろう。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、iPhone 等、映像を制作するための機器

【その他の重要事項】

ディスカッションやワークショップへの継続して参加すること。

【Outline and objectives】

To review your learning at collage and make a presentation material or movie
 To participate a outside meeting and make a presentation about your career and learning

LAN100MA

国際コミュニケーション語学
(英語 I)

Robert Durham

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

This course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.

【到達目標】

The goal of this course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged with a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Pair English-speaking activities will often be used, for practice.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.] Introducing yourself, in smoothly, natural, friendly English.	Introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第 2 回	Introducing yourself, part 2...using fictional identities & occupations.	Speaking pairwork, using introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第 3 回	"What are your plans for Golden Week?" [Future tense practice, in polite 'EQ' English.]	Speaking pairwork: explaining plans for Golden Week, using polite English.
第 4 回	"How was your Golden Week?"	Many adjectives will be introduced & practiced in pairs, to describe vacations/ events/ etc.
第 5 回	"How are you?"/ "How are you doing?"	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?"
第 6 回	Further practice, re: "How goes it?"	More spoken English pairwork practice, re: "How are you doing?"
第 7 回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to express opinions in English, about a video Current Affairs topic.
第 8 回	"How often do you _____?"	Pair practice in spoken English, to explain FREQUENCY of doing things such as eating some kinds of food; buying certain items; exercising; and so on.
第 9 回	Asking & giving street directions, in spoken English.	Pair practice about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第 10 回	Further practice, re: asking for/giving street directions.	Pair practice, part 2: how to ask/tell about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第 11 回	Video/ News activity, with questions about that video clip.	Students will watch a News or documentary video clip...and will be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English.
第 12 回	"What are your hobbies?"	Students will write down, and then pair-practice, culturally-acceptable answers about their hobbies, in smooth spoken English.

第 13 回	Exam, re: all topics studied and practiced during the semester.	Speaking exams: students will be asked to reply, in smooth spoken English, to questions about the topics that we learned & practiced in the Spring semester.
第 14 回	"What are your five plans for the Summer Break?"	Students will be asked to first write down (in English) five Summer Break plans (in the Future tense)...& to then pair-practice their responses.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen.

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students.

【参考書】

—

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 25%); speaking exams & spoken replies (approximately 25%); attentiveness in class & on-time arrival (approximately 15%); class participation/motivation (20%); and homework (15%).

【学生の意見等からの気づき】

—

【学生が準備すべき機器他】

Please bring to each class: a notebook/binder; a black pen; a red pen; and English-Japanese/Japanese-English dictionary [paper or electronic]; an English language LARGE namecard; and a daily planner/schedule book [a 'techo', in Nihongo].

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; please sit together with other students, in class, AT THE FRONT OF THE ROOM; and please speak together with your classmates, using lots of eye contact & good Body Language. If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

LAN100MA

国際コミュニケーション語学
(英語Ⅱ)

Robert Durham

単位数：1 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

This course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.

【到達目標】

The goal of this course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged with a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Pair English-speaking activities will often be used, for practice.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	*[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]* "How was your Summer Break?"	Pair-practice, re: a range of adjectives about students' five Summer Break activities/ Past Tense, in smooth, spoken English.
第 2 回	Pricing items in English; & answering questions about prices in English.	Students will be asked about prices of common items, in English; and will be asked to verbally answer such questions in spoken English.
第 3 回	Asking & answering about subway/train directions, in English.	Students will learn and practice how to reply to requests for subway/train directions, in spoken English.
第 4 回	Hallowe'en, part 1: what are Hallowe'en traditions?	Students will be asked to investigate, write down, and discuss Hallowe'en traditions, in English.
第 5 回	Hallowe'en, part 2: Using 'would' & 'will'.	Students will pair-practice correct use of 'would' + past tense, & 'will' + future tense, to describe possible Hallowe'en costumes & activities.
第 6 回	"The Seven W's": (Who...?/What...?/When...?/Where...?/Why...?/Which...?/ How...?)	Students will learn how to verbally answer/Why...?/reply in smooth English, to questions about "the 7 W's".
第 7 回	"What would you do, if _____?"	Students will learn how to reply verbally to questions about what they would do, in a variety of situations, in spoken English.
第 8 回	"What time is it?", & "Could you please tell me what time it is...?"	Students will practice how to verbally use polite ways of asking, in English; about telling time(s).
第 9 回	Thanksgiving customs (& discussion in English), re: Thanksgiving customs in the U.S.	Students will be asked to suss out traditional Thanksgiving customs...& to explain them in spoken English.
第 10 回	"What are five things that YOU are thankful for?"	Students will be asked to write down, and then to pair-practice in spoken English, five things that they are thankful for.
第 11 回	Christmas customs & video/listening exercises, in English.	Students will watch/listen to an English video/song about Christmas; and will be asked to answer questions in written/spoken English.

第 12 回	"What are your plans for Christmas/ OhShoGatsu?"	Pair practice: students will be asked to write down & then practice verably (in English) their Future plans for Christmas/ OhShoGatsu.
第 13 回	Exam, re: all topics that students learned and practiced during the Fall 2018 semester.	Speaking exam: students will be asked to reply, in detail (& in smooth, spoken English) about a variety of topics which were learned in the Fall 2018 semester.
第 14 回	"How was your Christmas/ OhShoGatsu Break?"	Students will be asked to write down adjectives and explanations about their five OhShoGatsu/Christmas activities.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke"]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen.

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students.

【参考書】

—

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 25%); speaking exams & spoken replies (approximately 25%); attentiveness in class & on-time arrival (approximately 15%); class participation/motivation (20%); and homework(15%).

【学生の意見等からの気づき】

—

【学生が準備すべき機器他】

Please bring to each class: a notebook/binder; a black pen; a red pen; and English-Japanese/Japanese-English dictionary [paper or electronic]; an English language LARGE namecard; and a daily planner/schedule book [a 'techo', in Nihongo].

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; please sit together with other students, in class, AT THE FRONT OF THE ROOM; and please speak together with your classmates, using lots of eye contact & good Body Language. If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE.

*

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

LAN100MA

国際コミュニケーション語学 (英語Ⅲ)

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なトピックについて、短いながらも、効果的・説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目指します。スピーチの方法をを基礎から学び、自信をもってプレゼンテーションを行うことができるようにしましょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

To learn how to deliver short, effective speeches in English on a variety of topics.

【到達目標】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. The goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

The students will learn about the 3 messages involved in making effective speeches & presentations: The physical message, the visual message, and the story message. The students will view and discuss model speeches and make their own speeches based on the demonstrations. The students will develop confidence in delivering effective speeches and presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Extemporaneous speeches	Ice breakers Course objectives Vocabulary management
Week 2	The Physical Message Unit 1 Posture & Eye contact	pp.9-17 DVD Episode 1 Prepare info. speech quadrant
Week 3	The Physical Message Unit 2 Gestures Unit 1 quiz Give informative speech	pp18-27 DVD Episode 2 Prepare layout speech grid
Week 4	The Physical Message Unit 3 Voice Inflection Unit 2 quiz Give layout speech	pp28-38 DVD Episode 3 Prepare storyboard & visuals
Week 5	The Visual Message Unit 4 Effective Visuals Unit 3 quiz Give demonstration speech	pp.40-50 DVD Episode 4 Prepare 2-country comparison charts
Week 6	The Visual Message Unit 5 Explaining Visuals Unit 4 quiz Explain 2-country comparison charts	pp.51-56 DVD Episode 5 Prepare explanations for 2-country speech
Week 7	Unit 5 quiz Give 2-country comparison speech & Peer Review	Review Units 1-5
Week 8	The Story Message Organization of a speech	pp57-61
Week 9	The Story Message Introduction Unit 6 quiz	pp62-68 DVD Episode 6 Prepare storyboard for product speech

Week 10	The Story Message The Body: evidence & transitions Unit 7 quiz Explain introduction for product speech	pp.69-86 DVD Episode 7 Prepare storyboard and charts for product speech
Week 11	The Story Message The Conclusion Unit 8 quiz Explain body of product speech	pp.87-95, DVD Episode 8 Prepare conclusion for product speech
Week 12	Watch full Presentation & Peer Review Unit 9-10 quiz	Prepare for final presentations
Week 13	Final Presentation : Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentation : Product comparison (5-6 minutes)
Week 14	Final Presentation : Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentation : Product comparison (5-6 minutes)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review material in book, Prepare for end of section quizzes, Prepare information and visuals to make speeches in class

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners

New edition 2009, Harrington, LeBeau
ISBN 978-4-7773-6271-4

【参考書】

Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners

New edition 2009, Harrington, LeBeau
ISBN 978-4-7773-6271-4

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-20%
Homework-15%,
Participation 20%
Presentations 45%

*An 80% attendance rate is required to pass the course. Students missing more than 3 classes will be given a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】

More practice on eye contact and use of visual aids.

【学生が準備すべき機器他】

OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a listening and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】

Learn how to organize and deliver effective speeches and presentations, Listen to and take notes on other students' speeches and model speeches, Evaluate and offer peer feedback on classmates' speeches,

LAN100MA

国際コミュニケーション語学
(英語Ⅳ)

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカデミック・スキル（講義などのディスカッションの仕方、聞き方、ノートを取り方、話のまとめ方など）を学び、伸ばします。講義などで使われる言葉も学びますので語彙力の向上にも役立ちます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

Discussion skills, listening & note-taking, presenting, building vocabulary

【到達目標】

In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered, develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Unit 2a Culture shock	Ice Breakers Introduce topic Preview vocabulary Lecture topic and organization Listen to lecture and outline main points
Week 2	Unit 2a culture shock	Finish lecture & outline Practice summarizing from outline Discuss lecture topic Review for Quiz Unit 2a quiz
Week 3	Quiz and review Unit 2a	Begin Unit 2b
Week 4	Unit 2b Third-Culture Kids	Preview vocabulary Defining key terms Listen to lecture and outline main points
Week 5	Unit 2b Third-Culture Kids	Finish lecture & outline practice summarizing from outline Discuss lecture topic Get research assignment for presentation on culture shock/differences Unit 2b quiz
Week 6	Quiz and review Unit 2b	Speeches on Culture shock/differences Begin Unit 3a
Week 7	Unit 3a New diets	Preview vocabulary Signal Phrases Listen to lecture and outline main points
Week 8	Unit 3a New diets	Finish lecture & outline Practice summarizing lecture from outline Discuss lecture topic Review for 3a quiz Unit 3a quiz
Week 9	Quiz and review Unit 3a	Begin 3b Food Addictions Preview vocabulary

Week 10	Unit 3b Food Addictions	Expressing opinions Finish lecture & outline Practice summarizing lecture from outline Get research assignment for presentation on diet 6 health Unit 3b quiz
Week 11	Quiz and review Unit 3b Presentations Introduce Unit 4a	Presentations on health and diet Begin 4a High/Low Context communication Preview vocabulary
Week 12	Unit 4a High/Low Context communication	Finish lecture & outline Practice summarizing lecture from outline Discuss lecture Review for 4a quiz
Week 13	Quiz and Review Unit 4a Introduce Unit 4b Managing International meetings	Quiz Unit 4a Preview vocabulary Summarizing discussions Listen to lecture and outline main points
Week 14	Quiz and Review Unit 4b Discussion on communication	Quiz Unit 4b Discussion on communication styles

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups.

【テキスト（教科書）】

Contemporary Topics Intro: Academic Listening and Note-Taking Skills. Clement, Lennox, & Rost
ISBN 13: 9780132075176

【参考書】

Contemporary Topics Intro: Academic Listening and Note-Taking Skills. Clement, Lennox, & Rost
ISBN 13: 9780132075176

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-20%
Homework-15%,
Participation 20%
Presentations 45%

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on discussion skills and expressing opinions on related topics

【学生が準備すべき機器他】

OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】

In this course, students learn and practice note taking strategies by listening to lectures. They also will discuss the topics introduced in each lecture and conduct further research on the topics to present in class.

LAN100MA

国際コミュニケーション語学
(英語Ⅴ)

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の伝えたいことをより正確に表現し、相手に伝わる英文を書くことができることを目指します。伝わる書き方にはコツがあるので、そのコツも学んでいきます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

The objective of the course is to consolidate the knowledge of English language and grammar learned in secondary school and develop their ability to express themselves more freely in writing

【到達目標】

After taking this course, the students should have learned the following:

1. the concept of the paragraph with reference to its unity, coherence, and structure, including topic sentences, various types of supporting sentences, and concluding sentences
2. the mechanics of typing and formatting a composition
3. how to edit one's own and others' compositions
4. how to effectively complete a timed writing task

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

Students in this course will work individually on writing preparation activities and actually writing their own descriptive and persuasive paragraphs.

Student will also collaborate with students in pairs or groups to compare ideas and peer review each other's writing in terms of grammar, unity and cohesion of writing.

Students will also be tested on the material taught in the course, including two timed writing exams.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Sentences & Paragraphs	Components of sentences and paragraphs
第 2 回	Topic sentences	Preparation to write a descriptive paragraph
第 3 回	Descriptive paragraphs Concluding sentences Adjectives Conjunctions	Components of effective concluding sentences Using adjectives and conjunctions in sentences
第 4 回	Feedback on 1st draft of descriptive paragraph	Review and recommendations on 1st draft
第 5 回	Homework test 1 Using "although" Submit 2nd draft of descriptive paragraph	Preparation for peer review Test on homework exercises How to use "although" in sentence
第 6 回	Writing test Feedback on 2nd draft	In-class timed writing test
第 7 回	Test feedback Paragraph development Persuasive paragraphs	Pre-writing for 3rd writing assignment How to develop paragraphs
第 8 回	Benefits and consequences Outlines	Including benefits, consequences, and results in paragraphs Using outlines to organize ideas
第 9 回	Cause & effect	Including causes and effects in paragraphs Prepare outline for 3rd writing assignment
第 10 回	Paraphrasing Supporting sentences outside sources	Practice paraphrasing Including outside sources in writing Citing sources correctly in paragraphs
第 11 回	3rd writing assignment Using conditional sentences Making comments	Submit 3rd writing assignment Practice using conditionals as support Commenting on ideas in writing

第 12 回	Homework test 2 Thesis statements Introductions	Structure of thesis statements Structure of introductory paragraphs Peer review of 3rd writing assignment
第 13 回	Review and feedback writing 3	Review and feedback on 3rd writing assignment Prepare for final writing assignment
第 14 回	Final In-Class writing test	Timed writing: 2 Persuasive paragraphs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework exercises contained in the course handouts

Assigned writing drafts (typed, correctly formatted, and printed out for submission in class)

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading material will be provided by the lecturer

【参考書】

<http://my.vocabularysize.com/>

<http://quizlet.com>

www.englishgrammar.org

【成績評価の方法と基準】

Participation in class: 10%

Two in-class quizzes on the homework: 20%

Three submitted writing assignments: 50%

Final in-class writing test: 20%

【学生の意見等からの気づき】

More work on pre-writing activities and sentence structure

【学生が準備すべき機器他】

Submitted writing assignments must be typed, formatted correctly, printed out and ready for submission at the beginning of class. Points will be deducted for late submissions.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a writing and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline and objectives】

Develop the skills necessary to write and correctly format effective paragraphs and to write multi-paragraph essays within a set time frame

CAR200MA

就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-

上西 充子、武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍する労働組合関係者をゲスト講師としてお招きし、労働組合の活動について事例を交えながら講義してもらいます。働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、企業情報や業界情報を交えながら講義してもらいます。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどうのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場の最新情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師と調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、初回授業で予定を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から「労働組合とは何か」を説明します。
2	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと	「働くということ」の意義と労働組合がめざす社会像を説明してもらう。
3	【課題提起】 いま働く現場で何が起きているのか ～労働相談からみた若者雇用の現状～	連合に寄せられる労働相談事例をもとに、若者が抱える悩みとそれらへの対応を説明してもらう。
4	【ケーススタディ①】 ワークルール確立に向けた取り組み	長時間労働の是正、労働時間短縮に向けた取り組みを説明してもらう。
5	【ケーススタディ②】 労働条件の維持・向上に向けた取り組み	賃金をはじめとする労働諸条件の改善に向けた取り組みを説明してもらう。
6	【ケーススタディ③】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	ワーク・ライフ・バランス、両立支援、男女平等参画などの取り組みを説明してもらう。
7	【ケーススタディ④】 公正・公平な処遇とキャリア形成に向けた取り組み	賃金制度、昇進昇格など、人事処遇制度をめぐる課題や取り組みを説明してもらう。
8	【ケーススタディ⑤】 雇用と生活を守る取り組み	産業空洞化への対応を中心に、雇用と生活を守る取り組みを説明してもらう。
9	【ケーススタディ⑥】 正社員と非正社員間の組合加入と処遇改善に向けた取り組み	正社員と非正社員間の処遇格差は正に非正規社員の組合加入と処遇改善に向けた取り組みを説明してもらう。
10	【ケーススタディ⑦】 公務労働の現状と公共サービスの役割	公務員の仕事内容と労働組合活動の特徴を説明してもらう。
11	【課題への対応①】 ワークライフバランスの実現に向けて	いままぜ、働き方の変革が求められているのかを説明してもらう。
12	【課題への対応②】 グローバルゼーションにどう対応するか	進行するグローバルゼーションに労働組合がどのように対応しているかを説明してもらう。

13	ゲスト講義の振り返り	ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。
14	「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて	連合がめざす社会像を説明してもらうとともに、担当教員によるまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全 14 回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内記入のコメントシート（30 点）＋レポート（70 点）

【学生の意見等からの気づき】

労働用語を随時説明していきます。

【Outline and objectives】

This course is provided by RENGO, the Japanese Trade Union Confederation.

Every time, the guest lecturer who is active in a labor union will lecture on labor circumstances and the industry trend. This class will be the very valuable opportunity when students can understand the latest information about the work place.

CAR300MA

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を認識し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践の修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき 7 つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
⇒ 社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
⇒ データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキル
⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
⇒ 社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
⇒ チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化するリーダーシップ
⇒ モチベーション・マネジメント
⇒ 4 つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
⇒ キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
⇒ 自分自身の 20 代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
⇒ 暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。

PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。

履修人数によりですが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。

公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とバラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレンストーミング
3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析

発行日：2019/5/1

4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは 起業家精神
5	商社事例研究－1 半導体業界 世界を制した経営者	・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力 大企業経営
6	商社事例研究－2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力 働き方の進化
7	社会人ケーススタディ－1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノづくりの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディ－2 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	社会で通用する人材 ・米国公認会計士講話 ・採用担当者の視点 ・求められる人材像 ・状況対応型キャリア
12	プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力
13	金融業界事例研究 地方創生事業の実践 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）－3 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。

・統計学や社会調査の素養があると有効です。

＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

・受講態度（発言数・発言内容）	⇒ 30点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）	⇒ 30点
・グループワークでの貢献度	⇒ 30点
・期末テスト	⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000～2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのこと。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。

レポート＆プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。PCは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。

文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。
*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。
1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取材力（但、百聞一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 企業目線を理解する	社会が求める人材要件と大学で学ぶ力の比較検討 ・統計の見方と誤解 ・課題発見力
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには（ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究－1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	21世紀の生き方へ ライフスタイル研究－2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
7	課題レポート&プレゼンテーション－1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法

8	ライフスタイル研究－3 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力（ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	チームビルディング 企業研修型ワーク ショッパ（一部英語で実施）	事例研究 ・女性総合職の問題 ・女性のキャリア事例 ・リーダーの役割
13	課題レポート&プレゼンテーション－2 法政大学の実践知とは 総長への提言	良いレポートの事例紹介 ・文学的表現力 ・社会的表現力 ・真の個性あるレポートとは
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）－3 課題発表 社会への発信	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
*春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）⇒ 30点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒ 30点
・グループワークでの貢献度⇒ 30点
・期末テスト⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。この他に、1000～2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。総合評価が60点以上を合格とします。（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）
*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立つとのこと。*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。大学用意のPCを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。
*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.
I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

MAN300MA

財務会計論Ⅰ・Ⅱ

川島 健司

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall
曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計（簿記入門Ⅰ／Ⅱ、会計学入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。財務会計の学習においては、財務諸表の「作り方」と「読み方」を同時に学ぶことが効率的であり、本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して会計実務を理解することを目指す。

財務諸表の作り方については、基本的な会計原則と会計基準を解説する。これには、財務会計の目的と機能、複式簿記の原理、利益計算の考え方、会計規制の考え方、資産評価の考え方、会計情報の質的特性、資産・負債・収益・費用の各概念に関する議論などが含まれる。

財務諸表の読み方については、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。

【到達目標】

- ①各取引をどのように会計処理すべきかについて会計に関する語彙（概念）を用いて考察する力、さらにはそれを他者に対して説明する力を習得する。
- ②日本の会計基準、および IFRS（国際財務報告基準）を読解することに必要な基礎概念について理解する。
- ③会計数値の背後にある財務諸表作成者の意図を読み解く力を習得する。
- ④財務諸表（英文財務諸表を含む）から企業実態を推論する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【各回の授業構成】

各回とも授業は前半と後半に分割する。前半では財務会計の制度・理論・歴史について解説する。簿記や会計というと技術的・制度的な印象を強くもたれがちだが、本講義ではこれらの側面を踏まえながらも、さらに各取引内容の理解とその会計処理の背後にある理論的根拠や歴史的経緯に触れながら講義を進める。

後半では実際の公表財務諸表を用いて会計処理や企業実態の様子を観察・分析する。財務会計の制度と理論にもとづいて、それらを企業が実際にどのように適用して財務諸表を作成しているかを観察する。また、主要な財務指標を解説したうえで、財務諸表から企業実態を推論・分析する。とくに、公表された財務数値が企業によってどのように作られ、そこにそこからのような企業の意図が読み取れるかを分析することに主眼を置く。

-本講義で学習する主な財務指標

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率（ROE）、1 株当たり当期純利益（EPS）、時価簿価比率（PBR）、経済的付加価値（EVA）

-本講義で観察・分析する財務諸表

本年度はアメリカ企業を取り上げる。その際、同業種の日本企業とも適宜比較する。取り上げる予定の企業は次のとおりである：Apple（電子機器）、Starbucks Corporation（コーヒー）、Chipotle Mexican Grill（レストラン）、Whole Foods Market（グロサリー）、Nike（アパレル）、Target Corporation（ディスカウントストア）、Royal Caribbean Cruises（海運）、Virgin America（空運）、GoPro（映像機器）、The Walt Disney Company（エンターテインメント）、Tesla（電気自動車）。

なお、これらの企業の財務諸表は英文であり、英語の勘定科目について適宜解説する。受講生は英文財務諸表も読み慣れるようになる。

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、適宜、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを質問票に記述し（任意）、その質問票の内容を教員が整理・体系化し、それに公開回答するかたちをとる。公開された質問者には成績評価の際に加算する（後述の「成績評価の方法と基準」を参照）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	本講義の概観	講義全体の学習内容と講義計画を説明。
2	会計システム	会計システムの構造を解説し、財務会計の主な論点を認識する。
3	会計システムの目的と役割	財務会計の目的と役割を明確化。利害調整と情報提供という目的観を解説。
4	会計システムのインプット	会計システムのインプットたる「取引」について理解する。

5	会計システムのアウト プット	損益計算書と貸借対照表について解 説。収支計算書との関係を理解する。
6	複式簿記	簿記一巡の手続きの説明・実践を行う。
7	会計基準と会計法規	財務会計に関わる会計基準と法規制に ついて、その存在理由と期待される役 割を解説。
8	日本の会計基準	日本の会計基準の歴史を概観し、『企 業会計原則』と『企業会計基準』につ いて解説。
9	世界の会計基準	米国会計基準、英国会計基準、および 国際財務報告基準（IFRS）の歴史と 「概念フレームワーク」を解説。
10	利益計算のアプローチ	損益法と財産法の特徴を考察する。
11	発生主義会計	収益・費用の認識基準について、現金 主義と発生主義を対比させながら解説。
12	費用収益対応の原則	費用収益対応の原則について、具体例 を用いながら解説。
13	原価主義会計	代替的な資産評価基準を検討、取得原 価の合理性について解説。
14	会計システムの評価：理 論と実証	現行の会計システムの理論的根拠と実 証研究の発見事項を解説。
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
1	個別論点の概観	会計処理の個別論点を概観し、秋学期 の学習内容の全体を見通す。
2	資金調達の会計	資金調達の主要な方法とその会計処理 について解説。
3	金融商品会計	有価証券に関する会計処理の確認とそ の理論的裏付けについて解説。
4	棚卸資産会計	棚卸資産の評価方法について、単価と 数量の決定方法を中心に解説・考察。
5	固定資産会計	有形固定資産の取得と減価償却につい て解説・考察する。
6	リース会計	リース会計について解説・考察する。
7	減損会計	減損会計について解説・考察する。減 価償却と減損会計、および原価主義と 減損会計との関係について明確化。
8	退職給付会計	負債の概念、負債の分類について解説 する。引当金について解説。
9	資産除去債務会計	資産除去債務の会計について解説。同 会計の適用事例を観察。
10	ストック・オプション会 計	新株予約権、ストックオプションの会 計会計処理について解説・考察。
11	企業結合会計	企業結合会計の手続き、のれんの償却 の根拠と合理性について検討。
12	外貨建取引会計	外国通貨で表示された取引の換算処理 方法を解説。
13	連結会計 1	連結会計報告の考え方と手法について 解説。
14	連結会計 2	連結貸借対照表と連結損益計算書の作 成について解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業の IR 資料を教材として活用する。受講生は各自、企業のホームページ
から教材として指定された書類を入手・持参すること。

【テキスト（教科書）】

講義内容と演習問題を記述したレジュメを用いる。レジュメは授業支援シス
テムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。

【参考書】

- 1 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2018 年 4 月現在の最新版。
- 2 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2018 年 4 月現在の最新版。
- 3 飯野利夫『財務会計論』三訂版、同文館、1993 年。
- 4 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第 9 版、中
央経済社、2015 年。同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第
9 版、中央経済社、2015 年。
- 5 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第 3 版、白桃書房、
2010 年。
- 6 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社、
2008 年。
- 7 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
- 8 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】

以下の 2 点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。①春学期末・秋学期
末の筆記試験（80 %）：参照不可の筆記試験（電卓のみ持ち込み可）。期末
試験をレポート課題に替えることはしないため、期末試験は必ず受験するこ
と。②質問票への記述状況（20 %）：各回の授業終了後に受講生は任意で質
問や感想を書面で提出することができる。その内容が全受講生にとって有益
であると考えられるものは、翌週以降の講義で紹介する。この際、講義への
参画と貢献に対する評価として、最大 20 % の範囲内で加点する。

【学生の意見等からの気づき】

板書の字が小さくて見えないという指摘が複数ありました。スライドを多用
するよう改善します。また受講生にはできるだけ前列に座ってもらうよう授
業開始時に案内します。

【学生が準備すべき機器他】

講義用レジュメは授業支援システムを利用して配信する。受講生はそれをダ
ウンロード・印刷して授業に持参すること。

【その他の重要事項】

「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に
講義を進める。

【Outline and objectives】

This lecture gives the system and theory of financial accounting and its
application method. In learning of financial accounting, it is efficient to
learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same
time, and this lecture aims to understand accounting practices through
both viewpoints of the financial statement creator and reader.

Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic
accounting principles and accounting standards. This includes
discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions
of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept
of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative
characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and
expenses.

With regard to how to read financial statements, I will discuss the
types of alternative accounting procedures and the motivation patterns
of financial statement preparers on their choices, and discuss how to
interpret the meaning of the published accounting figures. In addition,
I will explain representative financial indicators and techniques to
infer the realities of companies from the actual published financial
statements.

MAN300MA

監査論Ⅰ・Ⅱ

坂上 学

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall
曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、保証業務を含む監査の基本的な知識を提供する。とりわけ財務諸表監査の概念的、理論的、実務的な側面について扱う。保証業務を含む監査業務に対し、どのように監査基準や監査手続を適用すべきかということが理解できるようになることを目的としている。

【到達目標】

監査の基本知識として、理論的な基礎と制度の概要を理解し、監査報告書を読んだ時に、それが何を意味するのかを十分に理解できることを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。各章の内容に即したケーススタディを行い、必要に応じてプリントを配布する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期講義の概要と進め方、そして評価方法について説明します。
第 2 回	監査のフレームワーク（1）	テキスト第 1 章「監査のフレームワーク」の前半部分について学習します。
第 3 回	監査のフレームワーク（2）	テキスト第 1 章「監査のフレームワーク」の後半部分について学習します。
第 4 回	ケーススタディ（1）	テキスト第 1 章に関連する事例研究をおこないます。
第 5 回	監査制度のフレームワーク（1）	テキスト第 2 章「監査制度のフレームワーク」の前半部分について学習します。
第 6 回	監査制度のフレームワーク（2）	テキスト第 2 章「監査制度のフレームワーク」後半部分について学習します。
第 7 回	ケーススタディ（2）	テキスト第 2 章に関連する事例研究をおこないます。
第 8 回	監査規範の意義とわが国の監査基準（1）	テキスト第 3 章「監査規範の意義とわが国の監査基準」前半部分について学習します。
第 9 回	監査規範の意義とわが国の監査基準（2）	テキスト第 3 章「監査規範の意義とわが国の監査基準」後半部分について学習します。
第 10 回	ケーススタディ（3）	テキスト第 3 章に関連する事例研究をおこないます。
第 11 回	監査意見形成のプロセス（1）	テキスト第 4 章「監査意見形成のプロセス」の前半部分について学習します。
第 12 回	監査意見形成のプロセス（2）	テキスト第 4 章「監査意見形成のプロセス」の後半部分について学習します。
第 13 回	ケーススタディ（4）	テキスト第 4 章に関連する事例研究をおこないます。
第 14 回	まとめ	春学期講義のまとめをおこないます。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	イントロダクション	秋学期講義の概要と進め方、そして評価方法について説明します。
第 16 回	リスク・アプローチと監査戦略（1）	テキスト第 5 章「リスク・アプローチと監査戦略」の前半部分について学習します。
第 17 回	リスク・アプローチと監査戦略（2）	テキスト第 5 章「リスク・アプローチと監査戦略」の後半部分について学習します。
第 18 回	ケーススタディ（1）	テキスト第 5 章に関連する事例研究をおこないます。
第 19 回	リスク評価、リスク対応および監査の完了（1）	テキスト第 6 章「リスク評価、リスク対応および監査の完了」の前半部分について学習します。
第 20 回	リスク評価、リスク対応および監査の完了（2）	テキスト第 6 章「リスク評価、リスク対応および監査の完了」の後半部分について学習します。
第 21 回	ケーススタディ（2）	テキスト第 6 章に関連する事例研究をおこないます。

第 22 回	監査報告書と情報提供機能（1）	テキスト第 7 章「監査報告書と情報提供機能」の前半部分について学習します。
第 23 回	監査報告書と情報提供機能（2）	テキスト第 7 章「監査報告書と情報提供機能」の後半部分について学習します。
第 24 回	ケーススタディ（3）	テキスト第 7 章に関連する事例研究をおこないます。
第 25 回	開示情報の多様化と保障機能（1）	テキスト第 8 章「開示情報の多様化と保障機能」の前半部分について学習します。
第 26 回	開示情報の多様化と保障機能（2）	テキスト第 8 章「開示情報の多様化と保障機能」の後半部分について学習します。
第 27 回	ケーススタディ（4）	テキスト第 8 章に関連する事例研究をおこないます。
第 28 回	まとめ	秋学期講義のまとめをおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

伊豫田隆俊, 林隆敏, 松本祥尚『ベーシック監査論（七訂版）』同文館出版
※最新版が出版されていれば、そちらを購入してください。

【参考書】

鳥羽至英『財務諸表監査 理論と制度 基礎篇』（国元書房, 2009）

【成績評価の方法と基準】

期末テストの点数を 80 %、ケーススタディ等で実施するミニテストの点数を 20 % の比率で按分し、平常点を加味して成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

真面目に出席している学生をちゃんと評価して欲しいという要望が多く寄せられている。これまで以上に、真面目に出席している学生の把握に勤め、成績へのプラス評価につなげる努力をしたいと思っている。私語を注意してくれて良かったという感想も多く寄せられるので、授業に集中できるように静かな環境で授業を受けられるよう、最大限の配慮を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学の基本的な知識があることを前提として講義を進めるので、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」と「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。また財務諸表に関する知識も必要になるので、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を平行して履修するなどして知識の獲得に努めてほしい。

【Outline and objectives】

This course provides a foundation in assurance, attestation, and auditing fundamentals. The emphasis of this course is on conceptual, theoretical and practical aspects of auditing financial statements. Upon completion of this course, students will be able to apply professional auditing standards and appropriate audit and other procedures to auditing, assurance and attestation engagements.

MAN300MA

税務会計論Ⅰ・Ⅱ

大下 勇二

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall
曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期「税務会計論Ⅰ」

わが国の税金全体の体系と所得税、消費税および法人税の基本的な仕組と
その基礎

秋学期「税務会計論Ⅱ」

わが国の法人税法の課税所得計算の基礎と財務会計との比較

【到達目標】

春学期

経営学部の子生として必要と思われる税金の基礎的知識の涵養を目標とし
ます。

秋学期

会社の中心的な税金である法人税の基本的な計算プロセスとその基礎的考
え方を理解することにより、会計分野の重要な領域としての税務会計の基礎
を修得し、財務会計との相違を理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期

わが国の所得税、法人税および消費税を中心として、税金全体の概要とそ
の仕組みを理解することを目的としています。所得税と消費税については配
布資料に基づき、法人税はテキストを用いて、重要な点をパワーポイントに
より解説する形で授業を進めていきます。また、個別事例の紹介、実際の所
得税の確定申告の練習等も取り入れる予定です。

秋学期

わが国において、法律で規制された会計、いわゆる制度会計には金融商品
取引法により規制された「金商法会計」（旧証取法会計）、商法・会社法により
規制された「会社法会計」および法人税法により規制された「税務会計」が
挙げられます。これら三つの制度会計の領域は、相互に密接に結びついてわが
国の企業会計制度を形成しております。前二者の制度会計の領域は、主とし
て「財務会計論」で学習します。本講義は三番目の税務会計を取り上げます。

法人税法の取扱いは実務的で詳細にわたっていますが、授業は、基礎的な
内容に限定し、可能な限り財務会計の考え方と法人税法特有の考え方とを対
比させながら、税法固有の計算の考え方・見方の修得を目指します。
授業はテキストを事前に学習していることを前提に、企業の事例を紹介しな
がら重要な点をパワーポイントを用いて解説する形で授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	わが国の税金の体系 (1)	わが国の租税体系を概説します。
第 2 回	わが国の税金の体系 (2)	租税構造および税負担に関する国際比 較を行います。
第 3 回	所得税 (1)	所得税の概要、所得の種類と計算方法 について学習します。
第 4 回	所得税 (2)	給与所得を中心にその計算の仕組みを 学習します。
第 5 回	所得税 (3)	所得税の累進税率の意味と税額の計算 方法について学習します。
第 6 回	所得税 (4)	所得税申告書の仕組みを概説し、所得 税の計算練習を行います。
第 7 回	所得税 (5)	所得税課税の考え方を総括します。
第 8 回	消費税の仕組み (1)	消費税を中心にその特徴と計算方法を 学習します。
第 9 回	消費税の仕組み (2)	逆進性といった消費税の問題点を検討 します。
第 10 回	消費税の仕組み (3)	消費税の益税の問題を検討します。
第 11 回	法人税 (1)	わが国の法人税の概要、法人所得課税 の考え方、株主集合体説などを中心に 法人税の基礎を学習します。
第 12 回	法人税 (2)	わが国の法人税の対象法人を取り上 げ、わが国法人の特徴を学習します。
第 13 回	法人税 (3)	法人税法の体系、帳簿組織、同族会 社、事業年度と繰越欠損金の問題を学 習します。

第 14 回 法人税 (4)

課税所得計算の一般原則、益金の額、
損金の額、現行法の所得概念、課税所
得の計算構造、資本等取引の概念、実
質課税原則、権利確定主義・債務確定
主義、確定決算主義、税務調整など、
課税所得研鑽の基礎を学習します。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	法人税の基礎	法人税の計算を概説します。
第 2 回	売買損益の計算	売買損益、請負損益、売上げ割戻しの 取扱いを学習し、税法の考え方を学び ます。
第 3 回	その他の益金の計算	受贈益、受取配当金、固定資産の譲渡 益の取扱いを概説し、税法の考え方を 学習します。また、在外子会社からの 配当金の問題も取り上げます。
第 4 回	売上原価の計算と棚卸資 産の期末評価	売上原価の計算の仕組み、棚卸資産の 取得原価、期末棚卸資産の評価方法な どを学習し、売上原価算定における税 法の考え方を学びます。
第 5 回	有価証券の譲渡原価と期 末評価	有価証券の譲渡原価の算定の仕組み、 有価証券の取得原価、譲渡原価、期末 評価、評価減について学習し、有価証 券の譲渡原価の算定における税法の考 え方を学びます。
第 6 回	固定資産の減価償却	減価償却費算定の仕組み、取得原価の 算定、耐用年数、償却方法、残存価額、 償却限度額の計算について学習し、減 価償却計算における税法の考え方を学 びます。
第 7 回	事業形態の多様化と課税 問題	ベイ・スルー課税やパス・スルー課税 （構成員課税）といった新しい事業体の 課税問題を取り上げます。
第 8 回	企業の社会的責任と寄附 金・交際費課税	交際費および寄附金について損金算入 制限する理由と税法特有の考え方を学 習します。
第 9 回	給与の支給形態の多様化 と課税問題	役員の給与を中心に、損金算入制限す ることの理由と税法特有の考え方を学 習します。また、業績連動報酬と課税 の問題も取り上げます。
第 10 回	不良債権の償却の課税問 題	不良債権の問題を中心に、貸倒損失お よび貸倒引当金の計算における税法の 考え方を学習します。また、これに関 連して、税効果会計も取り上げます。
第 11 回	企業活動の集団化と課税 問題 (1)	合併、分割、株式交換・株式移転とい った企業組織再編に係る包括的税制を 学習し、企業組織再編税制の考え方を 学習します。
第 12 回	企業活動の集団化と課税 問題 (2)	グループ法人単体課税制度および連結 納税制度の仕組みと特徴を学習し、企 業集団の課税制度における税法の考 え方を学習します。
第 13 回	企業活動の国際化と課税 問題 (1)	国際課税の原則を学習します。
第 14 回	企業活動の国際化と課税 問題 (2)	租税回避対策税制を学習し、米国有名 企業などの租税回避行為の仕組みを取 り上げます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキスト、または講義スライド・配布資料を読んでおくことが求め
られます。また、レポートを複数回提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

・所得税・消費税に関しては、講義スライドと配布資料
・法人税に関しては、大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学通信教育部（2019
年）と講義スライド。
講義スライドは授業支援システムに事前にアップロードします。

【参考書】

春学期

開講時に指示します。

秋学期

渡辺・山本著『法人税の考え方・読み方』税務経理協会
成松洋一著『法人税法 理論と計算』税務経理協会

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (25%)、平常点 (15%) および定期試験の結果 (60%) から総合
的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の最後に簡単な○ × 問題を解答してもらい、授業内容の理解を
その都度深める取り組みをしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントのスライドを中心に板書を交えて進めていきます。スライ
ドは授業支援システムにアップロードしますので、各自、事前に用意して下
さい。

【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。1 年次の簿記入門 I / II、2 年次の会計学入門 I / II を履修しておくことが望ましく、また、平行して、財務会計論 I / II、国際会計論 I / II を履修し、会計学の基礎を理解しておくこと、本講義の理解がより一層促進されます。所得税、消費税、法人税等の税金関連の新聞記事をほぼ理解できるように頑張りました。

【Outline and objectives】

The objective of Tax Accounting is to understand the basic concepts and structures of income tax, value added tax and corporate income tax in Japan.

MAN300MA

管理会計論 I ・ II

北田 皓嗣

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall
曜日・時限：水 1/Wed.1 | 配当年次：3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、具体的な意思決定の場面をイメージしながらすすめていきたいと考えています。

【到達目標】

経営管理の問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めるとともに、随時、計算問題や復習のための問題演習を取り入れていきます。また各回、2～3 程度の授業内課題に回答してもらいながら理解を深めてもらいます。特に、個人で考えるだけでなく、少人数のグループで話し合ったあと、クラス全体で共有することで相互に意見を交換し、多角的な理解ができるようにしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と進め方について説明して いきます。
第 2 回	管理会計の基礎概念 1	原価の概念
第 3 回	管理会計の基礎概念 2	財務分析の方法
第 4 回	管理会計の基礎概念 3	組織構造、コントロールの階層
第 5 回	中期経営計画	計画の種類、ROI と利益とキャッシュ フロー
第 6 回	短期利益計画 1	CVP 分析、変動費と固定費
第 7 回	短期利益計画 2	安全余裕率
第 8 回	短期利益計画 3	プロダクトミックス
第 9 回	予算管理 1	予算管理の前提
第 10 回	予算管理 2	総合予算の編成
第 11 回	予算管理 3	予算差異分析
第 12 回	事業部の管理会計 1	ROEC, RI
第 13 回	事業部の管理会計 2	予定一括配賦、内部振替価格
第 14 回	BSC	4 つの視点、ストラテジーマップ

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	原価計算について	実際原価計算、総合原価計算、個別原 価計算、標準原価計算
第 16 回	モノづくりと管理会計 1	生産管理会計、CVP 分析
第 17 回	モノづくりと管理会計 2	原価企画
第 18 回	モノづくりと管理会計 3	テアダウンを通じた製品と原価への理 解
第 19 回	モノづくりと管理会計 4	品質管理会計
第 20 回	間接費の管理 1	ABC, ABM
第 21 回	間接費の管理 2	マーケティングコスト、ロジスティッ クコスト、ファシリティコスト
第 22 回	営業活動と原価	価格決定、目標原価
第 23 回	設備投資意思決定 1	経済性計算の方法
第 24 回	設備投資意思決定 2	DCF 法、資本コスト
第 25 回	環境マネジメントと管理 会計 1	環境管理会計
第 26 回	環境マネジメントと管理 会計 2	MFCA
第 27 回	環境マネジメントと管理 会計 3	統合報告書
第 28 回	まとめ	今学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントを利用した授業をしますが、基礎的な概念について下記の参考書を利用すると学習が進むことが期待されます。

【参考書】

谷武幸 (2013) 『エッセンシャル管理会計（第 3 版）』中央経済社

浅田孝幸監訳 (2008)『管理会計のエッセンス』同文館

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（20％×2回）、期末テスト（40％）、授業参加（20％）

【学生の意見等からの気づき】

計算やケーススタディなど参加できる要素も取り入れようと考えています。

【その他の重要事項】

簿記入門や会計学入門など会計系の基礎科目を履修していることが望ましいです。また原価計算論Ⅰ/Ⅱや経営分析Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳと相互に関連しています。

ただし管理会計が **Management Accounting** の訳語であることから理解できるように、組織のマネジメントを会計情報システムの視点から理解する科目であるため、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、経営組織論Ⅰ/Ⅱ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱなどのマネジメントに関連する科目の理解を深めるための科目にもなります。

【Outline and objectives】

Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

MAN300MA

原価計算論Ⅰ

平井 裕久

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 1/Tue.1 | 配当年次：3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、さまざまな目的に役立つ原価情報を提供するために、製品一単位当たりの製造原価を計算するための方法です。原価計算論Ⅰでは、原価計算論を学習する上で必要な基本的な用語や諸概念を理解するとともに、原価計算の一連の計算手続を理解することを目的とします。

【到達目標】

原価計算論Ⅰでは、原価計算に関連した基本的な用語および概念を簡潔に説明できること、さらに製品原価の計算のための一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算を理解し、基本的な計算問題を解けるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

原価計算論Ⅰでは基本的には講義形式で授業を行います。毎回、テキストならびに授業支援システムを通じて事前に配布した資料を利用して、重要な概念および計算プロセスの説明および理論的な解説を行います。各回の講義で1回は例題を実際に自分の手で解いてもらいます。また、実際の企業の製造プロセスに関するビデオなども見てもらいます。原価計算論Ⅰでは、費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算という原価計算の一連の計算手続きに沿ったかたちで学習を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	講義の概要紹介	原価計算の目的について説明する。また、工業企業と商業企業の違いについて説明を行う。
2	原価計算の目的	原価計算の意義および目的について、原価計算基準にもとづいて説明を行う。
3	原価計算の諸概念	原価の一般概念および原価計算を学習する上で特に必要となる重要な原価分類のいくつかについて詳しく説明する。それぞれの概念を理解してほしい。
4	材料費の計算	材料費の意味、その内訳および材料費の計算プロセスについて説明した上で、例題演習を行なう。
5	労務費の計算	直接労務費および間接労務費の区別および直接労務費の計算方法を中心に説明する。
6	製造間接費の計算	製造間接費の意義および配賦の問題を説明する。特に、製造間接費の配賦基準の選択、またその背後にある論理を詳しく説明する。
7	部門別原価計算の意義	部門別原価計算を行う意義を正確な製品原価の計算と原価管理の効果的な遂行という観点から説明する。
8	部門別原価計算の計算手続	部門別原価計算の一連の計算手続きを説明するとともに、その具体的な方法を例題を交えて説明する。
9	個別原価計算の特徴およびその計算プロセス	製品別原価計算の一つである個別原価計算が適する生産形態および個別原価計算の一連の計算手続きについて例題を交えながら説明する。
10	総合原価計算の特徴	製品別原価計算のもう一つの方法である総合原価計算の特徴を個別原価計算との対比で説明する。
11	総合原価計算における仕掛品の評価方法	総合原価計算における仕掛品の評価方法（平均法と先入先出法）について練習問題を交えながら説明する。
12	工程別総合原価計算の意義と累加法及び非累加法	部門別原価計算に伴う総合原価計算である工程別総合原価計算の意義また累加法による計算手続を説明する。また、非累加法についても紹介する。
13	そのほかの総合原価計算	等級別総合原価計算また組別総合原価計算について簡単な例題を交えて、説明を行う。
14	講義のまとめ	原価計算論Ⅰの内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義を受ける前に、各回の指定されたテーマについて該当箇所のテキストを読むとともに、事前に授業支援システムを通じて配布された資料には必ず目を通してください。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして講義に望んでください。必要に応じて、講義の終了後に復習また発展的な学習のための課題を配布するので次の講義までに解いて持ってきてください。次回の講義では前回の復習をかねてこの課題を解説することから講義を始めます。

【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社 2016年 (2400 円税別)

【参考書】

参考文献また推薦図書については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原価計算論Ⅰについて期末に行われる定期試験の結果に課題の提出状況を加味して評価を行います。成績評価の配分基準は定期試験の結果 80 %程度、課題の提出状況を 20 %程度とします。

【学生の意見等からの気づき】

当該授業を担当するのは今年度からである。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は配布する予定です。

【その他の重要事項】

関連科目とし管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび財務会計論Ⅰ/Ⅱなどがありますので同時に履修することを勧めます。

MAN300MA

原価計算論Ⅱ

福田 淳児

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 1/Tue.1 | 配当年次：3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムを通じて提供される原価情報が、企業における原価管理および短期利益計画において果たす役割を理解することを目的とします。また、1980 年代に実務の観察に基づいて提唱された activity-based costing の計算メカニズムまたそれが経営意思決定にもたらす影響を伝統的な製造間接費の配賦方法との対比で理解することを目的とします。

【到達目標】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムが経営管理目的に有用な情報を提供できることを理解することを目標とします。具体的には、経営管理目的での原価計算としての標準原価計算や直接原価計算が提供する情報の役立ちを説明できること、さらに 1980 年代に登場した Activity-Based Costing の基本的なメカニズムを説明できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

原価計算論Ⅱは講義形式で授業を行います。毎回、テキストと事前に配布した資料を利用して、重要な概念および理論的な解説を行います。そのうえで、例題を解いたり、実際の企業の実例を紹介することで理解を深めてもらいます。本講義では、原価管理目的に有用な原価計算である標準原価計算、短期的な利益管理目的に有用な直接原価計算ならびに CVP 分析、さらに Activity-Based Costing と伝統的な製造間接費の配賦方法との比較について学習を行います。理解を深めるための問題また発展問題を授業中または宿題として出すので必ず解いてくること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	講義の概要紹介	原価計算論Ⅱで取り扱うテーマの概要についての紹介を行う。
2	標準原価計算の意義及びその諸目的	標準原価計算の意義とその目的について、原価管理目的への役立ちを中心に説明する。また、歴史的な経緯も説明する。
3	標準原価計算における原価標準の設定	標準直接材料費、標準直接労務費および製造間接費標準の設定方法を説明する。
4	標準原価計算における原価差異分析（四分法を中心に）	製造直接費および製造間接費の差異分析について説明する。なお、製造間接費の差異分析については四分法を中心に詳しく説明する。
5	標準原価計算の現代的な意義	現在の製造環境のもとでの標準原価計算による原価管理目的への有用性について、いくつかの文献を手掛かりに議論を行う。
6	CVP 分析の意義	C・V・P 分析の意義、ならびに貢献利益（限界利益）の意味を中心に説明する。
7	CVP 分析の例題	C・V・P 分析にかかわる様々な問題（一定の利益を達成するために必要な売上高など）を解く。
8	直接原価計算の意義とその目的	全部原価計算との対比で直接原価計算の意義および短期利益計画目的での有用性について説明する。
9	直接原価計算および全部原価計算による損益計算書の作成	直接原価計算に基づく損益計算書の作成について、全部原価計算に基づく損益計算書の作成との対比で、例題を交えながら説明する。
10	直接原価計算と全部原価計算における営業利益の比較	直接原価計算と全部原価計算に基づく損益計算書において営業利益に差異が生じる状況とその原因およびそれが経営者の意思決定に及ぼす可能性のある影響を中心に議論する。
11	ABC の基礎的な概念	ABC が生成した歴史的背景および基本的な用語や概念について説明する。
12	ABC と伝統的な製造間接費の配賦との比較	ABC と伝統的な製造間接費の配賦方法との違いをその相違点に焦点を当てて説明する。また、その相違が経営意思決定に及ぼす影響も説明する。いくつかの実例も紹介する。

1 3	ABM	ABC で得られた情報を原価管理目的で利用する手順やそれによるメリットを考察する。
1 4	講義のまとめ	原価計算論Ⅱで学習した内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義を受ける前に、各回の指定されたテーマについて該当箇所のテキストを読むとともに、授業支援システムを通じて事前に配布された資料に必ず目を通しておくこと。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして講義に望むこと。必要に応じて、講義の終了時点で各回に学習した内容の復習また発展的な問題を配布します。次回の講義ではこの問題を解くことで前回の講義の振り返りを行いますので必ず問題を解いて出席すること。

【テキスト（教科書）】
山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社 2016 年 (2400 円税別)

【参考書】
参考文献また推薦図書については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の結果（80％）に課題の提出状況（20％）を加味して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容が難しいというコメントがある一方で、簡単であるというコメントも見られます。両者を満足させることは難しいのですが、講義ではできるだけ基本的なところから説明を行い、発展的な問題については課題などで補足したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
事前配布資料は授業支援システムを通じて配布します。

【Outline and objectives】
This class aims to develop students' understandings on what roles cost information provided thorough a cost accounting system play in implementing cost management and short-term profit planning in organization. It is also explains the way activity-based costing, proposed based on observation of practices, allocates indirect cost to products and the effects ABC information on management decision making with reference to traditional cost allocation mechanisms.

MAN300MA

経営分析Ⅰ・Ⅱ

高橋 美穂子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall
曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の主たる目的は、企業を分析、評価するための手法を学ぶことにあります。講義では、企業の公表する財務会計情報や定性情報を用いて、企業を分析、評価するためのフレームワークを解説します。

【到達目標】
本講義の到達目標は、受講生が企業を評価するために必要な知識とスキルを習得することにあります。
経営分析Ⅰ（春学期）の目標は、受講生が講義で学んだ分析手法を用いて、企業の「過去・現在」についてそれぞれの分析に基づいた見解に到達することです。
経営分析Ⅱ（秋学期）の目標は、受講生が企業の「過去・現在」（経営分析Ⅰ）の結果に基づいて「将来」を予測し、その予測値と企業価値の理論的つながりを理解できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行います。質問や疑問点がある場合は、遠慮なく講義中あるいは講義終了後に発言してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
Ⅰ 春学期		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
2	企業評価のフレームワーク	企業評価の全体像
3	情報収集	重要な情報とその入手方法
4	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
5	事業の理解（2）	企業戦略分析
6	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系
7	会計分析（2）	財務会計情報（システム）の限界
8	財務比率分析（1）	財務比率分析の視点
9	財務比率分析（2）	成長性の分析・収益性の分析
10	財務比率分析（3）	ベーシック ROE 分解
11	財務比率分析（4）	利益率の分析
12	財務比率分析（5）	企業戦略と利益率の関係
13	財務比率分析（6）	回転率の分析
14	まとめ	春学期の総括
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
2	春学期の復習（1）	財務諸表の構成要素と体系
3	春学期の復習（2）	ベーシック ROE 分解
4	収益性の分析（1）	アドバンスト ROE 分解（1）
5	収益性の分析（2）	アドバンスト ROE 分解（2）
6	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率
7	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係
8	貸借対照表項目の予測	過去の比率に基づいて貸借対照表項目を予測する
9	損益計算書項目の予測	過去の比率に基づいて損益計算書項目を予測する
10	貨幣の時間的価値と割引計算	貨幣の時間的価値、年金および年金型投資商品の現在価値
11	資本コスト	資本コストの推定方法
12	企業評価理論（1）	配当割引モデルと残余利益モデル
13	企業評価理論（2）	残余利益モデルの特徴
14	まとめ	秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容（特に講義中に行った練習問題や課題）が理解できるよう、復習をしてください。

【テキスト（教科書）】
ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マクローヒル・エデュケーション、2015 年

【参考書】
乙政正太著『財務諸表分析（第2版）』、同文館出版、2015。
桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

発行日：2019/5/1

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期ともに定期試験（100 %）で評価します。また、小テスト（課題）を行う可能性もあります。この場合、小テストの点数はボーナスとして定期試験の点数に加点します。

【学生の意見等からの気づき】

公表されている財務諸表を用いて分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き実際の財務諸表を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

講義中に問題演習を行う場合がありますので、授業には電卓を持参してください。

また、企業の有価証券報告書をダウンロードし、財務比率の計算などを行う場合があります。携帯電話で確認するのが難しい場合はパソコンを持参してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）の内容は理解していることを前提に授業を進めますが、受講生からの要望があれば必要に応じて補足説明をします。分かりにくい点があれば、遠慮なく質問してください。講義環境の維持のため、私語には厳しい態度で対応します。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline and objectives】

The primary objective of this course is to prepare students understand how to analyze and value business firms. Students learn an effective framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

SOC100MA

異文化適応論

浅川 希洋志

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生きるとき、われわれは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化間理解ということを考えるとき、われわれは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであると考える傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。本講義では、文化心理学における比較文化的実証研究を取り上げながら、心の働きと文化の関連性について学んでいくとともに、世界という視点で捉えたとき、われわれが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能がいかに特殊な文化に根ざしたものであるかを学んでいく。また、講義で扱う様々なトピックを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを併せて考えていく。

【到達目標】

しつけや教育の仕方、あるいは教育システムといったものが、いかにその社会で適応的に生きる人々、つまりその社会にあった行動パターンや感情の働き方を身につけた人々を育てるために作り上げられてきたものであるかを、授業で扱う様々なテーマを通して理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心に授業を行う。また、心と文化の関係を描き出すようなビデオ、DVD があれば適宜紹介したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要を説明する。
第 2 回	文化心理学とは何か	文化心理学という分野がどのような理由から展開されるに至ったのかを、研究者の文化的盲点という観点から解説していく。
第 3 回	文化による自己認識の違い	文化による自己の捉え方の違いが、人々の認知や思考、行動にどのような影響をもたらすかを解説していく。
第 4 回	意欲構造の文化的差異	意欲の構造が文化によってどのように異なるかを、日米の実証的研究を紹介しながら解説していく。
第 5 回	日本人の努力帰属傾向	日本人が努力に価値をおく傾向が強いことを、日米の実証研究を概観しながら解説していく。また、その理由を考察する。
第 6 回	いい子アイデンティティの早期形成と自己規制のメカニズム	日本人の子どもが早期にいい子アイデンティティを形成し、それによって、いかに社会生活で自己規制を働かせるのかを解説していく。
第 7 回	日本のいい子、米国のいい子	日米のいい子像がそれぞれの社会で求められる人間像を反映するものであり、学校教育がいかにそれらを促進していくかを、解説していく。
第 8 回	日本人の気持ち主義	日本人がいかに人の気持ちを重視し、気持ちを知ろう、読もうとする傾向が強いのか、またなぜ日本人がそういった傾向を身につけてきたのかを、解説していく。
第 9 回	気持ち志向のしつけ	気持ち志向を促進する日本のしつけの方法を、欧米のしつけの方法と比較しながら、解説していく。
第 10 回	日本人の道徳意識と道徳的判断	日本人の道徳意識と道徳判断が、欧米人のそれに比べ、人間関係的、感情的なところに強く影響されることを、実証研究をもとに解説していく。
第 11 回	道徳判断に必要とされる情報の日米比較	道徳判断において、日本人は人間関係的、感情的情報を求め、米国人に比べ、善悪の判断が厳しくない傾向にあるが、その理由について、実証研究を交えながら考察していく。
第 12 回	大きなピクチャーを捉えるために	さまざまな事件の原因推測に関する実証研究を紹介しながら、そこに、文化による自己観の違いが、いかに鮮明に反映されているかを確認していく。

第 13 回 生態環境から認知にいたる流れ

人々の生きる環境が、人々の行動や思考のパターン、そして認知のプロセスにどのように影響してきたのかを、歴史という大きな流れの中で捉え、ひとつのモデルとしてそれを解説していく。

第 14 回 授業の総括

授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。

【参考書】

東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994 年）、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998 年）、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992 年）、箕浦康子著『文化のなかの子ども』（東京大学出版会、1990 年）、リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004 年）等。また、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。

【Outline and objectives】

This is an introductory course in cultural psychology. By being introduced to the theories and empirical findings in the field, students learn how culture shapes psychological processes of people. Especially, this course focuses on how cultural settings shape people's emotion, cognition, motivation, and relationships. In addition, what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies is argued by examining relevant topics throughout the course.

SOC200MA

市民社会と政治

谷本 有美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「市民社会」の概念は極めて多義的ですが、この講義では 1990 年代に台頭してきた「現代の市民社会」を中心に学びます。政府・自治体の政策形成過程と市民の参加、及び NPO・NGO（市民セクター）と政府セクターとの協働ないし緊張関係に焦点を当てながら、日本の統治機構の伝統的な態様を理解することを第一の目的とします。その上で、政府・自治体の政策形成・決定に対する市民セクターの関与のあり方について、多元的な統治（ガバナンス）という考え方を視野に入れつつ、実践的に考えていきます。

【到達目標】

- ・市民社会が政策形成に与える影響やその手法を学ぶ
- ・政治や行政に関して当事者意識を持った判断や行動ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、現代社会の事象を取り上げていきます。また、取り扱った内容に関連して適宜アクションペーパーの提出を求めます。

前半は、日本における市民社会と政府・自治体との関係性について歴史的变化を学んだ上で、市民社会と政府・自治体・国際政治の各レベルにおける連携・緊張関係を示す具体的事例を取り上げ、政策形成過程への市民社会の関与の意義を検討していきます。

中盤では、2010 年代に行われた諸外国の国民投票や日本の自治体における住民投票の事例を取り上げて、政府・自治体の意思決定に関わる直接民主制の諸課題を検討し、市民社会と民主政治をめぐる問題に目を向けていきます。終盤では、自治体レベルでの市民参加の実態を学びながら、間接民主制のもとでの有権者の参加のあり方を実践的に考えてみます。

最後に市民社会の多様性を念頭に置きながら、政策形成への関与について多角的な側面からアプローチし、市民社会のガバナンスに関わる問題を考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	市民社会と政治をめぐる最近の事象を紹介し、民主主義の観点で認知していく
第 2 回	市民社会を表す概念の整理	講義で扱う「市民社会」「市民セクター」等の用語を理解する
第 3 回	市民セクターの活動と政府	戦後日本の歴史を踏まえつつ、市民社会と政府との関係形成の時代的特性を解説する
第 4 回	市民セクターの活動と政策形成への影響	市民社会の取組みが政策展開に一定の影響をもたらした国内の事例を検討する
第 5 回	市民セクターの活動と国際政治の場	グローバルに活動する NGO の動きと国際政治との関わりについて事例から学ぶ
第 6 回	市民セクターと直接民主制	直接民主制の手段として、近年諸外国で行われた国民投票の例を題材にしながら、日本における国民投票の可能性と課題を考える
第 7 回	市民セクターと住民投票	近年の住民投票の運用事例から、市民社会の自治体政策への関与の可能性と諸課題を検討する
第 8 回	自治体レベルの「民意」と国政との関係	自治体レベルの「民意」と国政との相克関係を具体的事例から考える
第 9 回	21 世紀の市民参加と自治体の政策形成	1990 年代半ばからの地方分権の時代に活発化した市民参加の手法を取り上げ、その傾向と今後の可能性を考える
第 10 回	市民参加のあゆみと市民社会の適応	1970 年前後に市民参加を先駆けた自治体の事例から参加の理念と運用の実態を学ぶ
第 11 回	市民セクターの合意形成	討議性民主主義の観点で進められている市民参加の新たな試みを取り上げながら、市民間の合意形成に関わる諸課題を検討する
第 12 回	市民セクターと自治体議会	自治体議会における市民参加の取り組みを学び、議会への市民の関わり方を考える

第 13 回	市民社会のガバナンスを考える (1)	社会的マイノリティや参加から排除されがちな人々の参加の機会や人権の問題について、社会的包摂の視点を踏まえて検討する
第 14 回	市民社会のガバナンスを考える (2)	寄付に対する税制優遇のしくみと市民の活動を支える資金の流れを概説した上で、市民社会への資金供給とガバナンスの問題について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。自分の関心分野の中から、政府・自治体あるいは国際機関等との関わりのあるトピックを見つけ出し、常にウォッチする習慣を身につけてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】

授業内で必要に応じ、参考文献等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末の論述試験（80 %）に、授業内の小レポート提出状況等（20 %）を加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ビデオや新聞記事等を活用して、具体的な事例から考える機会を提供します。

【その他の重要事項】

地方自治論、NPO・ボランティア論及び NGO 活動論を履修済か、同時期に履修することで、本講義の理解をより深めることができます。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The contemporary civil society that emerged in the 1990s will be learned mainly. Firstly, it is aimed at understanding the traditional behavior of the governmental organization in Japan. The policy making process and citizen participation of the central and local governments will be taken as an object of study. The cooperation or tension relationship between civil society and the governments will be dealt with, next. Secondly, the students shall think over the citizen's participation in policy making process from the viewpoint of pluralistic governance.

CAR200MA

労働環境法

水野 圭子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電通自殺事件に象徴されるように、労働の場において、労働時間、休憩、休暇といった労働条件によって形成される労働環境は極めて重要な問題を提起しています。このような労働者の健康、安全衛生、労働災害といった従来からの問題だけではなく、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、マタニティハラスメントなど人格権侵害への対策、少子高齢化社会を念頭に置いたワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境、障害を持つ労働者に対する合理的配慮など様々な新しい問題にも労働環境といった観点から考察することが求められています。このような労働環境を形成する法律と判例について基本的な知識と理解を習得することを目的とします。

【到達目標】

1. 「労働環境法」とかかわりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解する。
2. 「労働環境法」と関わりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題（ビジネス実務法務検定）を解答できるようになる。
3. その次の段階として、「労働環境法」と関わりのある労働法上の法規制および重要な判例について、社会保険労務士・労働基準監督官の試験程度の問題についても、難易度が高くないものであれば、解答できるようになる。
4. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について、論理的に解説できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

PowerPoint を用いながら講義を行う。労働環境について、学生である皆さんは明確なイメージを持ちにくいと思うので、ドキュメンタリーなどの映像資料を使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、労働環境法が対象とするもの	講義の進め方や評価方法の説明。「労働環境法」「労働法」の簡単な全体像の説明。
第 2 回	労働環境法の基礎知識	「労働環境法」を履修するにあたって必要な最低限の法学に関する知識についての説明。
第 3 回	労働環境を構築する労働法の仕組み	労働環境を作る労働条件がどのようにまもられているのか。
第 4 回	労働時間・休憩・休暇・休息時間といった労働環境	休憩・休息時間・休日・年次有給休暇など休むことについて
第 5 回	労働時間制度について	法定労働時間とは、労基法上の労働時間、労働時間の延長の仕組みについて
第 6 回	休憩・休暇	労働時間の対をなすと休む時間、休憩時間、年次有給休暇、インターバル規制についてなど
第 7 回	労働安全衛生法（概要）	労働者の安全衛生の確保。産業界の問題点。
第 8 回	労働者災害補償保険法（1）（制度概要・業務災害）	労災保険は誰が保険料を払い、どのような場合に労働者に保険が給付されるのか
第 9 回	労働者災害補償保険法（2）（制度概要・業務災害）	過労死や過労自殺の問題と労災認定の基準について
第 10 回	少子化とワークライフバランス（1）	女性の社会進出と労働環境の整備、社会的な影響について、就業率、労働時間、年取、賃金補償などの観点から検討する
第 11 回	少子化とワークライフバランス（2）	就業率の向上、労働時間の短縮はどのように行われてきたのか、海外の事例を含め検討する
第 12 回	新しい労働問題	近年問題となった労働問題について検討を行う。 マタニティハラスメントや障害者雇用に対する合理的配慮など。
第 13 回	労働契約の始まり	就職活動、採用内々定、内定、本採用といった正社員として働くまでの労働契約とその問題について検討する
第 14 回	労働契約の終了・労働契約の承継	辞職、解雇やリストラといった労働契約の終了、労働契約の承継である企業組織変動について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
講義の終わりに、次回の該当箇所を指示するので、教科書の該当部分を熟読し、講義に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

高橋賢司『労働法講義』（中央経済社）
六法を用意すること。六法についてはガイダンスで説明する。

【参考書】

1. 浜村彰ほか『ベーシック労働法』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

1. 「試験」（80 %）
定期試験として 1 回実施。論述形式の問題を出題する。
2. 「授業中に実施する確認問題」（20 %）
講義中に確認問題を出題する（1 回の講義で 1～2 問程度）

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を配布プリントに記載するなどして、さらに具体的なイメージを持てるような講義としたい。

【その他の重要事項】

講義内容は、受講者の問題関心や理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

As symbolized by the Dentsu suicide incident, the working environment formed by working conditions such as working hours, breaks, vacation raises extremely important problems. As a starting point, we will consider important problems on labor laws and related that problems such as workers' health, safety and health, and work-related injuries. Furthermore, we will consider countermeasures against infringement of personal rights such as power harassment, sexual harassment and maternity harassment. We also consider work-life balance from the view of declining birthrate. We also study various new problems such as reasonable consideration for workers with disabilities. It aims to master basic knowledge and understanding about law and case in this lecture.

教職入門

児玉 洋介

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

今日の学校教育の抱える様々な課題、教師に対する様々な期待などを視野に入れながら、中等教育（中学高校）に焦点を当てて、「教職の意義」「教員の役割」「教員の職務」を主たる要素に授業を構成する。多人数の授業であっても、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流を大切に授業をすすめていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と 4 年間の学びのイメージ	本講座の授業計画の概要、進め方。教員養成制度のしくみと、教師になるために学ぶべき内容の概略。
第 2 回	教師という職業の特徴	「教師像」と、教師に寄せられる期待を小説等を題材に考えながら、教師という職業世界に接近する。
第 3 回	教職の歴史	近代学校制度と教職観の変遷をたどりながら、今日の教員に求められる期待と役割を考える。
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	教職の専門性の捉え方、専門性を獲得していく手立て、そのための教員の育成と現職研修のしくみ。
第 5 回	現代の学校と教師の資質・役割	今日の学校現場での教師の実生活と、ライフステージ。
第 6 回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教員の「勤務の特殊性」とは何か。教員の働き方をめぐる困難な課題とその改善に向けたとりくみ。
第 7 回	勤務の全体像	専門職として「教育をつかさどる」仕事と、学校という組織を集団的に運営する校務の分掌。
第 8 回	職務内容①：教科指導	授業をつくる。授業から学ぶ。カリキュラムをデザインする。
第 9 回	職務内容②：生徒・生活指導	いじめ、非行、不登校など、生徒の発する困難な諸課題ともかかわりながら、生徒を育み、生徒と生きる教師。
第 10 回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	「学ぶ」こと、「働く」ことの意味を問いながら、生徒自身の内に進路を拓く力を育む。
第 11 回	職務内容④：学級経営	一年間の学級のあゆみを通して、生活や行事のなかでの学級の変化や成長を見る。
第 12 回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	学校の教育力、学校が創り出す文化の源となる教職員の共同。
第 13 回	地域・家庭・多様な専門家との連携	子どもの貧困、学力格差、不登校、非行など、広がる子どもの課題に対応するための連携・共同。

第 14 回 まとめ：変わる学校、学び続ける教師 人権教育、インクルーシブ教育、主権者教育など、広がる教育課題と、転換期の学校にあって、学び続ける教師。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別に時間をかけた授業準備等の必要はないが、3 回の課題レポート作成に關して、必要な調査・研究を進める。

【テキスト（教科書）】

特に定めがないが、授業の中で教員が適宜、参考文献等を指示する。

【参考書】

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示 文部科学省）
生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省） ※ PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加状況（リアクションペーパー等を活用）及び授業テーマに関連した課題レポート（3 回）などから、基本的な知識や考え、教職課程の学びへの取り組みの意思等を見て、総合的に評価する。定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の人数が多いので講義中心となるが、学生の今の問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業でも、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】

講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進めるが、学生の側の機器準備は必要ない。但し、レポートは word などの電子データで作成し、授業支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

EDU100MA

教職入門

天野 一哉

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまでに以上に教育するという行為への強い気持ちと生涯にわたって学び続けるという自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状、かれらを取り巻く諸問題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を、対話を通して実践的に深めていく。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

次期学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」が1つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	4年間の学びをイメージする
第2回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学・教職課程
第3回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度、教員採用
第4回	職業としての教師としての成長	研修・免許更新、服務義務
第5回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第6回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第7回	教職に関する実務①	学校という組織の運営、公務分掌
第8回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第9回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第10回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子供たち
第11回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第12回	教職の課題①	子供の貧困、学力格差、力のある学校
第13回	教職の課題②	「チーム学校」への対応、協働と連携、「共生」社会
第14回	教職の方向性	変わる子供の学び・学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的専門書（教育史を含む）の引用とフィールドワークを必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。

【テキスト（教科書）】

高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水（2017）『改訂版教職概論』協同出版

【参考書】

天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社
中学校学習指導要領（平成29年3月公示）、高等学校学習指導要領（平成21年3月）、
生徒指導提要（平成22年3月） ※いずれもPDFでダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題：40%、定期試験：60%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーション等のスキルは、1回、2回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】

春学期（本講）・秋学期（教育原理）合わせての履修の推奨する。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

EDU100MA

教職入門

高野 良一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、授業中にペアワークやディスカッションも入れる。また、ほぼ毎回コメント・ペーパーを作成して、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて次回授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と 4 年間の学びのイメージ	教職履修の全体イメージ、本授業の構成、進め方と評価
第 2 回	教師という職業の特徴	受講生の教職像、教職アイデンティティ、教職の 3 要素
第 3 回	教職の歴史	戦前の教師、戦後①「二十四の瞳」、戦後②学園ドラマ中の教師
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	「学び続ける教師」、「反省的实践家」、教師養成「改革」
第 5 回	現代の学校と教師の資質・役割	学校改革の展開、教員評価、「私の出会った教師」再考
第 6 回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教師の権利と責務、教師の労働実態、「教師の働き方改革」
第 7 回	職務の全体像	教育指導の 4 分野、教師の指導文化、部活動
第 8 回	職務内容①：教科指導	学習指導要領改訂、各教科の変更点、授業研究
第 9 回	職務内容②：生徒・生活指導	生徒指導の日本的特質、校則指導、いじめ指導
第 10 回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	総合学習の時間、進路指導、キャリア教育
第 11 回	職務内容④：学級経営	学級の歴史、学級規模、担任教師の役割
第 12 回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	教職員の構成、校務分掌、チーム（同僚性）
第 13 回	地域・家庭・多様な専門家との連携	保護者の学校参加、コミュニティ・スクール、異視線の専門家との連携
第 14 回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	「学び続ける教師と教職履修生」、修了試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育新聞や月刊誌、書籍が配架され、学校体験やボランティアの情報も掲示されているので、機会を見つけて訪問してほしい。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

藤本典裕『新版（改訂二版）教職入門：教師への道』図書文化社
学習指導要領、生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省）
※ PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4 年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題：40 % 程度、修了試験：60 % 程度を目安として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当する授業である。授業内発言やコメントペーパーなどを通じて、学生の意見などを授業に反映させたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

EDU100MA

教職入門

寺崎 里水

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考えることを前提に、以下の事柄を到達目標とする。

- ①教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解すること。
- ②教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないかが理解できること。
- ③授業を通して、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式で行う。

授業内で指定された課題のもとにグループディスカッション、リアクションペーパーの提出を求めることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：4 年間の学びのイメージ	職業を選択するということ、教職を選択するということ
第 2 回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学における教職課程
第 3 回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度・教員採用
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成	研修・免許更新・服務義務
第 5 回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第 6 回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第 7 回	教職に関する実務①	学校という組織の運営・校務分掌
第 8 回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子どもたち
第 11 回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第 12 回	教師の課題①	子どもの貧困、学力格差、力のある学校
第 13 回	教師の課題②	チーム学校への対応、協働と連携
第 14 回	教職の方向性	変わる子どもの学び、学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定の範囲を事前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水（2017）『改訂版教職概論』協同出版

【参考書】

生徒指導提要（平成 22 年 3 月、文部科学省） ※ PDF でダウンロード可能
植上一希・寺崎里水（2018）『わかる・役立つ教育学入門』大月書店

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4 年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。

具体的には、授業中に提示される課題：40 %、定期試験：60 % で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

教職課程を履修する学生を対象に開講する科目です。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

EDU100MA

教育原理

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的变化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は予習を大前提に進むので、履修者はテキストブックを読み、「予習のための Questions」に対する自分の解・考察をノートに書いたうえで授業に臨むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	テキスト序章を下敷きとする
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	なぜ教育は支配階級のためにしか存在しなかったのか？（プラトン『国家論』とジョン・デューイ『哲学の改造』を下敷きに。テキスト第 1 章第 1・2 節、第 4 章第 1 節）
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	修道院・修道僧が「学校」「教師」のモデルになったのはなぜか？（エミール・デュルケイム『フランス教育思想史』を下敷きに。テキスト第 1 章第 3 節）
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	中世に「こども」はいなかった？（フィリップ・アリエス『子供の誕生』を下敷きに。テキスト第 4 章第 1 節）
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	絶対王政に対抗する市民社会で生まれた教育思想はどのようなものか？（ルソーとコメニウスを取り上げる。テキスト第 2 章第 1～3 節）
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命による社会変化は教育観・方法論にどのような影響をもたらしたか？（助教法・ベル＝ランカスターシステムを取り上げる。テキスト第 3 章第 1～3 節）
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	帝国主義はなぜ・どのように近代公教育制度の成立を促したか？（テキスト第 3 章第 4 節）
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	「児童の世紀」と「児童中心主義」が生まれてきた社会的背景はどのようなものか？（エレン・ケイ『児童の世紀』とジョン・デューイ『子どもとカリキュラム』を下敷きに。テキスト第 3 章第 4 節）
第 9 回	発達と学習	「こども」から「おとな」へと人はどうのように発達してゆくのか？（エリック・エリクソン『ライフサイクル、その終焉』を下敷きに。テキスト第 4 章第 2～3 節）

第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校給食か手作り弁当か？——公教育と家庭・養育の関係性とその歴史的変遷
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	知識伝達型授業か知識活用型授業か？——児童中心主義とカリキュラムの中心統合理論との融合
第 12 回	個性・能力・学力と教育思想	集団教育か個別教育か？——「その子の個性・能力」を見極め育てることの困難
第 13 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	AI ロボットに教わるか生身の先生に教わるか？——高度知識社会における人間性の発達
第 14 回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	総まとめ：教育の基本的諸概念に関するミニ・クイズを解いて理度を確認する 定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進め方と方法、を参照

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版局

【参考書】

・筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマシニスト社・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史の変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の 3 つの方法で確認し評価します。
毎回授業終了時提出のリアクションペーパー 28%（2×14 回）、中間レポート 22%、期末論述試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前方で上映するパワーポイントのスライド枚数は極力減らしていますので、じっくり考えながらノートをとる時間を確保できます。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

EDU100MA

教育原理

天野 一哉

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

教育の諸問題は私たちが生きている今ここで起こっている現実であることから、書籍やネットなど閉じた媒体のみに学ぶのではなく、生身の人間、動いている世の中から発掘すべきである。そこで、授業では学生諸君と担当教員、ゲスト・スピーカーとの対話、そして教育現場へのフィールドワークから「教育とは何か」「問題点は何か」「いかに改革すべきか」などを考察してもらおう。また「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

【到達目標】

教育の基本的諸概念を踏まえ、教員・同学及び専門家との対話や教育現場への取材を通して、現在の教育を知り、自分自身の“教育原理”を探究する。具体的には教員として、あるいは社会人としての知識のみならず、意識とスキルの向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実践力育成のため、対話による PBL(Project Based Learning) の手法を用いて、課題設定・調査・分析・考察・発表等の方法を学ぶ。

次期学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」が 1 つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的及び方法、「教育原理」についてディスカッション
第 2 回	「教育」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 3 回	「学習」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 4 回	「教員」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 5 回	教育史①	世界の教育史の概観
第 6 回	教育史②	日本の教育史の概観
第 7 回	教育思想①	世界の思想の概観
第 8 回	教育思想②	日本の思想の概観
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	ゲスト①	現任教員によるキャリア教育等の学校現場報告と対話
第 11 回	教育評価	自己評価・ルーブリック評価・ゴールフリー評価
第 12 回	プレゼンテーション①	第 1 1 回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第 13 回	プレゼンテーション②	第 1 1 回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第 14 回	総まとめ	全授業テーマの総括と学生の省察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的専門書（教育史を含む）の引用とフィールドワークを必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する』法政大学出版局

【参考書】

天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社
 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本分、解説、資料）、※いずれも文部科学省 HP より最新版をダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的な諸概念を理解しているか、それを用いて、教育の諸問題について考察する力がついているかを毎回の「100 字以上省察」： 40 %、レポート（またはプレゼンテーション）： 60 %で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーション等のスキルは、1 回、2 回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】

春学期（教職入門）・秋学期（本講義）合わせての履修の推奨する。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

EDU100MA

教育原理

遠藤 野ゆり

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的な概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的な概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回の予習課題を出しますので、その課題を遂行したうえで授業に臨んでください。授業では教員からの発問が中心です。主体的に臨んでください。受講生の希望に応じてグループディスカッションを取り入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	本授業の内容と目的について理解します。
第2回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	古代ギリシャ、ローマ時代の教育について、社会の仕組みや思想の観点から理解します。
第3回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	キリスト教が隆盛を極めた時代に教育がどのように成立したのかを理解します。
第4回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	中世後期の教育について理解します。当時の「子ども」が社会においてどのような存在だったのかを理解します。
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	近代になって市民社会が成立する中で教育思想はどのように生まれたのかを理解します。
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命によって社会の経済が急激に変化したことは、教育思想にどのような影響をもたらしたのかを理解します。
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	19世紀後半に教育の制度がとった背景には何があったのかを帝国主義や大戦の影響の中で見ていきます。
第8回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	戦後の日本の学校教育はどのような思想に支えられているのか、またその問題は何かを理解します。
第9回	発達と学習	子どもの発達の特徴を理解し、学校教育における学習とのずれ違いを理解します。
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	公教育を支える学校外の環境が子どもの学習に与える影響を理解します。
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	教科指導、生徒指導の基本的な枠組みを理解します。
第12回	個性・能力・学力と教育思想	子ども個々の個性と画一的な「学力」との齟齬を理解し、根底に流れる教育思想を理解します。
第13回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	学校教育の役割は今後どのように変わっていくのか、AIと学校教育との関係を含んだ「未来の教育」について考えます。

第14回 総まとめ：教育の理念・授業全体の総括をします。
歴史・思想についてのふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間指定された範囲の予習をしてきてください。

【テキスト（教科書）】

・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版局

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史的変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、予習課題と授業への取り組み（30 %）、期末テスト（70 %）から判断します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の振り返りの時間が足りないということなので、振り返りの時間が十分に取れるように気を付けます。

【その他の重要事項】

授業の構成は受講者の要望に応じてそのつど若干の調整をおこないます。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

EDU100MA

教育原理

飯窪 真也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的な概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的な概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	授業で扱う内容を俯瞰します。
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	古代ギリシア・ローマ時代における教育の発祥について、当時の社会背景と結び付けながら考察します。
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	キリスト教社会の文脈とその文脈における教育の意味を考察します。
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	時代によって異なる「こども」の捉え方について考察します。
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	ルネッサンス期の社会やものの見方の変化に基づく教育についての考えを考察します。
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命を背景にした公教育黎明期の教育システムについて考察します。
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	近代的な国家の成立に伴う国家による教育の基本的な枠組みについて考察します。
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	現代日本の教育整備の向かう方向について、その背景にある考え方から考察します。
第 9 回	発達と学習	教育を考える際の基本になる発達と学習の基礎的な考え方を学びます。
第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	公教育と家庭、地域社会の関係について、今日的な課題をとりあげ考察します。
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	教科指導・生徒指導の諸理論について学びます。
第 12 回	個性・能力・学力と教育思想	教育思想の背景にある個性・能力・学力の考え方について掘り下げます。
第 13 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割について、総括的に考察します。
第 14 回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり（授業内試験）	授業で扱った内容を振り返り、次の学びへつなぎます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の内容について復習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版局

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史の変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の 3 つの方法で確認し評価します。
授業への参加姿勢 30%、リアクションペーパー 30%、授業内論述試験 40%等により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

EDU100MA

教育原理

澤里 翼

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的な概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的な概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

序盤は講義中心ですが、中盤以後は授業前半でグループで調べた内容を発表してもらい後半で解説や不足部分の講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	講師の紹介、今後の授業内容、評価の方針等についてもお話しします。
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	教育や教育学に影響を与えた、ギリシャの哲学者や中国の思想家等を紹介します
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	「学校」の成立とその形態について扱います
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	子どもを生まれながらに「善」「悪」あるいは「白紙」とみる見方について発表してもらい・解説します。
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	教育における遺伝と環境の役割について過去を辿ったうえで、現在の展開について紹介します
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	一斉教授の成立とそのメリットデメリットについて考えます
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	教育費負担のしくみがどうあるべきかについて議論します
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	学校を「監獄」とする見方について考えます
第 9 回	発達と学習	系統的学習と経験的学習について比較・考察します
第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校運営への家庭や地域の関わり方について議論します。
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	いじめや体罰などの教育問題について考えます
第 12 回	個性・能力・学力と教育思想	教育格差、学力格差の問題について扱います。
第 13 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	教育内容を定めるべき主体がだれなのかについて考えます
第 14 回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	小テスト実施予定です

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループの担当箇所について調べ、発表してもらう予定です。最低 1 回は授業外でグループの打ち合わせが必要になると思います。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません

【参考書】

・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版局・筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマシニスト社
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（各回提出してもらいアクションペーパー） 10 %
小テスト 10 %
授業への貢献度（ミニ・グループ・ディスカッション） 40 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムにできるだけ資料をアップするようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

EDU100MA

教育の制度・経営

植竹 丘

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

原則として担当者による講義を行う。毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい、発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、続回でリアクションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容、進め方、評価方法、社会的に教育現象を見る
第 2 回	世界教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割、教育政策決定過程について
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第 6 回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について、義務教育費国庫負担金制度、教員給与制度について
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第 8 回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第 9 回	学校と教員の評価	「PDCA サイクル」下での学校評価及び教員評価
第 10 回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第 11 回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第 13 回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく、専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること。

【テキスト（教科書）】

指定しない

【参考書】

小川正人・勝野正章（2016）『改訂版 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会。
小川正人・岩永雅也（2015）『日本の教育改革』放送大学教育振興会。
藤田祐介編著（2015）『学校の制度を学ぶ』文化書房博文社。
小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房。
小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会。
藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会 11）日本図書センター。
藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店。
日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版。
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%
疑問点の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントシートとして疑問点を提出させ、続回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大学設置基準第 21 条第 2 項の規定に基づき、一単位時間あたり最低 4.5 時間の自主学習が求められる。

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

EDU100MA

教育の制度・経営

高野 良一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業内容の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えること。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、これには危機管理や安全対策、地域との連携も含まれる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、授業中にペアワークやディスカッションも入れる。また、ほぼ毎回コメント・ペーパーを作成して、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて次回授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業のテーマと構成、進め方と評価、日本の学校改革の今
第 2 回	世界の教育改革	学校体系の国際比較、米国の学校制度改革、日本の学校制度改革
第 3 回	憲法・教育基本法	憲法教育条項、教育基本法の新旧比較、教基法の 1～3 条
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省、教育委員会、地教行法と学校
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領改訂、教科書制度、カリキュラム・マネジメント
第 6 回	教育財政制度と無償化	無償制、国庫負担金と補助金、就学援助と教育扶助
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校管理規則、校長とミドルリーダー、校務分掌
第 8 回	学級経営	学級の誕生と性格、学級編制基準、少人数学級・指導
第 9 回	学校と教員の評価	学校評価、教員評価、PDCA
第 10 回	教員の成長と同僚性	「学び続ける教師」、同僚としての教師、授業研究
第 11 回	子どもの人権と学校	子どもの人権、学校の指導文化、校則
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	災害等の危機管理、安全対策、学校と保護者の関係づくり
第 13 回	「チームとしての学校」	チーム学校提案、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー
第 14 回	地域や家庭に開かれた学校づくり	学校と地域の連携、コミュニティスクール、まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育新聞や月刊誌、書籍が配架され、学校体験やボランティアの情報も掲示されているので、機会を見つけて訪問してほしい。

【テキスト（教科書）】

教員が必要に応じて指定する。

【参考書】

勝野正章・藤本典裕編著『教育行政学（改訂新版）』学文社
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（40％程度）、定期試験（60％程度）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

コメントペーパーの記述を見ると、学んだ知識を踏まえて、自らの体験や意見を書くことに不慣れである。他者との意見交換の機会も増やしながらか、基礎知識を理解し自らの考えをまとめる力を養うことに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

EDU100MA

教育の制度・経営

植竹 丘

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

原則として担当者による講義を行う。毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい、発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、続回でリアクションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容、進め方、評価方法、科学的に教育現象を見る
第 2 回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割、教育政策決定過程について
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第 6 回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について、義務教育費国庫負担金制度、教員給与制度について
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第 8 回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第 9 回	学校と教員の評価	「PDCA サイクル」下での学校評価及び教員評価
第 10 回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第 11 回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第 13 回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく、専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること。

【テキスト（教科書）】

指定しない

【参考書】

小川正人・勝野正章（2016）『改訂版 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会。
小川正人・岩永雅也（2015）『日本の教育改革』放送大学教育振興会。
藤田祐介編著（2015）『学校の制度を学ぶ』文化書房博文社。
小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房。
小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会。
藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会 11）日本図書センター。
藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店。
日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版。
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%
疑問点の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントシートとして疑問点を提出させ、続回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大学設置基準第 21 条第 2 項の規定に基づき、一単位時間あたり最低 4.5 時間の自主学習が求められる。

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management,safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

EDU100MA

教育の制度・経営

仲田 康一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を原則とする。リアクションペーパーを各回配り、フィードバックとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について
第 2 回	世界の教育改革	新自由主義・新保守主義の改革
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後の憲法・教育基本法体制と学校教育体系とその変質
第 4 回	教育行政のしくみ	教育行政の構造と原則・計画行政の功罪
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程法制、教育課程の編成と実施、教科書と補助教材、教科書検定について
第 6 回	教育財政制度と無償化	教育を受ける権利の保障をめぐる論点の確認～特に貧困・格差等
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校制度・運営・教職員配置・組織構造
第 8 回	学級経営	日本の学級制度の意義や特殊性をめぐって
第 9 回	学校と教員の評価	standardization と accountability による教育改革
第 10 回	教員の成長と同僚性	教師の働く場としての学校・教師の権利と地位・同僚性のあり方
第 11 回	子どもの人権と学校	校則、懲戒・体罰、学校の助成/統制の問題など
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校安全法制
第 13 回	「チームとしての学校」	学校における多/他職種の連携について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校支援ボランティア・学校協議会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の再読、意見の言語化

【テキスト（教科書）】

特に指定せず、授業時に参考となるものを適宜示す。

【参考書】

勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学（改訂新版）』学文社
小川正人・勝野正章『改定版 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（40％程度）、定期試験（60％程度）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの記入を求めたが、それを読む限り時事に触れるトピックは関心が高く、メディアで語られていることを場合によっては相対化することが学生の関心と呼んでいたため、今年度もそうした問題を敏感に取り入れるよう心がける。

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

EDU100MA

教育の制度・経営

高野 良一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業内容の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えること。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、これには危機管理や安全対策、地域との連携も含まれる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、授業中にペアワークやディスカッションも入れる。また、ほぼ毎回コメント・ペーパーを作成して、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し、必要に応じて次回授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業のテーマと構成、進め方と評価、日本の学校改革の今
第 2 回	世界の教育改革	学校体系の国際比較、米国の学校制度改革、日本の学校制度改革
第 3 回	憲法・教育基本法	憲法教育条項、教育基本法の新旧比較、教基法の 1～3 条
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省、教育委員会、地教行法と学校
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領改訂、教科書制度、カリキュラム・マネジメント
第 6 回	教育財政制度と無償化	無償制、国庫負担金と補助金、就学援助と教育扶助
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校管理規則、校長とミドルリーダー、校務分掌
第 8 回	学級経営	学級の誕生と性格、学級編制基準、少人数学級・指導
第 9 回	学校と教員の評価	学校評価、教員評価、PDCA
第 10 回	教員の成長と同僚性	「学び続ける教師」、同僚としての教師、授業研究
第 11 回	子どもの人権と学校	子どもの人権、学校の指導文化、校則
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	災害等の危機管理、安全対策、学校と保護者の関係づくり
第 13 回	「チームとしての学校」	チーム学校提案、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー
第 14 回	地域や家庭に開かれた学校づくり	学校と地域の連携、コミュニティスクール、まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育新聞や月刊誌、書籍が配架され、学校体験やボランティアの情報も掲示されているので、機会を見つけて訪問してほしい。

【テキスト（教科書）】

教員が必要に応じて指定する。

【参考書】

勝野正章・藤本典裕編著『教育行政学（改訂新版）』学文社
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（40％程度）、定期試験（60％程度）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

コメントペーパーの記述を見ると、学んだ知識を踏まえて、自らの体験や意見を書くことに不慣れである。他者との意見交換の機会も増やしながらか、基礎知識を理解し自らの考えをまとめる力を養うことに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

EDU200MA

教育課程論

松尾 知明

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資質・能力を育成する教育への転換が求められるなかで、教育の現場では教師一人ひとりにカリキュラムのデザイン力とマネジメント力が求められる時代になっている。この授業では、資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解することを目的としている。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、教育課程を不断に改善するカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
2	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
3	教育内容の選択	教育の目的、教育課程編成の基本原則
4	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
5	学習指導要領とは	性格及び位置付け、社会的役割や機能
6	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
7	学習指導要領改訂の要点	教育課程編成の目的及び枠組み
8	学力論の承譜	教育課程と学力
9	カリキュラム・マネジメント	学習活動と条件整備活動の連関
10	社会に開かれた教育課程	社会とのつながり
11	教育課程と指導計画－通時性と共時性	教育課程の編成
12	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	教育課程の編成
13	カリキュラム評価	PDCA サイクルとカリキュラム評価
14	授業のまとめとテスト	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、教科書の該当する部分や資料を読み、課された課題を行う。

【テキスト（教科書）】

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30 %）、課題（40 %）、テスト（30 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の組み立て方を工夫する。

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

EDU200MA

教育課程論

黄 郁倫

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、カリキュラムに関して、その概念の歴史の変遷、近年の改革動向、特徴的な開発事例、という 3 つの観点から扱うことによって、より多角的に理解することを目指す。また、カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

21 世紀社会の資質・能力の育成を目指した教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義形式とともに毎回グループワークやディスカッションを取り入れる。事例は、VTR などにも利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回の授業の際には、コメントペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第 2 回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第 3 回	教育内容の選択	教育の目的
第 4 回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第 5 回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第 6 回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第 7 回	学習指導要領改訂のポイント	教育課程編成の目的及び基本原理
第 8 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方
第 9 回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第 10 回	教育課程と指導計画 (1)	指導計画のデザイン
第 11 回	教育課程と指導計画 (2)	学年・学期・単元をまたぐ視点
第 12 回	教育課程と指導計画 (3)	教科・領域の横断
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムの改善
第 14 回	授業のまとめ	日本における特徴的なカリキュラム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996 年
佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年
秋田喜代美／藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %
ホームワーク 20 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

EDU200MA

教育課程論

飯窪 真也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。
講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（40 %）、課題（20 %）、授業内試験（40 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

EDU200MA

教育課程論

飯窪 真也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。
講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（40 %）、課題（20 %）、授業内試験（40 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

EDU200MA

教育課程論

川津 貴司

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金 6/Fri.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作った「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第 2 回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第 3 回	教育内容の選択	教育の目的
第 4 回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第 5 回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第 6 回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第 7 回	学習指導要領改訂の要点	教育課程編成の目的及び基本原理
第 8 回	学力論の系譜	学力はどのように問題となってきたか
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方
第 10 回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	指導計画のデザイン
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	学年・学期・単元をまたぐ視点
第 13 回	カリキュラム評価	P D C A サイクルとカリキュラムの改善
第 14 回	授業のまとめとテスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は指定なし。プリントを配布する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30 %）、課題（40 %）、テスト（30 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生のニーズを考えながら、柔軟な授業展開をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。
また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

EDU200MA

教育方法論

岩本 俊一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に關する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、教育における方法の問題を、教授技術の学として成立するにいたる道筋をたどる中で論じるとともに日本の学校教育における具体的ありかたをいくつかの実践例を取り上げて分析する。さらにまた教育方法論の基本的な問題である生活指導と学習指導の關係について、我が国のカリキュラム体系と関連づけて考察する。
上記講義内容に関する理解を助けるため、我が国の学校における教育課程の概要及び具体的な実践例等、諸資料を適宜配布する。そのさい、情報機器、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ねらいと概要
第 2 回	教育方法と教師の専門性	・教師の専門性について考える
第 3 回	教育方法の基礎的理論	・児童生徒の学びと学習理論について考える
第 4 回	新学習指導要領と教育方法	・新学習指導要領と資質・能力の育成について論じる
第 5 回	教育の内容と学習活動	・単元の学習活動の構想 ・教育の内容と学習活動
第 6 回	学習活動と学習環境	・学習活動と学習環境について論じる ・学習環境としての学校について考える
第 7 回	教育目標の明確化	単元学習活動における目標及び設定について論じる
第 8 回	学力と評価の観点	・評価の考え方・進め方について論じる
第 9 回	主体的・対話的で深い学び	・主体的な学び/対話的な学びについて論じる
第 10 回	個に応じた指導の工夫	・個に応じた指導について考える
第 11 回	情報機器及び教材の活用	・情報機器の基本的な使用方法及び活用方法について
第 12 回	発問や板書などの指導技術	発問や番所などの指導の基本的技術について論じる
第 13 回	教育評価	・評価の考え方・進め方について論じる
第 14 回	授業のまとめ、テスト	・ふりかえりと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に内容をまとめる等、復習を通じて理解を深めるようにすること。

【テキスト（教科書）】

特に定めないが、参考文献などは適宜授業内において指示する予定である。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験 100 % で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。
ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline and objectives】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

EDU200MA

教育方法論

松尾 知明

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資質・能力を育成する教育への転換が求められるなかで、教育の現場では教師一人ひとりに授業デザイン力が求められる時代になっている。この授業では、資質・能力を育てる授業デザインや教育方法について検討するとともに、その知見をもとに単元指導計画を効果的にデザインすることについて考察する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
2	教育方法と教師の専門性	学びのデザイン力をつけるには
3	教育方法の基礎的理論	学びと学習理論
4	主体的・対話的で深い学び	思考力を育む
5	個に応じた指導の工夫	一斉指導から個に応じた指導へ
6	新学習指導要領と教育方法	資質・能力の育成に向けて
7	教育の内容及学習活動	単元と指導計画
8	学習活動と学習環境	学習活動の構想
9	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
10	学力と評価の観点	評価規準の設定
11	情報機器及び教材の活用	学びのツール
12	発問や板書などの指導技術	授業をつくる
13	教育評価	評価の考え方・進め方
14	授業のまとめ、テスト	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、教科書の該当する部分や資料を読んでくるとともに、課された課題を行う。

【テキスト（教科書）】

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30 %）、課題（40 %）、テスト（30 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークを入れる。

【Outline and objectives】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

EDU200MA

教育方法論

黄 郁倫

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、教育の方法を「学び」、「教師」、「授業」の三つの観点から理解することを通して、教育の実践に携わるために必要な理論的知見を養う。また、教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】

1. 教育の方法に関する多様な理論や概念に触れ、現代の授業実践に対する影響を理解する。
2. グループワークを通して、観方や考え方の違う他者と協同する経験を持つ。
3. 資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義形式とともに毎回グループワークやディスカッションを取り入れる。事例は、VTR などでも利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回の授業の際には、コメントペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	学びのデザイン力をつける	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論	児童生徒の学びの学習理論
第 4 回	二十一世紀の学び	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	単元の学習活動の構想 (1)	教育内容及学習活動
第 6 回	単元の学習活動の構想 (2)	学習活動の構想
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	授業研究	授業研究の手法
第 9 回	教育方法 (1)	主体的・対話的・深い学び
第 10 回	教育方法 (2)	個に応じた指導の工夫
第 11 回	教育方法 (3)	情報機器及び教材の活用
第 12 回	教育方法 (4)	教育の基礎的な技術
第 13 回	教育評価	真正の評価の考え方・進め方
第 14 回	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容は、前時までの内容を前提としていることが多い。このため、レジュメを見直し、参考文献にこまめに当たるなど、復習をきちんと行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査などが宿題として出される。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年
秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣、2006 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %
ホームワーク 20 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションと個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

EDU200MA

教育方法論

黄 郁倫

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、教育の方法を「学び」、「教師」、「授業」の三つの観点から理解することを通して、教育の実践に携わるために必要な理論的知見を養う。また、教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】

1. 教育の方法に関する多様な理論や概念に触れ、現代の授業実践に対する影響を理解する。
2. グループワークを通して、観方や考え方の違う他者と協同する経験を持つ。
3. 資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義形式とともに毎回グループワークやディスカッションを取り入れる。事例は、VTR などでも利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回の授業の際には、コメントペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	学びのデザイン力をつける	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論	児童生徒の学びの学習理論
第 4 回	二十一世紀の学び	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	単元の学習活動の構想 (1)	教育内容と学習活動
第 6 回	単元の学習活動の構想 (2)	学習活動の構想
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	授業研究	授業研究の手法
第 9 回	教育方法 (1)	主体的・対話的・深い学び
第 10 回	教育方法 (2)	個に応じた指導の工夫
第 11 回	教育方法 (3)	情報機器及び教材の活用
第 12 回	教育方法 (4)	教育の基礎的な技術
第 13 回	教育評価	真正の評価の考え方・進め方
第 14 回	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容は、前時までの内容を前提としていることが多い。このため、レジュメを見直し、参考文献にこまめに当たるなど、復習をきちんと行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査などが宿題として出される。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年
秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣、2006 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %
ホームワーク 20 %
期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションと個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline and objectives】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

EDU200MA

教育方法論

川津 貴司

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金 6/Fri.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作った「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	教育方法と教師の専門性	教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論	児童生徒の学びと学習理論
第 4 回	新学習指導要領と教育方法	次期学習指導要領と資質・能力の育成
第 5 回	教育の内容と学習活動	活動的な学びの組織化
第 6 回	学習活動と学習環境	環境づくりの視点
第 7 回	教育目標の明確化	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	学力と評価の観点	評価規準の設定
第 9 回	主体的・対話的で深い学び	対話の重要性
第 10 回	個に応じた指導の工夫	個性を生かす方法
第 11 回	情報機器及び教材の活用	情報機器の効果的な使用方法
第 12 回	発問や板書などの指導技術	授業事例から学ぶ
第 13 回	教育評価	評価の際の留意点
第 14 回	授業のまとめ、テスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30 %）、課題（40 %）、テスト（30 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生のニーズも考えながら、柔軟な授業展開をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline and objectives】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

FRI200MA

図書館演習

坂本 旬

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における新しい図書館像の探究とメディア情報リテラシーの理解

【到達目標】

- (1) ユネスコのメディア情報リテラシー教育の基本的な考え方を理解する。
- (2) メディア情報リテラシー・カリキュラムに基づいた実践を行うことができる。
- (3) ユネスコのメディア情報リテラシーの理念・運動にもとづいた公共図書館・学校図書館像を構想することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ユネスコの日本語版と英語版カリキュラムをテキストとして用いてディスカッションを行う。また秋期では、一人ひとりがカリキュラムにもとづいたワークショップを企画・実施し、図書館司書としてのワークショップ実践力を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と方法の解説
2	授業支援システムの使い方	司書課程専用授業支援システム HULiC の使い方を解説する
3	メディア情報リテラシーの概念	メディア情報リテラシーの概念の枠組みについて学ぶ
4	メディア情報リテラシーの恩恵と必要性	メディア情報リテラシーがもたらす恩恵と必要とされる背景について学ぶ
5	カリキュラムの枠組み	メディア情報リテラシー・カリキュラムの構成を学ぶ
6	メディアと情報の政策	メディア情報リテラシーにかかわる政策の見通しについて学ぶ
7	メディアと情報に関する基礎理解	民主主義社会におけるメディアと情報に関する基礎知識を学ぶ
8	メディアと情報の評価	メディアと情報の評価方法について学ぶ
9	メディアと情報の創造と活用	メディアと情報の創造や活用方法の基礎を学ぶ
10	司書・教師の能力	実践の核になる司書や教師の能力について学ぶ
11	メディア情報リテラシーと学習	メディア情報リテラシー教育のための学習理論を学ぶ
12	メディア情報リテラシーの教材	メディア情報リテラシーについてユネスコが推奨する教材について学ぶ
13	メディア情報リテラシーと学校図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと学校図書館の役割について学ぶ
14	メディア情報リテラシーと公共図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと公共図書館の役割について学ぶ
15	秋学期ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期授業のガイダンス
16	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習について学ぶ
17	ニュース、メディア倫理と情報倫理	ニュース、メディア倫理と情報倫理について学ぶ
18	メディアと情報のリプレゼンテーション	メディアと情報のリプレゼンテーションについて学ぶ
19	メディアと情報の言語	メディアと情報の言語について学ぶ
20	情報メディアと広告	広告について学ぶ
21	新旧のメディア	新旧のメディアについて学ぶ
22	インターネットの機会と挑戦	インターネットの機会と挑戦について学ぶ
23	コア・モジュール7 情報リテラシーと図書館スキル	情報リテラシーと図書館スキルについて学ぶ
24	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習について学ぶ
25	メディアの技術	メディアの技術について学ぶ
26	デジタル・ブックトーク制作の方法	デジタル・ブックトークの方法を学び、プランを作る
27	デジタル・ブックトークの制作	デジタル・ブックトークを制作する

28 デジタル・ブックトーク 制作したデジタル・ブックトークを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

司書課程専用授業支援システム (HULiC) を用いた事前学習および宿題をする。

【テキスト（教科書）】

ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシーカリキュラム』（日本語版・英語版）

右のサイトからダウンロードできる。http://amilec.org/

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政大出版局

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30 %、提出課題 30 %、平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションの仕方や自発的な発表の仕方をしっかりと教えたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業用コンピュータを使用する。

【その他の重要事項】

少人数制演習のため、受講希望者数が多い場合は抽選を行うことがある。

【Outline and objectives】

To study theory of the media and Information literacy of UNESCO

To explore the situation of "fake news" and hate speech on social media in the world

To investigate fact check the news as reference or school librarians

FRI200MA

図書館演習

村上 郷子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：土 1/Sat.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、講義のほか、グループによる研究調査とその発表を行うことによる、と公共図書館を取りまく様々な課題について理解を深める。秋学期は、グループによる公共図書館へのフィールド調査やプレゼンを行うことにより、公立図書館の現状と課題について総合的に理解する。

【到達目標】

春学期は、講義のほか、学生による研究発表を行うことにより、公立図書館の現状と課題について理解することができる。
秋学期は、東京 23 区中央図書館を中心に、グループによる対面・参与調査を行い、個別事例に基づく図書館の現状と課題について総合的に理解することができる。また、プレゼンにおける配付資料、プレゼン資料、おしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、指定管理者制度、司書の雇用形態、多様なサービスなどについての調査報告を行い、調査内容に関する報告書を提出する。その際、各項目の課題について指摘し、課題の解決策・提案等も提示すること。
秋学期は、グループによる現地調査を行うことにより、図書館の実際についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行う。
春・秋学期、それぞれ授業で学んだことをまとめた学期末レポートを提出する。また、授業の一環として、協働学習およびメディア情報リテラシーに関するアンケート調査を実施する。自身のメディア情報リテラシーのスキル・能力について自己評価をすることによって、どのスキル・能力がどの程度伸びたのかを客観的にみるためのものである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンスについて
2	公立図書館の現状と課題①	指定管理者制度 (1)
3	公立図書館の現状と課題①	指定管理者制度 (2)
4	公立図書館の現状と課題②	市民との協働 (1)
5	公立図書館の現状と課題②	市民との協働 (2)
6	公立図書館の現状と課題③	図書館職員の役割と労働形態 (1)
7	公立図書館の現状と課題③	図書館職員の役割と労働形態 (2)
8	公立図書館の現状と課題④	知的自由と検閲 (1)
9	公立図書館の現状と課題④	知的自由と検閲 (2)
10	グループ活動①	グループによる研究発表の準備①
11	グループ活動②	グループによる研究発表の準備②
12	グループ活動③	グループによる研究発表の準備③
13	学生による研究発表①	2 つのテーマについて、発表する。
14	学生による研究発表②	2 つのテーマについて、発表する。
15	秋学期授業ガイダンス	公立図書館の比較概要
16	東京 23 区中央図書館の動向①	個人・グループの調査対象図書館の選定
17	東京 23 区中央図書館の動向②	調査対象図書館及びグループの確定、アポの取り方
18	調査計画案作成①（グループ）	インタビューの極意、調査テーマの決定
19	調査計画案作成②（グループ）	調査でのインタビュー項目の決定、現地調査の結果提出
20	発表順の抽選	個人によるグループ活動報告書提出①
21	グループ調査進行状況チェック①	配付資料作成の極意
22	グループ調査進行状況チェック②	プレゼン資料作成の極意
23	グループ調査進行状況チェック③	プレゼンの極意、インタビュー調査の結果提出

24	グループ調査進行状況チェック④	グループ活動
25	リハーサル	グループによる配付資料提出、プレゼンのリハーサル
26	グループ・プレゼンテーション①	プレゼンの実践と評価
27	グループ・プレゼンテーション②	プレゼンの実践と評価
28	公共図書館の現状と課題・グループ活動総括	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、研究発表の準備や研究課題について、グループで十分に話し合いの時間を確保すること。
秋学期は、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるので、受講生には授業への積極的な参加とリーダーシップが求められる。また、授業時間外のグループ活動が入ってくることを了承しておくこと。
授業用グループウェア (HULiC) を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。グループ活動では、HULiC だけではなく、簡単な確認のためのコミュニケーションツールとして LINE も積極的に活用すること。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

(1) グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション（配付資料、プレゼン資料等）（春学期 15 % + 秋学期 20 % = 合計 35 %）
(2) 個人の課題・アンケート + 個人の覆面調査など（25 %）
(3) 課題研究に関する報告書 + 学期末レポート（40 %）
授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 10 回以下）のものは、「(1) グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【Outline and objectives】

In the spring semester, students will deeply understand the current trends and various issues surrounding in public libraries by conducting research investigation by groups. In the fall semester, students are required to visit one central public library in the 23 wards of Tokyo, interview librarians with group members, and make presentation together in order to compare and evaluates public libraries and discover current situations, various issues of the public libraries, and the ways of solving the problems.

FRI200MA

図書館演習

丹 一信

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては「図書館情報学概論Ⅰ」「図書館情報学概論Ⅱ」を前年度までに修得しておくことが極めて望ましい科目です。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。

1. 図書館の調査等を行い、図書館を取り巻く環境や、図書館の現状について、総合的に学びます。
 2. パスファインダーなどの作成を通じて、情報リテラシーの向上を目指します。
 3. 情報検索のスキルの向上を目指します。
 4. 専門図書館・データベース提供事業者の事業やサービスについて深く学びます。
 5. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。
- なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回の授業参加は必須です。

【到達目標】

春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定三級合格レベルとすることです。また実用的なパスファインダーを完成させます。秋学期は、都内や近県の専門図書館を中心に調査を行い、個別事例に基づく図書館の現状と課題について理解を深めます。また図書館の経営評価を実際に行えるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、検索技術者検定 3 級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーの作成を行います。秋学期は、実地見学を行うことにより、図書館の実践についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行う。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何かを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULic) の利用ガイダンス 人数超過の場合は、選考を行います。
第 2 回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第 3 回	情報資源と情報サービス機関	データと情報：一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類などについて
第 4 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索；ネットワーク情報資源の種類
第 5 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題；ネットワーク社会の法制度
第 6 回	図書館サービスの実践 1	情報収集と図書館サービスの実践 1 専門的な情報提供サービスに触れる
第 7 回	図書館サービスの実践 2	情報収集と図書館サービスの実践 2
第 8 回	図書館サービスの実践 3	データベース提供事業者との関連について 情報収集と図書館サービスの実践 3 利用者の属性やマーケット分析を基にしたサービス
第 9 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表① 相手の立場に立って情報提供する
第 10 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表① 相手の立場に立って情報提供する
第 11 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表② 手に取ってもらうためのデザイン
第 12 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表③ 情報資源の種類と特徴
第 13 回	パスファインダー	パス・ファインダーの製作と発表④ ネットワーク情報資源の特徴
第 14 回	パスファインダー 夏季課題について	パス・ファインダーの製作と発表⑤ 夏季課題への取り組み方について

第 15 回	秋学期ガイダンス レポート論文の書き方	秋学期授業ガイダンス及びレポート論文の書き方について学びます。
第 16 回	事例研究 1	特色あるサービスを行っている図書館の事例の記事を参考に議論・検証します（国内の図書館）
第 17 回	事例研究 2	特色あるサービスを行っている図書館の事例の記事を参考に議論・検証します（海外の図書館）
第 18 回	事例研究 3	企業図書館とは何か、知財部門における調査やサービスの事例を学習します。
第 19 回	専門図書館について 1	専門図書館とは何かを学び、実際に調査対象とする専門図書館を選定します
第 20 回	専門図書館について 2	調査対象の専門図書館に対する調査項目や調査票の作成
第 21 回	専門図書館について 3	実地調査の準備
第 22 回	ライブラリアン、サーチャーター、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロ、デジタルアーキビストなどの情報専門職について学びます。
第 23 回	図書館の評価方法 1	図書館の経営評価
第 24 回	図書館の評価方法 2	評価方法の一つである ISO 図書館パフォーマンス指標について学びます。
第 25 回	図書館調査	任意選択した図書館への調査を行うための準備
第 26 回	図書館調査	実地調査について
第 27 回	図書館調査	調査結果をまとめる
第 28 回	発表	課題についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館への見学や調査が必須となります。
夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野ブレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。
また第 21 回「図書館総合展」2019 年 11 月 12 日(火) - 2019 年 11 月 14 日(木)（バシフィコ横浜）への見学（課題）などが必須となります。
授業時間外の学習活動（主に見学）が重要となります。
また検索技術者検定 3 級受験を推奨します。
平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。

【テキスト（教科書）】

(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀, 検索スキルをみがく：検索技術者検定 3 級公式テキスト., 樹村房, 2018, ix, 144pp.

【参考書】

(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会, 図書館年鑑, 日本図書館協会, 2018, 冊 p.
(2) 専門図書館協議会 <https://jsla.or.jp/>

【成績評価の方法と基準】

提出物（60%）および平常点（40%） 演習のため出席は極めて重要。

【学生の意見等からの気づき】

少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季期間中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【その他の重要事項】

「図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱ」が履修済みであることが必須です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。
初回授業時には必ず出席のこと。→ 履修者許可者の選抜を行います。初回授業に不参加の場合は、履修を許可しません。仮に不許可にも関わらず履修登録しても、単位認定をいたしません。
「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャーター 1 級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】

The outline of the lesson is as follows.

1. We conduct surveys of libraries etc and learn comprehensively about the current state of the library.
2. We will aim for improvement of information literacy through creation of path finder and others.
3. We aim to improve the skill of information retrieval.
4. Learn deeply about the business and services of specialized libraries / database providers.
5. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

FRI200MA

図書館演習

田村 貴紀

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における新しい図書館像の探究

【到達目標】

現代社会における公共図書館の働きをフィールドワークを通して理解する。また、パスファインダーや図書館ウェブサイトの作成など発信型情報サービスについて学び、演習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

地域の公共図書館の情報を集めるとともに、フィールドワーク調査を通じて図書館の評価を行う。パスファインダー、図書館ウェブサイトの作成を実習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容と方法の解説
第 2 回	授業支援システムの使い方	司書課程専用授業支援システムの使い方を解説する
第 3 回	現代公共図書館の機能と実際 1	現代公共図書館の機能についての解説
第 4 回	現代公共図書館の機能と実際 2	現代公共図書館の事例と検討
第 5 回	現代公共図書館の機能と実際 3	現代公共図書館の事例と検討
第 6 回	現代公共図書館の管理運営	指定管理者制度をめぐる論点の紹介
第 7 回	指定者管理制度論 1	指定者管理制度についての議論をとりあげて紹介する
第 8 回	指定者管理制度論 2	都内図書館を取り上げて検討する
第 9 回	図書館と自由 1	図書館と自由に関する文献購読
第 10 回	図書館と自由 2	図書館と自由に関する文献購読
第 11 回	事例研究—海外図書館の事例—	海外図書館の先進的な事例について学ぶ
第 12 回	事例研究—国内図書館の事例—1	関連書籍を輪読して国内図書館の先進的な事例について学ぶ
第 13 回	事例研究—国内図書館の事例—2	関連書籍を輪読して国内図書館の先進的な事例について学ぶ
第 14 回	事例研究—国内図書館の事例—3	関連書籍を輪読して国内図書館の先進的な事例について学ぶ
第 15 回	事例研究—国内図書館の事例—4	関連書籍を輪読して国内図書館の先進的な事例について学ぶ。春学期演習のまとめ。
第 16 回	春学期の振り返り	春学期の振り返りと秋学期授業のガイダンス
第 17 回	パスファインダー概論	発信型情報サービスとしてのパスファインダーについて学ぶ
第 18 回	パスファインダー作成 1	レファレンスサービスの一環としてのパスファインダーの作成方法を学ぶ
第 19 回	パスファインダー作成 2	課題解決援助としてのパスファインダー作成方法を学ぶ
第 20 回	パスファインダー作成 3	パスファインダー作成を通して論理的思考能力を身につける
第 21 回	図書館の調査計画 1	都内公共図書館の調査方法の検討（調査企画書作成）
第 22 回	図書館の調査計画 2	都内公共図書館の調査方法の検討（図書館調査計画の報告と共有）
第 23 回	レポートの書き方：ロジックとスタイル	図書館評価レポートに備えてレポート書き方とスタイルについて講義する
第 24 回	図書館調査 1	フィールドワーク
第 25 回	図書館調査 2	フィールドワーク
第 26 回	図書館調査 3	フィールドワーク
第 27 回	報告書制作 1	報告書制作
第 28 回	報告書制作 2	報告書制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、図書館調査のフィールドワークを行うため、授業外での活動が求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % 提出物 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業を通じて論理的思考能力とアカデミック・ライティングの基礎が身につくようにします。

【その他の重要事項】

総合的演習のため、できるだけ他の司書課程科目を履修後に履修することが望ましい。

少人数制ゼミのため、受講希望者数が多い場合は抽選を行う。

履修人数によって授業のスケジュールを若干変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

Exploration of new library images in contemporary society

FRI200MA

図書館サービス概論

丹 一信

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館サービスの意義や理念を理解し、図書館における実践事例などについて基本的な知識を習得します。図書館サービスは公共図書館だけのものではなく、全ての館種においてなされるものです。現在の図書館サービスの抱える課題について理解し、グループディスカッションを通じて、問題解決への方策を検討します。

【到達目標】

図書館サービスの種類や内容などについて、理解を深めます。単に講義だけではなく、図書館サービスにおける先駆的な事例をもとに、「自分が担当であったならば、どうする？」というディスカッションを通じて、深い理解への到達を目指します。将来、図書館のサービス担当者となった時に、司書として主体的な判断ができることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義にはテキストを使用します。ただし適宜グループディスカッションを行い、複数回の小レポートや課題などを授業時に課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業について 図書館サービスとは	授業の概要、進め方 図書館サービスの概要や位置づけ、理念について学びます。
第 2 回	図書館サービスの種類	「司書および司書補の職務内容」にみる図書館サービス、図書館サービスの時代による変遷などを学びます。
第 3 回	図書館サービスとネットワーク	・図書館システム ・全域サービスと図書館システム ・図書館間相互貸借と図書館ネットワーク ・広域利用制度について学びます。
第 4 回	閲覧サービス	・閲覧とはなにか ・閲覧の利用形態とスペース活用 ・閲覧におけるさまざまな問題を考えます。
第 5 回	資料提供に関するサービス	資料提供サービスの概要と種類、貸出サービス（利用者登録、貸出、返却、督促、予約、リクエストなど）
第 6 回	貸出しサービス	貸出サービスの概要と種類、現状と課題について
第 7 回	情報提供サービス	レファレンスサービスや読書相談サービスとカレントアウェアネスサービスなどについて、事例研究を交えながら学びます。またアウトリーチサービスについても学びます。
第 8 回	地域支援サービス	地域支援サービスの概要、歴史、子育て支援やコミュニティへの支援など
第 9 回	図書館サービスと著作権	図書館と著作権との関り、権利制限規定などについて、事例をもとに考えます。
第 10 回	図書館サービスと市民・利用者	・市民・利用者との協働 ・図書館における接遇の問題 ・問題利用者 ・利用者コミュニケーション ・パスファインダーを中心に学びます
第 11 回	障害者サービス	障害者サービスとはなにか、障害者サービスを積極的に実施している図書館の事例を参考に、学びます。
第 12 回	高齢者サービス	高齢者への図書館サービスの概要と実践例について
第 13 回	多文化サービス	多文化サービスとは何か、その実践例をもとに学習します。

第 14 回 集会・文化活動

集会文化活動その歴史と意義について学びます。
講演会・フォーラム・講座・ワークショップ
児童文学講座・読書ボランティア講座・フォーラム、読書会・講演会・展示会・コンサート・映画会・その他の活動について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習として、テキストの関連するページをよく読む。身近な大学図書館や公共図書館を直接利用したり、各図書館のホームページのコンテンツを見て、図書館サービスのよい点や課題について理解を深める。

【テキスト（教科書）】

『図書館サービス概論』 小黒浩司著 ミネルヴァ書房 2018 本体 2,800 円＋税
ISBN : 9784623083961

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（15 %） 小課題レポート（30 %） 期末レポートと発表（55 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン（授業に関連するインターネット検索、小課題レポートや期末レポートの作成・提出などに使用）

Hulic

【Outline and objectives】

In this lesson, you understand the significance and way of thinking of library services and master basic knowledge. We will also learn about practical examples at the library. Library services are conducted not only in public libraries but in all libraries. Understand the challenges of the current library service and consider ways to solve problems by group discussion.

FRI200MA

情報サービス演習

田中 順子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館において、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービスと情報検索サービス能力を習得する。

【到達目標】

図書館における情報サービスの中心であるレファレンスサービスと情報検索サービスにおける実践的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サービスの演習を通して、実践的な能力を育成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報サービスの設計	情報サービスの設計
2	情報源	レファレンスサービスのための情報源
3	レファレンス・コレクション	レファレンスコレクションの整備
4	レファレンス・プロセス	レファレンスサービスのプロセスについて
5	レファレンス・インタビュー	レファレンスインタビュー実践
6	文字や言語検索	情報検索実践（文字や言語を調べる）
7	文字や言語検索評価	調査結果の評価
8	事柄や事象検索	情報検索実践（事柄や事象を調べる）
9	事柄や事象検索評価	調査結果の評価
10	歴史や日時検索	情報検索実践（歴史や日時に関する情報を調べる）
11	歴史や日時検索評価	調査結果の評価
12	地理や地名検索	情報検索実践（地理に関する情報や地名について調べる）
13	地理や地名検索評価	調査結果の評価
14	人物や団体検索	情報検索実践（人物や団体について調べる）
15	人物や団体検索評価	調査結果の評価
16	文学や歴史検索	情報検索実践（文学や歴史について調べる）
17	文学や歴史検索評価	調査結果の評価
18	物語や小説検索	情報検索実践（物語や小説について調べる）
19	物語や小説検索評価	調査結果の評価
20	事象や風習検索	情報検索実践（事象や風習について調べる）
21	事象や風習評価	調査結果の評価
22	文学や風習検索	情報検索実践（文学や風習について調べる）
23	文学や風習検索評価	調査結果の評価
24	海外の作品に関する文献検索	情報検索実践（海外の作品についてを調べる）
25	海外の作品に関する文献検索評価	調査結果の評価
26	レファレンス・ツール検索	情報検索実践（レファレンスツールを調べる）
27	レファレンス・ツール検索評価	調査結果の評価
28	発信型情報サービス	発信型情報サービスの構築（パスファインダーの作成を含む）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で課題を調査する。

【テキスト（教科書）】

授業中に必要な資料を提示

【参考書】

井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】

隔週で、文献を調査する課題を出し、授業内に発表してもらいます。この課題提出と発表に対する評価が成績の 8 割。

出席をして他者の発表を聞くことも大事なので、出席を成績評価の 2 割とします。

【学生の意見等からの気づき】

課題調査に時間がかかるので、出題分量を調整。

【Outline and objectives】

Students do the practice which responds to the question of library users. They go to a library to look for a necessary document to respond to the question. They look for more than one document certainly. After that a group announcement is done and a document is estimated. They also learn how to show them and explain to a library user.

FRI200MA

情報サービス演習

奥泉 和久

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：土 4/Sat.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】

情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、パスファインダーの作成などをおして、情報発信型サービスについても学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの設計	授業内容と進め方について/情報サービスの態勢づくり
2	情報サービスの基本 (1)	OPAC 検索の基礎と応用
3	情報サービスの基本 (2)	情報検索の基礎
4	情報サービスの基本 (3)	コンピュータ検索の技術
5	情報資源の探し方 (1)	情報資源の特徴とアクセスの方法
6	情報資源の探し方 (2)	情報資源の活用
7	情報資源の探し方 (3)	インターネット上の情報資源
8	情報検索基礎演習 (1)	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習 (2)	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習 (3)	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習 (4)	医学文献の探し方
12	情報検索基礎演習 (5)	レファレンスブック解題・評価
13	情報検索基礎演習 (6)	データベース解題・評価
14	情報検索基礎演習 (7) / 春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタビュー (1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタビュー (2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習 (1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習 (2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習 (3)	「とき・統計」に関する課題と回答
20	情報検索演習 (4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習 (5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習 (6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習 (7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習 (8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習 (9)	レファレンス事例の作成・評価
26	情報発信型サービスの実際 (1)	パスファインダーの解説・作成
27	情報発信型サービスの実際 (2)	パスファインダーの改訂・発表
28	図書館利用教育の実際/秋学期のまとめ	プログラムの計画・作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、授業が軌道に乗るまで、講義形式の授業を併行して行いますが、ほとんどが演習です。配布資料を参考に復習をしたり、事前に提示する課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表 20 %、演習 80 %です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が多いのですが、それによって実践への対応力を身につけることができます。そうしたことが理解できるよう取り組んでいきます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.

FRI200MA

情報サービス演習

菅原 真悟

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために必要な情報を提供するサービスのことで、現代の図書館の重要なサービスと位置づけられている。この授業では、演習を通して次の 2 点を主に扱う。

1. 情報源（データベース）を検索し回答する方法を学ぶ
2. 発信型情報サービスのためのウェブサイト・データベースを構築する方法を学ぶ

【到達目標】

利用者の質問に回答し、回答と回答プロセスをデータベース化できるようにする。利用者教育プログラムの構築ができるようになる。発信型情報サービスのために必要な ICT の基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

利用者の質問に回答する方法を学ぶ。情報源として、事典、書誌などの資料や、データベース、インターネット情報などを使えるようにする。模擬的な問答を演習する。発信型情報サービスのためのウェブサイト作成、データベース構築を学ぶ。図書館の情報サービスについて調査し発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：情報サービスとは	図書館の情報サービス。利用者質問の種類と対応。利用者に回答する際に注意すべき点。
第 2 回	図書検索 (1)	法政大学図書館 OPAC。
第 3 回	図書検索 (2)	検索演算子を使った検索演習。
第 4 回	図書検索 (3)	検索式を用いた検索方法。NDL-OPAC。
第 5 回	情報サービス (1)	情報サービスの現状。
第 6 回	情報サービス (2)	レファレンス事例データベース。
第 7 回	カレント・アウェアネス	カレント・アウェアネス。
第 8 回	論文検索 (1)	CiNii を使った論文検索。
第 9 回	論文検索 (2)	CiNii を使った論文検索。
第 10 回	横断検索・連想検索	情報を横断的に探す方法。連想検索。
第 11 回	雑誌記事検索	MAGAZINE プラス・大宅壮一文庫などのデータベースの活用。
第 12 回	新聞記事検索	新聞社のデータベースの活用。
第 13 回	さまざまなデータベースを使う (1)	辞書・事典・歴史・地図検索。
第 14 回	さまざまなデータベースを使う (2)	統計・議会情報・法令検索・判例検索などのデータベースの活用。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期の振り返りとまとめ。
第 16 回	ウェブ検索	ウェブで情報を探す。検索エンジンの仕組み。
第 17 回	人物情報検索	人物情報について調べる方法。
第 18 回	特許検索	特許や商標等の知財情報を調べる方法。
第 19 回	発信型情報サービス	これまでの情報サービスと発信型情報サービスの比較。
第 20 回	理系論文検索 (1)	シソーラスを用いた検索。科学技術系論文を探す。
第 21 回	理系論文検索 (2)	医学系論文を探す。
第 22 回	SNS 演習	図書館とソーシャルメディア。
第 23 回	発表会 (1) 情報サービスの現状	図書館の情報サービスについて、個人またはグループで調べた内容を発表。
第 24 回	CMS 演習 (1)	CMS と図書館サイト構築の現状。
第 25 回	CMS 演習 (2)	図書館サイトのコンテンツ分析。
第 26 回	CMS 演習 (3)	CMS(NetCommons) を用いた図書館サイトの構築演習。
第 27 回	CMS 演習 (4)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。
第 28 回	CMS 演習 (5)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料提示・連絡・課題提出には、図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用いる。
<http://lc.i.hosei.ac.jp/>

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

【参考書】

講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内演習への参加 30%

小レポートの提出（小レポートを数回出す予定）40%

グループまたは個人発表 30%

小レポート・発表の資料等はすべて「HULiC」へアップロードして提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

発信型情報サービスについての理解を深めるために、CMS 演習の時間を増やします。

【その他の重要事項】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

.Purpose and Goal

1. Learn how to search information sources (databases).

2. Learn how to build website and database for outgoing information service.

FRI200MA

図書館情報資源概論

小黒 浩司

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な図書館情報資源について、形態別、主題別の特性の概略を学習する。また図書館情報資源の収集と選択、評価、保存など、図書館における情報資源の管理の実践を学ぶ。加えて、代表的な図書館情報資源である図書や雑誌についての理解を深めるために、その流通事情などについても学ぶ。

【到達目標】

図書館情報資源に関する基礎的な知識を学び、その収集、保存のあり方などについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

下記授業計画のように、前半では主要な図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では図書館情報資源の維持・管理の手法や意義などについて概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館情報資源とは何か	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、図書館情報資源について、図書館法など関連法規の上から説明する。
第 2 回	図書館情報資源の種類	『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』の種類に従って、図書館情報資源の概略を説明する。
第 3 回	図書・逐次刊行物	図書と逐次刊行物について概説する。
第 4 回	視聴覚資料・電子資料	視聴覚資料と電子資料について概説する。
第 5 回	図書館情報資源の選択と収集	図書館における資料選択と収集の形態について概説する。
第 6 回	蔵書評価	図書館における蔵書評価の種類などについて概説する。
第 7 回	蔵書管理	図書館における蔵書管理の技法などについて概説する。
第 8 回	図書館情報資源の更新	図書館における資料の更新の意義などについて概説する。
第 9 回	資料保存	図書館における資料保存のあり方などについて概説する。
第 10 回	資源共有	図書館情報資源の収集と保存の協力について概説する。
第 11 回	資料選択の自由	図書館における資料収集と選択の自由について概説する。
第 12 回	出版流通 1	日本の出版流通の現状を、メディア別について概説する。
第 13 回	出版流通 2	日本の出版流通の現状を、流通過程から概説する。
第 14 回	まとめ	試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献などを、授業中に配布するプリントに掲載するので、活用してほしい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

新訂図書館資料論 小黒浩司編著 東京書籍 2008

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点（80 %）に、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）・平常点（20 %）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、復習に活用してほしい。

【Outline and objectives】

Learn the outline of characteristics by type and subject for various library information resources.

FRI200MA

図書館情報資源概論

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：土 2/Sat.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】

・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。

マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループディスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア（HULiC）を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア（HULiC）利用ガイダンス 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史①（紙の発明）	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等
7	紙の博物館見学 メディアの発展史②（印刷革命（1）木版・活版印刷）	小レポート 1 木版印刷・活版印刷の歴史
8	メディアの発展史③（印刷革命（2）印刷物の制作システム）	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源 印刷博物館見学	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴 小レポート 2
11	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション構築の理論（選書）	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など
13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジュメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8）

【参考書】

小黒浩司編著『図書館資料論』、最新版、東京書籍（新現代図書館学講座 8）
志保田務 [ほか] 編著『資料・メディア総論』、最新版、学芸図書

【成績評価の方法と基準】

（1）毎回の確認クイズ（30 %）、（2）2回的小レポート（30 %）、（3）学期末試験（40 %）によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】

ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline and objectives】

Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn pattern of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

FRI200MA

図書館情報資源概論

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】

- ・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
- ・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
- ・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
- ・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書館の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。
マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループディスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア（HULiC）を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア（HULiC）利用ガイダンス 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史①（紙の発明）	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等
7	紙の博物館見学 メディアの発展史②（印刷革命（1）木版・活版印刷）	小レポート 1 木版印刷・活版印刷の歴史
8	メディアの発展史③（印刷革命（2）印刷物の制作システム）	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源 印刷博物館見学	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴 小レポート 2
11	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション構築の理論（選書）	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など
13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジュメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。
「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8）

【参考書】

小黒浩司編著『図書館資料論』、最新版、東京書籍（新現代図書館学講座 8）
志保田務 [ほか] 編著『資料・メディア総論』、最新版、学芸図書

【成績評価の方法と基準】

（1）毎回の確認クイズ（30 %）、（2）2回の小レポート（30 %）、（3）学期末試験（40 %）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】

ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline and objectives】

Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn pattern of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

FRI200MA

図書館情報資源特論

小黒 浩司

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館情報資源概論では扱わなかった情報資源、主題情報について、学習する。とくに電子資料については、その収集・提供・保存などについて、十分に理解する。

【到達目標】

図書館情報資源概論での学習を基礎に、近年図書館で重視されている各種情報資源の特性などについて発展的に学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

下記授業計画のように、前半では近年公共図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では学術図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	読書の電子化	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、「電子読書」の歴史と現状を概説する。
第 2 回	政府刊行物	図書館における政府刊行物の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 3 回	地域資料	図書館における地域資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 4 回	法情報	図書館における法情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 5 回	統計資料	図書館における統計資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 6 回	健康・医療情報	図書館における健康・医療情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 7 回	生活・労働情報	図書館における生活・労働情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 8 回	音楽資料	図書館における音楽資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 9 回	地図資料	図書館における地図資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 10 回	マイクロ資料	図書館におけるマイクロ資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 11 回	歴史的音源	SP 盤レコードなどの歴史的音源の電子化や配信の状況を概説する。
第 12 回	ウェブアーカイビング	ウェブアーカイビングの意義や現状を概説する。
第 13 回	オンライン資料	オンライン資料の収集と提供の現状を概説する。
第 14 回	まとめ	試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に配布するプリントに掲載している情報源などを活用して復習を行い、近年注目されている図書館情報資源に関する理解を深める。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

新訂図書館資料論 小黒浩司編著 東京書籍 2008

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点（80 %）に、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）・平常点（20 %）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に配布するプリントに理解の参考となる情報源などを掲載するので、復習に活用してほしい。

【Outline and objectives】

Learn about information resources and thematic information which we did not deal with library information resource overview.

FRI200MA

図書館情報資源特論

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：土 2/Sat.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な資料を扱う専門図書館を中心にした現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】

現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を知り、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。

グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。

また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

グループに分かれて、さまざまな専門図書館へフィールド調査を行い、評価をする。フィールドワークには、現地視察、職員へのインタビューなどが含まれ、授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アボの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション① 専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション② 利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。

授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

（１）個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の現地調査報告書（30 %）
（２）グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30 %）
（３）個人のレポート（40 %）

全ての提出物は授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「（２）グループ活動・授業への参加（出席）・（30 %）」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。

また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline and objectives】

Students are required to perform the field work (students choose one special library as their own fields) and the interview to the librarians as a pair or group in order to compare and evaluates several special libraries and find out current situations and issues of the special libraries. As a part of requirement, students will make presentations, lead discussions, and show problems with which special libraries were confronted as well as the ways of solving the problems.

FRI200MA

図書館情報資源特論

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な資料を扱う専門図書館を中心にした現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】

現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を知り、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。

グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。

また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

グループに分かれて、さまざまな専門図書館へフィールド調査を行い、評価をする。フィールドワークには、現地視察、職員へのインタビューなどが含まれ、授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アボの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション① 専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション② 利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。

授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の現地調査報告書 (30 %)
(2) グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など (30 %)
(3) 個人のレポート (40 %)

全ての提出物は授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良 (14 回中 4 回以上の欠席) のものは、「(2) グループ活動・授業への参加 (出席)・(30 %)」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル (文書・パワポ・画像・他) 提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。

また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline and objectives】

Students are required to perform the field work (students choose one special library as their own fields) and the interview to the librarians as a pair or group in order to compare and evaluates several special libraries and find out current situations and issues of the special libraries. As a part of requirement, students will make presentations, lead discussions, and show problems with which special libraries were confronted as well as the ways of solving the problems.

FRI200MA

読書と豊かな人間性

高橋 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：土 4/Sat.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館における読書教育についての今日的課題と教育行政の動きを知る。読書教育についてねらい、発達段階、方法について学校図書館ができることに即して考える。学びの基礎であり、読書の世界の入り口である本そのものを知る。

【到達目標】

まずは読書教育そのものをどう考えるかにとりくみ、学校図書館が行うべき活動と意義を自分なりにまとめる。学校図書館が行うさまざまな読書への働きかけ、方法を知る。本を紹介するスキルを身につけ、同時に具体的な本についての知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

子どもの読書、読書教育への関心が高まっている。現時点では読書教育の理念、方法論は確立しているとはいえない。ねらいとは何か、発達段階をどう考えるか、方法は、など、既存のものを比較検討し、そのあり方を考える。同時に学校図書館における多様な読書材、さまざまな本を知る。毎時間、本紹介の発表の時間を設ける。さらに本の魅力を伝えるための工夫、心構え、方法を学ぶ。読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリングなどを学ぶ。1 回はゲスト講師による実演を味わう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	読書と豊かな人間性とは	最近の動き 読書教育、どうとらえるか
2	子どもの読書をめぐる状況	子どもの読書に関する法律など
3	本を知ろう（発表） 文部科学省の施策	OECD 学習到達度調査
4	本を知ろう（発表） 読書教育を考える 1 日	文部科学省 読解力向上プログラム 朝の読書 読書感想文コンクール
5	本を知ろう（発表） 読書教育を考える 2 ねらい	文献比較、日米比較
6	本を知ろう（発表） 読書教育を考える 3 発達段階	発達段階の例 どう考えるか？
7	本を知ろう（発表） 読書教育を考える 4 方法	日米の違い フィンランド・メソッド
8	本を知ろう（発表） ゲスト講師 読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク	実演
9	本の面白さを伝えるために 1	読み聞かせ
10	本を知ろう（発表） 本の面白さを伝えるために 2	ブックトーク
11	本を知ろう（発表） 本の面白さを伝えるために 3	ブックトークプランのつくり方
12	本を知ろう（発表） 本の面白さを伝えるために 4	フランスのアニマシオン
13	本を知ろう（発表） 子どもに読書をすすめること	さまざまなメディアと読書
14	子どもの読書に関わる政策、動きなど	文部科学省の動向など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本を知ろう」の発表、及び 3 回目の課題「ブックトークプランの作成」では、絵本や児童文学を扱う。公共図書館の子どもセクションに行くことをすすめたい。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

『読み聞かせ この素晴らしい世界』 ジム・トレリス 亀井よし子訳 高文研 1987
『鍛えよう！ 読むチカラ 学校図書館で育てる 25 の方法』 桑田てるみ監修
「読むチカラ」プロジェクト 明治書院 2012
『読書と豊かな人間性 新版』 朝比奈代作 米谷茂則 放送大学教育振興会 2015

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度、本紹介の発表「本を知ろう」、レポート課題など。平常点（授業時の発言など授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）： 40 %
課題（「本を知ろう」の発表、提出レポート①子どものときに出会った本、②読書教育を考える、③ブックトークプランの作成、の 3 回）： 60 %

【学生の意見等からの気づき】

授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使用する。できるだけ登録を行うこと。

【その他の重要事項】

本科目は司書教諭資格取得のための科目である。
しかし、司書教諭資格を必要としない学生も受講できる。

【Outline and objectives】

Reading is the basic of learning. Students learn the knowledge of reading education and various books. They also learn the skill of introducing books and sharing the pleasure of reading.

FRI200MA

情報メディアの活用

坂本 旬

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報メディア社会を生きる市民に必要なメディア情報リテラシーを育成するための学校図書館と情報メディア活用の基礎を学び、実践力を養う。

【到達目標】

- (1) 今日の情報メディア社会を生きる人間のあり方を考察することができる。
- (2) 学校図書館における情報メディア活用の実践力を身に付ける。
- (3) 情報メディア社会に生きる市民として求められるメディア情報倫理を理解する。
- (4) 情報メディアを活用した基礎的な映像制作スキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半はメディア情報リテラシーの基本的な考え方を学び、後半は実際の情報メディアを用いた創作活動を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や学習方法、司書課程専用授業支援システムの使い方などを解説する
2	高度情報社会と人間	グローバル化するメディア社会の特徴を考える
3	情報メディアの発展と社会の変化	情報メディアの発展と社会の変化の関係を考える
4	情報メディアの特性と選択	情報・メディアの特性と活用のためのメディア情報リテラシーの概念を学ぶ
5	情報倫理と市民社会	市民社会における著作権や肖像権、表現・情報の自由などの情報倫理を学ぶ
6	情報メディアの種類とその特性	さまざまな情報メディアの種類と特性を学ぶ
7	情報リテラシーと情報検索・探究学習	情報リテラシーと情報検索・探究学習の関係を具体例を通して学ぶ
8	学校図書館と情報リテラシー教育	学校図書館が情報リテラシー教育の中心に位置することを学ぶ
9	視聴覚メディアとメディア・リテラシー	視聴覚メディアとメディア・リテラシーの関係を学ぶ
10	視聴覚メディアの活用と学習	視聴覚メディアの仕組みと学習についての基本的な理論を学ぶ
11	学校図書館とコンピュータ・情報発信	デジタル・ストーリーテリングを学校図書館で活用する方法を学ぶ
12	映像制作の実践	映像制作の過程を実践的に学ぶ
13	映像評価の実践	映像を評価する方法を実践的に学ぶ
14	映像作品の発表会	映像作品を発表し、評価をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

司書課程用授業支援システム（HULiC）を用いて、事前に準備された予習や宿題等を行う。

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディア情報教育学』（法政大学出版局）2014 年

【参考書】

ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシーカリキュラム』
右のサイトからダウンロードできます。<http://amilec.org/>

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50%、提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

積極的に授業にワークショップを取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

授業用コンピュータ（資格課程準備室備品を使用する）

【その他の重要事項】

授業の中で映像制作を行うため、欠席はなるべくしないこと。

【Outline and objectives】

To study basic theories of digital media and information literacy for school librarians

To produce digital storytelling video about books and reading life

FRI200MA

情報メディアの活用

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 1/Tue.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館における情報メディア全般の特性を理解し、基本的なメディア情報リテラシーを習得する。

【到達目標】

司書教諭に必要なメディア情報メディアの基本的な知識、技能を習得することができる。例えば、学校図書館の広報誌、簡単な CM・動画広報、簡単な図表、パワポなど、限られた汎用ソフトを使って、制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学校図書館の利用と検索、情報機器の活用法、アプリケーションの活用法、プレゼンテーションの方法など、各項目の課題演習をこなすことによって、基礎的なメディア情報リテラシーの取得を目指す。授業後半では、グループによる広報紙および CM・動画制作を行い、グループによるプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報メディアの特性と活用	情報実習室及び授業用グループウェア（HULiC）利用ガイダンス、「司書教諭」の規定、学校図書館とメディア
2	メディアの歴史（課題①、エクセル）	図書館資料とは何か、古代から現代までの主なメディアと歴史
3	レポート・論文の書き方（課題②、引用文献）	レポート・論文作成法 - 10 のステップ
4	検索の基礎理論（課題③、検索）	データベース、検索システム、論理演算、他
5	法政大学図書館	データベース検索の実際（有料データベース、洋書、他）
6	広報誌：見出しとレイアウト、ホームページの仕組みと作り方（課題④、PR 用ホームページ）（グループを決める）	読ませるための基礎理論、見出しとレイアウトの基本、ホームページの目的と機能、レイアウト
7	プレゼンテーションの基礎（課題⑤、パワーポイント）	プレゼンテーションの目的と方法
8	情報倫理・著作権（グループ活動によるブレインストーミング）	情報リテラシーと著作権、グループ活動
9	学校図書館からの情報発信①	グループによる広報誌制作（その 1）、各班の広報誌タイトルと役割分担の決定
10	学校図書館からの情報発信②	グループによる広報誌制作（その 2）、広報誌の構成、レイアウト、コンテンツの作成
11	学校図書館からの情報発信③	グループによる広報誌制作（その 3）
12	学校図書館からの情報発信④	広報誌の校正
13	グループ・プレゼンテーション①	プレゼン・リハーサル
14	グループ・プレゼンテーション②	グループ・プレゼンテーション
14	情報メディアの活用・グループ活動総括	振り返り・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業以外にも演習課題の提出やグループによる広報誌制作を行う。課題をしつかりこなし、授業にも積極的に参加することが求められる。また、授業後半のグループ学習においては、班によっては授業外での活動も求められる。

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【参考書】

- ・ 井上真琴著『図書館に訊け!』、筑摩書房、2004（ちくま新書）
- ・ 山本 順一・二村健監修、緑川信之編集『学校図書館メディアの構成』、最新版、学文社
- ・ 五十嵐絹子著『学校図書館ビフォー・アフター物語—図書館活用教育の全国展開を願って』、国土社、2009

【成績評価の方法と基準】

課題（40％）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）、グループ・プロジェクト及びプレゼンテーション（30％）、個人のプロジェクト作品（30％）によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

課題のワードについてはほとんどの学生がある程度のスキル（画像の挿入、罫線・図表の作成など）を身につけているため、今回は割愛した。

【その他の重要事項】

授業では、グループによるプロジェクトの協働制作やプレゼンテーションを行うため、受講生には授業への積極的な参加が求められる。

【Outline and objectives】

Students will understand the characteristics of media and information resources in school library and acquire basic skills and knowledges of media and information literacy that necessary for teacher librarians. Examples include creating school library PR newsletters and videos.

CUM100MA

ミュージアム資料論

田中 裕二

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土 1/Sat.1 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館活動の根幹をなす「資料」について、まずその特質や多様性を、さまざまな理論や具体例にもとづいて把握する。そのうえで、博物館資料が「収集」され、「保存」され、「研究」に活用され、「展示」に供される過程を概観し、博物館活動における資料の意味や役割を理解する。

【到達目標】

博物館を、「資料」という観点から理解することを目指す。「博物館資料」という概念が成立した背景、資料の収集や登録のプロセス、保存のありかた、さらには資料の閲覧や展示を通じた教育活動の現状や課題について、具体例にもとづきながら学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には、配布プリントやパワーポイント、映像等を用いた講義形式で行われる。学生の積極的な参加を促すために、グループ・ディスカッションや課題のプレゼンテーション等も適宜実施する。また最低一度は、博物館でのフィールド調査を課す予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	博物館学における博物館資料論の位置づけについて説明し、講義の見取図を示す。
第 2 回	博物館資料の概念	博物館資料という考え方が形成されてきた背景を概観する。
第 3 回	博物館の一次資料	博物館の一次資料（直接資料）について具体的に学ぶ。
第 4 回	博物館の二次資料	博物館の二次資料（間接資料）について具体的に学ぶ。
第 5 回	博物館資料の収集	資料収集の理念や目的について考える。
第 6 回	博物館資料の整理	収集した資料の記録、登録、整理等のプロセスを学ぶ。
第 7 回	博物館資料の公開	資料を公開することの意義や多様な手法について学ぶ。
第 8 回	博物館資料の展示	さまざまな資料の展示のありかたを概観する。
第 9 回	博物館資料の保存	資料の保存や管理の手法について学ぶ。
第 10 回	博物館資料と調査研究	博物館における調査研究と資料の関係について考える。
第 11 回	調査研究の公開	博物館資料にもとづく研究成果を公開する意義について考える。
第 12 回	市民と博物館資料	地域資源と博物館資料の関係について考える。
第 13 回	博物館資料の活用	学校教育や生涯学習、地域活性など、博物館資料の活用の可能性について考える。
第 14 回	まとめとふりかえり	半期を通して学んできた内容をふりかえり、博物館資料についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連した事例を各自が調べて発表する等の課題が適宜出されます。また、学期の途中で実際に博物館を訪れ、その成果をもとにレポートを書いたり、プレゼンテーションをしてもらう予定です（その際、若干の入館料が発生する可能性があります）。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、ほぼ毎回、プリント資料を配布します。

【参考書】

授業時に関連する文献について紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加度（ディスカッションの姿勢や課題の成果など）： 50 %
期末試験（論述）： 50 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当のためまだデータ無し。

【Outline and objectives】

Students will understand museums from the viewpoint of their materials and collection. They will see how the idea of museum materials and collection has been formed, and then study through concrete examples the process of collecting and registering materials, the way of conservation and the current state and issues of educational activities by way of exhibiting materials.

CUM100MA

ミュージアム教育論

荒川 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育施設として位置づけられている博物館＝ミュージアム（歴史博物館、美術館、文学館、自然科学系博物館、等々が含まれる）では、資料の収集、研究、展示等と並んで、教育普及の活動が重要な役割を果たしています。この授業では、ミュージアムにおける教育の意義や効果について、理論的基盤と実践事例の双方の観点から考え、これからのミュージアム教育のあるべき姿を探ります。

【到達目標】

幼児から社会人まで、さまざまな年齢や立場の人びとを対象に展開されているミュージアム教育の現状を知るとともに、今後さらにミュージアムでの学びを深化させていくにはどうすればよいかを考えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ミュージアム教育をめぐる基本的な理論を理解したうえで、歴史博物館や美術館など、それぞれのミュージアムの持つ資料や特性を生かして、どのような教育プログラムが実践されているのかを概観します。併せて、受講生自身が、ミュージアム教育のための講座やワークショップの立案を試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育とは何か	授業のガイダンスとして、この領域で扱うトピックスについて概説する。
第 2 回	ミュージアムでの体験と学び	学校での学びとミュージアムにおける学びの違いについて考え、ミュージアム教育の特質を理解する。
第 3 回	生涯学習とミュージアム①	なぜミュージアム教育の必要性が重視されるようになったのか、生涯学習社会の観点から考える。
第 4 回	生涯学習とミュージアム②	現在、国内外で展開されているミュージアム教育の理論的枠組みを理解する。
第 5 回	学校と連携したミュージアム教育	小学校や中学校と連携して展開される教育プログラムについて検討する。
第 6 回	地域と連携したミュージアム教育	地域のニーズや特性を生かしたミュージアム教育について検討する。
第 7 回	ミュージアム教育の手法①	ミュージアムの持つ資料や展示を生かした講座、講演会、ギャラリートーク等について学ぶ。
第 8 回	ミュージアム教育の手法②	ミュージアムが教育目的で作成、配布、頒布等を行っている印刷資料やウェブを通じた情報公開について学ぶ。
第 9 回	ミュージアム教育の手法③	ミュージアムにおけるワークショップや体験学習について具体的に学ぶ。
第 10 回	教育プログラムの立案に向けて	教育プログラムを実際に立案するためのプロセスや留意事項を理解する。
第 11 回	教育プログラムの作成と発表①	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 12 回	教育プログラムの作成と発表②	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 13 回	教育プログラムの作成と発表③	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する。
第 14 回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期の途中でミュージアムにおけるフィールド調査を実施し、その成果をもとにレポートを書いたり、プレゼンテーションをしてもらう予定です（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、授業に関連した事例を調べるなどの課題が適宜出されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、ほぼ毎回、プリントを配布します。

【参考書】

黒沢浩（編・著）『博物館教育論』講談社、ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（ディスカッションへの参加や課題の成果など）：50 %
期末試験（論述）：50 %

【学生の意見等からの気づき】

教室内での学びに終始せず、博物館でのフィールド調査とそのフィードバックを充実させていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

In the museums, including historical museum, fine art museum, museum of literature, museum of natural science and so on, which are positioned as adult educational facilities, educational activities for the visitors are very important alongside collecting materials, doing research and planning exhibition. In this class, we will consider the significance and effects of so-called ‘museum education’ from the viewpoint of both theory and practice, and explore the future form of it.

CUM100MA

ミュージアム教育論

山下 治子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：土 3/Sat.3 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミュージアムにとって教育とは何か。その活動の経緯や基となる理論を学び、さまざまな実践例を通して、ミュージアムの教育活動について理解を深める。

【到達目標】

- ①ミュージアムの教育活動の意味、意義について理解できる。
- ②ミュージアムでの教育活動が多様であることや、地域社会との関わりについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

美術館や博物館、水族館などさまざまなミュージアムでの教育普及プログラムの事例を紹介しながら、ミュージアムにおける教育について考えを深める。受講生それぞれのミュージアム体験も紹介しよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育の現在	現在、ミュージアムにおいて教育活動がどのように展開されているのかを概観する。た、その目的や方法で実践・研究が行われてきたのかを概説する。（授業のガイダンスを含む）
第 2 回	ミュージアムの利用とミュージアム体験	受講生の博物館体験や利用実態を振り返ってもらい、利用者の博物館体験が構成されていくプロセスを説明する。
第 3 回	ミュージアムでの「学び」	教育学などの先行研究の知見を紹介しながら、人が学ぶとは何を意味するのかを考える。学校教育との違いや受講生自らの学びを振り返る。
第 4 回	ミュージアム教育の意義と理念	日本および諸外国で展開されてきた博物館教育の意義や理論について解説する。
第 5 回	生涯学習の場としてのミュージアム	美術館での学び、ワークショップ 生涯学習として行われている博物館活動とその課題について解説する。
第 6 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動①	自然史系博物館での学び① 地域やコミュニティに根差した博物館で展開されている教育活動に着目する。特徴的な事例を解説しながら、必要とされる活動の具体像を考える。
第 7 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動②	自然史系博物館での学び② さまざまな地域博物館における学びから、考える。
第 8 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動③	学校と連携したミュージアム教育の事例。学校教育との違い、また学校教育と連携することの意味や課題について考える。
第 9 回	動物園・水族館での学び	動物園や水族館での教育プログラムや展示を紹介し、教育の場としての動物園、水族館について考える。
第 10 回	ミュージアム教育的活動の手法	ミュージアム・エデュケーターについて知る。どのようなことが求められるのかなど、日本での実情を概説する。
第 11 回	ミュージアムの利用と学び	ミュージアムは社会的包摂の役割を担う。その意味で教育活動は重要であることを理解する。
第 12 回	ミュージアム教育の実際	ミュージアムで教育プログラムを実践している方をゲストに招き、活動を紹介・解説してもらう。
第 13 回	ミュージアムグッズとミュージアム教育	ミュージアムグッズの教育的効果を考える。ミュージアムショップはもうひとつの教育の場であることを認識する
第 14 回	試験（まとめを含む）	授業内に試験を行う。 教科書を持ち込み可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いろいろなミュージアムに行き、展示だけでなく教育普及プログラムを見たり、参加したりしてみましょう。

【テキスト（教科書）】

『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【参考書】

雑誌「ミュゼ」のほか、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

（出席数＋リアクションペーパー）（50%）＋レポート（30%）＋学期末試験（20%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「ミュゼ」というミュージアムの専門誌を編集してきました。取材や編集で得た情報や背景、今後の展望などについて、スライドや記事を使って紹介し、ともに考えていきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the theory and the history of museum education by various case studies. The student will appreciate museum education deeply.

EDU200MA

社会教育演習

笹川 孝一

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自分史」を書き、自分自身に関する知識を創りだす。そして、自分史学習が人間の司令塔としての「コアコンピテンス」＝人格機能を豊かにする方法であることについて考察する。

自分自身を軸に世界をとらえ直す方法と、世界を軸に自分自身をとらえ直す方法と、この両者を重ね合わせるところで、他の物事や人々との関係性を含む、「自分」を知ることができる。

そして、自分を知らなければ、いくら努力しても、自己形成やキャリアデザインはうまくいかない。

自分自身に関する知識は、どんなにお金があっても手に入らない。それは、自分自身の手で作り出す必要がある。

そこで、この授業では、「自分を軸に社会を捉え直し、自分自身に関する知識を豊かにする方法としての自分史」を実際に駆使して、自分史を書く。そして、あらためて自分史学習に関しての認識を深め、他の人々の自分史学習支援やカウンセリング、コンサルテーションの能力を高める。

【到達目標】

- 1) 1 年間かけて、演習（ゼミ）参加者が、それぞれの「自分史（自己形成史・生活史）」を書く。
- 2) 自分史を書くことを通して、自分自身について振りかえる。
- 3) 自分が育った家庭、地域、時代、そこで出会った人々、影響を受けた文化・生活スタイルとの関係で、自分をとらえる。
- 4) 演習参加者（ゼミ生）によるグループ作業によって、自分史作成における相互支援を学ぶ。
- 5) 「自分史・生活史・自己形成史」と「就職のための自己分析」との移動などを検討し、「自己・社会把握の方法」についての認識を深める。
- 6) 中間まとめの集中授業、パーティー実習、レポート集作成、グループワーク実施等によって、地域や職場、N G O 等におけるファシリテーターとしての能力を高める。
- 7) レポート集と 1 年間のまとめについての映像 D V D を作成し、編集能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 1) この授業のテーマにかかわって、授業の節目節目において、教員が必要な講義を行い、学生とディスカッションして、全体の日程、進行方法などを決める。
- 2) 学生は、グループワーク、調査活動等によって、実際に自分史を書きながら、必要な文献の検討を行う。
- 3) 夏の集中授業で中間まとめを行い、秋学期の作業に弾みをつける。
- 4) レポート集と D V D 作成を行って、自分たちの足跡を作品化する。
- 5) 演習（ゼミ）運営のために係り分担を行い、みんなで協力し合い、カバーしあって、授業運営の主人公になる。
- 6) 卒業生組織である「笹川ゼミ同窓会」の「ライフヒストリーを語る」研究会等に参加するとともに、この授業のイベントに卒業生を招き、視野を広げ交流を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要と進め方について	授業の内容と進め方をを説明し、受講希望者と協議する。
2	講義と事例研究①「私の知識は私が創る」～「自分史」を書く意味について～	現代社会で生きる上で、自分史を書くことが、私自身を認識するうえで不可欠であることを学ぶ。社会教育演習で「自分史」を書いた先輩たちの話を聞く。
3	グループワークと発表①	講義①の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
4	講義②「自分史の書き方」～年代によって書き方が異なる「自分史」～	自分史は、年代等によって書き方が異なることを学ぶ。
5	グループワーク②	講義②の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
6	講義③「自分史」の認識・心理過程	自分史を書くことによって、どのような認識力・意志・実行力がつくのか、「自己肯定感」「コンピテンス」に焦点を当てて学ぶ。

7	グループワーク③	講義③の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。「自分史」と「就職のための自己分析」との共通点と相違点について検討し、「自己分析」の発展方向を考える。
8	講義④「自分史」と「就職のための自己分析」との比較検討	講義④の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
9	グループワーク④	日本における「自分史」の歴史とその背景を、俳句・川柳・短歌・狂歌、生活記録などとの関係を含む庶民の自己表現として、また「自伝」との関係において、考える。また、近年アメリカ・カナダなどで取り組まれ始めている”Guided Autobiography”との比較検討も行う。
10	講義⑤自分史の歴史とその背景、および諸外国の動向	講義⑤の内容について、学生が自分の生活経験等を踏まえて互いに伝えあい、討議し、見解を整理し、発表する。
11	グループワーク⑤	以上の作業を通じて考えたこと、感じたことについて議論し、中間まとめに向けた「レポート集①」準備をし、作成する。また、社会教育主事・地域学習支援士等に必須なイベント企画と実行、ファシリテーションの技術を習得するためにパーティー実習の企画を練る。
12	中間まとめ準備とパーティー実習準備	「5 つの質問」への答えを基礎に、自分史を語る。グループを作り、グループ内で行う。
13	自分史を語る①	自分史を語る作業を続ける。同時に、そこから、夏休みにインタビュー等によって調べる課題と計画を明らかにする。
14	自分史を語る②	また、夏の集中授業の準備をする。
15	春学期のまとめと夏の課題、秋学期授業計画	夏の課題の振り返りと、秋学期の授業計画について、検討する。
16	夏の課題の成果報告①	各自の夏の調査結果を持ち寄り発表する。
17	夏の課題の成果報告②	夏の調査結果の発表を継続する。
18	夏の課題成果についての討論①	発表を踏まえて討論する。
19	夏の課題成果についての討論②	上記の作業の続き
20	「自分史」を書き進む①	「自分史」を具体的に書き進め、進捗状況を報告し合う。
21	「自分史」を書き進める②～年表の作成～	上記の作業を継続する。特に、年表の作成状況を報告し合う。
22	「自分史」を書き進める③～インタビューの補強～	上記の作業を継続する。とくに、インタビューの補強状況について報告し合う。
23	「自分史」を書き加え発表し合う①～私の自立と親の期待	この時期に、自分史の具体的な書き方について、教員とゼミ生との個別面談を行い、意見交換と添削等を行う。
24	「自分史」を書き加え発表し合う②（私の自立と「親離れ・子離れ」）	書き加えた自分史をそれぞれ検討し、親の期待とその効果・逆効果について議論する。
25	「自分史」を書き加え発表し合う③（私の自立と大学での勉学と進路選択）	上記の作業を進める。とくに親離れ、子離れについて検討する。また、レポート集②パーティー実習②の進捗状況を確認する。
26	「自分史」を書き加え発表し合う④（友情と恋愛、結婚イメージ）	上記の作業を進める。とくに、大学での勉学と進路選択について検討する。また、レポート集②パーティー実習②について、振り返りを行う。
27	「自分史」の発表およびレポート集作成	上記の作業の続き。特に、友情と恋愛、結婚イメージについて検討する。この時期に、2 回目の個人面談と添削を行う。
28	レポート集についての合評	あらためて、全体会でそれぞれの自分史のアウトライン、発見したこと、課題について発表する。並行してレポート集を作る。レポート集についての合評会を行う。また、修了式の準備をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート集作成。夏季集中授業 1 回、パーティー実習と修了式（2 月第 1 週の火曜日を予定）等。

【テキスト（教科書）】

笹川「コア・コンピテンスを豊かにする『自分史』学習について」（『資格課程年報』第 1 号、法政大学資格課程、2012 年 3 月）

笹川「自分史・生活史・自己形成史と『就職のための自己分析』についての研究ノート」（同上第 2 号、2013 年 3 月）

【参考書】

笹川孝一『キャリアデザイン学のすすめ』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

ゼミにおける積極的参加（40 %）
ゼミ報告の十分な準備（10 %）
集中授業、レポート集作成、パーティー実習等の準備活動への貢献（20 %）
レポートの内容と形式（30 %）
以上をもとに、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業はハードだが、きちんと参加し、貢献している場合には、学生の満足度が高いことが確認された。

【学生が準備すべき機器他】

ワード、パワーポイント、エクセル／プロジェクター操作／デジタルカメラ、ビデオカメラ／DVD 編集ソフト／ゼミ HP の活用

【その他の重要事項】

☆「自分史」を書きたい人、就職活動における「自己分析」に関心のある人、
「自己肯定感が薄い」ので何とかしたい」と思っている人には、役に立つはず。
☆社会教育主事の資格認定授業でもあるので、実際に書くこと、調べること、まとめること、意見交換すること、協力し合うこと、イベントを企画・実施・振り返ること、成果物＝作品を作り上げること、を重視する。

☆学問共同体としてのゼミ活動と先輩たちとの交流のさらなる充実を心がけたい。学生側の積極的な参加を望む。

【Outline and objectives】

Making Autobiography and Thinking on Meaning of Autobiography Learning

EDU200MA

現代生活・文化と社会教育Ⅱ

佐々木 美貴

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：

この授業では、水辺のある暮らしや環境とそれにかかわる地域づくり、その中での社会教育について、身近な事例に即して学ぶ。

対象：

具体的には、私たちが学ぶ市ヶ谷キャンパスがある、千代田区を中心とした水辺のある暮らしや環境を対象とする。例えば、外濠、千鳥ヶ淵などの内濠、日比谷公園や後楽園、ホテルニューオータニなどの大名庭園等である。

方法：

- ①その中の 1-2 か所の現地へ行き、どのような場所か、どのように利用し保全されているのかを、調査する。
- ②また、現地にかかわる区役所や NGO などの組織について調べ、それらが行っている現地にかかわる活動等について学ぶ。
- ③さらに、日本各地で行われている水辺のある暮らしや環境にかかわる事例について、参考として学ぶ。

目標：

以上をふまえて、水辺のある暮らしや環境にかかわる法政大学の学生を対象とした社会教育プログラムを作り、発表し、評価し合う。

【到達目標】

次の 4 点について理解を深めることが、この授業の到達目標である。

- ①千代田区を中心とする水辺の暮らしや環境についての歴史と現状と解決すべき課題。
- ②課題を解決するための人々の取り組み。
- ③その際に役立てられている技や知識や知恵。
- ④それらと関係する社会教育実践や地域づくりのプログラム。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 1) 教員がテーマにそった講義を行う。調査の方法や視点についても講義する。必要な資料は配布する。関係する画像・映像を見る。
- 2) 千代田区にある外濠、千鳥ヶ淵などの内濠、日比谷公園、後楽園、ホテルニューオータニなどの大名庭園等の現地に行き、観察する。
- 3) 区役所や NGO などが行っている現地での活動や計画などについて調べる。
- 4) 観察や調査した内容についてグループワークを行う。
- 5) 水辺のある暮らしや環境にかかわる社会教育プログラムを作る。
- 6) 作ったプログラムを発表し、評価し合う。
- 7) 具体的な進め方については、受講生と相談しながら決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	いろいろな「水辺のある暮らしや環境」（その 1）～水辺のある暮らしや環境のイメージの共有	①授業の内容、進め方、成績評価基準、テーマなど、この授業について説明する。 ②みんなで水辺のある暮らしと環境のイメージを出し合って、共有する。
第 2 回	いろいろな水辺のある暮らしや環境（その 2）～分類と定義を学ぶ～	①第 1 回に出し合った水辺のある暮らしや環境のイメージを振り返り、さまざまなタイプの水辺を分類してみる。 ②定義と分類の参考のために、ラムサール条約の第 1 条や分類法を使う。
第 3 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境を知る 1	①千代田区にある外濠、千鳥ヶ淵などの内濠、日比谷公園、後楽園、ホテルニューオータニなどの大名庭園等の水辺の環境の歴史や現状について、資料や写真・映像を使って紹介する。 ②その際、前回のラムサール条約の定義や分類にそくして、紹介する。
第 4 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境を知る 2	①玉川上水などの江戸時代の水道について、新宿区立歴史博物館もしくは東京都水道歴史館へ行き、学ぶ。 ②気づいたことや興味を持ったことなどについて、川柳や俳句、短歌を 3 点作り、それに関連した写真を撮る。

第 5 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境を知る 3	①第 4 回で作った川柳や俳句、短歌、撮影した写真をグループワークで、報告し合う。 ②みんなが関心を持ったことなどについて、分類する。 ③調べたい水辺のある暮らしや環境について、話し合う。
第 6 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境を調べる 1	①第 5 回で話し合った水辺を調べるための準備をする。 ②具体的には、現地調査の視点や方法について、説明する。 ③さらに、「湿地の文化と技術」の調査項目などを参考にして、グループワークで話し合っ、調査シートを作成する。
第 7 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境を調べる 2	①第 5 回で決めた水辺について現地調査する。 ②その際、第 6 回で作成した調査シートを使い、写真なども撮る。
第 8 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境を調べる 3	①現地調査の結果をまとめ、グループワークで報告し合う。 ②その際、良いと思ったこと、課題だと思ったことを出し合う。良い点を伸ばす取り組み、課題の解決策についても考える。
第 9 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境の発展方向を考える 1	①全国各地の水辺のある暮らしや環境で行われている、発展のための取り組みを説明する。 ②具体的には、習志野市のユースプログラム、鶴岡市のいのち学、新潟市の潟環境研究所、豊岡市のコウノトリとの共生のための取り組みについて、映像も使って説明する。
第 10 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境の発展方向を考える 2	①第 9 回の発展のための取り組みを参考にして、第 7 回で調べた水辺の発展方向を考える。 ②図書館や博物館での資料調査、区役所や関係する NGO などへのヒアリング調査を行う。
第 11 回	千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境の発展方向を考える 3	①第 10 回で調べた結果を模造紙等にまとめる。
第 12 回	千代田区を中心とする水辺を活かした社会教育プログラムを作る 1	①これまでの授業をふまえて、現地調査を行った水辺の発展方向につながる、法政大学の学生を対象とした社会教育プログラムを作る。 ②その際に、社会教育プログラムを作るために必要な事項、事前準備、手順などについて、学ぶ。 ③社会教育プログラムの構想を練り、グループワークで構想を発表し、学生同士でアドバイスをする。
第 13 回	千代田区を中心とする水辺を活かした社会教育プログラムを作る 2	①前回のアドバイスをふまえて、社会教育プログラムを作る。 ②模造紙などに社会教育プログラムをまとめ、報告の準備をする。
第 14 回	千代田区を中心とする水辺を活かした社会教育プログラムを作る 3	①前回は作成した法政大学の学生を対象とした、千代田区を中心とする水辺を活かした社会教育プログラムを報告する。 ②また、報告を聞いて、互いに評価し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

出身地や現在住んでいる近くの水辺のある暮らしや環境と自分との関わりについて考えておくこと。千代田区を中心とする水辺のある暮らしや環境で、興味がある場所を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

『湿地の文化と技術 33 選～地域・人々とのかわり』日本国際湿地保全連合 2012 年 授業内で配布

【参考書】

日本湿地学会編『図説 日本の湿地』朝倉書店 2017 年、笹川孝一他編『湿地の文化と技術 東アジア編』日本国際湿地保全連合 2015 年

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加（50%）と報告する社会教育プログラム（50%）によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の感想と質問は、翌週の授業のはじめに伝える。水辺のある暮らしや環境について身近に感じられるよう、現地を訪問し、不足の部分は映像を使う。また、学生の多様な視点を交流するため、グループワークを使った授業を行う。

【Outline and objectives】

Theme:

In this lesson, we learn about the environment of the waterside and the community involved in it, social education in it, according to familiar cases.

Target:

Specifically, we target the waterside environment centered on Chiyoda Ward, where there is an Ichigaya campus we learn. For example, the outer moat, the inner moat and daimyo gardens.

Method:

- ① Go to the one or two places in it and examine what kind of place, how it is used and preserved.
- ② In addition, we examine the organization such as the ward office and NGOs involved in the field, and learn about the local activities and the like that they are doing.
- ③ In addition, learn as a reference about the case related to the environment of the waterside being done in various places in Japan.

Goal:

Based on the above, we will make a social education program related to the environment of the waterfront, announce it and evaluate it.

EDU200MA

社会・地歴科教育法【2016年度以前入学者用】

石出 法太

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：火 6/Tue.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに具体的な授業テーマ（歴史が軸になる）をあげ教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑などで毎回提出物がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
2	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
3	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について—教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
4	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
5	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
6	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
7	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
8	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
9	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
10	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
11	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
12	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
13	社会・地歴科の課題（主體的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる。
14	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。
15	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
16	授業の設計（1）：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
17	授業の設計（2）：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
18	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
19	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
20	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
21	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な課題を考える。
22	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
23	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
24	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。

25	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
26	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
27	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
28	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められる。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてもらいたい。授業中に紹介した文献も読んでもらいたい。本を読むことは教員の仕事の一つともいえる。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もある。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中に文献を紹介、プリントの配布、中高の教科書は研究・検討の対象となる。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10％）、毎時間提出の感想・レポート提出（20％）、学習指導案（10％）、二回の試験（60％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

EDU200MA

社会・地歴科教育法【2016年度以前入学者用】

本山 明

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態（講義、演習、）、授業内での発表、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパー提出

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と小・中・高の授業体験
第2回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を通して、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを確認していく
第3回	社会科の前身（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育
第4回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の出発と社会科教育改革と社会科の成立
第5回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第6回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用方法を現場での実態をもとに構想していく
第7回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	調査、発表学習はどのようにしたらよいのか。ICTを利用した発表学習
第8回	社会・地歴科の評価	学習評価について、評価の観点、評価方法について理解を深める
第9回	教育実践研究（中学地理）	中学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察
第10回	教育実践研究（高校地理）	SDG s の授業について 高等学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察
第11回	教育実践研究（中学歴史）	SDG s の授業について 中学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第12回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第13回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）	主体的・対話的・深い学びの授業設計
第14回	まとめ（授業内確認テストも含む）	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か
第15回	学習指導案とその作成方法	学習指導案とは何か 必要な項目 留意点
第16回	授業の設計（1）：授業の構成	学習指導要領をもとにして授業構成を構想する
第17回	授業の設計（2）：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	教材を探す方法と ICT 教材の活用方法を現場の実態をもとに構想していく
第18回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第19回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第20回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第21回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する

第22回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界の近代化の研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第23回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第24回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第25回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第26回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDGsについて研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第27回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する。
第28回	まとめ：授業内確認テストも含む	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①予習復習の方法は適宜指示する。特に授業に関わる学習指導要領は、該当部分を予習してくること。②夏季休業中における課題の作成。※必須③宿題※必須
※必須の提出ができないときは単位修得困難

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領解説」社会科編、「高等学校学習指導要領解説」地歴科編

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。
毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。
平常点・授業内レポート 50 %
宿題・レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学習指導案の作成方法を細かく、指導していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要な場合は指示する。

【その他の重要事項】

質問、相談は授業後に受け付ける。
実務経験としては中学校社会科の経験がある。現場の感覚に近い授業指導ができる。
時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

EDU200MA

社会・地歴科教育法【2016年度以前入学者用】

石出 法太

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、さらに具体的な授業テーマ（歴史が軸になる）をあげ教科書と学習方法などを具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑となり、毎回提出物がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画と学生へのアンケート、教育の課題について。
2	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	現在の中学校社会科と高等学校の地歴科について。
3	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	明治以降の日本の教育について—教育勅語と修身教育などについて学ぶ。
4	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科の成立と指導要領の変遷について学ぶ。
5	社会科における資質・能力	具体的な授業をあげて社会科の課題を考える。
6	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	具体的な授業をとりあげて教材・教材論を学ぶ。
7	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	授業実践の中から具体的に授業方法を考える。
8	社会・地歴科の評価	授業実践の中で生徒像も含め具体的に学ぶ。
9	教育実践研究（中学地理）	具体的な中学校の実践をとりあげて学ぶ。
10	教育実践研究（高校地理）	具体的な高等学校の実践をとりあげて学ぶ。
11	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
12	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史授業の中でテーマをあげて教材・授業研究。
13	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	中学校と高等学校における教育の現実的な問題をとりあげる
14	まとめ（授業内確認テストも含む）	授業のふりかえりとレポート作成。
15	オリエンテーション：学習指導案とその検討	授業計画と模擬授業案の検討。
16	授業の設計（1）：授業の構成	実際の模擬授業にむけての演習をおこなう。
17	授業の設計（2）：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	模擬授業の教材や授業方法を検討する。
18	授業実践研究：アジアと世界	現在の国際問題をとりあげ検討する。
19	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史など様々な視点から教材を考える。
20	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界的な視点から人類がかかえる課題についてとりあげる。
21	授業実践研究：環境問題	身の回りから世界まで様々な課題を考える。
22	授業実践研究：世界の近代化と日本	明治以降の日本のあゆみから具体的なテーマをとりあげる。
23	授業実践研究：帝国主義とファシズム	現在の視点から帝国主義とファシズムを検討する。
24	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	今日的な問題意識をもって戦争学習をとりあげる。

25	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	現在の様々な問題につながる冷戦時代、その中での日本を考える。
26	授業実践研究：持続可能な世界と日本	現代世界のかかえる問題から現代史を検討する。
27	社会・地歴科の授業と方法の課題	現在の中学校社会科、高等学校の地歴科の課題を明らかにする。
28	まとめ：授業内確認テストも含む	授業のふりかえりとレポート作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められる。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてもらいたい。授業中に紹介した文献も読んでもらいたい。本を読むことは教員の仕事のひとつともいえる。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もある。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中に文献を紹介、プリントの配布、中高の教科書は研究・検討の対象となる。

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）
文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10％）、毎時間提出の感想・レポート（20％）、学習指導案（10％）、二回の試験（60％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons .

EDU200MA

社会・公民科教育法【2016年度以前入学者用】

八木橋 正之

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

中学社会科（公民分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業で配布するプリントをもとに、社会・公民科の各科目の授業実践の学習などを通して、授業のねらいや目標を講義形式で行い、社会・公民科教育のあり方と課題を考えます。尚、適宜、課題学習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画及びアンケートによる受講生の意識調査
第2回	公民的資質とは何か	戦後教育における社会科教育の役割について
第3回	社会・公民科教育の歴史	教育勅語と修身、戦後の出発と教育基本法・社会科
第4回	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の位置づけと変遷について
第5回	社会・公民科の目標と内容	主権者としての公民的資質の育成について
第6回	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	憲法・人権・民主主義をどう学ぶか
第7回	実践事例の検討（高校公民科）	高校公民科の科目編成と授業展開
第8回	学習指導案の書き方	学習指導案の作成と方法について
第9回	教材の研究と開発	社会科教育と教材について
第10回	情報機器及び教材の効果的な活用	各種資料・統計の扱い方と方法について
第11回	学習評価の工夫と実際	評価の考え方と進め方について
第12回	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業計画作成の留意点①
第13回	学習指導案の検討（高校公民科）	授業計画作成の留意点②
第14回	春学期のまとめとテスト	学習指導案作成に向けて
第15回	実践研究及び授業評価の視点	学習のねらいと目標及び指導方法について
第16回	実践研究（中学社会科公民的分野）	公民的分野の学習の流れー地理的分野・歴史的分野との関連
第17回	実践研究（高校「公共」）	新科目としての性格と目標について
第18回	実践研究（高校「倫理」）	「倫理」の基本的性格と目標について
第19回	実践研究（高校「政治・経済」）	「政治・経済」の基本的性格と目標について
第20回	模擬授業（中学社会科公民的分野）ー私たちと現代社会	現代社会の見方や考え方について
第21回	模擬授業（中学社会科公民的分野）ー私たちと政治・経済	豊かな暮らし、民主主義とは何か
第22回	模擬授業（中学社会科公民的分野）ー世界平和と人類の福祉、より良い社会を目指して	私たちと国際社会の課題について
第23回	模擬授業（高校「公共」）	人間の尊厳と平等、個人の尊厳、法の支配などを中心に

第24回	模擬授業（高校「倫理」）	現代の諸課題と倫理について－生命倫理・環境倫理を中心に
第25回	模擬授業（高校「政治・経済」）	三権分立と国民の政治参加を中心に
第26回	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	憲法の三原理を中心に
第27回	高校社会・公民科の授業実践の課題	主権者としての社会認識をどう育てるか
第28回	授業のまとめ	課題レポートの作成と発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より、社会・公民科だけでなく、広く教育や社会に関わる記事や内容に興味・関心を持ち、何が問題・課題になっているのか意識して考えるようにすること。

【テキスト（教科書）】

授業ごとにプリントを配布します。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（40％）、課題（40％）、レポート（20％）等をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者相互の活発な討論・意見交換および問題点や課題の共有が求められます

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

EDU200MA

社会・公民科教育法【2016年度以前入学者用】

松尾 知明

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいか問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。さらに、これらの基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科を指導するにあたっての基礎的な事項について学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。また、グループで実践研究の発表を行うとともに、各自が学習指導案を作成して模擬授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会・公民科と教師の力量形成
2	公民的資質とは何か	社会・公民科教育の意義と役割
3	社会・公民科教育の歴史	公民教育の歴史
4	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の変遷
5	社会・公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	公民の授業とは
7	実践事例の検討（高校公民科）	公民の授業とは
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材の研究と開発	教材とは
10	情報機器及び教材の効果的な活用	学習指導の工夫
11	学習評価の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業のデザイン
13	学習指導案の検討（高校公民科）	授業のデザイン
14	春学期のまとめとテスト	授業の振り返り
15	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
16	実践研究（中学社会科公民的分野）	発表と質疑
17	実践研究（高校「公共」）	発表と質疑
18	実践研究（高校「倫理」）	発表と質疑
19	実践研究（高校「政治・経済」）	発表と質疑
20	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	授業の実施と検討
21	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	授業の実施と検討
22	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人類の福祉、よりよい社会を目指して	授業の実施と検討
23	模擬授業（高校「公共」）	授業の実施と検討
24	模擬授業（高校「倫理」）	授業の実施と検討
25	模擬授業（高校「政治・経済」）	授業の実施と検討
26	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	公民教育のめざすもの
27	高校社会・公民科の授業実践の課題	公民教育のめざすもの

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。また、個人やグループで教材研究や学習指導案の作成を行う。また、文献や資料などを読み、課題に応じてレポートを作成する。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。

【テキスト（教科書）】

三谷貞夫他編『中等社会科ハンドブック』学文社。その他、授業において指示する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30％）、課題（40％）、テスト（30％）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

EDU200MA

社会・公民科教育法【2016年度以前入学者用】

石出 法太

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科教員として必要な指導上の知識や技能を習得する。現実の様々な課題について問題関心を持ち、自己学習に努め、様々な授業実践に学び、模擬授業を通して実践的な指導力の基礎を身につける。

【到達目標】

教員として社会・公民科がもつ意義や役割を理解し、現代社会を分析できる能力を養い、現代社会の課題を様々な視点から教材として開発し、多様な生徒に柔軟に対応できる実践的な指導力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期には、社会・公民科の内容やあゆみを現代の課題や問題とむすびつけて学ぶ。秋学期には、実践的指導力の習得をめざし、受講生各自が学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、その検討をおこなう。毎時間提出物がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	1年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
2	公民的資質とは何か	現在の公民科の課題を含めて学習する。
3	社会・公民科教育の歴史	明治以降の学校教育、その中で公民科について学ぶ。
4	学習指導要領と社会・公民科	社会科の成立から学習指導要領の変遷を学ぶ。
5	社会・公民科の目標と内容	具体的な公民科の授業を通して目標と内容を学ぶ。
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	中学校での憲法をとりあげた授業で考える。
7	実践事例の検討（高校公民科）	高等学校での国際問題を取りあげた授業で検討する。
8	学習指導案の書き方	模擬授業や教育実習を想定して指導案を考える。
9	教材の研究と開発	中・高の授業を取りあげて教材研究論を考える。
10	情報機器及び教材の効果的な活用	実際の授業の中での機材の使用などを検討する。
11	学習評価の工夫と実際	実際の授業を取りあげて評価の問題を考える。
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	中学校の授業案を具体的にとりあげ研究・検討をする。
13	学習指導案の検討（高校公民科）	高校の授業案を具体的にとりあげ研究・検討をする。
14	春学期のまとめとテスト	春学期のふりかえりとまとめのレポートの作成。
15	実践研究及び授業評価の視点	授業計画とあわせ、今後の授業への対応を示す。
16	実践研究（中学社会科公民的分野）	憲法学習についての実践を扱う。
17	実践研究（高校「公共」）	現代社会の実践を検討する。
18	実践研究（高校「倫理」）	思想について人物面からとりあげて検討する。
19	実践研究（高校「政治・経済」）	現代世界の政治・経済の問題を取りあげる。
20	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと現代社会	現代日本の課題を取りあげたものをテーマとする。
21	模擬授業（中学社会科公民的分野）－私たちと経済・政治	消費と労働の問題を軸に政治・経済を考える。
22	模擬授業（中学社会科公民的分野）－世界平和と人々の福祉、よりよい社会を目指して	現在の世界の紛争やテロをテーマにとりあげる。
23	模擬授業（高校「公共」）	新科目公共に対する問題意識をもって実践を考える。
24	模擬授業（高校「倫理」）	現在の宗教を含め倫理的なテーマを課題に考える。

25	模擬授業（高校「政治・経済」）	具体的な現在の課題をとりあげて検討する。
26	中学社会科公民的分野の授業実践の課題	授業方法も含め公民の授業の課題を明らかにする。
27	高校社会・公民科の授業実践の課題	現実的なテーマから授業課題を明らかにする。
28	授業のまとめ	授業をふりかえりレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校「学習指導要領」については、該当部分を必ず予習してくる。
・各自が選んだ授業テーマに即して、夏季休業中を活用して学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出すること。※これは必須である。
・毎回の授業でとりあげられる時事問題に備えて常に新聞を読むこと。

【テキスト（教科書）】

中学校公民教科書『新編新しい社会 公民』東京書籍

【参考書】

授業時に適宜紹介する。
「学習指導要領」（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10％）、授業時の感想・レポートの提出（20％）、学習指導案（10％）、二回の試験（60％）をもとに総合的に勘案してして評価する。

【学生の意見等からの気づき】

現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

EDU200MA

商業科教育法【2016 年度以前
入学者用】

木村 良成

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：火 6/Tue.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春・秋学期の授業を通して、商業教育、特に高等学校の商業科教育についての正しい認識と理解を得させるとともに、当該教科の教育についての学習指導能力の基礎を培うことが達成できれば良いと思っている。

まず最初に、商業教育とは、特に高等学校段階での商業教育とは一体どのような性格の教育なのか、そしてそれにはどのような効用なり、役割が期待されているのかを考えてみる。

春学期の授業では、当該教科の学習指導を中心とした授業展開を考えているが、その前段階として、まず、一般的な商業の学習指導の概念や学習指導計画、学習形態と学習指導法などについて学習する。その後、高等学校の商業教科の組織上の科目群、すなわち、流通ビジネス（商業経済）、国際経済、簿記会計、経営情報（情報処理）および総合的（総合学習）の各科目群の中から幾つかの科目を選んで、それぞれの科目の性格・目標、内容などとの関連において、これらに適した学習指導法について考え、演習を試みしてみる。秋学期は、そのような商業教育は、わが国の場合、何時ごろ、どのような社会的経済的背景の下に起こり、どのような変遷を経て今日に至ったのか、特に戦後の教育制度の下での変遷に力点をおいてみる。

その後、最新版の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学校の教科・科目の履修を通して実現されるものであるから、ここで現行高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

【到達目標】

教員として学校における全ての教育活動において役に立つようになること。そして、商業科教員として最大限身につけておくような教材研究ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義一辺倒にならぬように、例えば、アクティブラーニング的な課題学習や模擬授業のようなものを取り入れたり、現職教員を招いての講演会を行うなど、多様な授業形態・方法を工夫してやっていきたいと思っている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本における現在の商業教育全般について	「商業教育」とは何か
2	商学と商業学の違いについて	学問間の違い
3	教科商業の科目について	（1）基礎科目（実際の科目についての説明）
4	教科商業の科目について	（2）必修科目（実際の低学年での科目についての説明）
5	教科商業の科目について	（3）必修科目（実際の高学年での科目についての説明）
6	教科商業の科目について	（4）発展科目（実際の科目についての説明）
7	商業教育の特質	普通高校との相違
8	現代商業教育の役割	現代に求められている商業教育
9	学習指導の形態と進め方	商業教育におけるそれぞれの科目の学習指導方法
10	学習指導法と指導計画について	指導計画における「指導案」の役割
11	学習指導計画と教育評価	教育評価の様々な方法について
12	外国における商業教育の現状	諸外国での現状（近隣アジア諸国での現状）
13	生涯学習と商業教育の結びつき	生涯学習の意義と定義
14	高等学校・大学以外で行われている商業教育	商業教育が行われている現場
15	現代商業教育の実状と問題点について	課題と解決
16	今後の商業教育の動向について	将来の商業科教育を模索
17	近代商業教育制度の創設	室町時代から江戸時代
18	明治時代の商業教育	明治時代初期における学制を中心とした教育
19	学制の発布とその創成期	教育令や商業学校通則に従った商業教育

20	明治時代中期以降の商業教育	実業学校令における商業教育
21	大正時代から昭和時代初期（戦前から戦後にかけて）の商業教育	大正期における商業教育の絶頂期
22	第二次世界大戦中の商業教育	商業教育の危機
23	第二次世界大戦後まもなくの商業教育体系の変化	高度経済成長期までの商業教育の成長
24	商業教育の体系的変化	高度経済成長期以降の低成長およびバブル経済下における商業教育の質的変化（平成不況も含む）
25	実際に行われている商業教育の現場から	商業科高等学校教員を招聘しての講演
26	授業を行うにあたっての留意点	（１）教材研究の方法にあたって
27	授業を行うにあたっての留意点	（２）板書例と黒板の書き方
28	授業を行うにあたっての留意点	（３）５０分授業の展開方法とヤマ場の創出方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修学生の授業への主体的・積極的な参加を期待する。

【テキスト（教科書）】

木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）＜授業時必携＞

【参考書】

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』＜最新版＞

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』＜最新版＞

他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また、授業内容に関係する参考文献・資料などについては、最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この授業の成績評価は、春・秋学期それぞれ一回の定期試験（またはレポート）、授業中の学習態度、出席率などを総合的に考慮して行う。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項無し

【学生が準備すべき機器他】

１２桁電卓

【その他の重要事項】

簿記・会計が理解できていること。

【Outline and objectives】

This class aims to understand what is commercial education and also to gain basic knowledge and skills for teaching it. Focusing on commercial education, the curriculum and instruction, different types of learning, and educational methods are initially explored. And then, historical development of commercial education after the World War II, the subject goals of commercial education in the National Courses of Study, and their curriculum developments are explored.

EDU200MA

道德教育指導論【2016 年度以前入学者用】

井藤 元

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道德の本質を問い直し、そのうえで今後の道德教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道德教育をめぐるのは、道德が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道德とは何か？」「道德教育は可能なのか？」「道德教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道德教育のあり方を問うべく、道德教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道德教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道德の意義や原理等に基づき、学校における道德教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道德教育及びその要となる道德科における指導計画や指導方法を理解する。

①道德教育の現状と課題について把握する。

②道德の本質を説明できる。

③道德教育の歴史について理解する。

④学習指導要領に示された道德教育及び道德科の目標及び主な内容を理解している。

⑤自ら「道德」の授業を組み立てることができる。

⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・Power Point を用い、授業をおこなう。

・適宜 DVD などの視聴覚メディアを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	道德教育を学ぶ意義について	道德教育を学ぶ意義について理解する。
第 2 回	道德教育の現状と課題－「道德の教科化」とその学習評価	①「道德の教科化」について ②教科化により何が変わったか ③評価の問題
第 3 回	道德教育の歴史	①教育勅語のもとでの道德教育 ②「修身教育」について ③国民学校における道德教育
第 4 回	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	①心の教育は可能か ②複数化される自己 ③「キャラ」について
第 5 回	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	①いのちの教育は可能か ②デスエデュケーションについて ③様々ないのちの教育の実践
第 6 回	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	①「青い目茶色い目」の実践 ②社会現実と教育現実 ③人権教育に関するさまざまな実践
第 7 回	道德性の発達理論	①ピアジェによる道德性の発達理論 ②コールバーグによる道德性の発達理論 ③ギリガンによる道德性の発達理論 ④ケアリング論について
第 8 回	悪の体験と子どもの発達	①子どもと悪 ②悪の体験と教育の限界点 ③悪の体験と自己の変容
第 9 回	情報モラル	①情報モラルとは何か ②情報手段の活用 ③情報モラルに関する具体的実践
第 1 0 回	シティズンシップ教育について	①市民教育としての道德教育 ②市民教育と規範教育 ③シティズンシップ教育に関する実践例
第 1 1 回	モラルジレンマ型の道德教育	①モラルジレンマ型道德教育の意義 ②モラルジレンマ型道德教育の注意点 ③モラルジレンマ資料を用いた実践
第 1 2 回	「道德」における指導案の書き方および発問の仕方について	①「道德」の指導案の書き方 ②発問の種類 ③発問の重要性について

- 第13回 模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介 ①学校全体で行う道徳教育
第14回 到達度確認テスト ②教科教育と道徳教育
到達度確認テストを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：当該回のテーマについて事前にインターネットや文献で調べる。
復習：参考文献一覧に示した著作を読み、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016年）

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシート（60％）と14回目に行う到達度確認テスト（40％）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートの意見を踏まえて、授業改善を行う。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

EDU200MA

道徳教育指導論【2016年度以前入学者用】

廣瀬 仁郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳教育に関する基本的事項についての理解を深めると共に、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を図り、今後の道徳教育の課題と展望を拓くことを基盤に、「実践知教育」により学芸と実践性の両面を融合していくことを目指すものである。

道徳教育の動向をめぐっては、道徳の時間が、教育課程上の位置づけが変わり、「特別の教科 道徳」として新たな枠組みで実施されることとなった。これまでの成果と課題を見直し、主体的で対話的で深い学びが伴う「考え、議論する道徳」への質的転換が強く求められるようになってきた。

こうした転換期にあって、道徳教育の原点に立ち返り、道徳教育の歴史や諸外国の理論に学びながら、今後の道徳教育の在り方を考察していく。更に、映像による教育現場での実際の授業の視聴や模擬授業の実施を通して、道徳科の指導の在り方や効果について議論を深め、実践的な知識及び技能の修得を目指す。

【到達目標】

- ◇道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
- ◇学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には、プレゼンと配付資料を用いての講義形態が中心となる。また、理論と実践の融合をめざし、教材研究の演習や教育現場での道徳授業の映像を視聴しての協議や学習指導案の作成、模擬授業の実施に際してはグループワークを取り入れ、実効性のある技能の習得を図っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	道徳の本質と道徳教育の役割	①14回の授業の概要についてのガイダンス ②道徳の本質と道徳教育の意義、人格形成に果たす役割 ③教育課程と学校における道徳教育 ④生きる力と道徳教育の関係
第2回	道徳教育の歴史と変遷	（1）戦前の道徳教育の歴史 ①「学制」の制定と修身科 ②「学校令」と道徳教育 ③「教育勅語」と道徳教育 ④国民学校における道徳教育 （2）戦後の道徳教育の歴史 ①全面主義道徳教育の時代 ②道徳の時間の特設 ③学習指導要領の変遷と道徳教育改訂の歩み ④「心のノート」と「私たちの道徳」 ⑤教育再生実行会議と「特別の教科 道徳」
第3回	道徳性の発達	①学習指導要領が求める道徳性 ②道徳性の発達理論の理解 フロイトの理論 ピアジェの理論 コールバーグの理論 プルの理論

第4回	海外と日本における道徳教育の授業理論	①アメリカの道徳教育 インカレーションと価値の明確化 モラルジレンマ型の道徳教育とシ ティズンシップ教育 ②その他 韓国の道徳教育等の概要 ③日本の道徳教育 ・総合単元的な道徳学習 統合的道徳 教育 ・教育現場に影響を及ぼした道徳授業 の考察 ④現代社会における道徳教育上の課題 ⑤道徳教育と道徳科の目標 ⑥各教科等における道徳教育 ⑦組織体としての道徳教育の推進 ⑧道徳教育の全体計画及び別業の作成	第14回 今後の道徳教育の展望と 課題	①道徳科の実施に伴う教育現場の受け 止めと問題意識 ②教職員の多忙化とローテーション授 業の取組 ③自己肯定感を高め、自らの手で未来 を切り拓く能動的な学びの育成 ④予測困難な時代における未来の創り 手を育てる道徳教育の役割 ⑤A I の加速度的進化に伴う心の教育の 在り方等の考察 ⑥今後の道徳教育の展望を巡っての考 察とまとめ —試験とまとめ—
第5回	現代社会における心の課 題と学校における道徳教 育の全体構想	①現代社会における道徳教育上の課題 ②道徳教育と道徳科の目標 ③各教科等における道徳教育 ④組織体としての道徳教育の推進 ⑤道徳教育の全体計画及び別業の作成		
第6回	道徳科の内容と教材	⑥道徳科の年間指導計画の作成 ①内容構成の考え方 ②内容項目の指導の観点 ③道徳科の教材に求められる内容の 観点 ④検定教科書の使用について		
第7回	道徳科の授業理論と学習 指導過程	①道徳の時間の成果と課題に関する 考察 ②「考え議論する道徳」への転換と道 徳科への期待 ③道徳科の特質を生かした学習指導 ④道徳科の学習指導過程 ⑤実効性のある道徳授業の志向 自己内対話の促進と交流分析の考え を生かした授業理論 確認とまとめ 第1回～第7回対象		
第8回	教育現場における道徳授 業の実際	①小学校における道徳授業の実際 映 像による視聴と研究協議 ②中学校における道徳授業の実際 映 像による視聴とワークショップ ③中学校の道徳教育研究会や研究指定 校の取組の紹介		
第9回	道徳科における質の高い 多様な学習指導の展開	①道徳科における質の高い多様な指導 方法の考察 ・読み物教材の登場人物への自我関与 が中心の学習 ・問題解決的な学習 ・道徳的行為に対する体験的な学習 ②発達障害等のある児童生徒に対する 道徳科の指導 ③いのち、いじめ問題等現代的な課題 に対応する道徳科の指導		
第10回	道徳科における評価の在 り方	①道徳科の評価の在り方に関する専門 家会議での検討 ②文科省による道徳における評価の基 本的な考え方 ③道徳科における評価の実際と指導要 録		
第11回	教材分析と道徳科学習指 導案の作成	①教材の構造と活用の視点 発問の 構想 ②道徳科における学習指導案の在り方 と作成手順 ③指定教材を用いた教材分析と学習指 導案作成に関する演習 ④作成した指導案のプレゼン発表と協 議		
第12回	作成した学習指導案に基 づく模擬授業の実施	①各グループによる模擬授業 ②模擬授業を巡っての授業効果の検証 に関する協議 導入 展開 終末の工夫 発問の在 り方 板書の工夫 評価の在り方 ③模擬授業のまとめと学習指導案の修 正		
第13回	道徳的実践の指導と家庭 や地域社会との連携	①学級経営と潜在的カリキュラムにお ける道徳教育 ②道徳的実践の指導と豊かな体験 ③家庭・地域社会との連携 小中の 接続 ④高等学校における道徳教育の取組		

第14回	今後の道徳教育の展望と 課題	①道徳科の実施に伴う教育現場の受け 止めと問題意識 ②教職員の多忙化とローテーション授 業の取組 ③自己肯定感を高め、自らの手で未来 を切り拓く能動的な学びの育成 ④予測困難な時代における未来の創り 手を育てる道徳教育の役割 ⑤A I の加速度的進化に伴う心の教育の 在り方等の考察 ⑥今後の道徳教育の展望を巡っての考 察とまとめ —試験とまとめ—
------	-------------------	--

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回	準備学習：中学校における教育課程の概要と道徳教育の位置づけについて 把握しておく。 復習： 参考文献一覧に示した著作を読み、理解を深める。	
第2回	準備学習：戦前の道徳教育と戦後の道徳教育の変遷や違いについての概要 を文献やインターネットで調べる。 復習： 配付資料に関連してよりくわしく知りたいことを文献やインター ネットを確認する。	
第3回	準備学習：文科省解説書 道徳科編における道徳性の定義について目を通 しておく。 復習： 参考文献一覧に示した著作を読み、理解を深める。	
第4回	準備学習：文献やインターネットで諸外国の道徳教育の実施の現状につい てその概要を把握しておく。 復習： 参考文献一覧に示した著作を読み、海外と対比した日本の道徳 教育の特徴についてまとめておく。	
第5回	準備学習：中学校学習指導要領解説総則編 第6節 道徳教育推進上の配 慮事項及び「中学校学習指導要領解説 道徳科編」第4章 指導計画の作成と 内容の取扱 第1節 指導計画作成上の配慮事項 について目を通しておく。 復習： インターネット等で実際の中学校の道徳教育全体計画と年間指導 計画の作成例について調べてみる。	
第6回	準備学習：道徳の教材にどのようなものがあるかインターネット等で調べ ておく。 復習： 「中学校学習指導要領解説 道徳科編」第3章 道徳科の内容 について読み返しておく。	
第7回	準備学習：道徳の時間と道徳科の違いについて調べておく。 復習： 参考文献一覧に示した文献を読み、理解を深める。	
第8回	準備学習：小中学校時の道徳授業の体験を基に、道徳授業の課題と理想的 な授業についてイメージし、まとめておく。 復習： 文科省 HP の道徳教育アーカイブにある道徳授業の映像を視聴する	
第9回	準備学習：文科省 HP から、道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門 家会議による「道徳科における質の高い多様な指導方法について」読んでおく。 復習： 「中学校学習指導要領解説 道徳科編」第4章第3節 指導の 配慮事項 を読み返しておく。	
第10回	準備学習 現行の「道徳の時間」の評価について調べておく。 復習： 「中学校学習指導要領解説 道徳科編」第5章 道徳科の評価 について読み返しておく。	
第11回	準備学習：「中学校学習指導要領解説 道徳科編」第4章第2節 道徳科 の指導 について目を通しておく。 復習： インターネット等により実際の道徳科学習指導案について調べ、 参考となる事項についてまとめておく。	
第12回	準備学習：前時に作成した指導案での授業構想について具体的に練っておく。 復習： 実施した授業の振り返りと今後の課題の整理	
第13回	準備学習：特色ある道徳教育を推進している教育現場での取組についてイ ンターネット等で調べておく。 復習： 茨城県の取組等高等学校における道徳教育の推進や教材の作成 について調べてみる。	
第14回	準備学習：インターネット等により、教育再生実行会議（第十次提言）の概 要に目を通しておく。 復習： 14回の授業について要点をまとめておく。	

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説総則編 平成29年7月 文部科学省 東山書房
中学校学習指導要領解説 道徳科編 平成29年7月 文部科学省 教育出版

【参考書】

四訂 道徳教育を学ぶ人のために 小寺正一 藤永芳純 編 世界思想社
2016年
中学校学習指導要領解説 道徳編 平成20年9月 文部科学省 発行者 日本
文教出版

※この他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト（第7回時）、定期試験（第14回時） 50%

道徳教育及び道徳科の意義や目標、その指導内容や方法、評価について理解できている。

振り返りシート 学習指導案 30%

各回の授業内容について概要を博しそれに対する自分なりの気づきや感想、批判的な考察等を述べている。ねらいと展開が明確な学習指導案の作成

学修状況・ワークショップ、模擬授業等 20%

道徳教育に関する基本的事項に関心を持ち、学習指導案に基づく模擬授業、テーマに即した議論等で積極的に参加している。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

埼玉県において管理職（校長）、県教育委員会役付、道徳教育研究会長の実務経験

専門分野での実績

文部科学省「心のノート」「私たちの道徳」作成協力者

小学校学習指導要領解説道徳編作成協力者（平成10年度 20年度）

小学校及び中学校道徳教科書（学研版）編集委員

＊実務経験を生かし、道徳科の最新の動向と情報提供の充実に努め、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を重視する。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

EDU200MA

道徳教育指導論【2016年度以前入学者用】

渡邊 優子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐるっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

①道徳教育の現状と課題について把握する。

②道徳の本質を説明できる。

③道徳教育の歴史について理解する。

④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。

⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。

⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めるが、授業の中で適宜グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	道徳教育を学ぶ意義について	授業の進め方や評価方法についてのガイダンスを行い、道徳教育を学ぶ意義について検討する。
第2回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領における道徳教育の位置付け、道徳の教科化、その評価などについて検討する。
第3回	道徳教育の歴史	戦前・戦後の道徳教育について検討する。
第4回	心の教育について－学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえ、心の教育について検討する。
第5回	いのちの教育について－学習指導要領における「いのちの教育」	学指導要領を踏まえ、いのちの教育について検討する。
第6回	人権教育について－学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえ、人権教育について検討する。
第7回	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論とそれへの批判を踏まえ、道徳性の発達について検討する。
第8回	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
第9回	情報モラル	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育の事例について検討する。
第10回	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育としての道徳教育について検討する。
第11回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の授業の意義を踏まえ、モラルジレンマ資料を用いた実践について検討する。
第12回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案の書き方、発問の仕方など、指導案作成のポイントについて検討する。
第13回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに「道徳」の実践例を紹介し、それらについて検討する。
第14回	全体のふりかえりとまとめ	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業までに前回の学習内容の復習をする。授業中に提示された資料や参考文献を読み理解を深めるとともに、課題については必ず取り組んだうえで授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、必要に応じて授業中に資料を配布、参考文献を紹介する。

【参考書】

井藤元編『ワークで学ぶ道德教育』（ナカニシヤ出版、2016 年）
松下良平『道德教育はホントに道德的か？』（日本図書センター、2011 年）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシート（60 %）と各自作成する道德の学習指導案（40 %）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやディスカッションを実施する際には、履修者が活動しやすいように授業の展開において工夫する。授業中に実施するワークのねらい等を示すことで、履修者自身による能動的な学びをサポートする。

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

EDU200MA

道德教育指導論【2016 年度以前入学者用】

廣瀬 仁郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道德教育に関する基本的事項についての理解を深めると共に、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を図り、今後の道德教育の課題と展望を拓くことを基盤に、「実践知教育」により学芸と実践性の両面を融合していくことを目指すものである。

道德教育の動向をめぐっては、道德の時間が、教育課程上の位置づけが変わり、「特別の教科 道德」として新たな枠組みで実施されることとなった。これまでの成果と課題を見直し、主体的で対話的で深い学びが伴う「考え、議論する道德」への質的転換が強く求められるようになってきた。

こうした転換期にあつて、道德教育の原点に立ち返り、道德教育の歴史や諸外国の理論に学びながら、今後の道德教育の在り方を考察していく。更に、映像による教育現場での実際の授業の視聴や模擬授業の実施を通して、道德科の指導の在り方や効果について議論を深め、実践的な知識及び技能の修得を目指す。

【到達目標】

- ◇道德の意義や原理等に基づき、学校における道德教育の目標や内容を理解する。
- ◇学校の教育活動全体を通じて行う道德教育及びその要となる道德科における指導計画や指導方法を理解する。
- ①道德教育の現状と課題について把握する。
- ②道德の本質を説明できる。
- ③道德教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道德教育及び道德科の目標及び主な内容を理解している。
- ⑤自ら「道德」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には、プレゼンと配付資料を用いての講義形態が中心となる。また、理論と実践の融合をめざし、教材研究の演習や教育現場での道德授業の映像を視聴しての協議や学習指導案の作成、模擬授業の実施に際してはグループワークを取り入れ、実効性のある技能の習得を図っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	道德の本質と道德教育の役割	① 1 4 回の授業の概要についてのガイダンス ② 道德の本質と道德教育の意義、人格形成に果たす役割 ③ 教育課程と学校における道德教育 ④ 生きる力と道德教育の関係
第 2 回	道德教育の歴史と変遷	（1）戦前の道德教育の歴史 ① 「学制」の制定と修身科 ② 「学校令」と道德教育 ③ 「教育勅語」と道德教育 ④ 国民学校における道德教育 （2）戦後の道德教育の歴史 ① 全面主義道德教育の時代 ② 道德の時間の特設 ② 学習指導要領の変遷と道德教育改訂の歩み ③ 「心のノート」と「私たちの道德」 ④ 教育再生実行会議と「特別の教科 道德」
第 3 回	道德性の発達理論	① 学習指導要領が求める道德性 ② 道德性の発達理論の理解 フロイトの理論 ピアジェの理論 コールバーグの理論 ブルの理論

第4回	海外と日本における道徳教育の授業理論	①アメリカの道徳教育 インカレーションと価値の明確化 モラルジレンマ型の道徳教育とシティズンシップ教育 ②その他 韓国の道徳教育等の概要 ③日本の道徳教育 総合単元的な道徳学習 統合的道徳教育 教育現場に影響を及ぼした道徳授業論の対比	第14回 今後の道徳教育の展望と課題	①道徳科の実施に伴う教育現場の受け止めと問題意識 ②教職員の多忙化とローテーション授業の取組 ③自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く能動的な学びの育成 ④予測困難な時代における未来の創り手を育てる道徳教育の役割 ⑤AIの加速度的進化に伴う心の教育の在り方等の考察 ⑤今後の道徳教育の展望を巡っての考察とまとめ —試験とまとめ—
第5回	現代社会における心の課題と学校における道徳教育の全体構想	①現代社会における道徳教育上の課題 ②道徳教育と道徳科の目標 ③各教科等における道徳教育 ④組織体としての道徳教育の推進 ⑤道徳教育の全体計画及び別業の作成		
第6回	道徳科の内容と教材	⑥道徳科の年間指導計画の作成 ①内容構成の考え方 ②内容項目の指導の観点 ③道徳科の教材に求められる内容の観点 ④検定教科書の使用について		
第7回	道徳科の授業理論と学習指導過程	①道徳の時間の成果と課題に関する考察 ②「考え議論する道徳」への転換と道徳科への期待 ③道徳科の特質を生かした学習指導 ④道徳科の学習指導過程⑤実効性のある道徳授業の志向 自己内対話の促進と交流分析の考えを生かした授業理論 確認ミニテスト 第1回～第7回対象		
第8回	教育現場における道徳授業の実際	①小学校における道徳授業の実際 映像による視聴と研究協議 ②中学校における道徳授業の実際 映像による視聴とワークショップ ③教育研究会や研究指定校の取組の紹介		
第9回	道徳科における質の高い多様な学習指導の展開	①道徳科における質の高い多様な指導方法の考察 ・読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習 ・問題解決的な学習 ・道徳的行為に対する体験的な学習 ②発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導 ③いのち、いじめ問題等現代的な課題に対応する道徳科の指導		
第10回	道徳科における評価の在り方	①道徳科の評価の在り方に関する専門家会議での検討 ②文科省による道徳における評価の基本的な考え方 ③道徳科における評価の実際と指導要録		
第11回	教材分析と道徳科学習指導案の作成	①教材の構造と活用の視点 発問の構想 ②道徳科における学習指導案の在り方と作成手順 ③指定教材を用いた教材分析と学習指導案作成に関する演習 ④作成した指導案のプレゼン発表と協議		
第12回	作成した学習指導案に基づく模擬授業の実施	①各グループによる模擬授業 ②模擬授業を巡る授業効果の検証に関する議論 導入 展開 終末の工夫 発問の在り方 板書の工夫 評価の在り方 ③模擬授業のまとめと学習指導案の修正		
第13回	道徳実践の指導と家庭や地域社会との連携	①学級経営と潜在的カリキュラムにおける道徳教育 ②道徳実践の指導と豊かな体験 ③家庭・地域社会との連携 小中の接続 ④高等学校における道徳教育の取組		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回 準備学習：中学校における教育課程の概要と道徳教育の位置づけについて把握しておく。
復習： 参考文献一覧に示した著作を読み、理解を深める。

第2回 準備学習：戦前の道徳教育と戦後の道徳教育の変遷や違いについての概要を文献やインターネットで調べる。
復習： 配付資料に関連してよりくわしく知りたいことを文献やインターネットで確認する。

第3回 準備学習：文科省解説書 道徳科編における道徳性の定義について目を通しておく。
復習： 参考文献一覧に示した著作を読み、理解を深める。

第4回 準備学習：文献やインターネットで諸外国の道徳教育の実施の現状についてその概要を把握しておく。
復習： 参考文献一覧に示した著作を読み、海外と対比した日本の道徳教育の特徴についてまとめておく。

第5回 準備学習：中学校学習指導要領解説総則編 第6節 道徳教育推進上の配慮事項及び「中学校学習指導要領解説 道徳科編」第4章 指導計画の作成と内容の取扱 第1節 指導計画作成上の配慮事項 について目を通しておく。
復習： インターネット等で実際の中学校の道徳教育全体計画と年間指導計画の作成例について調べてみる。

第6回 準備学習：道徳の教材にどのようなものがあるかインターネット等で調べておく。
復習： 「中学校学習指導要領解説 道徳科編」第3章 道徳科の内容について読み返しておく。

第7回 準備学習：道徳の時間と道徳科の違いについて調べておく。
復習： 参考文献一覧に示した文献を読み、理解を深める。

第8回 準備学習：小中学校時の道徳授業の体験を基に、道徳授業の課題と理想的な授業についてイメージし、まとめておく。
復習： 文科省 HP の道徳教育アーカイブにある道徳授業の映像を視聴する

第9回 準備学習：文科省 HP から、道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議による「道徳科における質の高い多様な指導方法について」読んでおく。
復習： 「中学校学習指導要領解説 道徳科編」第4章第3節 指導の配慮事項を読み返しておく。

第10回 準備学習 現行の「道徳の時間」の評価について調べておく。
復習： 「中学校学習指導要領解説 道徳科編」第5章 道徳科の評価について読み返しておく。

第11回 準備学習：「中学校学習指導要領解説 道徳科編」第4章第2節 道徳科の指導について目を通しておく。
復習： インターネット等により実際の道徳科学習指導案について調べ、参考となる事項についてまとめておく。

第12回 準備学習：前時に作成した指導案での授業構想について具体的に練っておく。
復習： 実施した授業の振り返りと今後の課題の整理

第13回 準備学習：特色ある道徳教育を推進している教育現場での取組についてインターネット等で調べておく。
復習： 茨城県の取組高等学校における道徳教育の推進や教材の作成について調べてみる。

第14回 準備学習：インターネット等により、教育再生実行会議（第十次提言）の概要に目を通しておく。
復習： 14回の授業について要点をまとめておく。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説総則編 平成29年7月 文部科学省 東山書房
中学校学習指導要領解説 道徳科編 平成29年7月 文部科学省 教育出版

【参考書】

四訂 道徳教育を学ぶ人のために 小寺正一 藤永芳純 編 世界思想社 2016年
中学校学習指導要領解説 道徳編 平成20年9月 文部科学省 発行者 日本文教出版

※この他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト（第7回時）、定期試験（第14回時） 50%

道徳教育及び道徳科の意義や目標、その指導内容や方法、評価について理解できている。

振り返りシート 学習指導案 30%

各回の授業内容について概要を博しそれに対する自分なりの気づきや感想、批判的な考察等を述べている。ねらいと展開が明確な学習指導案の作成

学修状況・ワークショップ、模擬授業等 20%

道徳教育に関する基本的事項に関心を持ち、学習指導案に基づく模擬授業、テーマに即した議論等で積極的に参加している。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

埼玉県において管理職（校長）、県教育委員会役付、道徳教育研究会長の実務経験

専門分野での実績

文部科学省「心のノート」「私たちの道徳」作成協力者

小学校学習指導要領解説道徳編作成協力者（平成10年度 20年度）

小学校及び中学校道徳教科書（学研版）編集委員

＊実務経験を生かし、道徳科の最新の動向と情報提供の充実に努め、教育現場で生かせる実効性のある技能の修得を重視する。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

EDU200MA

特別活動論【2016年度以前入学者用】

中村 岳夫

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の流れ、評価の仕方
第2回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1日、1年）の中の特別活動
第3回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第4回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第5回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第6回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法
第7回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開
第8回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動
第9回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第10回	学校行事	学校行事の歴史を踏まえた協同的創造の実践
第11回	部活動	指導と体罰、民主的運営の視点と実践
第12回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の理論と実践
第13回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の理論と実践
第14回	まとめ：特別活動の課題と可能性	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマ・内容に応じた準備学習やレポート課題等を適宜組み入れる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じ教員が適宜指定、紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・平常点（50%）、グループワーク・発表（25%）、レポート課題（25%）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業支援システムを利用することもある。

【その他の重要事項】

都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

EDU200MA

特別活動論【2016 年度以前入学者用】

中村 岳夫

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の流れ、評価の仕方
第 2 回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第 3 回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第 5 回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第 6 回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法
第 7 回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開
第 8 回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動
第 9 回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第 1 0 回	学校行事	学校行事の歴史を踏まえた協同的創造の実践
第 1 1 回	部活動	指導と体罰、民主的運営の視点と実践
第 1 2 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の理論と実践
第 1 3 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の理論と実践
第 1 4 回	まとめ：特別活動の課題と可能性	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマ・内容に応じた準備学習やレポート課題等を適宜組み入れる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じ教員が適宜指定、紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・平常点（50 %）、グループワーク・発表（25 %）、レポート課題（25 %）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業支援システムを利用することもある。

【その他の重要事項】

都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

EDU200MA

特別活動論【2016 年度以前入学者用】

児玉 洋介

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

中学高校の学校現場がつくり上げてきた豊富な特別活動実践の具体例を学ぶことを織り交ぜながら、学生自身が自ら過ごしてきた学校での特別活動体験と重ね合わせる作業を通じて、多様な特別活動のねらいや指導の観点、指導計画の作成や指導技術等を学んでいく。多人数の授業であっても、学生同士の学び合いが充実するよう、授業への主体的な関わりや意見の交流を大切にすすめたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講座の授業計画の概要、授業のねらい、進め方、評価等についての説明等。
第 2 回	教育課程の中の特別活動	一日の学校生活の流れ、一年間の学校行事などを見ながら特別活動の位置を考える。
第 3 回	特別活動の歴史	日本の学校における教科外教育の歴史。学級、学校行事、儀式等の成立と役割。
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領の変遷と特別活動の位置付けの変化。
第 5 回	特別活動の目標と展開	特別活動は何を育てるのか。生徒の実態に即した創造的とりくみを黎明期の新制中学校実践から学ぶ。
第 6 回	学級・ホームルーム活動	ホームルームの活動とその指導。中学校の学級組織とその活動。高校ホームルーム活動の歴史と現状。
第 7 回	話し合い活動とその指導	生徒との対話、生徒同士が本音で語り合うクラス討論、意見交換の場の設定など、コミュニケーション力の育成。
第 8 回	特別活動の評価と改善	生徒の生活実態や社会環境等の背景とかかわった学級・学年のとりくみ指導。「学級だより」「班ノート」などのコミュニケーションツールの活用。
第 9 回	児童会・生徒会活動	生徒の自治活動と担任・担当教員・学校の指導の在り方。
第 1 0 回	学校行事	学校文化の創造と特別活動を考える。文化的活動の意義、学校文化論を、「南中ソーラン」の歴史に学ぶ。
第 1 1 回	部活動	教育課程外の活動と、教育課程との関連。部活動・クラブ活動の歴史的位置。部活動の今日的課題と将来展望。
第 1 2 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シテイズンシップ教育）	学びを育てる特別活動。共同の学びを通じた生徒たちの問題意識の深化。
第 1 3 回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（キャリア教育）	地域の教育力、地域再生の力を活用した地域産業や職業への学び。国際理解教育や高校生の国際交流。
第 1 4 回	まとめ：特別活動の課題と可能性	「集団」活動を通じた「個」の発達成長という特別活動の持つ固有の教育的意義をとらえ、学びの発展の可能性を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別に時間をかける授業準備等の必要はないが、3 回の課題レポート作成に関して、必要な調査・研究を進める。

【テキスト（教科書）】

特に定めないが、授業の中で教員が適宜、参考文献等を指示する。

【参考書】

『中学校学習指導要領/特別活動編』、『高等学校学習指導要領/特別活動編』（最新版 文部科学省）

※ PDF でダウンロード可。

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加状況（リアクションペーパーを活用）及び授業テーマに関連した課題レポート（3 回予定）などから総合的に評価する。定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の人数が多いので講義中心となるが、学生の今の問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業でも、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】

講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進めるが、学生の側の機器準備は必要ない。但し、レポートは word などの電子データの形で作成し、授業支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

EDU200MA

特別活動論【2016 年度以前入学者用】

中村 岳夫

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の流れ、評価の仕方
第 2 回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1 日、1 年）の中の特別活動
第 3 回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第 4 回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第 5 回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第 6 回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法
第 7 回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開
第 8 回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動
第 9 回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第 1 0 回	学校行事	学校行事の歴史を踏まえた協同的創造の実践
第 1 1 回	部活動	指導と体罰、民主的運営の視点と実践
第 1 2 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の理論と実践
第 1 3 回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の理論と実践
第 1 4 回	まとめ：特別活動の課題と可能性	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマ・内容に応じた準備学習やレポート課題等を適宜組み入れる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じ教員が適宜指定、紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・平常点（50 %）、グループワーク・発表（25 %）、レポート課題（25 %）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業支援システムを利用することもある。

【その他の重要事項】

都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任）として長年勤務していたので、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

EDU200MA

特別活動論【2016 年度以前入学者用】

森本 扶

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、教員として学級担任、教科担任、分掌担任、部活顧問として、特別活動の各分野（学級・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動・部活動、学校行事）において見通しをもって取り組めるための必要な知識や視点、指導法、企画力を討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動の教育課程における意義や目標を歴史的にも考察しつつ、その理念と役割を具体的な学級・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動・部活動、学校行事の実践事例を通し、児童・生徒が主体的に取り組んでいく指導や支援の視点、指導法を学ぶ。「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点や家庭、地域住民、関係機関等との連携の在り方も深めつつ、必要な知識・素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に前半は講義形式ですすめる。テキストは特に使用しない。毎回配布するプリントをもとに授業を進める。なお、毎回、授業の最後に意見や感想を書いて提出してもらう（次回講義冒頭でフィードバックする）。その後、後半には、グループワークで自らが選んだテーマを深め、工夫して表現し、発表する、という授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目標・方法・計画を説明
2	教育課程の中の特別活動	学校生活の中の特別活動
3	特別活動の歴史の変遷と児童観・生徒観①	「学級」「儀式」
4	特別活動の歴史の変遷と児童観・生徒観②	「自由研究」、参加・自治
5	戦後の学級・ホームルーム活動の実践	「やまびこ学校」「学級集団づくり」
6	学級・ホームルーム活動の理念と実践上の視点	ケアリング、応答と自治
7	特別活動の模擬授業と合評①	目標、展開、評価
8	特別活動の模擬授業と合評②	目標、展開、評価、まとめ
9	特別活動と「いじめ」指導	アイデンティティ、聴く力、ゼロトランス
10	児童会・生徒会活動の意義と実践	参加・参画・自治、シティズンシップ
11	学校行事の意義と実践	共同的創造、自己肯定感
12	クラブ活動・部活動の意義と実践	指導と体罰、民主的運営
13	特別活動と「総合的な学習の時間」	キャリア教育、平和教育、人権教育
14	特別活動のまとめ	特別活動の課題と可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマに関わって自らの意見を明確にしておき、グループワークに備え、最終的に期末レポートに反映させる。グループワークの際は、メンバーと共同して授業外でも適宜作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

関川悦雄（2010）『最新特別活動の研究』啓明出版
日本特別活動学会監修（2010）『新訂キーワードで拓く新しい特別活動』東洋館出版社
伊東毅（2011）『未来の教師における特別活動論』武蔵野美術大学出版局
大塚文雄編著（2013）『特別活動論』一藝社
山田浩之編（2014）『特別活動論』協同出版
山崎英則・南本長徳編著（2017）『新しい特別活動の指導原理』ミネルヴァ書房『学習指導要領』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への感想文）（15 %） グループ発表（40 %） 期末レポート（45 %）

【学生の意見等からの気づき】

参加型授業の必要性

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

EDU200MA

生徒・進路指導論【2016 年度
以前入学者用】

岩本 俊一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。さらに、教育における理論と実践との関係から生徒指導に関する理解をさらに深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現代日本の子どもの生活現実とそのよって来る背景をふまえつつ、学校教育における生徒指導および進路指導（（それを包括するキャリア教育）のありかたについて多角的に考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要とガイダンス	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第2回	生徒指導の意義と役割	・学校教育における生徒指導の位置づけ、基本的な考え方について論じる
第3回	生徒指導の方法	・生徒指導の方法について論じる。
第4回	生徒指導における集団指導	・生徒指導における集団指導についてさまざまな指導場面を通して考える。
第5回	集団指導の組織的な推進体制	・集団指導の組織的な推進体制について論じる
第6回	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）	・暴力行為、いじめにどう対応するか
第7回	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	・不登校にどう対応するかについて考える
第8回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	・今日的な生徒指導の課題への対応について考える
第9回	進路指導の意義と役割	・教育課程上の位置づけ、基本的な考えかた
第10回	進路指導の歴史と方法	・ガイダンスの歴史とその理論及び方法について論じる
第11回	キャリア教育の意義と役割	・学校教育におけるキャリア教育の位置づけと基本的な考え方
第12回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	・進路指導とガイダンスの役割と方法について論じる
第13回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	・進路指導・キャリア・カウンセリングの役割と方法について論じる
第14回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	・進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後に講義内容をまとめるなど、復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しないが、講義内容に応じて参考文献は適宜指示する。

【参考書】

吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社、2009 年
藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社、2014 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験 100 %で評価する。

平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。

ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

EDU200MA

生徒・進路指導論【2016 年度
以前入学者用】

渡部 忠治

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に各テーマについての資料や実践例などの説明。

次にその話題について感想・意見の交換。

最後にリアクションペーパーの提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	講義計画とその概要説明、講義アンケート
第 2 回	生徒指導の意義と役割	教育課程上の位置づけ、指導上の基本的な考え方について
第 3 回	生徒指導の方法	子どもの権利と校則、懲戒、体罰問題について
第 4 回	生徒指導における集団指導	学びの共同性の視点からの集団指導の意義について
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	家庭・地域と連携した生徒指導の重要性について
第 6 回	生徒指導における個別指導（いじめ問題への対処）	今必要な「いじめ」対策及び教育実践上の課題（個別的/集団的）について
第 7 回	生徒指導における個別指導（生徒の問題行動への対処）	暴力行為、少年事件を通して生徒理解の難しさと必要な対応について
第 8 回	生徒指導における個別指導（部活動をめぐる諸問題とその対処）	部活動を通じた生徒指導のあり方について
第 9 回	生徒指導における個別指導（ジェンダー、性的マイノリティの理解）	学校文化におけるジェンダー問題と性的マイノリティに関する指導上の課題について
第 1 0 回	進路指導の意義と役割	進路指導の歴史と方法を踏まえた、今日的な進路指導の意義と役割について
第 1 1 回	キャリア教育の意義と役割	生徒の日常生活の中から将来の人生観、職業観をどのように育むかについて
第 1 2 回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	生徒が抱える社会や将来に対する不安への理解に基づいたガイダンスについて
第 1 3 回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	体験的な学びの事前・事後指導の大切さと留意点について
第 1 4 回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	アンケートや学習活動の振り返り・記録を将来の生き方につなげる指導について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際、適宜指示する。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

折出健二編『教師教育テキストシリーズ 13 生活指導』学文社,2014 年
教育科学研究会編『いじめと向きあう』旬報社,2013 年
土井隆義『つながりを煽られる子どもたち』岩波書店,2014 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパーの内容等）40 %、試験 60 %で、総合的に判断し、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

例年、学生のリアクションペーパーでは、意見交換を望む声が多い。

意見交換できる時間を可能な限り設けていきたい。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

EDU200MA

生徒・進路指導論【2016 年度
以前入学者用】

児玉 洋介

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

生徒指導・進路指導いずれも、生徒集団全体に対する指導と、個々の生徒に対する指導、それぞれについての指導の在り方、方針や方法を理解できるようにする。また、理論講義を踏まえ、あらためて学生自らが体験してきた学校生活での生徒指導・進路指導を振り返りながら、そこに現時点からの検証を加える。生徒指導論では「いじめ」をめぐる諸問題、進路指導論では「受験と進路」「学校と職場の接続」をめぐる諸問題に焦点をあてて、これを深く掘り下げる。

多人数の授業であっても、学生同士の学びあいが充実するよう、授業内容へのコメント・意見を大切に、フィードバックしながら進めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要とガイダンス	授業計画の概要、ねらい、すすめ方、評価等についての説明と、「課題レポート①」について
第2回	生徒指導の意義と役割	「生活」指導と「生徒」指導。教育活動としての「指導」の広がりと教育課程上の位置づけ。
第3回	生徒指導の方法	生徒指導の方法、教育相談、法的制度と学校外の児童自立支援施設等。『生徒指導提要』（文部科学省）
第4回	生徒指導における集団指導	学級と生活指導。学習集団と生活集団。生活指導の中心舞台（学級・HR）と担任教師
第5回	集団指導の組織的な推進体制	学校における組織的推進体制と、生徒の自治的自律的とりくみ。今日の生徒指導の焦点的課題、「規範意識」「校則指導」「体罰」等をめぐって
第6回	生徒指導における個別指導（暴力行為、非行、いじめ加害等への対処）	学校における事故管理としての処分と、教育活動としての問題行動指導のあり方。「規範意識の醸成」「ゼロ・トレランス」
第7回	生徒指導における個別指導（いじめ問題等への教育課題としての対応）	「いじめ防止対策推進法」と今日の「いじめ問題」。
第8回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導をめぐる管理的アプローチと教育的アプローチ。不登校生徒や、発達障害等の課題を抱えた生徒とのかかわりと支援。
第9回	進路指導の意義と役割（進路指導の教育課程上の位置づけ）	「生徒の進路」が「指導」の対象となることの意味を考える。進路指導の基礎理論。
第10回	進路指導の歴史と方法	中等教育の歴史的役割の変化と、その現段階。学校と社会の接続。普通教育と職業教育。
第11回	キャリア教育の意義と役割	「進路指導」と「キャリア教育」それぞれの概念、基本的考え方。今日の雇用情勢と日本の若者の社会参加をめぐる課題。
第12回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	集団的進路指導、ガイダンスの役割と方法。中学生にとつての「学ぶこと」「働くこと」を考える授業。
第13回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	進路指導・キャリア教育における個別指導。キャリアカウンセリングの役割と方法。

第14回 進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用 進路指導論のまとめもふくめて

学校での「学び」と「ポートフォリオ」、進路先への接続。学校と社会の接続をめぐる歴史的転換点に立って。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別に時間をかけた授業準備の必要はないが、3回の課題レポート作成に関し、必要な調査・研究を進める。

【テキスト（教科書）】

特に定めはないが、授業の中で教員が適宜、参考文献を指示する。

【参考書】

吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社、2009年
藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社、2014年
『生徒指導提要』（文部科学省）
『中学校キャリア教育の手引き』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加状況（リアクションペーパー等を活用）及び授業テーマに関連した課題レポート（3回予定）などから総合的に評価する。
定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の人数が多い場合は講義中心となるが、学生の今の問題関心にフィットするテーマで、議論・考察が深まるように心がけている。多人数の授業でも、学生同士の学び合いが充実するよう、授業内容への主体的な関わりや意見の交流の機会を大切にしているが、このことへの共感と評価が高い。

【学生が準備すべき機器他】

講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進めるが、学生の側の機器準備は必要ない。但し、レポートは word などの電子データの形で作成し、授業支援システムを介して提出する。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

EDU200MA

生徒・進路指導論【2016年度以前入学者用】

児美川 孝一郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、「講義＋ディスカッション、グループワーク、発表」によって構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要とガイダンス	授業の内容や進め方についてのガイダンスを行う
第2回	生徒指導の意義と役割	生徒指導の歴史について紹介しつつ、生徒指導の意義と役割について解説する
第3回	生徒指導の方法	生徒指導の方法について、具体的な事例を踏まえて解説する
第4回	生徒指導における集団指導	生徒指導における集団指導について、具体的な事例を踏まえて解説する
第5回	集団指導の組織的な推進体制	集団指導の組織的な推進体制について、具体的な事例を踏まえて解説する
第6回	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）について、具体的な事例を踏まえて解説する
第7回	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）について、具体的な事例を踏まえて解説する
第8回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）について、具体的な事例を踏まえて解説する
第9回	進路指導の意義と役割	進路指導の意義と役割について解説する
第10回	進路指導の歴史と方法	生徒指導の歴史について解説し、方法について、具体的な事例を踏まえて解説する
第11回	キャリア教育の意義と役割	キャリア教育の意義と役割について、その登場と展開の過程を紹介しつつ、解説する
第12回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法について、具体的な事例を踏まえて解説する
第13回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法について、具体的な事例を踏まえて解説する
第14回	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用について、具体的な事例を踏まえて解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に適宜指示する。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社、2009年
藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社、2014年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパーの内容等）40％、試験60％で、総合的に判断し、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を参考にして、授業内容や方法を工夫したい。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

EDU200MA

生徒・進路指導論【2016 年度
以前入学者用】

綿貫 公平

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方、方針や方法を理解できるようにする。また、進路指導（それを包括するキャリア教育）の意義と原理を実践的に理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や、方針や方法を学校現場での実践をもとに理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（それを包括するキャリア教育）の理論と実践方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本は資料に基づく「講義」「解説」となるが、テーマによって、グループワークや発表の機会を設ける。冒頭に、前回提出されたリアクションペーパーを元に、振り返りの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	自分が受けてきた生徒・進路指導を振り返る。講師の自己紹介、問題提起を含む。
第 2 回	生徒指導の意義と役割（1）	教育課程上の位置付け、基本的な考え方
第 3 回	生徒指導の意義と役割（2）	生徒指導の方法
第 4 回	生徒指導における集団指導（1）	さまざまな指導場面
第 5 回	生徒指導における集団指導（2）	組織的な推進体制
第 6 回	生徒指導における個別指導（1）	いじめ問題にどう対応するか
第 7 回	生徒指導における個別指導（2）	不登校にどう対応するか
第 8 回	生徒指導における個別指導（3）	今日的な生徒指導の課題への対応
第 9 回	進路指導の意義と役割（1）	教育課程上の位置付け、基本的な考え方
第 10 回	進路指導の意義と役割（2）	進路指導の方法と実践
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	教育課程上の位置付け、基本的な考え方
第 12 回	進路指導・キャリア教育における集団指導	ガイダンスの役割と方法
第 13 回	進路指導・キャリア教育における個別指導	「働くこと」「働くルール」を学ぶ
第 14 回	まとめ及び定期試験	まとめ、振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次のテーマに沿った簡単なアンケートを実施し、講義への導入を図る。必要に応じて、予習や復習の資料や、紹介された文献に目を通しておく。

【テキスト（教科書）】

特に定めないが、授業次に適宜、参考資料を示し、参考文献等を指示する。

【参考書】

学習指導要領、生徒指導提要（最新版 文部科学省）、吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』（図書文化社／2009）、全国進路指導研究会編『働くことを学ぶ』（明石書店／2006）、竹内常一・佐藤洋作編『教育と福祉の出会い』（山吹書店／2013）、小池由美子編『新しい高校教育をつくる』（新日本出版社／2014）等。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパーの内容等）70％、中間レポート及び期末試験30％で、総合的に判断し、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講師は、35年間の公立中学校教員を定年退職後、若者の就労支援を行う NPO 団体の理事兼非常勤スタッフとして、生きづらさを抱えた若者たちと日々関わっている。講義も、そうした「若者の社会につながる課題」や、中学校で実践してきたことを柱に展開する。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

FRI200MA

図書館制度・経営論【2016 年度以前入学者用】

森 智彦

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館の法令と関連法規について解説して、主に公立図書館の基本設計から管理運営までの過程（プロセス）を、経営という観点から考察して解説する。利用者への望ましいサービスを達成するには、図書館を開設する前の基本設計の時点から綿密に計画する必要がある。図書館統計から図書館サービスの指標を導き出して、サービス対象となる利用者の特性を考えて、地域に相応した図書館像を考えたい。

図書館の財務管理や、人事管理、などをめぐる諸問題についても触れ、PFI、指定管理者制度、民間活力導入の問題が、今後の図書館経営に与える影響についても考察する。

【到達目標】

- ・公立図書館の運営について説明ができる。
- ・PFI、指定管理者制度などの新たな公共機関の運営方法について説明できる。
- ・新聞や雑誌で公立図書館の運営に関する記事に興味を持てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、教科書と配布したレジュメに沿って授業を行う。授業内で簡単な課題の提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館法の成り立ち (1)	図書館法の位置づけ
第 2 回	図書館法の成り立ち (2)	図書館法逐条解説 条例等その他の法規
第 3 回	図書館経営の意義と基本的な考え方 (1)	組織の経営と経営原理 経営組織
第 4 回	図書館経営の意義と基本的な考え方 (2)	経営資源の構成要素 業務プロセスと経営資源 経営のサイクル
第 5 回	人的資源と組織編成	図書館の人的資源 知識専門職としての司書 図書館の組織
第 6 回	物品の調達・管理	図書館に必要なモノ 物品の調達 物品の管理
第 7 回	図書館財務	図書館にとっての財務 図書館財務の実態と限界 新しい図書館財務の考え方
第 8 回	公共空間としての図書館	施設を活かす管理・運用 サービス空間の設計 書庫管理
第 9 回	PRとマーケティング	PRとは何か マーケティングの必要性 図書館のマーケティング
第 10 回	経営戦略策定のための調査・分析と評価	戦略計画をつくる 戦略を支える調査と研究 経営評価
第 11 回	経営形態の選択と外部連携	図書館の経営環境の変化 公共図書館の経営形態 外部との連携
第 12 回	図書館情報政策の意義	図書館情報政策の位置づけ 地方自治体内の一組織としての図書館
第 13 回	各種図書館の役割と根拠法	国立国会図書館 大学図書館 学校図書館 専門図書館 関連する諸法律
第 14 回	確認と試験（レポート）	確認と試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の章に沿って授業を行うので、授業前に教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

柳与志夫著、『図書館制度・経営論（ライブラリー図書館情報学 4） 学文社、2018

【参考書】

糸賀雅児、葉袋秀樹編『図書館・制度経営論』（現代図書館情報学シリーズ2）樹村房, 2013
その他授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題（30％）、期末試験またはレポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義にならないように、学生の意見を取り入れ、レジュメに工夫をしたい。

【Outline and objectives】

In this lecture, I will explain the laws of the library and discuss the process of library management mainly from the basic design of public libraries.

In order to achieve the desired service to the user, it is necessary to carefully plan from the basic design point before opening the library. Derive indicators of library services from library statistics, consider the characteristics of users to serve, consider the library image corresponding to the area.

I will also touch on issues such as financial management of the library and personnel management, and consider the influence of PFI, designated manager system and introduction of private vitalization on future library management.

FRI200MA

児童サービス論【2016年度以前入学者用】

田中 順子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。

【到達目標】

児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。絵本等の資料を使った読み聞かせを実践し、児童と本を結びつける手法も獲得する。また、学校との連携など、児童を取り巻く読書環境についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	児童サービスとは	児童サービスの理念について
2	児童について	児童の発達と読書について
3	乳幼児の読書環境	乳幼児の読書環境とブックスタート
4	児童サービスの歴史	児童サービスの歴史と法律について
5	ブック・トーク	ブックトーク実践
6	読み聞かせ	読み聞かせ実践
7	ヤングアダルト	ヤングアダルトサービスについて
8	児童図書館	児童図書館の目的と役割
9	児童図書館リサーチ	児童図書館や児童図書コーナーの調査
10	他団体との連携	児童の読書推進のための政府、自治体の取り組みについて
11	レファレンス・サービス	児童のためのレファレンスサービスについて
12	読書の児童への影響	幼少時の読書がどんな影響を与えるか学ぶ
13	学習支援	学習支援としての児童サービス
14	学校図書館	学校、学校図書館の活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した範囲のテキストの読み込み。
児童図書コーナーのリサーチ。

【テキスト（教科書）】

植松貞夫・鈴木佳苗編『児童サービス論』樹村房 2014

【参考書】

笠原良郎編『楽しい読み聞かせ 学校図書館入門シリーズ3』全国学校図書館協議会
『図書館をつくる 教育をかえる』全国学校図書館協議会

【成績評価の方法と基準】

授業への参加、発表と課題の提出、学期末のレポート。

【学生の意見等からの気づき】

現場のリサーチや、読み聞かせの実践を通して、実情が実感できたという感想が多いので、学生による体験を積極的に取り入れていく。

【Outline and objectives】

The child age is very important for reading. When meeting a good book, children will love and continue reading, and when it isn't so, they might give up reading. In this class, students learn about child's book suitable for a reading ability, about history of children's service and various challenges in the library. Students visit a children's library actually to research it. They learn about service necessary to children and how to offer that service.

FRI200MA

情報サービス論【2016 年度以前入学者用】

田中 順子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービスを展開する能力を習得する。

【到達目標】

図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービス、情報検索について理解を深め、多岐にわたる情報源の知識を習得し、情報サービスを積極的に展開する能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報サービスとは	情報サービスの概念と歴史
2	レファレンス・サービス	レファレンスサービスとレフェラルサービスについて
3	図書館の利用	カレントアウェアネスサービスと読書相談、利用案内等について
4	レファレンス・サービスに求められるもの	レファレンスサービスの理論と実際
5	レファレンス・プロセス	レファレンスプロセスについて
6	レファレンス・インタビュー	利用者のニーズを引き出すレファレンスインタビュー
7	図書館の情報サービス	情報社会における図書館の情報サービスの役割
8	情報源について（1）	各種情報源の特質と利用法
9	情報源について（2）	各種情報源の解説と評価
10	情報源について（3）	各種情報源の組織化
11	情報検索サービス	情報検索サービスの理論と方法
12	図書館利用教育	図書館利用教育の現状
13	図書館の連携	学校図書館、地域の図書館の連携について
14	情報リテラシー	情報リテラシーの育成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した範囲のテキストを読んでくる。

【テキスト（教科書）】

山崎久道監修『情報サービス論』樹村房

【参考書】

井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】

授業への参加、発表と課題調査、学期末のレポート。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に行うディスカッションによって、考える力、発信する力がついたという感想が多いので、受け身ではなく積極的に授業に参加する場を設けていく。

【Outline and objectives】

In this class, students learn how to support library users and history of library service. Students visit a library actually to research it. They learn about service necessary to library users and how to offer that service.

FRI200MA

情報資源組織論【2016 年度以前入学者用】

丹 一信

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 1/Mon.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館情報資源の組織化の理論および技術について、講義を中心に学習する。特に印刷資料、非印刷資料だけではなく、電子資料やネットワーク上の情報資源についても、組織化の理論を学ぶ。これを通じて情報や知識資源の組織化全般について理解を深める。

【到達目標】

図書館の基本業務である情報資源の組織化について、理論を中心に基礎的な事柄を学習する。特に情報資源組織演習の基礎となるよう目録法、件名法、分類法、書誌コントロールなどを学習する。また、できる限り実際の業務の様子などを PC 画面に提示しながら解説し、情報資源組織演習で必要となる事柄を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「情報資源組織演習（資料組織演習）」の授業を履修するためには、本授業の知識は重要となる。本授業では、「目録法」「分類法」「件名法」の三つの技術を活用する。「目録法」では目録の重要性と『日本目録規則』の使用法について、「分類法」と「件名法」では、『日本十進分類法』と『基本件名標目表』の構成と使用法を中心に解説する。メタデータの扱いについても解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・情報資源組織化の意義	オリエンテーション 記憶メディアの進歩
2	情報・知識の概念について	情報・知識の概念を学ぶ
3	書誌コントロールの意義と役割	書誌コントロールの基本について学ぶ
4	書誌記述法（記述目録法）	記述目録法の概要を解説
5	主題目録法（主題分析の意義）	主題による分析の手法を学ぶ
6	分類法（主要な分類法について）	各種の分類法について、その詳細を学習する
7	件名とシソーラス	基本件名標目標を中心に、シソーラスについても学ぶ
8	書誌情報の作成と流通	現代の図書館をめぐる書誌情報の流通経路を中心に学ぶ
9	MARC, 書誌ユーティリティ	書誌ユーティリティの役割と MARC について
10	OPAC Web OPAC	OPAC の進化の歴史について
11	書誌情報の提供（OPAC の運用）	実際の図書館業務における OPAC の運用方法を中心に学ぶ
12	ネットワーク情報資源の組織化	ネットワーク上に存在する情報源の組織化について学習する
13	メタデータ	データのためのデータとも呼ばれるメタデータについて学習する
14	多様な情報資源の組織化	多種多様な情報資源の組織化について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

公共図書館や大学図書館をよく利用し、OPAC や排架について馴染んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

田窪直規 編著；岸田和明, 小林康隆, 時実象一, 山崎久道, 渡邊隆弘 著. 情報資源組織論. 改訂. 樹村房, 2016.3. 201p ; ISBN 978-4-88367-259-2 ;

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

レポート（15 %）、平常点（15 %）、期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

・実際の実務を念頭においた授業を展開する。
・図書館関連企業への就職を考えている学生への情報提供も行う。

【学生が準備すべき機器他】

時々 PC を使用

【その他の重要事項】

なるべくコミュニケーションのとれる授業を心がけているので、わからない点は遠慮なく問い合わせてほしい。

【Outline and objectives】

This course will teach you the theory and techniques of organizing library information resources.
In particular, I will learn not only printed materials but also electronic information resources and information resources on the network.
The purpose of this subject is to deepen the understanding of general information and composition of knowledge resources.

FRI200MA

情報資源組織演習【2016 年度
以前入学者用】

丹 一信

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、図書館司書の重要な業務のひとつである情報資源の組織化（目録データの記述・排列、メタデータの作成、資料の主題分類）の演習を行います。
図書館司書の実務能力を得られることを目的としています。
また情報資源組織論の授業と連動しています。

【到達目標】

多種多様な情報資源についての書誌データの作成、主題分析、分類作業、ソーラス、メタデータの作成などの演習を行い、情報資源組織業務における実務的能力、実践力の育成を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報資源組織業務の基本となる目録・件名・分類を理解し、例題と演習問題の実習により、その技法の習得をめざします。具体的には目録・件名・分類について、それぞれ日本目録規、BSH、日本十進分類法を用いて、演習問題の解説、演習を中心に学習します。なお昨今はコンピュータ目録が中心となっている為、シミュレーションによる Nacsis-CAT の演習やメタデータ作成の実習なども行う予定。
尚、本授業は演習形式のため、欠席が多いと理解および習得が困難になりかねません。また、「情報資源組織論（資料組織論）」と併せて履修するのが望ましいです。

人数超過の場合は、抽選となります。20 名までです。必ず第一回目の授業は出席してください。四年生や通教生を優先します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 書誌記述法	オリエンテーションが中心
2	単行資料の書誌記述 1 タイトル・責任表示	単行資料の書誌記述を学ぶ 1 タイトル及び責任表示の記述について学習する
3	単行資料の書誌記述 2 版・出版に関する事項	単行資料の書誌記述を学ぶ 2 版の記述、出版地、出版年などの記述について学習する
4	単行資料の書誌記述 3 形態・シリーズ、注記・標準番号	単行資料の書誌記述を学ぶ 3 大きさなどの形態、シリーズに関する事項、ISBN の記述について学習する
5	継続資料の書誌記述	雑誌などの継続資料の書誌記述の実践について
6	各種資料の記述（録音資料・映像資料・地図資料・マイクロ資料）	録音資料や映像資料等々の記述の実践について
7	各種資料の記述（電子資料及びその他の資料）	電子資料の記述方法
8	コンピュータ目録の演習 1	MARC を用いた組織業務について（JAPAN MARC を例に）
9	コンピュータ目録の演習 2	MARC を用いた組織業務の実践
10	主題分析（要約主題と網羅的主题）	主題の分析の仕方
11	件名作業 （基本件名標目表を用いて）	基本件名標目表を用いての作業
12	件名作業 （基本件名標目表を用いて）	件名の付与、標目表の使い方、分類記号からの付与の仕方
13	日本十進分類法による分類作業	NDC による分類
14	分類記号付与の実際 1	形式区分について
15	分類記号付与の実際 2	地理区分・海洋区分について
16	分類記号付与の実際 3	言語区分について
17	分類記号付与の実際 4	言語共通区分・文学共通区分
18	分類記号付与の実際 5	分類規程に基づいて付与する
19	分類記号付与の実際 6	分類規程 特殊分類規定に基づいて付与する
20	分類記号付与の実際 7	分類・件名総合演習 1 1 類から 5 類を中心に分類と件名の付与の演習

21	分類記号付与の実際 8	分類・件名総合演習 2 6 類～9 類、0 類を中心に分類と件名の付与の演習
22	ネットワーク情報資源について メタデータ作成の実際	メタデータの作成作業
23	メタデータ作成の実際 2	メタデータ作成作業 2
24	書誌データ管理、検索システムの構築	書誌データベースを実際に構築し、データ入力も行い、実務の疑似体験を行う
25	書誌データ管理、検索システムの構築 2	書誌データベースの構築（論文・記事データベースの構築）
26	書誌データベースその運用	構築した書誌データベースに、データを入力し運用を試みる。抄録の作成、シソーラスによるキーワード付与、書誌分類の付与など
27	NACSIS-CAT その実際	NACSIS-CAT のような共同目録の実際について説明する
28	JAPAN MARC	JAPAN MARC を中心とした演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を随時出します。また復習が必要です。

【テキスト（教科書）】

和中幹雄, 山中秀夫, 横谷弘美 共著. 情報資源組織演習. 新訂版. 日本図書館協会, 2016.3. 278p ; ISBN 978-4-8204-1515-2

【参考書】

(1) 蟹瀬 智弘, やさしく詳しい NACSIS-CAT , 樹村房, 2017, xiii, 249p, 図版 1] 枚 p.

【成績評価の方法と基準】

授業時、夏季及び冬季の課題、期末試験にて評価します。

演習課題 30% 期末試験 70%

授業への積極的な参加姿勢、課題への取り組みを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

ポイントを絞った授業進行にします。

また図書館関連の就職情報も踏まえた授業内容にします。

【学生が準備すべき機器他】

PC を利用します

また授業では、Hulic を使用します。http://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】

実践的な演習をめざします。

PC については、私物のものでも構いません。

PC の操作になれておいてください。

教科書は必須です。

毎回、課題が課されます。

「実務経験のある教員による授業」に該当：目録担当者としての実務経験を踏まえて、実務における目録作成の技法を中心に授業を行います。

初回授業時に履修者の抽選を行います。必ず初回授業には出席してください。

【Outline and objectives】

In this lesson, I will learn about organizing information resources, which is one of the important tasks of the librarian. In particular, we will learn to create catalogs, create metadata, and classify themes of documents.

It is aimed at obtaining the practical ability of the librarian.

It is also linked with lesson of information resource organization theory.

FRI200MA

情報資源組織演習【2016 年度以前入学者用】

村上 郷子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：水 1/Wed.1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報資源組織論（資料組織論）で学んだ理論や知識をもとに、実際に書誌データの作成、主題分析、分類作業の作成を行う。

【到達目標】

書誌データの作成、主題分析、分類作業等の基本的スキルを修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

資料の組織化は、大きく記述目録法と主題目録法の 2 部から成り立っている。春学期は記述目録の演習を中心に目録規則の適用及び主題分析の基礎について学習する。秋学期は主に日本十進分類法による分類作業を中心に、主題目録法の実践についてのスキルを学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期情報資源組織演習（資料組織演習）のガイダンス（Unit0-1）	情報資源組織演習（資料組織演習）概要について
2	記述に関する総則（Unit2-4）	記述に関する総則
3	図書の記述（Unit5・6）	タイトルと責任表示、版、資料の特性、出版・頒布等
4	図書の記述（Unit7・8）	形態・シリーズ、注記、標準番号
5	図書の記述①（単行書中心）	図書の記述①（単行書中心）
6	図書の記述②（単行書＋シリーズ）	図書の記述②（単行書＋シリーズ）
7	継続資料の記述①（Unit9・10）	通則および記述
8	継続資料の記述②（Unit9・10）	記述及び所蔵事項
9	各種資料の記述（Unit11・12）	録音資料、映像資料、地図資料、電子資料、他
10	標目、典拠、排列（Unit13-16）	標目、典拠、排列
11	コンピュータ目録（Unit17・18）	コンピュータ目録、OPAC、コピー目録、オリジナル目録、MARC、UNIMARC、NACSIS-CAT、JAPAN-MARC など
12	MARC フォーマット（Unit19・20）	
13	NACSIS-CAT（Unit21）	
14	例題および総合演習問題（Unit22・23）	図書の記述演習を中心に行う
15	メタデータ（Unit24-26）	ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ、メタデータの記述規則、流通
16	春学期総まとめ	筆記試験・まとめ
17	主題組織法、日本十進法の構成（Unit27-30）	秋学期ガイダンス、主題組織法とは何か、日本十進分類法とは何か
18	NDC の構成、形式区分	地理区分、海洋区分、言語区分
19	日本十進法による分類作業（Unit31）	
20	分類記号付与の実際（Unit32-35）	分類作業、分類規定、分類表の改訂
21	人文科学①（Unit36）	哲学・宗教（1 類）
22	人文科学②（Unit37）	歴史・地理・伝記（2 類）
23	社会科学①（Unit38）	政治・法律・経済他（3 類前半）
24	社会科学②（Unit39）	社会・教育他（3 類後半）
25	自然科学・技術（Unit40・41）	自然科学・技術（4・5 類）
26	技術・産業（Unit41）	技術・産業（5・6 類）
27	人文科学④ 芸術（Unit42）	芸術（7 類）
28	言語・文学（Unit43）	言語・文学（8・9 類）
29	文学・総記（Unit43・44）	文学・総記（9・0 類）

27	図書記号・別置記号の付与（Unit45・46）・総合演習	図書記号・別置記号の付与・総合演習
28	秋学期総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回出される宿題を、確実にこなすこと。

【テキスト（教科書）】
『情報資源組織演習』日本図書館協会、(JLA 図書館情報学シリーズ 3-10) の最新版

【参考書】
木原 通夫 [ほか] 著 『情報資源組織法—資料組織法』、最新版、第一法規
日本図書館協会 編 『図書館資料の目録と分類』、最新版、日本図書館研究会

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）・毎回の宿題・小テスト（50 %）、春学期試験（25 %）、秋学期試験（25 %）によって総合的に評価する。出席は 8 割以上を目安とする。毎回授業の初めに小テストを行うため、遅刻や欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より 20 分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】
なじみの少ない領域のため、できるだけ平易な説明を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
学生は司書資格課程のポータルサイトから、事前に毎回のレジュメをダウンロード・印刷をして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】
この授業では、受講生を 20 人以下に制限する。20 人以上の場合は、司書課程の受講生及び上級生を優先し、司書課程以外の受講生及び下級生は最初の日に抽選を行う。途中からの受講は認めない。

【Outline and objectives】
Based on the theory and the knowledge of organizing information resources, students will practice creating actual bibliographic catalog and decimal classification as well as analyzing subject headings.

FRI200MA
情報資源組織演習【2016 年度
以前入学者用】

鈴木 祐滋

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：土 5/Sat.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では図書館司書の基本的かつ重要な仕事である情報資源組織の手法について学びます。目録データの記述・登録・排列、メタデータ作成、主題分析・件名標目付与、資料分類等の演習を通じて、情報資源組織化のスキル獲得を目的としています。

【到達目標】
受講学生が、図書館資料の目録データの記述・登録・排列、流用入力、Web コンテンツのメタデータ作成、資料の主題分析および、それに基づく件名標目付与・資料分類に関する手法を理解し、実践できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
日本目録規則、基本件名標目表、日本十進分類法を使って、目録データの記述・排列、件名標目付与、及び資料分類の演習を行います。この他、メタデータ作成法、図書記号付与、地域資料の分類についても学びます。演習に使用するツール数に制限があるため、定員は最大 20 名です。希望者多数の場合は、上級生を優先とし、最後は抽選となります。抽選以降、履修決定者以外は出席できません。予めご了承下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	情報資源組織演習の概要	情報資源組織の概説および、使用するツールの紹介。演習の進め方や年間スケジュール等の説明。
2	目録規則の解説	目録情報の記述ルールである目録規則の概説。特に日本目録規則（NCR）を中心に解説。
3	書誌の階層レベル	書誌階層の概要説明および、階層レベル理解のための演習。
4	単行資料の記述	単行資料の目録データ作成方法の解説と演習。
5	録音資料、映像資料の記述	録音資料、映像資料の目録データ作成方法の解説と演習。
6	地図、継続資料の記述	地図資料、継続資料の目録データ作成方法の解説と演習。
7	電子資料の記述	物理的形態を持つ電子資料の目録データ作成方法の解説と演習。
8	標目の概要	標目の役割・意義についての解説と標目付与演習。
9	標目および典拠ファイル	タイトル標目、著者標目、件名標目、分類標目および、典拠ファイルに関する解説と演習。
10	目録データの排列規則	目録データ排列規則の解説と排列の演習。
11	データベースを用いたコンピュータ目録作成（書誌データ登録）	目録データベースへの各種資料の書誌データ登録演習。（グループワーク含む）
12	コンピュータ目録の流用入力による作成方法	書誌ユーティリティを利用した流用入力による目録データ登録方法の解説、演習。（グループワーク含む）
13	メタデータ付与	メタデータの解説、メタデータ付与事例紹介および、メタデータ付与演習。
14	まとめと到達度レベル確認	演習した内容に基づく到達度確認演習問題（提出）
15	主題分析	要約主題、網羅的主題の解説・演習。自然語と統制語の解説。統制語である件名標目と分類記号の概説。
16	基本件名標目表による件名作業（1）	基本件名標目表の解説と件名標目付与の演習。
17	基本件名標目表による件名作業（2）	件名標目付与の演習。
18	日本十進分類法（使用方法および一般補助表）	日本十進分類法の使用方法的解説及び一般補助表の説明。一般補助表を用いた分類記号作成演習。
19	日本十進分類法（固有補助表）	固有補助表の解説と使用法の演習。
20	分類規程	分類規程の解説と規程に基づく分類の演習。

21	社会科学分野の資料分類	3 類「社会科学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。
22	自然科学、技術・工学分野の資料分類	4 類「自然科学」、5 類「技術・工学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。
23	産業分野、総記の資料分類	6 類「産業」分野、0 類「総記」の資料分類の解説と分類記号付与演習。
24	言語・文学分野の資料分類	8 類「言語」、9 類「文学」分野の資料分類の解説と分類記号付与演習。
25	総合演習（資料分類）	各々の資料分類演習。
26	図書記号	受入順記号法、年代記号法、著者記号法についての解説と演習。
27	地域資料	地域資料の解説。地域資料に独自分類を使用している公共図書館の事例紹介。地域資料の分類演習。
28	まとめと到達レベル確認	演習した内容に基づく到達確認演習問題（提出）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 11 回の演習で行った方法で、Hulic 上のデータベースへの書誌データ登録演習（夏季休暇中の課題）を行う。

【テキスト（教科書）】

『情報資源組織演習（新訂版）』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ-10 巻）和中幹雄ほか著、日本図書館協会発行、2016 年 3 月刊、1900 円（税別）、ISBN: 978-4-8204-1515-2

【参考書】

関連の資料は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（演習状況および宿題）50%、到達レベル確認演習問題（春学期・秋学期の合計得点）50%によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ポイントをまとめたレジメは好評だったため、本年度も配布予定です。

【学生が準備すべき機器他】

HULIC 上のデータベースへのデータ登録演習を行う予定です。アカウントの取得方法は授業の中で連絡します。

【その他の重要事項】

大学図書館司書、企業図書館・情報調査部門マネジメント等の経験も踏まえ、図書館情報学の理論と図書館/情報調査の実情を合わせて解説。

【Outline and objectives】

This course introduces the methods of information resources organization that is a basic, important librarian's work. The aim of this course is to help students acquire the skills of the information resources organization (e.g. the bibliographic data description, registration, array, the metadata making, the subject analysis, the subject heading addition, and the classification of library materials).

FRI200MA

情報資源組織演習【2016 年度以前入学者用】

菅原 真悟

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：金 6/Fri.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力の習得をめざす。

【到達目標】

- (1) 多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等のスキルを身につける。
- (2) 書誌データベースの仕組みと機能を理解し、実際にデータベースを構築する。
- (3)XML や WebAPI 等についての知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、書誌データの作成、主題分析、分類作業を中心に演習を行う。秋学期は、春学期に行ったことを踏まえて、実際に書誌データベースを構築する演習を通して、情報資源組織業務に関する知識と技術を習得することを目指す。また、XML や WebAPI 等についての理解も深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の授業内容について
第 2 回	日本十進分類法	日本十進分類法（NDC）の構造
第 3 回	分類作業の実際 (1)	日本十進分類法を用いた演習（主題分析）
第 4 回	分類作業の実際 (2)	日本十進分類法を用いた演習（補助表）
第 5 回	分類作業の実際 (3)	日本十進分類法を用いた演習（0～2 類）
第 6 回	分類作業の実際 (4)	日本十進分類法を用いた演習（3・4 類）
第 7 回	分類作業の実際 (5)	日本十進分類法を用いた演習（5～7 類）
第 8 回	分類作業の実際 (6)	日本十進分類法を用いた演習（8・9 類）
第 9 回	件名作業の実際 (1)	基本件名標目表（BSH）の概要
第 10 回	件名作業の実際 (2)	基本件名標目表（BSH）を用いた演習
第 11 回	目録法	書誌コントロールと図書館目録
第 12 回	目録作成の実際 (1)	日本目録規則（NCR）の構成
第 13 回	目録作成の実際 (2)	日本目録規則（NCR）を用いた演習
第 14 回	書誌ユーティリティ	書誌ユーティリティと共同分担目録、NACSIS-CAT、NII の教育研究・事業
第 15 回	オリエンテーション	秋学期の授業内容について
第 16 回	NACSIS-CAT 演習 (1)	NACSIS-CAT の概要
第 17 回	NACSIS-CAT 演習 (2)	NACSIS-CAT による目録作業
第 18 回	データベース (1)	データベースの仕組み。リレーションアルデータベース
第 19 回	データベース (2)	SQL 入門
第 20 回	メタデータ (1)	図書館におけるメタデータの活用
第 21 回	メタデータ (2)	XML、RDF
第 22 回	メタデータ (3)	ダブリンコア、junii
第 23 回	図書館システム演習 (1)	OPAC の概要
第 24 回	図書館システム演習 (2)	書誌データベースの構築（Enju）
第 25 回	図書館システム演習 (3)	書誌データベースの構築（DC-NDL(RDF) 利用）
第 26 回	図書館システム演習 (4)	書誌データベースの構築（目録作成）
第 27 回	図書館システム演習 (5)	書誌データベースの構築（件名作業・分類作業）
第 28 回	まとめと振り返り	授業全体のまとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で行った演習内容を復習すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて、プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題提出状況をふまえて総合的に評価する。

授業内演習への参加（50%）

小課題（数回出す予定です）・夏季課題の提出（30%）
最終課題（20%）

【学生の意見等からの気づき】

図書館システムを使った演習時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

司書課程専用の学習支援システム「HULiC」(<http://lc.i.hosei.ac.jp/>)を使います。

資格課程のノート PC（Windows/Linux）を用いて演習を行います。

【その他の重要事項】

演習教室での授業のため、人数超過の場合は抽選となります（定員 20 名）。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

We learn about

NDC: Nippon Decimal Classification

BSH: Basic Subject Headings

NCR: Nippon Cataloging Rules

FRI200MA

学校経営と学校図書館【2016
年度以前入学者用】

高橋 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：土 5/Sat.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館に関する基本的な概念、法律、基準、学校図書館が有効に機能するための職員制度、ネットワークの構築、学校図書館運営方針など、学校図書館に関する概論である。そのうえで学校図書館の理念とその教育的役割を学び、考える。

【到達目標】

まずは学校図書館が図書館であることを理解した上で、学校図書館のあるべき姿を学び、日本の学校図書館の現状、問題点を考える。学校図書館のさまざまな活動を学び、司書教諭資格に必要な基本的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学校図書館関係法規、基準をはじめとして、運営組織、選書、校内の協力体制、資料・情報の提供、貸出・予約などの図書館活動、地域のネットワーク、学校図書館に働く人の問題などを扱う。欧米、特にアメリカの学校図書館について学ぶ。

理念の高さに対し、日本の現実の学校図書館の実態はあまりにも貧しい。その要因についても考察する。自分の学校図書館体験をふりかえり、論文・実践報告を読み、書籍を読む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学校図書館とは何か	学校図書館の現状 司書教諭とは、学校司書とは
2	学校図書館は図書館である	図書館の三要素 図書館サービス
3	学校図書館と民主主義	ユネスコ学校図書館宣言 戦後の学校図書館の流れ
4	知的自由と学校図書館	図書館の自由 アメリカの学校図書館における事例等
5	学校図書館の関係法規・基準 1	学校図書館法 学校図書館法制定の歴史 学校図書館法改正
6	学校図書館の関係法規・基準 2	学校図書館基準 学校図書館図書標準 学校図書館メディア基準
7	学校図書館の関係法規・基準 3	子どもの読書活動推進に関する法律 文字・活字文化振興法ほか
8	ゲスト講師 学校図書館充実運動について	学校図書館と地域の運動
9	学校図書館の諸活動と職員制度の変遷	学校図書館 8 つのステップ 職員制度の変遷
10	学校図書館の運営	運営組織 校内の協力体制
11	コレクション形成（選書）とリクエスト制度	コレクション形成（選書）の考え方 リクエスト制度導入のために
12	アメリカの学校図書館	アメリカの学校図書館の流れと職員制度 学校図書館を支える地域ネットワーク
13	魅力的な学校図書館をつくる	レイアウト 見出し・サインづくり 学校図書館とマンガ
14	最近の学校図書館をめぐる動きと将来へ向かって	文部科学省の動向 学校図書館の新しい動き まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2 回目（論文・実践報告を読む）、及び 3 回目（書籍を読む）のレポート作成にあたっては、各自必要な文献を図書館で入手し、読んで書く。

【テキスト（教科書）】

『学校教育と学校図書館 新訂 3 版』塩見昇 教育史料出版会 2016

【参考書】

『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック』堀川照代 悠光堂 2018

『学校図書館メディアと読書教育』塩見昇 北村幸子 教育史料出版会 2007

『学校経営と学校図書館』中村百合子 樹村房 2015

【成績評価の方法と基準】

授業時の発言等授業への積極的な貢献度、レポート（3 回）による。

平常点（授業時の発言等授業への積極的な貢献度、授業時の小課題の提出等）：**40 %**
レポート（1 回目、2 回目、3 回目と配点が順に高くなる）：**60 %**

【学生の意見等からの気づき】

授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使用する。できるだけ登録を行うこと。

【その他の重要事項】

日本の学校図書館は、長い間機能していなかった歴史があり、機能していなかったその姿が学校図書館であるという誤解がある。まずは学校図書館のあるべき姿を知ることが最初の目標となる。意見交換の際には積極的な発言を望む。

本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline and objectives】

School library has an idea of library and an instructional role. Students learn the basic ideas, laws, standards of the school library. In addition to that, they also learn network systems and staffs for school library.

FRI200MA

学習指導と学校図書館【2016年度以前入学者用】

高橋 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土 5/Sat.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館には「学校の教育課程の展開に寄与する」役割がある。学校図書館は学習、授業に活用されてこそ学校図書館なのだとすることをまず理解する。学校図書館を必要とする学習のあり方であるインフォメーション・リテラシー教育、探究学習を知り、自主的な学びを支える学校図書館の諸活動、働きかけを知る。

【到達目標】

司書教諭資格に必要な学校図書館を使う授業の基本を身につける。インフォメーション・リテラシー教育、探究学習について学び、学校図書館の機能を必要とする教育のあり方を知る。授業を支える学校図書館の活動、サービスの実際を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学校教育に不可欠な学校図書館を実現するには、インフォメーション・リテラシー教育の理解が欠かせない。その上で、さまざまな授業で実際に学校図書館が活用された事例を学習し、総合的な学習とのかかわりについても学ぶ。また、使われる学校図書館を実現するための図書館づくりの工夫、図書館が行う利用教育の実際と方法、レファレンスなどの情報提供活動を学ぶ。学校図書館を活用した授業を計画する（第2回レポート）。図書館側からの資料案内を作成する（第3回レポート）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学習指導と学校図書館とは	図書館を使う授業 探究学習（インフォメーション・リテラシー教育）
2	探究学習	学習指導要領 さまざまな学習プロセス 日米比較
3	学校図書館を必要とする授業、授業事例から	『図書館よ、ひらけ！』の事例から
4	インフォメーション・リテラシー教育1（アメリカの教材ビデオより）	『図書館よ、ひらけ！』について Know It All シリーズ 探究学習のプロセス（計画を立てる他）
5	インフォメーション・リテラシー教育2（アメリカの教材ビデオより）	Know It All シリーズ 探究学習のプロセス（自分の言葉で他）
6	インフォメーション・リテラシー教育1（日本では）	授業とのコラボレーション 情報科とのコラボレーション
7	インフォメーション・リテラシー教育2（日本では）	グラフィック・オーガナイザーの使用 教員のサポート機能
8	総合的な学習と学校図書館	総合的な学習とは 学校図書館との関わり
9	ゲスト講師 図書館を使う授業	事例発表
10	探究型学習、日本の実践	授業事例 図書館を使った調べる学習コンクール
11	学校図書館が行う情報サービス1	オリエンテーション
12	学校図書館が行う情報サービス2	事例及びさまざまな資料 レファレンスサービス
13	学校図書館が行う情報サービス3	日常活動の中で行う利用教育 パスファインダー
14	最近の動き	21 世紀の学習者のための基準 文部科学省の動向 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 回目の課題、図書館からの資料案内の作成は子ども向けに編集された本を重視する。作成にあたっては、公共図書館の子どもセクションに行ってほしい。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

『改訂新版 学習指導と学校図書館』（堀川照代 塩谷京子 放送大学教育振興会 2016）

『図書館よ、ひらけ！』（神奈川県高等学校教職員組合図書館教育小委員会編 公人社 1990）など

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な貢献度、意見交換時の発言、授業時の小課題）：40 %
課題（3 回、①図書館を使った授業の評価、②図書館を使う授業の学習計画 & 授業計画、③図書館を使う授業のための資料案内）：60 %

【学生の意見等からの気づき】

授業目標の明示を心がける。

【その他の重要事項】

なぜ学校に図書館があるのか、子どもたちの自主的な学びを支える学校図書館の姿は、日本では根づいているとは言えない。日本の教育の課題であることを知ってほしい。
本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline and objectives】

Students learn how to use school library's functions and resources for teaching. For that purpose they learn an inquiry learning and information literacy. This subject is a weak point in Japanese school library. To realize that teaching needs using school library, library staffs(teacher librarian and school librarian)have to appeal the meaning of school library to teachers.

FRI200MA

学校図書館メディアの構成
【2016 年度以前入学者用】

高橋 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：土 4/Sat.4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館メディアの種類、組織化、選択法と分類、目録の基礎を学ぶ。
学校図書館メディアの構成に関する理解と実務能力の育成を通して、使いやすい学校図書館をつくる上での基礎的な知識を身につける。

【到達目標】

学校図書館の現場に必要な学校図書館メディアについての知識、選択にあたっての心構えを身につける。メディアをどう使うかを考えながら、実際の学校図書館で利用者にわかりやすい分類をつけられるようにする。検索のための目録の基礎を知る。配架、レイアウトの基本を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各種メディアの種類と特性を理解し、授業においてどう活用するかをまず考える。学校図書館メディアの構築のために、資料・情報の選択と収集・提供に必要なメディアを評価する力をつける。選択・収集・更新・廃棄の基準等の実務を知る。メディアの組織化に関しては、その基本を知り、演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学校図書館メディアの教育的意義と役割	アメリカのメディア・センターなど
2	学校図書館メディアの授業での活用 1	複数のメディアを活用した授業事例
3	学校図書館メディアの授業での活用 2	複数のメディアを活用した授業事例を考える
4	学校図書館メディアの種類	学校図書館メディア基準等
5	学校図書館メディア、組織化の流れ	選択・購入から配架まで
6	学校図書館メディアの選択 1	考慮するポイント
7	学校図書館メディアの選択 2	収集方針等
8	学校図書館メディアの選択 3	予算、組織、方法等
9	分類 1	分類の意義、種類 分類演習 1
10	分類 2	NDC のしくみと応用 分類演習 2
11	目録 1	目録の意義、種類、NCR 目録演習 1
12	目録 2	記述と記述を構成する書誌的事項 目録演習 2
13	目録 3 図書館レイアウト等	件名目録 目録演習 3 図書館レイアウト等
14	学校図書館メディアの実際	最近の動き等 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけ学校図書館に実際に行き、全体のレイアウト、分類、目録、配架を見る。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

『改訂新版 学校図書館メディアの構成』北克一 平井尊士 放送大学教育振興会 2016
『学校図書館メディアの構成』小田光宏編 樹村房 2016

【成績評価の方法と基準】

授業時の発言など授業への積極的な貢献度、レポート課題、演習課題。
平常点（授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）：40 %
提出レポート「複数のメディアを使った授業を考える」：20 %
演習課題①分類②目録：40 %

【学生の意見等からの気づき】

授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使用する。できるだけ登録を行うこと。

【その他の重要事項】

本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline and objectives】

Students learn the basic knowledges and skills of the media resources in the scene of real school library. Those include the way of collection making, cataloguing, classification, etc. The important point is user-friendliness.

CUM100MA

ミュージアム資料保存論【2016年度以前入学者用】

今野 農

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：土 4/Sat.4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における基本的な機能の1つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】

講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識を習得できる。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識を習得できる。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識を習得できる。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤を形成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。その他、サンプルや用具等を講義中に適宜回覧する。適宜、リアクションペーパーの提出を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第2回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第3回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第4回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第5回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
第6回	日本の伝統的保存法 日本の風土に根差して	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。
第7回	温湿度による劣化と対策	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第8回	有害物質、および光による劣化と対策	有害物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第9回	生物による劣化と対策	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、I P M（総合的有害生物管理）について解説する。
第10回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第11回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。
第12回	歴史的建造物等の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第13回	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。
第14回	まとめ	これまでの講義のまとめとして、博物館資料の保存に対する学芸員の役割を解説し、今後の課題を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分野・専攻を問わず、様々な博物館へ頻繁に足を運ぶ。講義中に関心を持った点、理解が不足していた点は、文献を読むなどして知識を補っておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

・石崎武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社
・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画

【成績評価の方法と基準】

小テスト：10%、平常点：60%程度、最終試験：30%。

【学生の意見等からの気づき】

知識の習熟の項目や小テストの試みが高評価であったため、講義内容や構成は維持しつつ、予習・復習等、日頃の学習活動に対して積極的に取り組めるような課題づくりを心掛ける。

【Outline and objectives】

This course provides students with a basic knowledge of preservation of the museum materials. The aria of this course is preservation of the museum materials, Environmental management for museum materials, and preservation of historic heritages and natural heritages.

CUM100MA

ミュージアム資料保存論【2016年度以前入学者用】

清水 久夫

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館・美術館では、どのように博物館資料・作品を保存し、後代へ伝えているのかを学ぶ。

【到達目標】

将来博物館・美術館の学芸員の仕事をするに際し必須である、博物館資料の保存・展示環境、収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得し、資料の保存に関する基礎的能力を養うことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。博物館・美術館における資料の保存環境、環境保護と博物館の役割について具体的に挙げる。毎回、授業の終了時、その日の講義で考えたこと、感想、要望、質問等についてのコメントを提出してもらい、翌週の授業の冒頭で答える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	資料保存の意義	ガイダンスの後、博物館における資料保存の意義について解説する。
2	資料の状態調査、現状把握	博物館では、どのように資料の状態調査、現状把握をしているかについて解説する。
3	資料の修復・修理	主として美術館における資料（作品）の修復・修理について解説する。
4	資料の梱包と輸送	資料を移動させる際、どのように資料を梱包するかについて解説する。また、資料を館外へ搬出する際、どのように輸送するかを解説する。
5	資料保存に適した温湿度	博物館における温湿度管理について解説する。あわせて大気汚染の影響について解説する。
6	資料と照明	光（照明）が資料に与える影響について解説する。あわせて近年取り入れ始められたLED電球についても取り上げる。
7	資料の生物被害	資料に害を与える虫、カビについて、IPMを中心に解説する。
8	火災、地震による被害	過去における火災、地震による資料の損傷とその予防策について解説する。
9	水害、盗難による被害	過去における水害、盗難とその予防策について解説する。
10	伝統的保存方法	日本の風土にあった伝統的な保存方法について解説する。
11	収蔵、展示等の保存環境	博物館における望ましい資料の収蔵、展示等の保存環境について解説する。
12	地域資源・文化財の保存と活用	エコミュージアムおよび景観、歴史的環境を含む文化財の保存と活用について博物館が果たす役割について解説する。
13	自然環境の保護	自然環境の保護について博物館が果たす役割について解説する。
14	まとめと振り返り	13 回目までの講義の「まとめ」と「振り返り」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館の活動は、実際に現場を見なければ理解しがたいところがある。授業で学んだことを念頭に置いて、休日等を利用し、できるだけ多くの博物館・美術館を訪れること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、必要に応じ資料を配布する。

【参考書】

『博物館学Q&A』清水久夫著。『続・博物館学Q&A』清水久夫著。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業終了時に提出するコメント 50 %、レポート 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業中のスマートフォンの使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This course provides students with a knowledge of preservation of the museum materials.

CUM100MA

ミュージアム展示論【2016年度以前入学者用】

渡邊 尚樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく実務に即した講義になるため、学生には新鮮な印象があったようだが、理解させるにはさらに工夫が必要と考える。

【Outline and objectives】

Learning about methods of museum's display through the exhibition of Arts and academic achievements.

CUM100MA

ミュージアム展示論【2016年度以前入学者用】

渡邊 尚樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：土 1/Sat.1 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニクについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく実務に即した講義になるため、学生には新鮮な印象があったようだが、理解させるにはさらに工夫が必要と考える。

【Outline and objectives】

Learning about methods of museum's display through the exhibition of Arts and academic achievements.

CUM100MA

ミュージアム情報・メディア論
【2016 年度以前入学者用】

柏女 弘道

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 1/Tue.1 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の活かし方を考える

【到達目標】

博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解し、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明します。大規模館の例にとらわれず、市町村規模の博物館におけるメディア活用の現状と課題についても取り上げます。授業は主に講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	メディアとしての博物館	視聴覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	ICT 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化①	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化②	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化③	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 10 回	博物館情報の管理と公開	情報管理や情報公開の方法を説明するとともに、情報の整備・管理・発信時における課題や、博物館情報を支える人々についても触れる。
第 11 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 12 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 13 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、如何に知的財産として整備していくのかについても触れる。
第 14 回	まとめ	市民が自らの学習成果、生き方や活動を発信したり、交流をする場としての地域博物館のあり方を、実際の地域博物館の活動を事例に紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛ける。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認する。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、さらには現地調査で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行う。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013 年）
K. マックリーン著、井島真知・芦谷美奈子訳『博物館をみせる-人々のための
展示プランニング-』（玉川大学出版部、2003 年）

日本展示学会編『展示論—博物館の展示をつくる—』（雄山閣、2010 年）
大堀哲、水島英治編『博物館学 III — 博物館情報・メディア論・博物館経営
論』（学文社、2012 年）

金山喜昭著『公立博物館を NPO に任せたら—市民・自治体・地域の連携—』（同成社、2012 年）

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 52 %、実地見学及びレポート 48 %。レポートの課題や文字数については授業内で発表します。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

博物館について日ごろから興味関心を持ち、各自授業外の学習活動を積極的に行ってください。また、パソコンや情報端末等機器等、情報を発信・受信するためのツールの操作方法については授業では詳しく解説しませんが、各自出来る範囲で扱い方を覚えるようにしてください。

【Outline and objectives】

Think about how to make use of information in museums

CUM100MA

ミュージアム情報・メディア論
【2016 年度以前入学者用】

石川 貴敏

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明するとともに、各テーマに基づく博物館の現状と課題についても取り上げます。特に、情報通信技術は進展が早いため、できるだけ新しい事例を盛り込むなどの工夫を図るとともに、今後の可能性や展開についても考察します。

【到達目標】

将来、博物館に関連する仕事を志す者に対しては、博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解するなど、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付ける事を目指します。また、文化・教育関連の仕事をはじめ、博物館以外の仕事を志す者に対しては、博物館における情報の活用方法などを伝え、博物館の賢い利用者、理解者となるよう、ミュージアム・リテラシーを高めることも目標の一つに据えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。講義毎にリアクションペーパーを提出してもらい、できるだけ一方的な講義スタイルにならないよう、時に受講者の意見を踏まえながら講義内容の工夫を図っていきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第 2 回	メディアとしての博物館	視聴覚メディアの発展について説明するとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第 3 回	I C T 社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第 4 回	博物館活動の情報化＜調査研究活動＞	博物館の調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 5 回	博物館活動の情報化＜展示活動＞	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 6 回	博物館活動の情報化＜教育普及活動・学習活動＞	博物館の教育普及活動や学習活動における情報の活用と展開について紹介する。
第 7 回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第 8 回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第 9 回	博物館における情報機器の活用	携帯情報端末など、新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第 10 回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第 11 回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第 12 回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えとともに、情報の整備・管理・発信時における課題についても触れる。
第 13 回	アクセシビリティの高い博物館を目指して	現在の博物館は、あらゆる人々にとってアクセシビリティの高い博物館を目指している。利用者の観点から博物館情報のあり方について語る。

第 14 回 博物館における情報・メディア戦略（まとめ） 博物館のミッションや中長期計画などに基づいた展開や、博物館に対する社会的要請や今日的課題を通して、今、求められている博物館情報・メディア事業について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛けてください。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認してください。授業ではできるだけ多くの事例を紹介することを心掛けるつもりです。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、場合によっては現地で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行ってください。博物館に関する講義ですので、博物館とはどのような施設であり、どのような活動を行っているのかについて知っていないと内容が理解できないかもしれません。各自、授業外の学習活動を積極的に行って、博物館の理解に努めてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使いません。必要に応じて資料を用意し、授業時に配布します。

【参考書】

『博物館学 III ― 博物館情報・メディア論』（大堀哲・水嶋英治編著、学文社、2012 年）
『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（西岡貞一・篠田謙一編著、放送大学教育振興会、2013 年）
『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（稲村哲也・近藤智嗣編著、放送大学教育振興会、2018 年）
『博物館情報・メディア論』（日本教育メディア学会編、ぎょうせい、2013 年）
『展示論－博物館の展示をつくる－』（日本展示学会編、雄山閣、2010 年）
『博物館展示論（K S 理工学専門書）』（黒沢浩編著、講談社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

期末にレポート課題（到達目標に掲げた内容につながる課題を考えています）を提示します。「平常点」と「レポート課題（与えられた課題に即した内容のレポートをまとめることができるかを判断します）」で総合的に評価します。「平常点 40 %（40 点）」「レポート課題 60 %（60 点）」の配分（合計 100 点）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本講義に関する事項は、近年、活発に新たな動きを見せている。国からも新たな施策や指針が示されていることから、できるだけ新しい情報を提供するとともに、そうした今後のあり方に関して、受講者と意見を交わしていけたらと考えています。

【その他の重要事項】

ミュージアムに関する国内唯一の専門シンクタンクである丹青研究所において、約 30 年間の実務経験を有しています。そのうち 20 年以上にわたって、情報部門の責任者を務めてきました。その間、各種ミュージアムに関する官公庁や民間からの委託事業を担当したり、これからのミュージアムのあり方に関する調査研究事業に従事しました。日々多くの情報を集め発信する立場を生かして、豊富な情報をもとに、これからの方向性を思考する授業を行います。

【Outline and objectives】

We will explain from various themes about the development, provision and utilization of information in museums, and also present about the present situation and issues of museums based on each theme. In particular, since information and communication technologies are progressing rapidly, we will try to devise new cases as much as possible, and also consider future possibilities and developments.

CUM200MA

博物館実習Ⅰ【2016 年度以前 入学者用】

藤田 直人

単位数：2 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：土 2/Sat.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館に関わる実務を学びながら、学芸員としての心構えや技能を習得することを授業の目的とします。博物館はもとより、文化・教育・メディアをはじめ地域社会・NPO など、関連分野で貢献できるアビリティやスキルを磨きましょう。

【到達目標】

学芸員・キュレーターの職務は多岐にわたります。専門性を持ちながらも、博物館・ミュージアムの各理念・役割に応じて、臨機応変に対応できる人材が求められます。本学所蔵の実資料を取り扱いながら、観察・記録・整理・展示など一連の所作所用を習い、基本的な業務を段階的かつ体系的に学びましょう。この授業で学んだことは、博物館での館務実習やインターンシップなど次なるステップへの糧や備えとなりましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

< 実習科目 > です。積極的な姿勢で臨めば、アクティブにラーニングができるような構成になっています。本学所蔵のコレクションを実際に取り扱うなかで「資料調査法」「資料化法」「資料展示法」などの技法を学びます。また、ワークショップ、エディトリアルデザイン、キュレーションなどのスキルを磨けるよう実践的な講座を配します。ミュージアム活動を積極的に学び、確実に課題を遂行していきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	事前指導・ガイダンス	①実習全体の事前指導②博物館概況③学芸員関連職務と心得・キャリア形成④課題・評価法など。※受講条件確認・抽選会あり。
2	資料取扱法〔実務実習を進めるための基礎〕	資料を取り扱う上での専門的知識・留意事項を身に付ける。特に教育史・遊戯史的知見・表象を知る。
3	博物館資料取り扱いⅠ	資料〔民藝玩具〕の概要の理解
4	博物館資料取り扱いⅡ	資料〔民藝玩具〕の選択、調査方法・方針の設定
5	博物館資料取り扱いⅢ	資料〔民藝玩具・風〕の観察・開梱・考察・収納
6	博物館資料取り扱いⅣ	資料〔民藝玩具・風〕の実測・図化・由来
7	博物館資料取り扱いⅤ	資料〔民藝玩具・風〕の比較考証・文献文化的検討
8	博物館資料取り扱いⅥ	資料カード化（仮提出・一次評価・改善点・校正）
9	博物館資料取り扱いⅦ	資料調査ワークショップ（報告発表・考察・講評）
10	博物館資料取り扱いⅧ	資料の梱包・収納、資料カードの最終校正・課題提出
11	調査資料による展示展開	調査を基にキャプションづくり、撮影、報告展開
12	展示展開ワークショップⅠ	キュレーションゲーム：展覧会系ワークショップ（博物館ロゴ・展覧会企画デザイン）
13	展示展開ワークショップⅡ	キュレーションゲーム：展覧会系ワークショップ（プレゼン評価）
14	博物館見学ワークショップⅠ	近郊博物館への見学・イベント・ワークショップ参加を通じて、社会的活動の実際や機能を理解する
15	博物館見学ワークショップⅡ	近郊博物館への見学・イベント・ワークショップ参加を通じて、社会的活動の実際や機能を理解する
16	コレクション調査Ⅰ（調査報告）	夏季に現地調査したコレクション資料（民藝玩具類）について成果報告
17	コレクション調査Ⅱ（調査報告）	夏季に現地調査したコレクション資料（民藝玩具類）について成果報告（資料・資料カードの課題提出）
18	コレクション調査Ⅲ（資料化実習）	夏季に現地調査したコレクション資料（民藝玩具類）の展示準備をする（キャプション案の提出）

19	コレクション調査Ⅳ（資料実習）	夏季に現地調査したコレクション資料（民藝玩具類）について成果を報告する（特別展準備・仮展示）
20	博物館資料の整理・管理実務Ⅰ	掛物・卷子・屏風、古文書類の取り扱い、展示、収納体験
21	博物館資料の整理・管理実務Ⅱ	写真の手法と解説（写真・カメラの原理、オールド～最新カメラの実際、照明機材・撮影手法の基礎）
22	博物館資料の整理・管理実務Ⅲ	写真撮影の実際（アナログカメラ・デジタル一眼等による物撮り・照明設定の理解と実際）
23	博物館資料の整理・管理実務Ⅳ	博物館関連講座・イベントの取材・記録・資料化
24	博物館資料の整理・管理実務Ⅴ	コレクション資料・収蔵資料の梱包・搬出搬入
25	教材製作実習・篆刻Ⅰ	篆刻（解説：文字・書体・フォント・篆刻落款史）と（実習：素材・用具・技法・刻前準備）
26	教材製作実習・篆刻Ⅱ	篆刻（実習：意匠・印稿作成）、課題指定と道具貸出）
27	博物館見学ワークショップⅢ	近郊博物館への見学・イベント・ワークショップ参加を通じて、社会的活動の実際や機能を理解する
28	事後指導（まとめ・振り返り）	全課題内容および提出状況の確認。通年を通しての総括・講評・考察、貸出機材・道具の返却

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◇夏季調査課題：休暇中に「民藝玩具・風玩等」の現地調査・資料収集（具体的テーマ・調査報告法は当該授業で展開）◇冬季篆刻課題：刻印を仕上げ、印影落款を提出する

【テキスト（教科書）】

◇利用する資料プリント・文献、道具類は、適宜テーマ・コンテンツに即して授業前に配布または貸出する。

【参考書】

◇最新かつ着実な知見を提供すべく、推薦図書・参考書・図録・展覧会情報は関連トピックとして逐次紹介。

【成績評価の方法と基準】

①授業への貢献度（含むワークショップ・見学会）②授業内の取組姿勢、協調性、ディスカッションへの参画性 ③日々の小課題・使用カード・リアクションペーパーのほか、テーマ課題・夏季課題・冬季課題などの状況…これらの視点で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

◇日々の研鑽・積み上げが個人のスキルや進捗にも反映されます。また、特性上、個人作業だけでなく協同作業が発生します。主体性及び協調性をもって実習に臨まれることを期待します。

【学生が準備すべき機器他】

◇必要に応じて、情報機器や実習関連用具を貸し出します。
◇日々の授業で、キャプションづくりや資料カードづくりのほか、文作・編集機会を設けます。メモ用スケッチブックや電子辞書などの活用を推奨しています。

【その他の重要事項】

◇毎回、学びのポイントやスキルアップの確認を目的に、リアクションペーパーや京大式カードを配布するほか、授業の内容に応じてディスカッション機会を設けます。受講生間の積極的な意見交換を期待します。※注意：実習室のスペースの与件もあり、希望者が多い場合、初回授業にて「受講確認・抽選会」を開催します。

【Outline and objectives】

Curators have to carry out variety of duties with high expertise. Most of Museums need human resources who can respond flexibly according to the ideals and roles. Let's learn the basic tasks in a step-by-step and systematic manner. While handling the actual materials in University, learning a series of work results such as observation, recording, arrangement, exhibition. The main purpose of this lesson is to actually hone up basic skills and abilities such as collection, handling, storage, exhibition, organization and classification of actual materials. Let's learn it as a provision for each next step such as the Museum practicum training and internships. This "In-campus Practical Training" allows you to deepen your understanding of the work of museums and the role of curators by putting cover "Museum Practice" at the final stage of the curator training course to the range.

CUM200MA

博物館実習Ⅰ【2016年度以前入学者用】

金山 喜昭

単位数：2単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館の実務に関わる業務を実習する。

【到達目標】

博物館にかかわる実務を中心に学習しながら、学芸員としての心構えや技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるものであり、博物館の役割や機能に応じた活動が求められる。実務実習として、実際に資料を取り扱い、資料の観察・記録・整理・展示のほか、博物館運営に関わる実践的能力を身につける。将来、博物館などの文化施設のみならず、文化・教育関連、地域やNPO等の分野でも活用できるスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期には大学のコレクションを用いた実務実習と教材製作を行う。後期には各種の資料の取り扱いや資料の製作を学ぶ。この授業では、博物館活動の基礎となる実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第2回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：風）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第3回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料（風）の整理・実測（1）
第4回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料（風）の整理・実測（2）
第5回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料（風）の整理・実測（3）
第6回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料（風）の整理・実測（4）
第7回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料（風）の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第8回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（石器）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第9回	博物館資料の取り扱いⅦ	石器の調査・観察・記録（1）
第10回	博物館資料の取り扱いⅧ	石器の調査・観察・記録（2）
第11回	博物館資料の取り扱いⅨ	石器の調査・観察・記録（3）
第12回	博物館資料の取り扱いⅩ	石器の調査・観察・記録（4）
第13回	博物館資料の取り扱いⅩⅠ	石器の調査・観察・記録（5）
第14回	博物館見学会	現地調査。東京及び近郊博物館での学芸員からの業務解説で実態理解。
第15回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する。
第16回	コレクション調査（調査報告）	I 夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第17回	コレクション調査（調査報告）	II 夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・風等）に関して、その成果を報告する。
第18回	コレクション調査（資料化実習）	III 夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第19回	コレクション調査（資料化実習）	IV 夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第20回	博物館資料の整理Ⅰ	写真撮影（実習：資料撮影）
第21回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第22回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第23回	博物館資料の整理Ⅳ	博物館関連講座の取材・記録・資料化
第24回	博物館資料の梱包	資料の梱包・運搬
第25回	博物館資料の展示実技	美術資料（掛軸・画帖）の取り扱いと展示体験
第26回	教材製作実習・篆刻Ⅰ	篆刻・文字・落款の解説、製作
第27回	教材製作実習・篆刻Ⅱ	篆刻の製作

第 28 回 事後指導 課題提出、実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏休み中に資料収集をすることや、篆刻はホームワークとする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントなどを配布する。

【参考書】
随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】
出席と課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】
本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline and objectives】
This course aims to undertake a practicum for practical operations at the museum.

CUM200MA
博物館実習Ⅱ【2016 年度以前
入学者用】

小西 雅徳

単位数：2 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館は奥の深い世界です。学芸員のスタンスとして博物館活動の花形である企画展実施の手法を学んでいきます。日本の博物館では、コレクションの関係や館規模、組織等の問題から、集客性に重点を置いた企画展を重視する傾向があります。これは世界的にみても特異な現象です。しかし、企画展は学芸員を志す者にとって最も興味深い分野ですので、個人の企画力やグループ討議を通じて、企画展実施のノウハウを学びながら、博物館の裏方を支える学芸員の世界を一緒にのぞいて見ましょう。

【到達目標】
日本の博物館活動では、企画展あるいは特別展と呼ばれる集客性を重視した企画が必要とされます。そのため、学芸員も企画展を前提に活動することが求められています。企画展を実施するには、多様な価値観や専門性に加え、基本となる企画展実施の工程、過程を学ぶ必要があり、この授業では 1 年間を通じて、企画展実施までの様々な手法やその時々の流行を捉え、博物館現場の実際を通じて学んでいきます。博物館学という基礎能力の構築に加え、豊かな企画展創造への個々人のスタイルと発想力を引き出していきます。個人の企画力に加え、グループワークとしての企画展を構想し発表し到達点を確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業内容は、前期と後期とを通じて①博物館展示の意義、②企画展実施の工程手順、③グループ発表とし、適宜配布資料により授業を進めていきます。前期は主として講義形式ですが、後期はグループ発表準備にあてます。個々人の企画力を高め、大規模展で主流となりつつあるプロジェクト体制を、グループワークを通じて体験します。発表ではパワーポイントを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 博物館展示の世界・学芸員の世界観	授業の狙いや課題提示について説明します。学芸員の心得や実情を紹介し
第 2 回	博物館展示の時代的、地域的推移について（概説）	博物館の始まりと展示の種類・手法について、特に常設展と企画展との違いを比較検証する。
第 3 回	日本の企画展	日本における企画展の実態を見て、将来的な展望を探ります。
第 4 回	世界の企画展	世界ではどのような企画展が行われているのか、その舞台裏をのぞいて見
第 5 回	展示の種類と手法	常設展と企画展との実施手法の違いや意義を考えます。
第 6 回	企画展プロセス①－企画展を考える種の探し方とは？	企画展実施までの工程手順－その 1－展示のための素材探し、種・ヒントの探し方
第 7 回	企画展プロセス②－話題となった企画展を分析して	企画展実施までの工程手順－その 2－成功した企画展例を基に、自分なりにシュミレーションして
第 8 回	展示構想（企画書の作成）	展示構想の内容と要点について説明し、企画内容に盛り込むものを整理する。
第 9 回	企画展を構想する①	学生自身で企画展を構想提示し、発表する。
第 10 回	資料目録の作成手順	展示の第一歩は、出展目録の作成にある。1 次候補から 2 次候補への絞り込みを、エクセルデータ等の目録作成から始める。
第 11 回	借用交渉と調書	学芸員の力量は、資料を見る目と同時に、借用交渉の態度にも表れる。
第 12 回	展示レイアウト－展示導線と照明計画	展示室の空間やケースの配置、照明計画を立てる。
第 13 回	展示解説パネル、キャプション作成や効果的な演出力について	学芸員存在理由の一つは解説者、説明者であり、また作文者であること。所謂ライターとしての学芸員像。
第 14 回	展示小道具とサイン計画	常備すべき展示小道具や新たに発注する小道具について考える。また、サイン作成も重要。
第 15 回	展示解説	学芸員は展示企画者であると同時に優秀な解説者でなければならない。

発行日：2019/5/1

第 16 回	展示図録・パンフレット等の作成手順	図録やポスター等の印刷物作成手順を学ぶ。
第 17 回	企画展を構想する②	学生自身で企画展を構想提示し、発表する。優れた企画案について議論を深める。
第 18 回	情報端末導入について	大規模展示では音声ガイド等の様々な情報媒体が導入されている。その取り組み方を考える。
第 19 回	企画展実施① グループ紹介と自己の主張について	5 人前後でグループ編成し討議を行う。発表内容の絞り込みを行う。
第 20 回	企画展実施② グループ企画展から発表題を絞り込む	相互に企画展を紹介することで、グループ発表案を決定し、内容構成を整理する。
第 21 回	企画展実施③ 展示企画の具体像を提示していく	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第 22 回	企画展実施④ 観覧者の希望する展示とは何かを考える	企画展における集客方法や展示の仕方・広がりを考える。
第 23 回	中間発表－まとめ	グループ発表の仮題目を決め中間発表を行う。展示構想を具体化していく。
第 24 回	企画展実施⑤ 発表に向けた行動のはじめ	発表内容の構成やポイントを整理する。パワーポイント情報への整理を行う。
第 25 回	企画展実施⑥	発表の役割や手順を調整する。限られた時間内での発表を工夫していくこと。
第 26 回	企画展実施⑦ 最終発表に向けた調整を行う	最終発表案の詰めや発表時間を調整する。レジュメ原稿を整理する。
第 27 回	発表 グループ数が多い場合は、発表順を決め 2 回に分けて実施する場合があります	各グループが 1 5 分程度で発表する。パワーポイントやペーパーを用いて発表する。1 年間の成果を問う。
第 28 回	発表評価と企画展の将来的展望について（まとめ）	発表案について評価すると共に、日本の企画展の将来像や展示評価について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企画展発表のためには、いろいろな展示会への見学参加を希望します。レポート課題を 3 回程度課します。最新の展示状況を俯瞰し、自分の企画展発表のシーズ（種）を探してください。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしませんが、展示論に関する本には目を通してください。テキストは随時授業配布します。

【参考書】

展示論関係本を参考図書として推薦します。

【成績評価の方法と基準】

出席 7 割以上確認の上、成績を課題発表等から評価する。学生自身のオリジナリティを評価したいと考えています。積極的な発言者を評価する共に、自由自在な発想力を評価します。後期に行われるグループ発表に欠席した場合には成績を評価しないこともあります。

【学生の意見等からの気づき】

机上討議なので、企画展本来の面白さをどれだけ伝えられるか心配ですが、このスタイルの授業はそれなりに学生からも評価されていると考えています。後期のグループワークは総じて楽しいとの評価がある一方で、仲間を形成できない学生の姿を時々散見しますので、授業に問題があった場合は遠慮なく声をかけて欲しいですね。

【学生が準備すべき機器他】

グループ討議では PC を用意していただきます。個人用に加え、必要があれば貸し出し用も用意します。情報共有として☑を活用してほしいです。

【その他の重要事項】

特にありません。

CUM200MA

博物館実習Ⅱ【2016 年度以前入学者用】

杉山 享司

単位数：2 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：土 6/Sat.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

展覧会は博物館学芸員の主たる活動の一つです。この授業では展覧会の企画からフライヤー（展覧会チラシ）の制作までを通して、学芸員の仕事の実践について学び、資料の活用方法や展示に関する技術の習得を目指します。

【到達目標】

この授業では、展覧会の企画から実施までのプロセスを理解し、その上で受講生自らが展覧会を企画して展覧会概要にまとめ、最終的にはそれをフライヤー（展覧会チラシ）として完成させ発表するまでを到達目標とします。この授業を履修することによって、展覧会活動に必要な知識や技術などの習得が可能となることでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の授業では、博物館における展覧会の意義や学芸員の役割を説明しつつ、各種の博物館施設における展覧会活動を映像資料を使って紹介し、どのようなプロセスで展覧会が作られていくのかを解説します。また、秋学期では、受講生各自が展覧会の企画を練り、開催概要の作成と発表を行い、それに基づいてフライヤー（展覧会チラシ）の制作を実施していきます。なお、発表の際には毎回受講生同士でディスカッションを行い、展覧会を企画する上での留意点や課題について、互いが学び合えるように進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	博物館実習の目的・方法	授業の内容や目的、その進め方について説明する
2	展覧会と学芸員	学芸員の役割と展覧会の意義について解説する
3	展覧会からたどる博物館の歩み	展覧会の歴史を紐解きながら、日本の博物館がどのように発展していったのかを解説する。
4	私立美術館における展示活動の紹介	日本民藝館の概要と展示活動について紹介する
5	公立美術館における展示活動の紹介	静岡市立芹沢銈介美術館の概要と展示活動について紹介する
6	国立博物館における展示活動の紹介	東京国立博物館の概要と展示活動について紹介する
7	動物園施設における展示活動の紹介	旭山動物園の概要と展示活動について紹介する
8	海外の博物館における展示活動の紹介	大英博物館の概要と展示活動について紹介する。
9	企画展の開催とその意義について	企画展の持つ意味やそれを開催するための方法等について解説する。
10	展覧会実施までのプロセス①	企画書の立案から作成までの過程を解説する
11	展覧会実施までのプロセス②	企画書の作成からプレゼンテーションまでの過程を解説する
12	展覧会実施までのプロセス③	展示の準備から展覧会実施までの過程を解説する
13	出品交渉の心得について	作品の借用交渉について説明する
14	展示の方法や種類について	展示方法の紹介やその作業について解説する
15	展覧会企画に向けて	春学期授業の内容確認と、展覧会の企画書の作成方法について説明する。
16	受講生による 1 回目の展覧会企画の発表	受講生による 1 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。
17	前回発表の振り返りと、受講生による 2 回目の発表	受講生による 2 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、特に展示内容とその構成の仕方について解説する
18	前回発表の振り返りと、受講生による 3 回目の発表	受講生による 3 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では特に展覧会会場の設定に関して解説する

19	前回発表の振り返りと、受講生による 4 回目の発表	受講生による 4 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、料金設定の仕組みについて解説する
20	前回発表の振り返りと、受講生による 5 回目の発表	受講生による 5 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、開館時間や休館日の設定に関して解説する
21	前回発表の振り返りと、受講生による 6 回目の発表	受講生による 6 回目の「展覧会企画」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う。この回では、プレゼンテーションの仕方について解説する
22	展覧会企画の発表の総括	受講生各自の発表を基に、問題点や課題を整理し、企画内容の充実化を図る
23	展覧会見学	学芸員の案内による東京都内の美術館見学を行う
24	受講生によるフライヤーを用いた 1 回目の本発表	企画書を基にして作成したフライヤー（展覧会チラシ）の 1 回目の本発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
25	前回発表の総評と、受講生による 2 回目の本発表	展示内容に意識しながら 2 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
26	前回発表の総評と、受講生による 3 回目の本発表	フライヤー（展覧会チラシ）のデザイン面に留意しながら 3 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
27	前回発表の総評と、受講生による 4 回目の本発表	プレゼンテーションの仕方を意識しながら 4 回目の本発表を行い、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
28	前回発表の総評と、受講生による 5 回目の本発表	企画者としてのメッセージに留意しながら 5 回目の本発表を聞き、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館に関する学問は現場から生まれたものです。受講生各位は積極的に多くの展覧会を見学するなど、日頃から意識して様々な博物館施設を利用するよう心掛けて下さい。

【テキスト（教科書）】

レジュメを授業中に配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）40 %、課題制作の評価 60 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の積極的な意見交換がなされるよう、秋授業では各自が毎時間発言する機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

An exhibition which is one of the basic items of curator's activities. In this lesson, from the planning of the exhibition to the production of the flyer, we aim to master the technique of utilizing the materials and the exhibition.

EDU200MA

社会教育計画【2016 年度以前
入学者用】

御園生 純

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主体的な学びのスタイルとは？

★学習キーワード—脱学校・主体的な学び・人権・国際化・国際支援・NPO など

私たちは何かを「学ぶ」ことを、知識や技術を身につける、というイメージをもって理解しています。しかし学ぶことは本当に「身につける」ことだけなのでしょうか。

社会教育における「学び」のスタイルには、知識を習得することだけでなく、既成の概念を「脱ぎ捨て」たり、学んだことを発信する、という意味も含まれているのではないのでしょうか。そのような学校教育にはない、あたらしい学びのスタイルを実現するための社会教育計画とはなにかについて、その教育課程編成の理論や実践、さらに学習コーディネーターやファシリテーター（促進者）としての社会教育主事の役割、また社会教育における NPO 活動・国際的なボランティア活動の実践についても受講者の同士の討議を通じて考えていきます。

実際の社会教育計画事例の紹介を中心に、それらの編成課程を支える理論的土壌や教育理念について理解していきます。なかでも成人学習者の学習動向と特質を理解し、その学習支援のための最適な教育計画を受講者同士の討議を通じて導き出すことを授業の主眼とします。また、主体的な学びのスタイルのありようとはなにかについて、学校教育と社会教育との連携や、国際理解・人権・環境・ボランティア・共生などの現代的課題を学ぶための教育計画のありようについて、受講者同士のディスカッションなどを通じて学習します。施設見学などを通じて最低でも 1 回以上のレポート発表なども加えていく予定です。

【到達目標】

社会教育計画立案にかかわる

- ・プレゼン能力
 - ・現状調査能力
 - ・企画立案力
 - ・イベントプロモーションの在り方
 - ・広報宣伝/集客テクニック
- などをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとって、講義形式で進行する予定である。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設にいき、講座を履修し主事のインタビューの実施を通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育における教育観	社会を対象とした教育とは？
2	「脱学校」論と社会教育	社会教育と学校教育の相違
3	教育を取り巻く理論的土壌	こどもからおとなへ～教育の役割
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	おとなは教育の対象なのか？
10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権
14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い

15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう
16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス
17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画・学校教育との連携	学社融合の理論的土壌
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタビューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビュー結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビュー結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビュー結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
春学期終了時にレポート提出、秋学期終了時に社会教育のカリキュラム案を作成～提出してもらう予定です。出席状況は最終評価の参考値程度に勘案しますが、出席していることよりも授業に「参加」しているか否かを重要視します。授業中の発言や主体的なレポート発表なども評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO 活動などの実際も具体的な事例をもとに紹介していきたいと思っています。
受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。
担当者のサイト
ツイッター:misoarba

【Outline and objectives】
・ Understanding of the present situation of local government and father education in Japan.
・ Collect and understand social education data. It will be possible to organize and present the current situation.
Will be able to have your own thoughts about social education issues.

EDU200MA
**社会教育計画【2016 年度以前
入学者用】**

御園生 純

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主体的な学びのスタイルとは？
★学習キーワード—脱学校・主体的な学び・人権・国際化・国際支援・NPO など
私たちは何かを「学ぶ」ことを、知識や技術を身につける、というイメージをもって理解しています。しかし学ぶことは本当に「身につける」ことだけなのでしょうか。
社会教育における「学び」のスタイルには、知識を習得することだけでなく、既成の概念を「脱ぎ捨て」たり、学んだことを発信する、という意味も含まれているのではないのでしょうか。そのような学校教育にはない、あたらしい学びのスタイルを実現するための社会教育計画とはなにかについて、その教育課程編成の理論や実践、さらに学習コーディネーターやファシリテータ（促進者）としての社会教育主事の役割、また社会教育における NPO 活動・国際的なボランティア活動の実際についても受講者の同士の討議を通じて考えていきます。
実際の社会教育計画事例の紹介を中心に、それらの編成課程を支える理論的土壌や教育理念について理解していきます。なかでも成人学習者の学習動向と特質を理解し、その学習支援のための最適な教育計画を受講者同士の討議を通じて導き出すことを授業の主眼とします。また、主体的な学びのスタイルのありようとはなにかについて、学校教育と社会教育との連携や、国際理解・人権・環境・ボランティア・共生などの現代的課題を学ぶための教育計画のありようについて、受講者同士のディスカッションなどを通じて学習します。施設見学などを通じて最低でも 1 回以上のレポート発表なども加えていく予定です。

【到達目標】
社会教育計画立案にかかわる
・プレゼン能力
・現状調査能力
・企画立案力
・イベントプロモーションの在り方
・広報宣伝/集客テクニック
などをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとって、講義形式で進行する予定である。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。
秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設にいき、講座を履修し主事のインタビューの実施を通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

回	テーマ	内容
1	社会教育における教育観	社会を対象とした教育とは？
2	「脱学校」論と社会教育	社会教育と学校教育の相違
3	教育を取り巻く理論的土壌	こどもからおとなへ～教育の役割
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	おとなは教育の対象なのか？
10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権
14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い

15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう
16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス
17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画・学校教育との連携	学社融合の理論的土壌
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタビューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	次週からの調査計画について
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	社会教育施設での体験のための準備作業
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビュー結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビュー結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
春学期終了時にレポート提出、秋学期終了時に社会教育のカリキュラム案を作成～提出してもらう予定です。出席状況は最終評価の参考値程度に勘案しますが、出席していることよりも授業に「参加」しているか否かを重要視します。授業中の発言や主体的なレポート発表なども評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO 活動などの実際も具体的な事例をもとに紹介していきたいと思っています。
受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。
担当者のサイト
ツイッター:misoarba

【Outline and objectives】
・ Understanding of the present situation of local government and social education in Japan.
・ Collect and understand social education data. It will be possible to organize and present the current situation.
Will be able to have your own thoughts about social education issues.

EDU200MA
社会教育活動 I 【2016 年度以前入学者用】

桔川 純子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 6/Tue.6 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、持続可能な社会を形成していくにあたり必要不可欠な、外国籍、外国にルーツをもつ人、女性など、マイノリティの問題を「自分」に引きつけて考察できるようにします。
そして国内外のさまざまな取り組みを通じて、「ダイバーシティ」「内なる国際化」とは何かについて考察し、「ジェンダー」「エスニシティ」「マイノリティ」の問題について、グローバルな視点から分析できるようにします。
初回のガイダンスを通じて受講生の興味・関心を把握し、講義に反映させる予定です。

【到達目標】
1. 国際社会における
日本や海外の事例を通じて「多文化共生」「エスニシティ」「内なる国際化」「ジェンダー」「マイノリティ」といったテーマについて、自分の身にひきつけて考察します。そして、社会教育・生涯教育の意義について、日本社会の状況と海外を比較しながら理解し、ディスカッションを重ね、思考を深めていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義が中心ですが、視聴覚教材や、受講生による発表などを通じてディスカッションを行っていきます。毎回、リアクションペーパーを提出してもらいます。また、フィールドワークなども受講生と相談しながら取り入れる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、今後の授業の予定、授業の進め方などについて。
2	日本における女性をとりまく状況	日本における女性を取り巻く状況、「フェミニズム」「ジェンダー」について。
3	日本における＜多文化共生＞の現状	日本における多文化共生の現状、「エスニシティ」「ダイバーシティ」「移住労働者」の問題について。
4	セクシャルマイノリティと社会教育	セクシュアリティ、LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender) とは何か、そしてそれに関するムーブメントについて紹介し、考察する。
5	＜人権＞と社会教育	憲法で保障されている＜人権＞、関連する法律などを確認し、日常のなかの＜人権意識＞について考察する。
6	＜ことば＞のもつ意味と識字教育	差別を助長する＜ことば＞、配慮のある＜ことば＞について考える。
7	地域における実践 1	生野オモニハッキョ・川崎ふれあい館等（多文化共生）
8	地域における実践 2	たかとりコミュニティセンター・コミュニティ FM 等（多文化共生）
9	ディスカッション	前半のまとめと考察
10	国際結婚をめぐる諸問題と社会教育	日本、韓国をはじめとした海外の事例を紹介
11	社会問題に取り組む組織と社会教育：NPO、ソーシャルビジネス、協同組合等	社会問題に取り組む組織として、どんなものがあるのか、またその取り組みへの支援策など
12	社会教育としての様々な実践 1	人間が学び、成長していける＜実践活動＞について考える：外国人支援、女性支援などの事例：受講生の発表
13	社会教育としての様々な実践 2	人間が学び、成長していける＜実践活動＞について考える：地域コミュニティの事例：受講生の発表
14	総括ディスカッション 1	全体を通じての感想、理解したことなどを発表し、振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
随時資料を配布したり紹介したりするので、授業の前に目を通してきて下さい。

【テキスト（教科書）】
講義に関連したプリントを配布するため、テキストは指定しません。

【参考書】
■富坂キリスト教センター 在日朝鮮人の生活と住民自治研究会編『在日外国人の住民自治』（新幹社,2007）

■移住労働者と連帯する全国ネットワーク・入管法対策会議／在留カードに異議あり！NGO 実行委員会編集・発行『改定入管法 中長期在留者のためのQ&A』、『改定入管法 非正規滞在者・難民申請者のためのQ&A』、『改定入管特例法 特別永住者のためのQ&A』（2011）
■ソーシャルデザイン会議実行委員会（著，編集）『希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン』（宣伝会議，2013）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（発言状況など）と期末レポートによって評価する。レポートの課題は授業中に指示します。
授業中の課題30％、宿題30％、レポート課題40％

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言する機会を増やし、ディスカッションなどを通じて考察を深める機会を増やしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

DVD,CD,PC

【その他の重要事項】

初回のオリエンテーションを踏まえ、受講生の興味・関心に則し、授業に反映させていくので、初回はできるだけ出席して下さい。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will learn about minority issues through various social education activities.

Also for a sustainable society, will consider about issues, of "diversity", "gender", "ethnicity" and so on.

EDU200MA

社会教育活動Ⅱ【2016年度以前入学者用】

佛木 完

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 6/Tue.6 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者の社会教育活動の具体的な事例や歴史を説明し、活動の背景にある時代状況を知ると共に、青年自身の悩み、要求と、活動を通して仲間や社会にどう関わってきたのかを学びます。具体的な学習素材としては、地域の「青年団活動」を例にとり、社会状況と活動内容を知ると共に、若者たちが地域活動や仲間集団を通して、学習し、人間関係を築き、社会に発信し、主体的な生き方を形成する様子を見ていきます。そして、現代の若者の課題と、社会教育や青年活動が果たす役割について考察します。

【到達目標】

地域青年団の性格や活動状況を理解しつつ、青年活動によって若者が成長する姿を学ぶと共に、その時代背景と青年活動や社会教育活動の意義について考察を深めます。

あわせて、雇用・労働環境、地域共同体や人間のコミュニケーションの变容の中で、若者が自己の価値観を形成し、多様な人間関係に向き合い、社会に能動的に働きかけながら主体的に生きる姿勢と視点を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回、テーマに応じたレジュメや資料、活動に携わった当事者の若者が書いたレポート、関連のビデオや映像などを用意し、それらを読み進めながら、地域青年団の活動や社会的な背景、若者が果たす役割などについて解説を加えていきます。あわせて、学生との意見交換も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地域青年団の概要と授業説明	地域青年団の歴史、性格や目的、その活動内容について概説し、あわせて授業全体を通して目指したいことを説明します。
第2回	青年団と歴史背景の概観	戦後の荒廃の中から全国的に青年団が再結成されていく50年代から、高度経済成長政策を経て変貌する地域や社会、現在に向かっての変化と青年団の位置を考えます。
第3回	映画「同胞」に見る青年	過疎の村で劇団公演に取り組む青年団を描いた山田洋次監督の映画「同胞」から、地域で活動する若者の姿、若者集団が果たす役割について考えます。
第4回	若者たちの課題と学び	青年団の共同学習運動と青年問題研究集会を例に、若者たちが時代の中で生活上の課題をどのように捉え、何をどんな方法で学び、実践したのかを解説します。
第5回	青年団の地域活動	青年が地域の各層や他世代とどのようにかわり、地域社会や生活課題に対してどんな働きかけをしていたのか、地域活動の系譜や各地でさまざまな繰り広げられる青年団の地域活動の具体的事例について学びます。
第6回	若者とスポーツ・文化活動	地域で青年団が取り組むスポーツ・文化活動から「全国青年大会」に至る過程で、青年たちが活動を通して編む人間関係、共感の形成を考えます。
第7回	青年団と地域文化	地域で継承されてきた祭りや文化事業、郷土芸能などに青年団がどのように関わっているかを学び、そこで果たす若者の役割について考えます。
第8回	青年団の社会活動	青年団の平和運動や女性活動など、平和・環境・国際関係・男女共同参画・子どもなどの問題に取り組む「社会活動」を通して、若者が学んできたことや社会に果たした役割について考えます。
第9回	青年団の平和運動（その1）	青年団は社会活動の一つとして長年にわたって原水爆禁止運動など平和運動に取り組んできました。その原点となる戦争、広島、長崎の被爆の実相を学ぶ具体的な活動を解説します。

第 10 回	青年団の平和運動（その 2）	青年団の平和運動を通じて若者が学ぶものの、広義の平和に関してこれからの自分ができることについて考えます。
第 11 回	若者と子どもや他世代とのかかわり	子どもが育っていく社会環境の変化をふり返り、子どもたちの課題と、若者が他世代にかかわりながら若者自身が成長することを考えます。
第 12 回	現代の生きづらさと青年運動	貧困の問題、自殺、児童虐待、DV、介護など各世代を通じた現代の生きづらさ、人間の相互扶助と青年運動の果たす役割を考えます。
第 13 回	青年問題と青年運動	若者の雇用不安や自立の困難さ、孤立や疎外を越えて今後の展望をどう考えるのか。青年の問題と青年運動の果たす役割を考えます。
第 14 回	まとめ	これまで学んだことをふり返り、これからの社会の中で自分の生き方、共に支える人間関係のあり方、青年運動、社会教育について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた活動事例に関連する時代状況や社会的背景をできるだけ自己学習して、青年の置かれた環境や状況と社会の関係への理解を深め、疑問点は授業の中で再度確認をしてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せずに、授業の中でその都度、レジュメや資料、青年たちの活動レポートなどを配布し、適宜、ビデオも活用し、参考文献を紹介します。

【参考書】

特に指定しませんが、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の終了前に提示したテーマに沿って、レポートを提出していただきます。授業への積極的な姿勢と授業で学んだことの考察のされ方を参考に、レポートを採点します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

若者たちはいつの時代も、進路や仕事、人間関係での模索、どう生きていくかという葛藤を抱えています。それを同世代の青年たちで共有し、社会に向けて何らかの発信をしていながら、若者は自分自身をも形成していくものです。若者は、社会の未来を創造する主体者でもあります。そんな若者の活動や生き方を共に考えてみたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn about social education activities conducted by the youth of every era in our history ;the circumstances surrounding young people, their own anxieties, demands, and how they have been in contact with their colleagues and the society.
As for lecture materials, we will study about "Seinendan(Japanese traditional youth organization)" activities carried out by the youth throughout Japan. We will learn about how young people have been learning, making up relationships with others, communicating with the society and forming the way to live independently. Let's consider about modern youth's problems and the role played by social education and youth activities.

EDU200MA

職業指導（仕事の間と学び） 【2016 年度以前入学者用】

高橋 浩

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学生から社会人における様々なキャリア上の転機に対応できるように職業指導（進路指導）のための諸理論および方法を学ぶ。職業指導の場面は単に学校から社会へ移行する際の職業選択の支援だけにとどまらない。社会人になってから遭遇する様々なライフイベントや転機を乗り越えるための支援や、より良い職業生活へと導く開発的支援を習得する必要がある。

【到達目標】

職業指導（進路指導）に求められるキャリア理論・カウンセリング理論とその方法について理解し、自他の今後のキャリアに応用できる。

職業指導・進路指導に必要な基礎的なキャリア支援技法を習得し、他者に対する支援的な態度と言動を取れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

職業指導（進路指導）は個人の人生に関わる分野である。職業を選択するプロセスや、働くことの意味・意義を理解した上で指導をする態度や知識・技法を身につける必要がある。そのために本授業では、一方的な講義に終始するのではなく、職業指導（進路指導）およびキャリアカウンセリングの諸理論・技法について実践場面を想定したテーマについて、グループワークやディスカッション、ロールプレイを行い、体験的に職業指導の実践力を習得していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	職業指導・進路指導の歴史①（米国編）	米国において職業指導・進路指導がどのような歴史をたどって発展してきたのかについて理解する。
2	職業指導・進路指導の歴史②（日本編）	日本における職業指導・進路指導の発展の歴史と今日的課題および意義（学習指導要領を含む）について理解する。
3	職業選択としての職業指導・進路指導の理論①（マッチング理論）	人の特性と職業のマッチングの理論であるパーソンズおよびホルランドの理論を理解し、その活用方法を学ぶ。
4	職業選択としての職業指導・進路指導の理論②（意思決定の理論）	ジェラットやヒルトンの理論をもとに、職業選択の合理性と不確実性について理解し、その活用方法を学ぶ。
5	職業選択としての職業指導・進路指導の理論③（学習と偶発性）	クルンボルトの理論をもとに、職業選択の学習による影響と偶発性について理解し、その活用方法を学ぶ。
6	職業選択としての職業指導・進路指導の理論④（転機への対処）	シュロスバーグの理論をもとに、転機への対処について理解し、その活用方法を学ぶ。
7	生涯発達としての職業指導・進路指導の理論①（発達段階とアイデンティティ）	エリクソンの心理－社会的発達理論をもとにライフステージ毎の発達課題やアイデンティティについて理解し、職業との関連について学ぶ。
8	生涯発達としての職業指導（進路指導）の理論②（キャリア・ステージ理論）	ギンズバークやスーパー、レビンソンの理論をもとにキャリアの発達段階と発達課題について理解し、その活用方法を学ぶ。
9	意味形成としての職業指導・進路指導の理論①（働く意味の形成）	ハンセンやサビカスの理論をもとに、働く意味の形成とキャリア発達との関連について理解を深める。
10	意味形成としての職業指導・進路指導の理論②（関係性アプローチ）	ホルの関係性アプローチについて理解し、キャリア形成と人間関係の関連について学ぶ。
11	組織における職業指導・進路指導の理論①（人事制度）	企業・組織における人事制度、特に年功賃金制と成果主義（目標管理制度など）について理解する。
12	組織における職業指導・進路指導の理論②（キャリア・アンカー）	企業・組織におけるキャリア形成理論やキャリア・アンカーについて、シャインの理論の有効性と限界を理解し、活用方法について学ぶ。
13	学びの場としての職業	経験学習理論や組織学習理論について理解し、「学びの場」としての職業について理解する。
14	試験・まとめ	試験として理論の有効性と限界、活用方法について各自のまとめを発表し、ディスカッションと解説を行う。

15	キャリア支援の種類と機能	キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、キャリア教育のそれぞれの意味と機能について学ぶ。
16	キャリアカウンセリングの概要	キャリアカウンセリングとは何か、面談による支援・指導とは何かについて、ディスカッションを通じて学ぶ。
17	支援者としての自己理解と他者理解①（無意識と自己）	フロイト、ユング、バーンの理論にもとづいて無意識と抑圧など心の働きについて学ぶ。
18	支援者としての自己理解と他者理解②（認知理論）	ベックの認知療法やエリスの論理療法などの認知理論にもとづいて、認知変容・自己理解と問題解決について学ぶ。
19	支援者としての自己理解と他者理解③（学習理論）	3つの学習理論（古典的学習、オペラント学習、観察学習）にもとづいて、行動変容と問題解決の関係について学ぶ。
20	支援者としての自己理解と他者理解④（自己理論・来談者中心療法）	ロジャーズの自己理論（来談者中心療法）にもとづいて自己概念の働きと、自己一致／自己不一致について学ぶ。
21	アセスメントのしくみと解釈①（フォーマルアセスメント）	フォーマルアセスメントの考え方と実施方法、支援への適用方法について、グループワークを通じて体験的に学ぶ。
22	アセスメントのしくみと解釈②（インフォーマルアセスメント）	インフォーマルアセスメントの考え方と実施方法、支援への適用方法について、グループワークを通じて体験的に学ぶ。
23	職業指導の演習①（関係構築：態度と関わり技法）	面談初期の関係構築で必要となる基本的態度や関わり技法について、ロールプレイを通じて学ぶ。
24	職業指導の演習②（自己探索支援：質問技法）	面談中期の自己探索支援において用いられる質問技法の種類や効果、問いの立て方について、ロールプレイを通じて学ぶ。
25	職業指導の演習③（行動化支援：目標設定と計画・実行の支援）	面談後期の行動化支援で行われる目標設定とその計画・実行の支援について、解決志向アプローチに基づいた支援を学ぶ。
26	職業指導の演習④（支援の構造化：支援のプロセス）	複数の汎用的なカウンセリング・プロセス・モデルを学び、面談の組み立て方（構成）について、ロールプレイを通じて学ぶ。
27	総合的演習	これまで学んだ理論・技法を総合的に用いたロールプレイを行い、職業指導の導入部における望ましい支援方法を体験的に習得する。
28	試験とまとめ	試験として、面談場面を想定したロールプレイを行い、結果についてのフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各理論・技法については、授業前にテキストおよび参考図書などで概要の把握と、疑問点や意見をまとめておき、授業当日のディスカッションに備えておくこと。

習得した支援技法については、それを日常生活の中で自他に応用するように努めること。

【テキスト（教科書）】

『新時代のキャリアコンサルティング—キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来』労働政策研究・研修機構編（労働政策研究・研修機構）

【参考書】

『進路指導・キャリア教育の理論と実践』吉田辰雄・篠翰著（日本文化科学社）

『新版 キャリアの心理学』渡辺三枝子編著（ナカニシヤ出版）

『カウンセリングの理論』國分康孝著（誠信書房）

『小学校学習指導要領』

『中学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】

・職業指導（進路指導、キャリア）の理論のその方法の理解について：春学期末のレポート課題（50%）、授業への参加姿勢（50%）

・カウンセリング理論とその支援技法について：秋学期末の演習（50%）、授業への参加姿勢（50%）

【学生の意見等からの気づき】

実際の指導場面を踏まえたディスカッションとロールプレイをより多く行い実践力を強化する。

【Outline and objectives】

In this class, students learn theories and methods for career guidance that can cope with career turning points from school to work. Scenes of career guidance are not limited to just assisting vocational selection in transitioning from school to work. It is necessary to master support skills to overcome various life events and turning points encountered after becoming a worker, and development skills to lead to a better life career.

